

# 栞 東 遺 跡

—緊急地方道路整備事業（鳴門池田線）関連埋蔵文化財発掘調査報告書—

《第1分冊》

2016

徳 島 県 教 育 委 員 会  
公益財団法人 徳島県埋蔵文化財センター





2区竪穴住居 (SB1003) 内の鍛冶炉



2区竪穴住居 (SB1003) 内出土遺物



# 序 文

この度、緊急地方道路整備事業（鳴門池田線）関連埋蔵文化財発掘調査の正式報告書がまとまりましたのでここに刊行いたします。県道鳴門・池田線は吉野川北岸の鳴門市から三好市を東西にほぼ一直線に結ぶ主要地方道です。その路線のほぼ中間地点にあたる美馬市脇町地区においてバイパス工事が行われることになり、その事前発掘調査として実施されたのが拝東遺跡発掘調査です。当調査は、用地取得状況に合わせて平成16年度から平成19年度にかけて、延べ23ヶ月間、断続的に実施いたしました。

今回の発掘調査では、弥生時代前期、後期の集落遺跡や鎌倉時代から室町時代にかけての中世の集落遺跡などが検出され、数多くの遺構・遺物が発見されました。これらの遺構・遺物は当該地域の歴史を明らかにする上で貴重な資料となるものです。今後、本書が当該地域及び本県の歴史を解明する上で貴重な資料として活用され、広く文化財保護の一助となることを期待したいと思います。

末尾ではありますが、この度の発掘調査の実施により、貴重な成果を上げることができましたのも、関係諸機関ならびに地元の皆様の多大な御理解、御協力のお陰であり、心から感謝申し上げます。また、発掘調査及び報告書作成等に当たっては、徳島県教育委員会をはじめ関係各位から貴重な御指導・御教示を賜りました。ここに厚く御礼申し上げますとともに、今後も、当センターの事業について一層御支援下さるようお願い申し上げます。

平成28年3月

公益財団法人 徳島県埋蔵文化財センター  
理事長 福 家 清 司



# 例 言

- 1 本書は緊急地方道路（鳴門池田線）整備事業に伴い、平成 16（2004）年度から平成 19（2007）年度にかけて実施した拝東遺跡（美馬市脇町 所在）の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、徳島県からの委託により公益財団法人徳島県埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 発掘調査及び報告書作成期間は次の通りである。
  - ・発掘調査期間  
平成 16 年度：平成 16 年 4 月 1 日～平成 17 年 3 月 31 日  
平成 17 年度：平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 7 月 31 日  
平成 18 年度：平成 18 年 4 月 1 日～平成 18 年 4 月 30 日  
平成 19 年度：平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日
  - ・整理作業・報告書作成期間  
平成 20 年度：平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日  
平成 21 年度：平成 21 年 10 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日  
平成 22 年度：平成 22 年 10 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日  
平成 25 年度：平成 25 年 10 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日  
平成 26 年度：平成 26 年 4 月 1 日～平成 26 年 5 月 31 日  
平成 27 年度：平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 1 月 31 日
- 4 遺構番号は調査時のものを基本的に踏襲し、調査区毎に付与している。遺物番号は通し番号とし、本文・挿図・観察表・図版と一致する。
- 5 第 2 図は、国土地理院発行の 1：50,000 の地形図「脇町」を転載・改変したものである。第 7 図は国土地理院発行の 1：50,000 の地形図「脇町」を転載・改変した徳島県教育委員会発行の『徳島県遺跡地図』を転載・改変したものである。
- 6 本書の執筆は I -1 を県教育委員会が行い、それ以外の執筆と編集は氏家敏之が行った。遺構写真は調査担当者が、遺物写真は氏家敏之が担当した。
- 7 本書に収録した遺物及び写真・図版などの記録の一切は、徳島県板野郡板野町犬伏字平山 86 番 2 に所在する徳島県立埋蔵文化財総合センターに保管している。

# 凡 例

1 遺構の表示は徳島県埋蔵文化財センターが定める発掘調査基準による記号を用いた。

SA：掘立柱建物 SB：竪穴住居 SD：溝 SI：水田 SK：土坑 SO：炭窯

SP：柱穴 SR：自然流路 SU：集石遺構 SX：性格不明不定形遺構

遺構番号は、基本的に4桁で表示している。4桁目の番号は遺構面数を表し、以下の3桁が遺構の通し番号を表す。

遺構の掲載サイズは、SKは1/40、SPは1/20、大形遺構は1/50～1/600で掲載し、各スケールに縮尺を表示している。

2 方位、座標は旧日本測地系（第IV座標系）に、高さは東京湾標準潮位（T.P.）に準拠する。

3 本書で用いた土層及び土器の色調は、小山正忠・竹原秀雄『新版標準土色帳』2011年度版、および細野尚志編『標準色彩図表A』に準拠する。遺構平断面図中の焼土、炭化物の範囲は以下のスクリーントーンで表現している。



また遺構断面図中の土器、石、金属製品、骨については、以下のドットを用いて表示している。

土器・土製品 ● 石・石製品 ■ 錢貨・金属製品 ▲ 骨 ○

4 遺物の掲載サイズは、原則下記のものに統一した。

土器・土製品：1/3（一部1/2・1/4） 石器・鉄器：1/2（一部1/3）

5 図版及び表は基本的に通し番号である。

6 観察表中の弥生土器、中世の搬入土器、輸入磁器の分類に関しては以下の文献を参考にして記載している。

森田 勉 1978「大宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集』4集 九州歴史資料館

森田 勉 1981「鎌倉出土の中国陶磁器に関して」『貿易陶磁』No.1 日本貿易陶磁研究会

上田秀夫 1982「14～16世紀の青磁碗の分類」『貿易陶磁』No.2 日本貿易陶磁研究会

小野正敏 1982「15、16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁』No.2 日本貿易陶磁研究会

古代の土器研究会編 1994『古代の土器3 都城の土器集成Ⅲ』真陽社

中世土器研究会編 1995『概説中世の土器・陶磁器』真陽社

『南蔵本遺跡 ― 県立中央病院改築事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書―』2014（公財）徳島県埋蔵文化財センター

近藤 玲「阿波東部地域における古墳時代前期の土器編年」2014『古式土師器の編年的研究』四国



考古学研究会

田川 憲「阿波・吉野川上・中流域の古式土師器」2014『古式土師器の編年的研究』四国考古学研究会

- 7 土器観察表中の胎土（含有物）の略号は石（石英）、結（結晶片岩）、長（長石）、雲（雲母）、赤（赤色粒）、黒（黒色粒）、泥（泥岩）、砂（砂岩）、角（角閃石）、チャ（チャート）を表している。



# 本文目次

## 《第1分冊》

I	調査及び整理の経緯	1
1	発掘調査の経緯と経過	3
2	発掘調査の方法	4
3	整理業務の経過	6
4	発掘調査・整理業務の体制	8
5	調査日誌抄	11
II	遺跡の立地と歴史的環境	15
1	遺跡の立地	17
2	歴史的環境	18
III	調査成果	21
1	基本層序	23
①	調査区の微地形	23
②	遺構面	23
③	基本層序	23
2	遺構と遺物	23
(1)	0-1区	23
(2)	0-2区	29
①	第1遺構面	29
②	第2遺構面	49
(3)	1-0区	61
①	第1遺構面	61
②	第2遺構面	66
(4)	1-1区西	85
(5)	1-1区東	126
(6)	1-2区	158
(7)	2区	202
(8)	3-1区	265
(9)	3-2区	307
IV	まとめ	335
1	弥生時代	337
2	中世	343

## 《第2分冊》

遺構観察表	347
遺物観察表	437
写真図版	533

## 挿図目次

### 《第1分冊》

第1図 拝東遺跡の位置① (1/2,000,000)	3	第27図 0-2区 SK1007 出土遺物	38
第2図 拝東遺跡の位置② (1/50,000)	4	第28図 0-2区 SO1001 平断面図 (1/40)	39
第3図 拝東遺跡の位置と調査状況 (1/2,500)	5	第29図 0-2区 SO1001 出土遺物	40
第4図 グリッドの配置方法 (1/1,250)	6	第30図 0-2区 SO1002 (旧 1-b面 SO1001) 平断面図 (1/40)	40
第5図 拝東遺跡の調査区の名称とグリッドの配置 (1/2,500)	7	第31図 0-2区 SX1001 平断面図 (1/40)	41
第6図 明治34年発行の地形図からみた拝東遺跡の位置 (1/50,000)	17	第32図 0-2区 SX1001 出土遺物	42
第7図 拝東遺跡とその周辺の遺跡 (1/50,000)	18	第33図 0-2区第2遺構面平面図 (1/200)	43
第8図 調査区の位置と土層観察地点 (1/2,500)	24	第34図 0-2区 SB2001 平面図 (1/50)	44
第9図 土層柱状図①	25	第35図 0-2区 SB2001 平断面図 (1/50)	45
第10図 土層柱状図②	26	第36図 0-2区 SB2001EH・EP 断面図 (1/20)	46
第11図 土層柱状図③	27	第37図 0-2区 SB2001 出土遺物	47
第12図 0-1区平面図 (1/150)	28	第38図 0-2区 SK2015 平断面図 (1/40)	48
第13図 0-1区 SK1001 平断面図 (1/40)	29	第39図 0-2区 SK2015 出土遺物	48
第14図 0-1区包含層出土遺物	29	第40図 0-2区 SK2031 平断面図 (1/40)	49
第15図 0-2区第1遺構面平面図 (1/200)	30	第41図 0-2区 SK2031 出土遺物	49
第16図 0-2区 SD1001 平面図 (1/80)	31	第42図 0-2区 SK2044・SK2049・SK2051 平断面図 (1/40)	50
第17図 0-2区 SD1001 断面図 (1/40)	31	第43図 0-2区 SK2044 出土遺物	51
第18図 0-2区 SI 出土遺物	32	第44図 0-2区 SK2049 出土遺物	51
第19図 0-2区 SK1001 平断面図 (1/40)	32	第45図 0-2区 SK2051 出土遺物	51
第20図 0-2区 SK1001 出土遺物	33	第46図 0-2区 SU2001 平断面図 (1/40)	52
第21図 0-2区 SK1003 平断面図 (1/40)	34	第47図 0-2区 SU2001 出土遺物	53
第22図 0-2区 SK1003 出土遺物	35	第48図 0-2区 SU2002 平断面図 (1/40)	54
第23図 0-2区 SK1004 平断面図 (1/40)	36	第49図 0-2区 SU2002 出土遺物	54
第24図 0-2区 SK1006 平断面図 (1/40)	37	第50図 0-2区 SU2003 平断面図 (1/40)	54
第25図 0-2区 SK1006 出土遺物	37	第51図 0-2区 SX2002 平断面図 (1/40)	55
第26図 0-2区 SK1007 平断面図 (1/40)	38	第52図 0-2区 SX2002 出土遺物	56

第 53 图	0-2 区包含層出土遺物①	57	第 89 图	1-0 区 SK2036 出土遺物	79
第 54 图	0-2 区包含層出土遺物②	58	第 90 图	1-0 区 SK2037 平断面图 (1/40)	80
第 55 图	0-2 区包含層出土遺物③	59	第 91 图	1-0 区 SK2037 出土遺物	80
第 56 图	1-0 区第 1 遺構面平面图 (1/200)	60	第 92 图	1-0 区 SK2044 平断面图 (1/40)	80
第 57 图	1-0 区 SD1001 平断面图 (1/40)	61	第 93 图	1-0 区 SK2044 出土遺物	81
第 58 图	1-0 区 SD1001 出土遺物	61	第 94 图	1-0 区 SU2002 平断面图 (1/40)	81
第 59 图	1-0 区 SI 畦平断面图 (1/80 · 1/40)	62	第 95 图	1-0 区 SU2002 出土遺物	81
第 60 图	1-0 区 SI 出土遺物	63	第 96 图	1-0 区 SU2003 平断面图 (1/40)	81
第 61 图	1-0 区 SK1002 平断面图 (1/40)	64	第 97 图	1-0 区 SU2003 出土遺物	81
第 62 图	1-0 区 SK1002 出土遺物	64	第 98 图	1-0 区包含層出土遺物①	82
第 63 图	1-0 区 SK1004 平断面图 (1/40)	64	第 99 图	1-0 区包含層出土遺物②	83
第 64 图	1-0 区 SK1004 出土遺物	64	第 100 图	1-1 区西平面图 (1/250)	84
第 65 图	1-0 区 SK1006 平断面图 (1/40)	65	第 101 图	1-1 区西 SA1001 平断面图 (1/50)	85
第 66 图	1-0 区 SK1006 出土遺物	65	第 102 图	1-1 区西 SA1002 平断面图 (1/50)	86
第 67 图	1-0 区 SK1013 平断面图 (1/40)	65	第 103 图	1-1 区西 SA1003 平断面图 (1/50)	87
第 68 图	1-0 区 SK1014 平断面图 (1/40)	66	第 104 图	1-1 区西 SA1004 平断面图 (1/50)	88
第 69 图	1-0 区 SK1014 出土遺物	66	第 105 图	1-1 区西 SA1005 平断面图 (1/50)	89
第 70 图	1-0 区第 2 遺構面平面图 (1/200)	67	第 106 图	1-1 区西 SA1006 平断面图 (1/50)	90
第 71 图	1-0 区 SB2001 平断面图 (1/50)	68	第 107 图	1-1 区西 SA1007 平断面图 (1/50)	91
第 72 图	1-0 区 SB2001 出土遺物	69	第 108 图	1-1 区西 SA1008 平断面图 (1/50)	92
第 73 图	1-0 区 SB2002 · SB2003 平断面图① (1/50)	70	第 109 图	1-1 区西 SD1001 平断面图 (1/80 · 1/40)	93
第 74 图	1-0 区 SB2002 · SB2003 平断面图② (1/50)	71	第 110 图	1-1 区西 SD1001 出土遺物	94
第 75 图	1-0 区 SB2002 · SB2003 平断面图③ (1/50)	72	第 111 图	1-1 区西 SK1003 平断面图 (1/40)	95
第 76 图	1-0 区 SB2003 出土遺物	73	第 112 图	1-1 区西 SK1007 平断面图 (1/40)	95
第 77 图	1-0 区 SK2004 平断面图 (1/40)	74	第 113 图	1-1 区西 SK1007 出土遺物	95
第 78 图	1-0 区 SK2004 出土遺物	74	第 114 图	1-1 区西 SK1012 平断面图 (1/40)	96
第 79 图	1-0 区 SK2019 · SK2020 平断面图 (1/40)	75	第 115 图	1-1 区西 SK1012 出土遺物	96
第 80 图	1-0 区 SK2019 出土遺物	75	第 116 图	1-1 区西 SK1016 平断面图 (1/40)	96
第 81 图	1-0 区 SK2023 平断面图 (1/40)	76	第 117 图	1-1 区西 SK1016 出土遺物	96
第 82 图	1-0 区 SK2023 出土遺物	76	第 118 图	1-1 区西 SK1017 平断面图 (1/40)	97
第 83 图	1-0 区 SK2027 · SK2028 平断面图 (1/40)	77	第 119 图	1-1 区西 SK1017 出土遺物	97
第 84 图	1-0 区 SK2027 出土遺物	77	第 120 图	1-1 区西 SK1019 平断面图 (1/40)	97
第 85 图	1-0 区 SK2028 出土遺物	78	第 121 图	1-1 区西 SK1024 平断面图 (1/40)	98
第 86 图	1-0 区 SK2034 平断面图 (1/40)	79	第 122 图	1-1 区西 SK1024 出土遺物	98
第 87 图	1-0 区 SK2034 出土遺物	79	第 123 图	1-1 区西 SK1025 平断面图 (1/40)	98
第 88 图	1-0 区 SK2036 平断面图 (1/40)	79	第 124 图	1-1 区西 SK1028 平断面图 (1/40)	99
			第 125 图	1-1 区西 SK1028 出土遺物	99
			第 126 图	1-1 区西 SK1029 平断面图 (1/40)	99
			第 127 图	1-1 区西 SK1029 出土遺物	99
			第 128 图	1-1 区西 SK1031 · SK1032 平断面图	

(1/40).....	100	第 169 图	1-1 区西 SP1350 平断面图 (1/20).....	111
第 129 图	1-1 区西 SK1031 出土遗物.....	第 170 图	1-1 区西 SP1350 出土遗物.....	111
第 130 图	1-1 区西 SK1032 出土遗物.....	第 171 图	1-1 区西 SP1351 平断面图 (1/20).....	111
第 131 图	1-1 区西 SP1112 平断面图 (1/20).....	第 172 图	1-1 区西 SP1351 出土遗物.....	111
第 132 图	1-1 区西 SP1112 出土遗物.....	第 173 图	1-1 区西 SP1355 平断面图 (1/20).....	112
第 133 图	1-1 区西 SP1141 平断面图 (1/20).....	第 174 图	1-1 区西 SP1355 出土遗物.....	112
第 134 图	1-1 区西 SP1141 出土遗物.....	第 175 图	1-1 区西 SP1358 平断面图 (1/20).....	112
第 135 图	1-1 区西 SP1198 平断面图 (1/20).....	第 176 图	1-1 区西 SP1358 出土遗物.....	112
第 136 图	1-1 区西 SP1198 出土遗物.....	第 177 图	1-1 区西 SP1370 平断面图 (1/20).....	114
第 137 图	1-1 区西 SP1204 平断面图 (1/20).....	第 178 图	1-1 区西 SP1370 出土遗物.....	114
第 138 图	1-1 区西 SP1204 出土遗物.....	第 179 图	1-1 区西 SP1389 平断面图 (1/20).....	114
第 139 图	1-1 区西 SP1210 平断面图 (1/20).....	第 180 图	1-1 区西 SP1389 出土遗物.....	114
第 140 图	1-1 区西 SP1210 出土遗物.....	第 181 图	1-1 区西 SP1392 平断面图 (1/20).....	115
第 141 图	1-1 区西 SP1216 平断面图 (1/20).....	第 182 图	1-1 区西 SP1392 出土遗物.....	115
第 142 图	1-1 区西 SP1216 出土遗物.....	第 183 图	1-1 区西 SP1402 平断面图 (1/20).....	115
第 143 图	1-1 区西 SP1221 平断面图 (1/20).....	第 184 图	1-1 区西 SP1402 出土遗物.....	115
第 144 图	1-1 区西 SP1221 出土遗物.....	第 185 图	1-1 区西 SP1408 平断面图 (1/20).....	116
第 145 图	1-1 区西 SP1250 平断面图 (1/20).....	第 186 图	1-1 区西 SP1408 出土遗物.....	116
第 146 图	1-1 区西 SP1250 出土遗物.....	第 187 图	1-1 区西 SP1409 平断面图 (1/20).....	116
第 147 图	1-1 区西 SP1252 平断面图 (1/20).....	第 188 图	1-1 区西 SP1409 出土遗物.....	116
第 148 图	1-1 区西 SP1252 出土遗物.....	第 189 图	1-1 区西 SP1413 平断面图 (1/20).....	116
第 149 图	1-1 区西 SP1258 平断面图 (1/20).....	第 190 图	1-1 区西 SP1413 出土遗物.....	116
第 150 图	1-1 区西 SP1258 出土遗物.....	第 191 图	1-1 区西 SP1416 · SP1417 平断面图 (1/20).....	117
第 151 图	1-1 区西 SP1264 平断面图 (1/20).....	第 192 图	1-1 区西 SP1416 出土遗物.....	117
第 152 图	1-1 区西 SP1264 出土遗物.....	第 193 图	1-1 区西 SP1417 出土遗物.....	117
第 153 图	1-1 区西 SP1272 平断面图 (1/20).....	第 194 图	1-1 区西 SP1418 平断面图 (1/20).....	118
第 154 图	1-1 区西 SP1272 出土遗物.....	第 195 图	1-1 区西 SP1418 出土遗物.....	118
第 155 图	1-1 区西 SP1276 平断面图 (1/20).....	第 196 图	1-1 区西 SP1419 平断面图 (1/20).....	118
第 156 图	1-1 区西 SP1276 出土遗物.....	第 197 图	1-1 区西 SP1419 出土遗物.....	118
第 157 图	1-1 区西 SP1279 平断面图 (1/20).....	第 198 图	1-1 区西 SP1423 平断面图 (1/20).....	120
第 158 图	1-1 区西 SP1279 出土遗物.....	第 199 图	1-1 区西 SP1423 出土遗物.....	120
第 159 图	1-1 区西 SP1292 平断面图 (1/20).....	第 200 图	1-1 区西 SP1430 平断面图 (1/20).....	120
第 160 图	1-1 区西 SP1292 出土遗物.....	第 201 图	1-1 区西 SP1430 出土遗物.....	120
第 161 图	1-1 区西 SP1294 平断面图 (1/20).....	第 202 图	1-1 区西 SP1434 平断面图 (1/20).....	121
第 162 图	1-1 区西 SP1294 出土遗物.....	第 203 图	1-1 区西 SP1434 出土遗物.....	121
第 163 图	1-1 区西 SP1306 平断面图 (1/20).....	第 204 图	1-1 区西 SP1438 平断面图 (1/20).....	121
第 164 图	1-1 区西 SP1306 出土遗物.....	第 205 图	1-1 区西 SP1438 出土遗物.....	121
第 165 图	1-1 区西 SP1329 平断面图 (1/20).....	第 206 图	1-1 区西 SP1442 平断面图 (1/20).....	122
第 166 图	1-1 区西 SP1329 出土遗物.....	第 207 图	1-1 区西 SP1442 出土遗物.....	122
第 167 图	1-1 区西 SP1342 平断面图 (1/20).....	第 208 图	1-1 区西 SP1459 平断面图 (1/20).....	122
第 168 图	1-1 区西 SP1342 出土遗物.....			

第209 図	1-1 区西 SP1459 出土遺物	122	第247 図	1-1 区東 SP1064 出土遺物	137
第210 図	1-1 区西 SP1474 平断面図 (1/20)	123	第248 図	1-1 区東 SP1066 平断面図 (1/20)	138
第211 図	1-1 区西 SP1474 出土遺物	123	第249 図	1-1 区東 SP1066 出土遺物	138
第212 図	1-1 区西 SP1479 平断面図 (1/20)	124	第250 図	1-1 区東 SP1067 平断面図 (1/20)	139
第213 図	1-1 区西 SP1479 出土遺物	124	第251 図	1-1 区東 SP1067 出土遺物	139
第214 図	1-1 区西 SP1480 平断面図 (1/20)	124	第252 図	1-1 区東 SP1069 平断面図 (1/20)	139
第215 図	1-1 区西 SP1480 出土遺物	124	第253 図	1-1 区東 SP1069 出土遺物	139
第216 図	1-1 区西 SP1483 平断面図 (1/20)	126	第254 図	1-1 区東 SP1074 平断面図 (1/20)	140
第217 図	1-1 区西 SP1483 出土遺物	126	第255 図	1-1 区東 SP1074 出土遺物	140
第218 図	1-1 区西 SP1489 平断面図 (1/20)	126	第256 図	1-1 区東 SP1075 平断面図 (1/20)	140
第219 図	1-1 区西 SP1489 出土遺物	126	第257 図	1-1 区東 SP1075 出土遺物	140
第220 図	1-1 区東平断面図 (1/250)	127	第258 図	1-1 区東 SP1080・SP1081 平断面図 (1/20)	141
第221 図	1-1 区東 SK1003 平断面図 (1/40)	128	第259 図	1-1 区東 SP1080 出土遺物	141
第222 図	1-1 区東 SK1003 出土遺物	128	第260 図	1-1 区東 SP1081 出土遺物	141
第223 図	1-1 区東 SK1004 平断面図 (1/40)	129	第261 図	1-1 区東 SP1083 平断面図 (1/20)	142
第224 図	1-1 区東 SK1004 出土遺物	129	第262 図	1-1 区東 SP1083 出土遺物	142
第225 図	1-1 区東 SK1005・SK1006 平断面図 (1/40)	130	第263 図	1-1 区東 SP1084 平断面図 (1/20)	142
第226 図	1-1 区東 SK1005 出土遺物	130	第264 図	1-1 区東 SP1084 出土遺物	142
第227 図	1-1 区東 SK1006 出土遺物	130	第265 図	1-1 区東 SP1094 平断面図 (1/20)	144
第228 図	1-1 区東 SK1009 平断面図 (1/40)	131	第266 図	1-1 区東 SP1094 出土遺物	144
第229 図	1-1 区東 SK1009 出土遺物	131	第267 図	1-1 区東 SP1101 平断面図 (1/20)	144
第230 図	1-1 区東 SP1004 平断面図 (1/20)	132	第268 図	1-1 区東 SP1101 出土遺物	144
第231 図	1-1 区東 SP1004 出土遺物	132	第269 図	1-1 区東 SP1106 平断面図 (1/20)	145
第232 図	1-1 区東 SP1012 平断面図 (1/20)	132	第270 図	1-1 区東 SP1106 出土遺物	145
第233 図	1-1 区東 SP1012 出土遺物	132	第271 図	1-1 区東 SP1116・SP1117 平断面図 (1/20)	145
第234 図	1-1 区東 SP1013・SP1144 平断面図 (1/20)	133	第272 図	1-1 区東 SP1116 出土遺物	145
第235 図	1-1 区東 SP1144 出土遺物	133	第273 図	1-1 区東 SP1121 平断面図 (1/20)	146
第236 図	1-1 区東 SP1042 平断面図 (1/20)	134	第274 図	1-1 区東 SP1121 出土遺物	146
第237 図	1-1 区東 SP1042 出土遺物	134	第275 図	1-1 区東 SP1122 平断面図 (1/20)	146
第238 図	1-1 区東 SP1046 平断面図 (1/20)	134	第276 図	1-1 区東 SP1122 出土遺物	146
第239 図	1-1 区東 SP1046 出土遺物	134	第277 図	1-1 区東 SP1127 平断面図 (1/20)	148
第240 図	1-1 区東 SP1047・SP1048 平断面図 (1/20)	135	第278 図	1-1 区東 SP1127 出土遺物	148
第241 図	1-1 区東 SP1048 出土遺物	135	第279 図	1-1 区東 SP1132 平断面図 (1/20)	148
第242 図	1-1 区東 SP1055 平断面図 (1/20)	136	第280 図	1-1 区東 SP1132 出土遺物	148
第243 図	1-1 区東 SP1055 出土遺物	136	第281 図	1-1 区東 SP1139 平断面図 (1/20)	149
第244 図	1-1 区東 SP1060 平断面図 (1/20)	136	第282 図	1-1 区東 SP1139 出土遺物	149
第245 図	1-1 区東 SP1060 出土遺物	136	第283 図	1-1 区東 SP1150 平断面図 (1/20)	149
第246 図	1-1 区東 SP1064 平断面図 (1/20)	137	第284 図	1-1 区東 SP1150 出土遺物	149
			第285 図	1-1 区東 SP1154 平断面図 (1/20)	150

第286 図	1-1 区東 SP1154 出土遺物	150	第327 図	1-2 区 SB1002EH1 平断面図 (1/40)	179
第287 図	1-1 区東 SP1155 平断面図 (1/20)	150	第328 図	1-2 区 SB1002 出土遺物①	180
第288 図	1-1 区東 SP1155 出土遺物	150	第329 図	1-2 区 SB1002 出土遺物②	181
第289 図	1-1 区東 SP1161 平断面図 (1/20)	151	第330 図	1-2 区 SK1002 平断面図 (1/40)	182
第290 図	1-1 区東 SP1161 出土遺物	151	第331 図	1-2 区 SK1002 出土遺物	182
第291 図	1-1 区東 SP1166 平断面図 (1/20)	151	第332 図	1-2 区 SK1007 平断面図 (1/40)	182
第292 図	1-1 区東 SP1166 出土遺物	151	第333 図	1-2 区 SK1007 出土遺物	182
第293 図	1-1 区東 SP1170 平断面図 (1/20)	152	第334 図	1-2 区 SK1010 平断面図 (1/40)	183
第294 図	1-1 区東 SP1170 出土遺物	152	第335 図	1-2 区 SK1010 出土遺物	183
第295 図	1-1 区東 SP1175 平断面図 (1/20)	152	第336 図	1-2 区 SK1015 平断面図 (1/40)	184
第296 図	1-1 区東 SP1175 出土遺物	152	第337 図	1-2 区 SK1015 出土遺物	184
第297 図	1-1 区東 SP1193 平断面図 (1/20)	153	第338 図	1-2 区 SK1016 平断面図 (1/40)	184
第298 図	1-1 区東 SP1193 出土遺物	153	第339 図	1-2 区 SK1016 出土遺物	184
第299 図	1-1 区東 SP1208 平断面図 (1/20)	153	第340 図	1-2 区 SK1027 平断面図 (1/40)	185
第300 図	1-1 区東 SP1208 出土遺物	153	第341 図	1-2 区 SK1027 出土遺物	186
第301 図	1-1 区東 SX1001 平断面図 (1/40)	154	第342 図	1-2 区 SP1007 平断面図 (1/20)	187
第302 図	1-1 区東 SX1001 出土遺物	155	第343 図	1-2 区 SP1007 出土遺物	187
第303 図	1-1 区包含層出土遺物	155	第344 図	1-2 区 SP1011 平断面図 (1/20)	187
第304 図	1-2 区平面図① (1/250)	157	第345 図	1-2 区 SP1011 出土遺物	187
第305 図	1-2 区平面図② (1/250)	158	第346 図	1-2 区 SP1012 平断面図 (1/20)	188
第306 図	1-2 区 SA1001 平断面図 (1/50)	159	第347 図	1-2 区 SP1012 出土遺物	188
第307 図	1-2 区 SA1002 平断面図 (1/50)	160	第348 図	1-2 区 SP1016 平断面図 (1/20)	188
第308 図	1-2 区 SB1001 平面図① (1/50)	161	第349 図	1-2 区 SP1016 出土遺物	188
第309 図	1-2 区 SB1001 平面図② (1/50)	162	第350 図	1-2 区 SP1031 平断面図 (1/20)	189
第310 図	1-2 区 SB1001 断面図 (1/50)	163	第351 図	1-2 区 SP1031 出土遺物	189
第311 図	1-2 区 SB1001EH1 平断面図 (1/40)	164	第352 図	1-2 区 SP1067 平断面図 (1/20)	189
第312 図	1-2 区 SB1001ED・EP 断面図 (1/20)	165	第353 図	1-2 区 SP1067 出土遺物	189
第313 図	1-2 区 SB1001 出土遺物①	166	第354 図	1-2 区 SP1078 平断面図 (1/20)	190
第314 図	1-2 区 SB1001 出土遺物②	167	第355 図	1-2 区 SP1078 出土遺物	190
第315 図	1-2 区 SB1001 出土遺物③	168	第356 図	1-2 区 SP1130 平断面図 (1/20)	191
第316 図	1-2 区 SB1001 出土遺物④	169	第357 図	1-2 区 SP1130 出土遺物	191
第317 図	1-2 区 SB1001 出土遺物⑤	170	第358 図	1-2 区 SP1170 平断面図 (1/20)	191
第318 図	1-2 区 SB1001 出土遺物⑥	171	第359 図	1-2 区 SP1170 出土遺物	191
第319 図	1-2 区 SB1001 出土遺物⑦	172	第360 図	1-2 区 SP1171 平断面図 (1/20)	192
第320 図	1-2 区 SB1001 出土遺物⑧	173	第361 図	1-2 区 SP1171 出土遺物	192
第321 図	1-2 区 SB1001 出土遺物⑨	174	第362 図	1-2 区 SP1179 平断面図 (1/20)	192
第322 図	1-2 区 SB1001 出土遺物⑩	175	第363 図	1-2 区 SP1179 出土遺物	192
第323 図	1-2 区 SB1001 出土遺物⑪	176	第364 図	1-2 区 SP1210 平断面図 (1/20)	193
第324 図	1-2 区 SB1002 平面図 (1/50)	177	第365 図	1-2 区 SP1210 出土遺物	193
第325 図	1-2 区 SB1002 平断面図 (1/50)	178	第366 図	1-2 区 SP1212 平断面図 (1/20)	193
第326 図	1-2 区 SB1002EK1 断面図 (1/40)	179	第367 図	1-2 区 SP1212 出土遺物	193



第368图	1-2区SP1248平断面图(1/20)	194	第409图	2区SB1003出土遗物②	227
第369图	1-2区SP1248出土遗物	194	第410图	2区SB1003出土遗物③	228
第370图	1-2区SP1323平断面图(1/20)	194	第411图	2区SB1003出土遗物④	229
第371图	1-2区SP1323出土遗物	194	第412图	2区SB1003出土遗物⑤	230
第372图	1-2区SP1345平断面图(1/20)	195	第413图	2区SB1003出土遗物⑥	231
第373图	1-2区SP1345出土遗物	195	第414图	2区SB1004平断面图(1/50)	232
第374图	1-2区SP1371平断面图(1/20)	196	第415图	2区SB1004EH1平断面图(1/40)	233
第375图	1-2区SP1371出土遗物	196	第416图	2区SB1004ED·EP断面图(1/20)	234
第376图	1-2区SP1391平断面图(1/20)	197	第417图	2区SB1004出土遗物①	235
第377图	1-2区SP1391出土遗物	197	第418图	2区SB1004出土遗物②	236
第378图	1-2区包含层出土遗物①	198	第419图	2区SB1004出土遗物③	237
第379图	1-2区包含层出土遗物②	199	第420图	2区SD1002平断面图(1/40)	238
第380图	2区1a遗构面平面图(1/250)	200	第421图	2区SD1002出土遗物	238
第381图	2区1b遗构面平面图(1/250)	201	第422图	2区SD1003平断面图(1/40)	239
第382图	2区SA1001平断面图(1/50)	202	第423图	2区SD1003出土遗物	240
第383图	2区SA1002平断面图(1/50)	203	第424图	2区SD1004·SD1005平断面图 (1/80·1/40)	241
第384图	2区SA1003平断面图(1/50)	204	第425图	2区SK1002平断面图(1/40)	242
第385图	2区SA1004平断面图(1/50)	205	第426图	2区SK1004平断面图(1/40)	242
第386图	2区SA1005平断面图(1/50)	206	第427图	2区SK1004出土遗物	242
第387图	2区SB1001平面图(1/50)	207	第428图	2区SK1011平断面图(1/40)	243
第388图	2区SB1001平断面图(1/50)	208	第429图	2区SK1011出土遗物	243
第389图	2区SB1001ED·EK断面图(1/20)	209	第430图	2区SK1015平断面图(1/40)	243
第390图	2区SB1001出土遗物	209	第431图	2区SK1015出土遗物	243
第391图	2区SB1002平面图(1/50)	210	第432图	2区SK1017平断面图(1/40)	244
第392图	2区SB1002平断面图①(1/50)	211	第433图	2区SK1017出土遗物	244
第393图	2区SB1002平断面图②(1/50)	212	第434图	2区SK1021平断面图(1/40)	245
第394图	2区SB1002EH1平断面图(1/40)	212	第435图	2区SK1030平断面图(1/40)	245
第395图	2区SB1002ED·EP断面图(1/20)	213	第436图	2区SK1030出土遗物	245
第396图	2区SB1002出土遗物①	214	第437图	2区SK1039平断面图(1/40)	246
第397图	2区SB1002出土遗物②	215	第438图	2区SK1039出土遗物	247
第398图	2区SB1002出土遗物③	216	第439图	2区SP1014平断面图(1/20)	248
第399图	2区SB1002出土遗物④	217	第440图	2区SP1014出土遗物	248
第400图	2区SB1002出土遗物⑤	218	第441图	2区SP1015平断面图(1/20)	248
第401图	2区SB1002出土遗物⑥	219	第442图	2区SP1015出土遗物	248
第402图	2区SB1002出土遗物⑦	220	第443图	2区SP1027平断面图(1/20)	249
第403图	2区SB1003平断面图①(1/50)	221	第444图	2区SP1027出土遗物	249
第404图	2区SB1003平断面图②(1/50)	222	第445图	2区SP1029平断面图(1/20)	250
第405图	2区SB1003EH1平断面图(1/40)	223	第446图	2区SP1029出土遗物	250
第406图	2区SB1003EH2平断面图(1/40)	224	第447图	2区SP1040平断面图(1/20)	250
第407图	2区SB1003EP断面图(1/20)	225	第448图	2区SP1040出土遗物	250
第408图	2区SB1003出土遗物①	226			

第 449 图	2 区 SP1045 平断面图 (1/20).....	251	第 490 图	3-1 区 SB1001 出土遺物⑤.....	274
第 450 图	2 区 SP1045 出土遺物.....	251	第 491 图	3-1 区 SB1001 出土遺物⑥.....	275
第 451 图	2 区 SP1050 平断面图 (1/20).....	251	第 492 图	3-1 区 SD1001 平断面图 (1/40).....	275
第 452 图	2 区 SP1050 出土遺物.....	251	第 493 图	3-1 区 SI 出土遺物.....	276
第 453 图	2 区 SP1116 平断面图 (1/20).....	252	第 494 图	3-1 区 SK1004 平断面图 (1/40).....	277
第 454 图	2 区 SP1116 出土遺物.....	252	第 495 图	3-1 区 SK1004 出土遺物.....	277
第 455 图	2 区 SP1159 平断面图 (1/20).....	252	第 496 图	3-1 区 SK1007 平断面图 (1/40).....	278
第 456 图	2 区 SP1159 出土遺物.....	252	第 497 图	3-1 区 SK1007 出土遺物.....	278
第 457 图	2 区 SP1206 平断面图 (1/20).....	253	第 498 图	3-1 区 SK1013 平断面图 (1/40).....	279
第 458 图	2 区 SP1206 出土遺物.....	253	第 499 图	3-1 区 SK1013 出土遺物.....	279
第 459 图	2 区 SP1235 平断面图 (1/20).....	253	第 500 图	3-1 区 SK1017 平断面图 (1/40).....	279
第 460 图	2 区 SP1235 出土遺物.....	253	第 501 图	3-1 区 SK1017 出土遺物.....	279
第 461 图	2 区 SP1236 平断面图 (1/20).....	254	第 502 图	3-1 区 SP1031 平断面图 (1/20).....	280
第 462 图	2 区 SP1236 出土遺物.....	254	第 503 图	3-1 区 SP1031 出土遺物.....	280
第 463 图	2 区 SP1237 平断面图 (1/20).....	255	第 504 图	3-1 区 SP1060 平断面图 (1/20).....	280
第 464 图	2 区 SP1237 出土遺物.....	255	第 505 图	3-1 区 SP1060 出土遺物.....	280
第 465 图	2 区 SP1241 平断面图 (1/20).....	256	第 506 图	3-1 区 SP1173 平断面图 (1/20).....	281
第 466 图	2 区 SP1241 出土遺物.....	256	第 507 图	3-1 区 SP1173 出土遺物.....	281
第 467 图	2 区 SP1254 平断面图 (1/20).....	257	第 508 图	3-1 区 SP1177 平断面图 (1/20).....	282
第 468 图	2 区 SP1254 出土遺物.....	257	第 509 图	3-1 区 SP1177 出土遺物.....	282
第 469 图	2 区 SP1256 平断面图 (1/20).....	257	第 510 图	3-1 区 SP1234 平断面图 (1/20).....	282
第 470 图	2 区 SP1256 出土遺物.....	257	第 511 图	3-1 区 SP1234 出土遺物.....	282
第 471 图	2 区 SX1001 平断面图 (1/40).....	258	第 512 图	3-1 区 SR1001 平面图 (1/100).....	283
第 472 图	2 区 SX1001 出土遺物.....	258	第 513 图	3-1 区 SR1001 断面图 (1/100).....	284
第 473 图	2 区 SX1002 平断面图 (1/40).....	259	第 514 图	3-1 区 SR1001 石積み平面图① (1/40).....	285
第 474 图	2 区 SX1002 出土遺物.....	259	第 515 图	3-1 区 SR1001 石積み平面图② (1/40).....	286
第 475 图	2 区 SX1003 平断面图 (1/40).....	260	第 516 图	3-1 区 SR1001 石積み平面图③ (1/40).....	287
第 476 图	2 区 SX1003 出土遺物.....	261	第 517 图	3-1 区 SR1001 石積み断面图 (1/40).....	288
第 477 图	2 区包含層出土遺物①.....	262	第 518 图	3-1 区 SR1001 出土遺物①.....	288
第 478 图	2 区包含層出土遺物②.....	263	第 519 图	3-1 区 SR1001 出土遺物②.....	289
第 479 图	3-1 区平面图 (1/250).....	264	第 520 图	3-1 区 SR1001 出土遺物③.....	290
第 480 图	3-1 区 SA1001 平断面图 (1/50).....	265	第 521 图	3-1 区 SR1001 出土遺物④.....	291
第 481 图	3-1 区 SA1002 平断面图 (1/50).....	266	第 522 图	3-1 区 SR1001 出土遺物⑤.....	292
第 482 图	3-1 区 SB1001 平断面图① (1/50).....	267	第 523 图	3-1 区 SR1001 出土遺物⑥.....	293
第 483 图	3-1 区 SB1001 平断面图② (1/50).....	268	第 524 图	3-1 区 SR1001 出土遺物⑦.....	294
第 484 图	3-1 区 SB1001EH1 平断面图 (1/40).....	268	第 525 图	3-1 区 SR1001 出土遺物⑧.....	295
第 485 图	3-1 区 SB1001ED・EP 断面图 (1/20).....	269	第 526 图	3-1 区 SR1001 出土遺物⑨.....	296
第 486 图	3-1 区 SB1001 出土遺物①.....	270	第 527 图	3-1 区 SR1001 出土遺物⑩.....	297
第 487 图	3-1 区 SB1001 出土遺物②.....	271	第 528 图	3-1 区 SR1001 出土遺物⑪.....	298
第 488 图	3-1 区 SB1001 出土遺物③.....	272	第 529 图	3-1 区 SR1001 出土遺物⑫.....	299
第 489 图	3-1 区 SB1001 出土遺物④.....	273	第 530 图	3-1 区 SR1001 出土遺物⑬.....	300

第531図	3-1区SR1001出土遺物⑭	301	第570図	3-2区SP1069平断面図(1/20)	325
第532図	3-1区SR1001出土遺物⑮	302	第571図	3-2区SP1069出土遺物	325
第533図	3-1区SR1001出土遺物⑯	303	第572図	3-2区SP1099平断面図(1/20)	325
第534図	3-1区SX1004平断面図(1/40)	304	第573図	3-2区SP1099出土遺物	325
第535図	3-1区SX1004出土遺物	304	第574図	3-2区SP1109平断面図(1/20)	326
第536図	3-1区SX1005平断面図(1/40)	304	第575図	3-2区SP1109出土遺物	326
第537図	3-1区SX1007平断面図(1/40)	305	第576図	3-2区SP1113平断面図(1/20)	327
第538図	3-1区SX1007出土遺物	305	第577図	3-2区SP1113出土遺物	327
第539図	3-2区平面図(1/300)	306	第578図	3-2区SP1124平断面図(1/20)	328
第540図	3-2区SA1001平断面図(1/50)	307	第579図	3-2区SP1124出土遺物	328
第541図	3-2区SA1002平断面図(1/50)	308	第580図	3-2区SP1168平断面図(1/20)	328
第542図	3-2区SA1003平断面図(1/50)	309	第581図	3-2区SP1168出土遺物	328
第543図	3-2区SA1004平断面図(1/50)	310	第582図	3-2区SP1201平断面図(1/20)	329
第544図	3-2区SA1005平断面図(1/50)	311	第583図	3-2区SP1201出土遺物	329
第545図	3-2区SA1006平断面図(1/50)	312	第584図	3-2区SP1236平断面図(1/20)	329
第546図	3-2区SA1007平断面図(1/50)	313	第585図	3-2区SP1236出土遺物	329
第547図	3-2区SA1008平断面図(1/50)	314	第586図	3-2区SP1237平断面図(1/20)	330
第548図	3-2区SD1001～SD1004平断面図(1/80・1/40)	315	第587図	3-2区SP1237出土遺物	330
第549図	3-2区SD1003・SD1004断面図(1/40)	316	第588図	3-2区SP1248平断面図(1/20)	331
第550図	3-2区SD1002出土遺物	316	第589図	3-2区SP1248出土遺物	331
第551図	3-2区SD1003出土遺物	317	第590図	3-2区SP1366平断面図(1/20)	331
第552図	3-2区SD1004出土遺物	317	第591図	3-2区SP1366出土遺物	331
第553図	3-2区SK1028平断面図(1/40)	318	第592図	3-2区SP1481平断面図(1/20)	332
第554図	3-2区SK1028出土遺物	318	第593図	3-2区SP1481出土遺物	332
第555図	3-2区SK1031平断面図(1/40)	319	第594図	3-2区SP1492平断面図(1/20)	332
第556図	3-2区SK1033平断面図(1/40)	319	第595図	3-2区SP1492出土遺物	332
第557図	3-2区SK1033出土遺物	319	第596図	3-2区SP1679平断面図(1/20)	333
第558図	3-2区SK1048平断面図(1/40)	320	第597図	3-2区SP1679出土遺物	333
第559図	3-2区SK1053平断面図(1/40)	320	第598図	3-2区SX1004平断面図(1/40)	334
第560図	3-2区SK1053出土遺物	320	第599図	3-2区包含層出土遺物	334
第561図	3-2区SK1057平断面図(1/40)	321			
第562図	3-2区SK1057出土遺物	321			
第563図	3-2区SK1062平断面図(1/40)	322			
第564図	3-2区SK1063平断面図(1/40)	322			
第565図	3-2区SK1063出土遺物	322			
第566図	3-2区SK1068平断面図(1/40)	323			
第567図	3-2区SK1068出土遺物	323			
第568図	3-2区SK1077平断面図(1/40)	324			
第569図	3-2区SK1077出土遺物	324			

## IVまとめ

第600図	弥生時代の主な遺構	338
第601図	弥生時代前期～中期初頭の土器	339
第602図	弥生時代終末～古墳時代初頭の土器①	340
第603図	弥生時代終末～古墳時代初頭の土器②	341
第604図	弥生時代終末～古墳時代初頭の土器③	342
第605図	中世の主な遺構	345
第606図	0-2区SK1001出土遺物②	346

# 觀察表目次

## 《第 2 分冊》

表 1	遺構觀察表 [SA] .....	349	表 3 7	遺構觀察表 [SP] (18) .....	381
表 2	遺構觀察表 [SB] (1) .....	350	表 3 8	遺構觀察表 [SP] (19) .....	382
表 3	遺構觀察表 [SB] (2) .....	351	表 3 9	遺構觀察表 [SP] (20) .....	383
表 4	遺構觀察表 [SB] (3) .....	352	表 4 0	遺構觀察表 [SP] (21) .....	384
表 5	遺構觀察表 [SD · SR] (1) .....	352	表 4 1	遺構觀察表 [SP] (22) .....	385
表 6	遺構觀察表 [SD · SR] (2) .....	353	表 4 2	遺構觀察表 [SP] (23) .....	386
表 7	遺構觀察表 [SH] .....	353	表 4 3	遺構觀察表 [SP] (24) .....	387
表 8	遺構觀察表 [SI] .....	353	表 4 4	遺構觀察表 [SP] (25) .....	388
表 9	遺構觀察表 [SK] (1) .....	354	表 4 5	遺構觀察表 [SP] (26) .....	389
表 1 0	遺構觀察表 [SK] (2) .....	355	表 4 6	遺構觀察表 [SP] (27) .....	390
表 1 1	遺構觀察表 [SK] (3) .....	356	表 4 7	遺構觀察表 [SP] (28) .....	391
表 1 2	遺構觀察表 [SK] (4) .....	357	表 4 8	遺構觀察表 [SP] (29) .....	392
表 1 3	遺構觀察表 [SK] (5) .....	358	表 4 9	遺構觀察表 [SP] (30) .....	393
表 1 4	遺構觀察表 [SK] (6) .....	359	表 5 0	遺構觀察表 [SP] (31) .....	394
表 1 5	遺構觀察表 [SK] (7) .....	360	表 5 1	遺構觀察表 [SP] (32) .....	395
表 1 6	遺構觀察表 [SK] (8) .....	361	表 5 2	遺構觀察表 [SP] (33) .....	396
表 1 7	遺構觀察表 [SK] (9) .....	362	表 5 3	遺構觀察表 [SP] (34) .....	397
表 1 8	遺構觀察表 [SK] (10) .....	363	表 5 4	遺構觀察表 [SP] (35) .....	398
表 1 9	遺構觀察表 [SO] .....	364	表 5 5	遺構觀察表 [SP] (36) .....	399
表 2 0	遺構觀察表 [SP] (1) .....	364	表 5 6	遺構觀察表 [SP] (37) .....	400
表 2 1	遺構觀察表 [SP] (2) .....	365	表 5 7	遺構觀察表 [SP] (38) .....	401
表 2 2	遺構觀察表 [SP] (3) .....	366	表 5 8	遺構觀察表 [SP] (39) .....	402
表 2 3	遺構觀察表 [SP] (4) .....	367	表 5 9	遺構觀察表 [SP] (40) .....	403
表 2 4	遺構觀察表 [SP] (5) .....	368	表 6 0	遺構觀察表 [SP] (41) .....	404
表 2 5	遺構觀察表 [SP] (6) .....	369	表 6 1	遺構觀察表 [SP] (42) .....	405
表 2 6	遺構觀察表 [SP] (7) .....	370	表 6 2	遺構觀察表 [SP] (43) .....	406
表 2 7	遺構觀察表 [SP] (8) .....	371	表 6 3	遺構觀察表 [SP] (44) .....	407
表 2 8	遺構觀察表 [SP] (9) .....	372	表 6 4	遺構觀察表 [SP] (45) .....	408
表 2 9	遺構觀察表 [SP] (10) .....	373	表 6 5	遺構觀察表 [SP] (46) .....	409
表 3 0	遺構觀察表 [SP] (11) .....	374	表 6 6	遺構觀察表 [SP] (47) .....	410
表 3 1	遺構觀察表 [SP] (12) .....	375	表 6 7	遺構觀察表 [SP] (48) .....	411
表 3 2	遺構觀察表 [SP] (13) .....	376	表 6 8	遺構觀察表 [SP] (49) .....	412
表 3 3	遺構觀察表 [SP] (14) .....	377	表 6 9	遺構觀察表 [SP] (50) .....	413
表 3 4	遺構觀察表 [SP] (15) .....	378	表 7 0	遺構觀察表 [SP] (51) .....	414
表 3 5	遺構觀察表 [SP] (16) .....	379	表 7 1	遺構觀察表 [SP] (52) .....	415
表 3 6	遺構觀察表 [SP] (17) .....	380	表 7 2	遺構觀察表 [SP] (53) .....	416

表 7 3 遺構觀察表 [SP] (54).....	417	表 1 1 4 土器觀察表 (11a).....	458
表 7 4 遺構觀察表 [SP] (55).....	418	表 1 1 5 土器觀察表 (11b).....	459
表 7 5 遺構觀察表 [SP] (56).....	419	表 1 1 6 土器觀察表 (12a).....	460
表 7 6 遺構觀察表 [SP] (57).....	420	表 1 1 7 土器觀察表 (12b).....	461
表 7 7 遺構觀察表 [SP] (58).....	421	表 1 1 8 土器觀察表 (13a).....	462
表 7 8 遺構觀察表 [SP] (59).....	422	表 1 1 9 土器觀察表 (13b).....	463
表 7 9 遺構觀察表 [SP] (60).....	423	表 1 2 0 土器觀察表 (14a).....	464
表 8 0 遺構觀察表 [SP] (61).....	424	表 1 2 1 土器觀察表 (14b).....	465
表 8 1 遺構觀察表 [SP] (62).....	425	表 1 2 2 土器觀察表 (15a).....	466
表 8 2 遺構觀察表 [SP] (63).....	426	表 1 2 3 土器觀察表 (15b).....	467
表 8 3 遺構觀察表 [SP] (64).....	427	表 1 2 4 土器觀察表 (16a).....	468
表 8 4 遺構觀察表 [SP] (65).....	428	表 1 2 5 土器觀察表 (16b).....	469
表 8 5 遺構觀察表 [SP] (66).....	429	表 1 2 6 土器觀察表 (17a).....	470
表 8 6 遺構觀察表 [SP] (67).....	430	表 1 2 7 土器觀察表 (17b).....	471
表 8 7 遺構觀察表 [SP] (68).....	431	表 1 2 8 土器觀察表 (18a).....	472
表 8 8 遺構觀察表 [SP] (69).....	432	表 1 2 9 土器觀察表 (18b).....	473
表 8 9 遺構觀察表 [SP] (70).....	433	表 1 3 0 土器觀察表 (19a).....	474
表 9 0 遺構觀察表 [SP] (71).....	434	表 1 3 1 土器觀察表 (19b).....	475
表 9 1 遺構觀察表 [SU].....	435	表 1 3 2 土器觀察表 (20a).....	476
表 9 2 遺構觀察表 [SX] (1).....	435	表 1 3 3 土器觀察表 (20b).....	477
表 9 3 遺構觀察表 [SX] (2).....	436	表 1 3 4 土器觀察表 (21a).....	478
表 9 4 土器觀察表 (1a).....	438	表 1 3 5 土器觀察表 (21b).....	479
表 9 5 土器觀察表 (1b).....	439	表 1 3 6 土器觀察表 (22a).....	480
表 9 6 土器觀察表 (2a).....	440	表 1 3 7 土器觀察表 (22b).....	481
表 9 7 土器觀察表 (2b).....	441	表 1 3 8 土器觀察表 (23a).....	482
表 9 8 土器觀察表 (3a).....	442	表 1 3 9 土器觀察表 (23b).....	483
表 9 9 土器觀察表 (3b).....	443	表 1 4 0 土器觀察表 (24a).....	484
表 1 0 0 土器觀察表 (4a).....	444	表 1 4 1 土器觀察表 (24b).....	485
表 1 0 1 土器觀察表 (4b).....	445	表 1 4 2 土器觀察表 (25a).....	486
表 1 0 2 土器觀察表 (5a).....	446	表 1 4 3 土器觀察表 (25b).....	487
表 1 0 3 土器觀察表 (5b).....	447	表 1 4 4 土器觀察表 (26a).....	488
表 1 0 4 土器觀察表 (6a).....	448	表 1 4 5 土器觀察表 (26b).....	489
表 1 0 5 土器觀察表 (6b).....	449	表 1 4 6 土器觀察表 (27a).....	490
表 1 0 6 土器觀察表 (7a).....	450	表 1 4 7 土器觀察表 (27b).....	491
表 1 0 7 土器觀察表 (7b).....	451	表 1 4 8 土器觀察表 (28a).....	492
表 1 0 8 土器觀察表 (8a).....	452	表 1 4 9 土器觀察表 (28b).....	493
表 1 0 9 土器觀察表 (8b).....	453	表 1 5 0 土器觀察表 (29a).....	494
表 1 1 0 土器觀察表 (9a).....	454	表 1 5 1 土器觀察表 (29b).....	495
表 1 1 1 土器觀察表 (9b).....	455	表 1 5 2 土器觀察表 (30a).....	496
表 1 1 2 土器觀察表 (10a).....	456	表 1 5 3 土器觀察表 (30b).....	497
表 1 1 3 土器觀察表 (10b).....	457	表 1 5 4 土器觀察表 (31a).....	498

表 1 5 5 土器観察表 (31b) .....	499	表 1 7 3 土器観察表 (40b) .....	517
表 1 5 6 土器観察表 (32a) .....	500	表 1 7 4 土器観察表 (41a) .....	518
表 1 5 7 土器観察表 (32b) .....	501	表 1 7 5 土器観察表 (41b) .....	519
表 1 5 8 土器観察表 (33a) .....	502	表 1 7 6 土器観察表 (42a) .....	520
表 1 5 9 土器観察表 (33b) .....	503	表 1 7 7 土器観察表 (42b) .....	521
表 1 6 0 土器観察表 (34a) .....	504	表 1 7 8 石器観察表 (1) .....	522
表 1 6 1 土器観察表 (34b) .....	505	表 1 7 9 石器観察表 (2) .....	523
表 1 6 2 土器観察表 (35a) .....	506	表 1 8 0 石器観察表 (3) .....	524
表 1 6 3 土器観察表 (35b) .....	507	表 1 8 1 鉄製品観察表 (1) .....	525
表 1 6 4 土器観察表 (36a) .....	508	表 1 8 2 鉄製品観察表 (2) .....	526
表 1 6 5 土器観察表 (36b) .....	509	表 1 8 3 鉄製品観察表 (3) .....	527
表 1 6 6 土器観察表 (37a) .....	510	表 1 8 4 銅銭観察表 .....	527
表 1 6 7 土器観察表 (37b) .....	511	表 1 8 5 スラグ観察表 (1) .....	527
表 1 6 8 土器観察表 (38a) .....	512	表 1 8 6 スラグ観察表 (2) .....	528
表 1 6 9 土器観察表 (38b) .....	513	表 1 8 7 土製品観察表 (1) .....	529
表 1 7 0 土器観察表 (39a) .....	514	表 1 8 8 土製品観察表 (2) .....	530
表 1 7 1 土器観察表 (39b) .....	515	表 1 8 9 土製品観察表 (3) .....	531
表 1 7 2 土器観察表 (40a) .....	516		

## 写真目次

### 《第 1 分冊》

巻頭カラー 1	2区竪穴住居 (SB1003) 内の鍛冶炉	0-2区SO1001完掘状況 .....	538
	2区竪穴住居 (SB1003) 内出土遺物	0-2区SO1004炭化物検出状況 .....	538

写真図版 5	0-2区SX1001遺物出土状況 .....	539
	0-2区第1遺構面完掘状況 (東から) .....	539

写真図版 6	0-2区SB2001遺物出土状況 .....	540
	0-2区SB2001完掘状況 .....	540
	0-2区SB2001EH1完掘状況 .....	540

写真図版 7	0-2区SK2031遺物出土状況 .....	541
	0-2区SK2049遺物出土状況 .....	541
	0-2区SU2001検出状況 .....	541

写真図版 8	0-2区SU2001遺物出土状況 .....	542
	0-2区SU2002検出状況 .....	542
	0-2区SU2002上面礫除去状況 .....	542

写真図版 9	0-2区SU2003検出状況 .....	543
	0-2区第2遺構面完掘状況 (東から) .....	543

写真図版 10	1-0区水田畦畔検出状況 .....	544
	1-0区SK1014遺物出土状況 .....	544

### 《第 2 分冊》

写真図版 1	0-1区完掘状況 (東から) .....	535
	0-2区SK1001遺物出土状況① .....	535
	0-2区SK1001遺物出土状況② .....	535

写真図版 2	0-2区SK1003遺物出土状況① .....	536
	0-2区SK1003遺物出土状況② .....	536
	0-2区SK1004遺物出土状況 .....	536

写真図版 3	0-2区SK1004完掘状況 .....	537
	0-2区SK1007遺物出土状況① .....	537
	0-2区SK1007遺物出土状況② .....	537

写真図版 4	0-2区SO1001炭化物検出状況 .....	538
--------	-------------------------	-----

	1-0区第1遺構面完掘状況……………	544	写真図版26	2区SB1001遺物出土状況①……………	560
写真図版11	1-0区SB2001遺物出土状況……………	545		2区SB1001遺物出土状況②……………	560
	1-0区SB2002・SB2003完掘状況……………	545		2区SB1001完掘状況……………	560
	1-0区SB2003遺物出土状況……………	545	写真図版27	2区SB1002遺物出土状況①……………	561
写真図版12	1-0区SK2019・SK2020遺物出土状況……………	546		2区SB1002遺物出土状況②……………	561
	1-0区SK2027遺物出土状況……………	546		2区SB1002完掘状況……………	561
	1-0区SK2028遺物出土状況……………	546	写真図版28	2区SB1003遺物出土状況①……………	562
写真図版13	1-0区SK2034遺物出土状況……………	547		2区SB1003遺物出土状況②……………	562
	1-0区SK2036遺物出土状況……………	547		2区SB1003EH1検出状況……………	562
	1-0区SK2037遺物出土状況……………	547	写真図版29	2区SB1003EH1土層断面……………	563
写真図版14	1-0区SK2044遺物出土状況……………	548		2区SB1003EH1完掘状況……………	563
	1-0区SU2002検出状況……………	548	写真図版30	2区SB1003・SB1004完掘状況……………	564
	1-0区SU2002上面礫除去状況……………	548		2区SB1004EH1完掘状況……………	564
写真図版15	1-0区SU2003検出状況……………	549		2区SB1004EH1遺物出土状況……………	564
	1-0区第2遺構面完掘状況(東から)……………	549	写真図版31	2区SD1003遺物出土状況①……………	565
写真図版16	1-1区西SK1017遺物出土状況……………	550		2区SD1003遺物出土状況②……………	565
	1-1区西SK1025炭化物検出状況……………	550		2区SK1039遺物出土状況……………	565
	1-1区西SP1112遺物出土状況……………	550	写真図版32	2区SP1015遺物出土状況……………	566
写真図版17	1-1区西完掘状況①(東から)……………	551		2区SP1027遺物出土状況……………	566
	1-1区西完掘状況②(東から)……………	551		2区SX1003遺物出土状況……………	566
写真図版18	1-1区東SP1101遺物出土状況……………	552	写真図版33	2区完掘状況①(西から)……………	567
	1-1区東SP1122遺物出土状況……………	552		2区完掘状況②(東から)……………	567
	1-1区東SP1144遺物出土状況……………	552	写真図版34	3-1区SB1001遺物出土状況……………	568
写真図版19	1-1区東SX1001周辺完掘状況……………	553		3-1区SB1001EH1検出状況①……………	568
	1-1区東完掘状況(西から)……………	553		3-1区SB1001EH1検出状況②……………	568
写真図版20	1-2区SB1001完掘状況……………	554	写真図版35	3-1区SB1001EH1炭化物分布状況……………	569
	1-2区SB1001遺物出土状況①……………	554		3-1区SB1001EH1完掘状況……………	569
写真図版21	1-2区SB1001遺物出土状況②……………	555		3-1区SB1001完掘状況……………	569
	1-2区SB1001遺物出土状況③……………	555	写真図版36	3-1区SR1001石積み検出状況①……………	570
	1-2区SB1001遺物出土状況④……………	555		3-1区SR1001石積み検出状況②……………	570
写真図版22	1-2区SB1001EH1土層断面……………	556		3-1区SR1001石積み断ち割り状況……………	570
	1-2区SB1002遺物出土状況……………	556	写真図版37	3-1区完掘状況①(西から)……………	571
	1-2区SB1002EH1完掘状況……………	556		3-1区完掘状況②(西から)……………	571
写真図版23	1-2区SK1015遺物出土状況……………	557	写真図版38	3-2区SD1001～1005遺物出土状況……………	572
	1-2区SK1027検出状況……………	557		3-2区SX1004遺物出土状況……………	572
	1-2区SK1027遺物出土状況……………	557		3-2区完掘状況①(南から)……………	572
写真図版24	1-2区SP1078遺物出土状況……………	558	写真図版39	3-2区完掘状況②(西から)……………	573
	1-2区SP1345遺物出土状況……………	558		現地説明会風景①……………	573
	1-2区SP1371遺物出土状況……………	558		現地説明会風景②……………	573
写真図版25	1-2区完掘状況①(東から)……………	559	写真図版40	出土遺物(1)……………	574
	1-2区完掘状況②(西から)……………	559	写真図版41	出土遺物(2)……………	575

写真図版42	出土遺物(3).....	576	写真図版56	出土遺物(17).....	590
写真図版43	出土遺物(4).....	577	写真図版57	出土遺物(18).....	591
写真図版44	出土遺物(5).....	578	写真図版58	出土遺物(19).....	592
写真図版45	出土遺物(6).....	579	写真図版59	出土遺物(20).....	593
写真図版46	出土遺物(7).....	580	写真図版60	出土遺物(21).....	594
写真図版47	出土遺物(8).....	581	写真図版61	出土遺物(22).....	595
写真図版48	出土遺物(9).....	582	写真図版62	出土遺物(23).....	596
写真図版49	出土遺物(10).....	583	写真図版63	出土遺物(24).....	597
写真図版50	出土遺物(11).....	584	写真図版64	出土遺物(25).....	598
写真図版51	出土遺物(12).....	585	写真図版65	出土遺物(26).....	599
写真図版52	出土遺物(13).....	586	写真図版66	出土遺物(27).....	600
写真図版53	出土遺物(14).....	587	写真図版67	出土遺物(28).....	601
写真図版54	出土遺物(15).....	588	写真図版68	出土遺物(29).....	601
写真図版55	出土遺物(16).....	589			

## 付図目次

付図1	0-1区平面図 (1/100)	付図6	1-2区平面図 (1/100)
付図2	0-2区・1-0区第1遺構面平面図 (1/100)	付図7	2区平面図 (1/100)
付図3	0-2区・1-0区第2遺構面平面図 (1/100)	付図8	3-1区平面図 (1/100)
付図4	1-1区西平面図 (1/100)	付図9	3-2区平面図 (1/100)
付図5	1-1区東平面図 (1/100)		



## I 調査及び整理の経緯

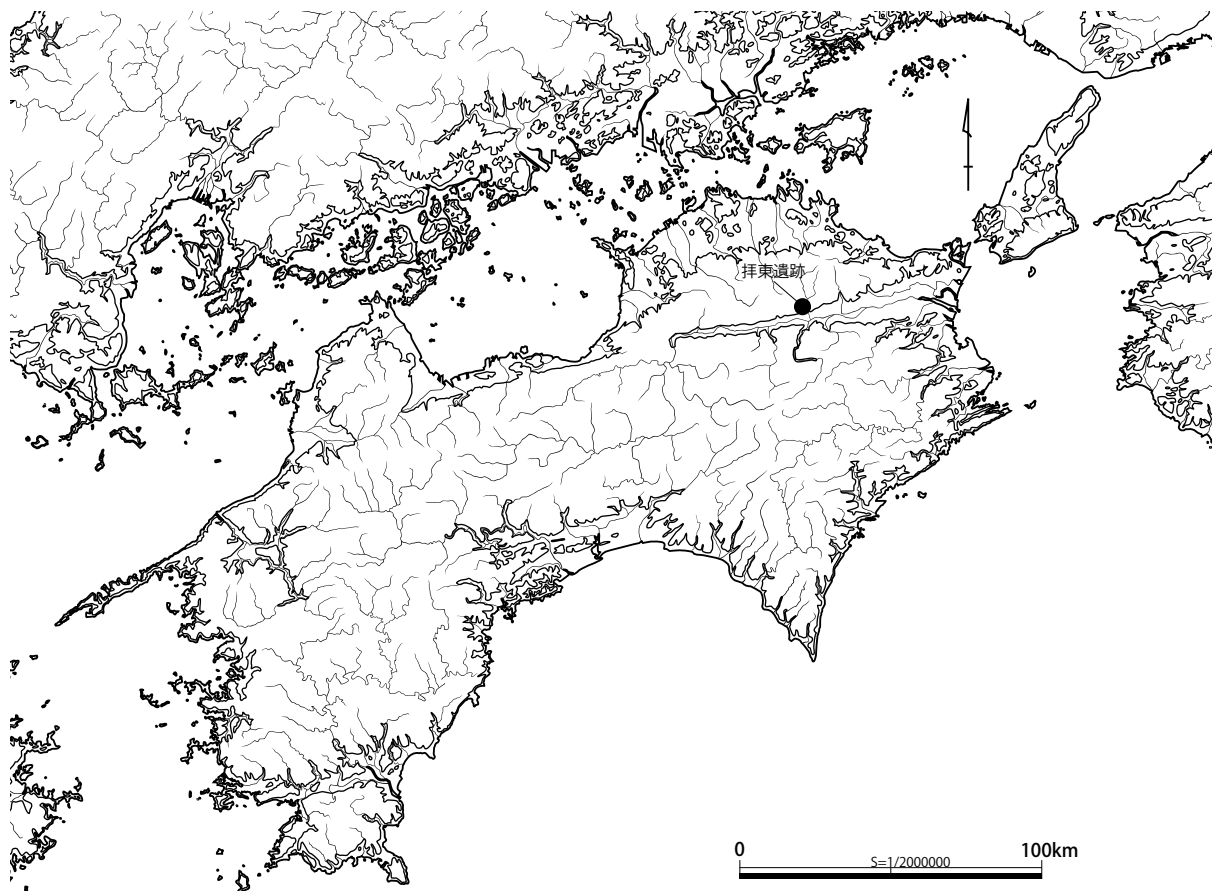


# 1 発掘調査の経緯と経過

主要地方道鳴門池田線（以下、鳴門池田線という。）は吉野川北岸の4市3町を東西に結ぶ延長約83kmの道路であり、通勤通学、産業支援・観光支援のための道路として、吉野川南岸の一般国道192号線と並ぶ骨格的な役割を担う幹線道路である。緊急地方道路整備事業（主要地方道鳴門池田線）は、鳴門池田線で唯一の未改良区間である美馬市脇町中心部において、諸車輛通行の支障や慢性的な渋滞を解消する便益のみならず、災害時の物資輸送等の効率化、救命率の向上、環境保全の効果をもたらすとして、脇町字共進から字新町までを結ぶ全長5.1kmのバイパスが平成10年度に事業計画化された。

当該区間における埋蔵文化財の取り扱いについては、平成10年度の「開発事業と文化財の調整会議」から、国道193号線との交差点以東の延長1.8kmでは、埋蔵文化財の有無確認のための試掘調査が必要と回答してきた。平成15年度には文化財課（現：教育文化政策課）で当該区間の現地踏査を実施し、試掘必要範囲を土井谷川から曾江谷川の間に絞り込んだ。平成15年9月に国道193号線以東の区間について、工事進捗の話が持ち上がった。文化財課は道路建設課（現：道路整備課）と協議を持ち、当該区間での試掘調査を早急に実施すること、埋蔵文化財が確認された場合は平成16年度に発掘調査を実施し、調査終了次第、順次工事着工することで合意した。以上の経緯のもと、当該課は、道路建設課の埋蔵文化財試掘調査依頼（道建第130号H15.8.29）を承諾し、試掘調査を実施する旨を回答した。

試掘調査は、平成15年10月30日・31日、11月25日・26日の4日間実施した。試掘トレンチ



第1図 拌東遺跡の位置① (1/2,000,000)

は調査対象範囲としていた土井谷川から曾江谷川の間に 11 か所設定した。設定したトレンチの内、10 か所で遺物や遺構を確認した。遺構の所属時期は弥生時代と中世の 2 時期が認められ、当該区間の内、下記で述べる調査区では、出土した遺物の遺存状態及び遺構面の有無から考え、工事着手前の発掘調査が必要と判断した。

発掘調査については、徳島県教育委員会が財団法人徳島県埋蔵文化財センター（現：公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター）に委託して実施した。

発掘調査期間は、平成 16 年度から平成 19 年度までの 23 ヶ月間である。そのうち平成 18・19 年度の調査範囲は、平成 17 年度の調査結果をもとに関係各機関と協議の上、本調査実施を決定した。各年度の調査期間と調査面積は、平成 16 年度は 12 ヶ月、延面積 6,528㎡、平成 17 年度は 4 ヶ月、延面積 1,690㎡、平成 18 年度は 1 ヶ月、640㎡、平成 19 年度は 6 ヶ月、延面積 2,220㎡である。当該調査地の出土遺物はコンテナ 490 箱である（第 3 図）。（教育文化政策課）

## 2 発掘調査の方法

発掘調査では日本測地系（第Ⅳ系）座標軸を基準とした。一边を 5m のグリッドを設定し、X = 118,000、Y = 62,140 を基点として、南から北へアルファベットを使用して A ~ T の順に表記していき、それを越えた場合については、南に向かって ZT、ZS、ZR・・・、北に向かっては、AA、AB、AC・・・、と表記している。また東西方向については西から東へと向かってはアラビア数字を使用



第 2 図 拝東遺跡の位置② (1/5,000)



第 3 図 拝東遺跡の位置と調査状況

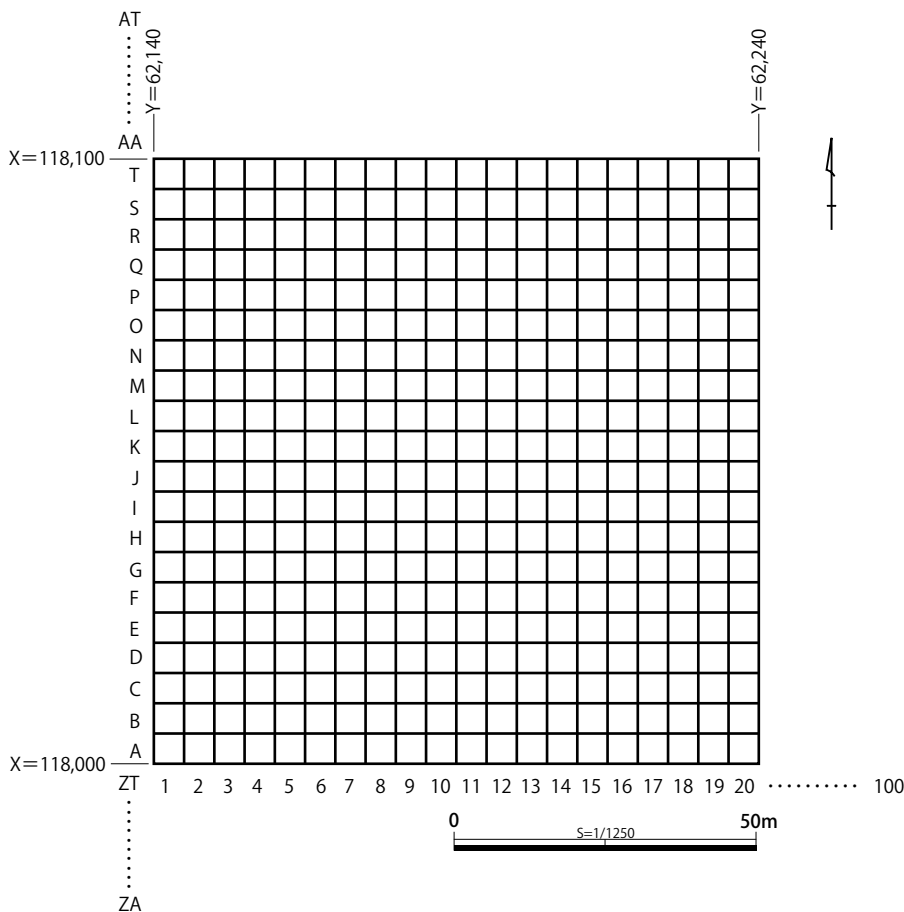
して1、2、3・・・、と順に表記している（第4・5図）。

調査区の名称は西から順に0区～3区の名称を付与していたが、調査工程上更に細分して調査が行われたため、0-1区～3-2区の9か所の調査区が存在している（第5図）。

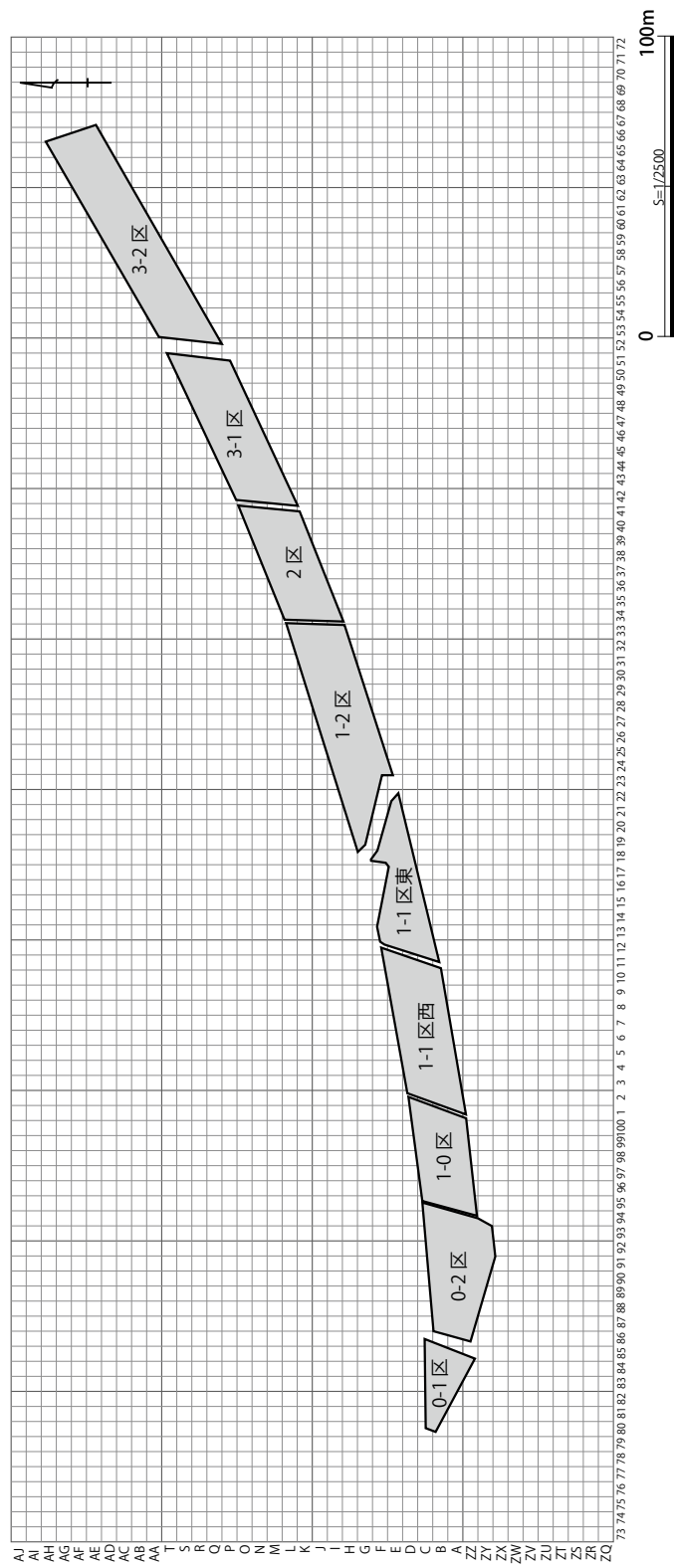
### 3 整理業務の経過

整理業務は2008（平成20）年度から開始された。出土遺物の総点数は83,300点、コンテナ箱数に換算して490箱の出土品の整理を行った。作業歩掛かりについては公益財団法人徳島県埋蔵文化財センターの整理作業歩掛かり（研究員1名に整理作業員4名の1班で、1年間にコンテナ140箱の整理を行う）に基づいて行うこととし、総整理期間を3.5年（42ヶ月分）として行うこととした。

2008（平成20）年度から0.5班分（6ヶ月）体制で着手し、洗浄作業、注記・接合作業等の基礎整理から開始した。その後、2009（平成21）年度は1.0班分（12ヶ月）、2010（平成21）年度は0.5班分（6ヶ月）2013（平成25）年度は0.5班分（6ヶ月）、2014（平成26）年度は0.17班分（2ヶ月）において順次、実測作業、遺物トレース作業を行い、最終年度の2015（平成27）年度は0.83班分（10ヶ月）で行われ、遺物写真撮影作業、遺構トレース作業、報告書レイアウト作業、原稿執筆を中心としたとりまとめ作業を実施した。



第4図 グリッドの配置方法



第5図 挿東遺跡の調査区の名称とグリッドの配置

## 4 発掘調査・整理業務の体制

### ○ 2004（平成 16）年度

#### ・事務局

所長 浦上純二 事務局長 河野幸一

（総務課）

次長兼総務課長 古田哲郎 主査兼庶務係長 坂尾俊一

事務主任 鈴木智栄 主事 川口治代

（事業第一課）

課長 富本輝仁 第一係長 濱 徹

#### ・発掘調査業務担当

研究員 前田綾博 谷口智恵子

### ○ 2005（平成 17）年度

#### ・事務局

所長 浦上純二 事務局長 河野幸一

（総務課）

次長兼総務課長 古田哲郎 主査兼庶務係長 坂尾俊一

事務主任 浦川明美 主事 川口治代

（事業第一課）

課長 中妻敬二 第一係長 濱 徹

#### ・発掘調査業務担当

第二係長 藤川智之 研究員 北尾秀昭

### ○ 2006（平成 18）年度

#### ・事務局

所長 村上一行 事務局長 河野幸一

（総務課）

次長兼総務課長 一宮一郎 主査兼庶務係長 新居謙輔

事務主任 浦川明美 主事 川口治代

（事業第一課）

課長 中妻敬二 第一係長 濱 徹

#### ・発掘調査業務担当

第二係長 藤川智之 研究員 松家義人

### ○ 2007（平成 19）年度

#### ・事務局



所長 伊川政文 事務局長 多田升二

(総務課)

次長兼総務課長 一宮一郎 主査兼庶務係長 新居謙輔

事務主任 浦川明美 主事 野田登記子

(事業第一課)

課長 湯浅利彦 第一係長 藤川智之

・発掘調査業務担当

主任研究員 大北和美 研究員 川口 徹

## ○ 2008 (平成 20) 年度

・事務局

所長 阿部修三 事務局長 多田升二

(総務課)

総務課長兼庶務係長 新居謙輔

事務主任 野田登記子 主事 三ヶ田浩

(事業第二課)

次長兼課長 島巡賢二

・整理業務担当

整理係長 氏家敏之

## ○ 2009 (平成 21) 年度

・事務局

所長 阿部修三 事務局長 近松克仁

(総務課)

総務課長 三好修碁 庶務係長 氏家敏之

事務主任 野田登記子

(事業課)

課長 石井伸夫

・整理業務担当

整理係長 栗林誠治 主任研究員 大橋育順

## ○ 2010 (平成 22) 年度

・事務局

所長 平尾恭二 事務局長 菅原康夫

(総務課)

総務課長 三好修碁 庶務係長 氏家敏之

事務主任 圓藤早知子

(事業課)

課長 藤川智之 整理係長 近藤 玲

・整理業務担当

研究員補助員 佐藤俊祐

○ 2013（平成 25）年度

・事務局

理事長兼所長 福家清司 専務理事兼事務局長 菅原康夫

（総務課）

総務課長 漆川明彦 庶務係長 大橋育順

事務主任 妹尾 悟

（事業課）

課長 藤川智之

・整理業務担当

主任研究員 大北和美

○ 2014（平成 26）年度

・事務局

理事長兼所長 福家清司 専務理事兼事務局長 菅原康夫

（総務課）

総務課長 漆川明彦 庶務係長 大橋育順

事務主任 妹尾 悟

（事業課）

課長 藤川智之

・整理業務担当

専門研究員 原 芳伸

○ 2015（平成 27）年度

・事務局

理事長兼所長 福家清司 専務理事兼事務局長 菅原康夫

（総務課）

総務課長 藤田吉則 庶務係長 大橋育順

事務主任 妹尾 悟

（事業課）

課長 藤川智之

・整理業務担当

課長補佐 氏家敏之

## 5 調査日誌抄

### ○ 2004（平成 16）年

4月 1日～	調査準備
4月20日～	1-2 区機械掘削
4月30日～	1-2 区包含層掘削
5月11日～	3-1 区機械掘削
5月18日～	1-2 区遺構検出
5月27日～	1-2 区遺構内掘削
6月16日	1-2 区完掘状況写真撮影
6月17日～	3-1 区東側包含層掘削
6月30日	3-1 区東側遺構検出
7月 1日～	1-2 区埋め戻し作業・3-1 区東側遺構内掘削
7月12日～	3-1 区西側包含層掘削
7月22日～	3-1 区西側遺構検出
7月26日～	3-1 区西側遺構内掘削
8月25日	3-1 区完掘状況写真撮影
8月26日～	3-1 区包含層掘削
9月10日～	3-1 区遺構検出
9月14日～	2 区機械掘削
9月15日～	3-1 区遺構内掘削
10月25日～	2 区包含層掘削
11月17日～	3-2 区機械掘削
11月18日～	2 区遺構検出
11月24日～	2 区遺構内掘削
12月21日	2 区・3-1 区完掘状況写真撮影
1月28日	3-2 区包含層掘削
2月25日	3-2 区遺構検出
3月 1日	3-2 区遺構内掘削
3月16日	3-2 区完掘状況写真撮影
3月31日	現場撤収

### ○ 2005（平成 17）年

4月 1日～	調査準備
4月26日～	1-1 区東機械掘削
4月28日	1-1 区東包含層掘削
5月 2日～	1-1 区東遺構検出

5月 9日～	1-1 区西機械掘削
5月12日～	1-1 区西包含層掘削
5月16日～	1-1 区西遺構検出・1-1 区東遺構内掘削
5月20日～	1-1 区西遺構内掘削
5月27日	1-1 区西・1-1 区東完掘状況写真撮影
5月30日～	1-1 区西機械掘削
6月 6日	1-1 区西包含層掘削
6月 7日～	1-1 区西遺構検出
6月13日～	1-1 区西遺構内掘削
7月 8日	1-1 区西完掘状況写真撮影
7月22日	現場撤収

○ 2006（平成18）年

4月 3日～	調査準備
4月12日～	1-0 区包含層掘削
4月17日	1-0 区遺構検出
4月18日～	1-0 区遺構内掘削
4月28日	現場撤収

○ 2007（平成19）年

4月2日～	調査準備
4月19日～	0-1 区機械掘削
4月27日	1-0 区遺構検出
5月 7日～	1-0 区遺構内掘削・0-1 区遺構検出
5月14日	1-0 区完掘状況写真撮影
5月21日～	0-1 区遺構内掘削
5月22日	0-1 区完掘状況写真撮影
5月28日～	1-0 区包含層掘削
6月11日～	1-0 区遺構検出
6月19日～	1-0 区遺構内掘削
7月17日～	0-2 区機械掘削
7月19日	1-0 区完掘状況写真撮影
7月20日～	0-2 区包含層掘削
7月30日～	0-2 区遺構検出
8月 3日～	0-2 区遺構内掘削
8月10日	0-2 区完掘状況写真撮影
8月16日～	0-2 区包含層掘削
9月 3日～	0-2 区遺構内掘削

9月21日

0-2区完掘状況写真撮影

9月28日

現場撤収



## II 遺跡の立地と歴史的環境



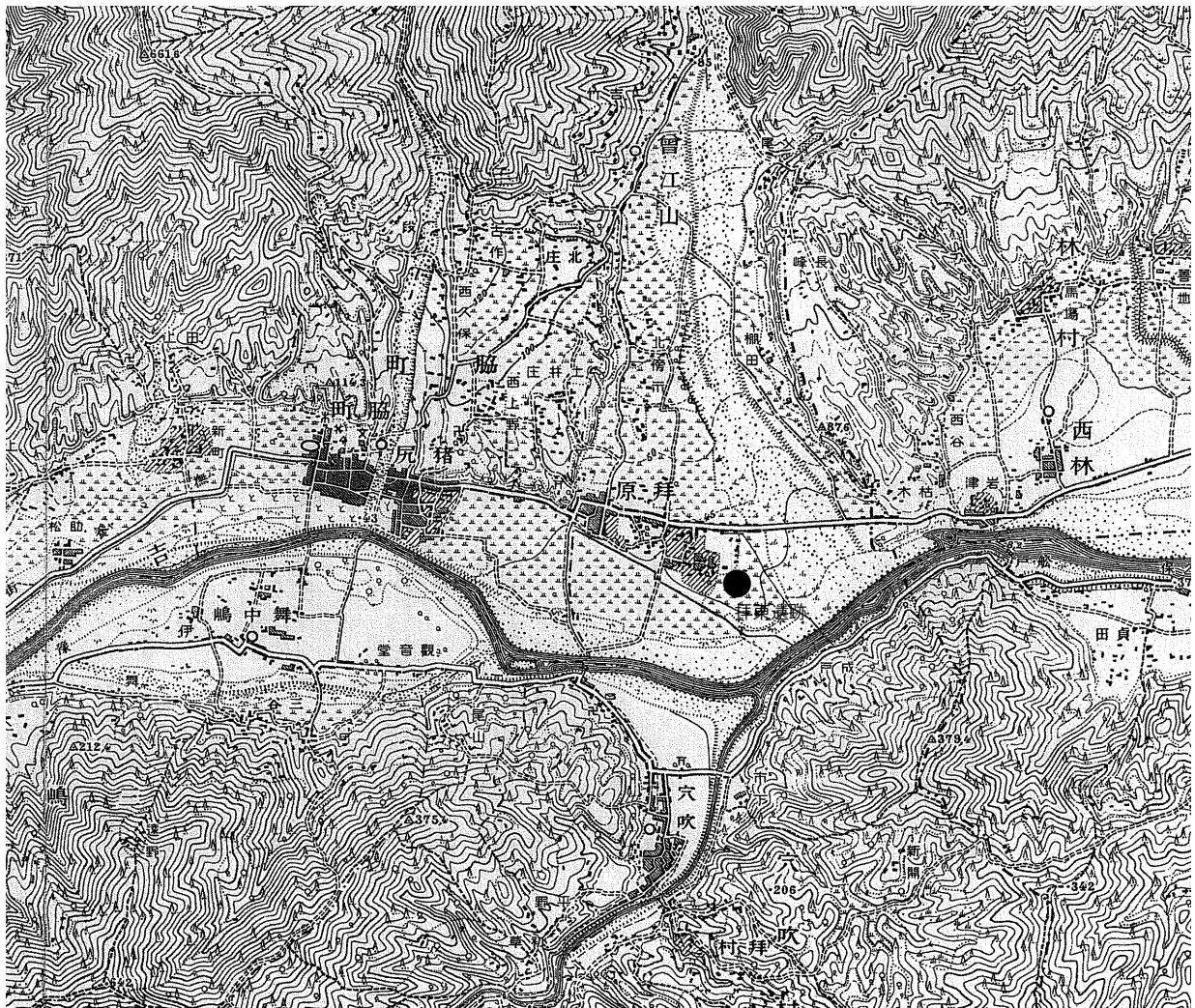


# 1 遺跡の立地

徳島県は四国島の東部に位置する。面積は 4,144 平方kmであるが、全面積の約 8 割近くを山地が占める。平野部は、吉野川、勝浦川、那賀川、海部川などの流域に、主として三角州として発達する。山地は、北側の阿讃山脈と吉野川以南の四国山地に大別される。

四国島を東西に横断する中央構造線によって、地質の構造は北側の内帯と南側の外帯とに分けられる。中央構造線は、徳島県内では東から鳴門市里浦、美馬市脇町、三好市池田町から愛媛県四国中央市に連なり、讃岐山脈沿いに延びている。県内の地質は、中央構造線を主とする東西方向の構造線によって、内帯の和泉層群、外帯には北から三波川帯、御荷銚帯、秩父帯、四万十帯からなる。拝東遺跡は和泉帯の南外縁に位置している。

拝東遺跡の南側を流れている「四国三郎」吉野川は、延長約 194km、流域面積約 3,750 平方kmの規模をもつ四国最大の河川である。石鎚山に源を発し、中央構造線に沿って東流して紀伊水道に注いでいる。吉野川には、外帯側の右岸では鮎喰川などの扇状地が形成され、一方の内帯側の左岸下流では伊沢谷川、大久保谷川、日開谷川、九頭宇谷川、宮川内谷川などの扇状地が形成されている。内帯側の扇状



第 6 図 明治 34 年発行の地形図からみた拝東遺跡の位置 (1/50,000)

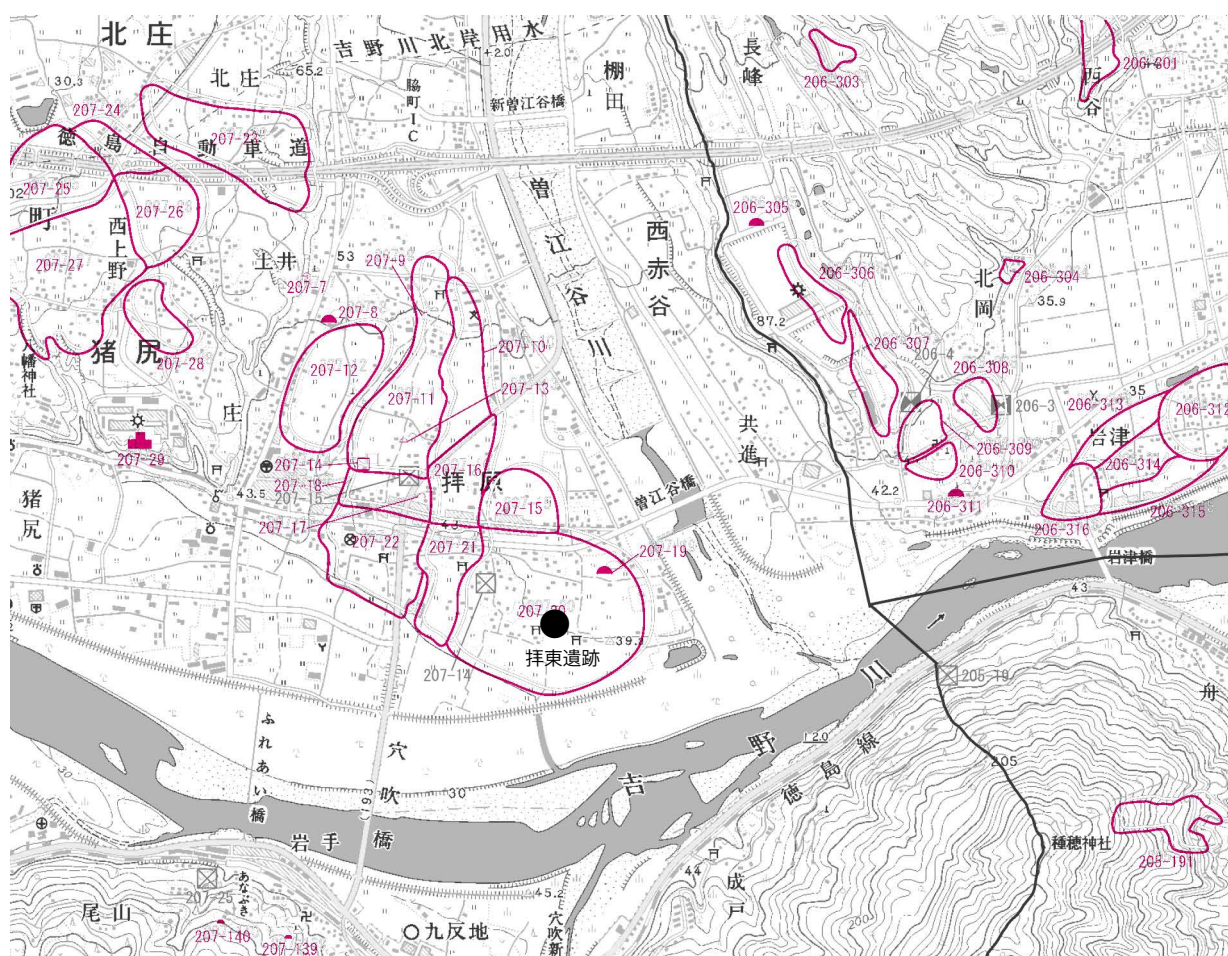
地はより急勾配に形成され、多くの土砂を押し流していることにより、吉野川の流れも、構造谷のより南を通っている。

拝東遺跡は吉野川中流に位置しており、和泉帯（内帯）側から吉野川に流れ込む曾江谷川の堆積作用によって形成された扇状地の右側扇端部に位置しており、標高は 40m 前後を測る。

## 2 歴史的環境

周辺の遺跡としては、旧石器時代では阿波市阿波町の日吉谷遺跡（206-301）、美馬市脇町の鶴射遺跡（207-25）など国府型ナイフ形石器を出土する遺跡が曾江谷川を挟んだ吉野川北岸の段丘上に存在している。以後の弥生時代中期の集落としては井口東遺跡、西長峰遺跡、桜ノ岡遺跡などが段丘上に形成されている。また拝原地区から出土したと言われる「伝・江原小銅鐸」は拝東遺跡およびその周辺の集団が保有していた可能性が考えられる。

古墳時代になると北原古墳（207-8）、拝原南古墳（207-19）などをはじめとして後期の円墳が拝東遺跡の周辺に築かれており、拝東遺跡周辺において集落が形成されたと考えられる。旧美馬郡域には美馬町郡里地域の段ノ塚穴古墳群を中核として大型の横穴式石室を持つ古墳が築造されており、県西部



206-301 日吉谷遺跡 207-08 北原古墳 207-19 拝原東古墳 207-24 原遺跡（II） 207-25 鶴射遺跡 207-29 上野城跡

第7図 拝東遺跡とその周辺の遺跡

に勢力を持つ有力な首長の存在が考えられる。

美馬町郡里地域は古代以降も官衙や寺院が置かれて政治の中心を担っていたとみられるが、平安時代になると『和名類聚抄』によれば美馬郡を構成していた七郷の内、上流部の三縄、三津、三野の三郷を「三好郡」として分離し、残る下流域の藪原、三次、大島、大村の四郷を「美馬郡」として改編している。ここに記されている「藪原郷」は現在の拝原周辺に比定されるとみられ、拝東遺跡もその中に含まれる可能性が高い。

中世の集落としては鎌倉時代のものとして原遺跡（Ⅱ）（207-24）の調査が行われている。また近隣の城館としては上野城跡（207-29）が存在しており、土塁状の高まりや凝灰岩製の五輪塔などが残されている。

## 参考文献

須槍和巳・岩崎正夫・鈴木堯士 1991 『日本の地質 8 四国地方』 共立出版株式会社

(財) 徳島県埋蔵文化財センター 1993 『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告 3』

(財) 徳島県埋蔵文化財センター 1994 『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告 5』

平凡社 2000 『徳島県の地名』 日本歴史地名体系 37

(財) 徳島県埋蔵文化財センター 2001 『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告 21』

徳島県教育委員会 2011 『徳島県の中世城館』



### III 調査成果



## 1 基本層序 (第8図～第11図)

### ①調査区の微地形

拝東遺跡は吉野川の北岸に位置しており、和泉帯側から流れ込む支流の曾江谷川の堆積作用によって形成された扇状地上に立地している。調査において設定された調査区は東西約400mに及び、扇状地地形の南端部分を横断している。そのため調査区内では現地表面上においても、南北方向に延びる尾根上の起伏の存在が何方所か確認することができた。標高が最も高い地点は西端の0-1区付近で約40.5m前後を測る。地形は東へ向かって緩やかに傾斜しており、1-1区東～1-2区の西側の地点で約40m程度の平坦面を形成している。1-2区東側でわずかな高まりが生じて二つ目のピークを形成している。それより東の2区ではやや平坦な地形が続くが3-1区は40mを下回って、3-2区において3か所目の高まりが形成されている。3-2区東端は曾江谷川に向かって徐々に傾斜しており、調査区全体では西端に比べると約1mほど低い39.5mを測る。

### ②遺構面

遺構面は各調査区によって1枚が確認された調査区(0-1区、1-1区西、1-1区東、1-2区、3-1区、3-2区)と2枚が確認された調査区(0-2区、1-0区、2区)が存在している。1枚のみの遺構面が確認された調査区は比較的標高が高所の地点に拡がっており、同一の面から弥生時代～中世(鎌倉・室町時代)までの遺構面が検出されている。2枚の遺構面が確認された調査区では下層の遺構面が弥生時代、上層の遺構面が主に平安時代から鎌倉・室町時代に分離される。ただし第2包含層の堆積が比較的厚い0-2区においては、弥生時代終末期の検出面が上下の遺構面の中間に存在しているのと、3-1区において遺構面の直下より古代～中世の間に形成されたとみられる水田面が一部に存在している。

### ③基本層序

調査前の現況は主に耕作地であったため、表土下には旧水田土壌のシルト層が拡がる地点が多い。その下に灰黄色またはオリーブ褐色系の砂質土が10～30cm前後堆積しており、その下から遺構面が検出されている。第2遺構面が存在する地点では、黄色あるいは黄褐色系の砂質土が包含層として存在しており、第2遺構面下には砂質土が1m前後堆積の後、下部には扇状地由来の礫層がみられる。

## 2 遺構と遺物

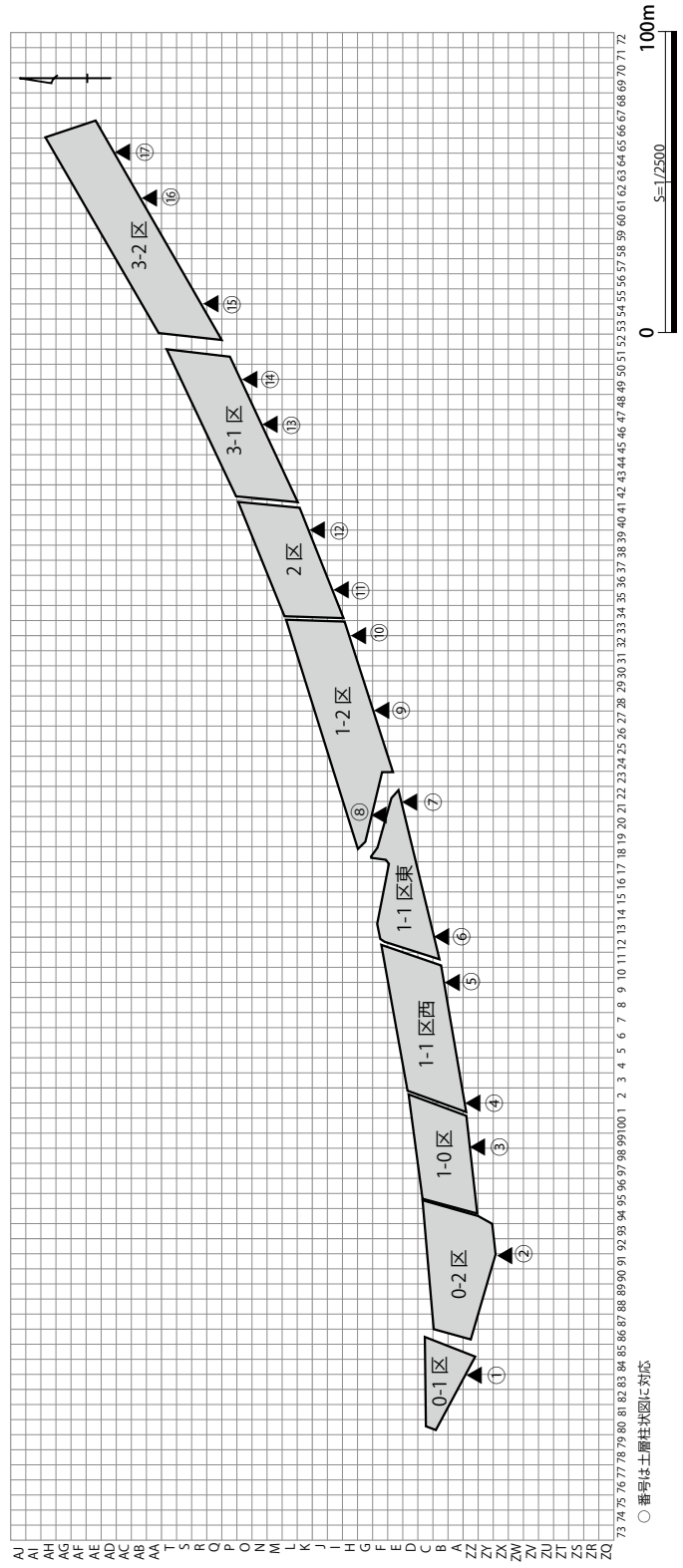
### (1) 0-1区 (第12図)

0-1区において確認された遺構面は1面で、遺構は土坑(SK)が1基、小穴(SP)が3基、それと水田(SI)がそれぞれ検出されている。

#### 1号土坑 (SK1001) (第13図)

**検出地点** C83グリッド

**形態・規模** 隅丸長方形を呈するとみられるが、北側は調査区外に延びている。残存値で長軸0.88m、

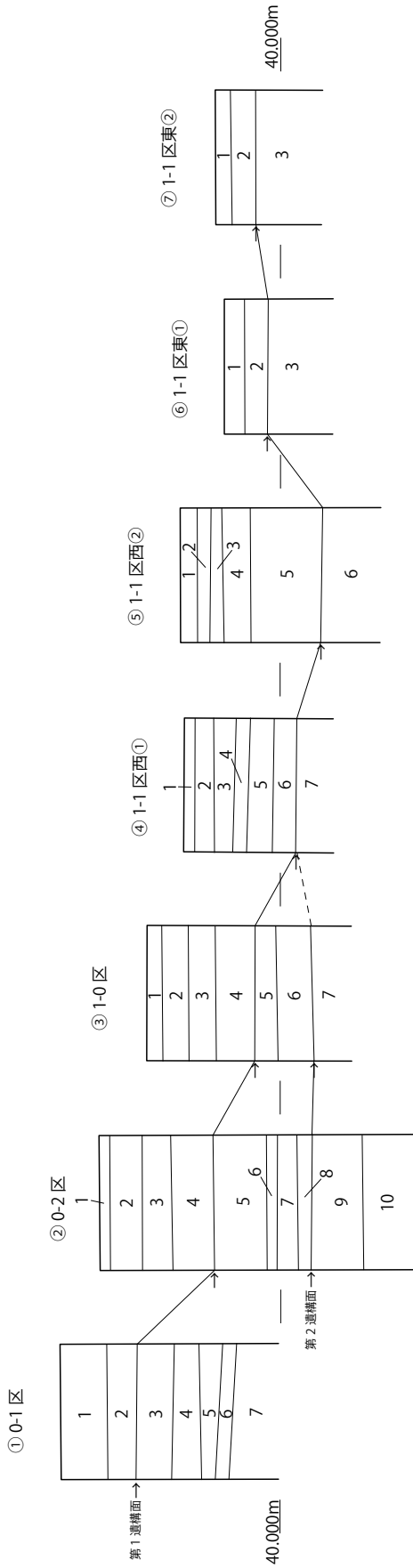


第 8 図 調査区の配置と土層観察地点



41.000m

41.000m



0-1区①

- 1 黄灰色 2.5Y 6/1 シルト
- 2 黄灰色 2.5Y 6/1 シルト
- 3 浅黄褐色 2.5Y 7/4 シルト
- 4 浅黄褐色 2.5Y 7/4 シルト
- 5 明黄褐色 2.5Y 7/6 シルト
- 6 に近い黄色 2.5Y 6/4 シルト
- 7 黄褐色 2.5Y 5/3 シルト

1-0区①

- 1 耕作土
- 2 に近い黄色 2.5Y 6/4 シルト
- 3 に近い黄色 2.5Y 6/3 シルト
- 4 黄褐色 2.5Y 5/3 シルト
- 5 黄褐色 2.5Y 5/3 シルト
- 6 暗灰黄色 2.5Y 5/2 シルト
- 7 褐色 10YR 4/4 シルト

1-1区西②

- 1 耕作土
- 2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土
- 3 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土
- 4 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土
- 5 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土
- 6 に近い黄色 2.5Y 6/3 砂質土

1-1区東②

- 1 耕作土
- 2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 シルト
- 3 黄褐色 2.5Y 5/3 砂質土

0-2区①

- 1 耕作土
- 2 黄灰色 2.5Y 6/1 シルト
- 3 に近い黄色 2.5Y 6/4 シルト
- 4 に近い黄色 2.5Y 6/3 シルト
- 5 浅黄褐色 2.5Y 7/4 シルト
- 6 明黄褐色 2.5Y 7/6 シルト
- 7 黄色 2.5Y 7/8 シルト
- 8 に近い黄色 2.5Y 6/3 シルト
- 9 に近い黄色 2.5Y 6/4 シルト
- 10 黄色 2.5Y 7/8 シルト

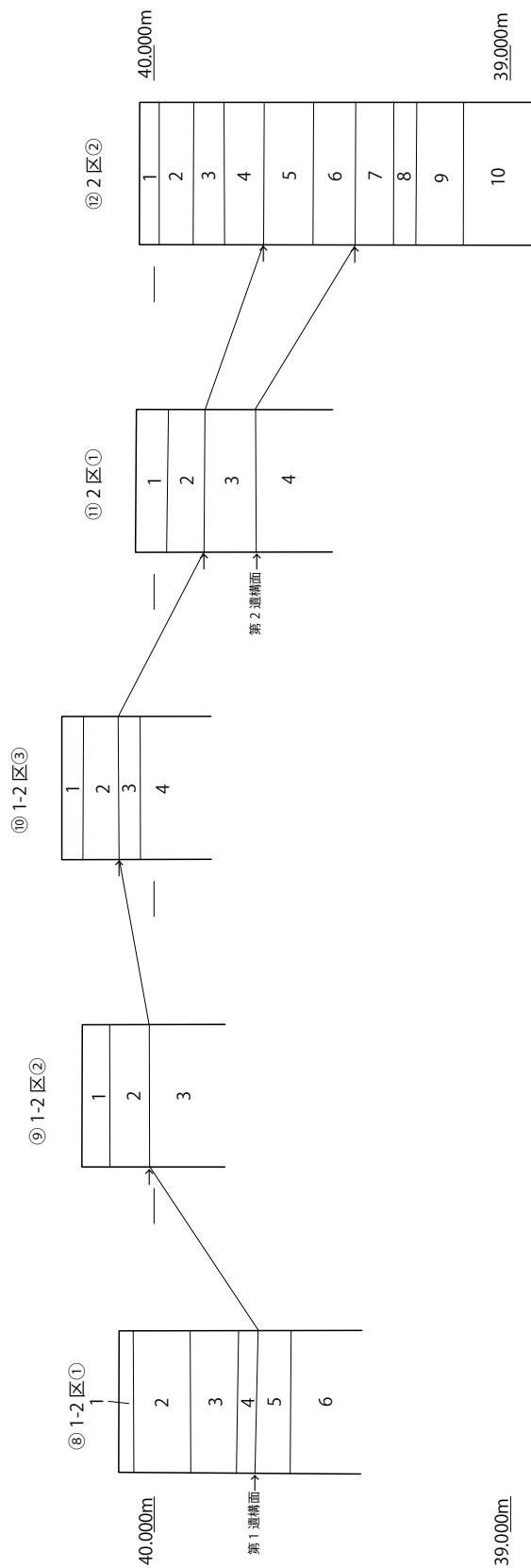
1-1区西①

- 1 耕作土
- 2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土
- 3 灰黄色 2.5Y 6/3 砂質土
- 4 灰黄色 2.5Y 6/3 砂質土
- 5 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土
- 6 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土
- 7 灰黄色 2.5Y 6/2 砂質土

1-1区東①

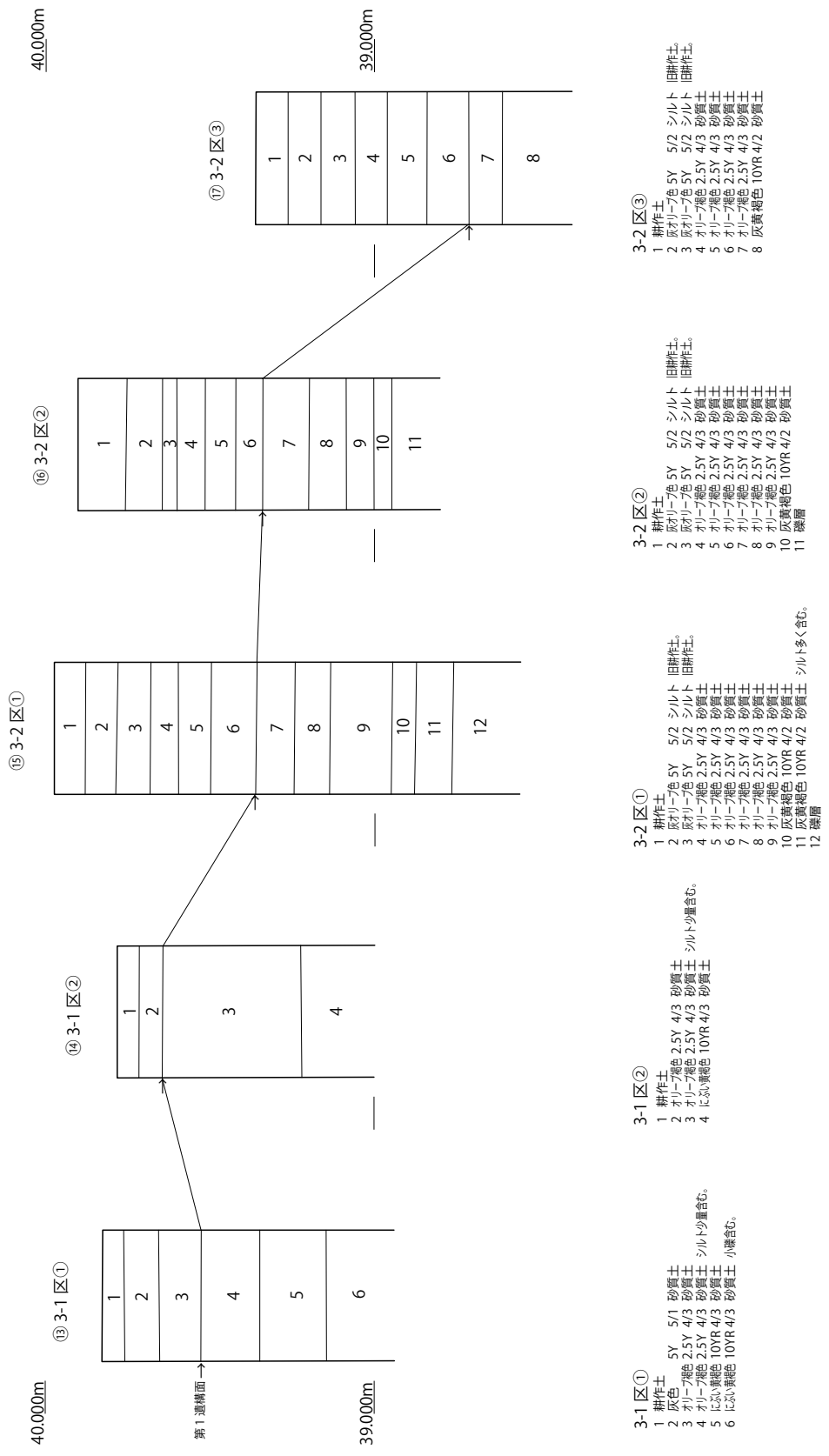
- 1 耕作土
- 2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 シルト
- 3 黄褐色 2.5Y 5/3 砂質土

第9図 土層柱状図①

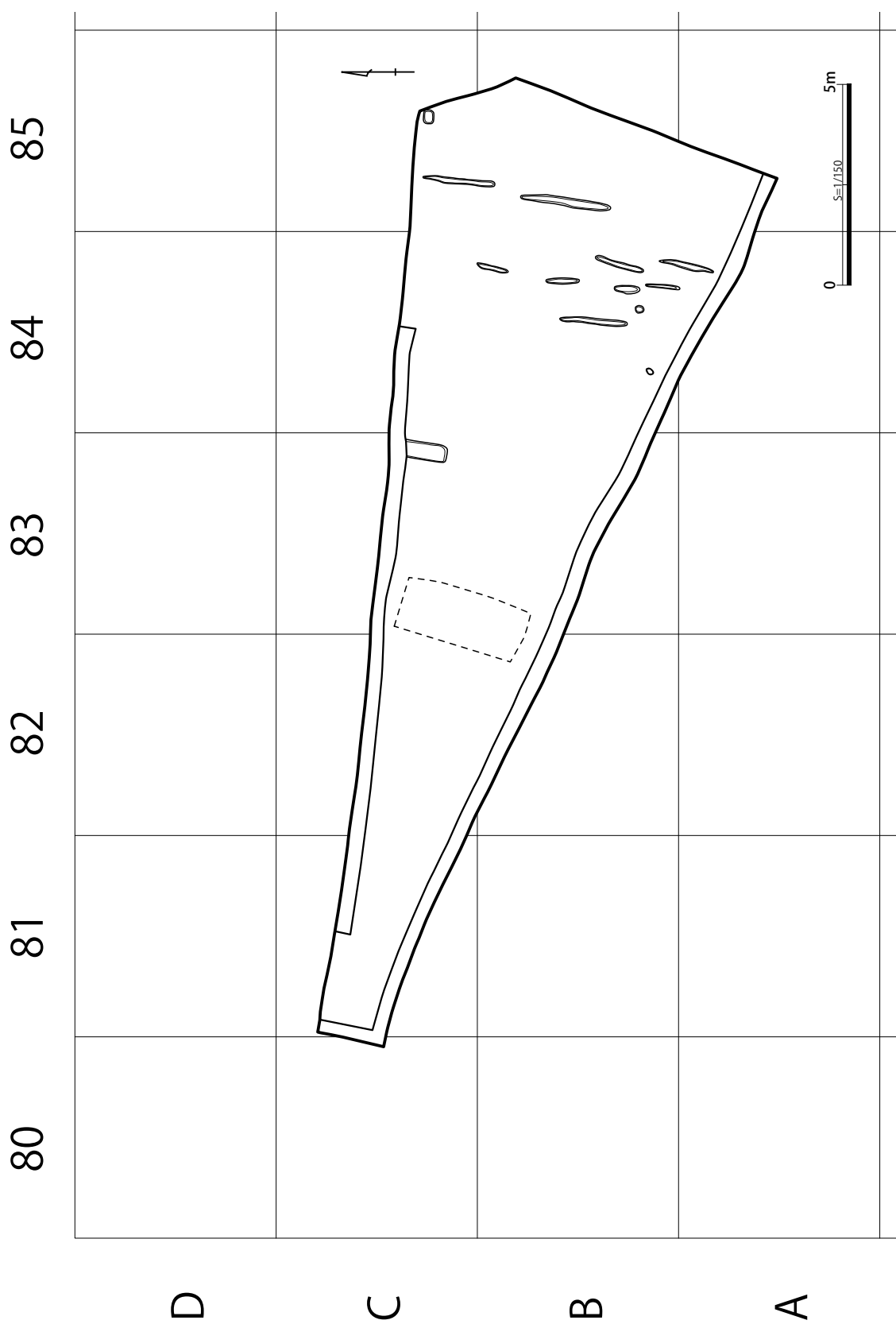


- 1-2区①
- 1 灰オリーブ色 5Y 5/2 砂質土
  - 2 灰オリーブ色 5Y 5/2 砂質土
  - 3 灰色 2.5Y 5/3 砂質土
  - 4 黄褐色 10YR 4/3 砂質土
  - 5 赤褐色 10YR 4/3 砂質土
  - 6 赤褐色 10YR 4/3 砂質土
- しまりやや強  
しまり強  
しまり強
- 1-2区②
- 1 灰オリーブ色 5Y 5/2 砂質土
  - 2 灰オリーブ色 5Y 4/2 砂質土
  - 3 赤褐色 10YR 4/3 砂質土
  - 4 黄灰色 2.5Y 5/1 砂質土
- しまりやや強  
しまりやや強  
しまりやや強  
小澱含む
- 1-2区③
- 1 耕作土
  - 2 灰オリーブ色 5Y 5/2 砂質土
  - 3 灰オリーブ色 5Y 4/2 砂質土
  - 4 黄灰色 2.5Y 5/1 砂質土
- しまりやや強  
しまりやや強  
小澱含む
- 2区①
- 1 耕作土
  - 2 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土
  - 3 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土
  - 4 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土
- しまりやや強  
しまりやや強  
小澱含む
- 2区②
- 1 耕作土
  - 2 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土
  - 3 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土
  - 4 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土
  - 5 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土
  - 6 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土
  - 7 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土
  - 8 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土
  - 9 赤褐色 10YR 5/4 砂質土
  - 10 赤褐色 10YR 5/4 砂質土
- しまりやや弱  
しまりやや弱  
小澱含む  
小澱含む  
しまりやや弱  
しまりやや弱  
小澱含む  
シルト少量含む

第 10 図 土層柱状図②



第 11 図 土層柱状図③



第 12 图 0-1 区平面图 (1/150)

短軸が 0.45m、深さが 0.10m を測る。断面の形状は皿形である。

**土層** シルト層 1 層の堆積である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 図化可能なものは出土していない。

**時期** 年代は特定できない。

### 1 号水田 (SI1001) (第 12・14 図)

**検出地点** —

**形態・規模** 調査区全面に広がっているものと考えられる。鋤跡が調査区東側を中心として南北方向に確認されている。

**土層** —

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 1 は管状の土錘である。包含層中から出土している。

**時期** 他の調査区の水田との関連から中世以降の可能性が考えられる。

### (2) 0-2 区 (第 15・33 図)

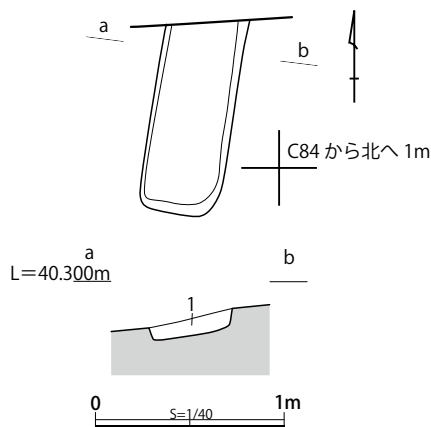
0-2 区からは 2 枚の遺構面が確認されている。検出された遺構数は第 1 遺構面においては溝 (SD) が 3 条、水田 (SI) が 2 枚、土坑 (SK) が 15 基、小穴 (SP) が 26 基、性格不明遺構 (SX) が 1 基であり、第 2 遺構面においては竪穴住居 (SB) が 1 軒、土坑 (SK) が 55 基、小穴 (SP) が 94 基、集石遺構 (SU) が 3 基、性格不明遺構 (SX) が 2 基となっている。

#### ① 第 1 遺構面

##### 1 号溝 (SD1001) (第 16・17 図)

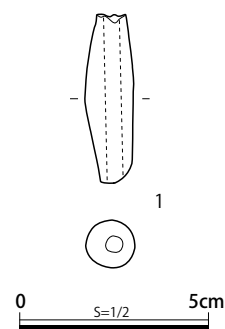
**検出地点** ZY89・ZY～C90 グリッド

**形態・規模** 南北方向に延びる溝で、残存値で延長距離が 19.00m、幅が 0.4m、深さが 0.11m を測る。方位は N-15°-E である。断面の形状は浅い丸底形である。水田 (SI) として利用時の区画や排水を目

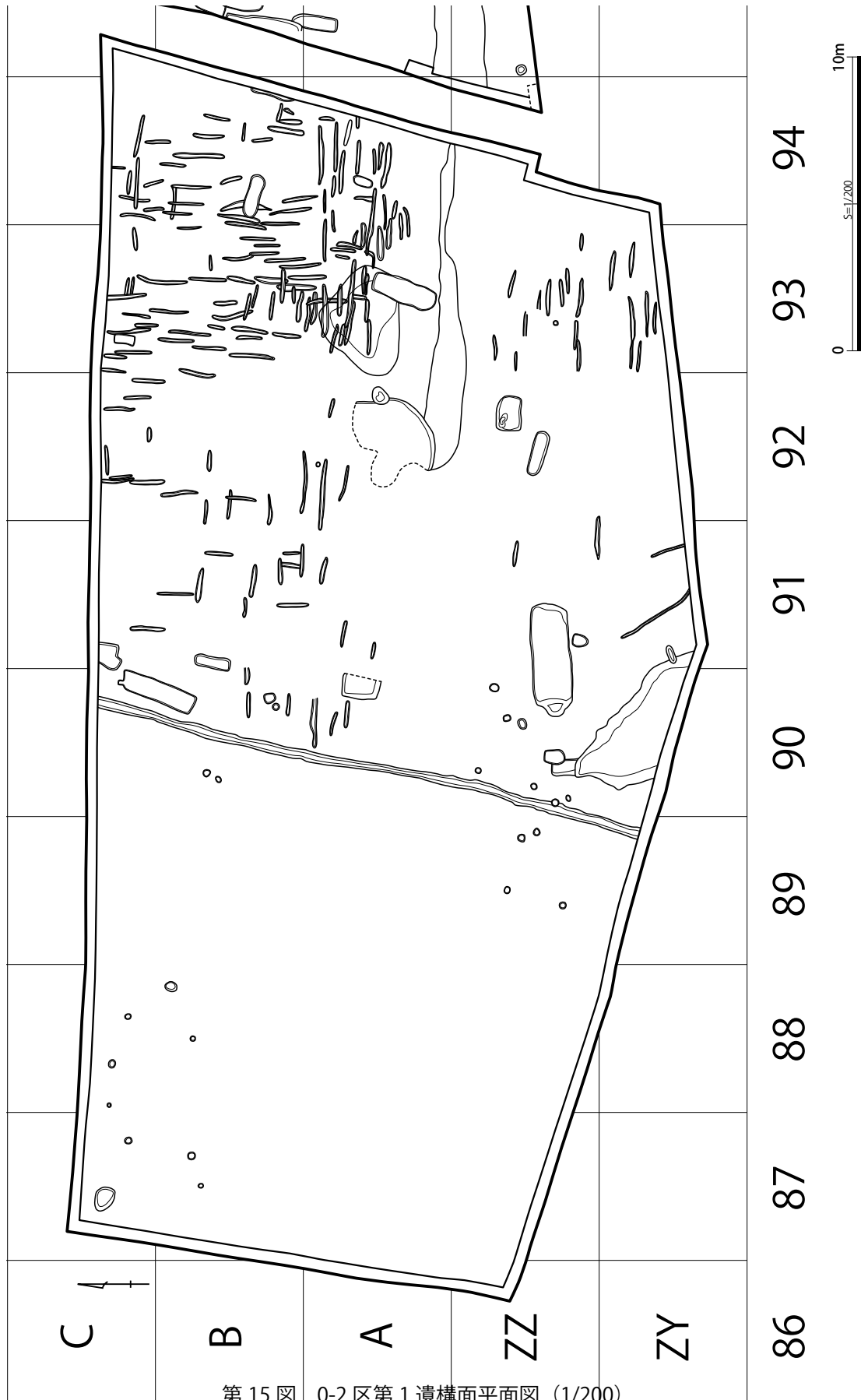


1 浅黄色 2.5Y 7/4 シルト しまり強、マンガング粒極小、鉄粒極小を若干含む、炭化物を微量含む、ブロック灰白混入。

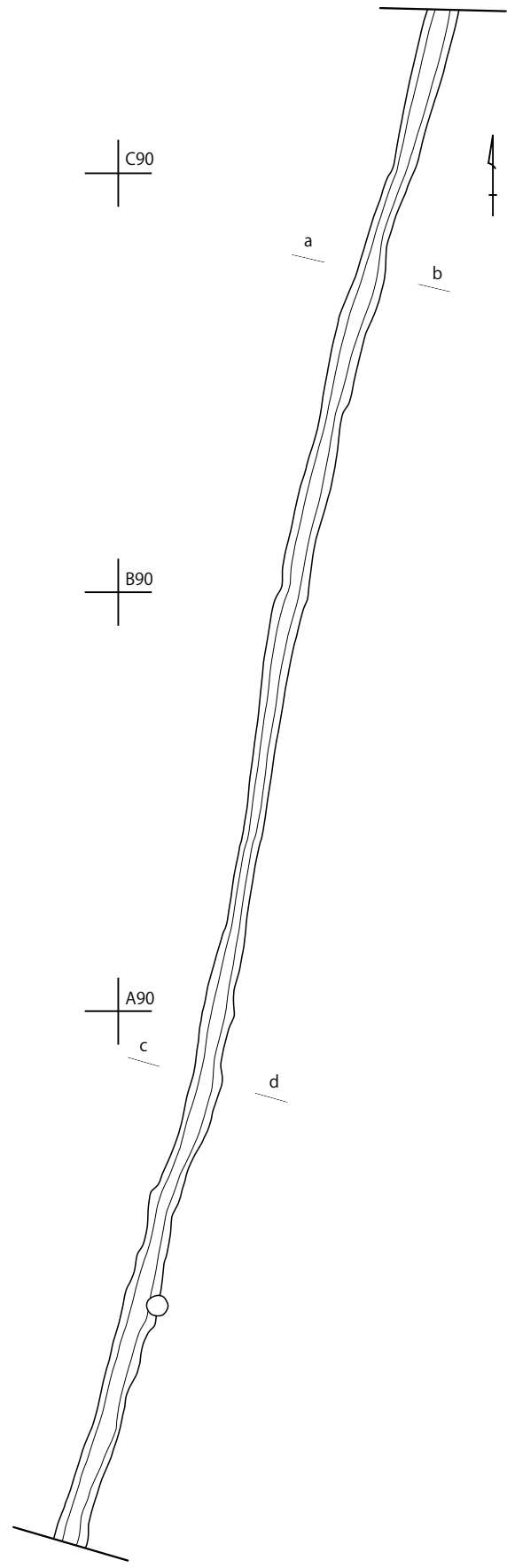
第 13 図 0-1 区 SK1001 平断面図 (1/40)



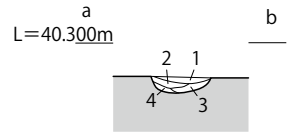
第 14 図 0-1 区包含層出土遺物



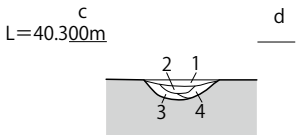
第 15 图 0-2 区第 1 遺構面平面図 (1/200)



第16図 0-2区SD1001平面図 (1/80)



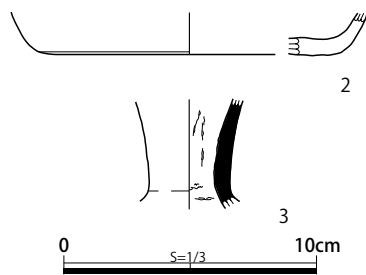
- |   |       |      |     |     |                                       |
|---|-------|------|-----|-----|---------------------------------------|
| 1 | 浅黄色   | 2.5Y | 7/3 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒小を若干含む。炭化物を若干含む。          |
| 2 | 浅黄色   | 2.5Y | 7/4 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒小を若干含む。炭化物を若干含む。          |
| 3 | にぶい黄色 | 2.5Y | 6/3 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒小を若干含む。炭化物を若干含む。ブロック灰白混入。 |
| 4 | にぶい黄色 | 2.5Y | 6/4 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒小を若干含む。炭化物を若干含む。          |



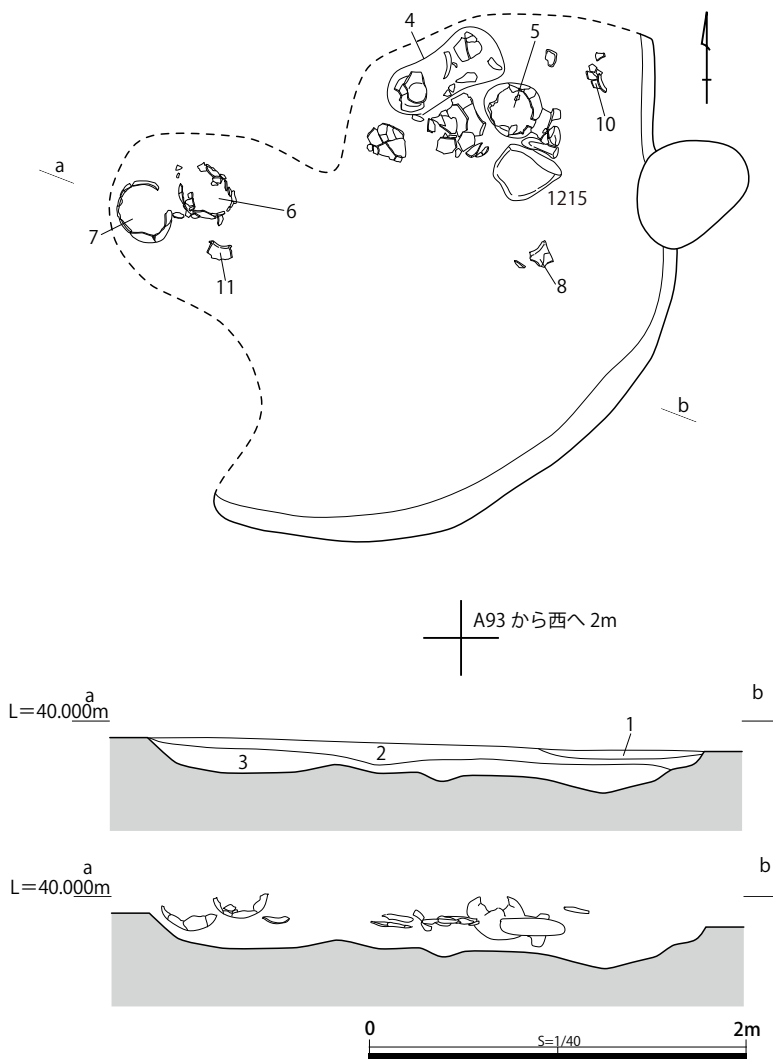
0 1m  
S=1/40

- |   |       |      |     |     |                               |
|---|-------|------|-----|-----|-------------------------------|
| 1 | 浅黄色   | 2.5Y | 7/3 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒極小を微量含む。ブロック灰白混入。 |
| 2 | 浅黄色   | 2.5Y | 7/4 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒極小を微量含む。ブロック灰白混入。 |
| 3 | にぶい黄色 | 2.5Y | 6/4 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒小を多く含む。           |
| 4 | にぶい黄色 | 2.5Y | 6/3 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒小を多く含む。           |

第17図 0-2区SD1001断面図 (1/40)



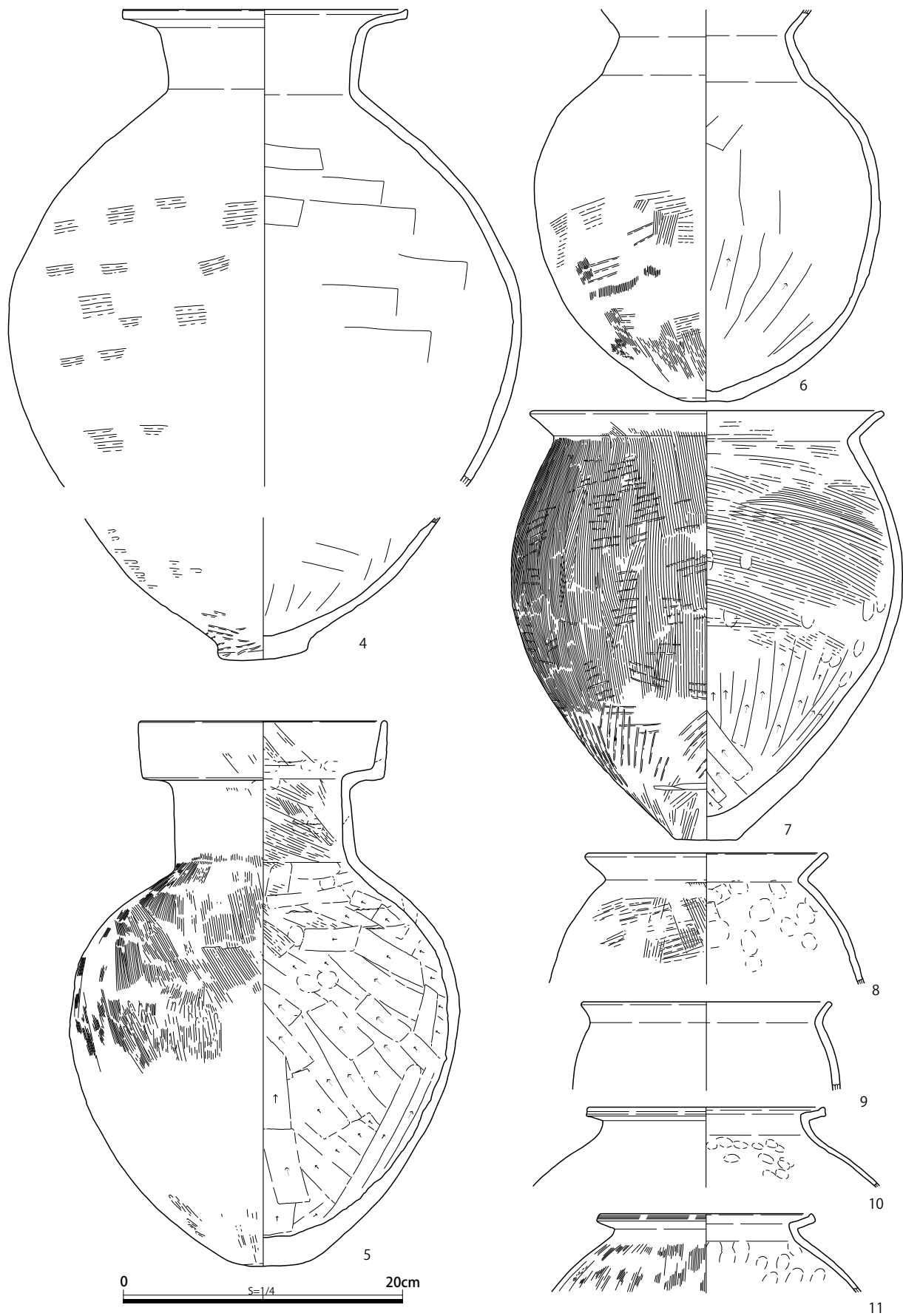
第18図 0-2区SI出土遺物



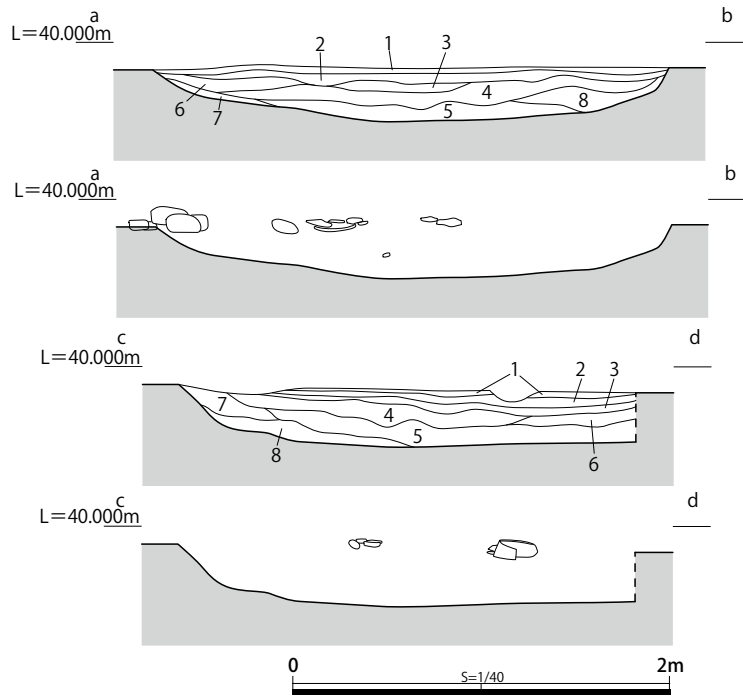
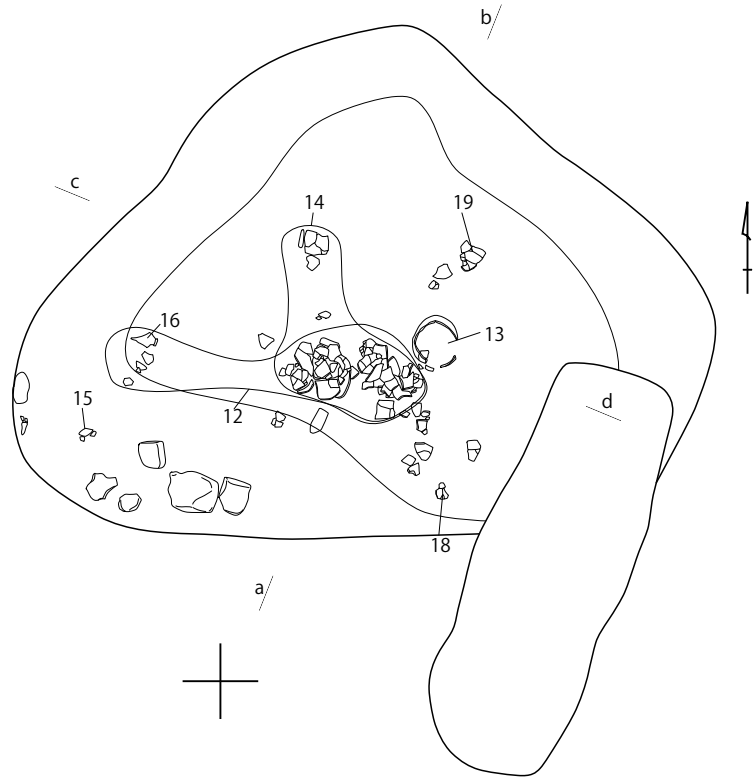
- |       |              |  |
|-------|--------------|--|
| 1 黄色  | 2.5Y 8/6 シルト | しまり強。鉄斑、マンガン粒小を含む。                     |
| 2 灰黄色 | 2.5Y 7/2 シルト | しまり強。鉄斑を多く、マンガン粒小を含む。土器片、礫φ1cm程度を若干含む。 |
| 3 浅黄色 | 2.5Y 7/3 シルト | しまり強。鉄斑を多く、マンガン粒小を含む。ブロック(灰白)混入。       |

第19図 0-2区SK1001平断面図 (1/40)



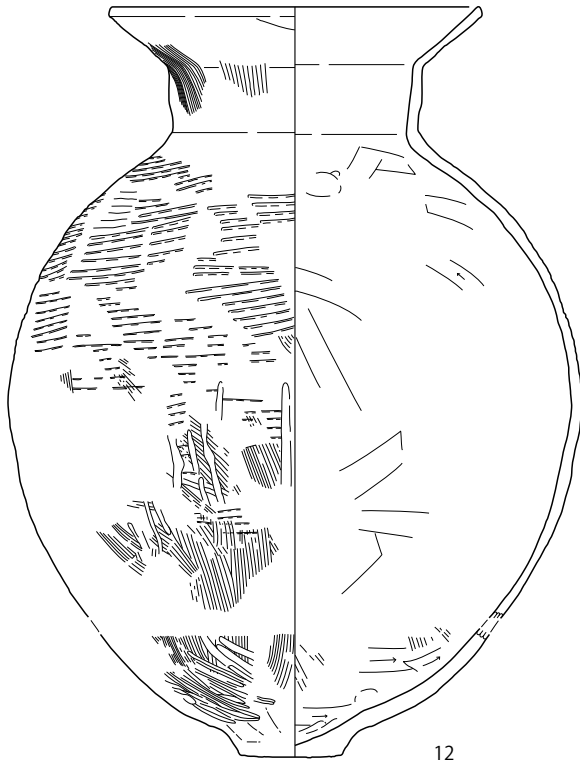


第 20 图 0-2 区 SK1001 出土遺物

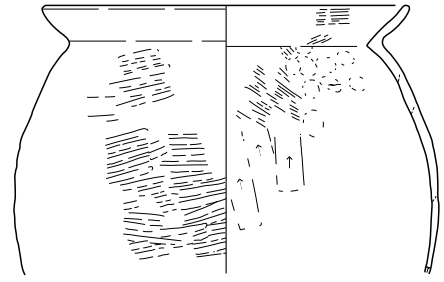


- |         |          |     |   |
|---------|----------|-----|---|
| 1 灰黄色   | 2.5Y 7/2 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒極小を多く含む。土器片を含む。ブロック(灰白)混入。  |
| 2 浅黄色   | 2.5Y 7/3 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒極小を多く含む。ブロック(灰白)混入。         |
| 3 浅黄色   | 2.5Y 7/4 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒極小を多く含む。礫φ3cm程度を含む。         |
| 4 にぶい黄色 | 2.5Y 6/4 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒極小を多く含む。                    |
| 5 明黄褐色  | 2.5Y 7/6 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒極小を多く含む。                    |
| 6 淡黄色   | 2.5Y 8/4 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒小を含む。礫φ20cmを含む。             |
| 7 浅黄色   | 2.5Y 7/4 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒小を含む。礫φ1~2cmを含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 8 明黄褐色  | 2.5Y 7/6 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒小を含む。鉄斑を多く含む。ブロック(灰白)混入。    |

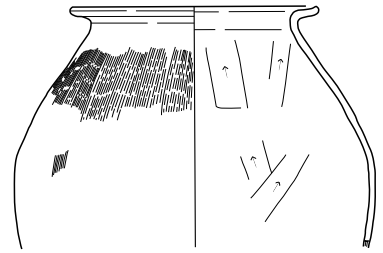
第 21 図 0-2 区 SK1003 平断面図 (1/40)



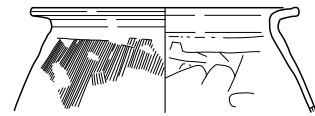
12



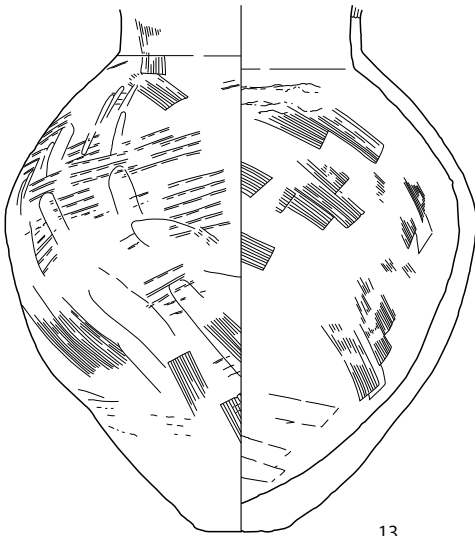
15



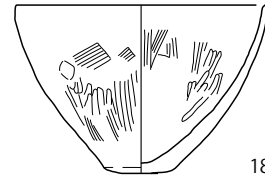
16



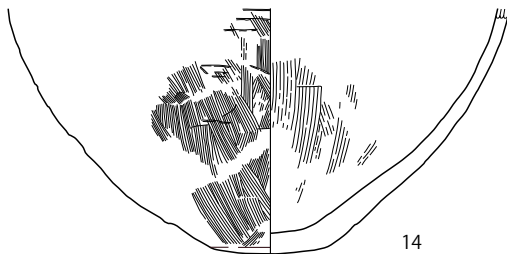
17



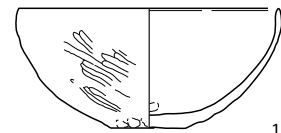
13



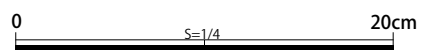
18



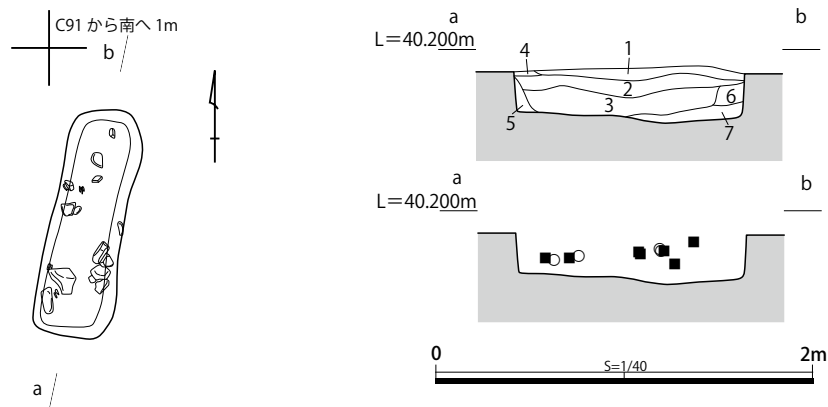
14



19



第 22 图 0-2 区 SK1003 出土遺物



1	明黄褐色	2.5Y	7/6	シルト	しまり有。鉄・マンガン粒小を含む。ブロック(灰白)混入。
2	明黄褐色	2.5Y	6/6	シルト	しまり有。鉄・マンガン粒小を含む。ブロック(灰白)混入。
3	にぶい黄色	2.5Y	6/3	シルト	しまり有。鉄・マンガン粒小を含む。ブロック(灰白)混入。
4	にぶい黄色	2.5Y	6/4	シルト	しまり有。鉄・マンガン粒小を含む。ブロック(灰白)混入。
5	にぶい黄色	2.5Y	6/3	シルト	しまり有。鉄粒小を微量含む。マンガン粒小を多く含む。炭化物を若干含む。
6	にぶい黄色	2.5Y	6/4	シルト	しまり有。鉄・マンガン粒小を多く含む。ブロック(灰白)混入。
7	黄褐色	2.5Y	5/4	シルト	しまり有。鉄・マンガン粒小を多く含む。

第23図 0-2区SK1004平断面図(1/40)

的として掘削された可能性が考えられる。

**土層** シルト層が4層に分層されており、レンズ状の堆積をみせる。上部は浅黄色、下部は主ににぶい黄色のシルトが堆積している。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 図化可能なものは出土していない。

**時期** 後述する水田(SI)の区画として利用されたと考えられるため同様の時期が考えられる。

#### 水田(SI)(第15・18図)

**検出地点** —

**規模・形態** SD1001から東側に広がっており、中央部分からは東西方向の畦が検出されており、南北2枚に分割されている。南側では主に東西方向の鋤跡、北側では東西、南北両方向の鋤跡がそれぞれ検出されている。

**土層** —

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

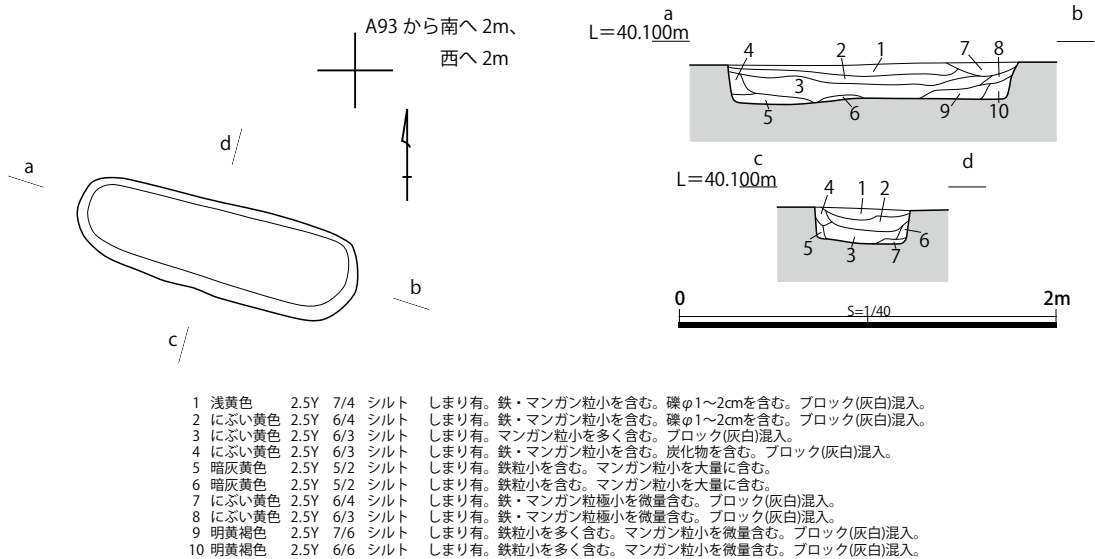
**出土遺物** 2は土師質土器の杯である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。3は須恵器の壺の頸部である。

**時期** 出土遺物から同時期に機能していたとみられるSD1001とともに平安時代以降の年代が考えられる。

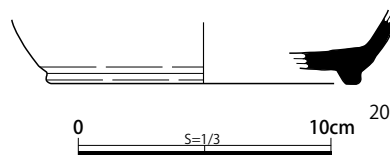
#### 1号土坑(SK1001)(第19・20・606図)

**検出地点** A92グリッド

**規模・形態** 第1遺構面と第2遺構面の中間の層位で検出されており、平面形状は本来、円形を呈していたと考えられる。残存値で長軸3.40m、短軸2.70m、深さ0.34mを測る。断面の形状は皿形である。



第 24 図 0-2 区 SK1006 平断面図 (1/40)



第 25 図 0-2 区 SK1006 出土遺物

**土層** 何れもシルト層で3層に分層され、レンズ状の堆積をみせる。上部は灰黄色、下部には浅黄色のシルト層がそれぞれ堆積している。

**遺物出土状況** 1・2層を中心として北寄りに遺物が集中して出土している。

**出土遺物** 4～11は弥生土器。4～6は壺。4は広口壺、5は二重口縁壺である。7～11は甕である。10、11は下川津B類に形状が類似するが胎土から見て模倣品であると考えられる。1215は赤色顔料が付着した砂岩の砥石あるいは石臼である。

**時期** 出土した遺物から弥生時代終末期～古墳時代初頭の年代が想定される。

### 3号土坑 (SK1003) (第21・22図)

**検出地点** A93 グリッド

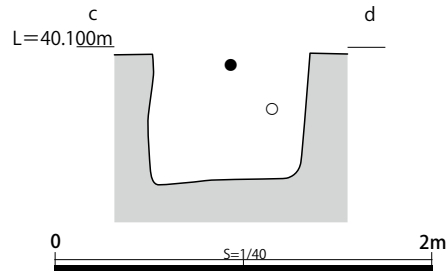
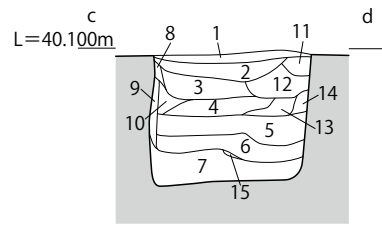
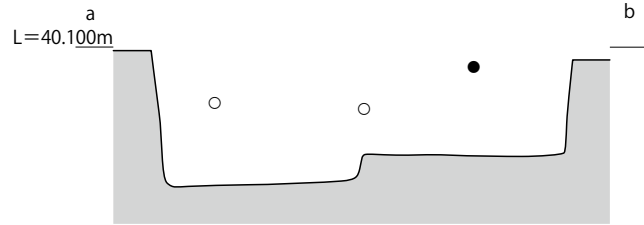
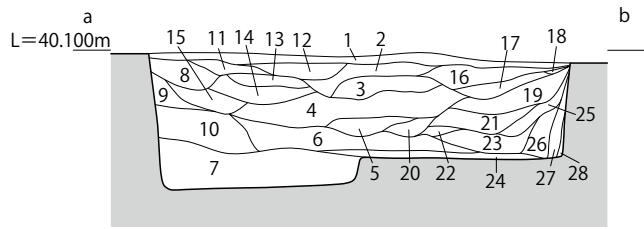
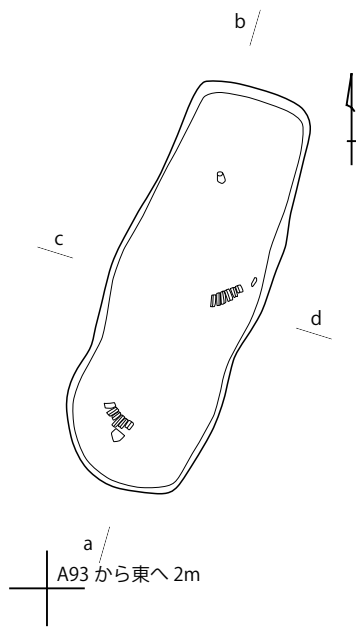
**規模・形態** 第1遺構面と第2遺構面の中間の層位で検出されており、平面形状はやや不整な円形を呈する。長軸が3.74m、短軸が2.68m、深さが0.30mを測る。断面の形状は皿形である。

**土層** 何れもシルト層で8層に分層され、レンズ状の堆積をみせる。上部には主に浅黄色(2・3層)、下部には主に明黄褐色(5層)のシルト層が堆積している。

**遺物出土状況** 中央部分の1～3層付近を中心として遺物が出土している。

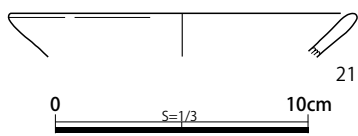
**出土遺物** 12～19は弥生土器。12～14は壺である。15～17は甕である。18・19は鉢である。

**時期** 出土した遺物から弥生時代終末期～古墳時代初頭の年代が想定される。

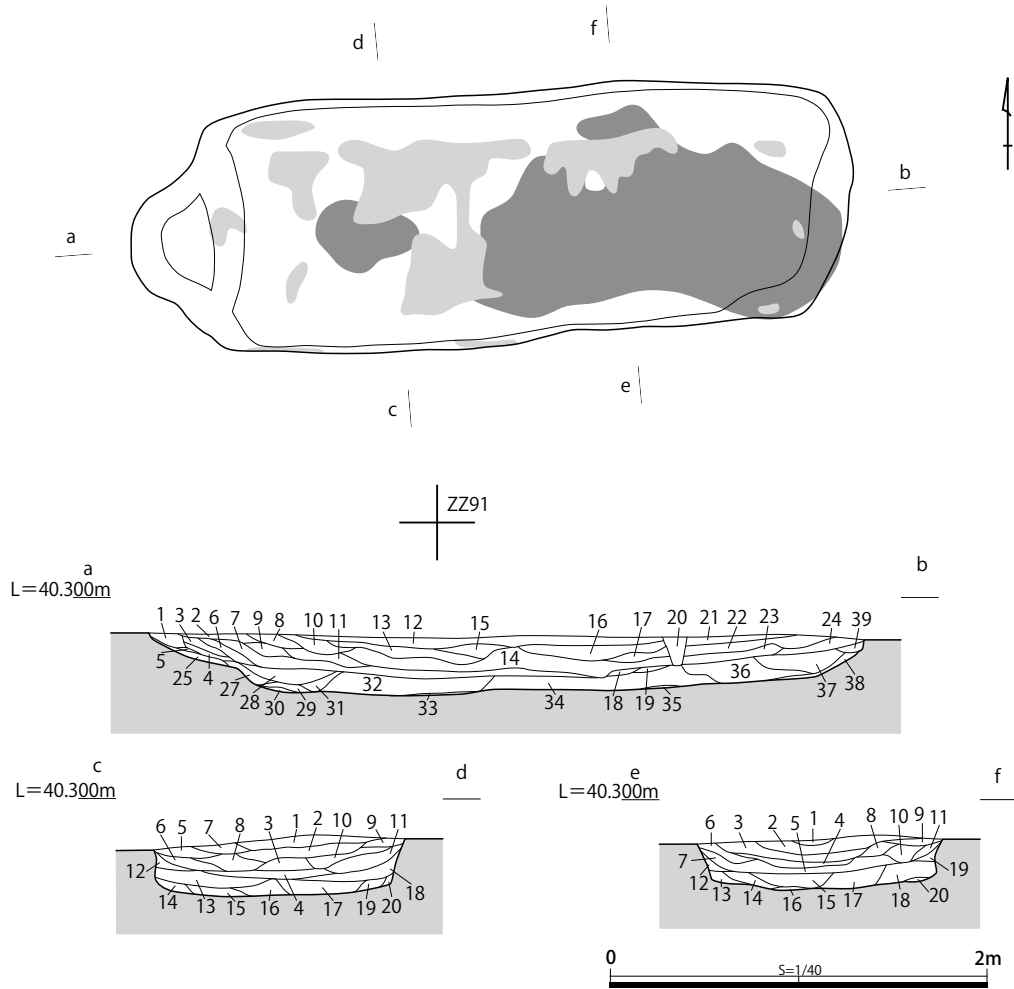


- |    |       |      |     |     |   |
|----|-------|------|-----|-----|---|
| 1  | にぶい黄色 | 2.5Y | 6/3 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒極小を含む。ブロック(灰白)混入。           |
| 2  | にぶい黄色 | 2.5Y | 6/4 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒極小を含む。ブロック(淡黄)混入。           |
| 3  | にぶい黄色 | 2.5Y | 6/4 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒極小を微量含む。                    |
| 4  | 黄褐色   | 2.5Y | 5/4 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒極小を微量含む。ブロック(灰白)混入。         |
| 5  | 黄褐色   | 2.5Y | 5/3 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒極小を微量含む。ブロック(淡黄)混入。         |
| 6  | にぶい黄色 | 2.5Y | 6/4 | シルト | しまり有。鉄・マンガン極小を含む。ブロック(灰白・淡黄・黄褐)混入。      |
| 7  | にぶい黄色 | 2.5Y | 6/3 | シルト | しまり有。マンガン粒小を微量含む。鉄斑を多く含む。ブロック(灰白)混入。    |
| 8  | にぶい黄色 | 2.5Y | 6/4 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒小を微量含む。ブロック(灰)混入。礫φ5cm含む。   |
| 9  | 黄褐色   | 2.5Y | 5/4 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒極小を微量含む。ブロック(灰白)混入。         |
| 10 | 黄褐色   | 2.5Y | 5/4 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒小を含む。炭化物を若干含む。ブロック(淡黄)混入。   |
| 11 | にぶい黄色 | 2.5Y | 6/4 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒極小を含む。礫φ5cm含む。              |
| 12 | にぶい黄色 | 2.5Y | 6/3 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒小を微量含む。土器片を少し含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 13 | 黄褐色   | 2.5Y | 5/4 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒小を微量含む。土器片を少し含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 14 | 黄褐色   | 2.5Y | 5/4 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒小を多く含む。ブロック(灰白)混入。          |
| 15 | 黄褐色   | 2.5Y | 5/3 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒極小を微量含む。                    |
| 16 | にぶい黄色 | 2.5Y | 6/3 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒小を微量含む。土器片を少し含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 17 | にぶい黄色 | 2.5Y | 6/4 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒極小を多く含む。ブロック(灰白)混入。         |
| 18 | 浅黄色   | 2.5Y | 7/4 | シルト | しまり有。鉄粒小を多く含む。マンガン粒小を微量含む。              |
| 19 | にぶい黄色 | 2.5Y | 6/3 | シルト | しまり有。鉄粒小を微量含む。マンガン粒小を大量に含む。ブロック(灰白)混入。  |
| 20 | 明黄褐色  | 2.5Y | 7/6 | シルト | しまり有。鉄粒小を微量含む。マンガン粒小を大量に含む。ブロック(灰白)混入。  |
| 21 | にぶい黄色 | 2.5Y | 6/4 | シルト | しまり有。鉄粒小を微量含む。マンガン粒小を大量に含む。ブロック(灰白)混入。  |
| 22 | 浅黄色   | 2.5Y | 7/4 | シルト | しまり有。鉄粒小を微量含む。マンガン粒小を大量に含む。ブロック(浅黄)混入。  |
| 23 | 浅黄色   | 2.5Y | 7/3 | シルト | しまり有。鉄粒小を多く含む。マンガン粒小を微量含む。              |
| 24 | 明黄褐色  | 2.5Y | 7/6 | シルト | しまり有。鉄粒小を多く含む。ブロック(灰白)混入。               |
| 25 | にぶい黄色 | 2.5Y | 5/4 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒小を含む。ブロック(淡黄)混入。            |
| 26 | 明黄褐色  | 2.5Y | 5/3 | シルト | しまり有。鉄粒小を多く含む。マンガン粒小ブロック(灰白)混入。         |
| 27 | 浅黄色   | 2.5Y | 7/3 | シルト | しまり有。鉄粒小を多く含む。ブロック(灰白)混入。               |
| 28 | 浅黄色   | 2.5Y | 7/4 | シルト | しまり有。鉄粒小を多く含む。マンガン粒小を含む。ブロック(灰白)混入。     |

第 26 図 0-2 区 SK1007 平断面図 (1/40)

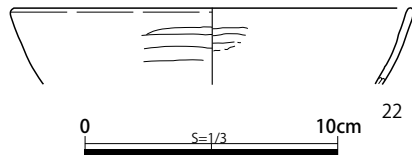


第 27 図 0-2 区 SK1007 出土遺物

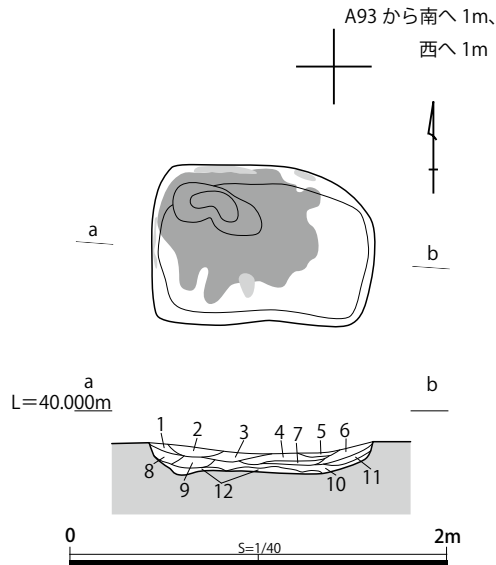


1	浅黄色	2.5Y	7/4	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒極小を微量含む。炭化物を少し含む。
2	浅黄色	2.5Y	7/3	シルト	しまり強。鉄粒極小を微量含む。マンガン粒小を多く含む。炭化物を少し含む。
3	浅黄色	2.5Y	7/4	シルト	しまり強。鉄粒極小を微量含む。マンガン粒小を多く含む。ブロック(灰白)混入。
4	浅黄色	2.5Y	7/4	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒極小を微量含む。炭化物を大量に含む。
5	にぶい黄色	2.5Y	6/4	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒小を微量含む。炭化物を少し含む。
6	明黄褐色	2.5Y	7/6	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒小を微量含む。炭化物を大量に含む。
7	黄色	2.5Y	8/6	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒小を微量含む。炭化物を大量に含む。ブロック(灰白)混入。
8	灰黄色	2.5Y	7/2	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒極小を微量含む。炭化物を少し含む。
9	浅黄色	2.5Y	7/3	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒極小を微量含む。ブロック(灰白)混入。
10	浅黄色	2.5Y	7/3	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒小を微量含む。炭化物塊大を含む。ブロック(灰白)混入。
11	浅黄色	2.5Y	7/4	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒小を微量含む。炭化物を少し含む。
12	浅黄色	2.5Y	7/4	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒小を微量含む。炭化物を含む。ブロック(灰黄)混入。
13	にぶい黄色	2.5Y	6/4	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒小を含む。炭化物を少し含む。ブロック(灰白)混入。
14	にぶい黄色	2.5Y	6/3	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒小を含む。炭化物を少し含む。ブロック(灰白)混入。
15	にぶい黄色	2.5Y	6/3	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒小を含む。炭化物を少し含む。ブロック(灰白)混入。
16	にぶい黄色	2.5Y	6/4	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒小を含む。炭化物を少し含む。ブロック(灰白)混入。
17	にぶい黄色	2.5Y	6/3	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒小を含む。炭化物を少し含む。ブロック(灰白)混入。
18	黄褐色	2.5Y	5/3	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒小を含む。炭化物を大量に含む。ブロック(灰白)混入。
19	暗灰黄色	2.5Y	5/2	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒小を含む。炭化物を大量に含む。ブロック(灰白)混入。
20	浅黄色	2.5Y	7/4	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒小を含む。ブロック(灰白)混入。
21	にぶい黄色	2.5Y	6/4	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒小を含む。炭化物を少し含む。ブロック(灰白)混入。
22	にぶい黄色	2.5Y	6/3	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒小を含む。炭化物を少し含む。ブロック(灰白)混入。
23	にぶい黄色	2.5Y	6/3	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒小を含む。炭化物を少し含む。ブロック(灰白)混入。
24	浅黄色	2.5Y	7/3	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒小を含む。炭化物を大量に含む。
25	浅黄色	2.5Y	7/4	シルト	しまり強。鉄粒極小を微量含む。マンガン粒小を多く含む。
26	土色なし				
27	にぶい黄褐色	10YR	7/4	シルト	しまり強。焼土、炭化物を大量に含む。
28	浅黄褐色	10YR	8/4	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒小を含む。炭化物を多く含む。
29	にぶい黄褐色	10YR	7/3	シルト	しまり強。焼土を少し含む。炭化物を大量に含む。
30	浅黄色	2.5Y	7/4	シルト	しまり強。焼土を少し含む。
31	淡黄色	2.5Y	8/4	シルト	しまり強。炭化物塊を多く含む。ブロック(焼土)混入。
32	淡黄色	2.5Y	8/4	シルト	しまり強。焼土を含む。炭化物塊大を多く含む。ブロック(灰黄)混入。
33	褐色	5YR	7/6	シルト	しまり強。焼土。
34	浅黄色	2.5Y	7/4	シルト	しまり強。マンガン粒極小を微量含む。炭化物塊多い。ブロック(焼土・黄灰)混入。
35	明黄褐色	2.5Y	7/6	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒小を微量含む。炭化物を少し含む。
36	浅黄色	2.5Y	7/4	シルト	しまり強。炭化物塊多く含む。焼土を少し含む。礫φ1cmを含む。ブロック(暗灰黄)混入。
37	淡黄色	2.5Y	8/3	シルト	しまり強。炭化物塊を多く含む。焼土を少し含む。ブロック(暗灰黄)多く混入。
38	浅黄色	2.5Y	7/4	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒極小を微量含む。炭化物を少し含む。
39	浅黄褐色	10YR	8/3	シルト	しまり強。鉄・マンガン粒極小を微量含む。炭化物を多く含む。

第 28 図 0-2 区 SO1001 平断面図 (1/40)



第 29 図 0-2 区 SO1001 出土遺物



1	浅黄色	2.5Y	7/4	シルト	しまり有。鉄・マンガン粒極小を含む。炭化物塊大を多く含む。
2	淡黄色	2.5Y	8/3	シルト	しまり有。鉄・マンガン粒極小を含む。炭化物塊大を若干含む。
3	浅黄色	2.5Y	7/4	シルト	しまり有。鉄・マンガン粒極小を含む。炭化物塊大を多く含む。ブロック(灰白)混入。
4	浅黄色	2.5Y	7/3	シルト	しまり有。鉄・マンガン粒小を多く含む。炭化物塊小を多く含む。焼土を多く含む。
5	淡黄色	2.5Y	8/3	シルト	しまり有。鉄・マンガン粒小を多く含む。炭化物塊小を若干含む。焼土を多く含む。
6	にぶい黄色	2.5Y	6/4	シルト	しまり有。鉄・マンガン粒小を含む。炭化物塊小を多く含む。焼土を多く含む。
7	浅黄色	2.5Y	7/3	シルト	しまり有。鉄・マンガン粒小を含む。炭化物塊小を若干含む。焼土を微量含む。
8	にぶい黄色	2.5Y	6/3	シルト	しまり有。鉄・マンガン粒小を多く含む。炭化物塊を若干含む。
9	にぶい黄色	2.5Y	6/4	シルト	しまり有。鉄・マンガン粒小を多く含む。炭化物塊、焼土を微量含む。
10	淡黄色	2.5Y	8/3	シルト	しまり有。鉄・マンガン粒極小を含む。炭化物塊大を若干含む。
11	浅黄色	2.5Y	7/4	シルト	しまり有。鉄・マンガン粒極小を含む。炭化物塊大を多く含む。ブロック(灰白)混入。
12	浅黄色	2.5Y	7/3	シルト	しまり有。鉄・マンガン粒小を多く含む。炭化物塊小を多く含む。焼土を多く含む。

第 30 図 0-2 区 SO1002 (旧 1-b 面 SO1001) 平断面図 (1/40)

#### 4号土坑 (SK1004) (第 23 図)

**検出地点** B90・91 グリッド

**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸が 1.32m、短軸が 0.40m、深さが 0.30m を測る。断面の形状は長方形である。

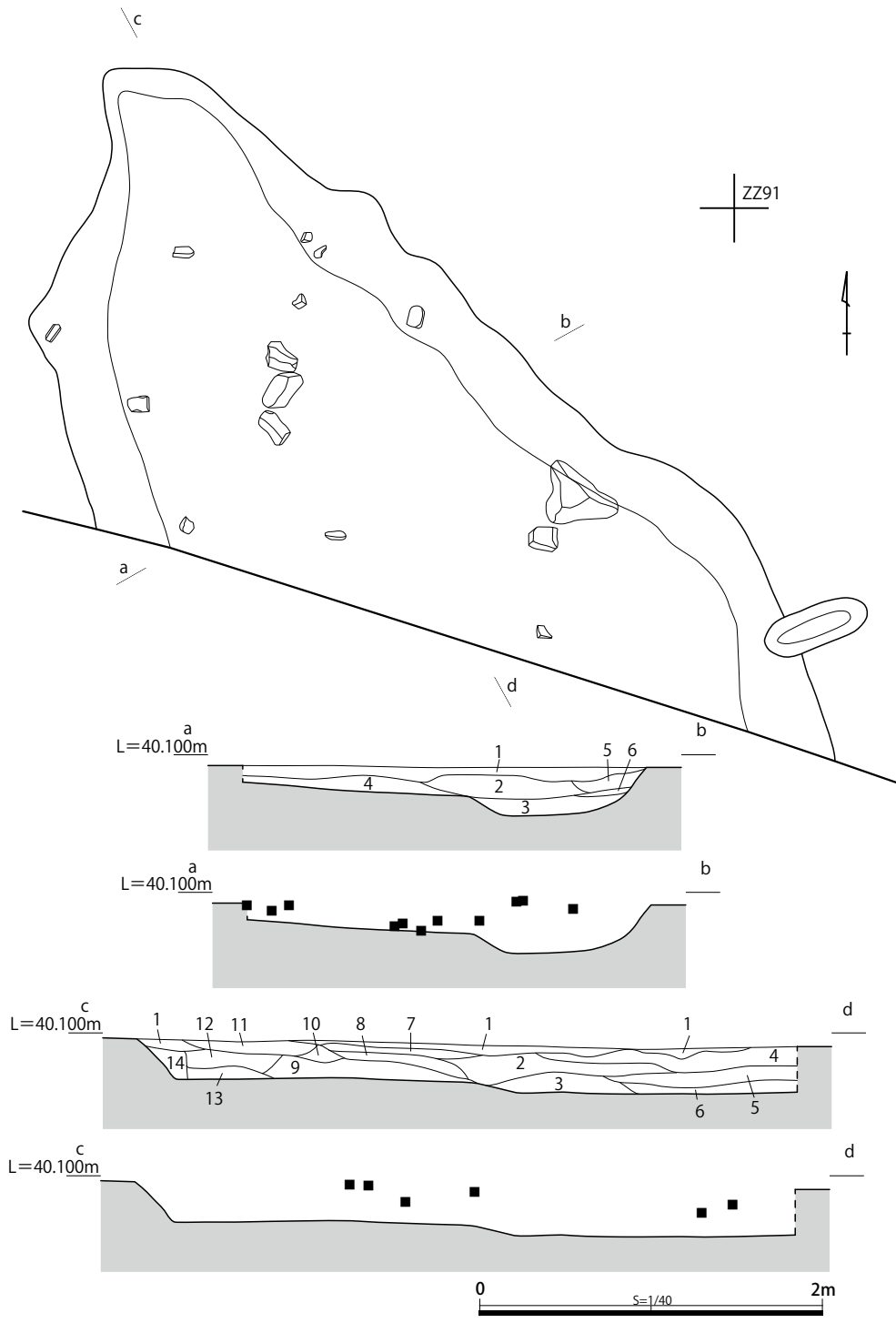
**土層** 7層に分層される。上部は明黄褐色シルト、下部にはにぶい黄色シルトが主に堆積している。

**遺物出土状況** 2、3層を中心として、拳大～人頭大の垂円礫と伴に土器の小片などが出土している。

**出土遺物** 図化可能なものは出土していない。

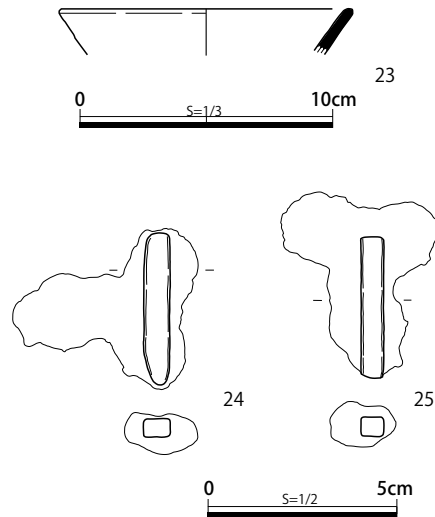
**時期** 年代は特定できない。





- |    |       |      |     |     |   |
|----|-------|------|-----|-----|---|
| 1  | にぶい黄色 | 2.5Y | 6/3 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒極小を含む。炭化物を若干含む。ブロック(灰白)混入。  |
| 2  | にぶい黄色 | 2.5Y | 6/4 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒小を含む。炭化物を若干含む。ブロック(灰白)混入。   |
| 3  | 明黄褐色  | 2.5Y | 7/6 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒小を多く含む。炭化物を若干含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 4  | 浅黄色   | 2.5Y | 7/4 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒小を多く含む。炭化物を若干含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 5  | にぶい黄色 | 2.5Y | 6/3 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒小を少し含む。炭化物を若干含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 6  | にぶい黄色 | 2.5Y | 6/4 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒極小を微量含む。                    |
| 7  | 浅黄色   | 2.5Y | 7/4 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒小を多く含む。炭化物を若干含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 8  | 浅黄色   | 2.5Y | 6/3 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒小を多く含む。ブロック(灰白)混入。          |
| 9  | 明黄褐色  | 2.5Y | 7/6 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒小を多く含む。ブロック(黄褐)混入。          |
| 10 | 浅黄色   | 2.5Y | 7/3 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒小を多く含む。                     |
| 11 | 浅黄色   | 2.5Y | 7/4 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒小を微量含む。ブロック(灰白)混入。          |
| 12 | 明黄褐色  | 2.5Y | 6/6 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒小を微量含む。礫を含む。                |
| 13 | にぶい黄色 | 2.5Y | 6/4 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒小を微量含む。礫を含む。                |
| 14 | 黄褐色   | 2.5Y | 5/6 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒小を微量含む。礫を多く含む。              |

第31図 0-2区 SX1001 平断面図 (1/40)



第 32 図 0-2 区 SX1001 出土遺物

6 号土坑 (SK1006) (第 24・25 図)

**検出地点** ZZ92 グリッド

**規模・形態** 平面形状は長楕円形を呈し、長軸が 1.54m、短軸が 0.50m、深さが 0.20m を測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 何れもシルト層で 10 層に分層される。上部はにぶい黄色、下部には明黄褐色のシルト層が主に堆積している。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 20 は須恵器の杯である。

**時期** 出土した遺物から平安時代以降の年代が想定される。

7 号土坑 (SK1007) (第 26・27 図)

**検出地点** A93 グリッド

**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸が 2.23m、短軸が 0.83m、深さが 0.57m を測る。断面の形状は 2 段形である。

**土層** 何れもシルト層で 28 層に分層される。底部付近はにぶい黄色シルトの平行気味の堆積であるが、上半部はにぶい黄色と黄褐色のシルトが互層となっており、埋め戻されたような痕跡を示す。

**遺物出土状況** 中層付近の中央部と南寄りの 2 か所から動物の歯が出土している。

**出土遺物** 図化可能なものは出土していない。

**時期** 年代は特定できない。

1 号炭窯 (SO1001) (第 28・29 図)

**検出地点** ZZ90・91 グリッド



第33图 0-2区第2遺構面平面図 (1/200)

**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈し、西側に煙道部が附属している。長軸が3.78m、短軸が1.33m、深さが0.31mを測る。断面形状は皿形である。

**土層** 何れもシルト層で39層に分層される。レンズ状の堆積をみせ、炭化物片を多く含んでいる。

**遺物出土状況** 底部を中心に東側を中心として炭化物、西側を中心として焼土の拡がりが見られる。

**出土遺物** 22は黒色土器の椀である。

**時期** 出土した遺物から平安時代（11世紀）以降の時期が想定される。

## 2号炭窯（SO1002）（第30図）

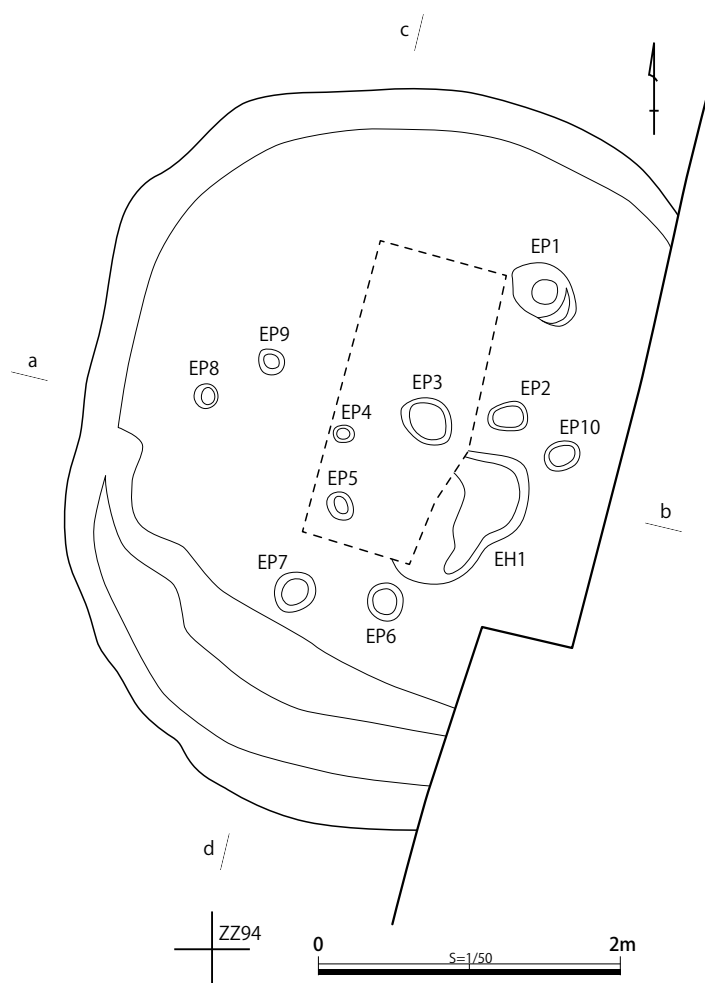
**検出地点** ZZ92 グリッド

**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸が1.18m、短軸が0.83m、深さが0.16mを測る。断面の形状は皿形である。

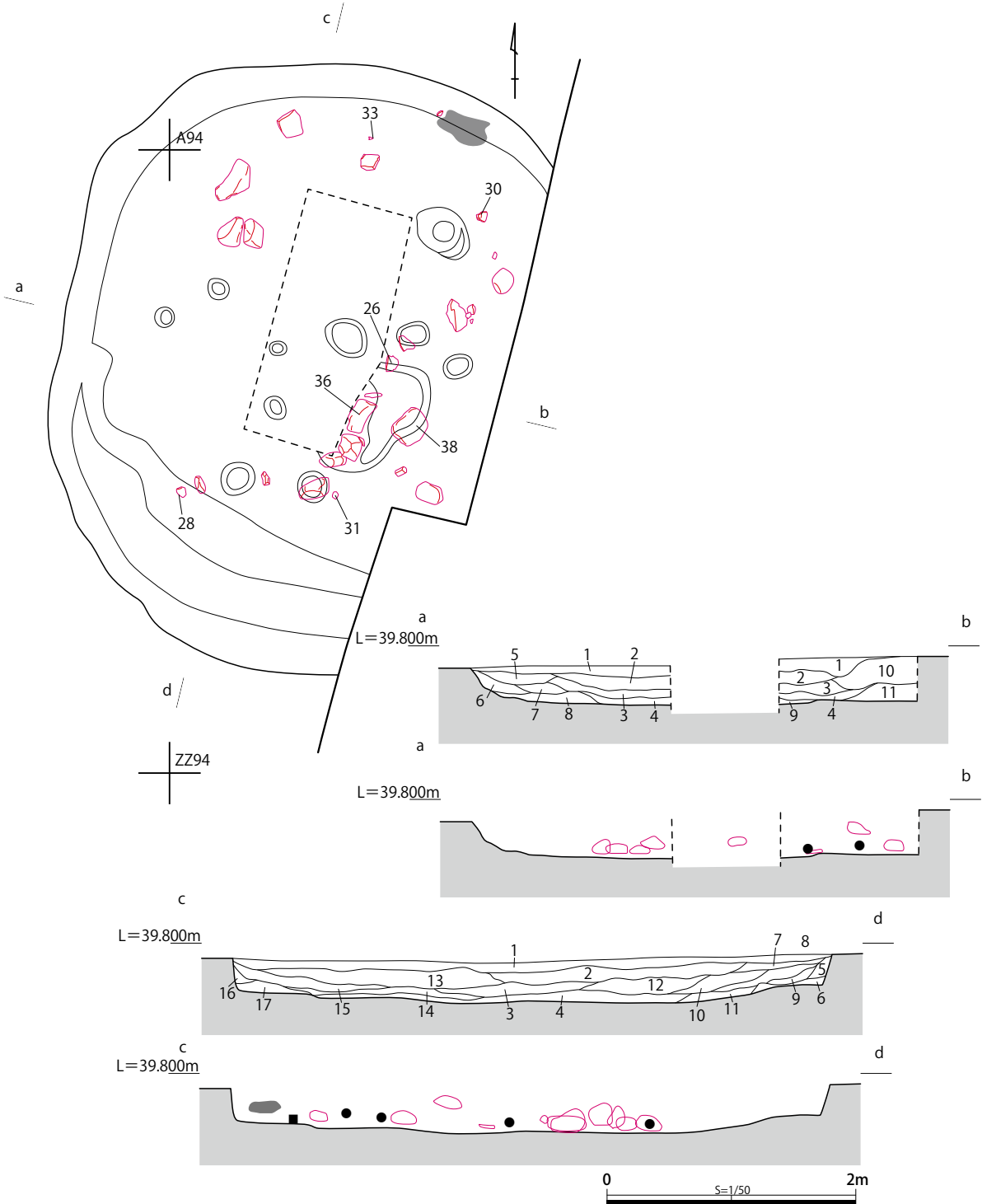
**土層** 何れもシルト層で12層に分層される。

**遺物出土状況** 底部付近を中心として炭化物の拡がりが見られる。また壁沿いには焼土がみとめられる。

**出土遺物** 図化可能なものは出土していない。

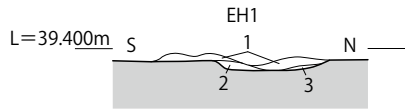


第34図 0-2区SB2001平面図（1/50）

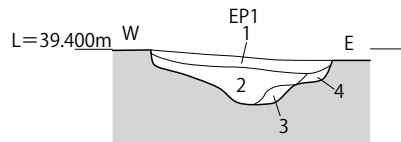
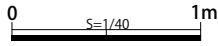


- |    |       |      |     |     |   |
|----|-------|------|-----|-----|---|
| 1  | にぶい黄色 | 2.5Y | 6/3 | シルト | しまり強。鉄・マンガン粒小を含む。炭化物を多く含む。ブロック(黄灰)混入。   |
| 2  | にぶい黄色 | 2.5Y | 6/4 | シルト | しまり強。鉄・マンガン粒小を含む。炭化物を若干含む。ブロック(黄灰)混入。   |
| 3  | にぶい黄色 | 2.5Y | 6/4 | シルト | しまり強。鉄・マンガン粒小を含む。ブロック(灰白・明黄褐)混入。        |
| 4  | 黄褐色   | 2.5Y | 5/4 | シルト | しまり強。鉄・マンガン粒小を含む。ブロック(明黄褐)混入。           |
| 5  | 明黄褐色  | 2.5Y | 7/6 | シルト | しまり強。鉄・マンガン粒小を含む。ブロック(灰白)混入。            |
| 6  | 浅黄色   | 2.5Y | 7/4 | シルト | しまり強。鉄・マンガン粒小を含む。ブロック(灰白)混入。            |
| 7  | 浅黄色   | 2.5Y | 7/4 | シルト | しまり強。鉄・マンガン粒小を多く含む。ブロック(灰白)混入。          |
| 8  | にぶい黄色 | 2.5Y | 6/4 | シルト | しまり強。鉄・マンガン粒小を多く含む。炭化物を多く含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 9  | にぶい黄色 | 2.5Y | 6/4 | シルト | しまり強。鉄・マンガン粒小を多く含む。炭化物を多く含む。ブロック(灰黄)混入。 |
| 10 | 明黄褐色  | 2.5Y | 7/6 | シルト | しまり強。鉄・マンガン粒小を多く含む。炭化物を多く含む。ブロック(灰黄)混入。 |
| 11 | 明黄褐色  | 2.5Y | 6/6 | シルト | しまり強。鉄・マンガン粒小を多く含む。ブロック(灰白)混入。          |
| 12 | 明黄褐色  | 2.5Y | 6/6 | シルト | しまり強。鉄・マンガン粒小を多く含む。炭化物を若干含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 13 | にぶい黄色 | 2.5Y | 6/4 | シルト | しまり強。鉄・マンガン粒小を多く含む。炭化物を多く含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 14 | 明黄褐色  | 2.5Y | 6/6 | シルト | しまり強。鉄・マンガン粒小を多く含む。炭化物を若干含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 15 | 明黄褐色  | 2.5Y | 6/6 | シルト | しまり強。鉄・マンガン粒小を多く含む。炭化物を多く含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 16 | 黄褐色   | 2.5Y | 7/8 | シルト | しまり強。鉄・マンガン粒小を多く含む。炭化物を多く含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 17 | 黄色    | 2.5Y | 7/8 | シルト | しまり強。鉄・マンガン粒小を多く含む。炭化物を若干含む。ブロック(灰白)混入。 |

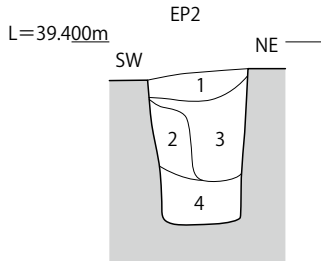
第 35 図 0-2 区 SB2001 平断面図 (1/50)



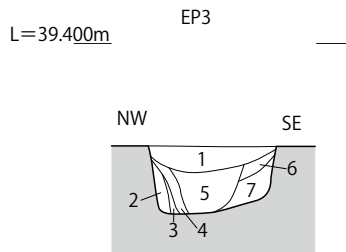
- 1 浅黄色 2.5Y 7/4 シルト しまり強。炭化物、粘土を若干含む。
- 2 明黄褐色 2.5Y 7/6 シルト しまり強。粘土を多く含む。
- 3 明黄褐色 2.5Y 7/6 シルト しまり強。炭化物を多く含む。



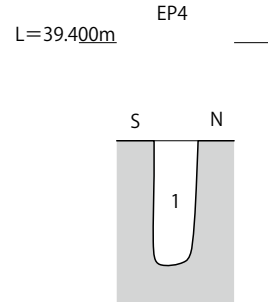
- 1 浅黄色 2.5Y 7/3 シルト しまり強。炭化物を若干含む。
- 2 浅黄色 2.5Y 7/4 シルト しまり強。
- 3 明黄褐色 2.5Y 7/6 シルト しまり強。
- 4 明黄褐色 2.5Y 7/6 シルト しまり強。ブロック(灰白)混入。



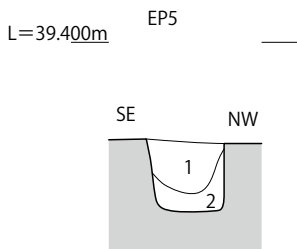
- 1 浅黄色 2.5Y 7/4 シルト しまり強。炭化物を多く含む。
- 2 明黄褐色 2.5Y 7/6 シルト しまり強。炭化物を多く含む。
- 3 黄色 2.5Y 7/8 シルト しまり強。炭化物を多く含む。
- 4 黄褐色 2.5Y 5/4 シルト しまり強。炭化物を多く含む。



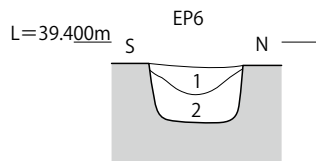
- 1 明黄褐色 2.5Y 7/6 シルト しまり強。炭化物を多く含む。
- 2 黄色 2.5Y 7/8 シルト しまり強。ブロック(灰白)混入。
- 3 明黄褐色 2.5Y 7/6 シルト しまり強。ブロック(灰白)混入。
- 4 明黄褐色 2.5Y 7/6 シルト しまり強。炭化物を若干含む。
- 5 灰黄色 2.5Y 5/1 シルト しまり強。炭化物を多く含む。
- 6 明黄褐色 2.5Y 7/6 シルト しまり強。炭化物を若干含む。
- 7 黄色 2.5Y 7/8 シルト しまり強。ブロック(灰白)混入。



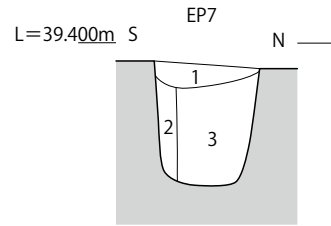
- 1 黄色 2.5Y 7/8 シルト しまり強。炭化物を多く含む。



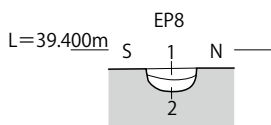
- 1 黄色 2.5Y 7/8 シルト しまり強。炭化物を多く含む。
- 2 黄褐色 2.5Y 5/3 シルト しまり強。



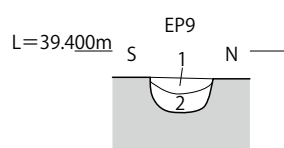
- 1 明黄褐色 2.5Y 7/6 シルト しまり強。
- 2 黄色 2.5Y 7/8 シルト しまり強。



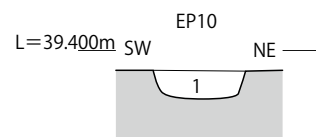
- 1 明黄褐色 2.5Y 7/6 シルト しまり強。
- 2 黄色 2.5Y 7/8 シルト しまり強。
- 3 黄色 2.5Y 7/8 シルト しまり強。炭化物を含む。



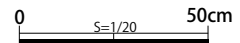
- 1 浅黄色 2.5Y 7/4 シルト しまり強。炭化物を若干含む。
- 2 にぶい黄色 2.5Y 6/4 シルト しまり強。



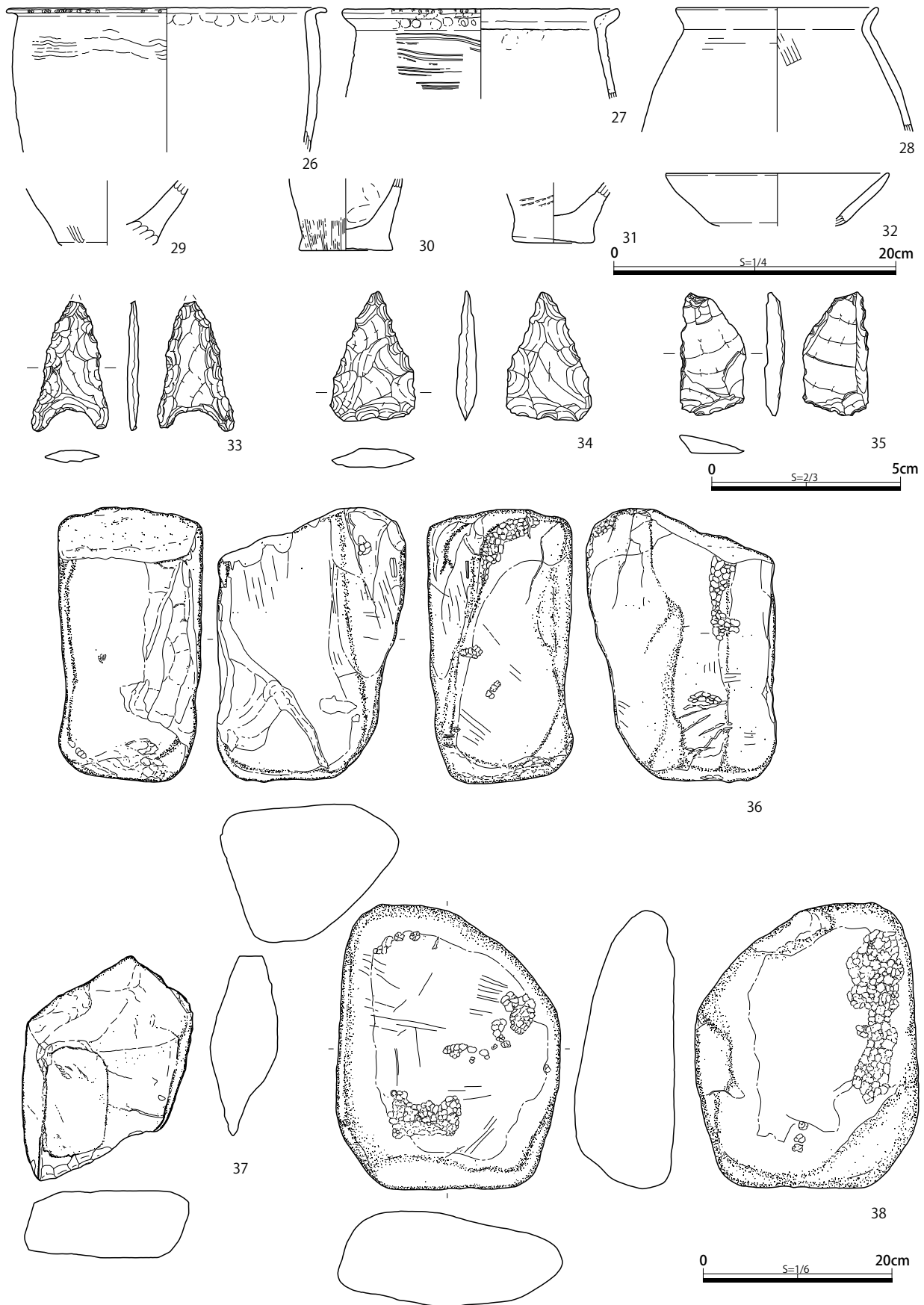
- 1 浅黄色 2.5Y 7/4 シルト しまり強。
- 2 浅黄色 2.5Y 7/3 シルト しまり強。



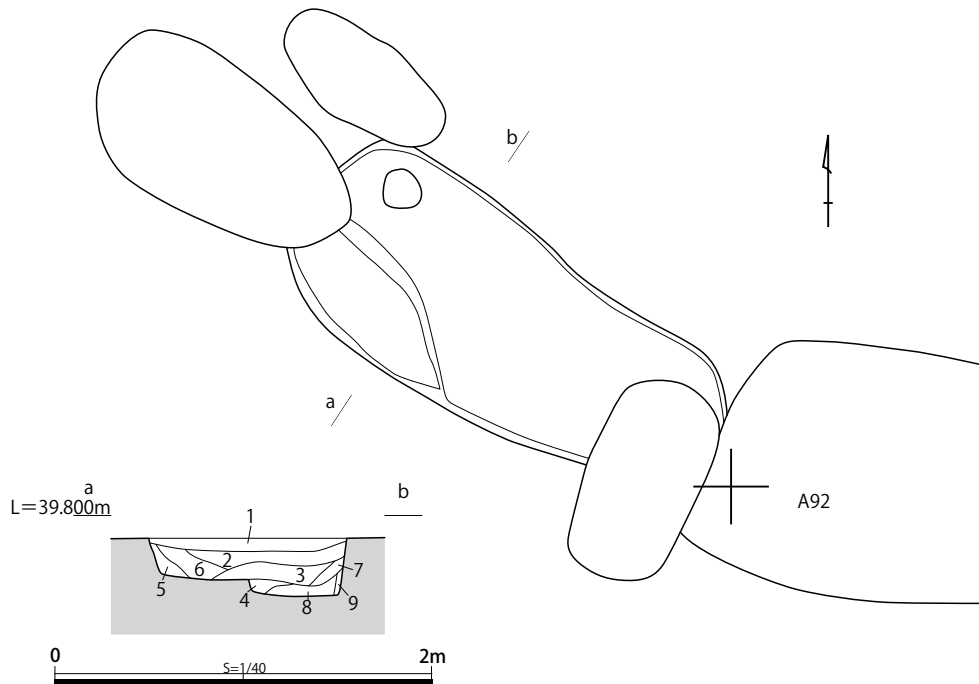
- 1 明黄褐色 2.5Y 7/6 シルト しまり強。



第 36 図 0-2 区 SB2001EH・EP 断面図 (1/20)

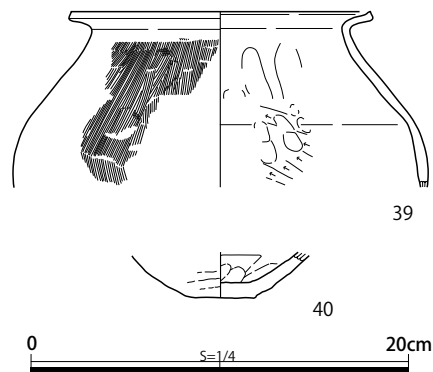


第37图 0-2区SB2001出土遺物



- |   |      |          |     |   |
|---|------|----------|-----|---|
| 1 | 浅黄色  | 2.5Y 7/3 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒小を多く含む。ブロック(灰白)混入。礫φ2~3cmを含む。 |
| 2 | 浅黄色  | 2.5Y 7/4 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒小を含む。鉄斑を含む。礫φ2~3cmを含む。        |
| 3 | 明黄褐色 | 2.5Y 7/6 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒小を含む。鉄斑を含む。礫φ2~3cmを含む。        |
| 4 | 黄色   | 2.5Y 7/8 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒小を含む。鉄斑を含む。ブロック(灰白)混入。        |
| 5 | 浅黄色  | 2.5Y 7/4 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒小を含む。鉄斑を含む。ブロック(灰白)混入。        |
| 6 | 明黄褐色 | 2.5Y 7/6 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒小を含む。鉄斑を含む。ブロック(灰黄)混入。        |
| 7 | 黄色   | 2.5Y 7/8 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒小を含む。鉄斑を含む。ブロック(灰白)混入。        |
| 8 | 明黄褐色 | 2.5Y 6/6 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒小を含む。鉄斑を含む。ブロック(灰白)混入。        |
| 9 | 明黄褐色 | 2.5Y 6/6 | シルト | しまり有。鉄・マンガン粒極小を含む。鉄斑を含む。ブロック(灰白)混入。       |

第 38 図 0-2 区 SK2015 平断面図 (1/40)



第 39 図 0-2 区 SK2015 出土遺物

**時期** 年代は特定できない。

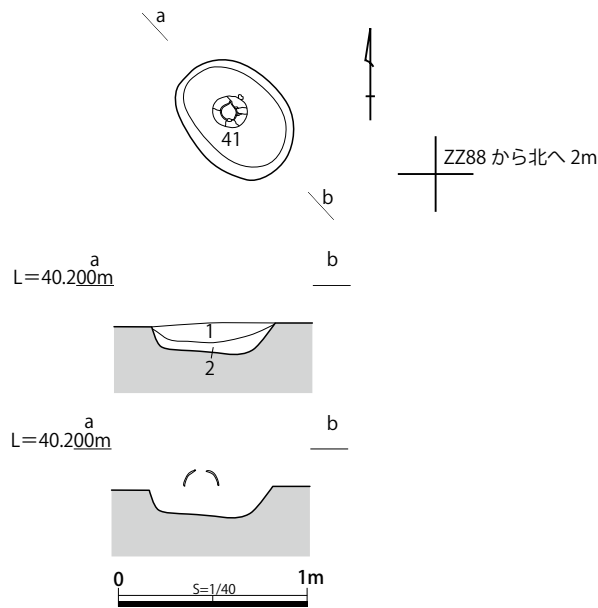
1 号性格不明遺構 (SX1001) (第 31・32 図)

**検出地点** ZY・ZZ90・91 グリッド

**規模・形態** 平面の形状は不定形で南側は調査区外に延びている。残存値で長軸が 3.84m、短軸が 2.35m、深さが 0.28m を測る。断面の形状は緩やかな 2 段形である。

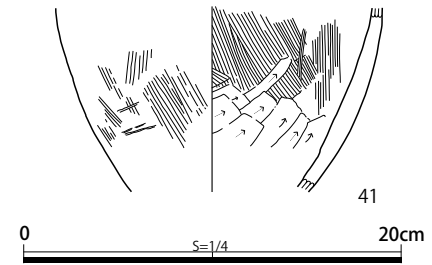
**土層** 何れもシルト層で 14 層に分層される。上部は主ににぶい黄色、下部は明黄褐色のシルト層がそ





- 1 黄褐色 2.5Y 5/4 シルト しまり有。鉄・マンガン粒小を含む。鉄珪を含む。礫φ3cmを含む。  
 2 黄褐色 2.5Y 5/3 シルト しまり有。鉄・マンガン粒小を含む。鉄珪を含む。礫φ3~5cmを含む。

第40図 0-2区 SK2031 平断面図 (1/40)



第41図 0-2区 SK2031 出土遺物

れぞれ堆積している。

**遺物出土状況** 拳大～人頭大の砂岩礫が上層を中心に出土している。

**出土遺物** 23は須恵器の杯である。24、25は棒状の鉄製品である。

**時期** 出土した遺物から平安時代以降の年代が想定される。

## ②第2遺構面

1号竪穴住居 (SB2001) (第34～37図)

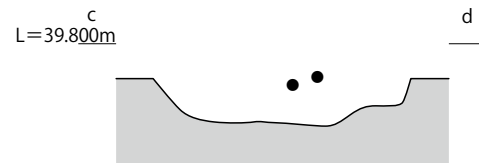
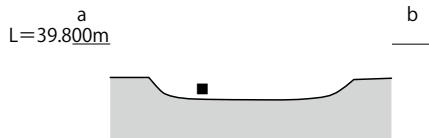
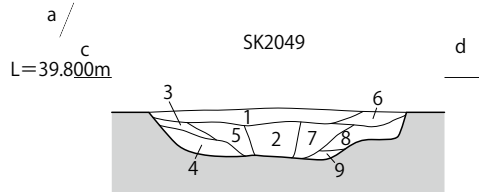
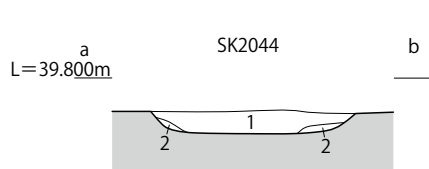
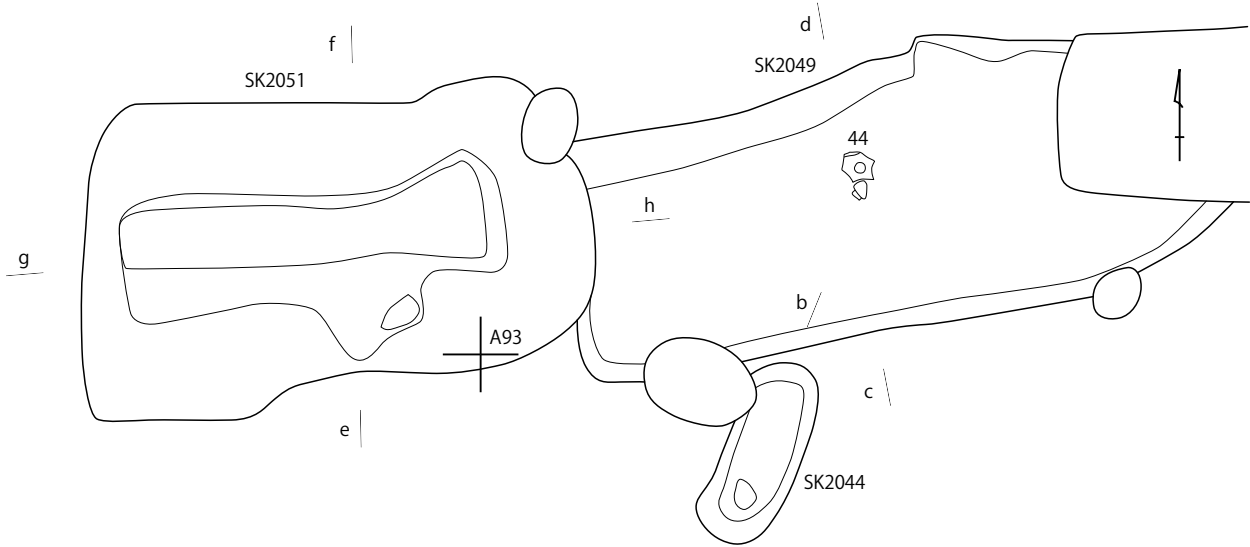
**検出地点** ZZ・A93・94グリッド

**規模・形態** 平面の形状はほぼ円形を呈するとみられるが、東側は調査区外に延びている。残存値で長軸が4.90m、短軸が3.34m、深さが0.36mを測る。断面の形状は南側の壁面が緩やかな2段形を呈する。柱穴 (EP) は10基検出されている。また炉 (EH) は中央やや東寄りから1基検出されている。

**土層** 何れもシルト層で17層に分層される。レンズ状の堆積をみせ、上部にはにぶい黄色、下部には主に明黄褐色のシルト層が堆積している。床面付近の層からは炭化物片が多く含まれている。

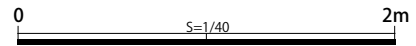
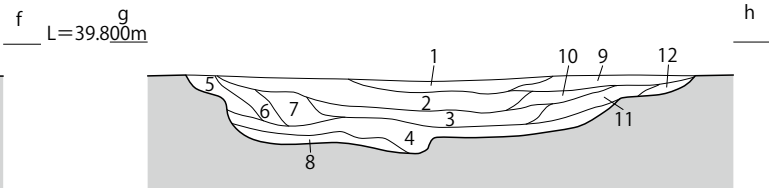
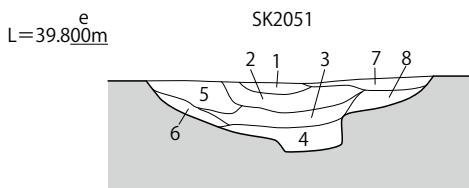
**遺物出土状況** 床面よりやや上を中心として遺物が出土しており、炉跡周辺及び北壁付近では人頭大の砂岩礫なども出土している。

**出土遺物** 26～32は弥生土器。26～28は甕である。26、27は口縁部が逆L字状の形態で、体部上半に櫛描文を施す。29～31は壺または甕の底部、32は高杯の杯部と考えられる。33は凹基式、34は平基式の石鏃で何れもサヌカイト製である。35は楔形石器より剥離されたとみられるサヌカイトの剥片で、縁辺に微細な剥離痕が認められる。36は砂岩製の砥石である。37、38は砂岩製の台石である。



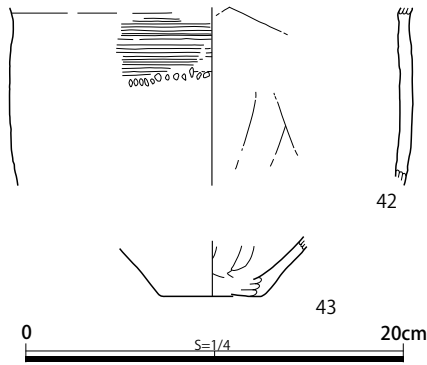
1 浅黄色 2.5Y 7/4 シルト しまり有。鉄・マンガン粒小を多く含む。炭化物、礫φ10mmを含む。ブロック(灰白)混入。  
2 にぶい黄色 2.5Y 6/4 シルト しまり有。鉄・マンガン粒小を多く含む。

1 浅黄色 2.5Y 7/3 シルト しまり有。鉄・マンガン粒小を多く含む。ブロック(灰黄)混入。  
2 明黄褐色 2.5Y 7/6 シルト しまり有。鉄・マンガン粒小を多く含む。ブロック(灰白)混入。  
3 浅黄色 2.5Y 7/4 シルト しまり有。鉄・マンガン粒小を多く含む。鉄斑を含む。ブロック(灰白)混入。  
4 にぶい黄色 2.5Y 6/4 シルト しまり有。鉄・マンガン粒小を多く含む。鉄斑を含む。ブロック(灰白)混入。  
5 明黄褐色 2.5Y 7/6 シルト しまり有。鉄・マンガン粒小を多く含む。鉄斑を含む。ブロック(灰白)混入。  
6 明黄褐色 2.5Y 7/6 シルト しまり有。鉄・マンガン粒小を多く含む。鉄斑を含む。ブロック(灰白)混入。  
7 黄色 2.5Y 7/8 シルト しまり有。鉄・マンガン粒小を多く含む。炭化物を含む。ブロック(灰黄)混入。  
8 明黄褐色 2.5Y 6/6 シルト しまり有。鉄・マンガン粒小を多く含む。ブロック(灰白)混入。  
9 黄色 2.5Y 7/8 シルト しまり有。鉄・マンガン粒小を多く含む。鉄斑を含む。ブロック(灰白)混入。

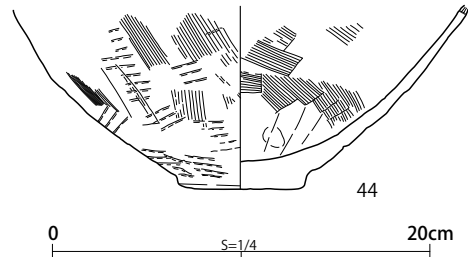


1 浅黄色 2.5Y 7/3 シルト しまり有。鉄・マンガン粒小を多く含む。ブロック(灰白)混入。  
2 浅黄色 2.5Y 7/4 シルト しまり有。鉄・マンガン粒小を含む。ブロック(灰白)混入。  
3 明黄褐色 2.5Y 7/6 シルト しまり有。鉄・マンガン粒小を含む。ブロック(灰白)混入。  
4 明黄褐色 2.5Y 7/6 シルト しまり有。鉄・マンガン粒小を含む。ブロック(灰白)混入。  
5 明黄褐色 2.5Y 7/6 シルト しまり有。鉄・マンガン粒小を多く含む。ブロック(灰白)混入。  
6 浅黄色 2.5Y 7/4 シルト しまり有。鉄・マンガン粒小を多く含む。ブロック(灰白)混入。  
7 浅黄色 2.5Y 7/3 シルト しまり有。鉄・マンガン粒小を多く含む。ブロック(灰白)混入。  
8 明黄褐色 2.5Y 6/6 シルト しまり有。鉄・マンガン粒小を多く含む。礫φ5cmを含む。ブロック(灰白)混入。  
9 浅黄色 2.5Y 7/4 シルト しまり有。鉄・マンガン粒極小を多く含む。炭化物を少し含む。ブロック(灰白)混入。  
10 浅黄色 2.5Y 7/4 シルト しまり有。鉄・マンガン粒極小を多く含む。鉄斑を含む。ブロック(灰白)混入。  
11 明黄褐色 2.5Y 7/6 シルト しまり有。鉄・マンガン粒小を多く含む。ブロック(灰黄)混入。  
12 黄色 2.5Y 7/8 シルト しまり有。鉄・マンガン粒小、鉄斑を含む。ブロック(灰黄)混入。

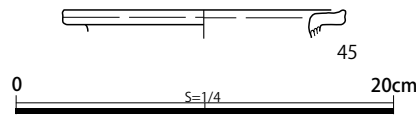
第 42 図 0-2 区 SK2044・SK2049・SK2051 平断面図 (1/40)



第 43 図 0-2 区 SK2044 出土遺物



第 44 図 0-2 区 SK2049 出土遺物



第 45 図 0-2 区 SK2051 出土遺物

**時期** 出土した遺物から弥生時代前期末～中期初頭の年代が想定される。

15号土坑 (SK2015) (第 38・39 図)

**検出地点** A91 グリッド

**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈するとみられ、西側を SK2012 と SK2029 に、東側を SK2016、SK1027 にそれぞれ切られている。残存値で長軸が 1.54m、短軸が 1.05m、深さが 0.30m を測る。断面の形状は 2 段形である。

**土層** 何れもシルト層で 9 層に分層される。上部は浅黄色、下部には明黄褐色のシルト層が主に堆積している。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 39、40 は弥生土器。39 は甕で、胎土に角閃石を含んでおり下川津 B 類土器の搬入品である。40 は鉢の底部である。

**時期** 出土した遺物から弥生時代終末期以降の時期が想定される。

31号土坑 (SK2031) (第 40・41 図)

**検出地点** ZZ87 グリッド

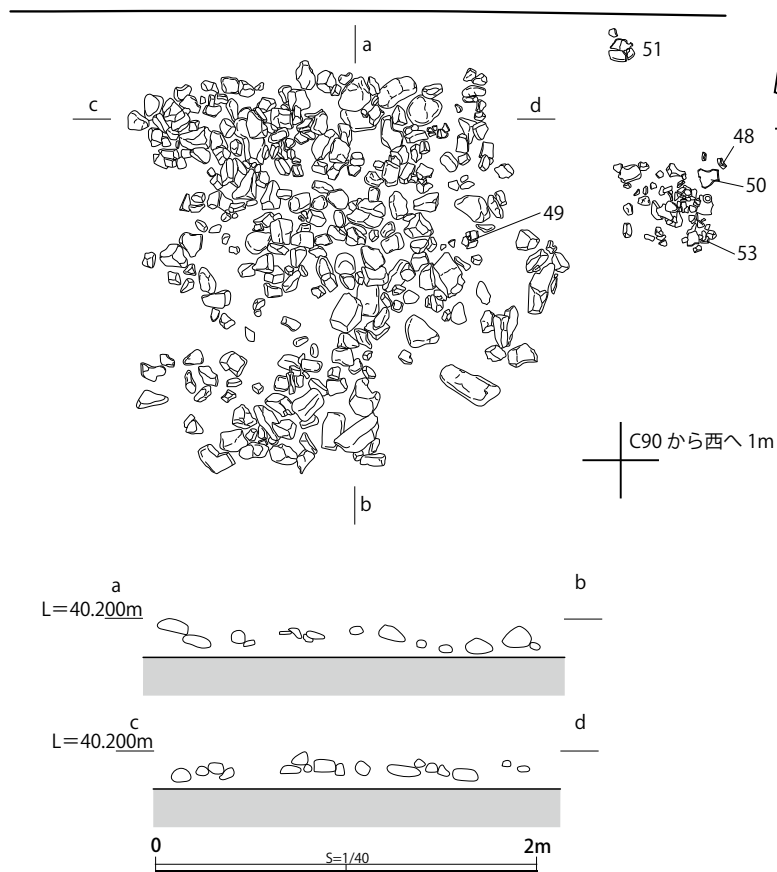
**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸が 0.65m、短軸が 0.52m、深さが 0.17m を測る。断面の形状は皿形である。

**土層** 何れもシルト層で 2 層に分層される。

**遺物出土状況** 上面から土器が出土している。

**出土遺物** 41 は弥生土器の甕の胴部である。

**時期** 出土した遺物から弥生時代後期以降の時期が想定される。



第 46 図 0-2 区 SU2001 平断面図 (1/40)

#### 44 号土坑 (SK2044) (第 42・43 図)

**検出地点** ZZ93 グリッド

**規模・形態** 平面形状は長楕円形を呈し、長軸が 1.09m、短軸が 0.42m、深さが 0.11m を測る。断面の形状は皿形である。

**土層** 何れもシルト層で 2 層に分層される。

**遺物出土状況** 中央やや南寄りから径 20cm 程の砂岩礫が 1 層中より出土している。

**出土遺物** 42、43 は弥生土器。42 は甕の胴部である。頸部の下に櫛描文と列点文が施されている。43 は甕の底部である。

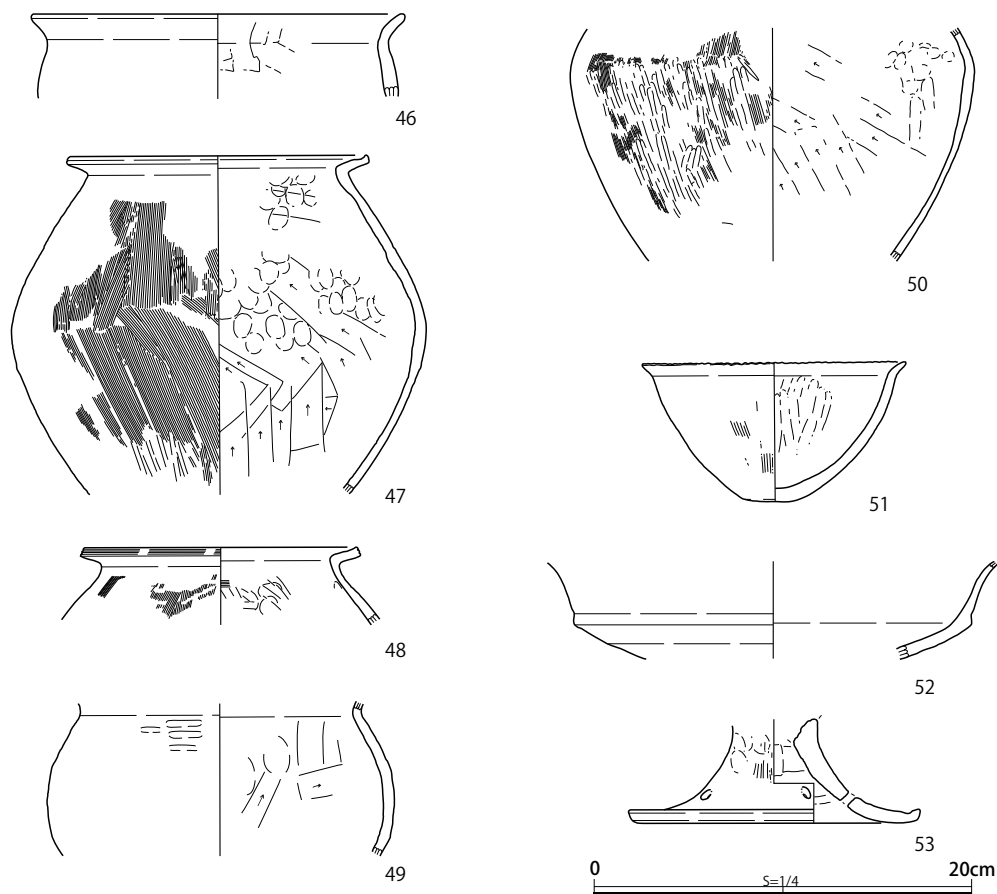
**時期** 出土した遺物から弥生時代前期末以降の年代が想定される。

#### 49 号土坑 (SK2049) (第 42・44 図)

**検出地点** A93 グリッド

**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈し、西側を SK2051、東側を SK2043 に切られている。残存値で長軸が 2.50m、短軸が 1.36m、深さが 0.25m を測る。断面の形状は緩やかな 2 段形である。

**土層** 何れもシルト層で 9 層に分層される。上部は浅黄色、下部には明黄褐色のシルト層が主に堆積している。



第47図 0-2区SU2001出土遺物

**遺物出土状況** 遺構上面中央付近から土器が出土している。

**出土遺物** 44は弥生土器の壺の底部である。

**時期** 出土した遺物から弥生時代終末期以降の年代が想定される。

51号土坑 (SK2051) (第42・45図)

**検出地点** ZZ・A92・93グリッド

**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸が2.70m、短軸が1.52m、深さが0.38mを測る。断面の形状は2段形である。

**土層** 何れもシルト層で12層に分層される。レンズ状の堆積をみせ、上部は浅黄色、下部には明黄褐色のシルト層が主に堆積している。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

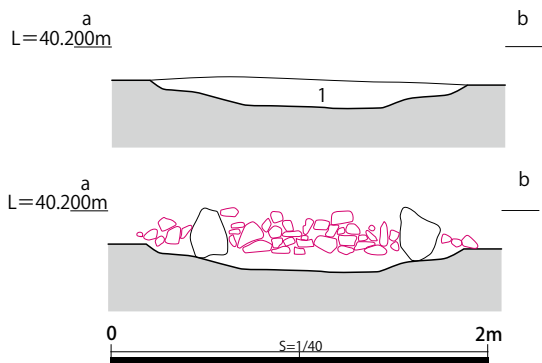
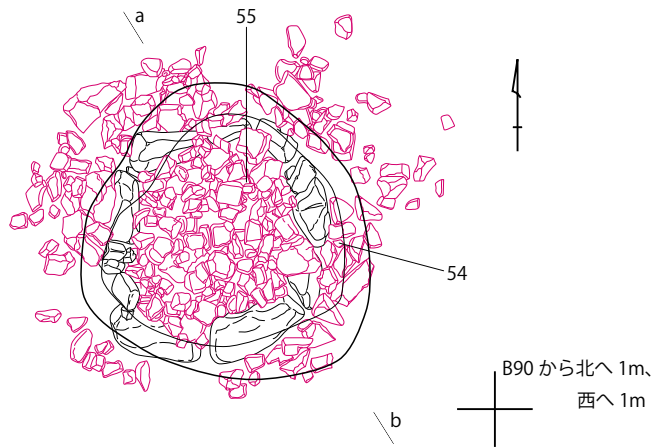
**出土遺物** 45は弥生土器の甕の底部である。

**時期** 出土した遺物から弥生時代後期後半以降の年代が想定される。

1号集石 (SU2001) (第46・47図)

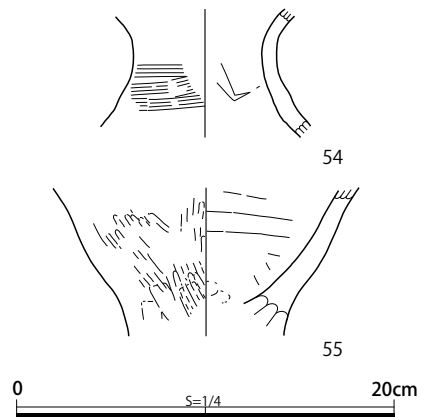
**検出地点** C89グリッド

**規模・形態** 南北(長軸)約3.1m、東西(短軸)約2.2mの拡がりを見せる集石で、砂岩礫を主体と

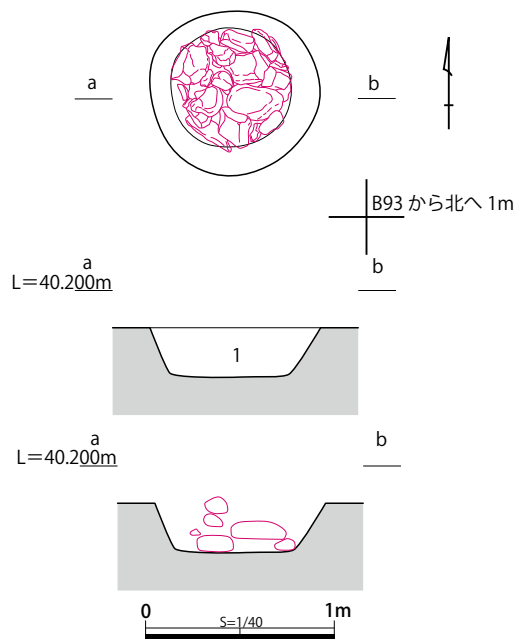


1 オリーブ褐色 2.5Y 4/4 シルト しまり強。掘り方埋土。炭化物・土器片を少量含む。直径1~3cm大の礫をやや多く含む。

第 48 図 0-2 区 SU2002 平断面図 (1/40)

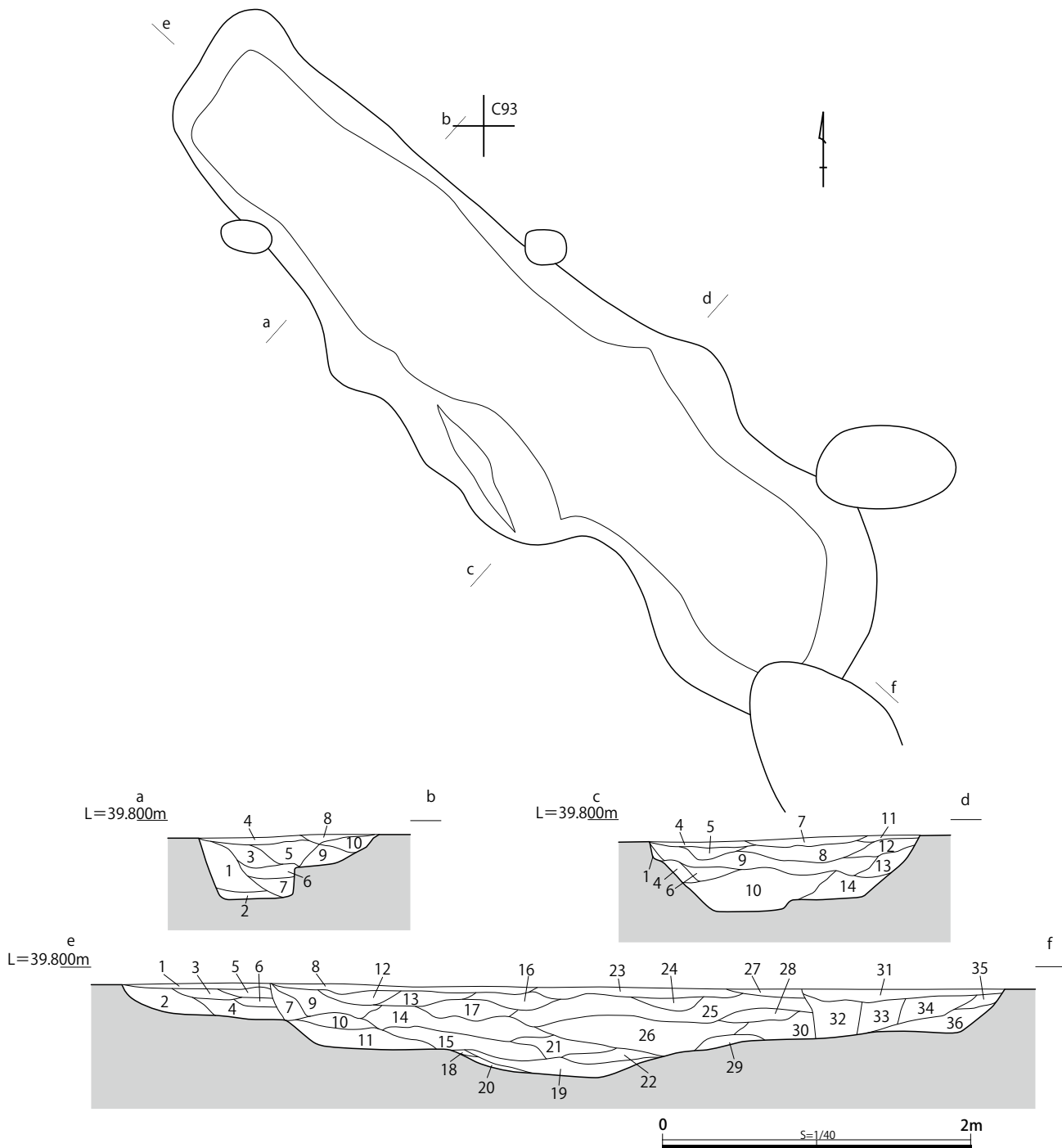


第 49 図 0-2 区 SU2002 出土遺物



1 オリーブ褐色 2.5Y 4/4 シルト しまり強。炭化物・土器片を少量含む。直径1~3cm大の礫をやや多く含む。

第 50 図 0-2 区 SU2003 平断面図 (1/40)



1	浅黄色	2.5Y	7/3	シルト	しまり有。鉄・マンガング粒小を含む。ブロック灰白混入。	19	明黄褐色	2.5Y	7/6	シルト	しまり有。鉄・マンガング粒小を微量含む。鉄珪を多く含む。ブロック灰白混入。
2	浅黄色	2.5Y	7/4	シルト	しまり有。鉄・マンガング粒小を含む。ブロック灰白混入。	20	明黄褐色	2.5Y	6/8	シルト	しまり有。鉄・マンガング粒小を微量含む。鉄珪を多く含む。ブロック灰白混入。
3	浅黄色	2.5Y	7/3	シルト	しまり有。鉄・マンガング粒小を多く含む。鉄φ0.3~1mmを含む。ブロック灰白混入。	21	浅黄色	2.5Y	7/4	シルト	しまり有。鉄・マンガング粒小を多く含む。炭化物を含む。ブロック灰白混入。
4	明黄褐色	2.5Y	7/6	シルト	しまり有。鉄・マンガング粒小を多く含む。鉄φ0.3~1mmを含む。ブロック灰白混入。	22	明黄褐色	2.5Y	6/6	シルト	しまり有。鉄・マンガング粒小を多く含む。炭化物を含む。ブロック灰白混入。
5	にぶい黄色	2.5Y	6/3	シルト	しまり有。鉄・マンガング粒小を多く含む。ブロック灰白混入。	23	浅黄色	2.5Y	7/4	シルト	しまり有。鉄・マンガング粒小を多く含む。ブロック灰白混入。
6	にぶい黄色	2.5Y	6/3	シルト	しまり有。鉄・マンガング粒小を多く含む。ブロック灰白混入。	24	浅黄色	2.5Y	7/4	シルト	しまり有。鉄・マンガング粒小を多く含む。ブロック灰白混入。
7	にぶい黄色	2.5Y	6/4	シルト	しまり有。鉄・マンガング粒小を多く含む。ブロック灰白混入。	25	にぶい黄色	2.5Y	6/4	シルト	しまり有。鉄・マンガング粒小を多く含む。ブロック灰白混入。
8	浅黄色	2.5Y	7/4	シルト	しまり有。鉄・マンガング粒小を含む。ブロック灰白混入。	26	にぶい黄色	2.5Y	6/3	シルト	しまり有。鉄・マンガング粒小を多く含む。ブロック明黄褐色混入。
9	にぶい黄色	2.5Y	6/4	シルト	しまり有。鉄・マンガング粒小を多く含む。鉄2mmを含む。ブロック灰白混入。	27	浅黄色	2.5Y	7/4	シルト	しまり有。鉄・マンガング粒小を含む。ブロック灰白混入。
10	にぶい黄色	2.5Y	6/3	シルト	しまり有。鉄・マンガング粒小を多く含む。ブロック明黄褐色混入。	28	にぶい黄色	2.5Y	6/4	シルト	しまり有。鉄・マンガング粒小を多く含む。炭化物を若干含む。ブロック灰白混入。
11	浅黄色	2.5Y	7/4	シルト	しまり有。鉄・マンガング粒小を多く含む。ブロック灰白混入。	29	明黄褐色	2.5Y	6/6	シルト	しまり有。鉄・マンガング粒小を多く含む。炭化物を若干含む。ブロック灰白混入。
12	浅黄色	2.5Y	7/3	シルト	しまり有。鉄・マンガング粒小を多く含む。ブロック灰白混入。	30	明黄褐色	2.5Y	7/6	シルト	しまり有。鉄・マンガング粒小を含む。ブロック灰白混入。
13	浅黄色	2.5Y	7/4	シルト	しまり有。鉄・マンガング粒小を多く含む。ブロック灰白混入。	31	浅黄色	2.5Y	7/4	シルト	しまり有。鉄・マンガング粒小を多く含む。ブロック灰白を多く混入。
14	明黄褐色	2.5Y	7/6	シルト	しまり有。鉄・マンガング粒小を多く含む。炭化物を若干含む。ブロック灰白混入。	32	明黄褐色	2.5Y	7/6	シルト	しまり有。鉄・マンガング粒小を微量含む。ブロック灰白を多く混入。
15	明黄褐色	2.5Y	6/6	シルト	しまり有。鉄・マンガング粒小を多く含む。炭化物を若干含む。ブロック灰白混入。	33	明黄褐色	2.5Y	7/6	シルト	しまり有。鉄・マンガング粒小を多く含む。ブロック灰白を多く混入。
16	浅黄色	2.5Y	7/4	シルト	しまり有。鉄・マンガング粒小を多く含む。炭化物を若干含む。ブロック灰白混入。	34	黄色	2.5Y	7/8	シルト	しまり有。鉄・マンガング粒小を多く含む。ブロック灰白を多く混入。
17	にぶい黄色	2.5Y	6/4	シルト	しまり有。鉄・マンガング粒小を多く含む。ブロック灰白混入。	35	黄色	2.5Y	7/8	シルト	しまり有。鉄・マンガング粒小を多く含む。ブロック灰白を多く混入。
18	黄褐色	2.5Y	5/4	シルト	しまり有。鉄・マンガング粒小を微量含む。鉄珪を多く含む。ブロック灰白混入。	36	明黄褐色	2.5Y	6/8	シルト	しまり有。鉄・マンガング粒小を含む。ブロック灰白を多く混入。

第 51 図 0-2 区 SX2002 平断面図 (1/40)

して拳大～人頭大の大きさの礫で構成されている。下部に掘り込み等は存在しない。東側に土器溜まりが存在している。

**土層** ー

**遺物出土状況** 集石内の土器は小片が多く、周辺部からやや大型の土器片が出土している。

**出土遺物** 46～53は弥生土器。46～50は甕である。内47、48、50は胎土に角閃石を含んでおり下川津B類土器の搬入品と考えられる。51は鉢である。52、53は高杯である。

**時期** 出土した遺物から弥生時代終末期以降の年代が想定される。

### 2号集石 (SU2002) (第48・49図)

**検出地点** B89 グリッド

**規模・形態** 平面形状はやや不整な円形を呈し、長軸が1.58m、短軸が1.54m、深さが0.14mの掘り込みを伴う。

断面の形状は緩やかな2段形である。人頭大の大きさを含む大型の扁平な砂岩礫が円形に組み立てられており、その内部を中心にやや小型である拳大の砂岩の角礫を充填するような形で埋められている。

**土層** オリーブ褐色シルト1層である。

**遺物出土状況** 充填された礫の中から土器片が出土している。

**出土遺物** 54、55は弥生土器。54は壺の頸部、55は壺の胴部下半と考えられる。

**時期** 出土した遺物から弥生時代前期末以降の年代が想定される。

### 3号集石 (SU2003) (第50図)

**検出地点** B92 グリッド

**規模・形態** 平面の形状はほぼ円形を呈し、径が約0.9m、深さが0.24mの掘り込みを伴う。断面の形状は舟底形を呈する。拳大～人頭大の砂岩礫が土坑内を充填するように埋められている。

**土層** オリーブ褐色シルト1層である。

**遺物出土状況** 礫以外の遺物は出土していない。

**出土遺物** 図化可能なものは出土していない。

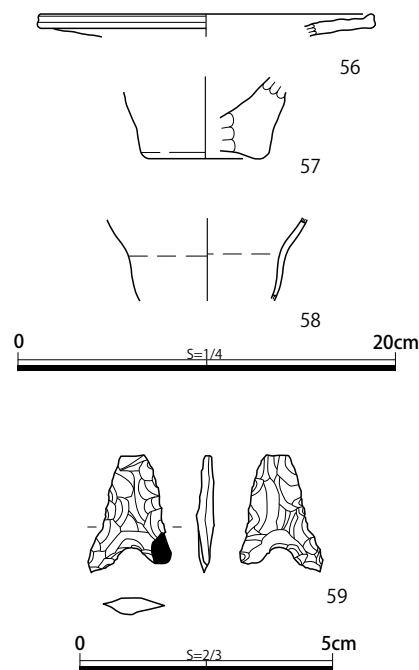
**時期** 年代は特定できない。

### 2号性格不明遺構 (SX2002) (第51・52図)

**検出地点** B・C92・93 グリッド

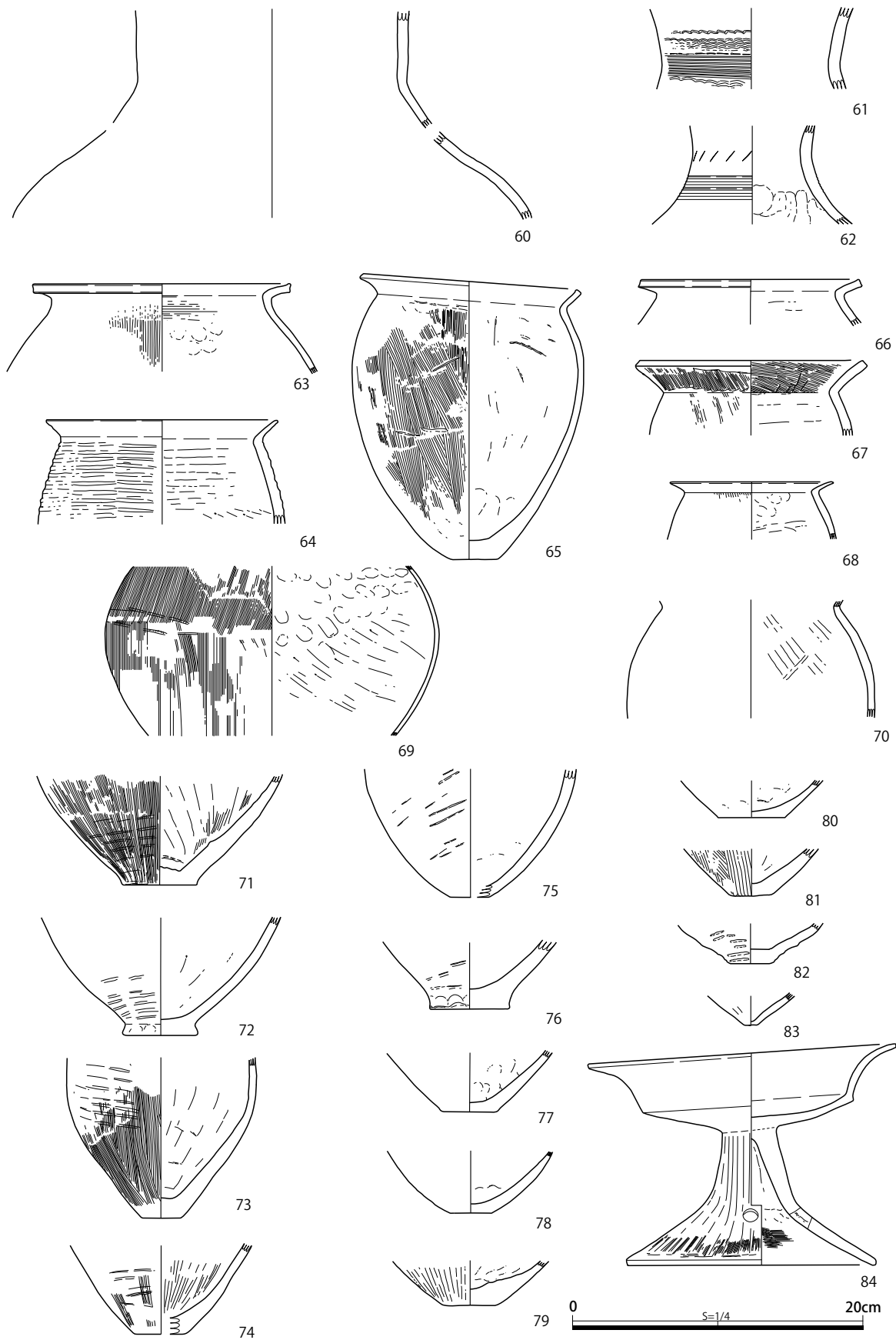
**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸が5.71m、短軸が1.74m、深さが0.58mを測る。断面の形状は2段形である。

**土層** 何れもシルト層で36層に分層される。レンズ状の堆積をみせ、上部は浅黄色、下部には明黄褐

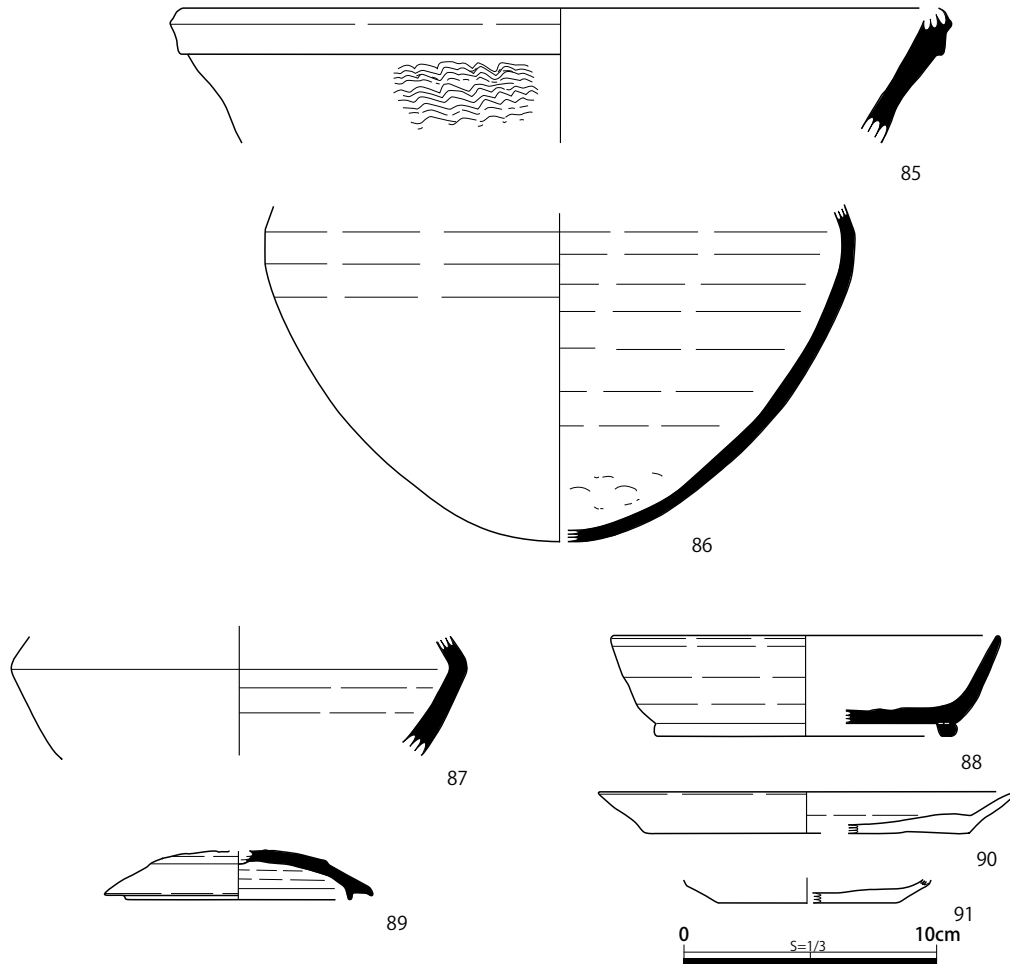


第52図 0-2区 SX2002 出土遺物





第 53 图 0-2 区包含层出土遗物①



第54図 0-2区包含層出土遺物②

色のシルト層が主に堆積している。

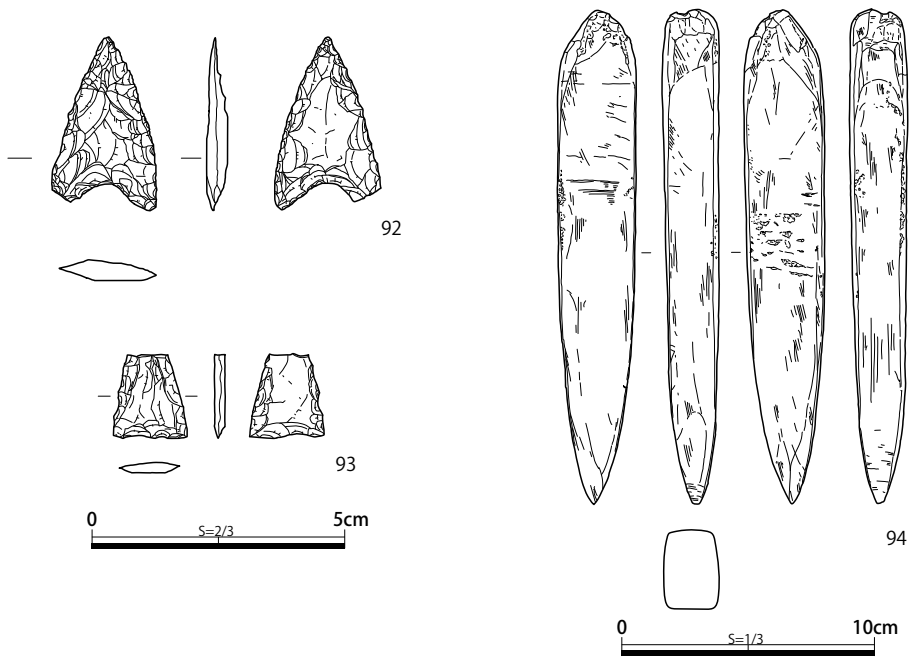
**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 56は弥生土器の壺の口縁である。57は弥生土器の甕の底部である。58は弥生土器の鉢の体部である。59はサヌカイト製の凹基式の石鍬である。

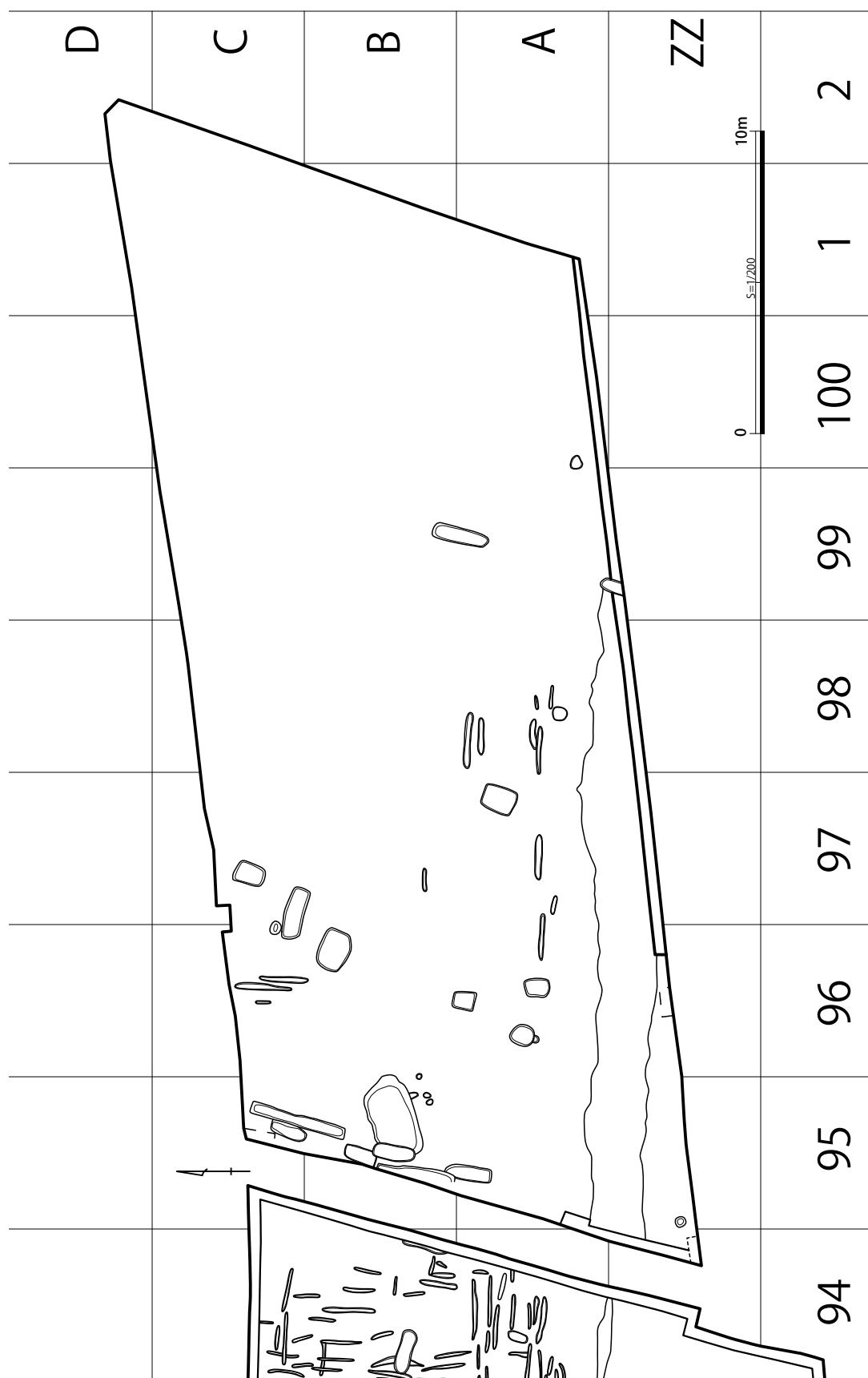
**時期** 出土した遺物から弥生時代終末期以降の年代が想定される。

#### 包含層出土遺物（第53～55図）

60～84は弥生土器。60～62は壺である。63～79は甕である。80～83は鉢である。84は高杯である。85～89は須恵器。85、86は甕である。87は壺である。88は杯である。90、91は土師器の皿である。底部はいずれも回転ヘラ切りである。92、93はサヌカイト製の石鍬で、92は凹基式、93は平基式である。94は結晶片岩製の柱状片刃石斧である。



第 55 图 0-2 区包含層出土遺物③



第56図 1-0区第1遺構面平面図 (1/200)

(3) 1-0 区 (第 56・70 図)

1-0 区からは 2 枚の遺構面が確認されている。検出された遺構数は第 1 遺構面においては溝 (SD) が 1 条、水田 (SI) が 2 枚、土坑 (SK) が 14 基、小穴 (SP) が 9 基、炭窯 (SO) が 1 基であり、第 2 遺構面においては竪穴住居 (SB) が 3 軒、土坑 (SK) が 51 基、小穴 (SP) が 39 基となっている。

①第 1 遺構面

1 号溝 (SD1001) (第 57・58 図)

**検出地点** B・C95 グリッド

**規模・形態** 南西から北東方向に延びる溝で、延長距離は 3.20m、幅が 0.40m、深さは 0.18m を測る。方位は N-17° -E である。断面の形状は舟底形である。

**土層** 浅黄色シルト層が 1 層である。

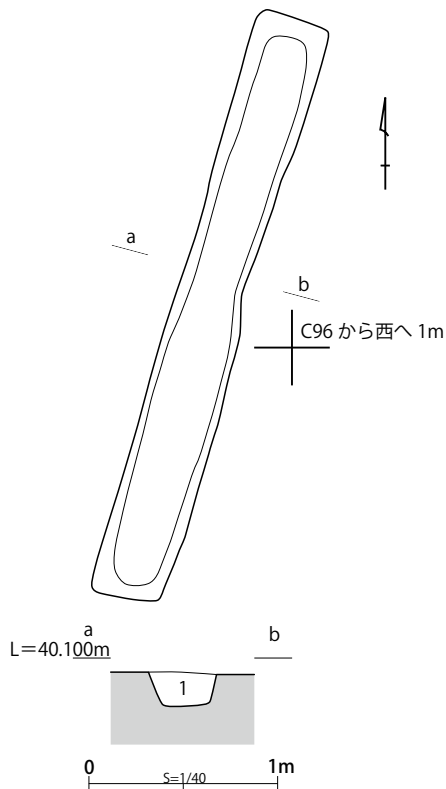
**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 95 は土師質土器の杯である。96 は瓦器の椀である。97 は須恵質土器の杯である。98 は磁器で合子の蓋である。

**時期** 出土した遺物から鎌倉時代 (13 世紀) 以降の年代が想定される。

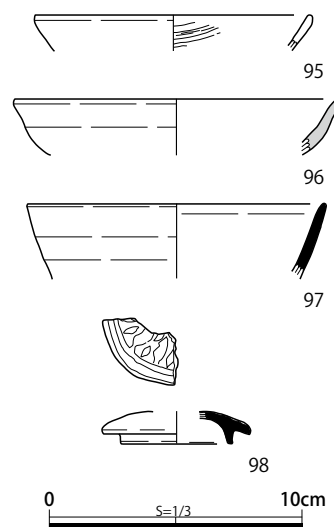
水田 (SI) (第 56・59・60 図)

**検出地点** —



1 浅黄色 2.5Y 7/4 シルト しまり強。マンガン磁、鉄燻煙小を含む。層φ1~2mを含む。ブロック(淡黄)混入。

第 57 図 1-0 区 SD1001 平断面図 (1/40)

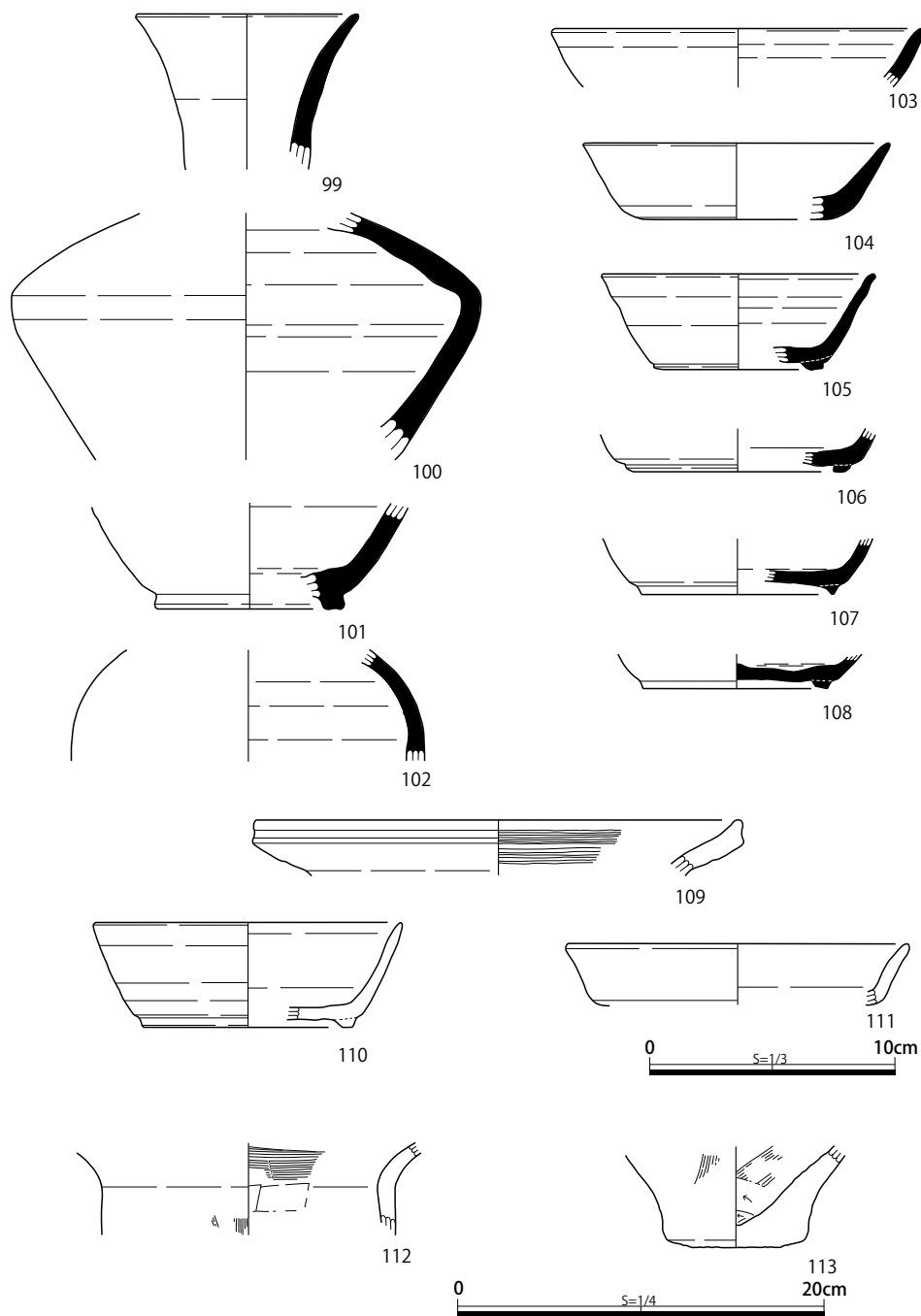


第 58 図 1-0 区 SD1001 出土遺物



- 1 浅黄色 2.5Y 7/3 シルト
  - 2 に近い黄色 2.5Y 6/3 シルト
  - 3 に近い黄色 2.5Y 6/3 シルト
- しまり強 鉄質細小を微量含む。炭化物を微量含む。  
しまり強 鉄質 鉄粒の0.5~1cmを多く含む。  
しまり強 鉄分を大量に含む。礫φ2~3cmを含む。

第 59 図 1-0 区 SI 畦断面図 (1/80・1/40)



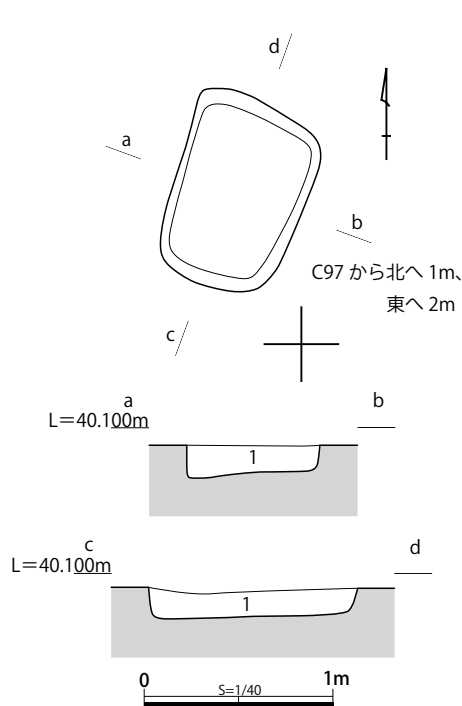
第60図 1-0区SI出土遺物

**規模・形態** 調査区の全域に広がっていたと考えられる。グリッドのZZ-Aラインに沿うようにして東西方向の畦が検出され、南北2枚の水田に分割されている。北側では東西、南北両方向の鋤跡がそれぞれ検出されている。畦の幅は1～1.3mを測り、砂岩の角礫が畦状に盛り上げられている。

**土層** 畦はシルト層3層に分層され部分的に大型の砂岩礫が集中して盛り上げられている。

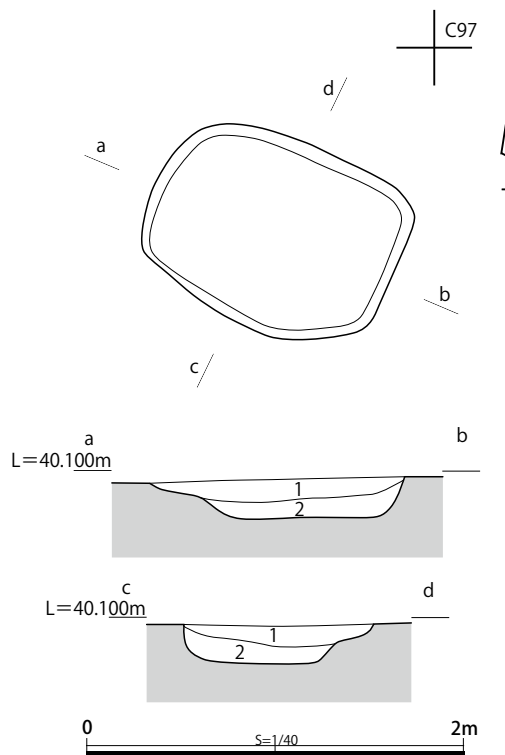
**遺物出土状況** 水田上面の包含層中より遺物が出土している。

**出土遺物** 99～108は須恵器。99～102は壺である。103～108は杯である。109、110は土師器。109は甕である。110は杯である。111黒色土器B類の杯である。112、113は弥生土器である。



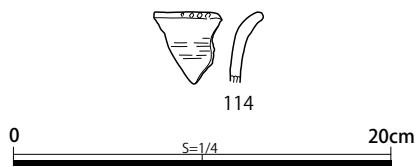
1 浅黄色 2.5Y 7/4 シルト しまり強。塊状鉄滓φ0.5~1cm、炭化物を微量、礫φ5cmをわずかに含む。ブロック(淡黄)混入。

第 61 図 1-0 区 SK1002 平断面図 (1/40)

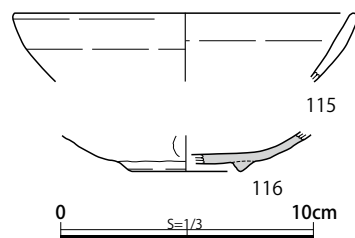


1 浅黄色 2.5Y 7/4 シルト しまり有。鉄粒極小、マンガン粒、炭化物を若干含む。  
2 浅黄色 2.5Y 7/4 シルト しまり有。鉄粒を多く、塊状マンガングφ1~2cmを含む。ブロック(灰白)混入。

第 63 図 1-0 区 SK1004 平断面図 (1/40)



第 62 図 1-0 区 SK1002 出土遺物



第 64 図 1-0 区 SK1004 出土遺物

**時期** 出土した遺物から平安時代（9 世紀）以降の時期が想定される。

2 号土坑（SK1002）（第 61・62 図）

**検出地点** C97 グリッド

**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は 1.02m、短軸は 0.70m。深さは 0.17m を測る。断面の形状は皿形である。

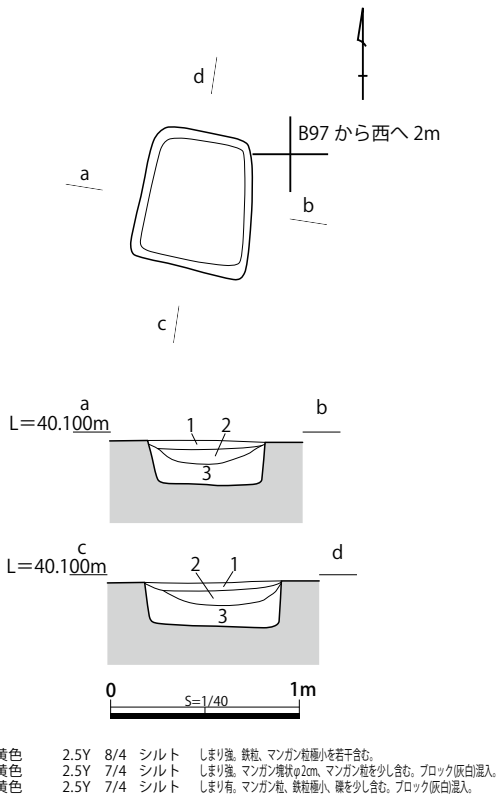
**土層** 浅黄色シルト層が 1 層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

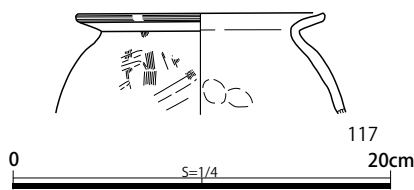
**出土遺物** 114 は弥生土器の甕の口縁部である。口縁端部に刻みがみられる。

**時期** 出土した遺物から弥生時代前期末以降の年代が想定される。

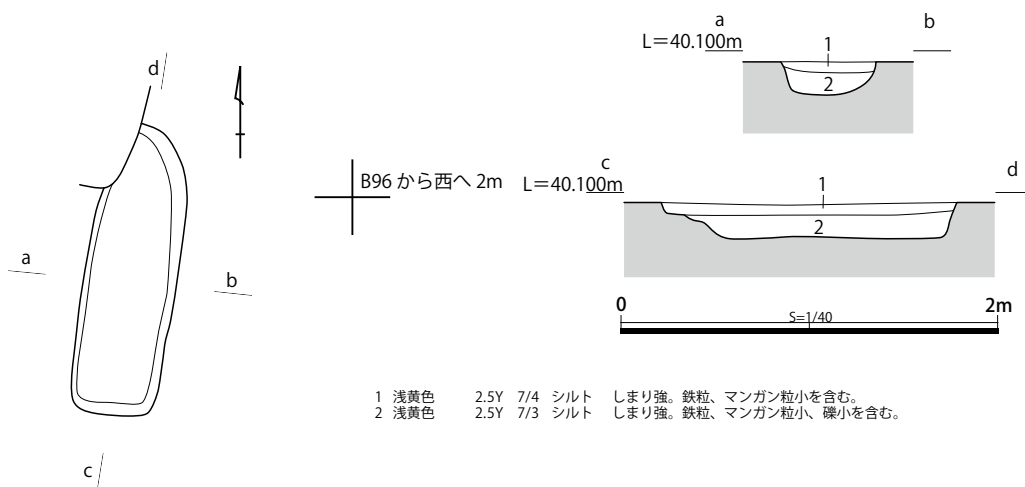




第 65 図 1-0 区 SK1006 平断面図 (1/40)



第 66 図 1-0 区 SK1006 出土遺物



第 67 図 1-0 区 SK1013 平断面図 (1/40)

#### 4号土坑 (SK1004) (第 63・64 図)

**検出地点** B96 グリッド

**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は 1.35m、短軸は 1.00m、深さは 0.21m を測る。断面の形状は 2 段形である。

**土層** 浅黄色シルト層が 2 層に分層される。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 115 は土師質土器の杯である。116 は和泉型瓦器碗である。

**時期** 出土した遺物から鎌倉時代 (13 世紀) 以降の年代が想定される。

#### 6号土坑 (SK1006) (第 65・66 図)

**検出地点** A・B96 グリッド

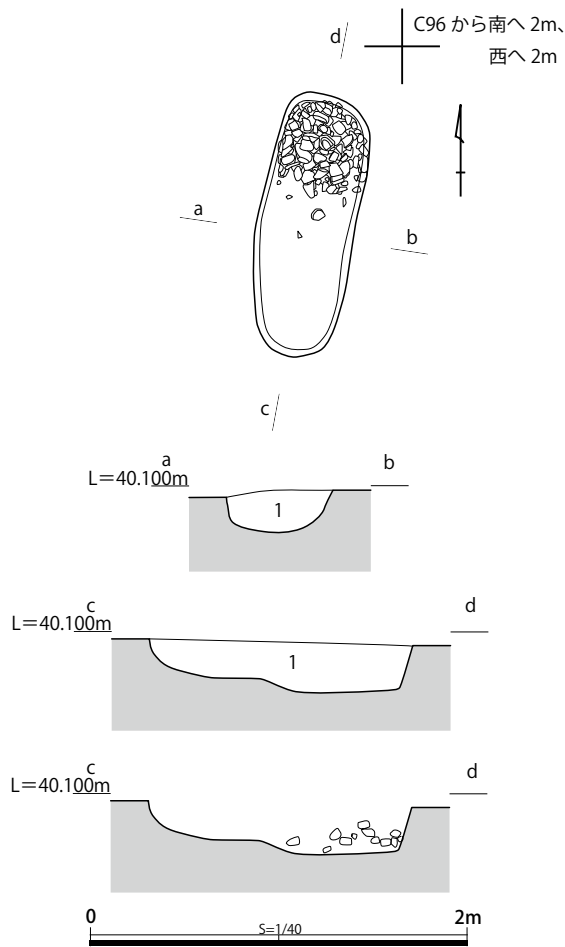
**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は 0.72m、短軸は 0.60m。深さは 0.12m を測る。断面の形状は長方形である。

**土層** 何れもシルト層で 3 層に分層され 1、2 層はレンズ状に堆積している。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

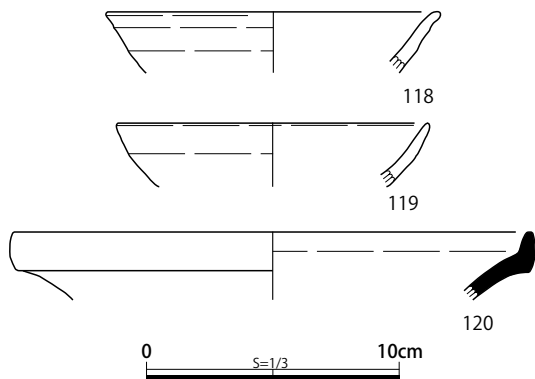
**出土遺物** 117 は弥生土器の甕で胎土から讃岐地方からの搬入品と考えられる。

**時期** 出土した遺物から弥生時代後期後半以降の年代が想定される。



1 浅黄色 2.5Y 7/4 シルト しまり強。鉄粒、マンガン粒小を含む。

第 68 図 1-0 区 SK1014 平断面図 (1/40)



第 69 図 1-0 区 SK1014 出土遺物

### 13 号土坑 (SK1013) (第 67 図)

**検出地点** A・B95 グリッド

**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は 1.56m、短軸は 0.50m。深さは 0.17m を測る。断面の形状は皿形であるが、一部が 2 段形となっている。

**土層** 浅黄色シルト層が 2 層に分層され、平行堆積をみせる。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 図化可能なものは出土していない。

**時期** 年代は特定できない。

### 14 号土坑 (SK1014) (第 68・69 図)

**検出地点** B95 グリッド

**規模・形態** 平面形状は長楕円形を呈し、長軸は 1.41m、短軸は 0.52m、深さは 0.23m を測る。断面の形状は浅い丸底形で、南北方向では 2 段形となっている。

**土層** 浅黄色シルト層が 1 層である。

**遺物出土状況** 北側寄りの下部付近を中心として拳大の砂岩角礫が集中して出土している。

**出土遺物** 118、119 は土師質土器の杯である。

120 は東播系須恵器の捏鉢である。

**時期** 出土した遺物から平安時代末～鎌倉時代 (12 世紀後半～13 世紀前半) 以降の年代が想定される。

### ②第 2 遺構面

#### 1 号竪穴住居 (SB2001) (第 71・72 図)

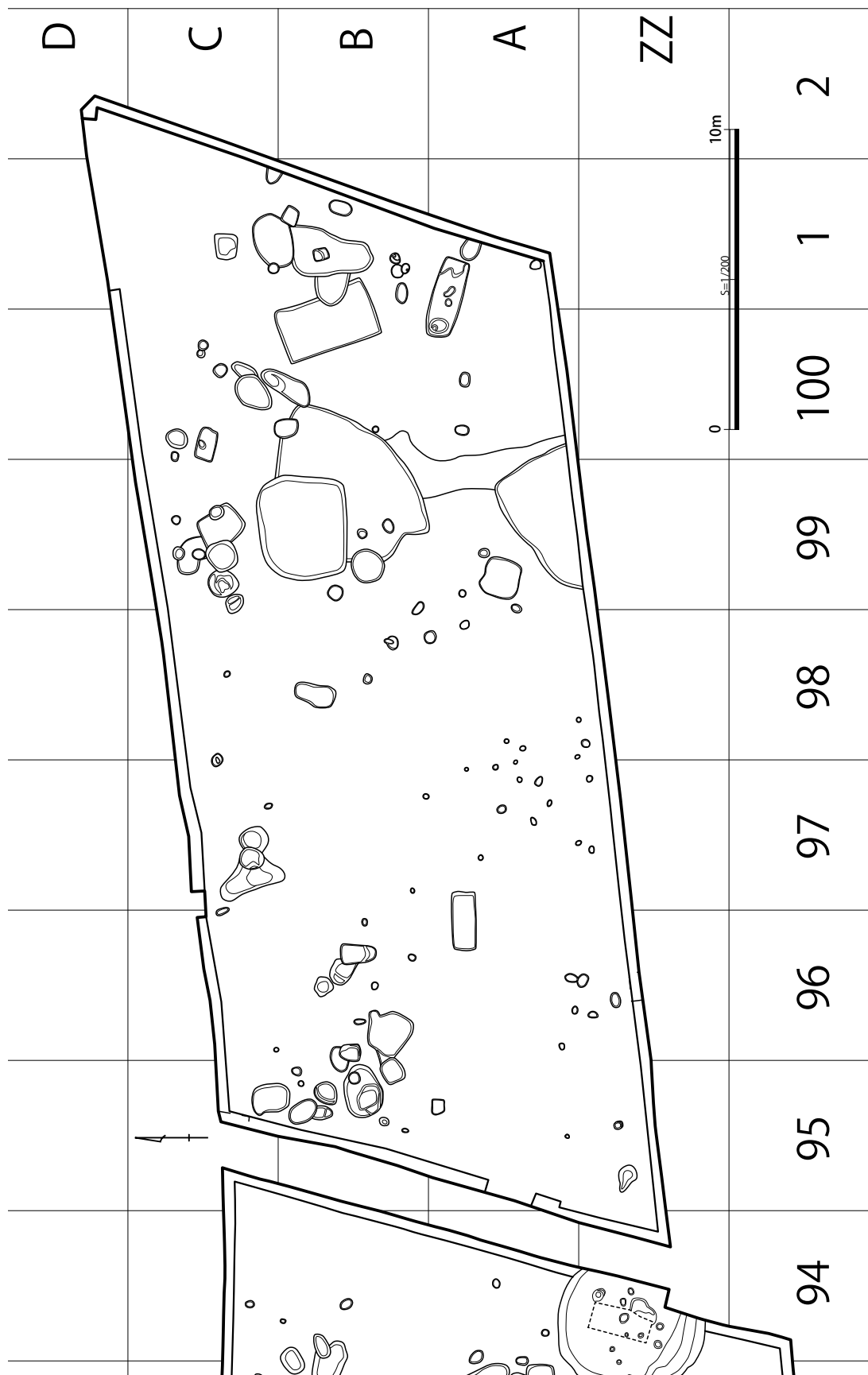
**検出地点** B100・1 グリッド

**規模・形態** 平面形状は長方形を呈し、長軸は 3.26m、短軸は 1.98m、深さは 0.17m を測る。断面の形状は浅い皿形である。柱穴 (EP)、炉 (EH) などの屋内施設は検出されていない。

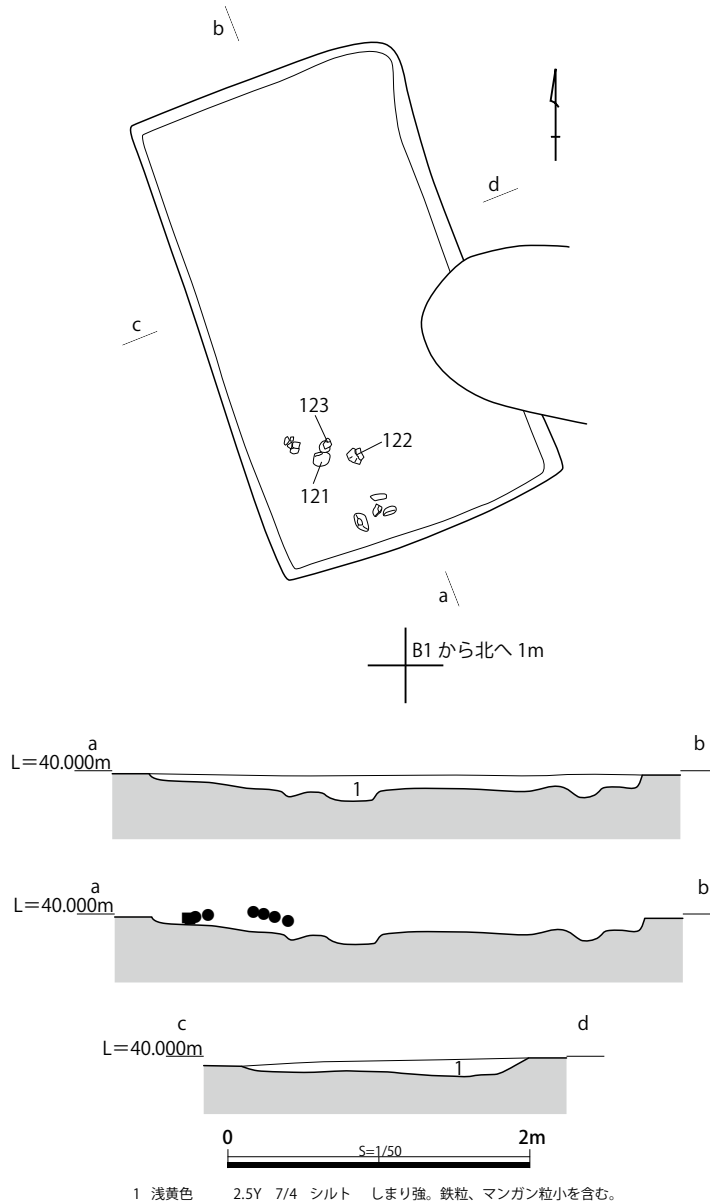
**土層** 浅黄色シルト層が 1 層である。

**遺物出土状況** 南西部分を中心に遺物が出土している。

**出土遺物** 121～123 は弥生土器。121 は壺の体部、122 は底部である。123 は高杯の脚部で裾部は屈



第70图 1-0区第2遺構面平面図 (1/200)



第 71 図 1-0 区 SB2001 平断面図 (1/50)

曲して開いている。

**時期** 出土した遺物から弥生時代終末～古墳時代初頭以降の年代が想定される。

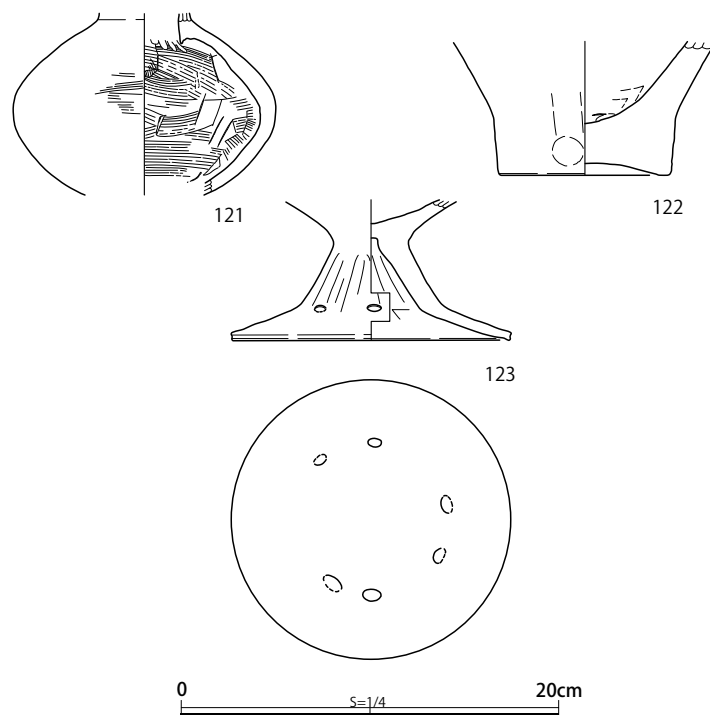
### 2号竪穴住居 (SB2002) (第 73 図)

**検出地点** B・C99 グリッド

**規模・形態** 平面形状は隅丸方形を呈し、長軸は 3.42m、短軸は 2.93m、深さは 0.25m を測る。断面の形状は皿形である。柱穴 (EP)、炉 (EH) などの屋内施設は検出されていない。

**土層** 何れもシルト層で 8 層に分層される。レンズ状の堆積をみせ、上部は浅黄色、下部にはにぶい黄色の小礫を含むシルト層が主に堆積している。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。



第72図 1-0区SB2001出土遺物

**出土遺物** 図化可能なものは出土していない。

**時期** 年代は特定できない。

### 3号竪穴住居 (SB2003) (第73～76図)

**検出地点** B99・100グリッド

**規模・形態** 平面形状は不整形で、北西部をSB2002に切られている。残存値で長軸は5.98m、短軸は3.48m、深さは0.10mを測る。断面の形状は浅い皿形である。柱穴(EP)、炉(EH)などは検出されていない。

**土層** 何れもシルト層で4層に分層される。

**遺物出土状況** 南半部分を中心として砂岩礫や土器等が出土している。西寄りにはやや小型の礫を中心として散漫に分布しており、東寄りには拳大のやや大型の礫を含む角礫が円形に集中して分布している。

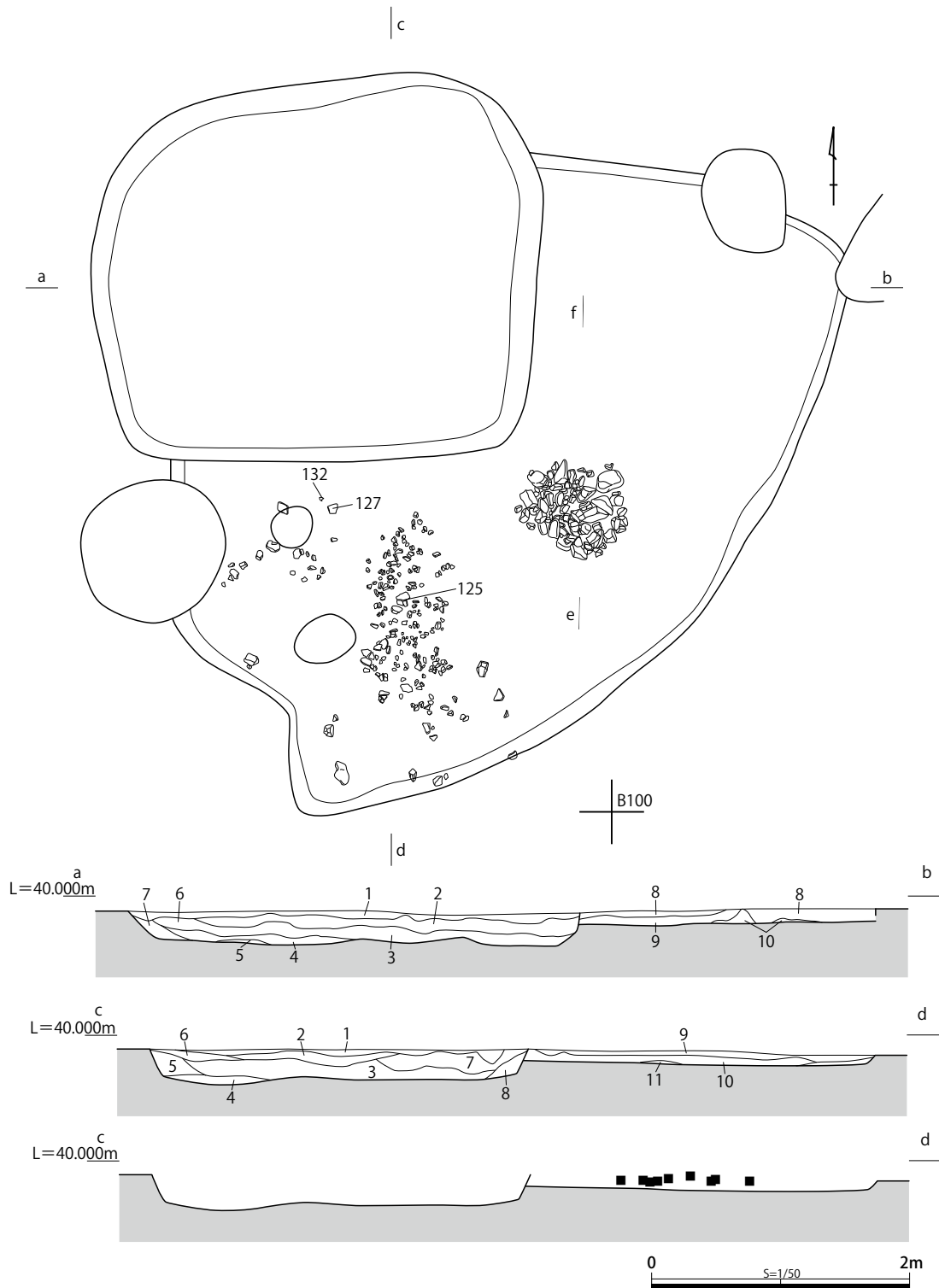
**出土遺物** 124～131は弥生土器。124、125は壺である。124は頸部に櫛描文が施されている。126～130は甕である。126は如意形口縁を呈し、口縁端部には刻み目、頸部下には櫛描文が施されている。131は高杯の杯部である。132はサヌカイト製の凹基式の石鏃である。133はサヌカイト製の石錐である。134は両極打法によるサヌカイト製の剥片である。

**時期** 出土した遺物から弥生時代前期末以降の年代が想定される。

### 4号土坑 (SK2004) (第77・78図)

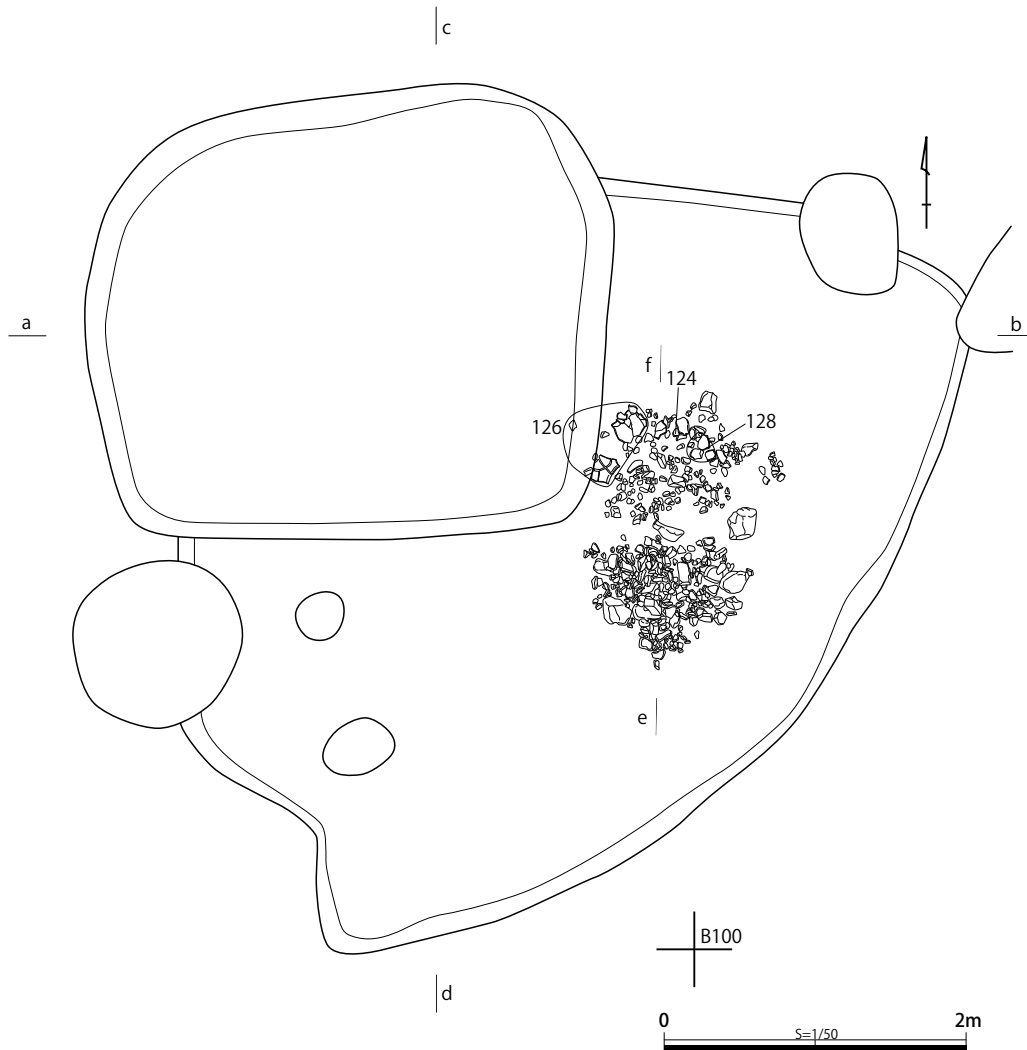
**検出地点** B1グリッド

**規模・形態** 平面形状は北側がやや幅広で隅丸の台形を呈し、北側をSK2003に切られている。残存



- |    |       |      |     |     |   |
|----|-------|------|-----|-----|---|
| 1  | 浅黄色   | 2.5Y | 7/4 | シルト | しまり強い。マンガン粒少小を多く含む。礫φ1~3cmを多く含む。              |
| 2  | 浅黄色   | 2.5Y | 7/3 | シルト | しまり強い。マンガン粒少小を多く含む。礫φ1~3cmを多く含む。              |
| 3  | にぶい黄色 | 2.5Y | 6/3 | シルト | しまり強い。マンガン粒少小を多く含む。礫φ1~3cmを多く含む。ブロック(灰白)混入。   |
| 4  | にぶい黄色 | 2.5Y | 6/4 | シルト | しまり強い。マンガン粒少小を多く含む。礫φ1~3cmを多く含む。ブロック(灰白)混入。   |
| 5  | 黄褐色   | 2.5Y | 5/4 | シルト | しまり強い。マンガン粒少小を多く含む。ブロック(灰白)混入。                |
| 6  | 浅黄色   | 2.5Y | 7/3 | シルト | しまり強い。鉄、マンガン粒種小を微量含む。礫φ1~2cmを少し含む。ブロック(灰白)混入。 |
| 7  | にぶい黄色 | 2.5Y | 6/4 | シルト | しまり強い。鉄、マンガン粒小を多く含む。ブロック(灰白)混入。               |
| 8  | 浅黄色   | 2.5Y | 7/4 | シルト | しまり強い。鉄、マンガン粒小を多く含む。礫φ1~2cmを含む。ブロック(灰白)混入。    |
| 9  | 浅黄色   | 2.5Y | 7/4 | シルト | しまり強い。マンガン粒少小を多く含む。                           |
| 10 | 浅黄色   | 2.5Y | 7/4 | シルト | しまり強い。鉄、マンガン粒小を多く含む。                          |
| 11 | 明黄褐色  | 2.5Y | 6/6 | シルト | しまり強い。鉄、マンガン粒種小を多く含む。ブロック(灰白)混入。              |

第73図 1-0区 SB2002・SB2003 平断面図① (1/50)



第 74 図 1-0 区 SB2002・SB2003 平断面図② (1/50)

値で長軸は 2.66m、短軸は 1.39m、深さは 0.12m を測る。断面の形状は皿形である。

**土層** 何れもシルト層で 3 層に分層される。

**遺物出土状況** 北東隅付近から土器が出土している。

**出土遺物** 135 は弥生土器で口縁部が僅かに開く鉢である。

**時期** 出土した遺物の年代から弥生時代前期末以降の年代が想定される。

#### 19 号土坑 (SK2019) (第 79・80 図)

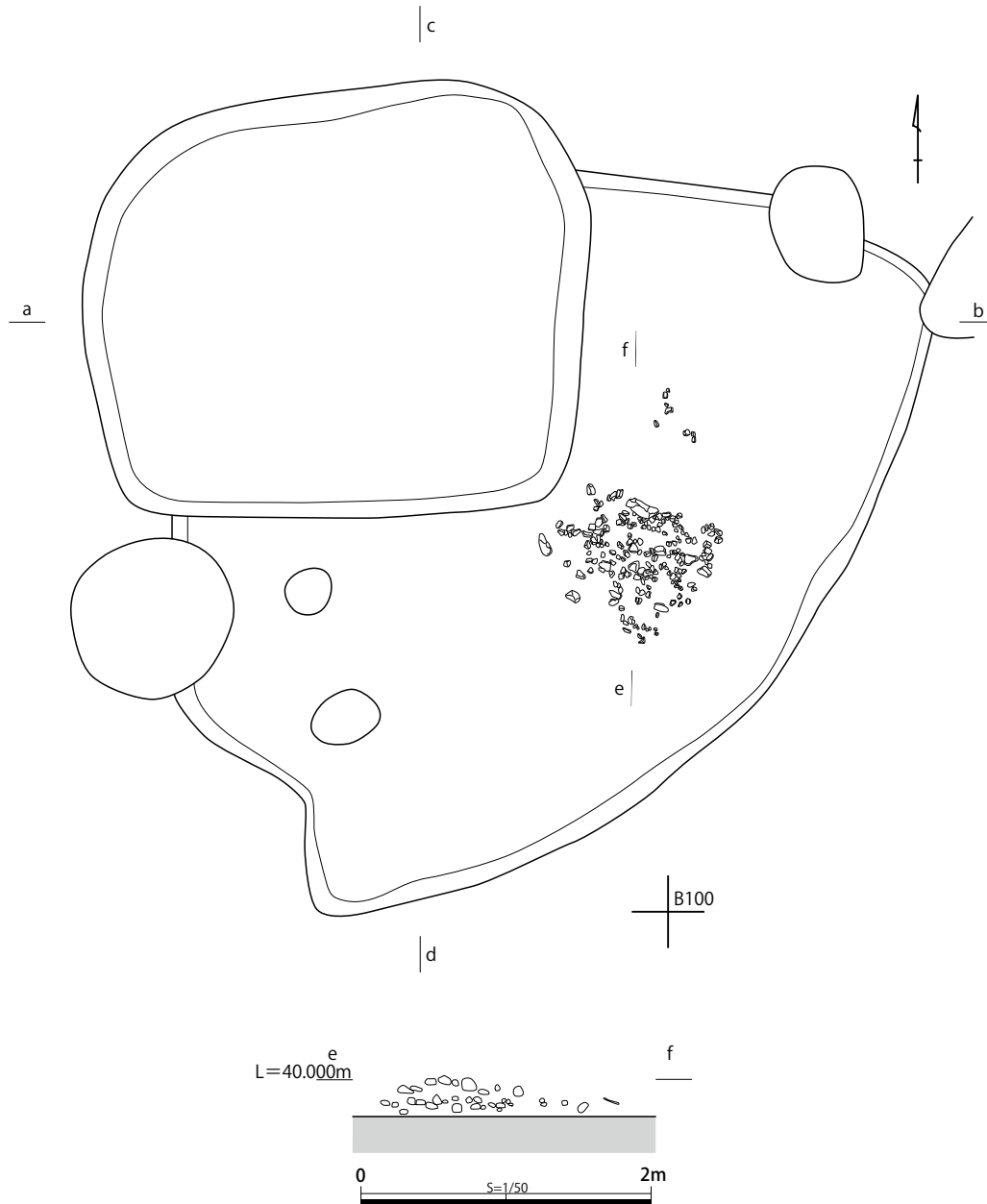
**検出地点** C97 グリッド

**規模・形態** 平面形状はほぼ円形を呈し、西側を SK2020 に切られている。残存値で長軸は 0.90m、短軸は 0.88m、深さは 0.35m を測る。断面の形状は 2 段形である。

**土層** 何れもシルト層で 3 層に分層される。上部は浅黄色、下部にはにぶい黄褐色のシルト層が堆積している。

**遺物出土状況** 中央の 2 層中より遺物が出土している。

**出土遺物** 136、137 は弥生土器。136 は甕の底部である。137 は鉢で口縁部は屈曲して開いている。



第 75 図 1-0 区 SB2002・SB2003 平面図③ (1/50)

**時期** 出土した遺物から弥生時代前期末以降の年代が想定される。

20 号土坑 (SK2020) (第 79 図)

**検出地点** C97 グリッド

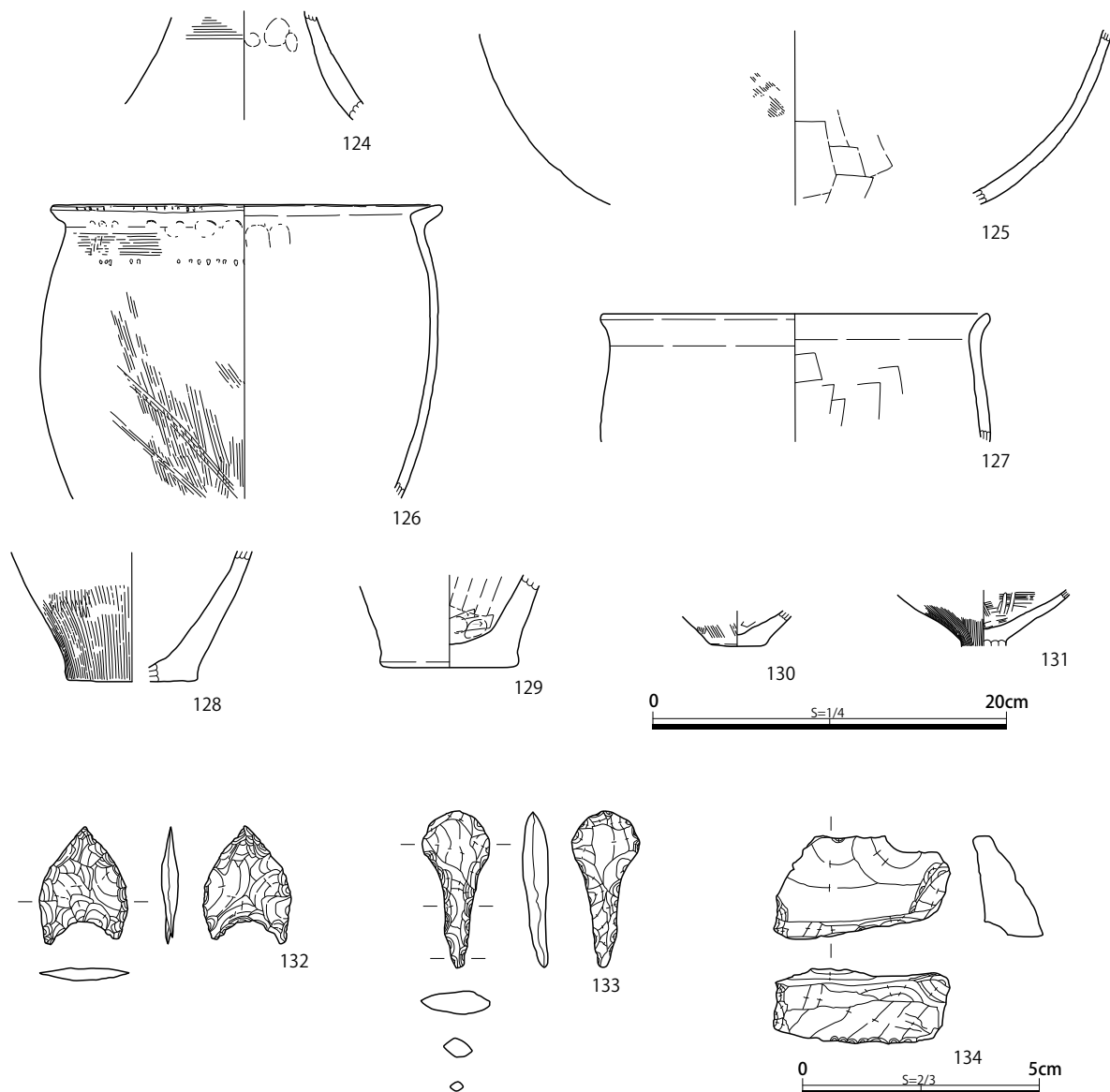
**規模・形態** 平面形状はほぼ円形を呈し、径は 0.80m、深さは 0.27m を測る。断面の形状は逆台形状である。

**土層** 何れもシルト層で 6 層に分層される。

**遺物出土状況** 東壁付近より砂岩礫が出土している。

**出土遺物** 図化可能なものは出土していない。





第76図 1-0区 SB2003 出土遺物

**時期** 隣接する SK2019 の出土遺物から弥生時代前期末以降の年代が想定される。

23号土坑 (SK2023) (第81・82図)

**検出地点** B96 グリッド

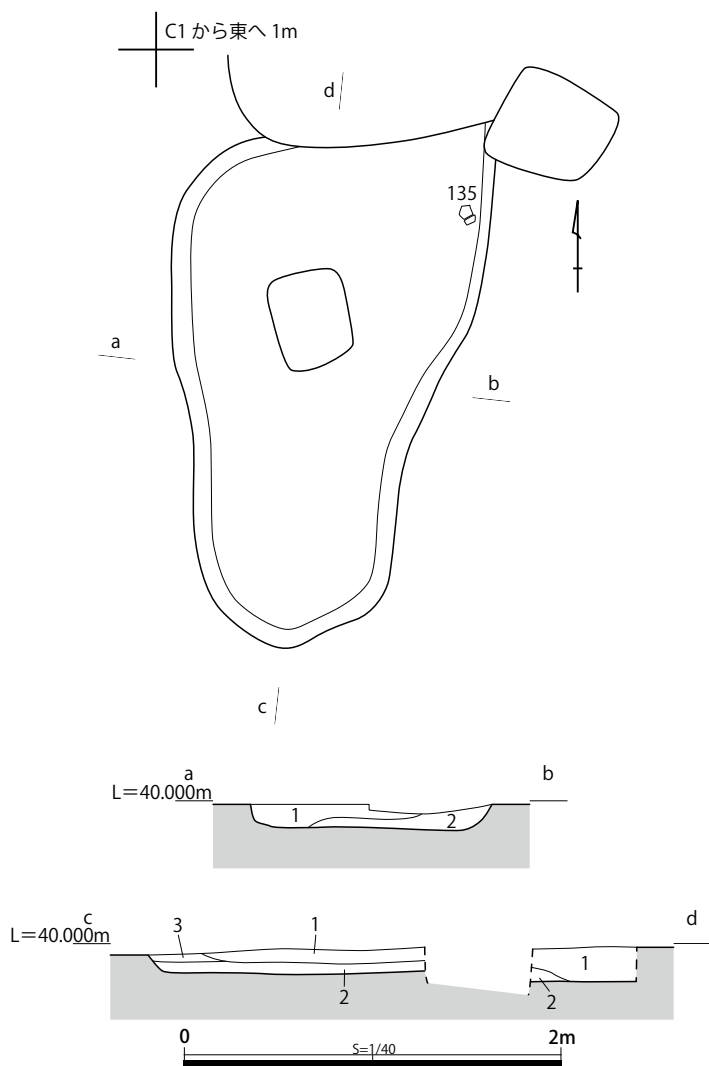
**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は 1.20m、短軸は 0.60m、深さは 0.45m を測る。断面の形状は東西方向は方形、南北方向では 2 段形である。

**土層** 何れもシルト層で 11 層に分層される。上部は浅黄色、下部には黄褐色のシルト層が堆積している。

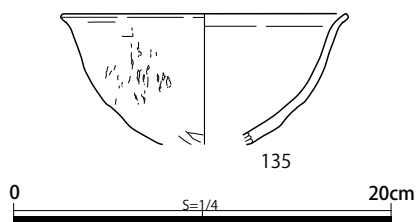
**遺物出土状況** 底部中央付近から人頭大の砂岩角礫が、その他は上面付近より土器が出土している。

**出土遺物** 138 は弥生土器の高杯で、口縁部が外に大きく開いている。

**時期** 出土した遺物から弥生時代中期初頭以降の年代が想定される。



第77図 1-0区 SK2004 平断面図 (1/40)



第78図 1-0区 SK2004 出土遺物

27号土坑 (SK2027) (第83・84図)

検出地点 B96 グリッド

**規模・形態** 平面の形状は隅丸方形で、北東部に小さな突出部が存在している。長軸は1.55m、短軸は1.42m、深さは0.32mを測る。断面の形状は2段形である。

**土層** 何れもシルト層で12層に分層される。上部は浅黄色、下部には黄褐色のシルト層が主に堆積している。

**遺物出土状況** 大型の砂岩礫は底部付近から、土器類は中層からやや上面にかけて出土している。

**出土遺物** 139~146は弥生土器。139~141は壺である。139は口縁部が緩やかに外反する広口壺である。140、141は体部の上半部で櫛描による直線文と波状文が描かれている。142~146は甕の底部と考えられる。

**時期** 出土した遺物から弥生時代中期初頭以降の年代が想定される。

28号土坑 (SK2028) (第83・85図)

検出地点 B95・96 グリッド

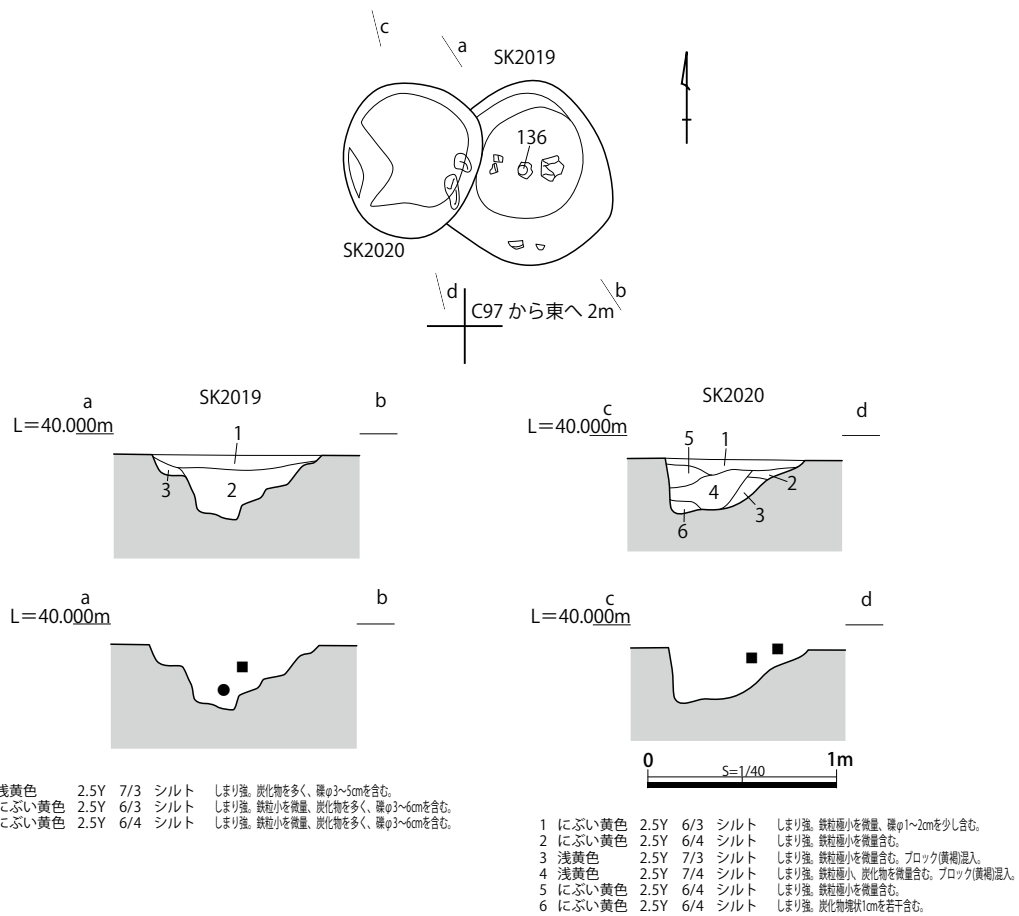
**規模・形態** 平面形状は隅丸方形を呈し、長軸が0.89m、短軸は0.72m、深さは0.22mを測る。断面の形状は長方形である。

**土層** 何れもシルト層で7層に分層される。上部は浅黄色、下部にはにぶい黄色のシルト層が堆積している。

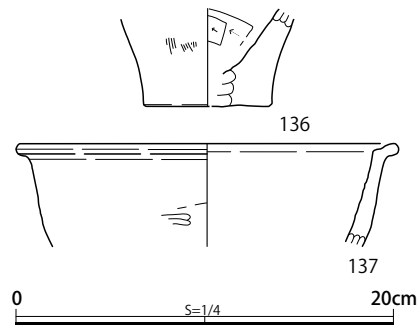
**遺物出土状況** 底部付近より土器が出土している。

**出土遺物** 147、148は弥生土器の甕の底部である。

**時期** 出土した遺物から弥生時代中期以降の年代が想定される。



第79図 1-0区 SK2019・SK2020 平断面図 (1/40)



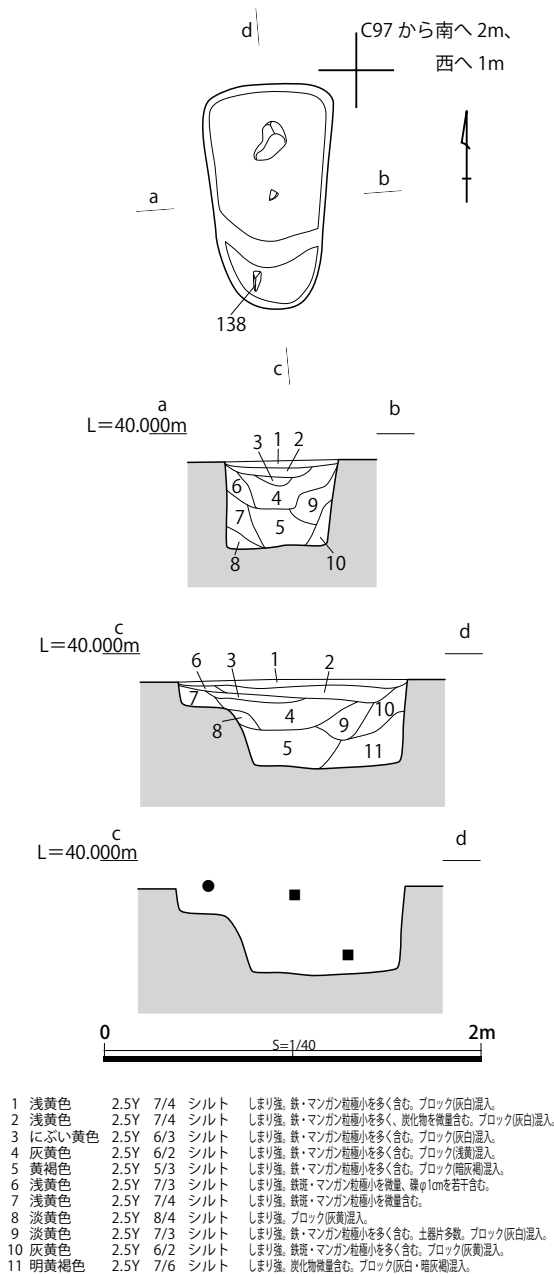
第80図 1-0区 SK2019 出土遺物

34号土坑 (SK2034) (第86・87図)

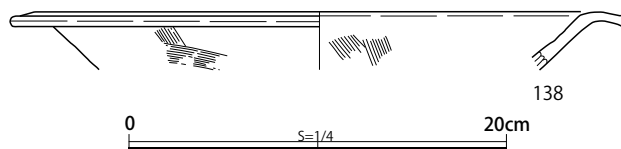
**検出地点** B95 グリッド

**規模・形態** 平面の形状は楕円形を呈し、長軸は 1.76m、短軸は 1.26m、深さは 0.24m を測る。断面の形状は 2 段形である。

**土層** 何れもシルト層で 7 層に分層される。上部は浅黄色、下部にはにぶい黄色や黄褐色のシルト層が堆積している。



第 81 図 1-0 区 SK2036 平断面図 (1/40)



第 82 図 1-0 区 SK2037 出土遺物

**遺物出土状況** 中央付近を中心として出土している。

**出土遺物** 149～150 は弥生土器。149 は壺である。150、151 は甕で、150 の口縁部は逆 L 字形で頸部下には櫛描文が施されている。

**時期** 出土した遺物から弥生時代前期末以降の年代が想定される。

36 号土坑 (SK2036) (第 88・89 図)

**検出地点** B95 グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.77m、短軸は 0.70m、深さは 0.19m を測る。断面の形状は 2 段形である。

**土層** どれもシルト層で 6 層に分層される。レンズ状の堆積をみせ、上部は浅黄色、下部にはにぶい黄色のシルト層が堆積している。

**遺物出土状況** 中央底部付近から出土している。

**出土遺物** 152、153 は弥生土器の甕の底部である。

**時期** 出土した遺物から弥生時代前期末～中期中頭以降の年代が想定される。

37 号土坑 (SK2037) (第 90・91 図)

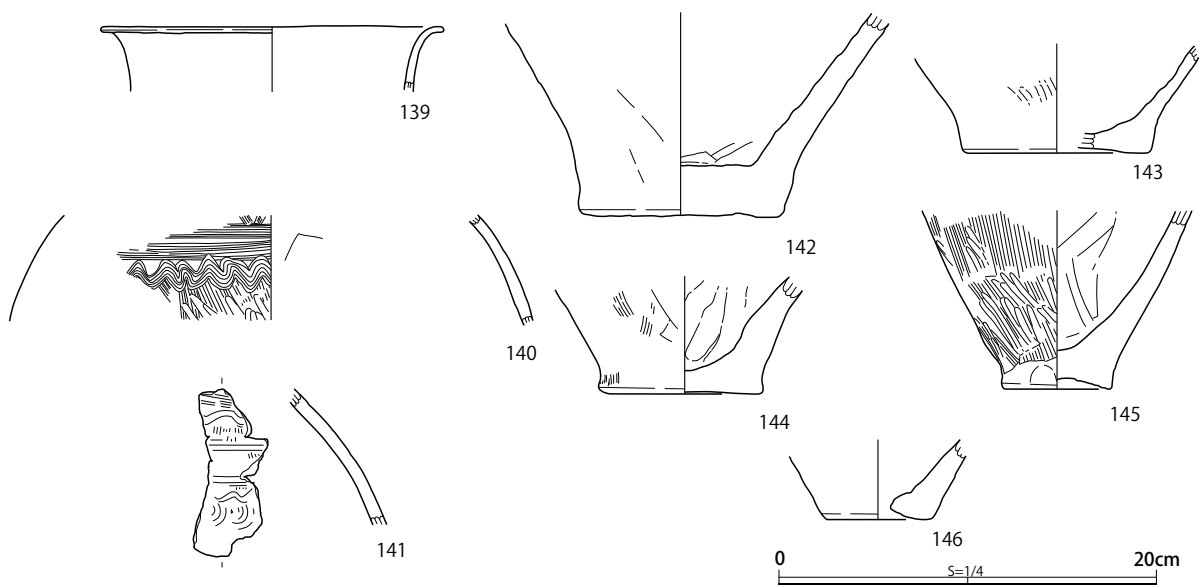
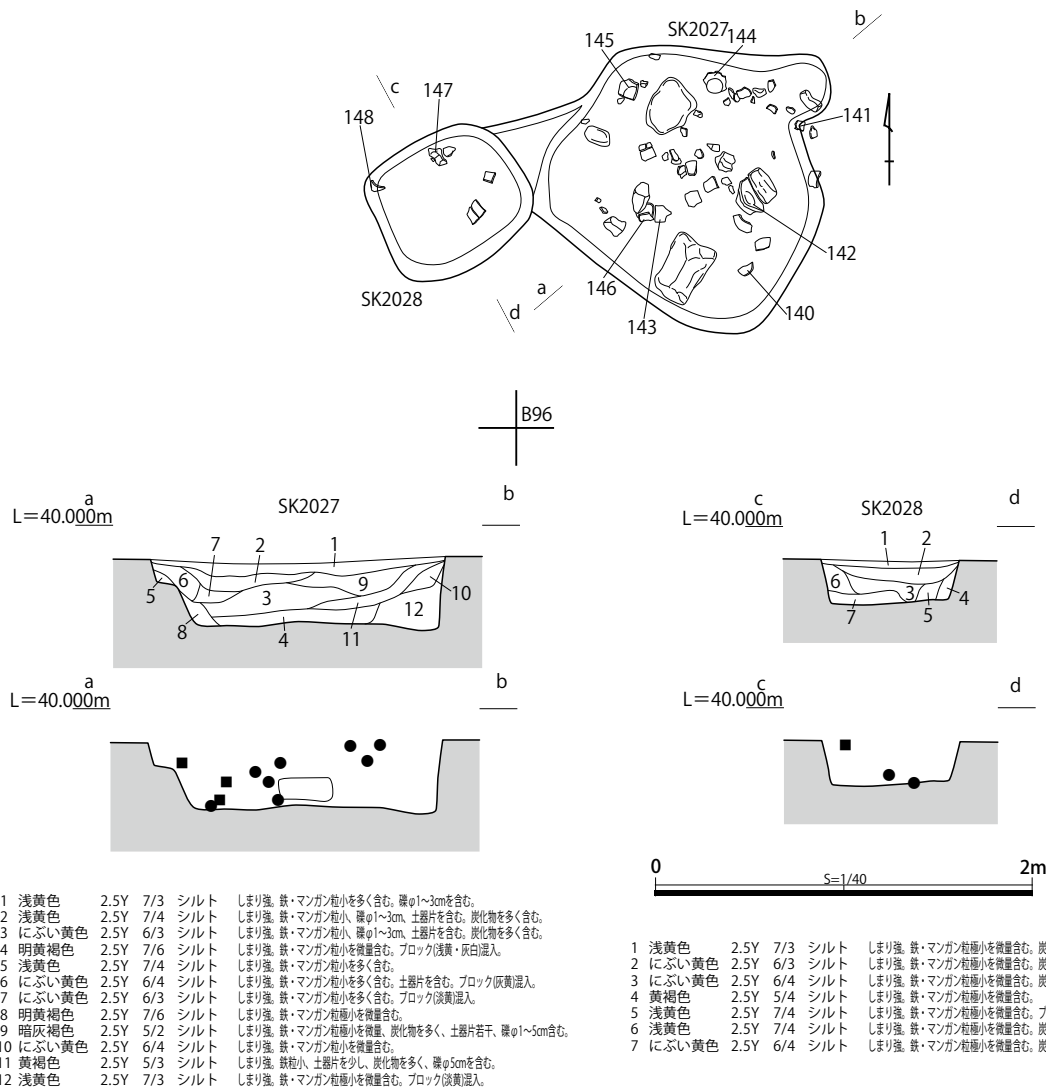
**検出地点** B95 グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 1.02m、短軸は 0.68m、深さは 0.15m を測る。断面の形状は皿形である。

**土層** 浅黄色シルト層で上下 2 層に分層される。

**遺物出土状況** 底部中央付近を中心として出土している。

**出土遺物** 154、155 は弥生土器の甕である。154 は口縁部は僅かに屈曲して直線的に開いており、頸部下



には簡描文が施されている。

**時期** 出土した遺物から弥生時代前期末～中期初頭以降の年代が想定される。

#### 44号土坑 (SK2044) (第92・93図)

**検出地点** B・C95 グリッド

**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は 1.30m、短軸は 0.95m、深さは 0.27m を測る。断面の形状は緩やかな 2 段形である。

**土層** 何れもシルト層で 10 層に分層され、下層付近には炭化物が含まれている。

**遺物出土状況** 中央と南壁付近から出土している。

**出土遺物** 156～161 は弥生土器の甕である。156 はやや短めの口縁部で端部には刻み目が施されている。体部大きく張り出し気味で外面はヘラミガキがみられる。157 は口縁部はくの字に屈曲して直線的に開き、端部を丸く収めている。

**時期** 出土した遺物から弥生時代中期初頭以降の年代が想定される。

#### 2号集石 (SU2002) (第94・95図)

**検出地点** B96 グリッド

**規模・形態** 平面形状はやや不整な円形を呈し、長軸は 0.67m、短軸は 0.61m、深さは 0.07m の浅い掘り込みを伴っている。断面の形状は浅い皿形である。

**土層** 明黄褐色シルト層が 1 層である。

**遺物出土状況** 上面付近を中心として拳大の砂岩の角礫や扁平礫がまとまって出土している。

**出土遺物** 162 は弥生土器で、体部が算盤玉形の細頸壺である。

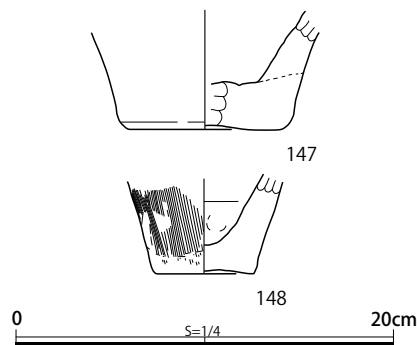
**時期** 出土した遺物から弥生時代終末期以降の年代が想定される。

#### 3号集石 (SU2003) (第96・97図)

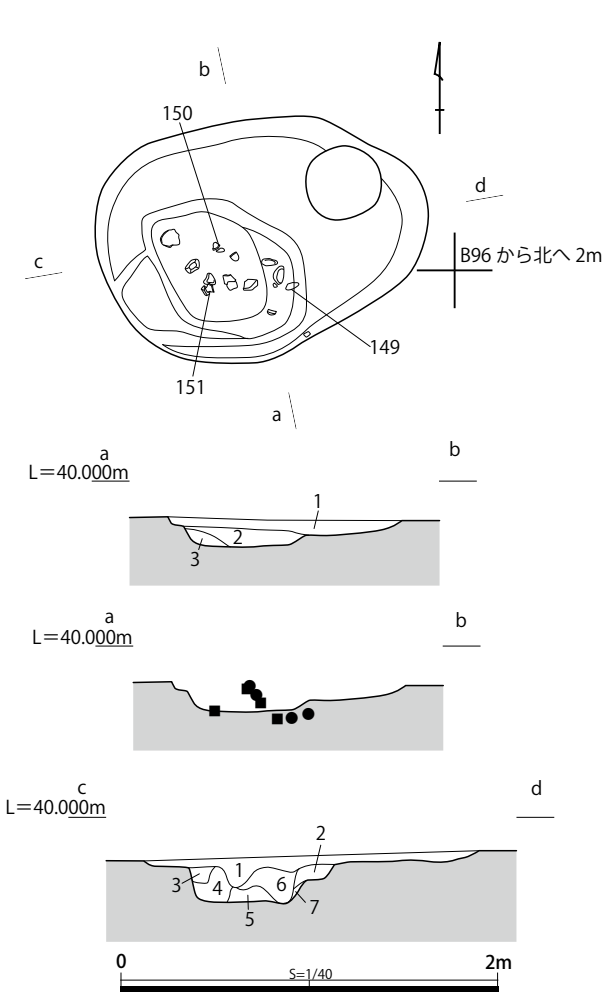
**検出地点** A95 グリッド

**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は 0.50m、短軸は 0.42m、深さは 0.13m の掘り込みを伴っている。断面の形状は長方形である。

**土層** 明褐色シルトが 1 層である。

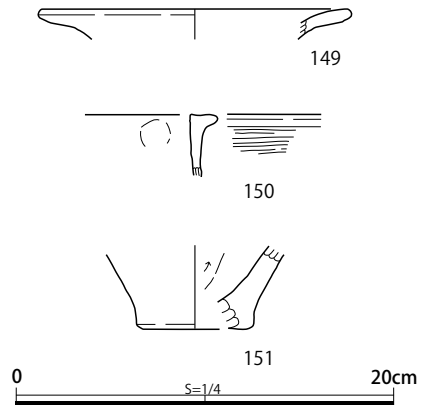


第 85 図 1-0 区 SK2028 出土遺物

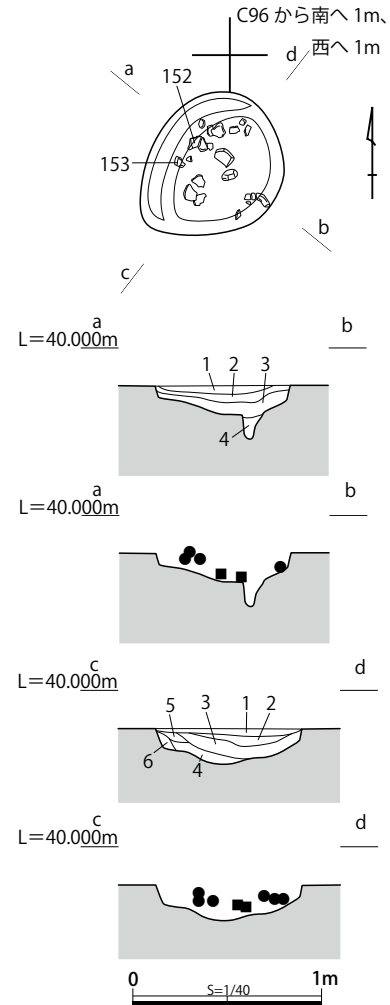


- |   |       |      |     |     |                                       |
|---|-------|------|-----|-----|---------------------------------------|
| 1 | 浅黄色   | 2.5Y | 7/3 | シルト | しまり強、鉄・マンガン粒種小を含む、炭化物を微量、砂岩礫を含む。      |
| 2 | にぶい黄色 | 2.5Y | 6/3 | シルト | しまり強、鉄・マンガン粒、炭化物を微量含む。                |
| 3 | 浅黄色   | 2.5Y | 7/4 | シルト | しまり強、鉄・マンガン粒、炭化物を微量含む、ブロック灰白混入。       |
| 4 | 黄褐色   | 2.5Y | 5/3 | シルト | しまり強、鉄・マンガン粒、炭化物を微量含む、土器片、礫φ3cmを若干含む。 |
| 5 | にぶい黄色 | 2.5Y | 6/4 | シルト | しまり強、鉄・マンガン粒、炭化物を微量含む。                |
| 6 | 黄褐色   | 2.5Y | 5/4 | シルト | しまり強、鉄・マンガン粒、炭化物を多く含む、ブロック灰黄混入。       |
| 7 | にぶい黄色 | 2.5Y | 6/4 | シルト | しまり強、鉄・マンガン粒、炭化物を微量含む。                |

第86図 1-0区 SK2034 平断面図 (1/40)

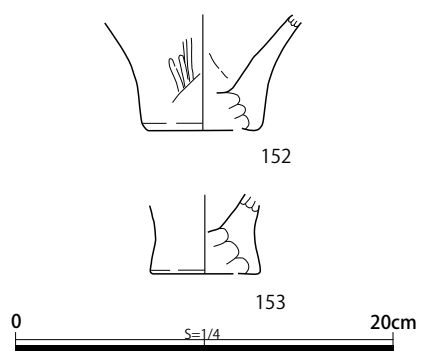


第87図 1-0区 SK2034 出土遺物

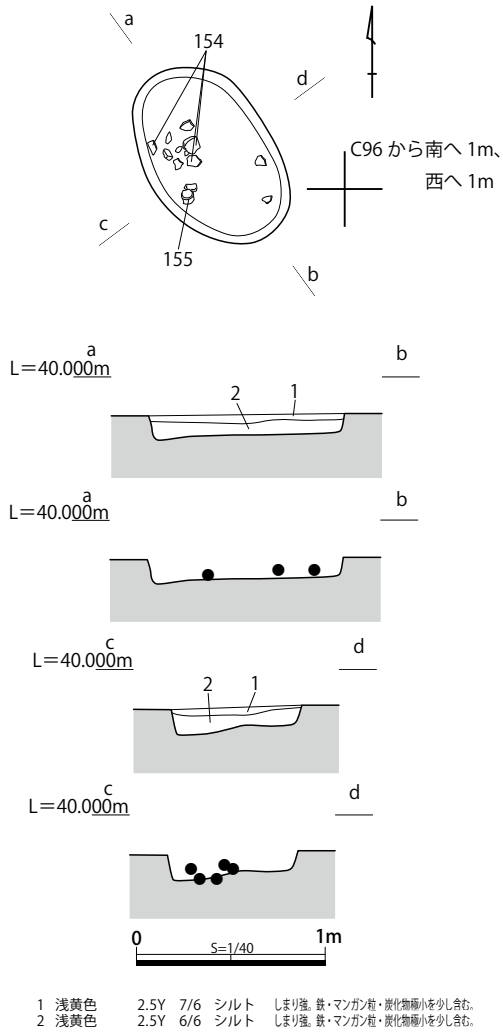


- |   |       |      |     |     |                                       |
|---|-------|------|-----|-----|---------------------------------------|
| 1 | 浅黄色   | 2.5Y | 7/3 | シルト | しまり強、鉄粒種小を微量含む。                       |
| 2 | にぶい黄色 | 2.5Y | 6/3 | シルト | しまり強、鉄粒種小を微量含む、炭化物、土器片を少し含む、ブロック灰黄混入。 |
| 3 | にぶい黄色 | 2.5Y | 6/4 | シルト | しまり強、鉄粒種小を微量含む、炭化物、礫小を少し含む、ブロック灰黄混入。  |
| 4 | にぶい黄色 | 2.5Y | 6/4 | シルト | しまり強、炭化物を多く含む、砂岩礫を含む。                 |
| 5 | 浅黄色   | 2.5Y | 7/3 | シルト | しまり強、鉄・マンガン粒種小を少し含む。                  |
| 6 | 黄褐色   | 2.5Y | 7/4 | シルト | しまり強、鉄・マンガン粒種小を少し含む。                  |

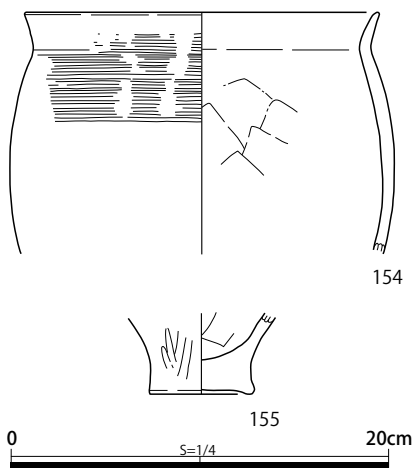
第88図 1-0区 SK2036 平断面図 (1/40)



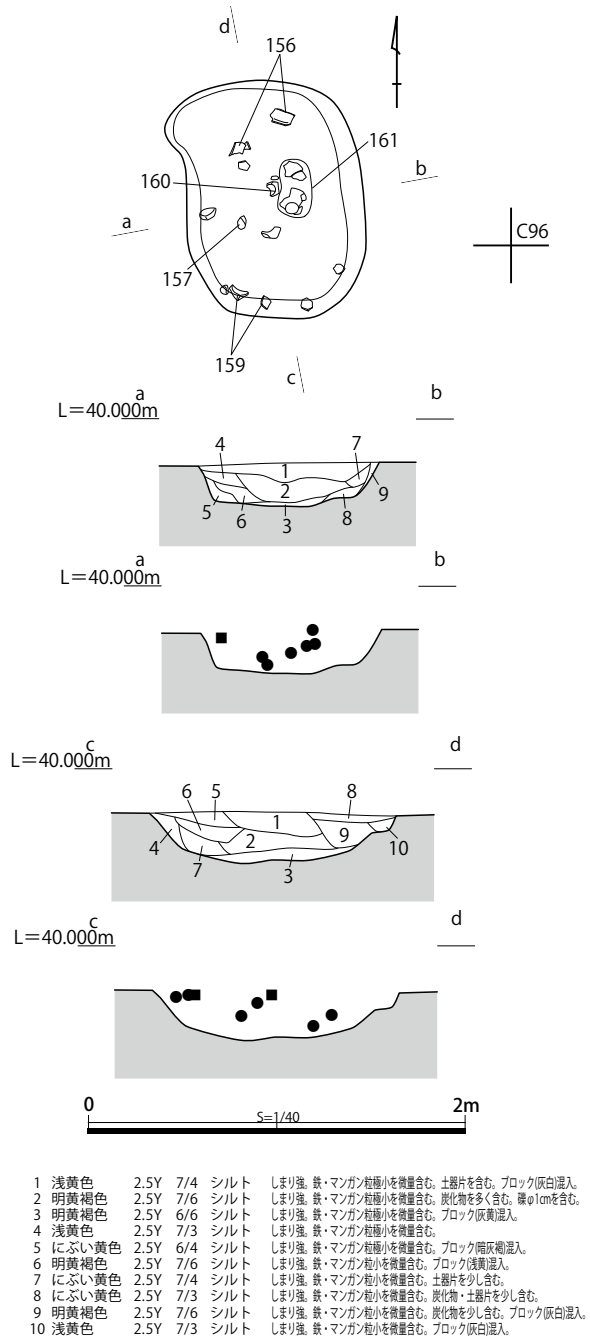
第89図 1-0区 SK2036 出土遺物



第90図 1-0区 SK2037 平断面図 (1/40)

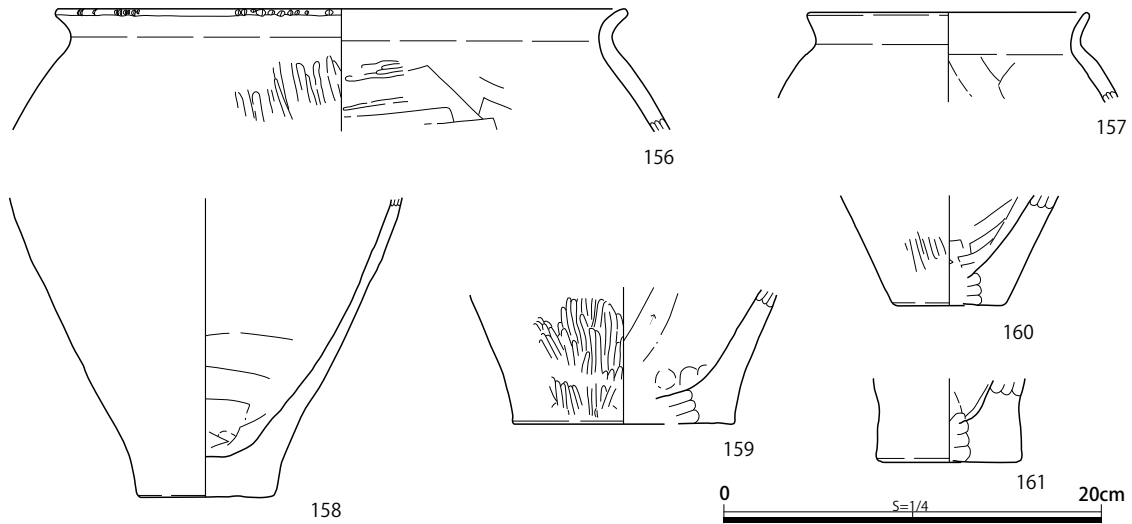


第91図 1-0区 SK2037 出土遺物

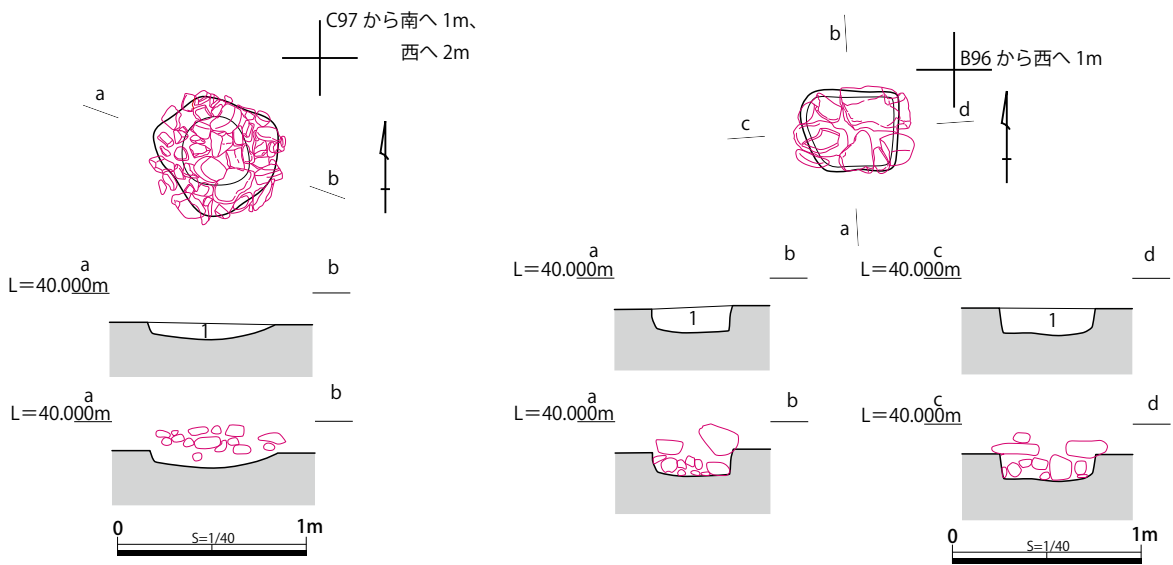


第92図 1-0区 SK2044 平断面図 (1/40)



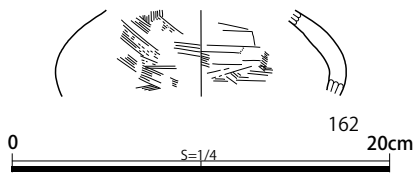


第 93 図 1-0 区 SK2044 出土遺物

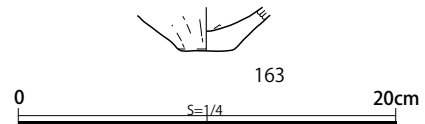


第 94 図 1-0 区 SU2002 平断面図 (1/40)

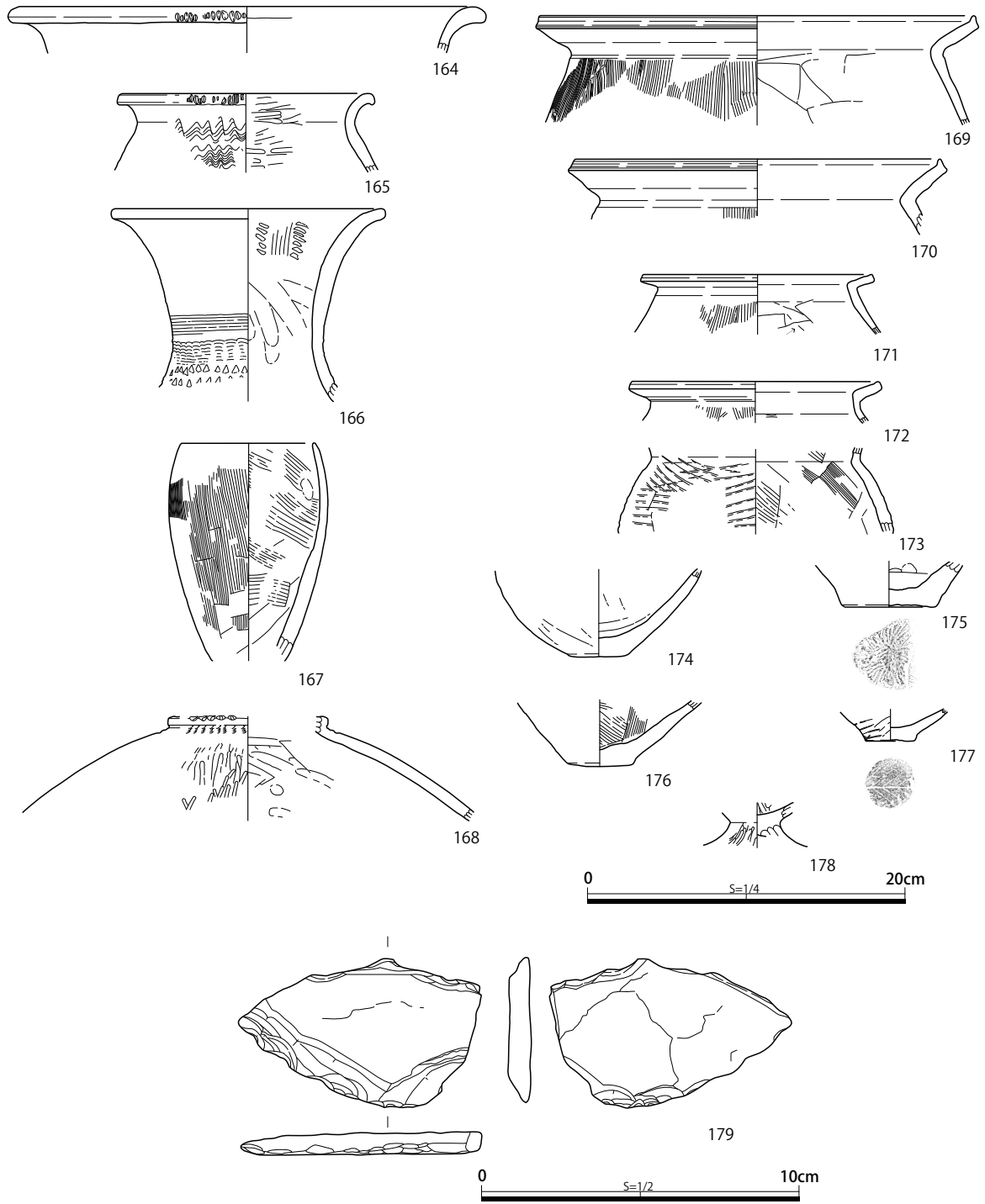
第 96 図 1-0 区 SU2003 平断面図 (1/40)



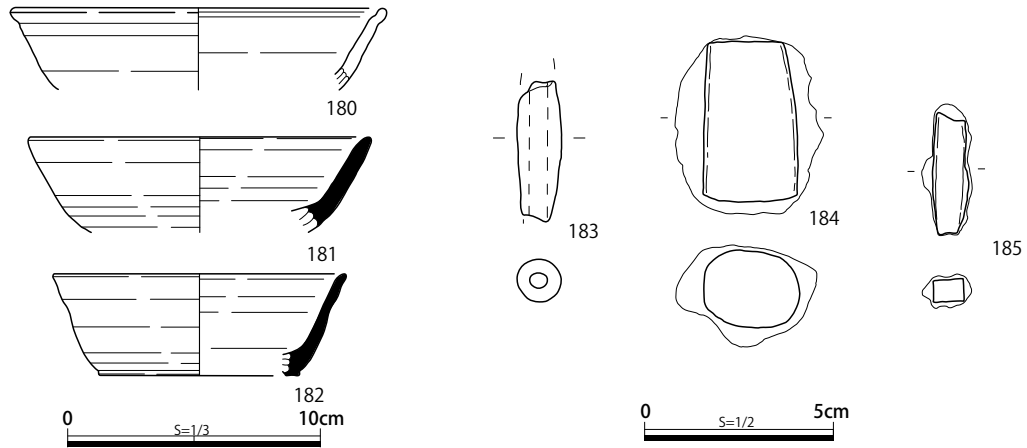
第 95 図 1-0 区 SU2002 出土遺物



第 97 図 1-0 区 SU2003 出土遺物



第 98 图 1-0 区包含層出土遺物①



第 99 図 1-0 区包含層出土遺物②

**遺物出土状況** 下部には小型の砂岩角礫が多くみられ、上面にはやや大型の板状の礫が覆うように置かれていた。

**出土遺物** 163 は弥生土器の壺の底部とみられる。

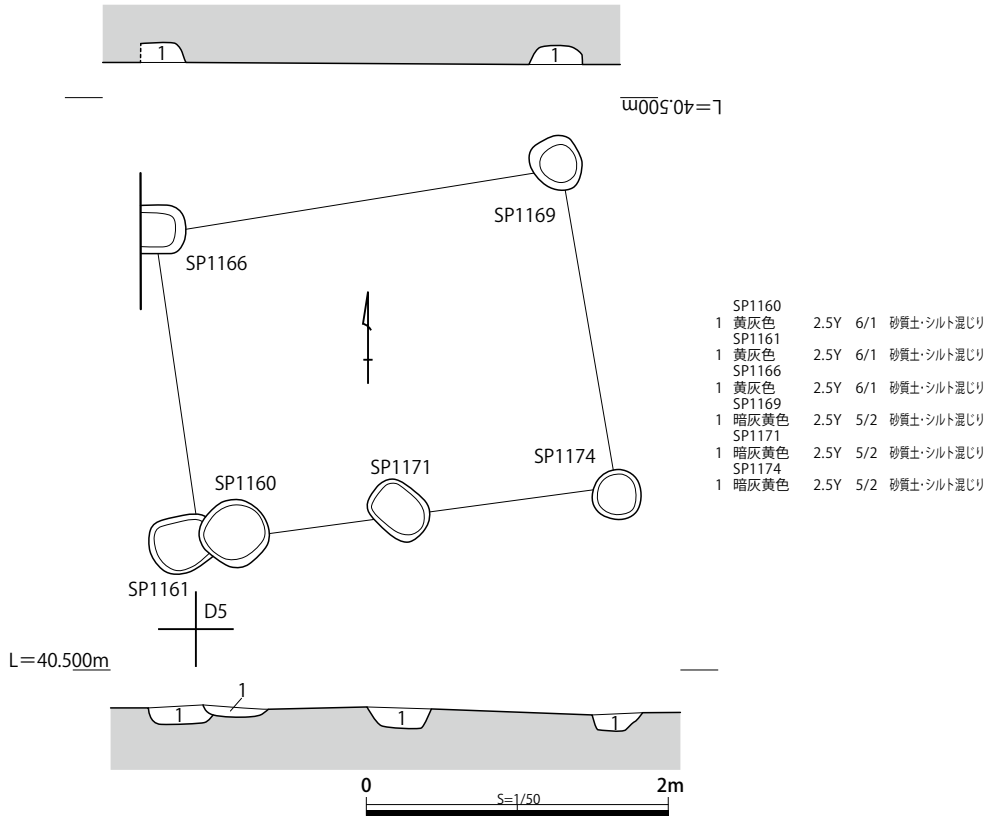
**時期** 出土した遺物から弥生時代後期後半以降の年代が想定される。

#### 包含層出土遺物（第 98・99 図）

164～178 は弥生土器。164～168 は壺である。164、165 は広口壺で、164 は口縁端部に刻み目、165 は口縁端部に刻み目と頸部から体部にかけて櫛描波状文が施されている。166 は長頸壺で口縁部内面と外面頸部に列点文と櫛描文が施されている。167 は後期の細頸壺である。169～175 は甕である。176、177 は鉢。177 は底部に木の葉の圧痕が残されている。178 は高杯の脚部である。179 は結晶片岩製の石庖丁の可能性はある。180 は土師器の杯である。181、182 は須恵器の杯である。183 は管状の土錘である。184 は用途不明の鉄製品。185 は鉄釘と考えられる。



第 100 图 1-1 区西平面图 (1/250)



第101図 1-1区西 SA1001 平断面図 (1/50)

(4) 1-1区西 (第100図)

1-1区西は2か所の調査区に分かれて調査が行われている。確認された遺構面は1面で、検出された遺構は掘立柱建物 (SA) が8棟、溝 (SD) が3条、土坑 (SK) が33基、小穴 (SP) が505基となっている。

1号掘立柱建物 (SA1001) (第101図)

**検出地点** D4・5グリッド

**規模・形態** 梁間1間 (2.13m) × 桁行2間 (2.60m)、床面積 5.54㎡の側柱建物である。建物の主軸方向は N - 81° - E である。

**土層** 黄灰色または暗灰黄色シルト層が1層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

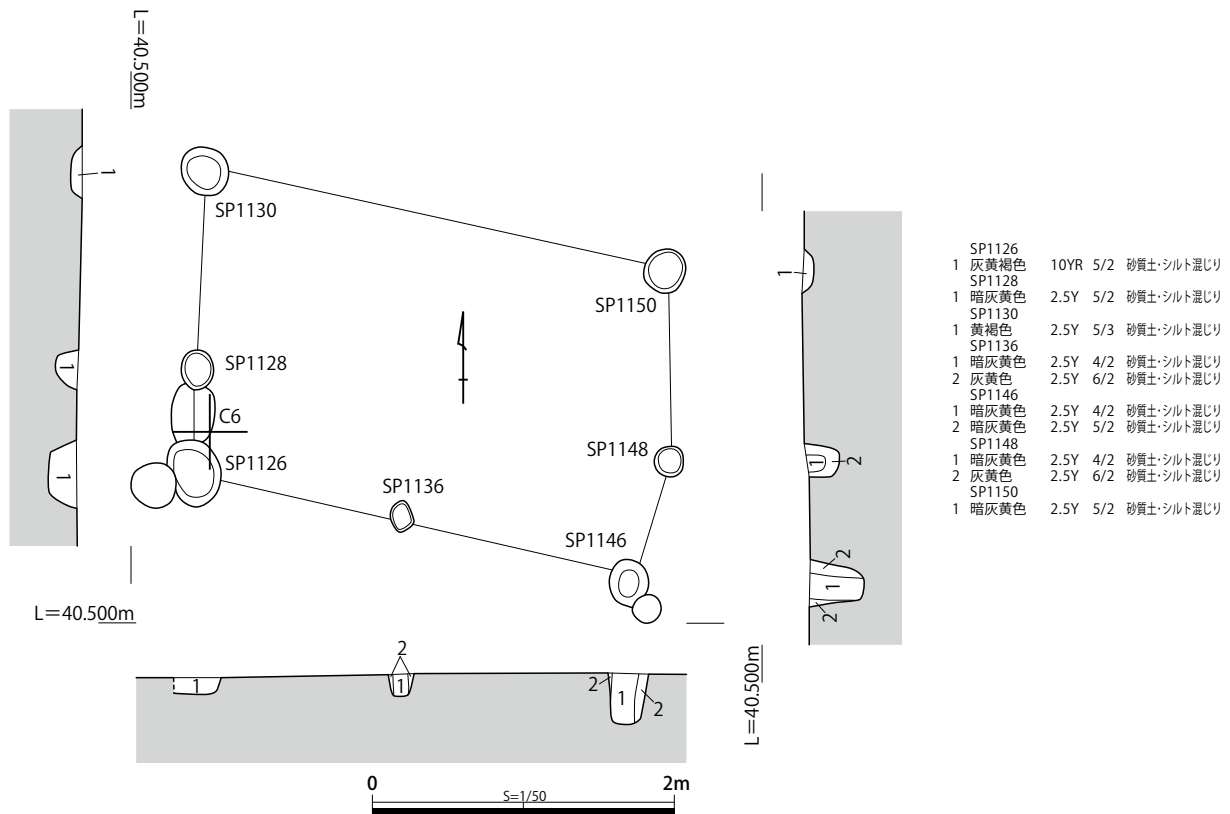
**出土遺物** 図化可能なものは出土していない。

**時期** 建物の主軸方向などから中世以降の年代が想定される。

2号掘立柱建物 (SA1002) (第102図)

**検出地点** B・C5・6グリッド

**規模・形態** 梁間2間 (2.00m) × 桁行2間 (3.10m)、床面積 6.20㎡の側柱建物である。建物の主軸方向は N - 76° - W である。



第 102 図 1-1 区西 SA1002 平断面図 (1/50)

**土層** 灰黄色や暗灰黄色シルト層などが 1～2 層に分層される。SP1136、SP1146、SP1148 は 1 層が柱痕と考えられる。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 図化可能なものは出土していない。

**時期** 建物の主軸方向などから中世以降の年代が想定される。

### 3号掘立柱建物 (SA1003) (第 103 図)

**検出地点** C7・8 グリッド

**規模・形態** 梁間 2 間 (2.65m) × 桁行 2 間 (3.50m)、床面積 9.28m<sup>2</sup>の総柱建物である。建物の主軸方向は N - 57° - W である。

**土層** 灰黄色や暗灰黄色シルト層などが 1～3 層に分層される。SP1198、SP1221、SP1232 は 1 層が柱痕と考えられる。

**遺物出土状況** SK1016、SP1198、SP1210、SP1219 から遺物が出土している。

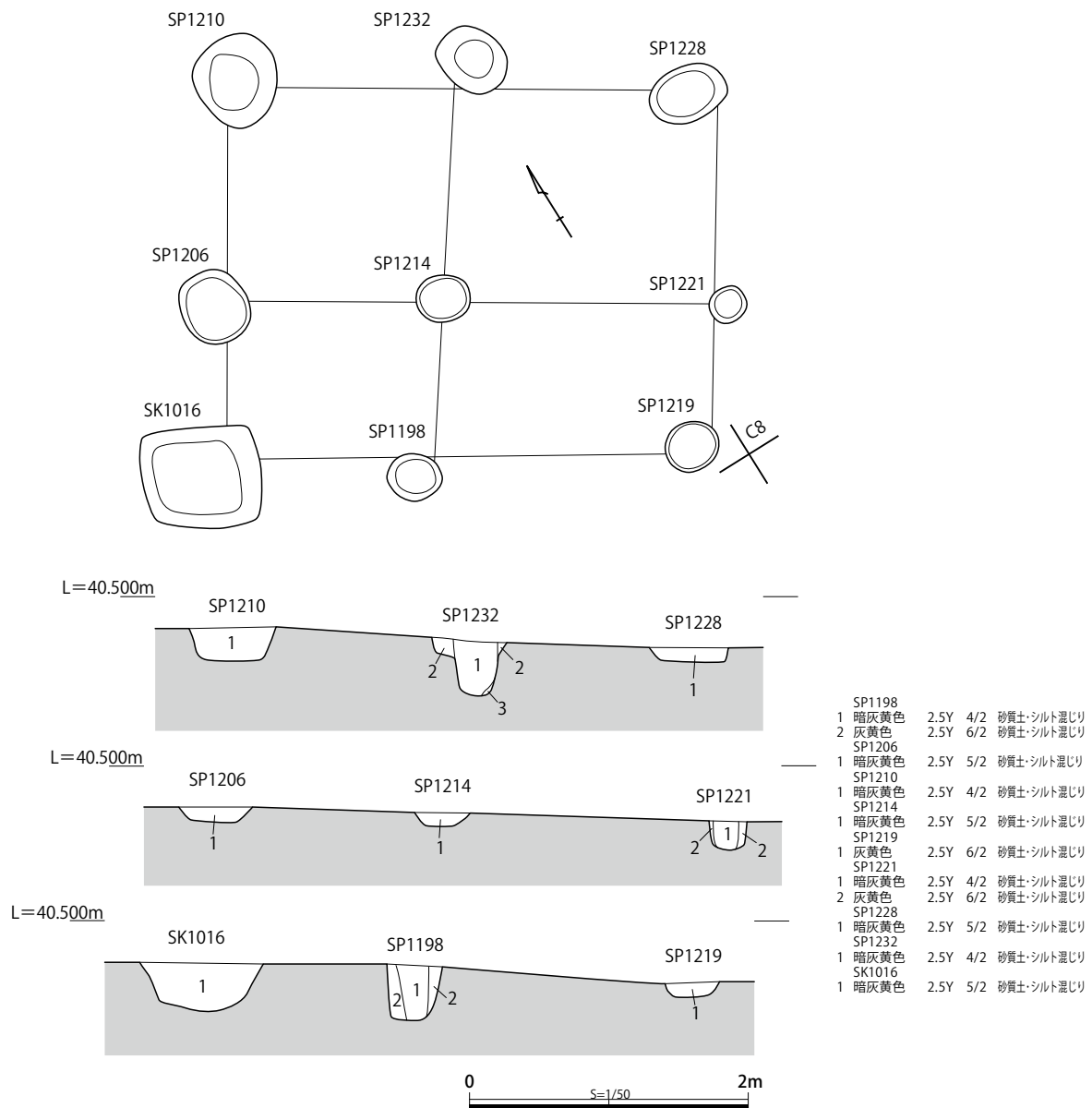
**出土遺物** 個別遺構にて後述。

**時期** 建物の主軸方向や出土した遺物などから室町時代 (14 世紀) 以降の年代が想定される。

### 4号掘立柱建物 (SA1004) (第 104 図)

**検出地点** D7・8 グリッド

**規模・形態** 梁間 1 間 (1.60m) × 桁行 2 間 (3.00m)、床面積 4.80m<sup>2</sup>の側柱建物である。建物の主軸



第103図 1-1区西 SA1003 平断面図 (1/50)

方向は N - 20° - W である。

**土層** 主に暗灰黄色シルト層などが 1 ~ 4 層に分層される。SP1238、SP1239、SP1467 は 1 層が柱痕と考えられる。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

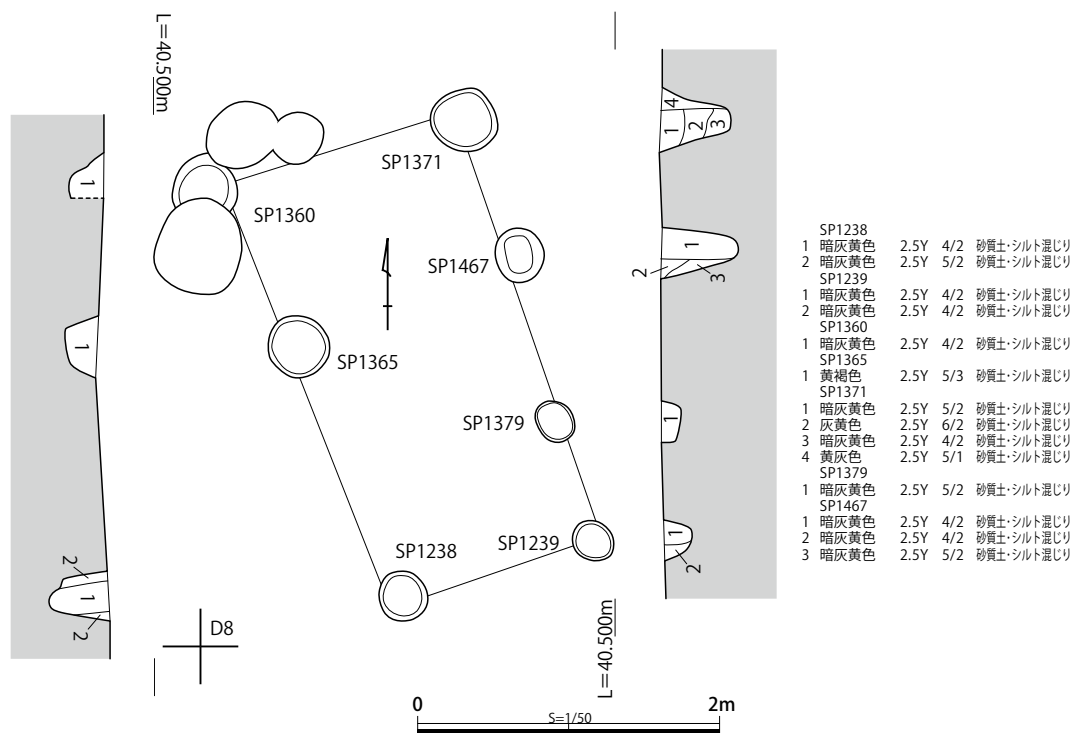
**出土遺物** 図化可能なものは出土していない。

**時期** 建物の主軸方向などから中世以降の年代が想定される。

#### 5号掘立柱建物 (SA1005) (第105図)

**検出地点** C8・B・C9 グリッド

**規模・形態** 梁間1間 (2.37m) × 桁行2間 (4.00m)、床面積 9.48㎡の側柱建物である。建物の主軸方向は N - 5° - W である。



第104図 1-1区西SA1004平断面図(1/50)

**土層** 主に暗灰黄色シルト層などが1～3層に分層される。SP1251、SP1259、SP1274、SP1278は1層が柱痕と考えられる。

**遺物出土状況** SP1264から遺物が出土している。

**出土遺物** 個別遺構にて後述。

**時期** 建物の主軸方向などから中世以降の年代が想定される。

#### 6号掘立柱建物 (SA1006) (第106図)

**検出地点** C8・C・D9グリッド

**規模・形態** 梁間1間(2.10m)×桁行2間(3.70m)、床面積7.77㎡の側柱建物である。建物の主軸方向はN-78°-Wである。

**土層** 主に暗灰黄色シルト層などが1～3層に分層される。SP1245、SPSP1293、SP1295、SP1303、SP1475は1層が柱痕と考えられる。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 図化可能なものは出土していない。

**時期** 建物の主軸方向などから中世以降の年代が想定される。

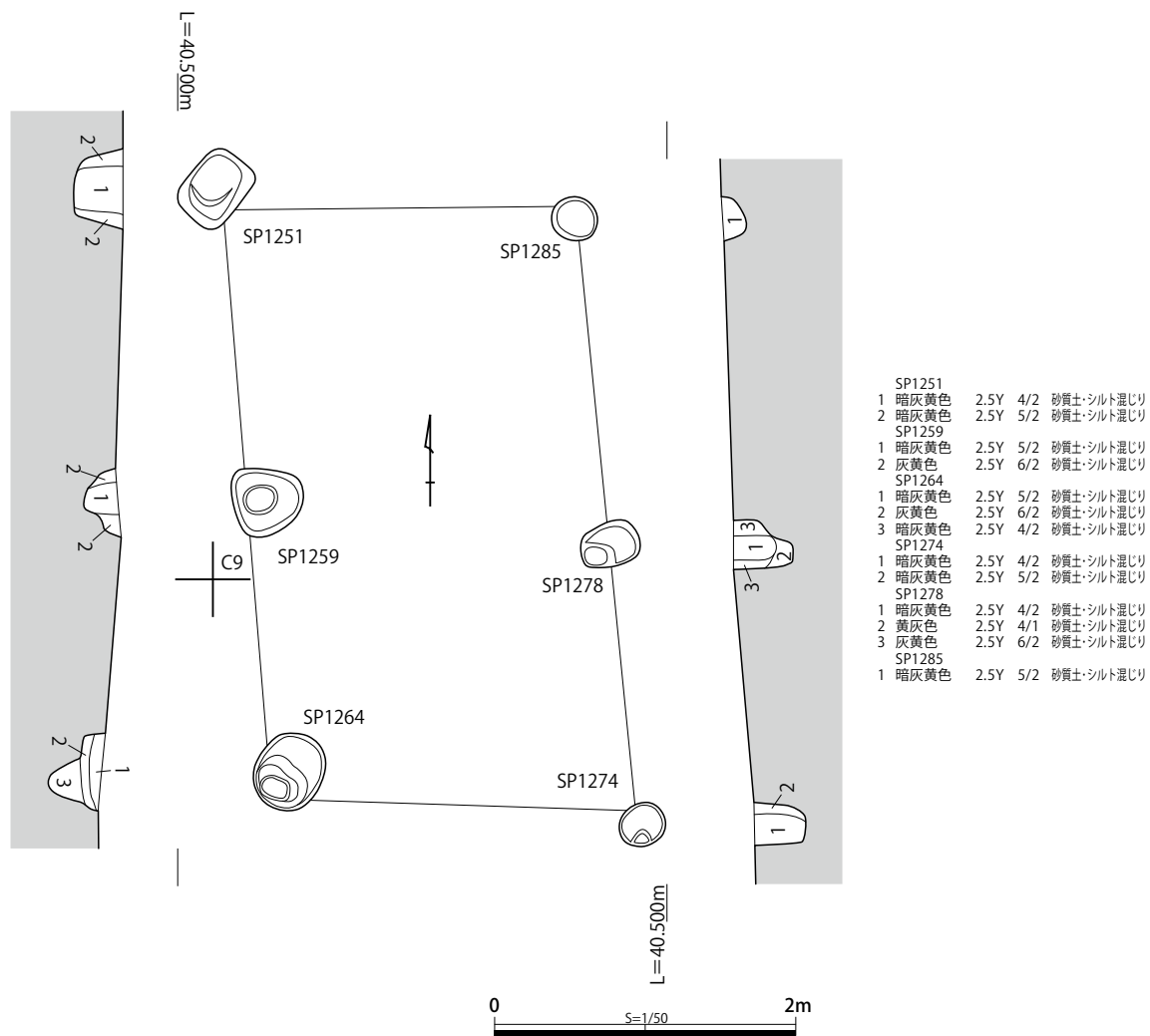
#### 7号掘立柱建物 (SA1007) (第107図)

**検出地点** B・C10グリッド

**規模・形態** 梁間1間(2.15m)×桁行2間(3.30m)、床面積7.01㎡の側柱建物である。建物の主軸方向はN-4°-Eである。

**土層** 主に暗灰黄色シルト層などが1～4層に分層される。SP1325、SP1336、SP1345は1層が、





第105図 1-1区西SA1005平断面図(1/50)

SP1329は1、2層が柱痕と考えられる。

**遺物出土状況** SP1329から遺物が出土している。

**出土遺物** 個別遺構にて後述。

**時期** 建物の主軸方向や出土した遺物などから鎌倉時代(13世紀)以降の年代が想定される。

### 8号掘立柱建物(SA1008)(第108図)

**検出地点** D・E10グリッド

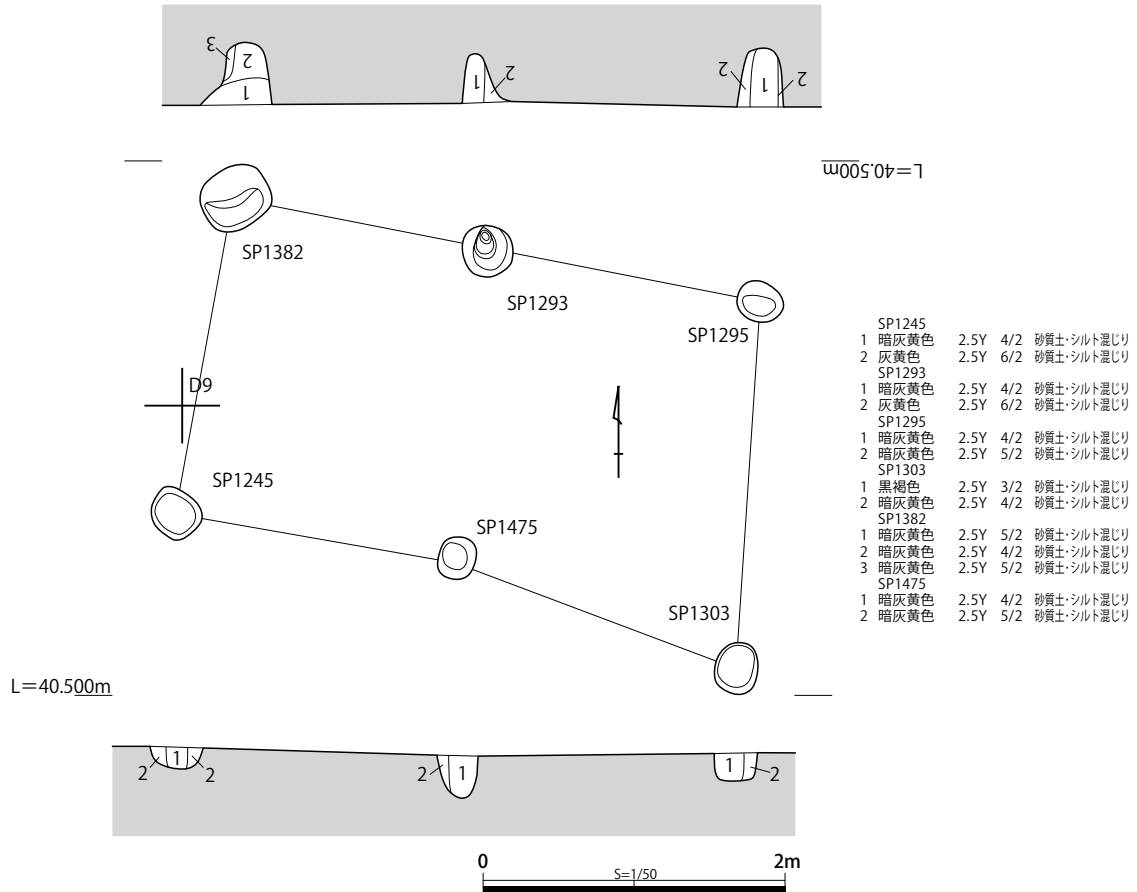
**規模・形態** 梁間1間(1.97m)×桁行2間(2.55m)、床面積5.02㎡の側柱建物である。建物の主軸方向はN-87°-Wである。

**土層** 主に暗灰黄色シルト層などが2層に分層される。何れの柱も1層が柱痕と考えられる。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 図化可能なものは出土していない。

**時期** 建物の主軸方向などから中世以降の年代が想定される。



第 106 図 1-1 区西 SA1006 平断面図 (1/50)

1号溝 (SD1001) (第 109・110 図)

**検出地点** B7～9・C5～7 グリッド

**規模・形態** 東西方向に延びる溝で、残存値で延長距離が 20.00m、幅が 0.64m、深さが 0.10m を測る。方位は N-75° -W である。断面の形状は皿形である。

**土層** 黄灰色砂質土層が 1 層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 186、187 は陶器で備前焼の播鉢である。188 は須恵器の甕の体部である。189～192 はスラグである。

**時期** 出土した遺物から鎌倉～室町時代 (14 世紀) 以降の年代が想定される。

3号土坑 (SK1003) (第 111 図)

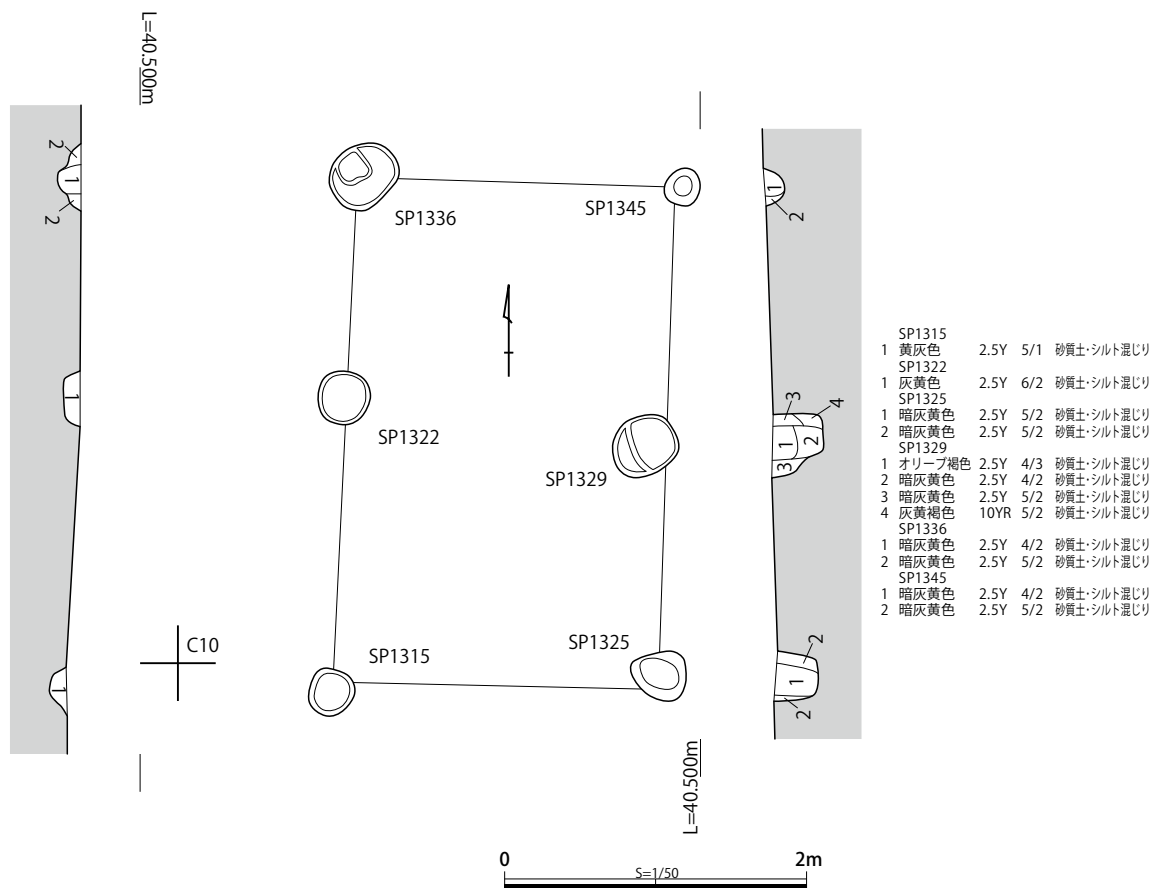
**検出地点** B2・3 グリッド

**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は 1.13m、短軸は 0.49m、深さは 0.26m を測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 暗灰黄色砂質土層が 1 層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 図化可能なものは出土していない。



第107図 1-1区西SA1007平断面図(1/50)

**時期** 年代は特定できない。

7号土坑(SK1007)(第112・113図)

**検出地点** B7グリッド

**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は1.30m、短軸は0.90m、深さは0.43mを測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 何れもシルト混じりの砂質土で3層に分層される。上部は黄灰色、下部は暗灰黄色の砂質土が堆積している。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 193は肥前産の陶胎染付の椀である。194～196は鉄製の釘である。197は被熱した粘土片で羽口の破片の可能性はある。

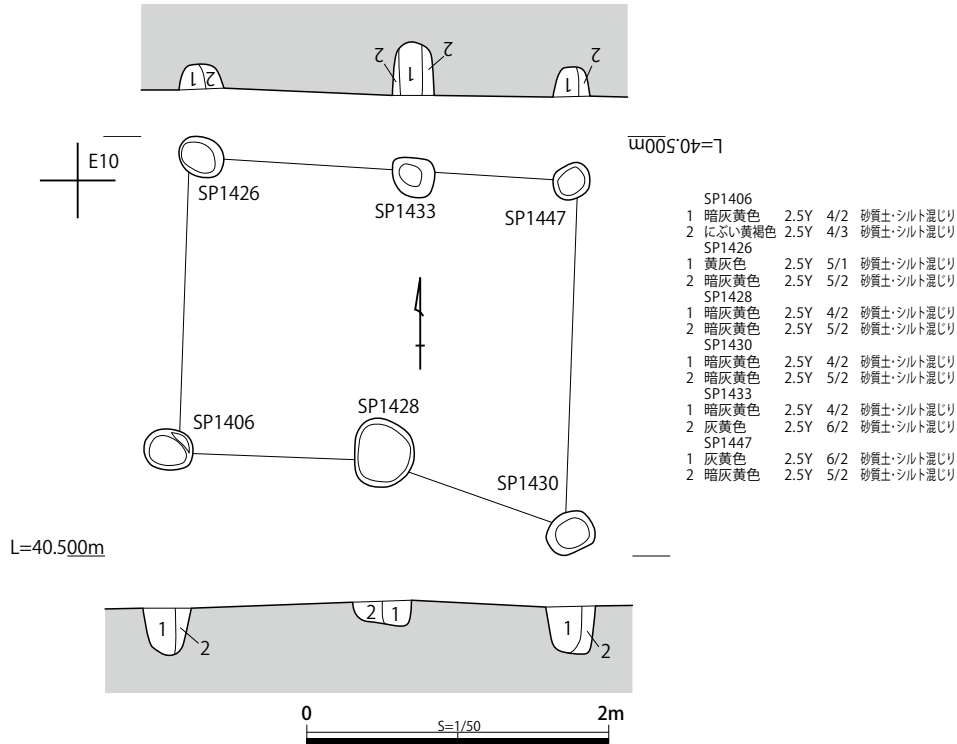
**時期** 出土した遺物から江戸時代(17世紀)以降の年代が想定される。

12号土坑(SK1012)(第114・115図)

**検出地点** C6グリッド

**規模・形態** 平面形状は小判形を呈し、長軸は1.50m、短軸は0.83m、深さは0.20mを測る。断面の形状は皿形である。

**土層** 何れもシルト混じりの砂質土層で2層に分層される。上部は黄灰色、下部は暗灰黄色の砂質土



第 108 図 1-1 区西 SA1008 平断面図 (1/50)

が堆積している。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 198 は管状の土錘である。

**時期** 年代は特定できない。

#### 16 号土坑 (SK1016) (第 116・117 図)

**検出地点** C7 グリッド

**規模・形態** 平面の形状は隅丸方形を呈し、長軸は 0.86m、短軸は 0.72m、深さは 0.38m を測る。断面の形状はやや不整な丸底形である。

**土層** 暗灰黄色のシルト混じり砂質土層が 1 層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 199 は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。200 はスラグである。

**時期** 年代は特定できない。

#### 17 号土坑 (SK1017) (第 118・119 図)

**検出地点** C7 グリッド

**規模・形態** 平面形状はやや不整な円形を呈し、長軸は 0.82m、短軸は 0.80m、深さは 0.24m を測る。断面の形状は 2 か所の丸底形の組み合わせとなっている。

**土層** 何れもシルト混じりの砂質土層で 2 層に分層される。上部は黄灰色、下部は暗灰黄色の砂質土が堆積している。

**遺物出土状況** 底部中央付近からまとめて出土している。

**出土遺物** 201 は瓦質土器の七厘である。

**時期** 出土した遺物から江戸時代（17世紀）以降の年代が想定される。

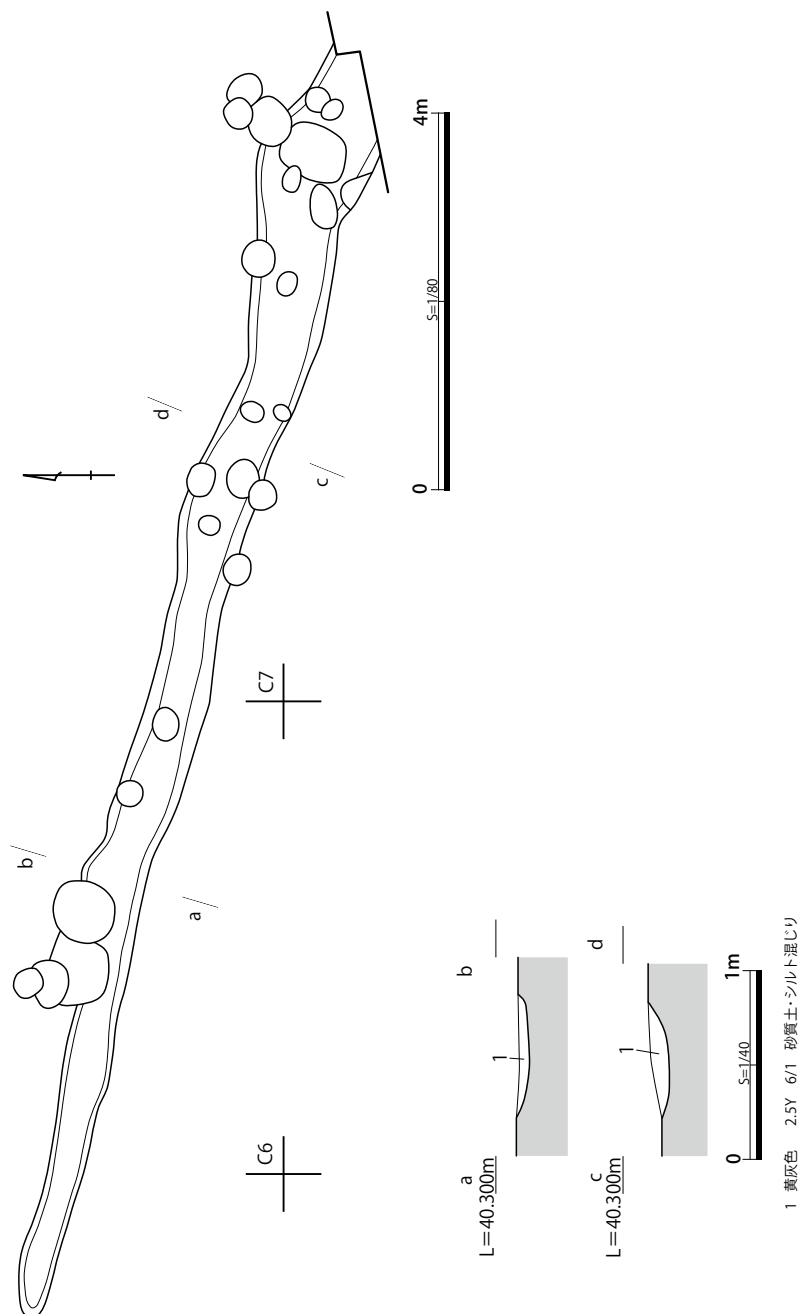
19号土坑（SK1019）（第120図）

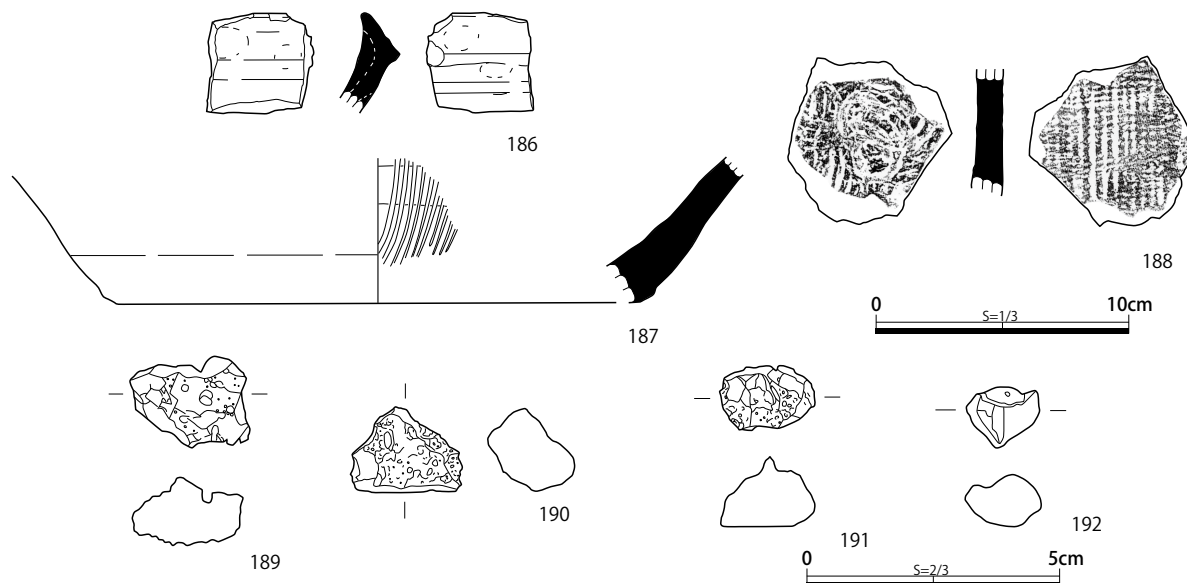
**検出地点** C7・8グリッド

**規模・形態** 平面形状は小判形を呈し、長軸は1.17m、短軸は0.65m、深さは0.20mを測る。断面の形状は2段形である。

**土層** 何れもシルト混じりの砂質土層で3層に分層される。平行堆積の2、3層に1層が切り込むように堆積している。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。





第 110 図 1-1 区西 SD1001 出土遺物

**出土遺物** 図化可能なものは出土していない。

**時期** 年代は特定できない。

24 号土坑 (SK1024) (第 121・122 図)

**検出地点** E8 グリッド

**規模・形態** 平面の形状は隅丸長方形を呈するとみられるが北側は調査区外に延びている。残存値で長軸は 1.15m、短軸は 0.70m、深さは 0.41m を測る。断面の形状は長方形である。

**土層** 何れもシルト混じりの砂質土層で 2 層に分層され、下層部分からは炭化物がわずかにみられる。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 202 は鉄製の釘である。203 は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。

**時期** 年代は特定できない。

25 号土坑 (SK1025) (第 123 図)

**検出地点** D8 グリッド

**規模・形態** 平面の形状はほぼ円形を呈し、長軸が 0.83m、短軸は 0.75m、深さは 0.11m を測る。断面の形状は皿形である。

**土層** 何れも暗灰黄色のシルト混じりの砂質土層で 2 層に分層される。

**遺物出土状況** 底部に炭化物の拵がりが確認された。

**出土遺物** 図化できるものは出土していない。

**時期** 年代は特定できない。

28 号土坑 (SK1028) (第 124・125 図)

**検出地点** D・E9 グリッド

**規模・形態** 平面の形状はやや不整な隅丸長方形を呈し、長軸は 0.98m、短軸は 0.63m、深さは 0.60m

を測る。断面の形状は中央にピットを伴う2段形である。

**土層** 何れも暗灰黄色のシルト混じりの砂質土層で3層に分層される。平面中央部には柱痕とみられる円形の掘り込みが存在している。

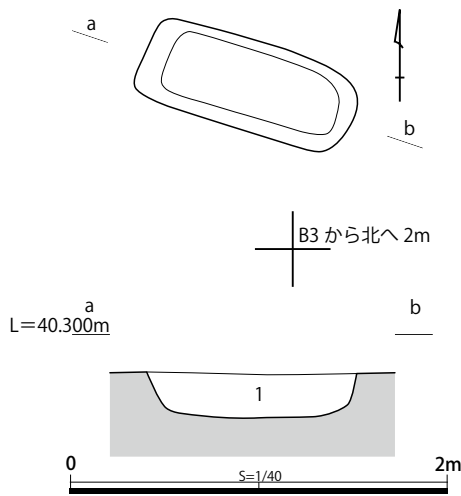
**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 204は和泉型の瓦器椀である。205、206は鉄製品。205は刀子、206は釘である。

**時期** 出土した遺物から鎌倉時代(13世紀)以降の年代が想定される。

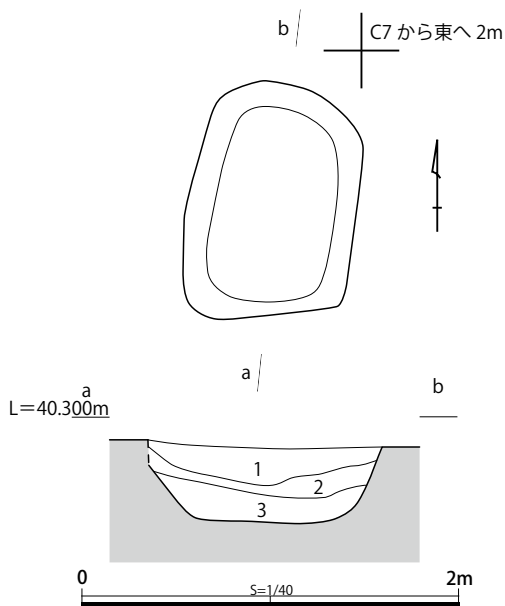
### 29号土坑 (SK1029) (第126・127図)

**検出地点** E9グリッド



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり マンガン、鉄、土器わずか、炭わずか。

第111図 1-1区西SK1003平断面図(1/40)



1 黄灰色 2.5Y 6/1 砂質土・シルト混じり 耕作土、地山ブロック、鉄、マンガン。  
2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり 耕作土、地山ブロックやや多い。鉄、マンガン。  
3 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり 耕作土多い。鉄。

第112図 1-1区西SK1007平断面図(1/40)

**規模・形態** 平面形状はやや不整な円形を呈し、長軸は0.90m、短軸は0.85m、深さは0.20mを測る。断面の形状は皿形である。

**土層** 暗灰黄色シルト混じり砂質土が1層である。

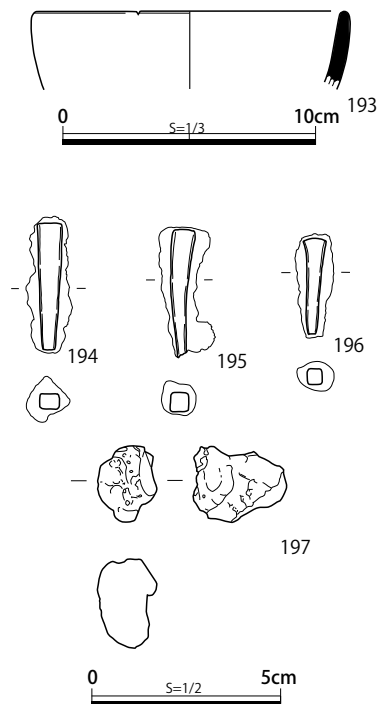
**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 207は和泉型の瓦器椀である。208～210は管状の土錘である。211、212はスラグである。

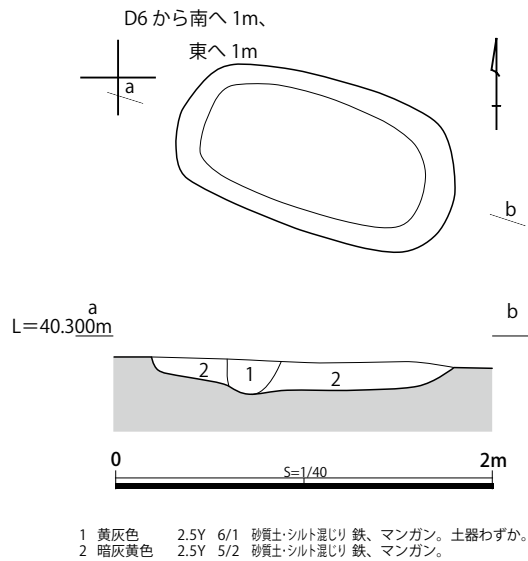
**時期** 出土した遺物から鎌倉時代(13世紀)以降の年代が想定される。

### 31号土坑 (SK1031) (第128・129図)

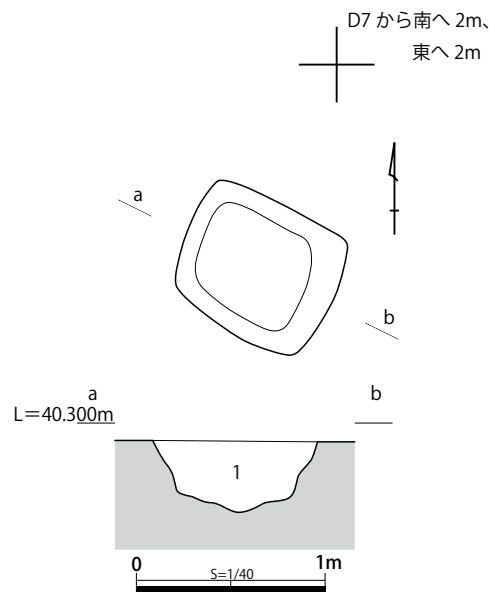
**検出地点** E10・11グリッド



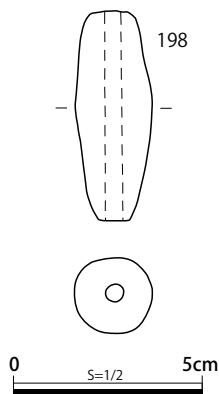
第113図 1-1区西SK1007出土遺物



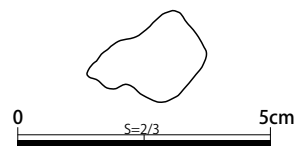
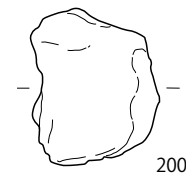
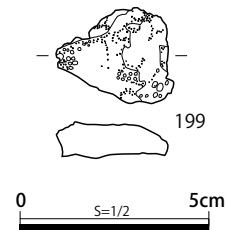
第114図 1-1区西SK1012平断面図(1/40)



第116図 1-1区西SK1016平断面図(1/40)



第115図 1-1区西SK1012出土遺物



第117図 1-1区西SK1016出土遺物

**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈するとみられるが、北側は調査区外に延びている。残存値で長軸は0.90m、短軸は0.80m、深さは0.50mを測る。断面の形状は2段形である。

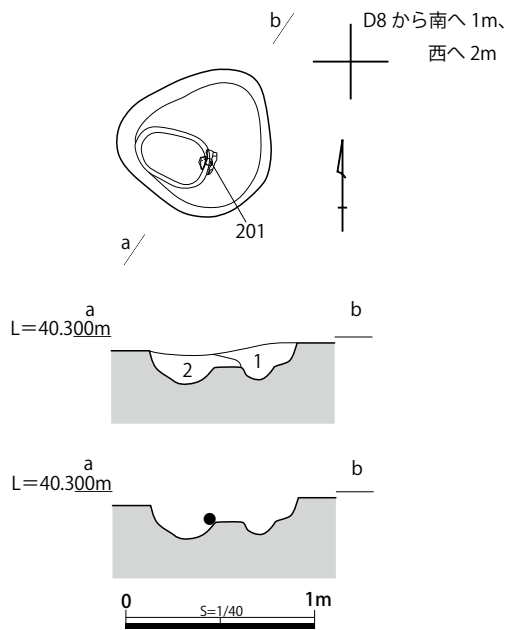
**土層** 何れもシルト混じり砂質土で2層に分層され、上部は暗灰黄色、下部は黄褐色砂質土が堆積している。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 213は須恵器の杯である。214は管状の土錘である。215は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。

**時期** 出土した遺物から平安時代(9世紀)以降の年代が想定される。



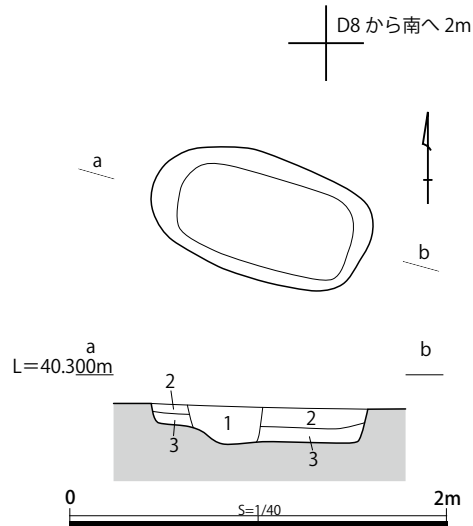


- 1 黄灰色 2.5Y 6/1 砂質土・シルト混じり 鉄、植物根。
- 2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり マンガン、鉄、土器、炭いづれもわずか。

第 118 図 1-1 区西 SK1017 平断面図 (1/40)



第 119 図 1-1 区西 SK1017 出土遺物



- 1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン、炭、土器いづれもわずか。
- 2 黄灰色 2.5Y 5/1 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン、礫φ5cm。
- 3 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり マンガン、鉄。炭わずか。

第 120 図 1-1 区西 SK1019 平断面図 (1/40)

### 32 号土坑 (SK1032) (第 128・130 図)

**検出地点** E10 グリッド

**規模・形態** 平面形状は東側を SK1031 に切られており、また北側は調査区外に延びているため不明である。残存値で長軸は 0.72m、短軸は 0.42m、深さは 0.30m を測る。断面の形状は 2 段形である。

**土層** 何れもシルト混じり砂質土で 2 層に分層され、2 層 (暗灰黄色砂質土層) に 1 層 (黄褐色砂質土層) が切り込むように堆積している。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 216 はスラグである。

**時期** 時期は特定できない。

### 112 号小穴 (SP1112) (第 131・132 図)

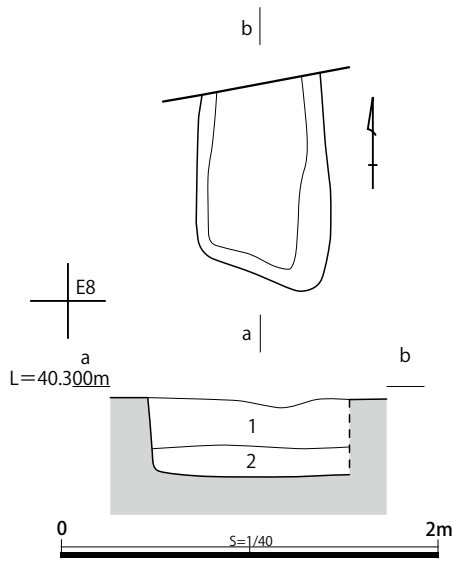
**検出地点** B2 グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.43m、短軸は 0.35m、深さは 0.30m を測る。断面の形状は長方形である。

**土層** 暗灰黄色シルト混じり砂質土が 1 層である。

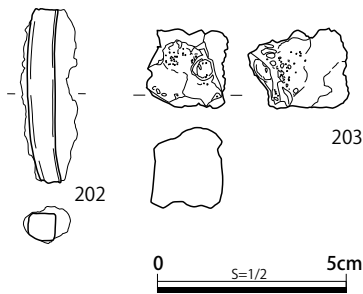
**遺物出土状況** 遺構上面から土器が出土している。

**出土遺物** 217 は弥生土器の甕である。口縁部はくの字状に屈曲して直線的に開いており、体部外面



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン、耕作土、炭、焼土。  
 2 黄灰色 2.5Y 4/1 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン。炭わずか。

第 121 図 1-1 区西 SK1024 平断面図 (1/40)



第 122 図 1-1 区西 SK1024 出土遺物

はタタキの後ハケ目を施している。

**時期** 出土した遺物から弥生時代終末期～古墳時代初頭の年代が想定される。

#### 141 号小穴 (SP1141) (第 133・134 図)

**検出地点** B6 グリッド

**規模・形態** 平面形状はほぼ円形を呈し、径が 0.57m、深さは 0.50m を測る。断面の形状は 2 段形である。

**土層** 暗灰黄色シルト混じり砂質土が 3 層に分層される。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

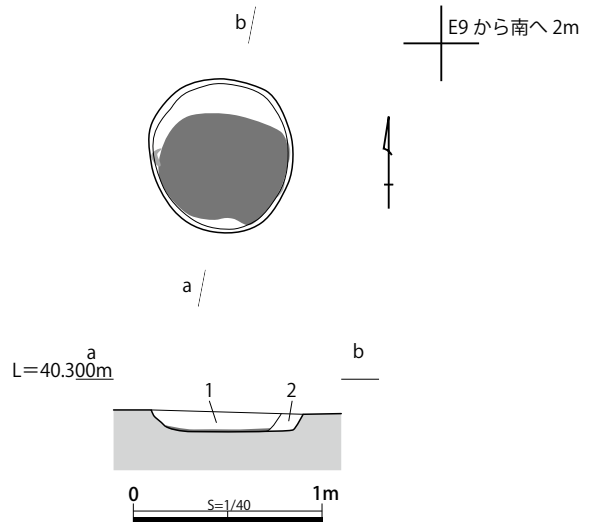
**出土遺物** 218 は土師質土器の皿である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

**時期** 出土した遺物から鎌倉時代 (13 世紀) 以降の年代が想定される。

#### 198 号小穴 (SP1198) (第 135・136 図)

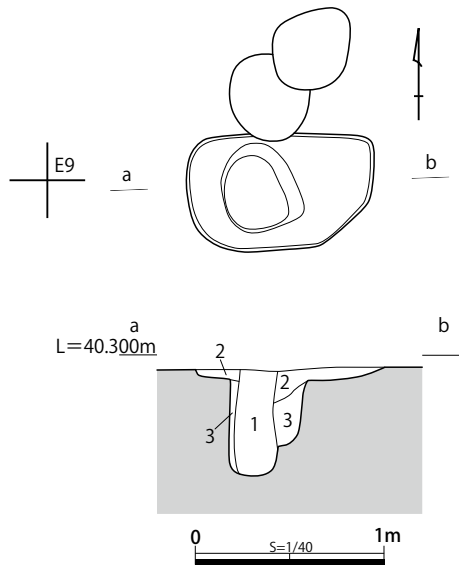
**検出地点** C7 グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.42m、短軸は 0.35m、深さは 0.48m を測る。断面の形状は長方形である。



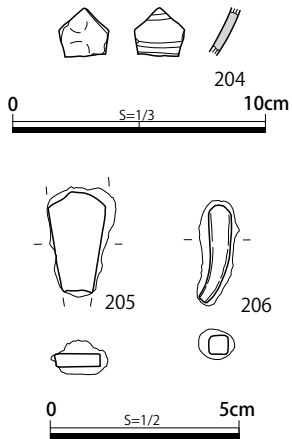
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり  
 2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり

第 123 図 1-1 区西 SK1025 平断面図 (1/40)

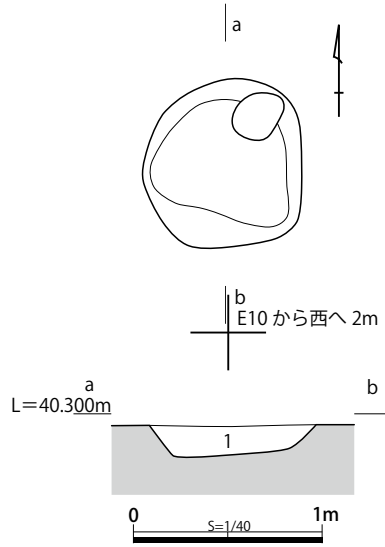


- 1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン、礫φ3cm、炭。
- 2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン、炭。
- 3 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり 地山ブロック、鉄、マンガン。

第124図 1-1区西SK1028平断面図(1/40)

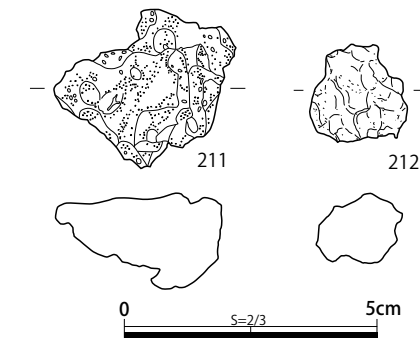
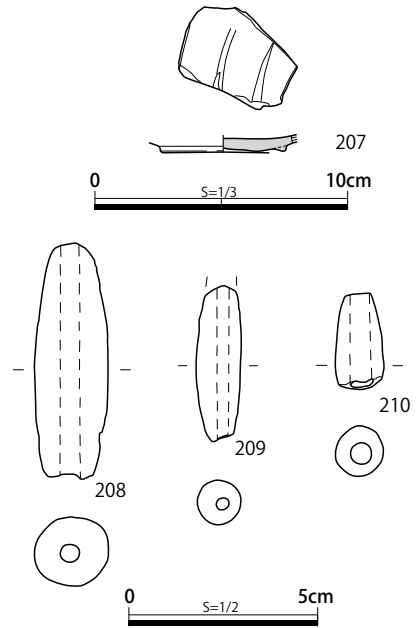


第125図 1-1区西SK1028出土遺物

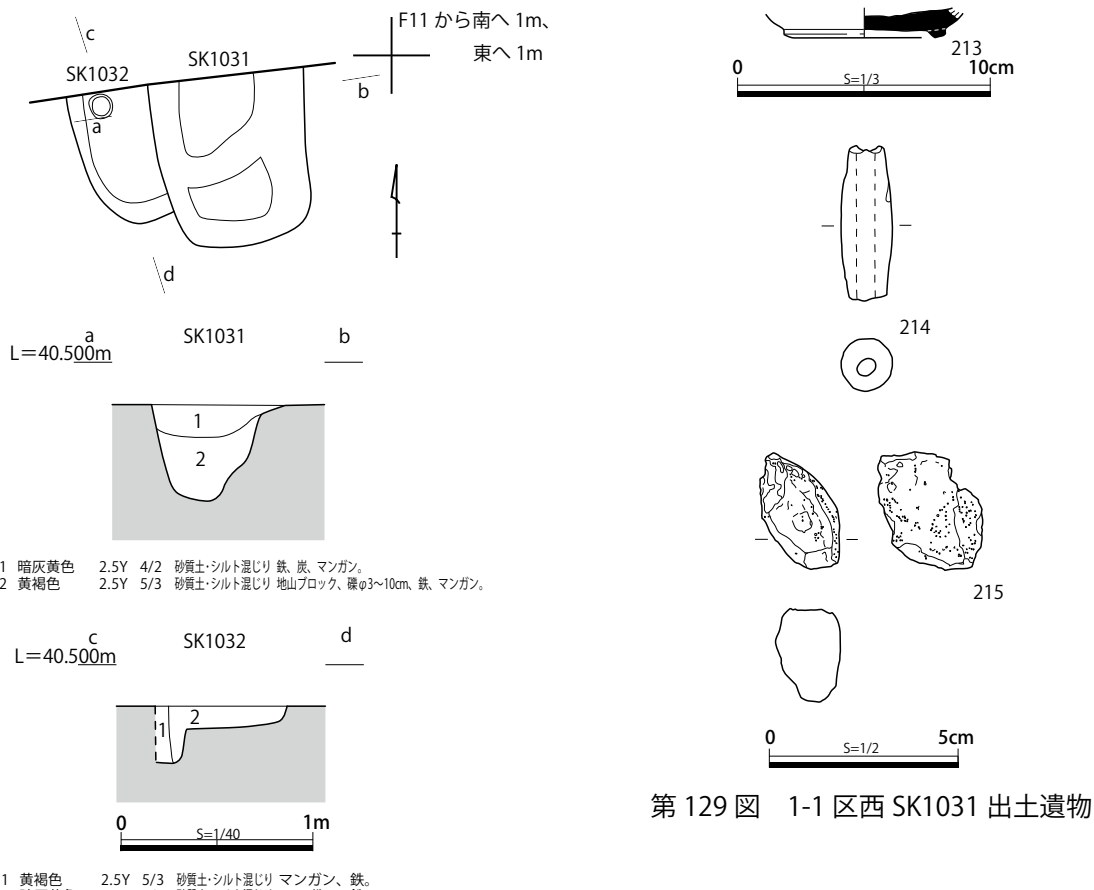


- 1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン、地山ブロック、礫φ2~5cm、炭。

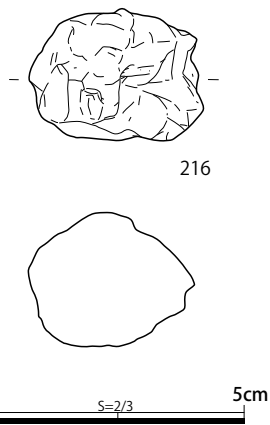
第126図 1-1区西SK1029出土遺物(1/40)



第127図 1-1区西SK1029出土遺物



第128図 1-1区西 SK1031・SK1032 平断面図 (1/40)



第130図 1-1区西 SK1032 出土遺物

**土層** シルト混じり砂質土が2層に分層され、上部は暗灰黄色、下部には灰黄色砂質土が堆積している。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 219は土師質土器の羽釜である。

**時期** 出土した遺物から室町時代(15世紀)以降の年代が想定される。

#### 204号小穴 (SP1204) (第137・138図)

**検出地点** C7グリッド

**規模・形態** 平面の形状は隅丸長方形を呈するとみられるが、東側をSP1201、SP1202に切られている。残存値で長軸は

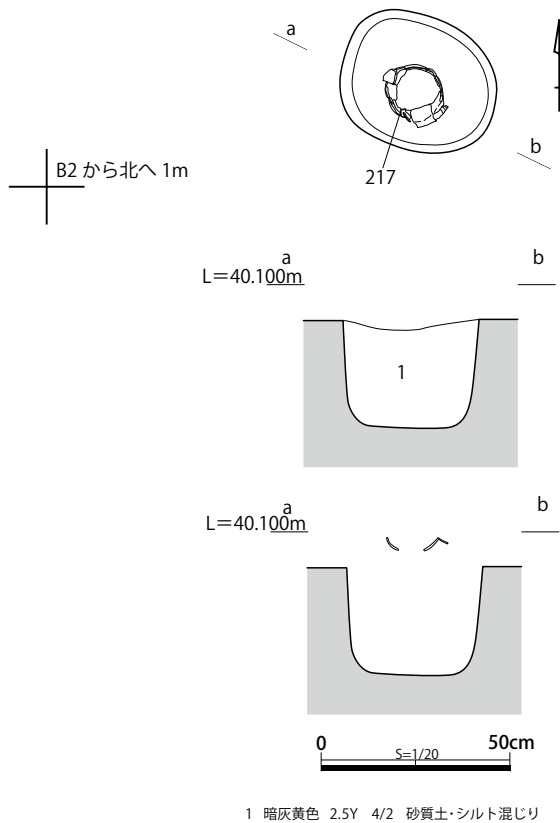
0.5m、短軸は0.48m、深さは0.15mを測る。断面形状は舟底形である。

**土層** 暗灰黄色シルト混じり砂質土が1層である。

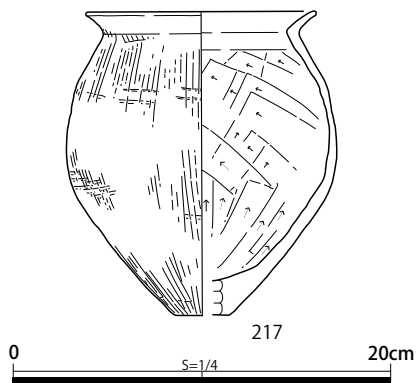
**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 220は和泉型の瓦器椀である。

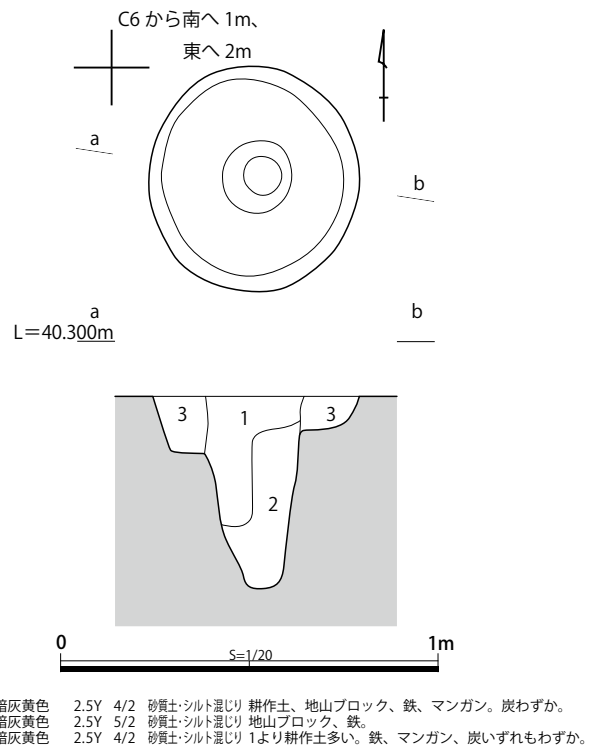
**時期** 出土した遺物から鎌倉時代(13世紀)以降の年代が想定される。



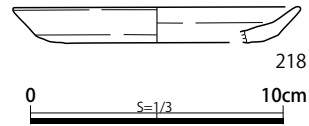
第131図 1-1区西 SP1112 平断面図 (1/20)



第132図 1-1区西 SP1112 出土遺物



第133図 1-1区西 SP1141 平断面図 (1/20)



第134図 1-1区西 SP1141 出土遺物

210号小穴 (SP1210) (第139・140図)

**検出地点** C7 グリッド

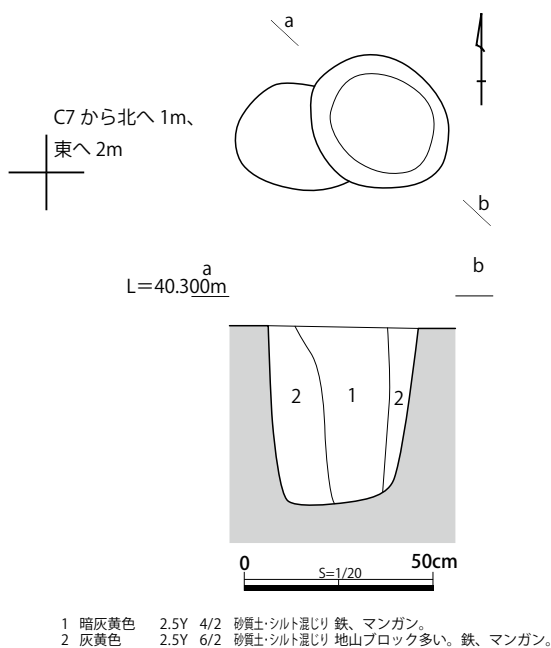
**規模・形態** 平面形状はやや不整な円形を呈し、長軸は0.68m、短軸は0.58m、深さは0.25mを測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 暗灰黄色シルト混じり砂質土が1層である。

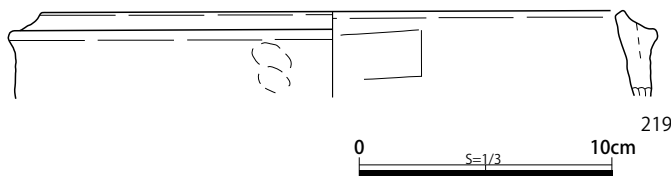
**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 221、222は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。

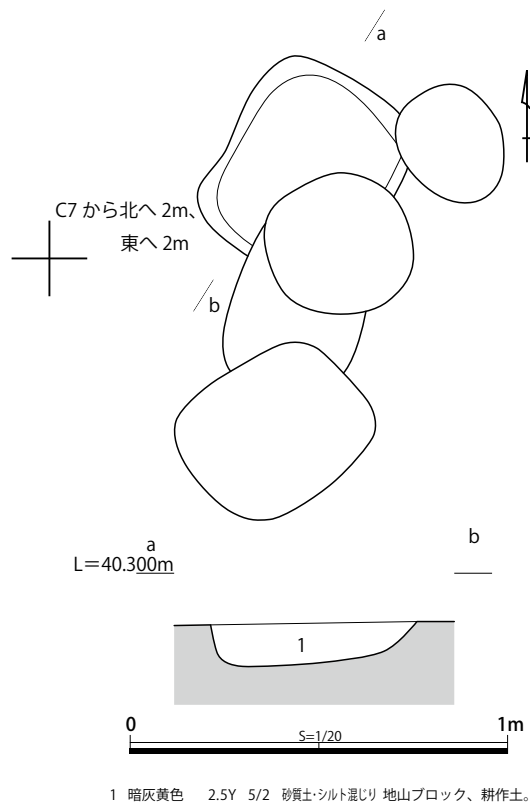
**時期** 年代は特定できない。



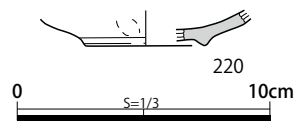
第 135 図 1-1 区西 SP1198 平断面図 (1/20)



第 136 図 1-1 区西 SP1198 出土遺物



第 137 図 1-1 区西 SP1204 平断面図 (1/20)



第 138 図 1-1 区西 SP1204 出土遺物

### 216号小穴 (SP1216) (第 141・142 図)

**検出地点** C7 グリッド

**規模・形態** 平面の形状は楕円形を呈し、長軸は 0.42m、短軸は 0.30m、深さは 0.16m を測る。断面の形状は丸底形である。

**土層** 何れも暗灰黄色シルト混じり砂質土で 2 層に分層され、1 層が柱痕状に 2 層に切り込んでいる。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 223 は土師質土器の茶釜の把手である。

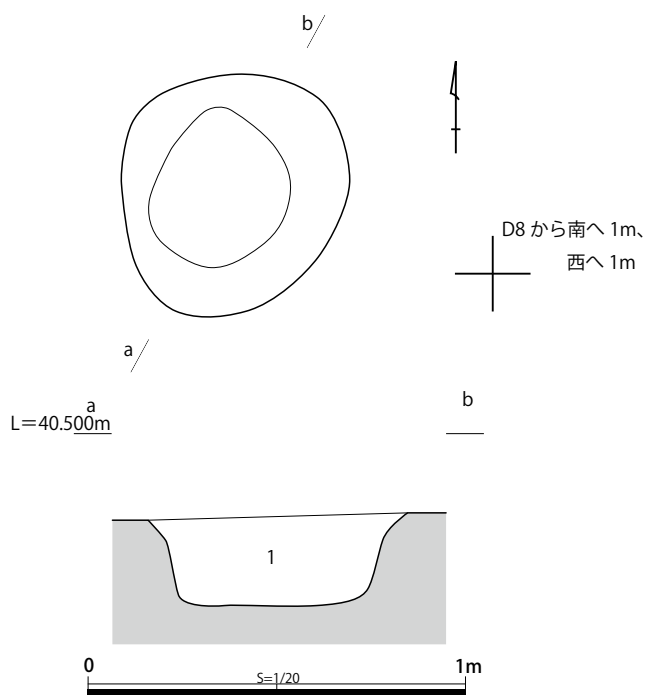
**時期** 出土した遺物から中世以降の年代が想定される。

### 221号小穴 (SP1221) (第 143・144 図)

**検出地点** C8 グリッド

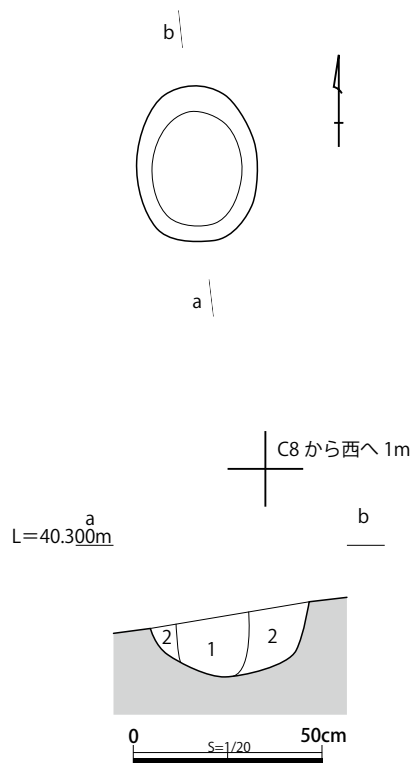
**規模・形態** 平面形状はほぼ円形を呈し、長軸は 0.28m、短軸は 0.23m、深さは 0.22m を測る。断面の形状は丸底形である。

**土層** 何れもシルト混じり砂質土層で 2 層に分層される。1 層が(暗灰黄色砂質土層)が柱痕状に 2 層(灰



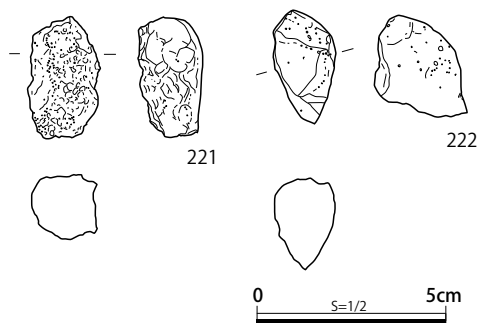
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 地山ブロック、マンガン、鉄、土器、炭いずれもわずか。

第 139 図 1-1 区西 SP1210 平断面図 (1/20)

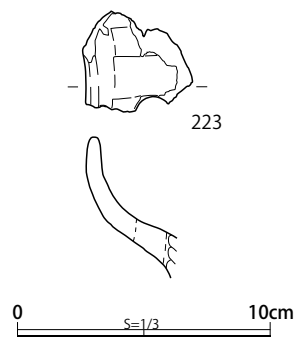


1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン。炭わずか。  
2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり 地山ブロック、鉄、マンガン。

第 141 図 1-1 区西 SP1216 平断面図 (1/20)



第 140 図 1-1 区西 SP1210 出土遺物



第 142 図 1-1 区西 SP1216 出土遺物

黄色砂質土層)に切り込んでいる。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 224 は瓦器の椀である。

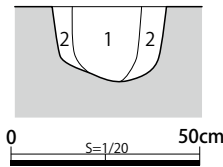
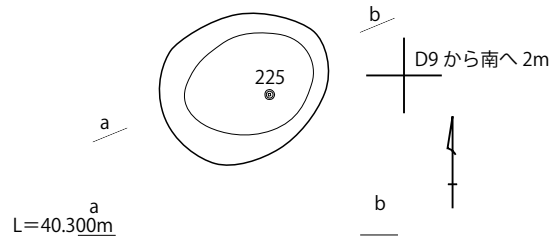
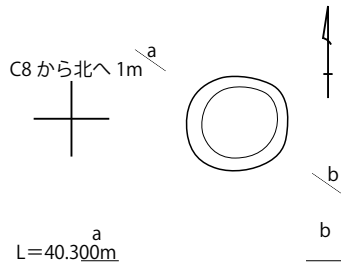
**時期** 出土した遺物から鎌倉時代 (13 世紀) 以降の年代が想定される。

250 号小穴 (SP1250) (第 145・146 図)

**検出地点** C8 グリッド

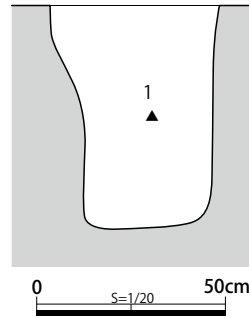
**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.45m、短軸は 0.38m、深さは 0.60m を測る。断面の形状はやや不整な長方形である。

**土層** 暗灰黄色シルト混じり砂質土が 1 層である。



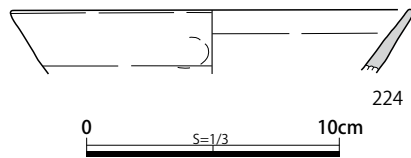
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 地山ブロック多い。鉄、炭。  
2 灰黄色 2.5Y 6/2 砂質土・シルト混じり 地山ブロック多い。鉄。

第 143 図 1-1 区西 SP1221 平断面図 (1/20)



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり マンガン、鉄、地山ブロック、炭、土器。

第 145 図 1-1 区西 SP1250 平断面図 (1/20)



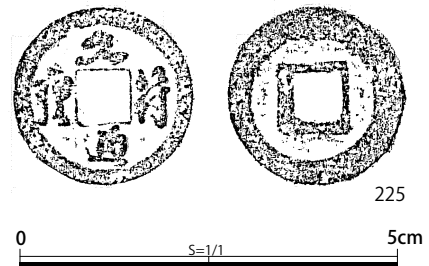
第 144 図 1-1 区西 SP1221 出土遺物

**遺物出土状況** 中層付近より銭貨が出土している。

**出土遺物** 225 は北宋銭で 1098 年初鑄の「元符通寶」である。

226 は用途不明の鉄片である。

**時期** 出土した遺物から平安時代（11 世紀）以降の年代が想定される。



252 号小穴 (SP1252) (第 147・148 図)

**検出地点** C8 グリッド

**規模・形態** 平面形状はほぼ円形を呈し、長軸は 0.53m、短軸は 0.47m、深さは 0.46m を測る。断面の形状は楕円状である。

**土層** どれも暗灰黄色シルト混じり砂質土で 3 層に分層される。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 227 は被熱した粘土片である。

**時期** 年代は特定できない。



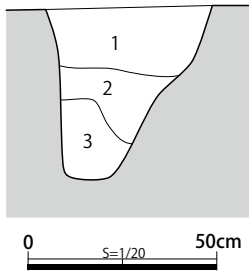
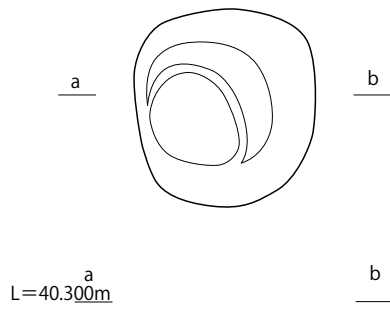
第 146 図 1-1 区西 SP1250 出土遺物

258 号小穴 (SP1258) (第 149・150 図)

**検出地点** C8 グリッド

**規模・形態** 平面形状はほぼ円形を呈するとみられるが、南側

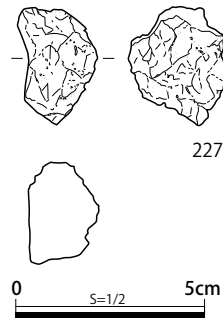




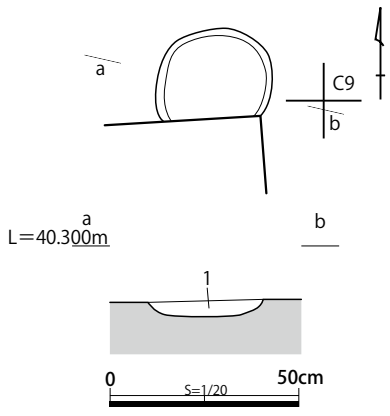
- 1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン、地山ブロック、炭。
- 2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり 地山ブロック。鉄。土器わずか。
- 3 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン、炭、地山ブロック。

第 147 図 1-1 区西 SP1252 平断面図 (1/20)

C9 から北へ 2m

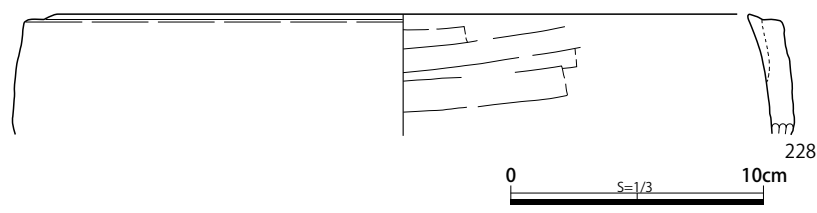


第 148 図 1-1 区西 SP1252 出土遺物

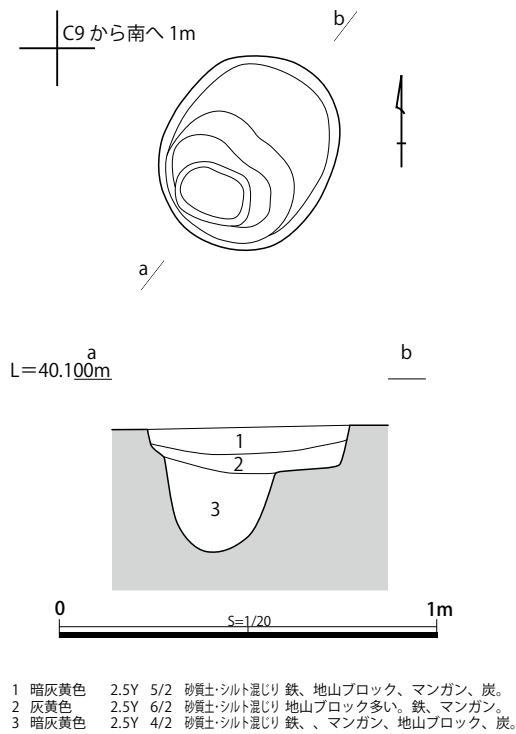


- 1 黄灰色 2.5Y 6/1 砂質土・シルト混じり 耕作土、マンガン多い。鉄。

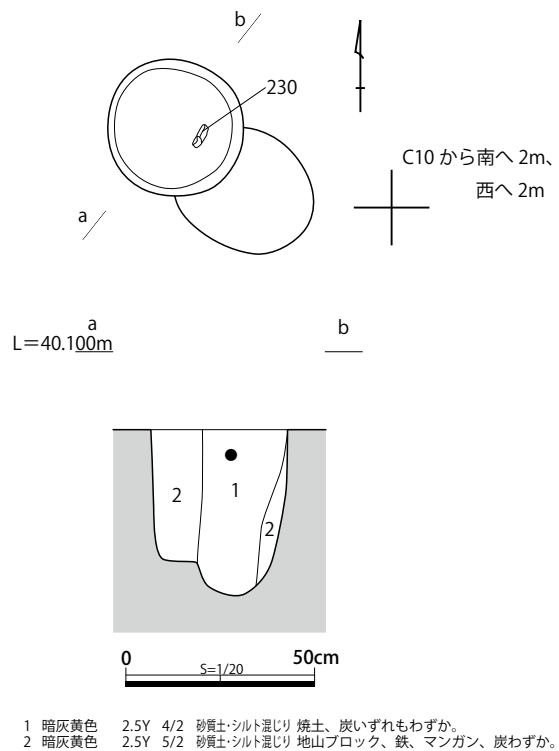
第 149 図 1-1 区西 SP1258 平断面図 (1/20)



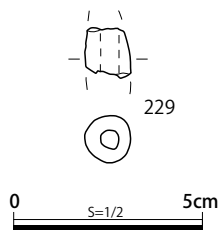
第 150 図 1-1 区西 SP1258 出土遺物



第 151 図 1-1 区西 SP1264 平断面図 (1/20)



第 153 図 1-1 区西 SP1272 平断面図 (1/20)



第 152 図 1-1 区西 SP1264 出土遺物

は調査区外に延びている。残存値で長軸は 0.30m、短軸は 0.25m、深さは 0.04m を測る。断面の形状は皿形である。

**土層** 黄灰色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

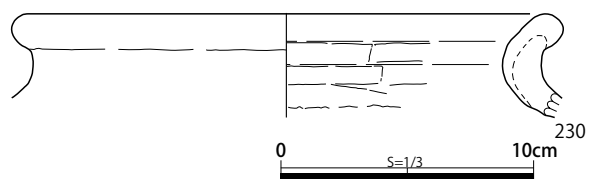
**出土遺物** 228 は土師質土器の羽釜である。

**時期** 出土した遺物から室町時代（15～16 世紀）以降の年代が想定される。

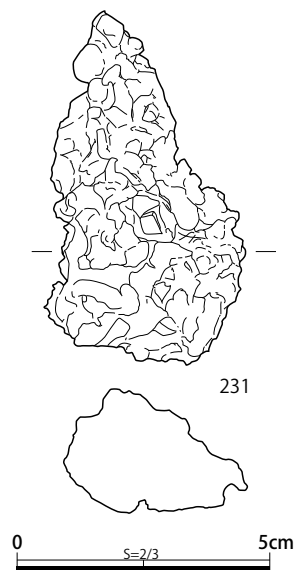
264 号小穴（SP1264）（第 151・152 図）

**検出地点** B9 グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.55m、短軸は 0.45m、深さは 0.36m を測る。断面の形状は 2 段形である。



第 154 図 1-1 区西 SP1272 出土遺物



**土層** 何れもシルト混じり砂質土層で3層に分層され、暗灰黄色シルト混じり砂質土層の間に灰黄色シルト混じり砂質土が入っている。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 229は管状の土錘である。

**時期** 年代は特定できない。

### 272号小穴 (SP1272) (第153・154図)

**検出地点** B9グリッド

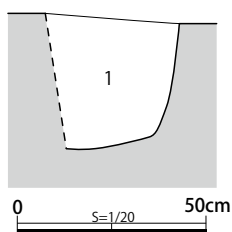
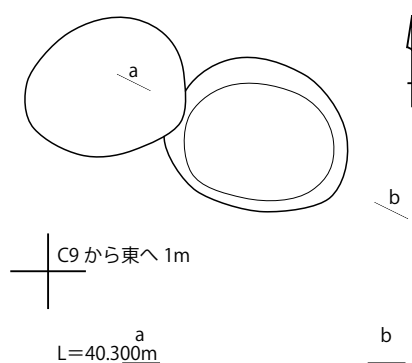
**規模・形態** 平面形状は円形を呈し、径は0.36m、深さは0.46mを測る。断面の形状は2段形である。

**土層** 何れも暗灰黄色シルト混じり砂質土層が2層に分層され、1層は柱痕と考えられる。

**遺物出土状況** 上層付近から土器が出土している。

**出土遺物** 230は土師質土器の甕である。231はスラグである。

**時期** 出土した遺物から中世以降の年代が想定される。



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり マンガン、鉄、炭、土器いずれもわずか。

第155図 1-1区西 SP1276 平断面図 (1/20)

### 276号小穴 (SP1276) (第155・156図)

**検出地点** C9グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、西側をSP1275に切られている。残存値で長軸は0.45m、短軸は0.40m、深さは0.36mを測る。断面の形状は逆台形である。

**土層** 暗灰黄色シルト混じり砂質土が1層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 232は瓦質土器の火鉢である。

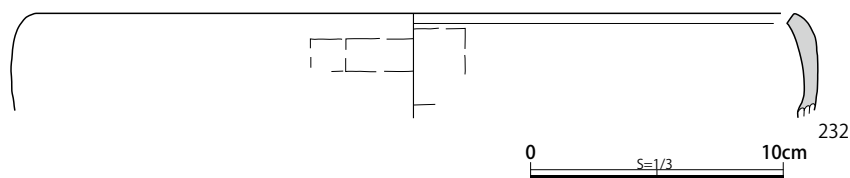
**時期** 出土した遺物から鎌倉～室町時代(14世紀)以降の年代が想定される。

### 279号小穴 (SP1279) (第157・158図)

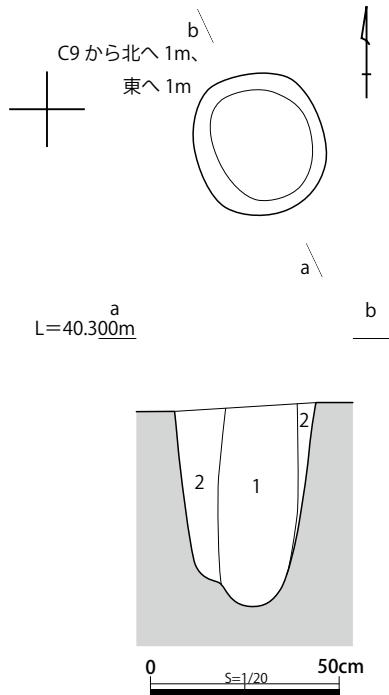
**検出地点** C9グリッド

**規模・形態** 平面形状はほぼ円形を呈し、長軸は0.38m、短軸は0.35m、深さは0.54mを測る。断面の形状は2段形である。

**土層** 何れも暗灰黄色シルト混じり砂質土層が2層に分層され、1層は柱痕と考えられる。

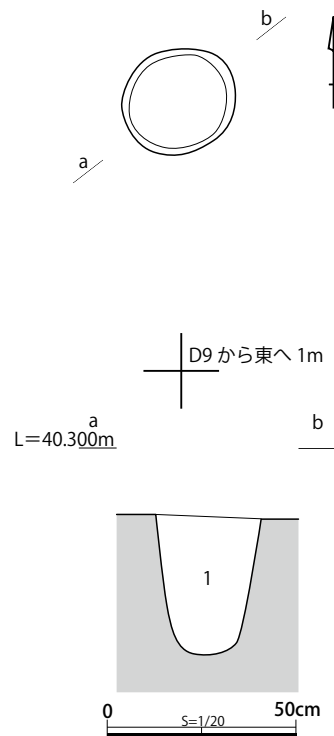


第156図 1-1区西 SP1276 出土遺物



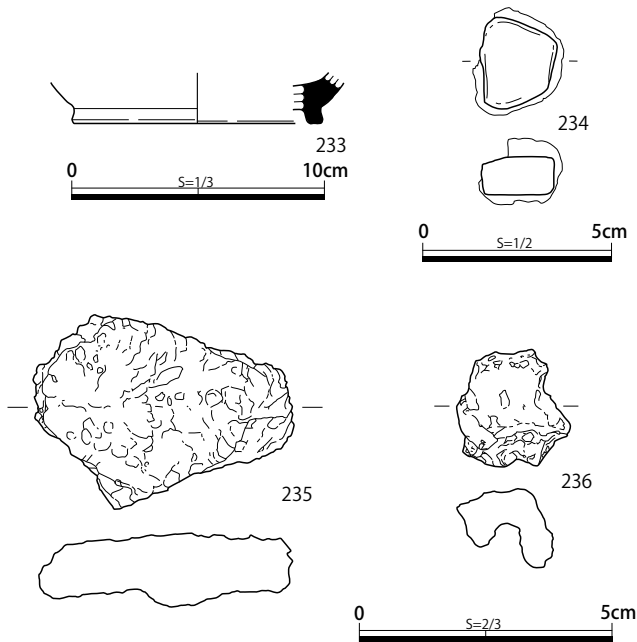
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン。炭わずか。  
2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり 地山ブロック、鉄、マンガン。炭わずか。

第 157 図 1-1 区西 SP1279 平断面図 (1/20)



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり

第 159 図 1-1 区西 SP1292 平断面図 (1/20)



第 158 図 1-1 区西 SP1279 出土遺物

第 160 図 1-1 区西 SP1292 出土遺物

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 233 は須恵器の壺の底部である。234 は用途不明の鉄片である。235、236 はスラグである。

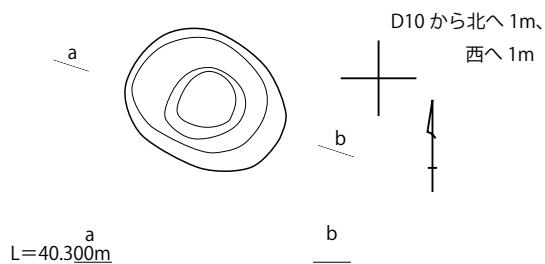
**時期** 出土した遺物から平安時代（9世紀）以降の年代が想定される。

292号小穴（SP1292）（第159・160図）

**検出地点** D9グリッド

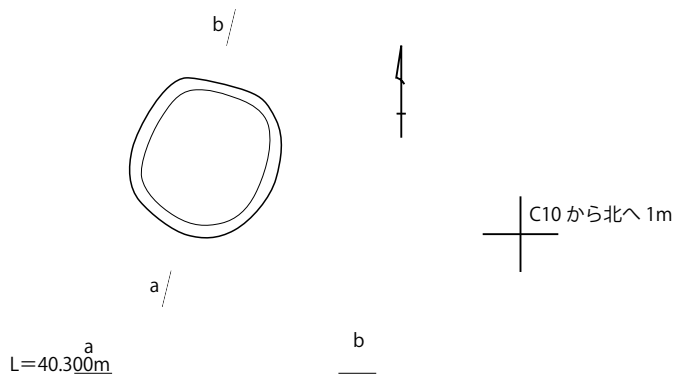
**規模・形態** 平面形状はほぼ円形を呈し、径は0.30m、深さは0.38mを測る。断面の形状は丸底形である。

**土層** 暗灰黄色シルト混じり砂質土が1層である。



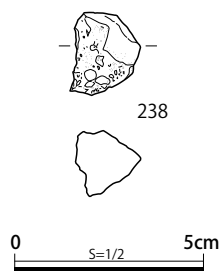
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり  
2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり

第 161 図 1-1 区西 SP1294 平断面図 (1/20)

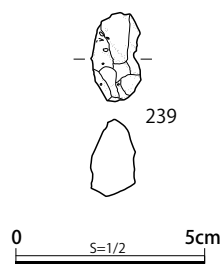


1 黄灰色 2.5Y 4/1 砂質土・シルト混じり 耕作土+地山ブロック霜降り状。鉄、マンガン。

第 163 図 1-1 区西 SP1306 平断面図 (1/20)



第 162 図 1-1 区西 SP1294 出土遺物



第 164 図 1-1 区西 SP1306 出土遺物

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 237 は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。

**時期** 年代は特定できない。

294 号小穴 (SP1294) (第 161・162 図)

**検出地点** D9 グリッド

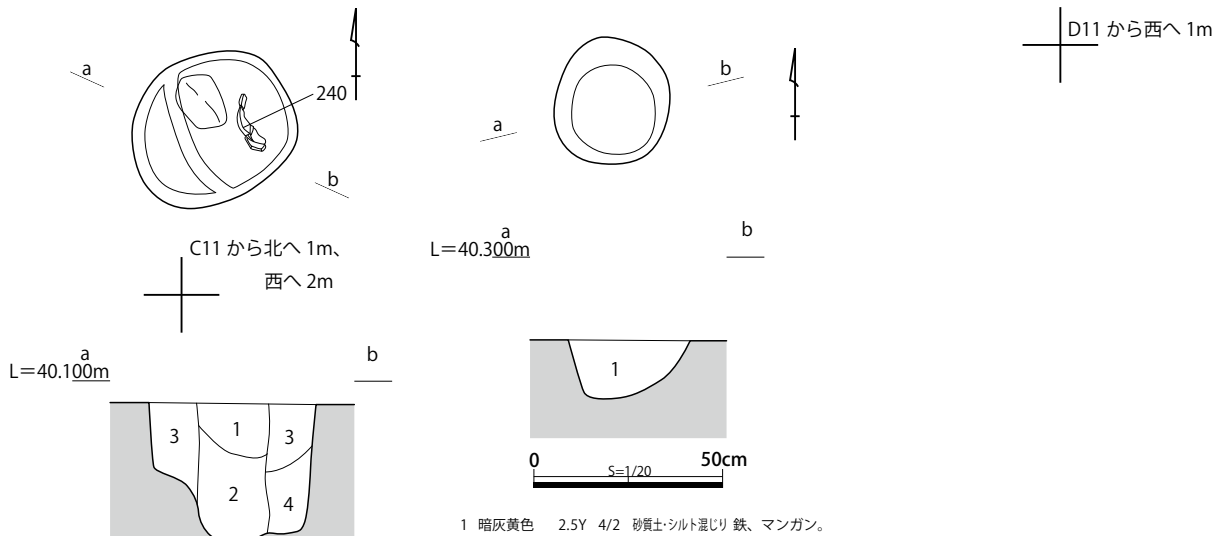
**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.42m、短軸は 0.35m、深さは 0.44m を測る。断面の形状は 2 段形である。

**土層** 何れも暗灰黄色シルト混じり砂質土層が 2 層に分層され、1 層は柱痕と考えられる。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

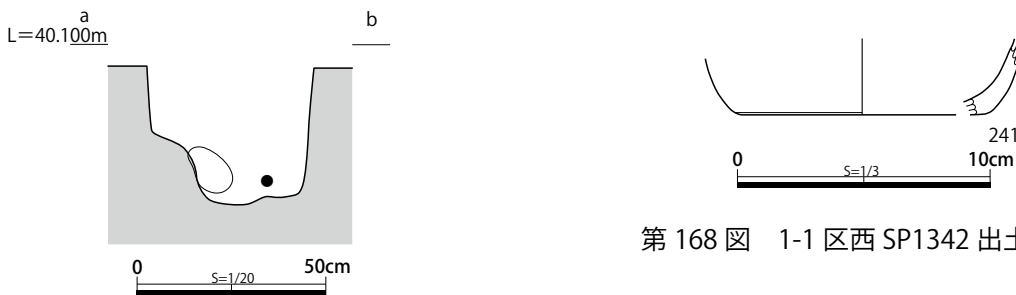
**出土遺物** 238 は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。

**時期** 年代は特定できない。



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン。

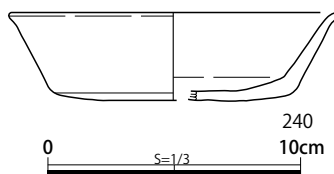
第 167 図 1-1 区西 SP1342 平断面図 (1/20)



第 168 図 1-1 区西 SP1342 出土遺物

- 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土・シルト混じり 鉄。マンガンわずか。
- 2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 鉄。マンガンわずか。
- 3 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン、土器、灰。
- 4 灰黄褐色 10YR 5/2 砂質土・シルト混じり 地山ブロック、鉄多い。

第 165 図 1-1 区西 SP1329 平断面図 (1/20) 検出地点 C9 グリッド



第 166 図 1-1 区西 SP1329 出土遺物

306 号小穴 (SP1306) (第 163・164 図)

**規模・形態** 平面形状はほぼ円形を呈し、長軸は 0.43m、短軸は 0.38m、深さは 0.24m を測る。断面の形状は長方形である。

**土層** 黄灰色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 239 は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。

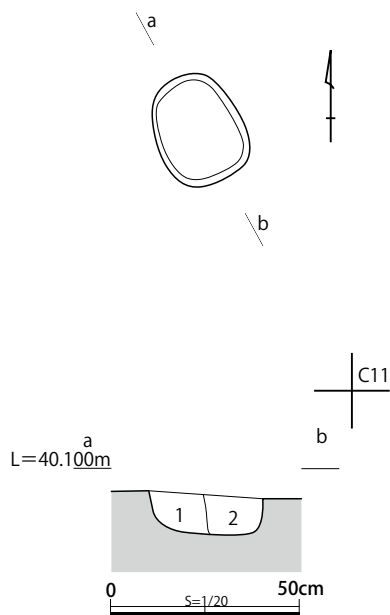
**時期** 年代は特定できない。

329 号小穴 (SP1329) (第 165・166 図)

**検出地点** C10 グリッド

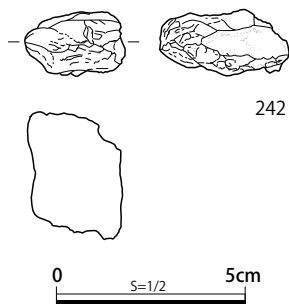
**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.45m、短軸は 0.40m、深さは 0.40m を測る。断面の形状は 2 段形である。

**土層** 何れもシルト混じり砂質土層で 4 層に分層される。断面中央の 1 層(オリーブ褐色シルト混じり砂質土)、

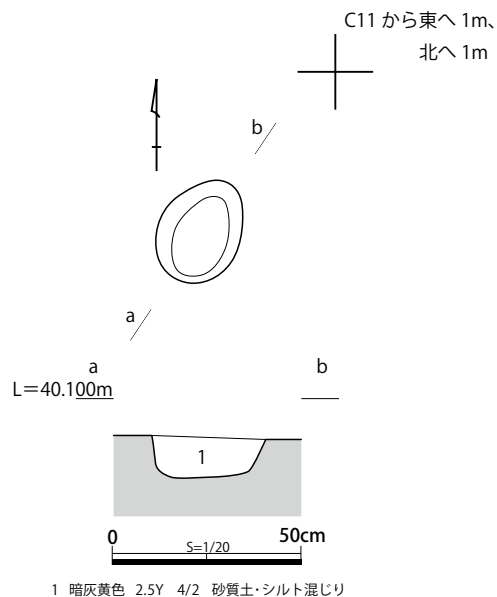


1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり 鉄多い、マンガン。炭わずか。  
2 灰黄色 2.5Y 6/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン。

第 169 図 1-1 区西 SP1350 平断面図 (1/20)

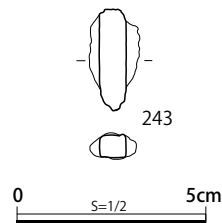


第 170 図 1-1 区西 SP1350 出土遺物



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり

第 171 図 1-1 区西 SP1351 平断面図 (1/20)



第 172 図 1-1 区西 SP1351 出土遺物

2 層（暗灰黄色シルト混じり砂質土）は柱痕と考えられる。

**遺物出土状況** 底部付近から土器と砂岩の円礫が出土している。

**出土遺物** 240 は土師質土器の杯である。底部の切り離しは回転ヘラ切りで、内外面には赤色顔料が塗られている。

**時期** 出土した遺物から平安時代終末（12 世紀）以降の年代が想定される。

### 342 号小穴（SP1342）（第 167・168 図）

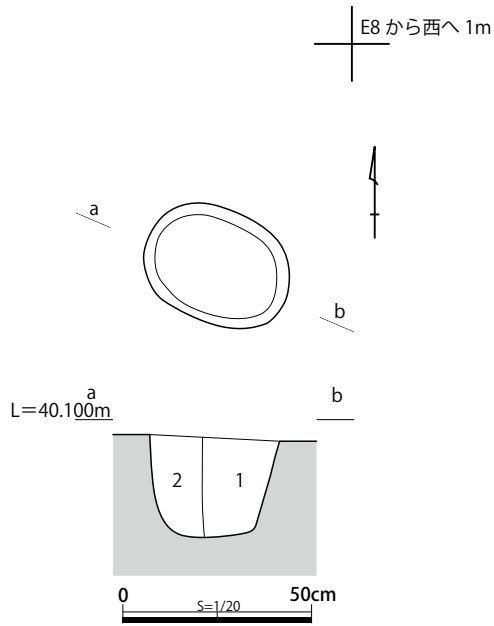
**検出地点** C10 グリッド

**規模・形態** 平面の形状はほぼ円形を呈し、長軸は 0.35m、短軸は 0.30m、深さは 0.20m を測る。断面の形状は丸底形である。

**土層** 暗灰黄色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

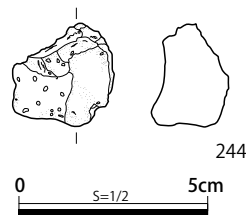
**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 241 は土師質土器の杯である。内面に赤色顔料が塗られた跡が残る。



- 1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン。炭わずか。  
 2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン、地山ブロック。炭わずか。

第173図 1-1区西 SP1355 平断面図 (1/20)



第174図 1-1区西 SP1355 出土遺物

**時期** 出土した遺物から平安時代終末（12世紀）以降の年代が想定される。

350号小穴（SP1350）（第169・170図）

**検出地点** C10グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.30m、短軸は0.25m、深さは0.12mを測る。断面の形状は皿形である。

**土層** 何れもシルト混じり砂質土層で2層に分層される。

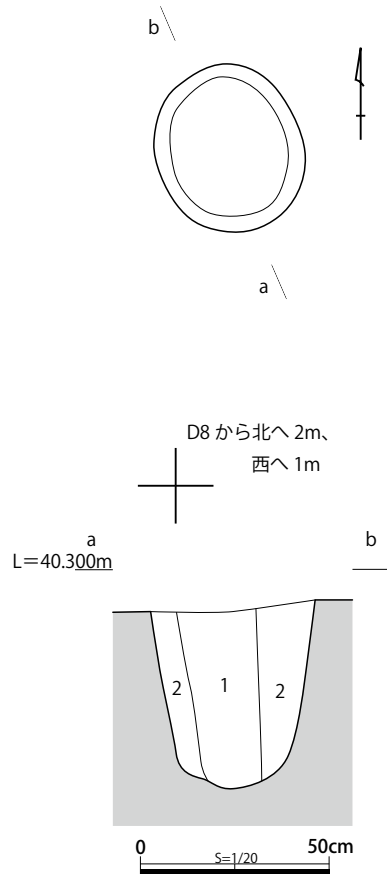
**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 242は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。

**時期** 年代は特定できない。

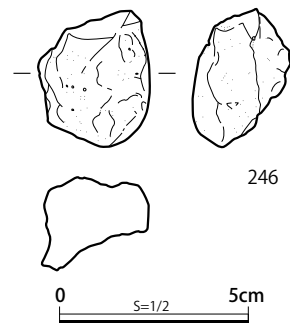
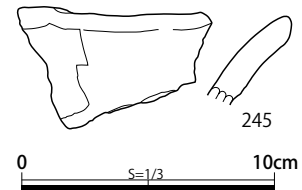
351号小穴（SP1351）（第171・172図）

**検出地点** C11グリッド



- 1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン、土器。  
 2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン、炭。

第175図 1-1区西 SP1358 平断面図 (1/20)



第176図 1-1区西 SP1358 出土遺物



**規模・形態** 平面の形状は楕円形を呈し、長軸は 0.30m、短軸は 0.22m、深さは 0.13m を測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 暗灰黄色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 243 は鉄釘である。

**時期** 年代は特定できない。

#### 355 号小穴 (SP1355) (第 173・174 図)

**検出地点** D7 グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.40m、短軸は 0.30m、深さは 0.30m を測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 何れも暗灰黄色シルト混じり砂質土層で 2 層に分層される。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 244 は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。

**時期** 年代は特定できない。

#### 358 号小穴 (SP1358) (第 175・176 図)

**検出地点** D7 グリッド

**規模・形態** 平面形状はほぼ円形を呈し、長軸は 0.43m、短軸は 0.38m、深さは 0.46m を測る。断面の形状は丸底形である。

**土層** 暗灰黄色シルト混じり砂質土層で 2 層に分層され、1 層は柱痕と考えられる。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 245 は土師質土器の片口鉢である。246 は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。

**時期** 出土した遺物から鎌倉時代 (13 世紀) 以降の年代が想定される。

#### 370 号小穴 (SP1370) (第 177・178 図)

**検出地点** E7・8 グリッド

**規模・形態** 平面形状はほぼ円形を呈するとみられるが、北側は調査区外に延びている。残存値で長軸は 0.48m、短軸は 0.25m、深さは 0.21m を測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 暗灰黄色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 247、248 は龍泉窯系青磁の碗である。249 は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。

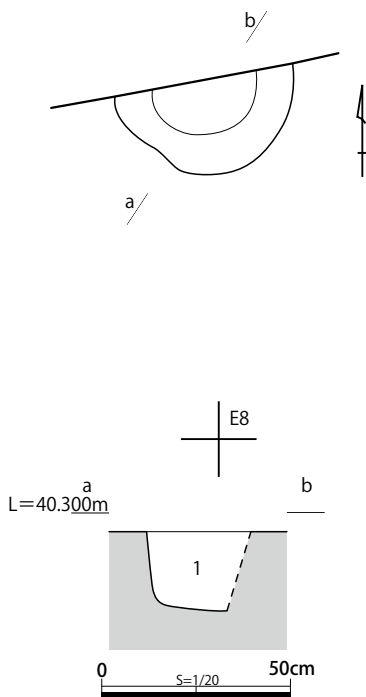
**時期** 出土した遺物から鎌倉時代 (13 世紀) 以降の年代が想定される。

#### 389 号小穴 (SP1389) (第 179・180 図)

**検出地点** D9 グリッド

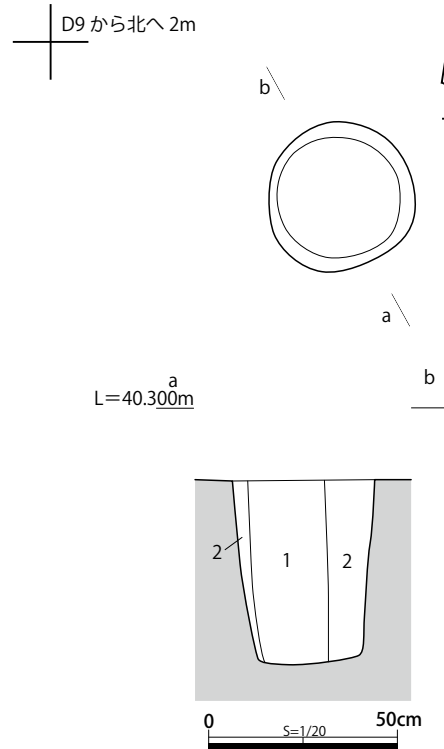
**規模・形態** 平面形状は円形を呈し、径は 0.40m、深さは 0.49m を測る。断面の形状は長方形である。

**土層** 暗灰黄色シルト混じり砂質土層で 2 層に分層され、1 層は柱痕と考えられる。



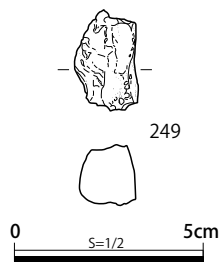
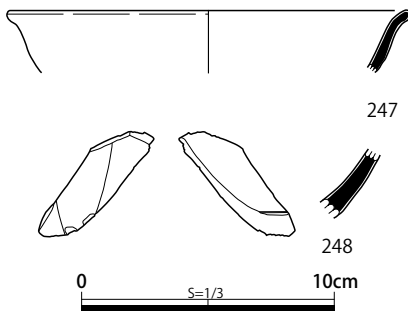
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン。地山ブロック、炭。

第 177 図 1-1 区西 SP1370 平断面図 (1/20)

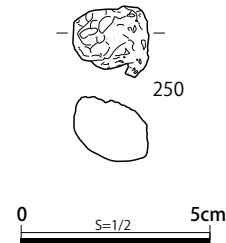


1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 鉄、炭、マンガン。  
2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり 地山ブロック、鉄、マンガン、炭。

第 179 図 1-1 区西 SP1389 平断面図 (1/20)



第 178 図 1-1 区西 SP1370 出土遺物



第 180 図 1-1 区西 SP1389 出土遺物

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 250 は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。

**時期** 年代は特定できない。

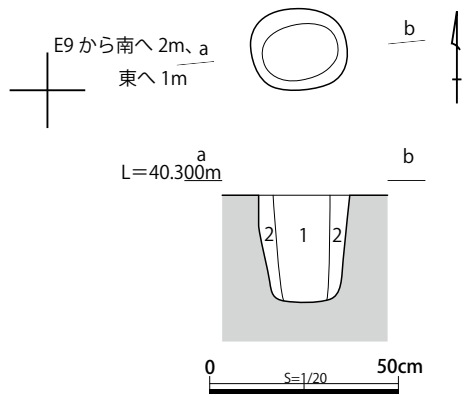
392 号小穴 (SP1392) (第 181・182 図)

**検出地点** D9 グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.25m、短軸は 0.23m、深さは 0.30m を測る。断面の形状は長方形である。

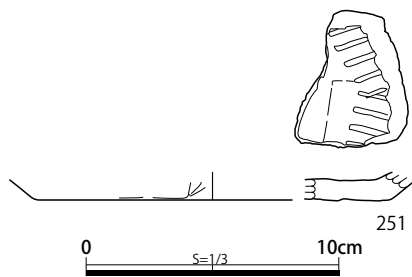
**土層** 暗灰黄色シルト混じり砂質土層で 2 層に分層され、1 層は柱痕と考えられる。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。



- 1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 炭、鉄、地山ブロック、マンガン。
- 2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり 地山ブロック、鉄、炭、マンガン。

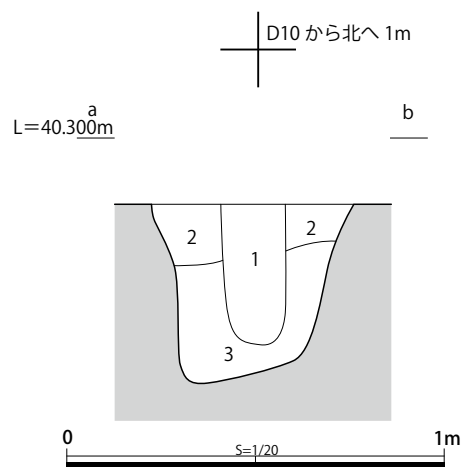
第181図 1-1区西 SP1392 平断面図 (1/20)



第182図 1-1区西 SP1392 出土遺物

**出土遺物** 251は土師質土器の播鉢の底部である。

**時期** 出土した遺物から鎌倉～室町時代（14世紀）以降の年代が想定される。



- 1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン、地山ブロック。
- 2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン、地山ブロック。土器わずか。
- 3 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり 地山ブロック、鉄、マンガン。

第183図 1-1区西 SP1402 平断面図 (1/20)

402号小穴（SP1402）（第183・184図）

**検出地点** D9・10 グリッド

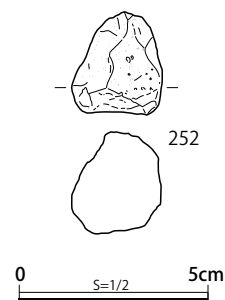
**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.58m、短軸は0.50m、深さは0.46mを測る。断面形状は逆台形である。

**土層** シルト混じり砂質土層で3層に分層され、2、3層（暗灰黄色砂質土）に1層（灰黄褐色砂質土）が柱痕として切り込んでいる。

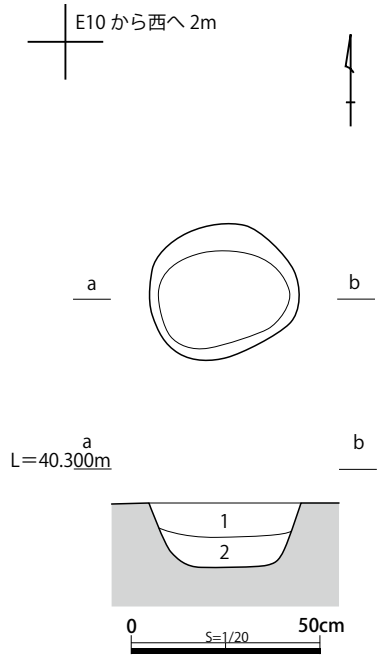
**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 252は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。

**時期** 年代は特定できない。



第184図 1-1区西 SP1402 出土遺物



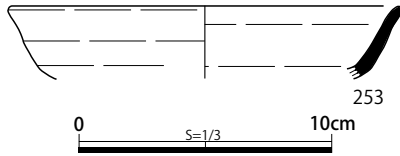
1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン、炭。  
2 灰黄色 2.5Y 6/2 砂質土・シルト混じり 地山ブロック、鉄、マンガン、炭。

第 185 図 1-1 区西 SP1408 平断面図 (1/20)

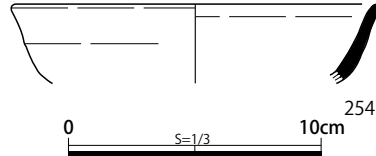


1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 地山ブロック、鉄、マンガン。

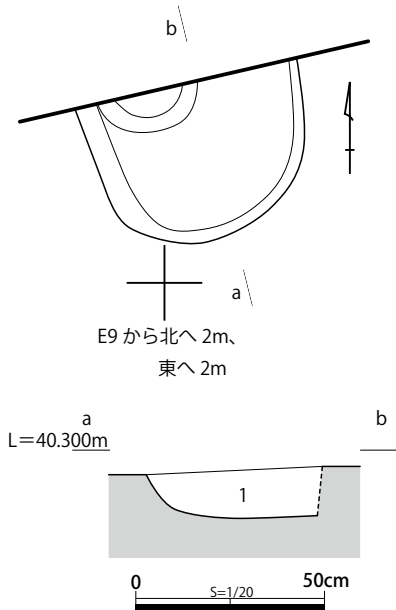
第 187 図 1-1 区西 SP1409 平断面図 (1/20)



第 186 図 1-1 区西 SP1408 出土遺物

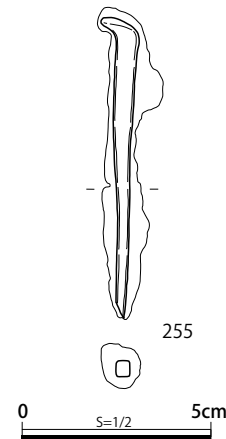


第 188 図 1-1 区西 SP1409 出土遺物

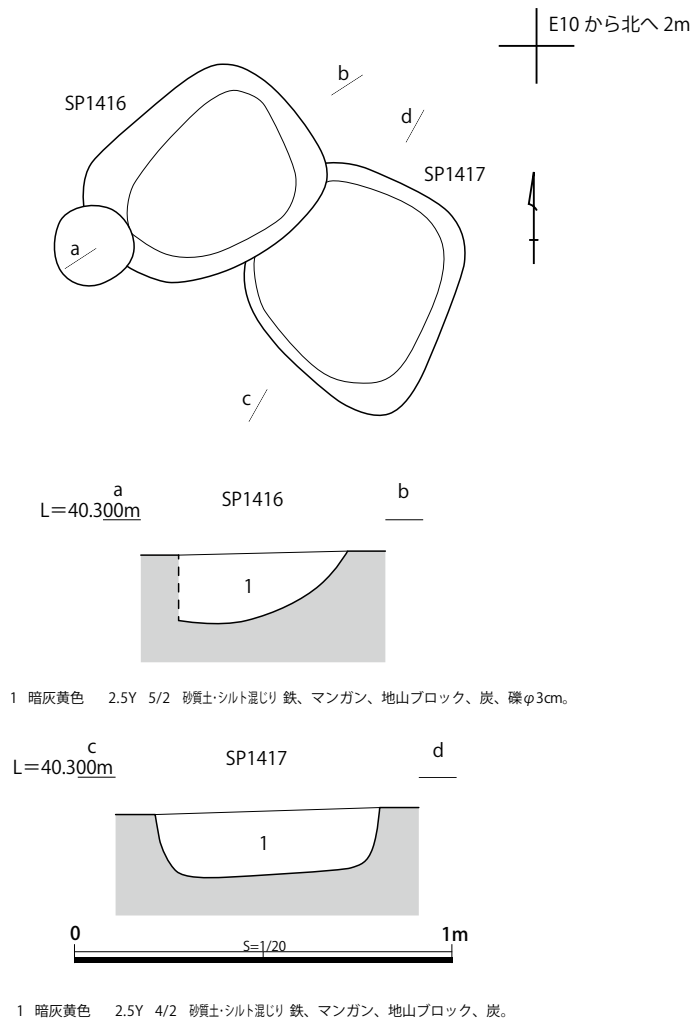


1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり

第 189 図 1-1 区西 SP1413 平断面図 (1/20)



第 190 図 1-1 区西 SP1413 出土遺物



第 191 図 1-1 区西 SP1416・SP1417 平断面図 (1/20)

408 号小穴 (SP1408) (第 185・186 図)

検出地点 D9 グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.40m、短軸は 0.35m、深さは 0.19m を測る。断面の形状は舟底形である。

土層 何れもシルト混じり砂質土層が 2 層に分層され、上部に暗灰黄色シルト混じり砂質土、下部に灰黄色シルト混じり砂質土が堆積している。

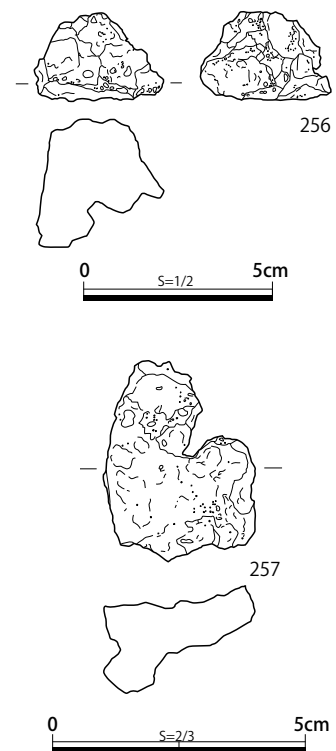
遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 253 は須恵器の杯である。

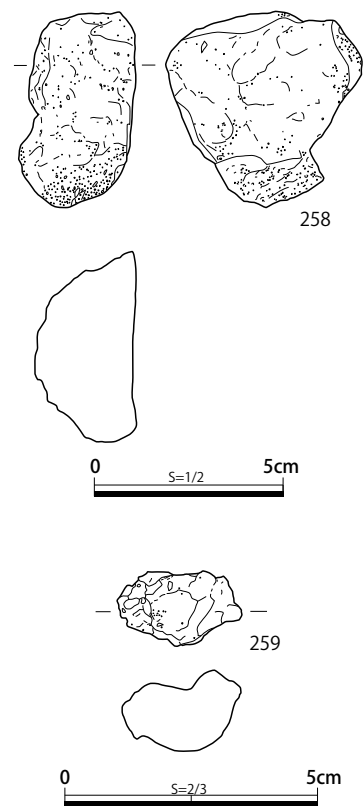
時期 出土した遺物から平安時代 (9 世紀) 以降の年代が想定される。

409 号小穴 (SP1409) (第 187・188 図)

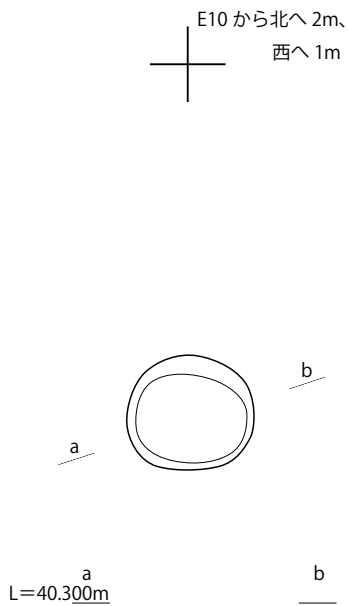
検出地点 D9 グリッド



第 192 図 1-1 区西 SP1416 出土遺物

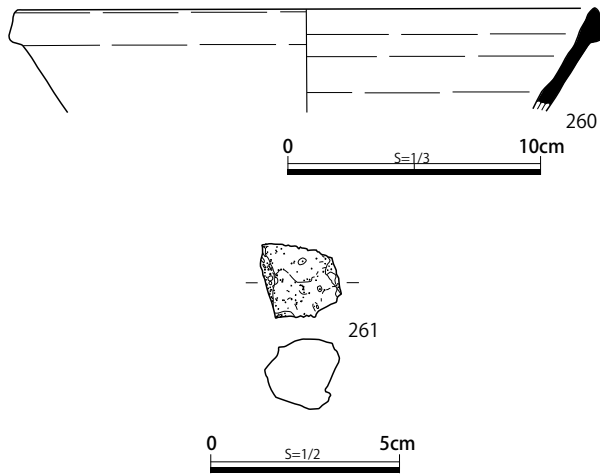


第 193 図 1-1 区西 SP1417 出土遺物

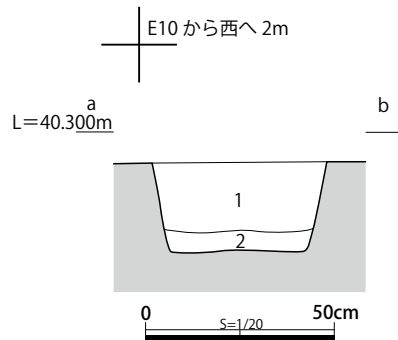
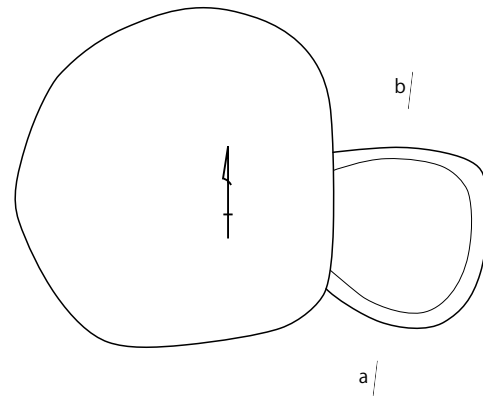


1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 地山ブロック、鉄、マンガ、炭、土器いずれもわずか。

第194図 1-1区西 SP1418 平断面図 (1/20)

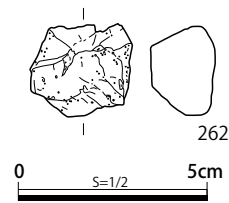


第195図 1-1区西 SP1418 出土遺物



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 鉄、地山ブロック、マンガ、炭。  
2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり 地山ブロック、鉄、マンガ。

第196図 1-1区西 SP1419 平断面図 (1/20)



第197図 1-1区西 SP1419 出土遺物

**規模・形態** 平面形状はほぼ円形を呈し、径は0.30m、深さは0.22mを測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 暗灰黄色シルト混じり砂質土層が1層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 254は須恵器の杯である。

**時期** 出土した遺物から平安時代(9世紀)以降の年代が想定される。

413号小穴 (SP1413) (第189・190図)

**検出地点** E9グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈するとみられるが、北側は調査区外に延びている。残存値で長軸は0.60m、短軸は0.47m、深さは0.16mを測る。断面の形状は舟底形とみられる。

**土層** 暗灰黄色シルト混じり砂質土層1層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 255は鉄製の釘である。

**時期** 年代は特定できない。

416号小穴 (SP1416) (第191・192図)

**検出地点** E9グリッド

**規模・形態** 平面形状はやや不整な隅丸長方形を呈し、西側をSP1415に切られている。残存値で長軸は0.55m、短軸は0.50m、深さは0.20mを測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 暗灰黄色シルト混じり砂質土層が1層で炭化物や小礫をわずかに含む。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 256は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。257はスラグである。

**時期** 年代は特定できない。

417号小穴 (SP1417) (第191・193図)

**検出地点** E9グリッド

**規模・形態** 平面形状はやや不整な隅丸長方形を呈し、西側をSP1416に切られている。残存値で長軸は0.57m、短軸は0.55m、深さは0.18mを測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 暗灰黄色シルト混じり砂質土層が1層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 258は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。259はスラグである。

**時期** 年代は特定できない。

418号小穴 (SP1418) (第194・195図)

**検出地点** E9グリッド

**規模・形態** 平面形状はほぼ円形を呈し、径は0.32m、深さは0.20mを測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 暗灰黄色シルト混じり砂質土層が1層で炭化物をわずかに含む。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

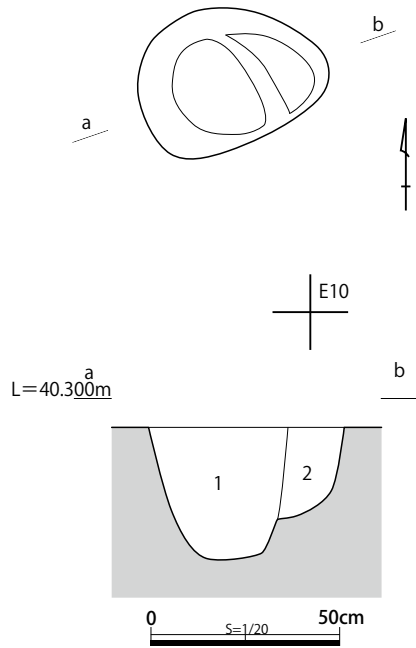
**出土遺物** 260は東播系須恵器(第Ⅲ期)の捏鉢である。261は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。

**時期** 出土した遺物から鎌倉時代(13世紀)以降の年代が想定される。

419号小穴 (SP1419) (第196・197図)

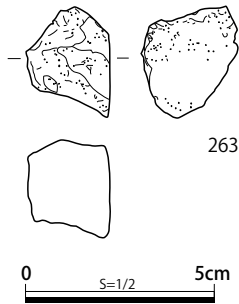
**検出地点** E9グリッド

**規模・形態** 平面形状はやや不整な円形を呈するとみられ、西側をSK1029に切られている。残存値



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン、地山ブロック、炭。  
2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり 地山ブロック、鉄、マンガン。

第 198 図 1-1 区西 SP1423 断面図 (1/20)



第 199 図 1-1 区西 SP1423 出土遺物

で長軸は 0.50m、短軸は 0.40m、深さは 0.24m を測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 何れも暗灰黄色シルト混じり砂質土層で 2 層に分層される。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 262 は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。

**時期** 年代は特定できない。

423 号小穴 (SP1423) (第 198・199 図)

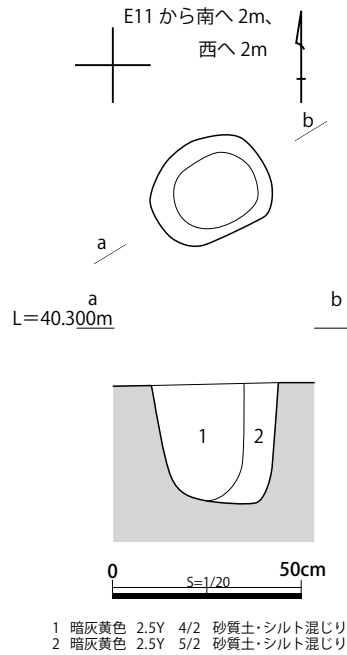
**検出地点** E9 グリッド

**規模・形態** 平面形状はやや不整な楕円形を呈し、長軸は 0.50m、短軸は 0.40m、深さは 0.38m を測る。断面の形状は 2 段形である。

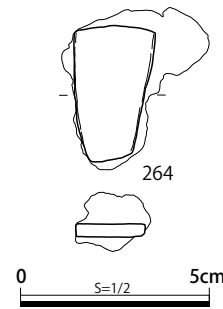
**土層** 何れも暗灰黄色シルト混じり砂質土層で 2 層に分層される。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 263 は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。

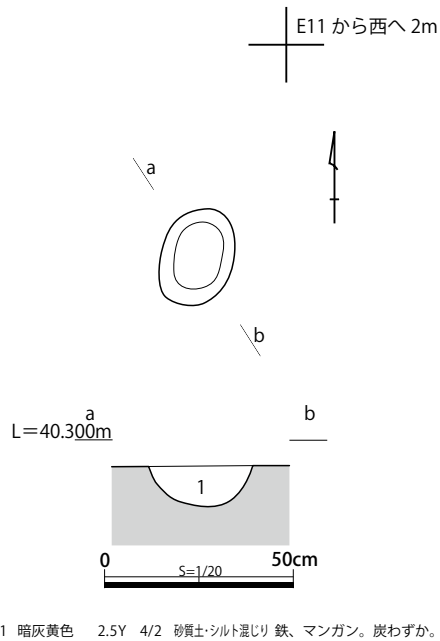


第 200 図 1-1 区西 SP1430 断面図 (1/20)



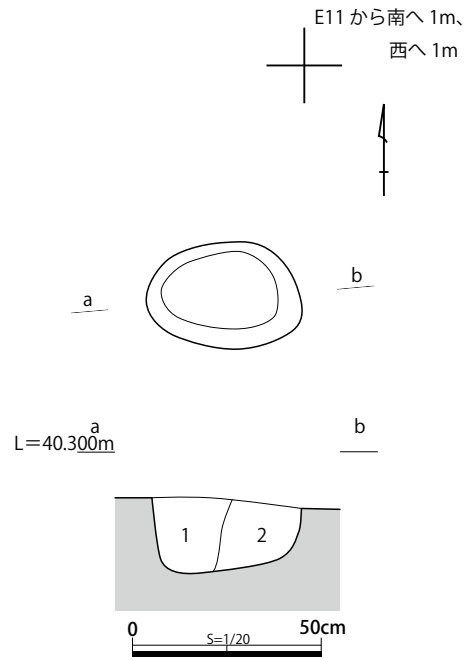
第 201 図 1-1 区西 SP1430 出土遺物





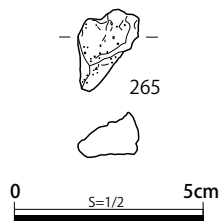
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン。炭わずか。

第 202 図 1-1 区西 SP1434 平断面図 (1/20)

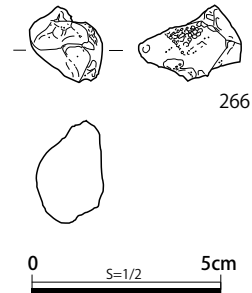


1 黄灰色 2.5Y 5/1 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン。  
2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン、土器、炭。

第 204 図 1-1 区西 SP1438 平断面図 (1/20)



第 203 図 1-1 区西 SP1434 出土遺物



第 205 図 1-1 区西 SP1438 出土遺物

**時期** 年代は特定できない。

430 号小穴 (SP1430) (第 200・201 図)

**検出地点** D10 グリッド

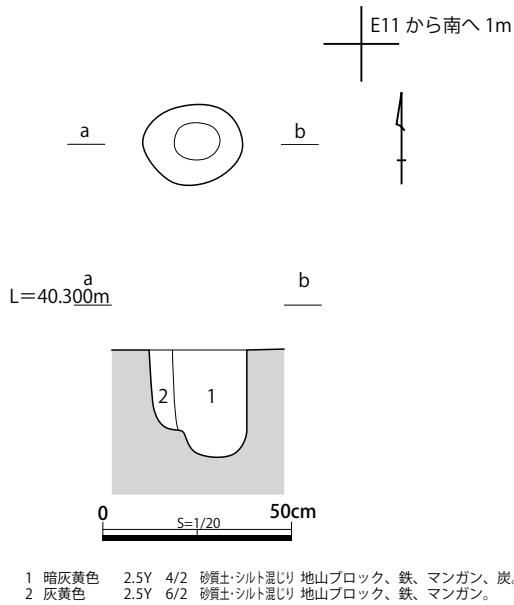
**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.30m、短軸は 0.25m、深さは 0.37m を測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 何れも暗灰黄色シルト混じり砂質土層で 2 層に分層され、1 層は柱痕と考えられる。

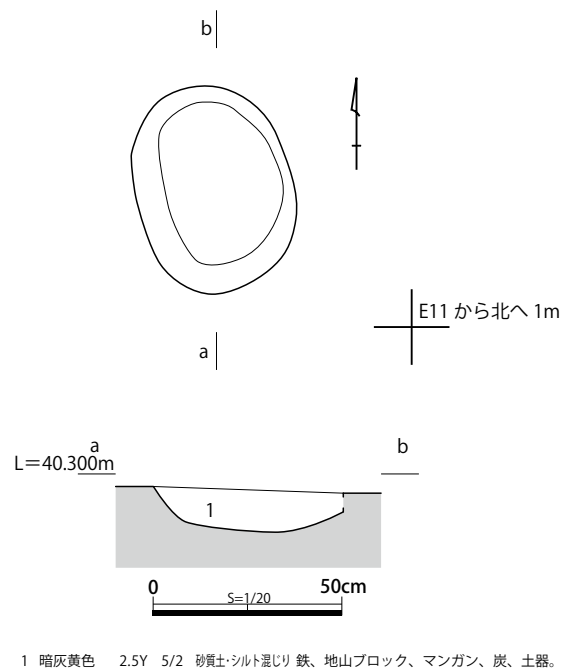
**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 264 は板状の鉄片である。

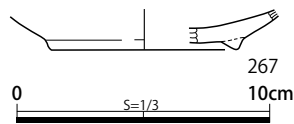
**時期** 年代は特定できない。



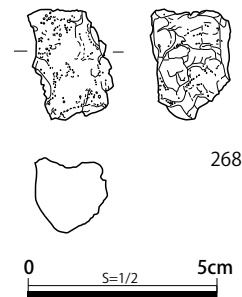
第 206 図 1-1 区西 SP1442 平断面図 (1/20)



第 208 図 1-1 区西 SP1459 平断面図 (1/20)



第 207 図 1-1 区西 SP1442 出土遺物



第 209 図 1-1 区西 SP1459 出土遺物

#### 434 号小穴 (SP1434) (第 202・203 図)

**検出地点** D10 グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.25m、短軸は 0.20m、深さは 0.14m を測る。断面の形状は丸底形である。

**土層** 暗灰黄色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

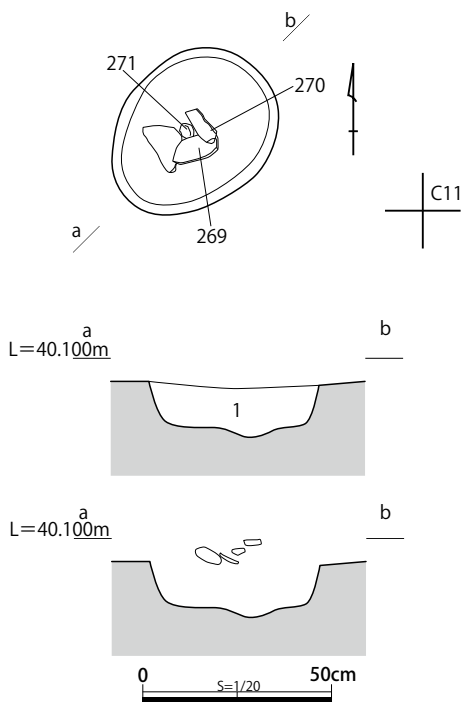
**出土遺物** 265 は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。

**時期** 年代は特定できない。

#### 438 号小穴 (SP1438) (第 204・205 図)

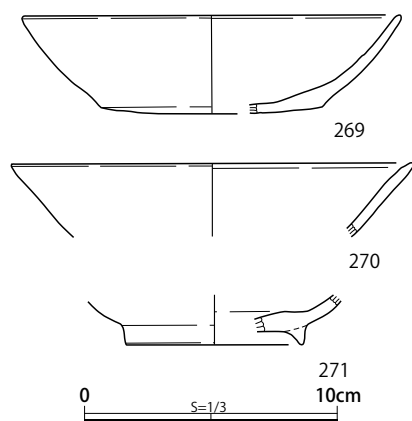
**検出地点** D10 グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.40m、短軸は 0.30m、深さは 0.20m を測る。断面の形状は舟底形である。



1 黄灰色 2.5Y 5/1 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン、炭いずれもわずか。

第 210 図 1-1 区西 SP1474 平断面図 (1/20)



第 211 図 1-1 区西 SP1474 出土遺物

**時期** 年代は特定できない。

474 号小穴 (SP1474) (第 210・211 図)

**検出地点** C10 グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.50m、短軸は 0.40m、深さは 0.12m を測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 黄灰色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

**遺物出土状況** 上面中央付近から出土している。

**出土遺物** 269～271 は土師質土器の杯で、269 の底部切り離しは回転ヘラ切りである。

**土層** 何れもシルト混じり砂質土層で 2 層に分層され、2 層 (暗灰黄色シルト混じり砂質土) に 1 層 (黄灰色シルト混じり砂質土) が切り込むように堆積している。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 266 は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。

**時期** 年代は特定できない。

442 号小穴 (SP1442) (第 206・207 図)

**検出地点** D10 グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.27m、短軸は 0.23m、深さは 0.34m を測る。断面の形状は 2 段形である。

**土層** 何れもシルト混じり砂質土層で 2 層に分層される。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 267 は土師質土器の杯である。

**時期** 出土した遺物から平安時代 (11 世紀) 以降の年代が想定される。

459 号小穴 (SP1459) (第 208・209 図)

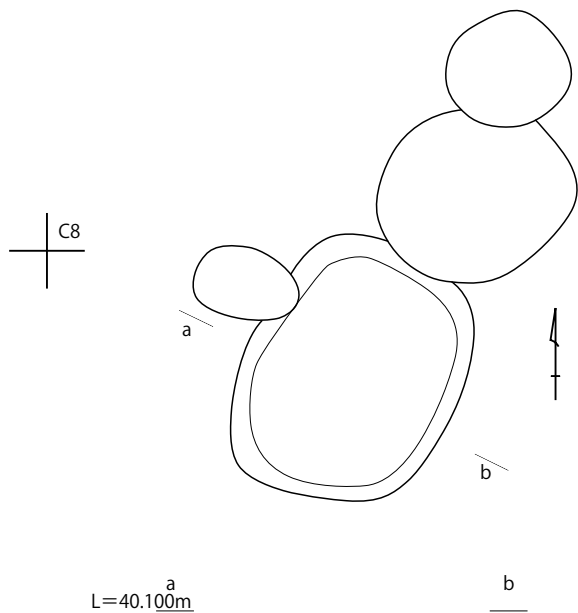
**検出地点** E10 グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.53m、短軸は 0.43m、深さは 0.14m を測る。断面の形状は皿形である。

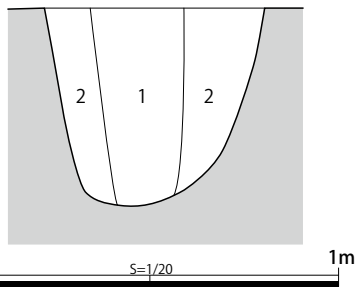
**土層** 暗灰黄色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 268 は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。

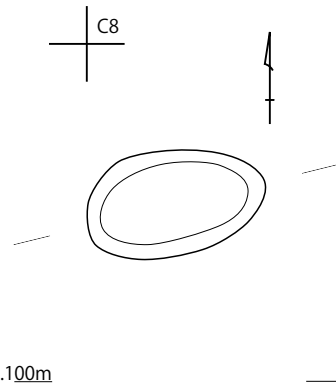


L=40.100m

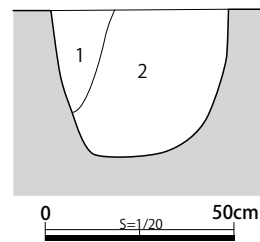


1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン、地山ブロック。炭わずか。  
2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり 地山ブロック、鉄、マンガン。

第 212 図 1-1 区西 SP1479 平断面図 (1/20)

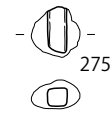


L=40.100m



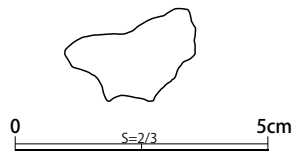
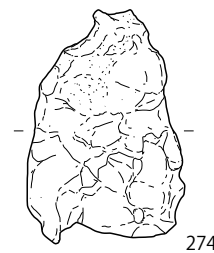
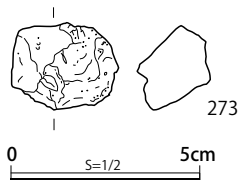
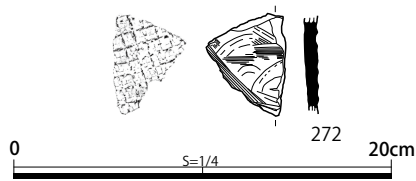
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン、地山ブロック、炭、土器。  
2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり 地山ブロック、鉄、マンガン、炭。

第 214 図 1-1 区西 SP1480 平断面図 (1/20)



0 S=1/2 5cm

第 215 図 1-1 区西 SP1480 出土遺物



第 213 図 1-1 区西 SP1479 出土遺物

**時期** 出土した遺物から平安時代終末（12世紀）以降の年代が想定される。

479号小穴（SP1479）（第212・213図）

**検出地点** B8グリッド

**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈し、北側をSP1223、西側をSP1478に切られている。残存値で長軸は0.70m、短軸は0.55m、深さは0.51mを測る。断面の形状は丸底形である。

**土層** 何れも暗灰黄色シルト混じり砂質土層で2層に分層され、1層は柱痕と考えられる。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 272は須恵器の甕で、亀山窯と考えられる。273は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。274はスラグである。

**時期** 出土した遺物から鎌倉時代（13世紀）以降の年代が想定される。

480号小穴（SP1480）（第214・215図）

**検出地点** B8グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.47m、短軸は0.27m、深さは0.40mを測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 何れも暗灰黄色シルト混じり砂質土層で2層に分層される。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 275は鉄製の釘とみられる。

**時期** 年代は特定できない。

483号小穴（SP1483）（第216・217図）

**検出地点** B6グリッド

**規模・形態** 平面形状はほぼ円形を呈し、径は0.30m、深さは0.25mを測る。断面の形状は2段形である。

**土層** 何れも暗灰黄色シルト混じり砂質土層で2層に分層される。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 276は土師質土器の羽釜である。

**時期** 出土した遺物から鎌倉時代（14世紀）以降の年代が想定される。

489号小穴（SP1489）（第218・219図）

**検出地点** C8グリッド

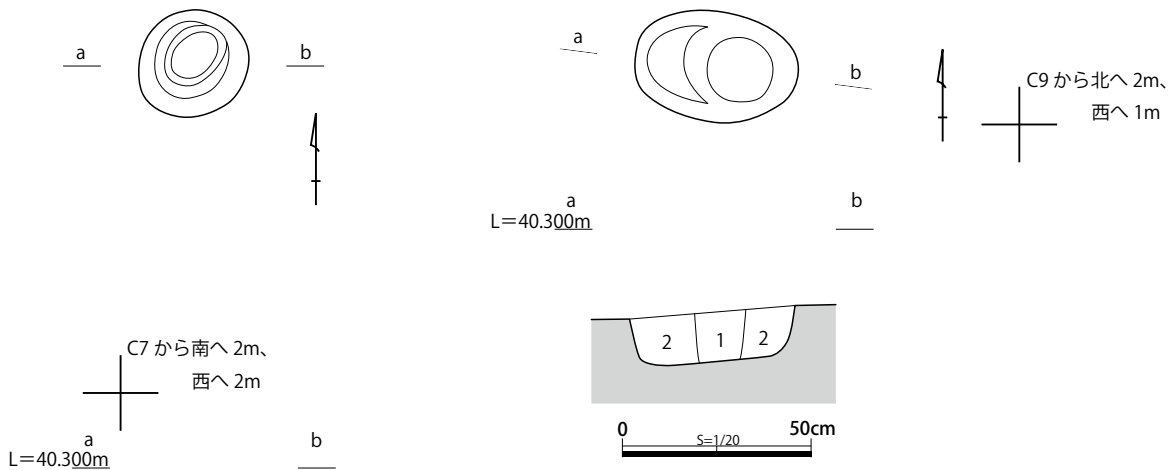
**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.42m、短軸は0.28m、深さは0.14mを測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 何れも暗灰黄色シルト混じり砂質土層で2層に分層される。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

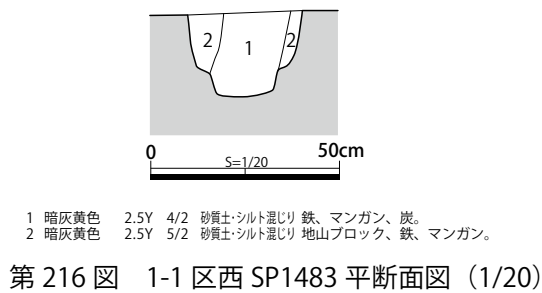
**出土遺物** 277は土師質土器の鉢である。

**時期** 出土した遺物から鎌倉時代（13世紀）以降の年代が想定される。



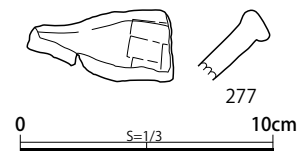
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン。  
 2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり 地山ブロック、鉄、マンガン。

第 218 図 1-1 区西 SP1489 平断面図 (1/20)

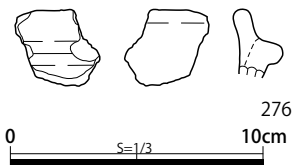


1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン、炭。  
 2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり 地山ブロック、鉄、マンガン。

第 216 図 1-1 区西 SP1483 平断面図 (1/20)



第 219 図 1-1 区西 SP1489 出土遺物



第 217 図 1-1 区西 SP1483 出土遺物

(5) 1-1 区東 (第 220 図)

1-1 区東においては確認された遺構面は 1 枚で、検出された遺構は調査区の南半部を中心として存在しており、溝 (SD) が 2 条、土坑 (SK) が 18 基、小穴 (SP) が 211 基、性格不明遺構 (SX) が 1 基となっている。

3 号土坑 (SK1003) (第 221・222 図)

**検出地点** C14 グリッド

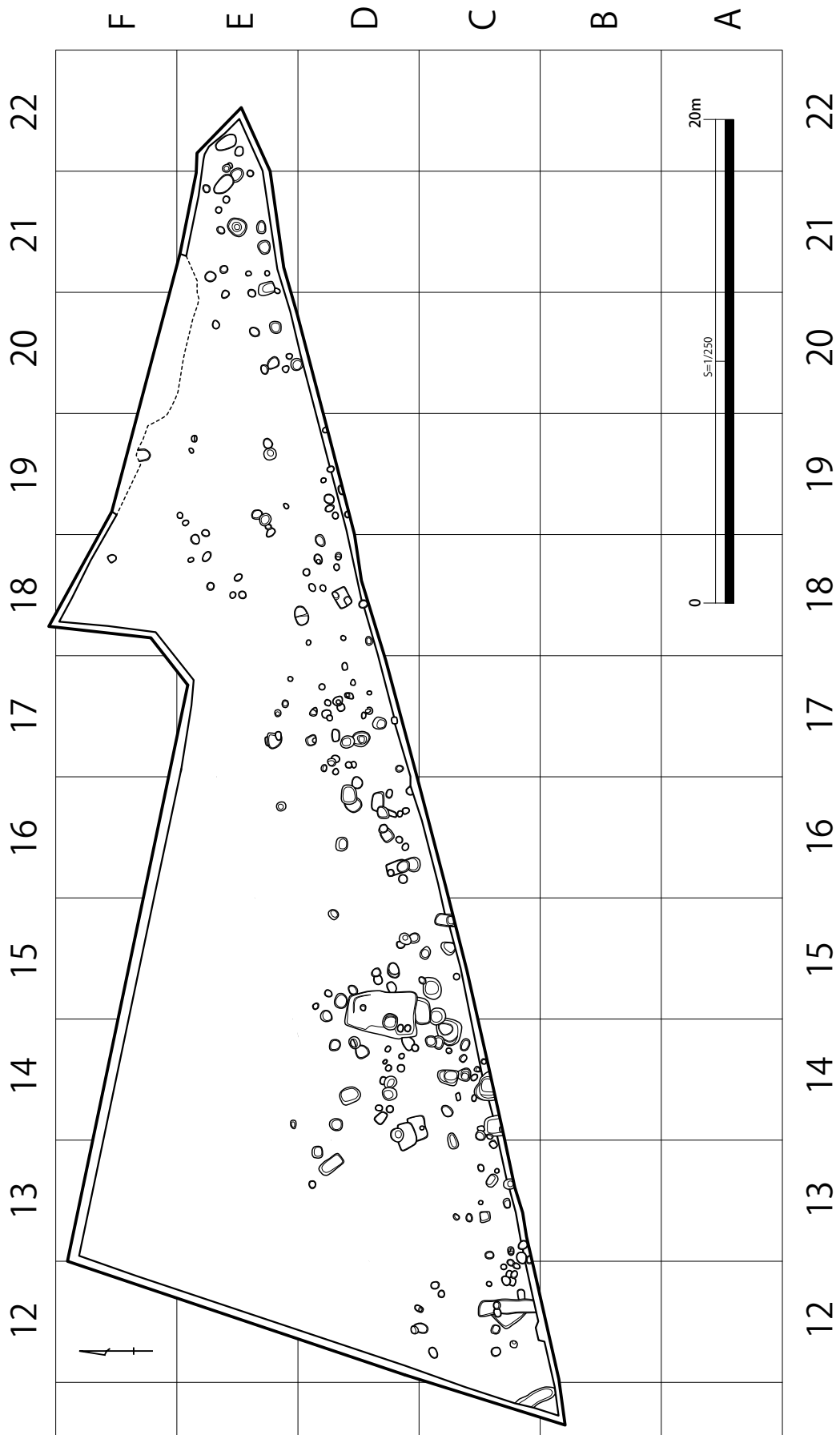
**規模・形態** 平面形状はやや不整な楕円形を呈するとみられるが、南側は調査区外に伸びている。残存値で長軸は 1.20m、短軸は 0.80m、深さは 0.38m を測る。断面の形状は 2 段形である。

**土層** 何れもシルト混じり砂質土層で 2 層に分層され、1 層は柱痕と考えられる。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 278 は土師質土器の羽釜である。279 は西村系の須恵器椀である。280 は鉄製の釘である。

**時期** 出土した遺物から鎌倉時代 (13 世紀後半) 以降の年代が想定される。



第 220 図 1-1 区東平面図 (1/250)

4号土坑 (SK1004) (第 223・224 図)

検出地点 C14 グリッド

**規模・形態** 平面形状はやや不整な隅丸長方形を呈し、長軸は 0.87m、短軸は 0.67m、深さは 0.58m を測る。断面の形状は 2 段形である。

**土層** 何れもシルト混じり砂質土層で 2 層に分層され、2 層 (灰黄色砂質土) に 1 層 (暗灰黄色砂質土) が切り込んでいるため柱痕と考えられる。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

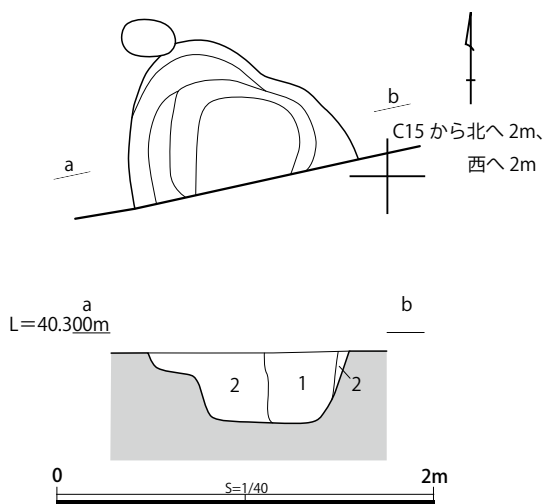
**出土遺物** 281 は土師質土器の羽釜である。282 は羽口である。

**時期** 出土した遺物から鎌倉時代 (13 世紀後半) 以降の年代が想定される。

5号土坑 (SK1005) (第 225・226 図)

検出地点 D13・14 グリッド

**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈し、北側を SP1043 に切られている。長軸は 1.03m、短軸は 0.78m、深さは 0.36m を測る。断面の形状は逆台形である。



**土層** 何れもシルト混じり砂質土で 3 層に分層される。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 283 は和泉型瓦器椀の底部である。284 は管状の土錘である。285 は結晶片岩製の剥片である。286 はスラグである。

**時期** 出土した遺物から鎌倉時代 (13 世紀) 以降の年代が想定される。

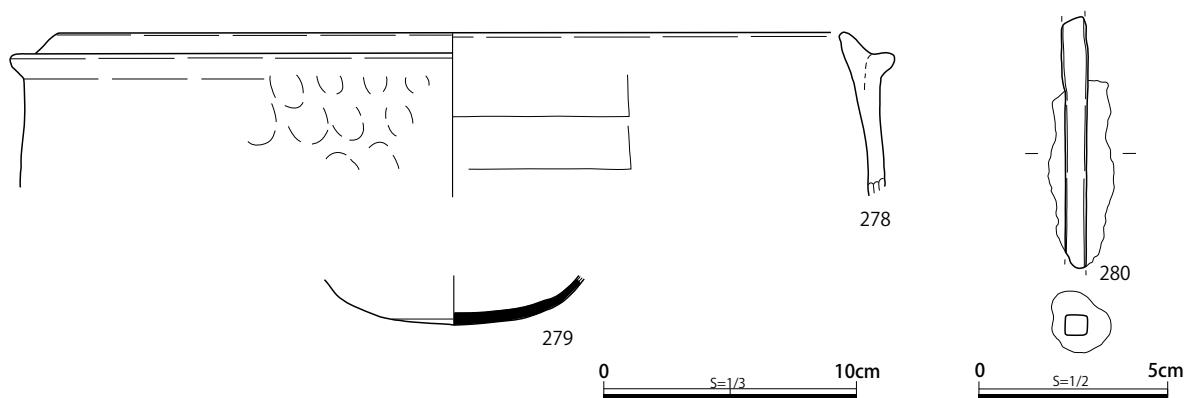
- 1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 土器、炭いずれもわずか。一辺10cmの土器片。
- 2 灰黄色 2.5Y 6/2 砂質土・シルト混じり 地山ブロック、マンガ、鉄。

第 221 図 1-1 区東 SK1003 平断面図 (1/40)

6号土坑 (SK1006) (第 225・227 図)

検出地点 C・D14 グリッド

**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈し、北側を SK1005 に切られている。長軸は 1.00m、短軸は 0.70m、深さは 0.26m を測る。断面の形状は舟底



第 222 図 1-1 区東 SK1003 出土遺物



形である。

**土層** 何れもシルト混じり砂質土で4層に分層される。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 287は黒色土器A類の椀である。288は鉄製の釘である。289は羽口である。

**時期** 出土した遺物から平安時代(11世紀)以降の年代が想定される。

#### 9号土坑 (SK1009) (第228・229図)

**検出地点** C14 グリッド

**規模・形態** 平面形状はやや不整な楕円形を呈し、北側をSP1062、SP1066に切られている。長軸は1.10m、短軸は1.05m、深さは0.22mを測る。断面の形状は2段形である。

**土層** 何れも暗灰黄色シルト混じり砂質土層で2層に分層される。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 290は土師質土器の鍋である。

**時期** 出土した遺物から平安時代末(12世紀)以降の年代が想定される。

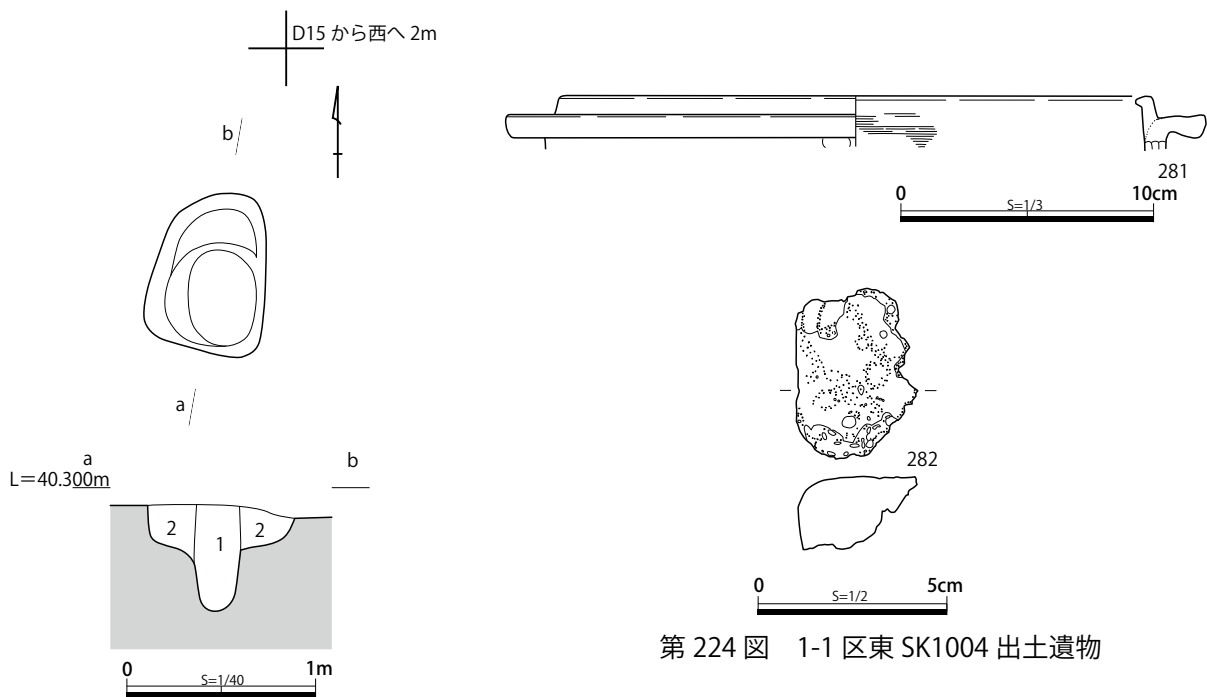
#### 4号小穴 (SP1004) (第230・231図)

**検出地点** C12 グリッド

**規模・形態** 平面形状はほぼ円形を呈し長軸は0.33m、短軸は0.30m、深さは0.20mを測る。断面の形状は丸底形である。

**土層** 何れも暗灰黄色シルト混じり砂質土層で2層に分層され、1層は柱痕である。

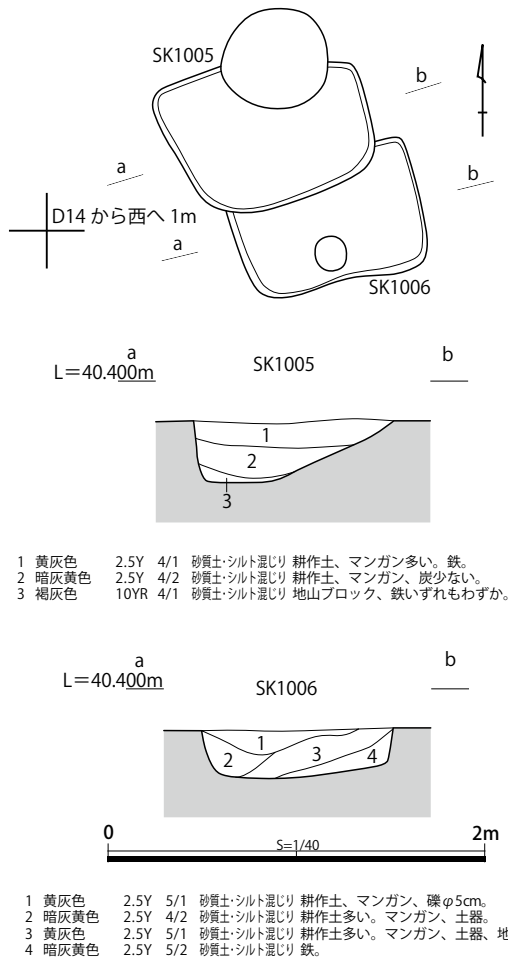
**遺物出土状況** 底部付近より扁平な砂岩礫や土器が出土している。



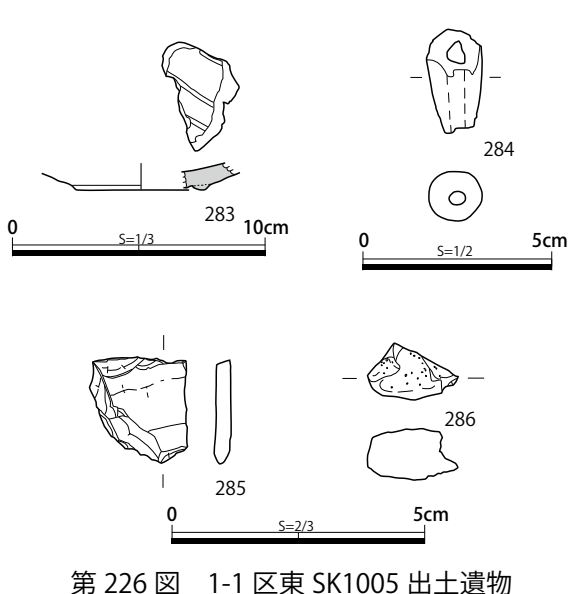
第224図 1-1区東SK1004出土遺物

1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 地山ブロックφ2cm、炭φ1cm、礫φ5cm。  
2 灰黄色 2.5Y 6/2 砂質土・シルト混じり マンガン、φ0.5~4cm、土器いずれもわずが。

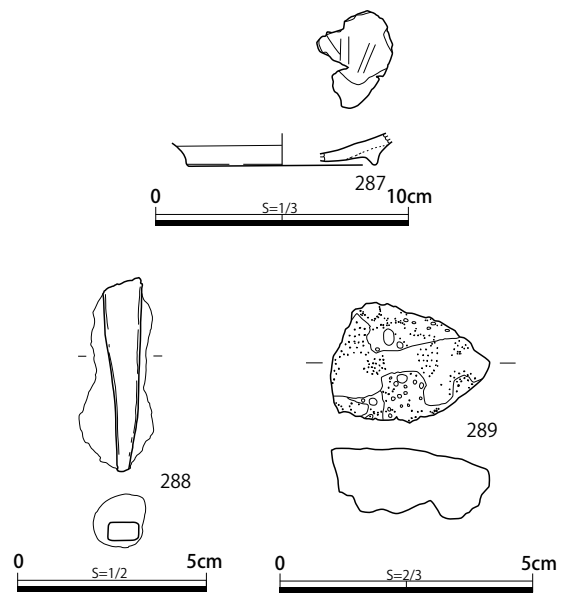
第223図 1-1区東SK1004平断面図(1/40)



第 225 図 1-1 区東 SK1005・SK1006 平断面図 (1/40)



第 226 図 1-1 区東 SK1005 出土遺物



第 227 図 1-1 区東 SK1006 出土遺物

**出土遺物** 291 は土師器の椀である。外面に赤色顔料が塗られている。

**時期** 出土した遺物から平安時代 (11 世紀) 以降の年代が想定される。

12 号小穴 (SP1012) (第 232・233 図)

**検出地点** C12 グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈するとみられるが、西側をSD1002に切られている。残存値で長軸は0.40m、短軸は0.30m、深さは0.30mを測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 何れも暗灰黄色シルト混じり砂質土層で2層に分層される。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 292 は羽口である。

**時期** 年代は特定できない。

13 号小穴 (SP1013) (第 234 図)

**検出地点** C12 グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.42m、短軸は0.35m、深さは0.48mを測る。断面の形状は丸底形である。

**土層** 暗灰黄色シルト混じり砂質土層が1層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 図化可能な遺物は出土していない。

**時期** 接しているSP1144との関連から中世前半期以降の年代が想定される。

#### 144号小穴 (SP1144) (第234・235図)

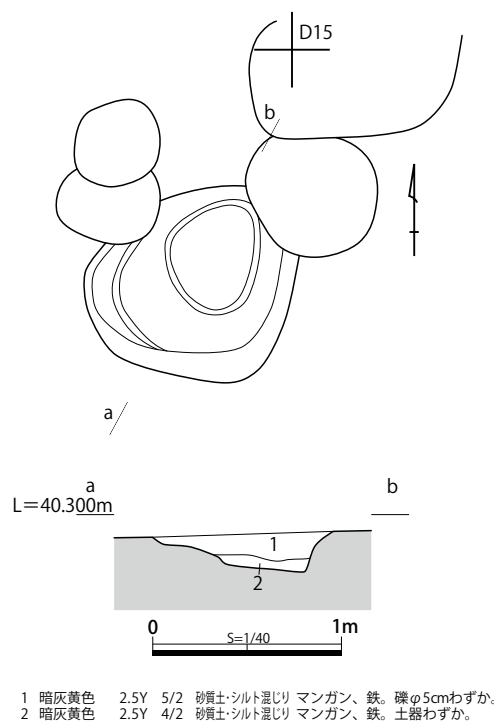
**検出地点** C12グリッド

**規模・形態** 平面の形状は楕円形を呈するとみられるが、北側をSP1013に東側をSP1014、SP1015に切られている。残存値で長軸は0.55m、短軸は0.35m、深さは0.64mを測る。断面の形状は2段形である。

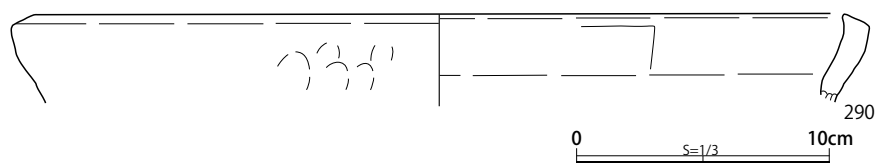
**土層** 何れもシルト混じり砂質土層で2層に分層され、1層(暗灰黄色砂質土)が2層(灰黄色砂質土)に切り込むように堆積している。

**遺物出土状況** SP1013下、やや下層寄りから土器が出土している。

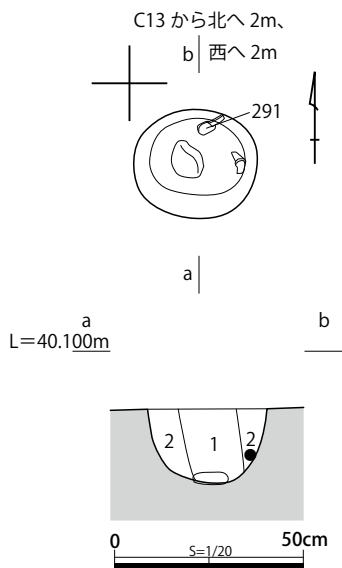
**出土遺物** 293～295は土師質土器の杯である。底部の切り離しはいずれも回転ヘラ切りである。



第228図 1-1区東SK1009平断面図(1/40)

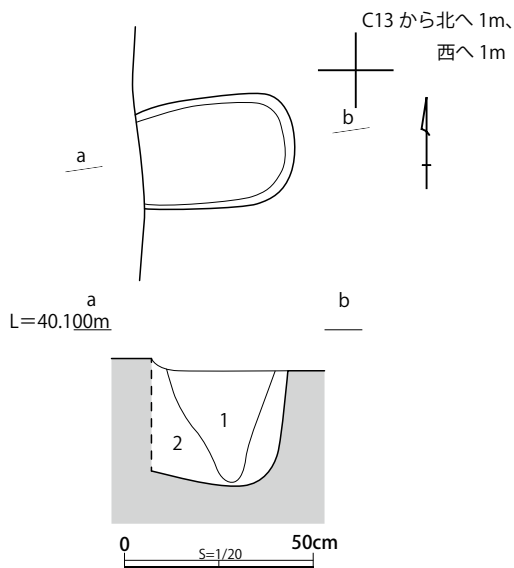


第229図 1-1区東SK1009出土遺物



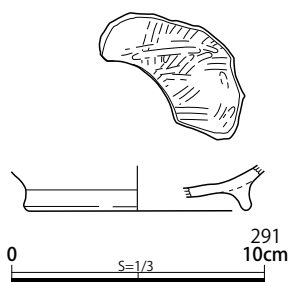
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり マンガン、地山ブロック。  
2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり 地山ブロック、炭。

第 230 図 1-1 区東 SP1004 平断面図 (1/20)

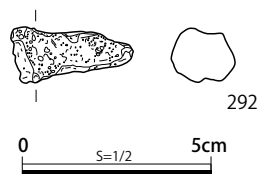


1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり マンガン、鉄、地山ブロック。  
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 鉄。

第 232 図 1-1 区東 SP1012 平断面図 (1/20)



第 231 図 1-1 区東 SP1004 出土遺物



第 233 図 1-1 区東 SP1012 出土遺物

296 はスラグである。

**時期** 出土した遺物から平安時代末 (12 世紀) 以降の年代が想定される。

42 号小穴 (SP1042) (第 236・237 図)

**検出地点** C14 グリッド

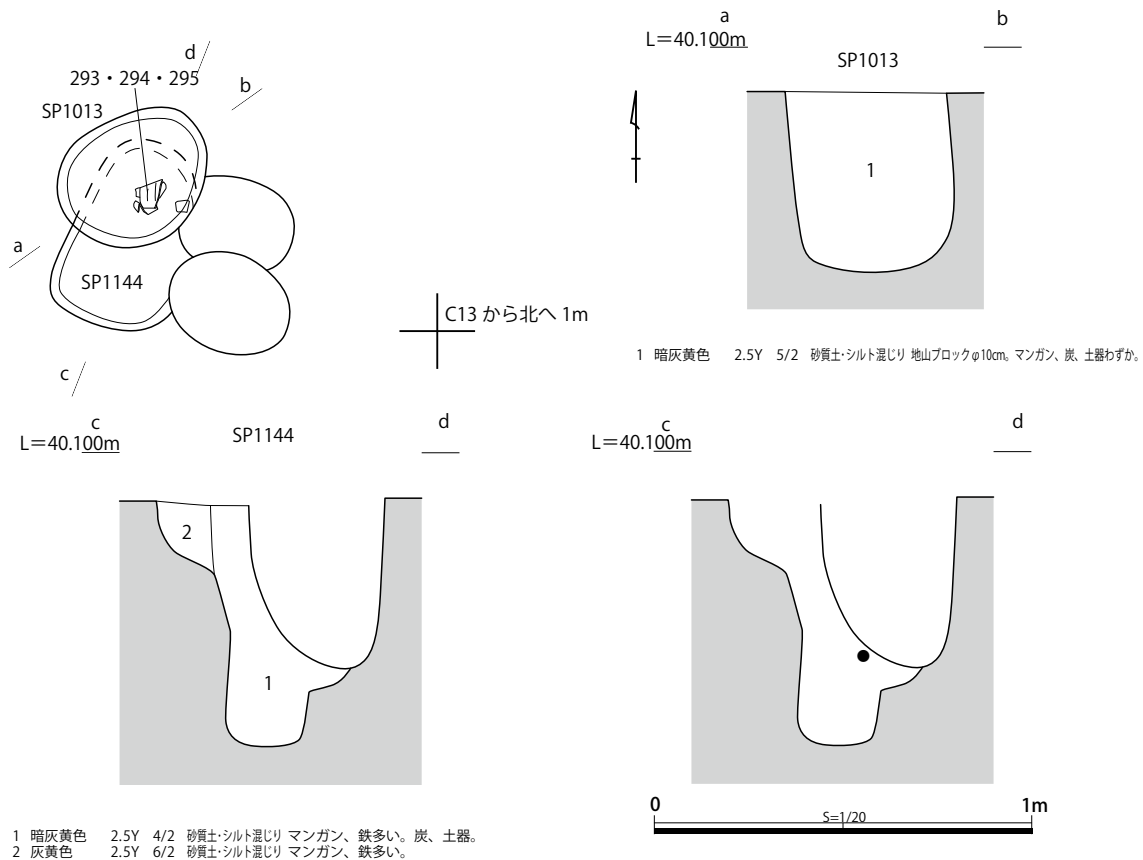
**規模・形態** 平面形状はやや不整な楕円形を呈し、北側を SK1014 に切られている。残存値で長軸は 0.55m、短軸は 0.48m、深さは 0.16m を測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 何れもシルト混じり砂質土で 2 層に分層され、1 層 (暗灰黄色砂質土) が 2 層 (灰黄色砂質土) に切り込むように堆積している。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 297 は羽口である。

**時期** 年代は特定できない。



第 234 図 1-1 区東 SP1013・SP1144 平断面図 (1/20)

46号小穴 (SP1046) (第 238・239 図)

**検出地点** D14 グリッド

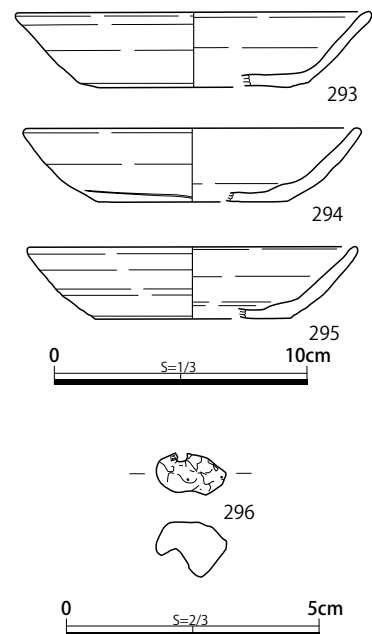
**規模・形態** 平面形状はほぼ円形を呈し、径は 0.30m、深さは 0.20m を測る。断面の形状は播鉢形である。

**土層** 何れもシルト混じり砂質土で 2 層に分層される。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 298 は土師質土器の杯である。299 は被熱した粘土片で羽口の可能性がある。

**時期** 出土した遺物から平安時代末 (12 世紀) 以降の年代が想定される。



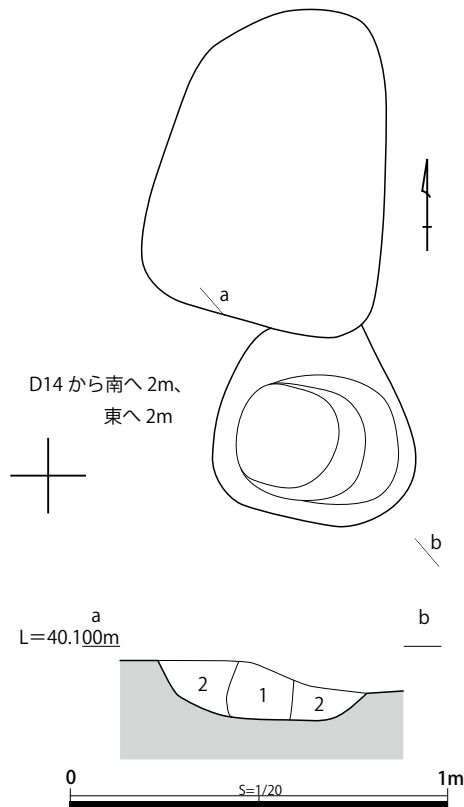
第 235 図 1-1 区東 SP1144 出土遺物

47号小穴 (SP1047) (第 240 図)

**検出地点** D14 グリッド

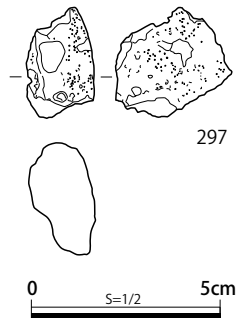
**規模・形態** 平面の形状はほぼ円形を呈し、長軸は 0.57m、短軸は 0.53m、深さは 0.36m を測る。断面の形状は丸底形である。

**土層** 何れもシルト混じり砂質土層で 3 層に分層され、1 層は

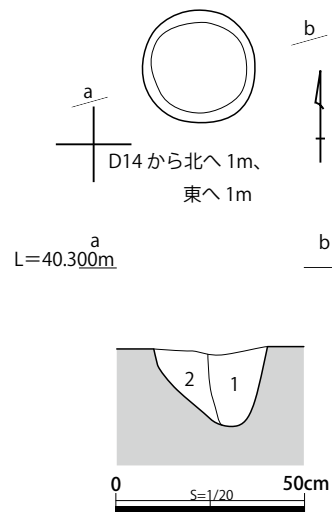


1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 礫φ10cm多い。マンガン、鉄。  
2 灰黄色 2.5Y 6/2 砂質土・シルト混じり 礫φ5cm、地山ブロック、マンガン。

第 236 図 1-1 区東 SP1042 平断面図 (1/20)

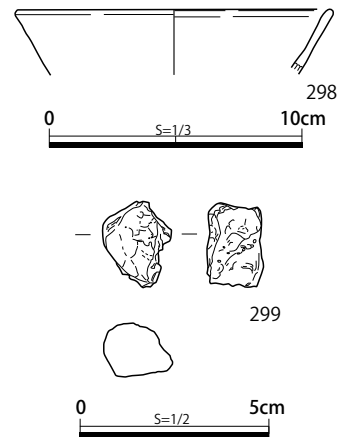


第 237 図 1-1 区東 SP1042 出土遺物



1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり  
2 灰黄色 2.5Y 6/2 砂質土・シルト混じり 地山ブロック、歴φ5~10cm。

第 238 図 1-1 区東 SP1046 平断面図 (1/20)



第 239 図 1-1 区東 SP1046 出土遺物

柱痕と考えられる。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

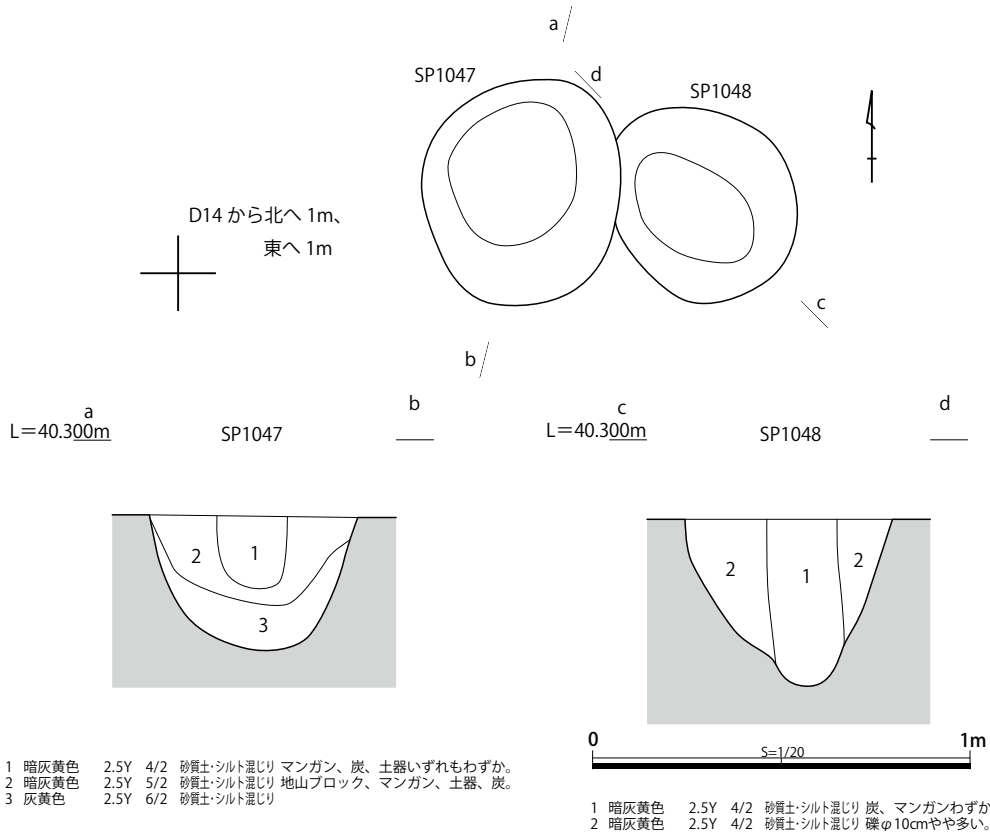
**出土遺物** 図化可能な遺物は出土していない。

**時期** 年代は特定できない。

48号小穴 (SP1048) (第 240・241 図)

**検出地点** D14 グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し西側を SP1047 に切られている。長軸は 0.47m、短軸は 0.44m、



第 240 図 1-1 区東 SP1047・SP1048 平断面図 (1/20)

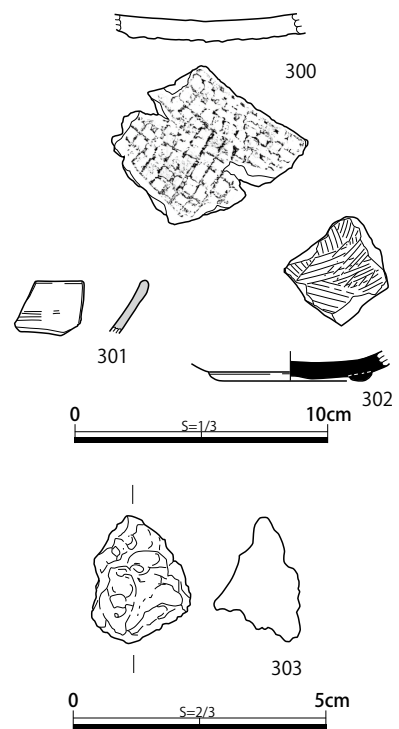
深さは 0.44m を測る。断面の形状は楕円形である。

**土層** 何れも暗灰黄色シルト混じり砂質土層で 2 層に分層され、1 層は柱痕である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 300 は土師質土器の羽釜の底部である。301 は和泉型の瓦器椀である。302 は西村系須恵器椀である。303 はスラグである。

**時期** 出土した遺物から鎌倉時代（13 世紀）以降の年代が想定される。



55 号小穴 (SP1055) (第 242・243 図)

**検出地点** D14 グリッド

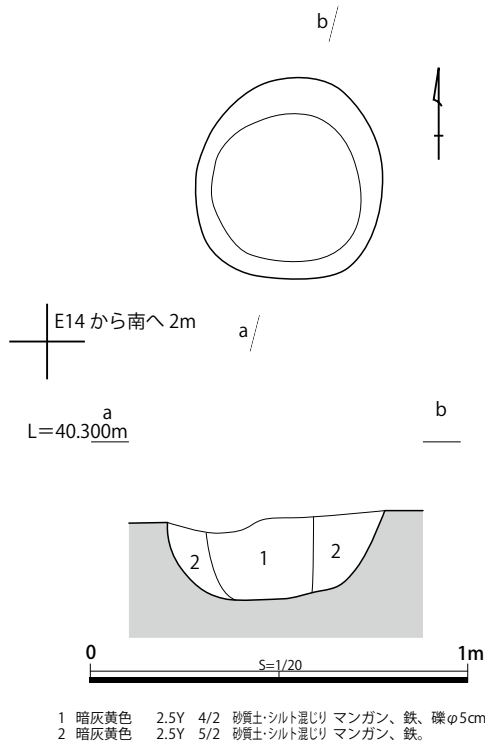
**規模・形態** 平面の形状はほぼ円形を呈し、長軸は 0.55m、短軸は 0.50m、深さは 0.20m を測る。断面の形状は丸底形である。

**土層** 何れも暗灰黄色シルト混じり砂質土層で 2 層に分層される

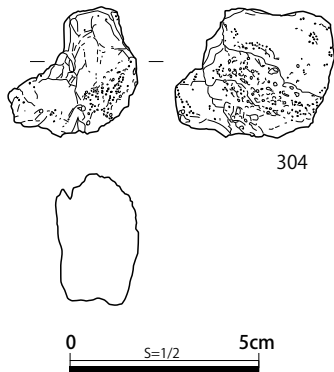
**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 304 は羽口である。

第 241 図 1-1 区東 SP1048 出土遺物

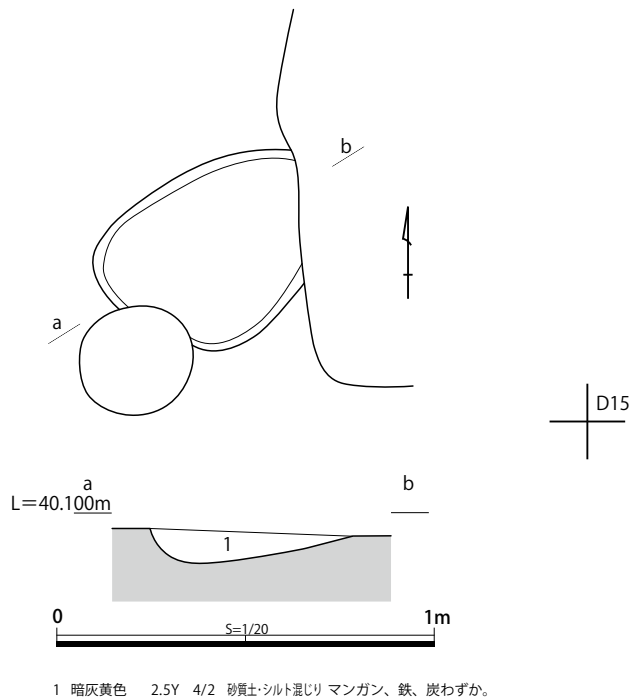


第 242 図 1-1 区東 SP1055 平断面図 (1/20)

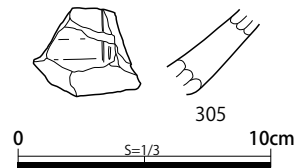


第 243 図 1-1 区東 SP1055 出土遺物

時期 年代は特定できない。



第 244 図 1-1 区東 SP1060 平断面図 (1/20)



第 245 図 1-1 区東 SP1060 出土遺物

60 号小穴 (SP1060) (第 244・245 図)

検出地点 D14 グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、西側を SP1059、東側を SX1001 に切られている。残存値で長軸は 0.60m、短軸は 0.47m、深さは 0.10m を測る。断面の形状は浅い丸底形である。

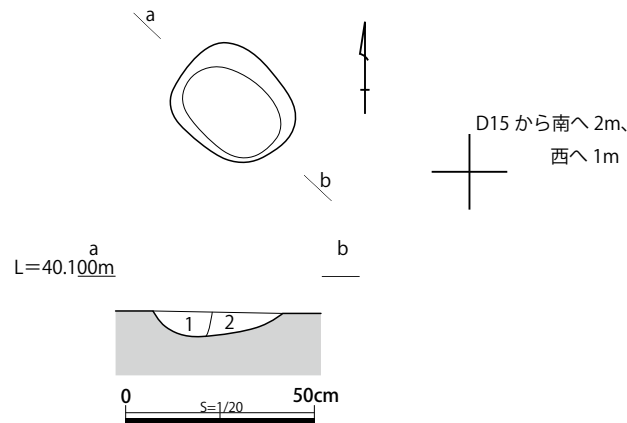
土層 暗灰黄色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 305 は土師質土器の播鉢である。

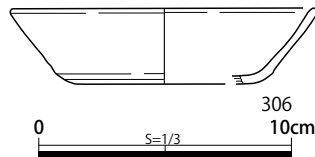
時期 出土した遺物から中世以降の年代が想定される。





1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり マンガン、土器、鉄。  
 2 灰黄色 2.5Y 6/2 砂質土・シルト混じり マンガン、鉄。

第 246 図 1-1 区東 SP1064 平断面図 (1/20)



第 247 図 1-1 区東 SP1064 出土遺物

64 号小穴 (SP1064) (第 246・247 図)

**検出地点** C14 グリッド

**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は 0.32m、短軸は 0.27m、深さは 0.08m を測る。断面の形状は皿形である。

**土層** 何れもシルト混じり砂質土層で 2 層に分層される。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 306 は土師質土器の杯である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

**時期** 出土した遺物から平安時代末 (12 世紀) 以降の年代が想定される。

66 号小穴 (SP1066) (第 248・249 図)

**検出地点** C14・15 グリッド

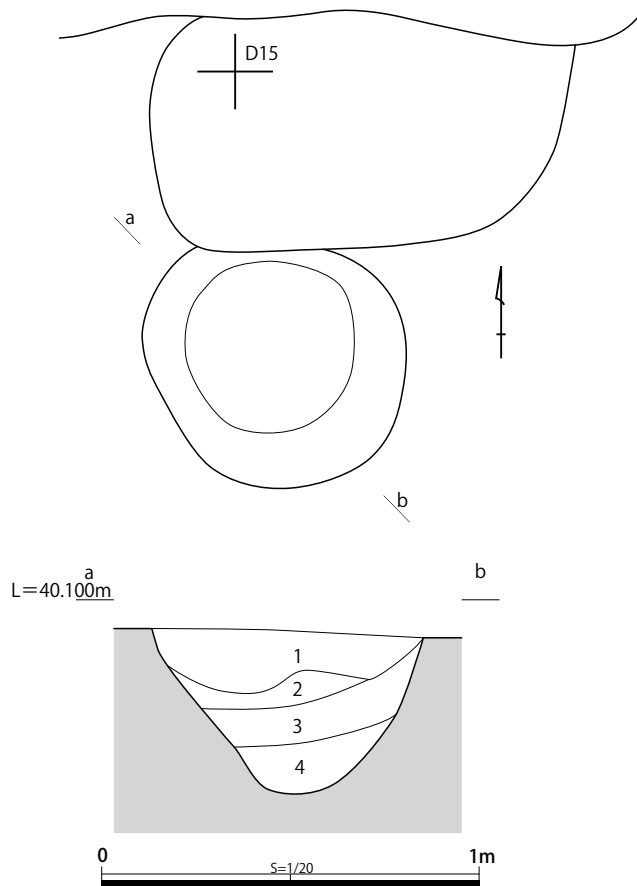
**規模・形態** 平面形状はほぼ円形を呈し、北側を SK1010 に切られている。残存値で長軸は 0.70m、短軸は 0.60m、深さは 0.42m を測る。断面の形状は播鉢形である。

**土層** 4 層に分層され、暗灰黄色砂質土と灰黄色砂質土が互層に堆積している。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

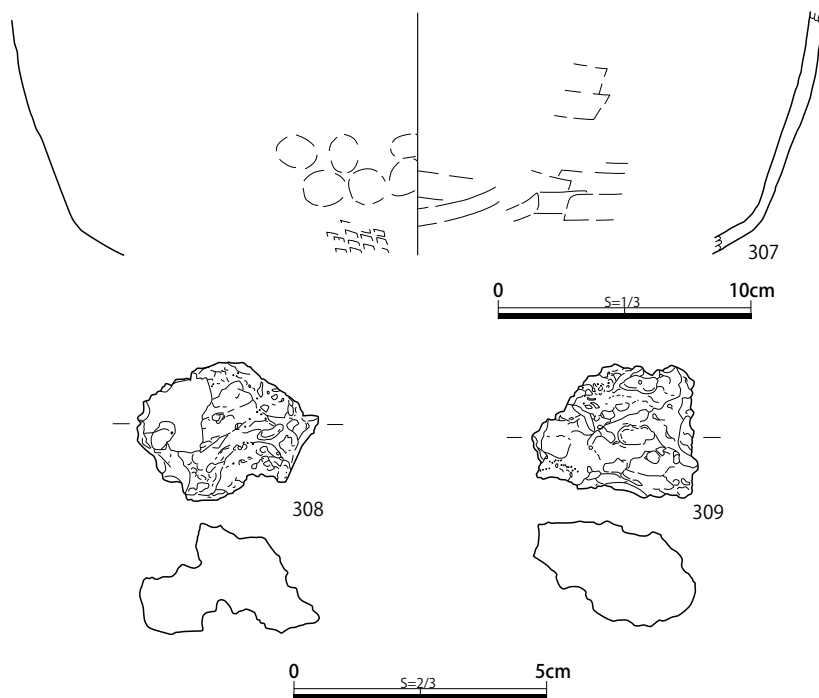
**出土遺物** 307 は土師質土器の羽釜の体部である。308、309 はスラグである。

**時期** 出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。

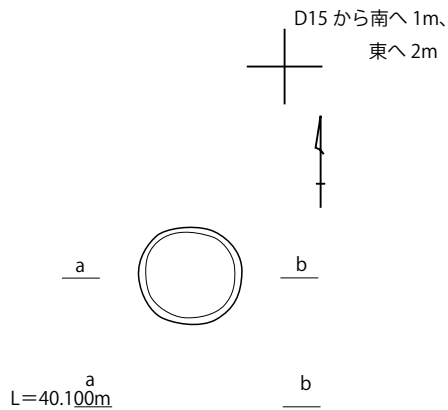


- |   |      |      |     |            |                            |
|---|------|------|-----|------------|----------------------------|
| 1 | 暗灰黄色 | 2.5Y | 4/2 | 砂質土・シルト混じり | マンガン、鉄。                    |
| 2 | 灰黄色  | 2.5Y | 6/2 | 砂質土・シルト混じり | 地山ブロックφ5~10cm多い。マンガン、炭わずか。 |
| 3 | 暗灰黄色 | 2.5Y | 4/2 | 砂質土・シルト混じり | マンガン、鉄、炭わずか。               |
| 4 | 灰黄色  | 2.5Y | 6/2 | 砂質土        |                            |

第 248 図 1-1 区東 SP1066 平断面図 (1/20)

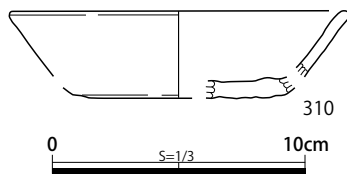


第 249 図 1-1 区東 SP1066 出土遺物

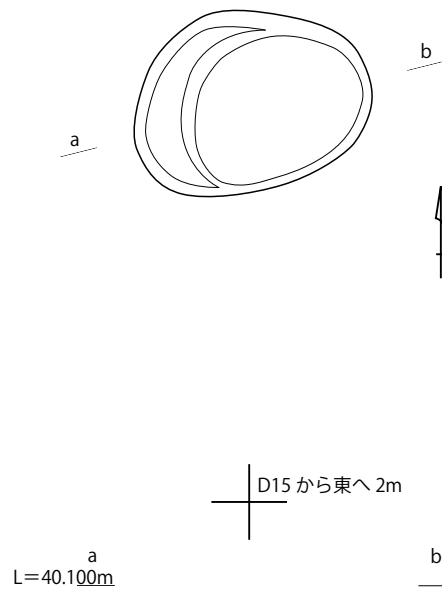


1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり マンガン、鉄、炭いづれもわずか。  
2 灰黄色 2.5Y 6/2 砂質土 礫φ5~10cm多い。

第250図 1-1 区東 SP1067 平断面図 (1/20)



第251図 1-1 区東 SP1067 出土遺物



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり マンガン、土器、鉄いづれもわずか。  
2 灰黄色 2.5Y 6/2 砂質土・シルト混じり マンガン、鉄。  
3 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり マンガン、炭、鉄。

第252図 1-1 区東 SP1069 平断面図 (1/20)

67号小穴 (SP1067) (第250・251図)

検出地点 C15 グリッド

規模・形態 平面形状はほぼ円形を呈し、径は0.27m、深さは0.32mを測る。断面の形状は丸底である。

土層 2層に分層され、下層ほど砂質が強い。

遺物出土状況 図化できるものはない。

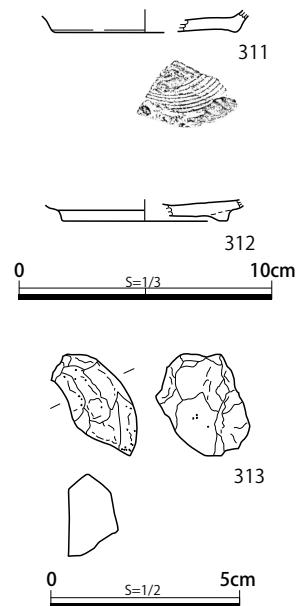
出土遺物 310は土師質土器の杯である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

時期 出土した遺物から平安時代末(12世紀)以降の年代が想定される。

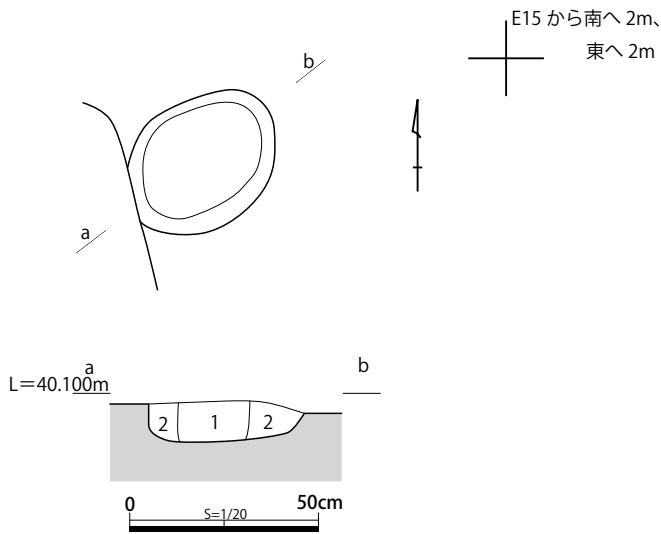
69号小穴 (SP1069) (第252・253図)

検出地点 D15 グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.63m、短軸は

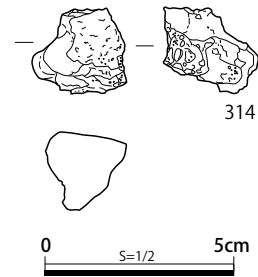


第253図 1-1 区東 SP1069 出土遺物

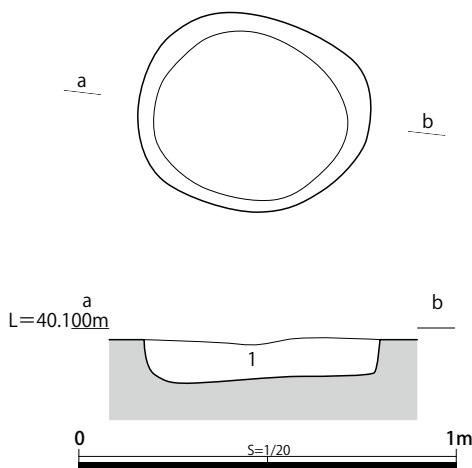


1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり マンガン、鉄、礫φ5~10cm。地山ブロックわずか。  
2 灰黄色 2.5Y 6/2 砂質土・シルト混じり マンガン、鉄。地山ブロックわずか。

第 254 図 1-1 区東 SP1074 平断面図 (1/20)

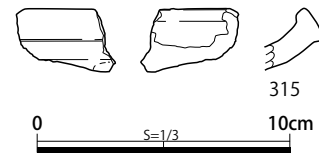


第 255 図 1-1 区東 SP1074 出土遺物



1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり マンガン、鉄わずか。

第 256 図 1-1 区東 SP1075 平断面図 (1/20)



第 257 図 1-1 区東 SP1075 出土遺物

0.45m、深さは 0.57m を測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 何れもシルト混じり砂質土で 3 層に分層され、1 層は柱痕である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

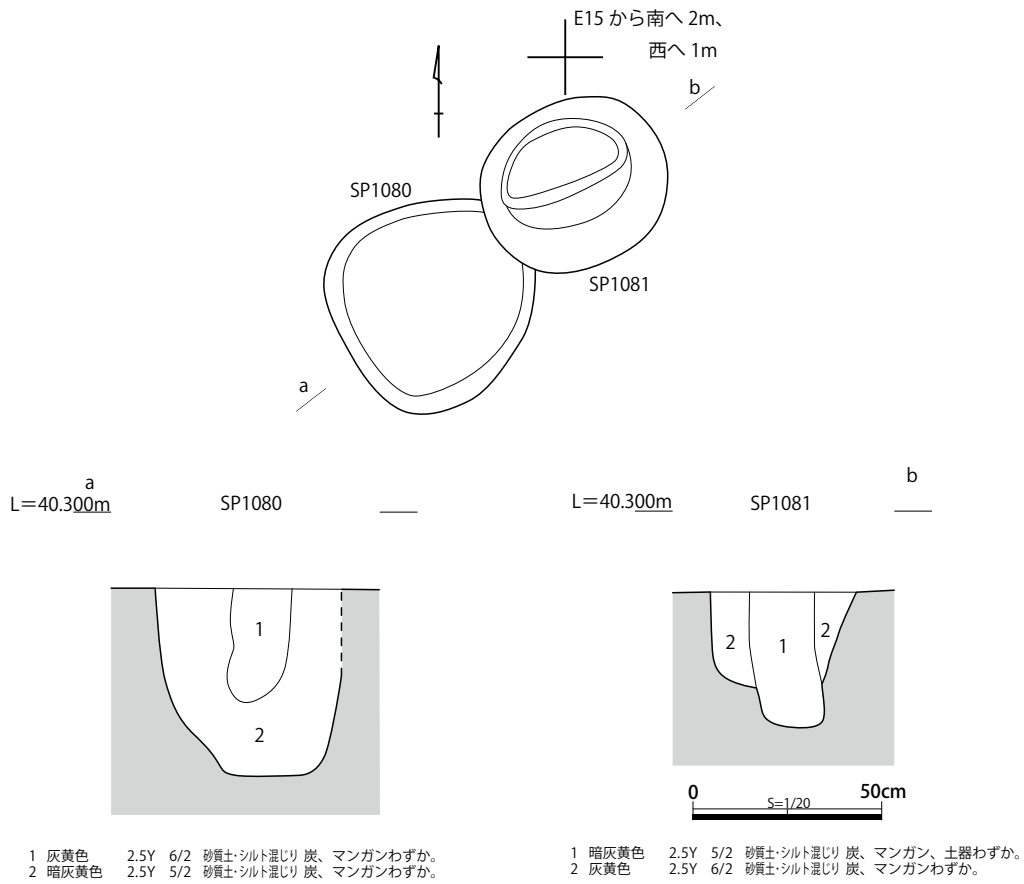
**出土遺物** 311、312 は土師質土器。311 は皿で、312 は杯である。ともに底部の切り離しは回転糸切りである。313 は羽口である。

**時期** 出土した遺物から鎌倉時代 (13 世紀) 以降の年代が想定される。

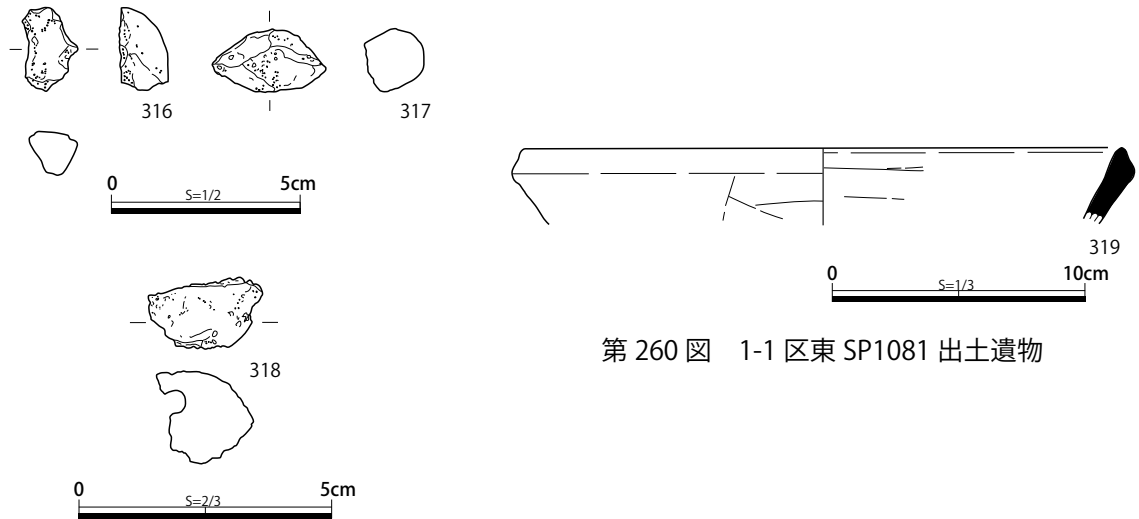
74 号小穴 (SP1074) (第 254・255 図)

**検出地点** D15 グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、西側を SX1001 に切られている。長軸は 0.43m、短軸は 0.35m、

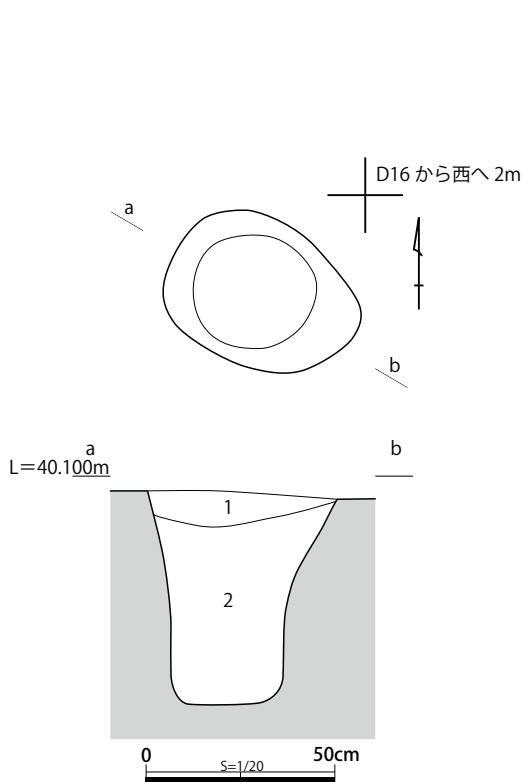


第 258 図 1-1 区東 SP1080・SP1081 平断面図 (1/20)



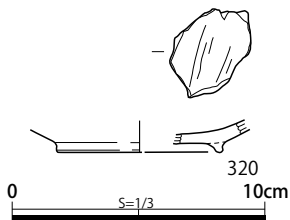
第 260 図 1-1 区東 SP1081 出土遺物

第 259 図 1-1 区東 SP1080 出土遺物

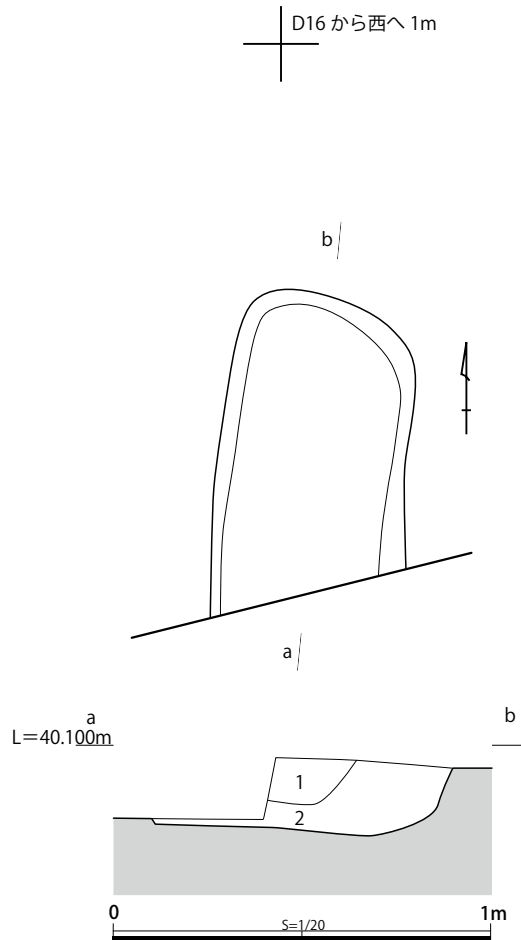


1 灰黄色 2.5Y 5/1 砂質土・シルト混じり マンガン、鉄多い。土器φ5cm、礫φ5cm。  
 2 灰黄色 2.5Y 6/2 砂質土・シルト混じり マンガン、鉄。炭わずか。

第 261 図 1-1 区東 SP1083 平断面図 (1/20)

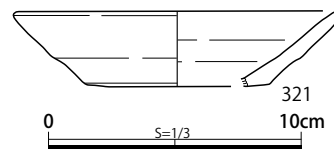


第 262 図 1-1 区東 SP1083 出土遺物



1 灰黄色 2.5Y 6/2 砂質土・シルト混じり マンガン多い。鉄、炭、土器いずれもわずか。  
 2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり マンガン、鉄。炭、土器いずれもわずか。

第 263 図 1-1 区東 SP1084 平断面図 (1/20)



第 264 図 1-1 区東 SP1084 出土遺物

深さは 0.10m を測る。断面の形状は皿形である。

**土層** 何れもシルト混じり砂質土で 2 層に分層され、1 層（暗灰黄色砂質土）の中央部に切り込んで堆積している。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 314 は羽口である。

**時期** 年代は特定できない。

75 号小穴 (SP1075) (第 256・257 図)

**検出地点** D15 グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.63m、短軸は 0.53m、深さは 0.12m を測る。断面の

形状は皿形である。

**土層** 暗灰黄色シルト混じり砂質土層が1層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 315は土師質土器の鍋の口縁部である。

**時期** 出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。

#### 80号小穴 (SP1080) (第258・259図)

**検出地点** D14グリッド

**規模・形態** 平面形状はやや不整な円形を呈し、東側をSP1081に切られている。長軸は0.55m、短軸は0.50m、深さは0.52mを測る。断面の形状は丸底である。

**土層** 何れもシルト混じり砂質土で2層に分層され、1層(灰黄色砂質土)は柱痕である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 316、317は羽口である。318はスラグである。

**時期** 年代は特定できない。

#### 81号小穴 (SP1081) (第258・260図)

**検出地点** D14グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.50m、短軸は0.43m、深さは0.37mを測る。断面の形状は2段形である。

**土層** 何れもシルト混じり砂質土で2層に分層され、1層(暗灰黄色砂質土)は柱痕である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 319は東播系須恵器の捏鉢である。

**時期** 出土した遺物から平安時代末(12世紀)以降の年代が想定される。

#### 83号小穴 (SP1083) (第261・262図)

**検出地点** C15グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.53m、短軸は0.40m、深さは0.57mを測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 何れもシルト混じり砂質土層で2層に分層され、上部は黄灰色砂質土、下部には灰黄色砂質土が堆積している。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

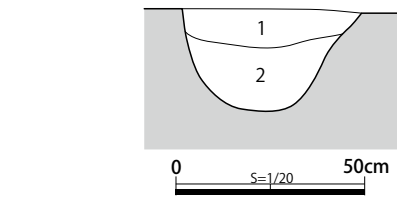
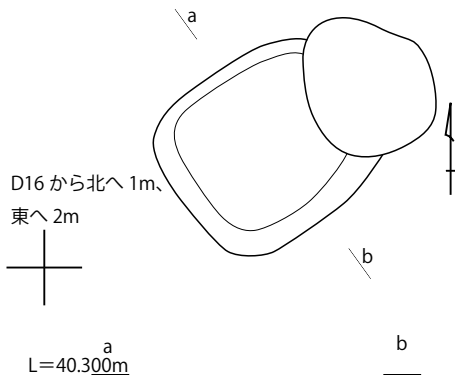
**出土遺物** 320は黒色土器A類の椀である。

**時期** 出土した遺物から平安時代(11世紀)以降の年代が想定される。

#### 84号小穴 (SP1084) (第263・264図)

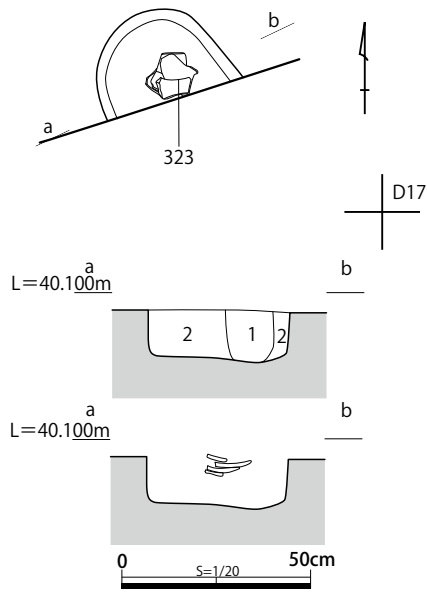
**検出地点** C15グリッド

**規模・形態** 平面の形状は隅丸長方形を呈するとみられるが、南側は調査区外に延びている。残存値で長軸は0.80m、短軸は0.50m、深さは0.20mを測る。断面の形状は舟底形とみられる。



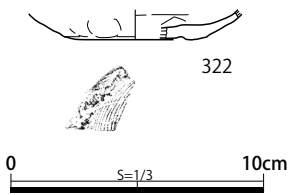
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり マンガン、鉄、土器いずれもわずか。  
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 地山ブロック、マンガン、炭。

第 265 図 1-1 区東 SP1094 平断面図 (1/20)

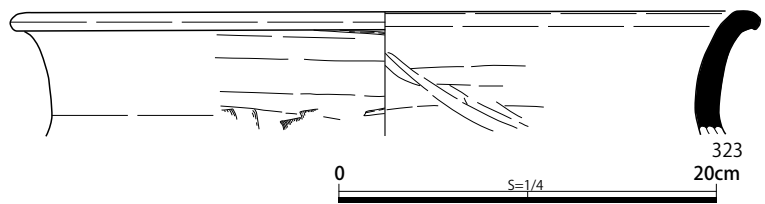


1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 地山ブロック、炭いずれもわずか。  
2 灰黄色 2.5Y 6/2 砂質土・シルト混じり 地山ブロック霜降り。炭わずか。

第 267 図 1-1 区東 SP1101 平断面図 (1/20)



第 266 図 1-1 区東 SP1094 出土遺物



第 268 図 1-1 区東 SP1101 出土遺物

**土層** 何れもシルト混じり砂質土層で 2 層に分層され、上部は灰黄色砂質土、下部には暗灰黄色砂質土が堆積している。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 321 は土師質土器の杯である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

**時期** 出土した遺物から平安時代末 (12 世紀) 以降の年代が想定される。

94 号小穴 (SP1094) (第 265・266 図)

**検出地点** D16 グリッド

**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈し、東側を SP1093 に切られている。残存値で長軸は 0.48m、短軸は 0.40m、深さは 0.28m を測る。断面の形状は楕円形である。

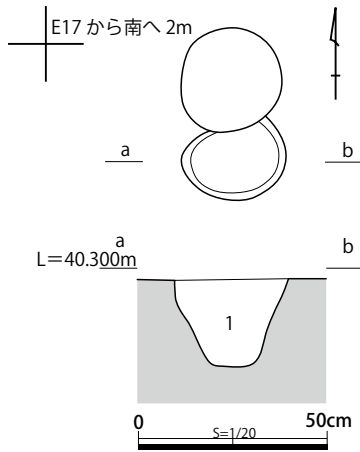
**土層** 何れも暗灰黄色シルト混じり砂質土層で 2 層に分層される。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 322 は土師質土器の皿である。底部の切り離しは回転糸切りである。

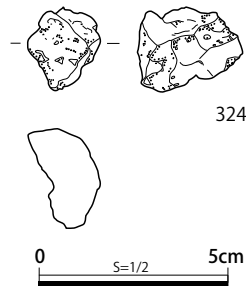
**時期** 出土した遺物から中世前半期 (13 世紀) 以降の年代が想定される。



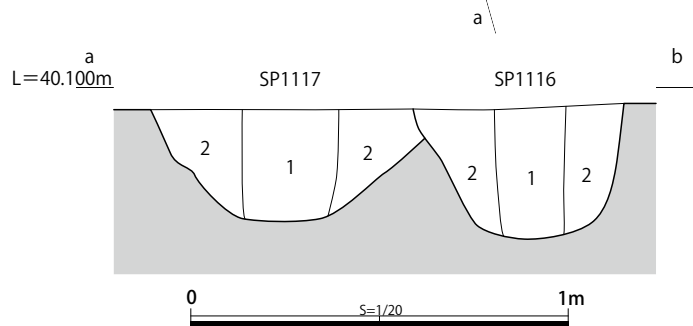
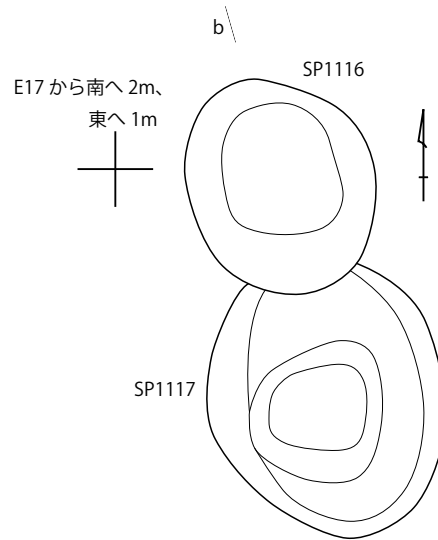


1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり マンガン、炭、焼土ブロックいずれもわずか。

第269図 1-1区東 SP1106 平断面図 (1/20)



第270図 1-1区東 SP1106 出土遺物



SP1116

1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 地山ブロック、炭、土器、焼土ブロック。  
2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 地山ブロック、炭、土器いずれもわずか。

SP1117

1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土・シルト混じり マンガン、鉄、土器。礫φ3~15cm多い。  
2 灰黄褐色 10YR 5/2 砂質土・シルト混じり マンガン、鉄。礫φ3~15cm多い。

第271図 1-1区東 SP1116・SP1117 平断面図 (1/20)

101号小穴 (SP1101) (第267・268図)

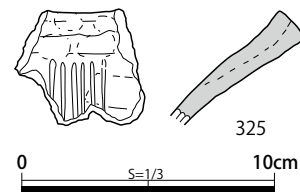
**検出地点** D16 グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈するとみられるが、南側は調査区外に延びている。残存値で長軸は0.35m、短軸は0.23m、深さは0.13mを測る。断面の形状は長方形である。  
**土層** 何れもシルト混じり砂質土層で2層に分層され、1層(暗灰黄色砂質土)は柱痕である。

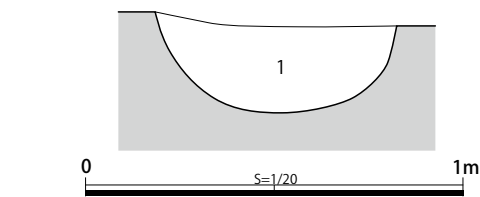
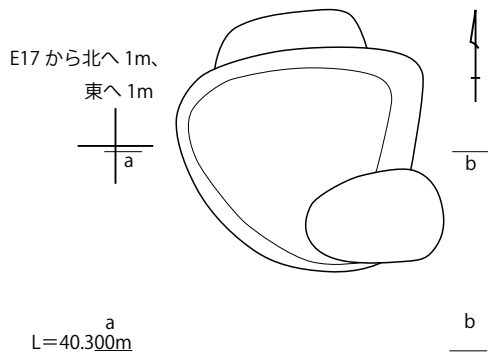
**遺物出土状況** 上面の中央部分から出土している。

**出土遺物** 323は陶器の備前焼の甕である。

**時期** 出土した遺物から鎌倉時代(13世紀)以降の年代が想定される。

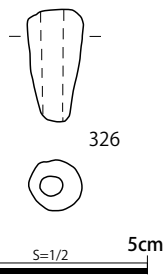


第272図 1-1区東 SP1116 出土遺物



1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり 地山ブロック、マンガン、炭。土器わずか。

第 273 図 1-1 区東 SP1121 平断面図 (1/20)



第 274 図 1-1 区東 SP1121 出土遺物

106 号小穴 (SP1106) (第 269・270 図)

検出地点 D17 グリッド

規模・形態 平面形状は楕円形を呈し、北側を SP1105 に切られている。残存値で長軸は 0.28m、短軸は 0.18m、深さは 0.21m を測る。断面の形状は播鉢形である。

土層 暗灰黄色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

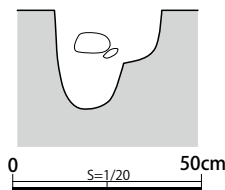
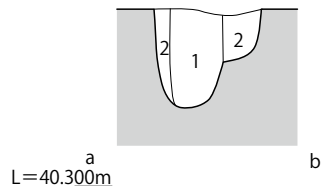
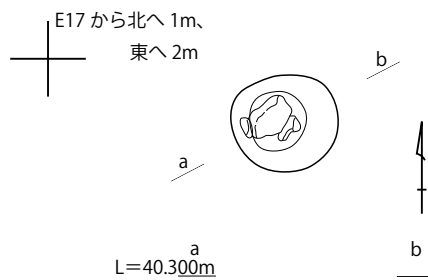
出土遺物 324 は羽口である。

時期 年代は特定できない。

116 号小穴 (SP1116) (第 271・272 図)

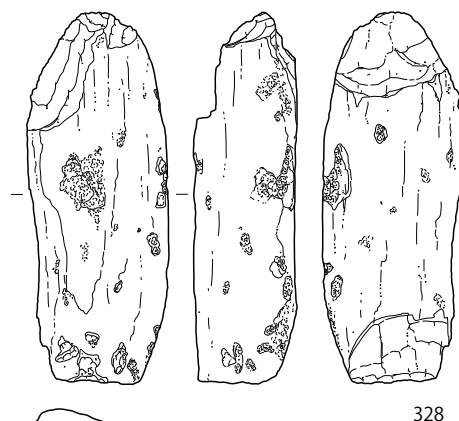
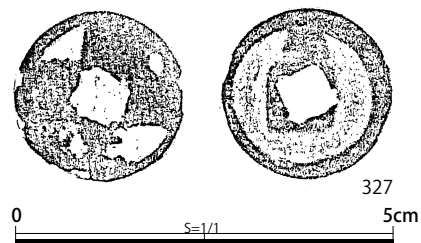
検出地点 D17 グリッド

規模・形態 平面形状はほぼ円形を呈し、長軸は 0.60m、短軸は 0.50m、深さは 0.34m を測る。断面の形状は丸底形



1 灰黄褐色 10YR 5/2 砂質土・シルト混じり マンガン、鉄、炭。  
2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり 地山ブロック、マンガン。

第 275 図 1-1 区東 SP1122 平断面図 (1/20)



第 276 図 1-1 区東 SP1122 出土遺物

である。

**土層** 何れも暗灰黄色シルト混じり砂質土層で2層に分層され、1層は柱痕である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 325は瓦質土器の播鉢である。

**時期** 出土した遺物から鎌倉時代(13世紀)以降の年代が想定される。

#### 117号小穴(SP1117)(第271図)

**検出地点** D17グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、北側をSP1116に切られている。残存値で長軸は0.68m、短軸は0.65m、深さは0.32mを測る。断面の形状は播鉢形である。

**土層** 何れも灰黄褐色シルト混じり砂質土層で2層に分層され、1層は柱痕である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 図化可能な遺物は出土していない。

**時期** 年代は特定できない。

#### 121号小穴(SP1121)(第273・274図)

**検出地点** E17グリッド

**規模・形態** 平面形状はやや不整な楕円形を呈し、東側をSP1120に切られている。残存値で長軸は0.65m、短軸は0.60m、深さは0.24mを測る。断面の形状は丸底形である。

**土層** 暗灰黄色シルト混じり砂質土層が1層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 326は管状の土錘である。

**時期** 年代は特定できない。

#### 122号小穴(SP1121)(第275・276図)

**検出地点** E17グリッド

**規模・形態** 平面形状はほぼ円形を呈し、径は0.27m、深さは0.25mを測る。断面の形状は2段形である。

**土層** 何れもシルト混じり砂質土層で2層に分層され、1層(灰黄褐色砂質土)は柱痕である。

**遺物出土状況** 中央中層部分から礫などが出土している。

**出土遺物** 327は銭種不明の銅銭「〇〇元寶」である。328は結晶片岩製の敲打痕を有する石である。

**時期** 出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。

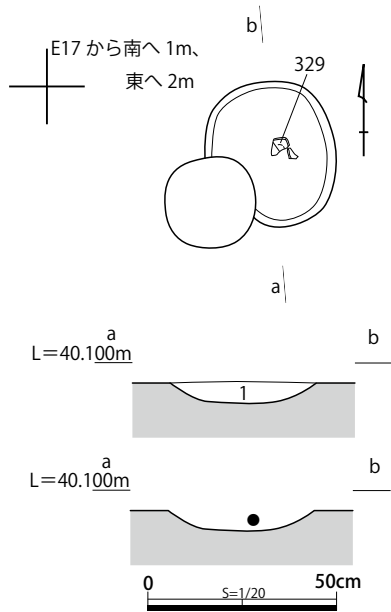
#### 127号小穴(SP1127)(第277・278図)

**検出地点** D17グリッド

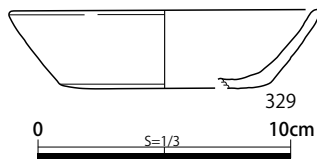
**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、西側をSP1126に切られている。残存値で長軸は0.40m、短軸は0.25m、深さは0.04mを測る。断面の形状は皿形である。

**土層** 暗灰黄色シルト混じり砂質土層が1層である。

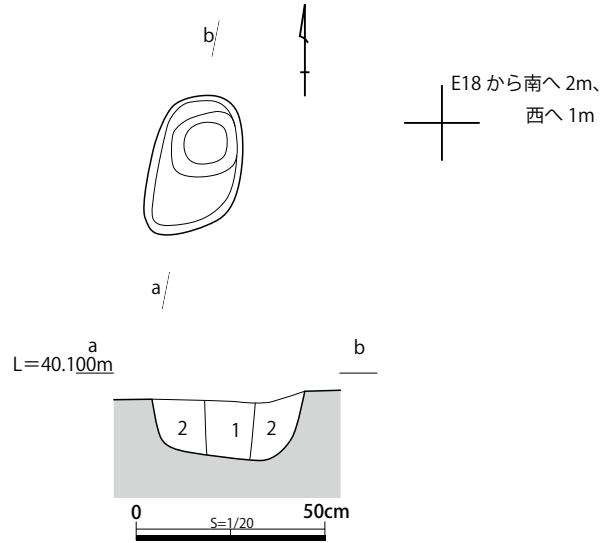
**遺物出土状況** 中央上面から土器が出土している。



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり マンガン、鉄、礫φ5~15cm多い。土器、炭。  
第 277 図 1-1 区東 SP1127 断面図 (1/20)

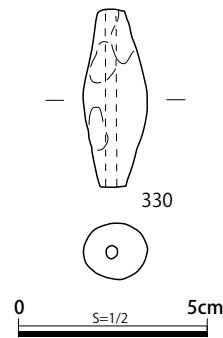


第 278 図 1-1 区東 SP1127 出土遺物



1 灰黄褐色 10YR 5/2 砂質土・シルト混じり マンガン多い。鉄、土器いずれもわずか。  
2 灰黄色 2.5Y 6/2 砂質土・シルト混じり マンガン。土器φ5cm一点。

第 279 図 1-1 区東 SP1132 断面図 (1/20)



第 280 図 1-1 区東 SP1132 出土遺物

**出土遺物** 329 は土師質土器の杯である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

**時期** 出土した遺物から平安時代末（12 世紀）以降の年代が想定される。

132 号小穴（SP1132）（第 279・280 図）

**検出地点** D17 グリッド

**規模・形態** 平面形状はやや不整な楕円形を呈し、長軸は 0.42m、短軸は 0.24m、深さは 0.14m を測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 何れもシルト混じり砂質土層で 2 層に分層され、1 層（灰黄褐色砂質土）は柱痕と考えられる。

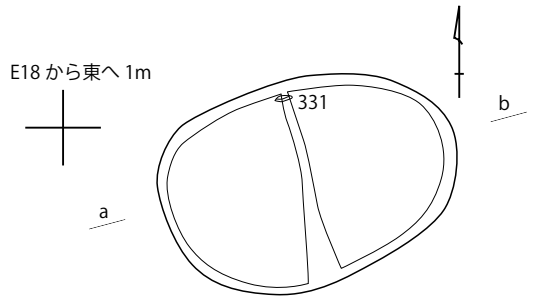
**遺物出土状況** 図化できるものは出土していない。

**出土遺物** 330 は管状の土錘である。

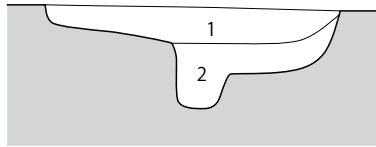
**時期** 年代は特定できない。

139 号小穴（SP1139）（第 281・282 図）

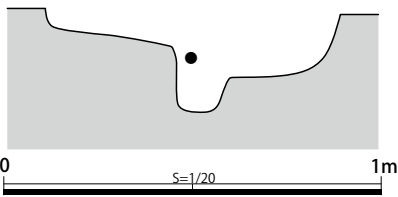
**検出地点** D・E18 グリッド



a  
L=40.300m

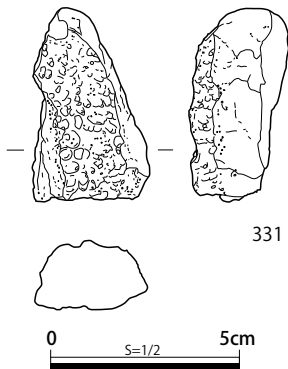


a  
L=40.300m



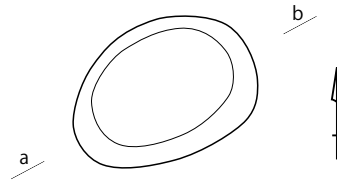
1 褐灰色 10YR 5/1 砂質土・シルト混じり マンガン多い。土器。  
2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり マンガン。地山ブロック。

第 281 図 1-1 区東 SP1139 平断面図 (1/20)

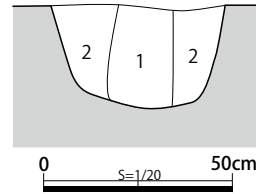


第 282 図 1-1 区東 SP1139 出土遺物

E19

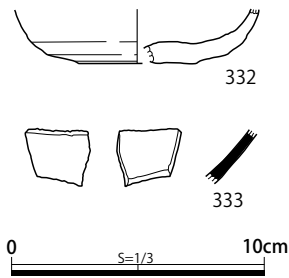


a  
L=40.300m

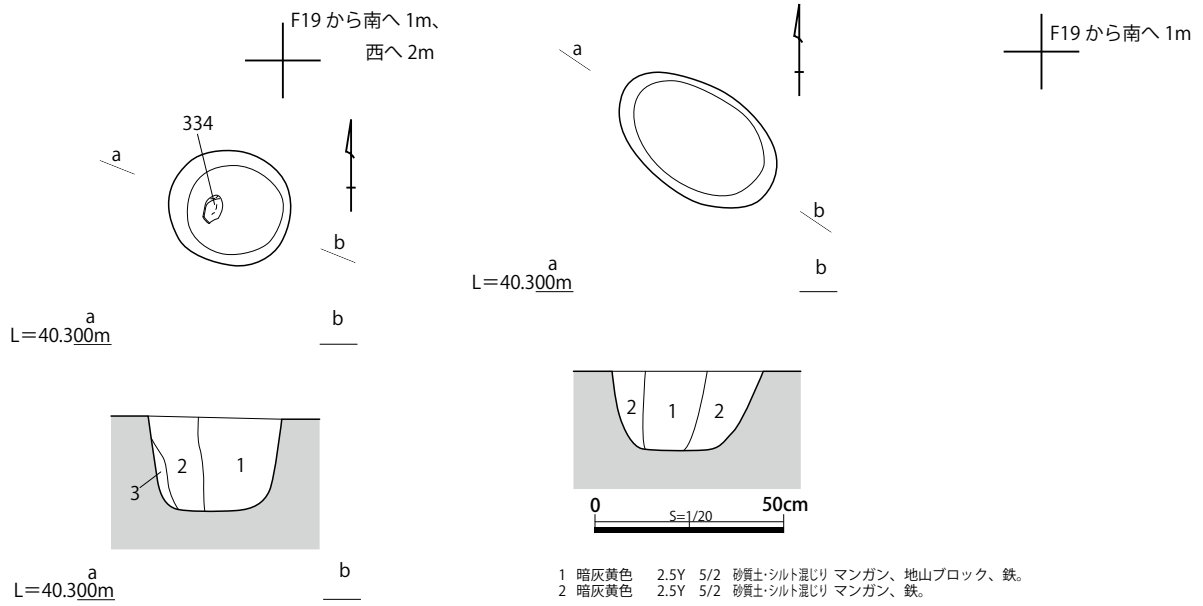


1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり マンガン多い。炭、土器。  
2 灰黄色 2.5Y 6/2 砂質土・シルト混じり マンガン、炭、土器。

第 283 図 1-1 区東 SP1150 平断面図 (1/20)



第 284 図 1-1 区東 SP1150 出土遺物



1 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり マンガン、地山ブロック、鉄。  
 2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり マンガン、鉄。

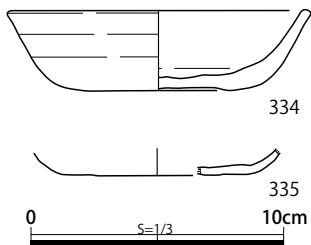
第 287 図 1-1 区東 SP1155 平断面図 (1/20)



第 288 図 1-1 区東 SP1155 出土遺物

1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガン、炭、土器いずれもわずか。  
 2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり マンガン、地山ブロック。  
 3 にぶい黄色 2.5Y 6/4 砂質土・シルト混じり 地山ブロック多い。

第 285 図 1-1 区東 SP1154 平断面図 (1/20)



第 286 図 1-1 区東 SP1154 出土遺物

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.80m、短軸は 0.55m、深さは 0.27m を測る。断面の形状は 2 段形である。

**土層** 何れもシルト混じり砂質土層で 2 層に分層され、上部に褐灰色砂質土、下部に暗灰黄色砂質土が堆積している。

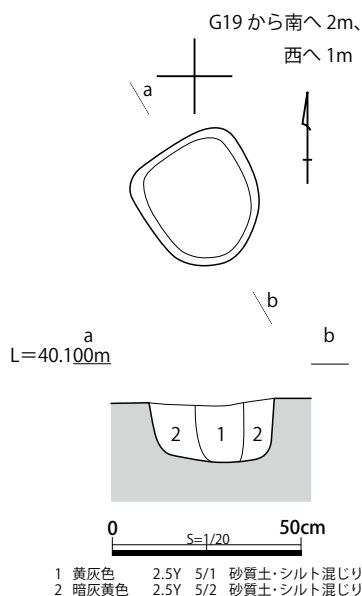
**遺物出土状況** 北壁寄り 1、2 層の境付近より羽口が出土している。

**出土遺物** 331 は羽口である。

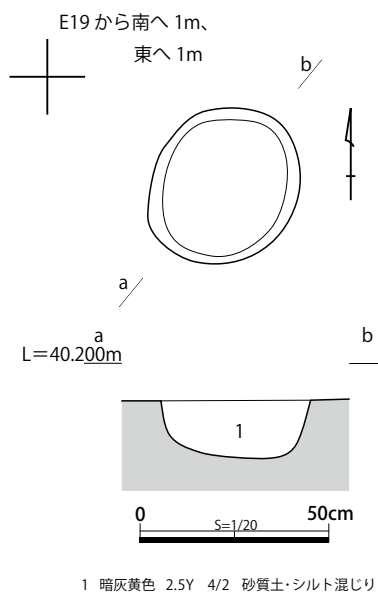
**時期** 年代は特定できない。

150 号小穴 (SP1150) (第 283・284 図)

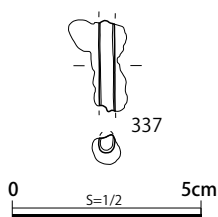
**検出地点** D18 グリッド



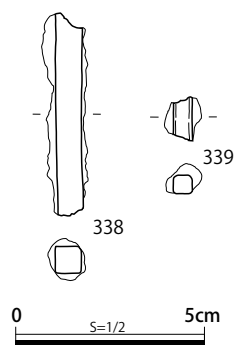
第 289 図 1-1 区東 SP1161 平断面図 (1/20)



第 291 図 1-1 区東 SP1166 平断面図 (1/20)



第 290 図 1-1 区東 SP1161 出土遺物



第 292 図 1-1 区東 SP1166 出土遺物

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.50m、短軸は 0.37m、深さは 0.27m を測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 何れもシルト混じり砂質土層で 2 層に分層され、1 層（暗灰黄色砂質土）は柱痕である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 332 は土師質土器の杯である。底部の切り離しは回転糸切りである。333 は同安窯系青磁の碗である。

**時期** 出土した遺物から鎌倉時代（13 世紀）以降の年代が想定される。

154 号小穴 (SP1154) (第 285・286 図)

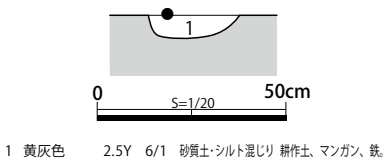
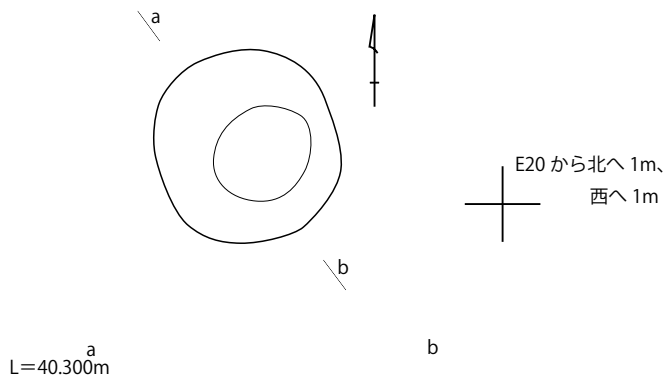
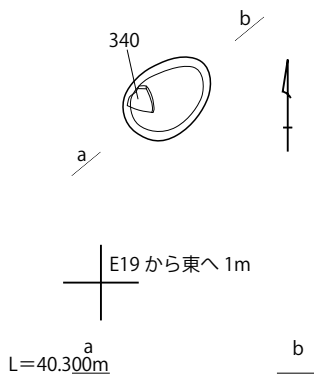
**検出地点** E18 グリッド

**規模・形態** 平面形状はほぼ円形を呈し、径は 0.33m、深さは 0.24m を測る。断面の形状は舟底形である。

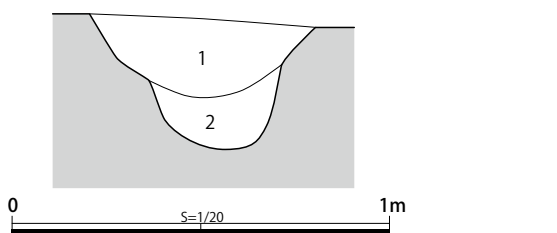
**土層** 何れもシルト混じり砂質土層で 3 層に分層される。

**遺物出土状況** 底部付近から土器が出土している。

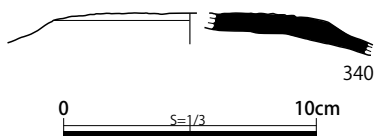
**出土遺物** 334、335 は土師質土器。334 は杯である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。335



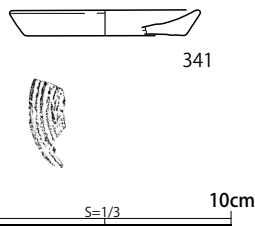
第 293 図 1-1 区東 SP1170 平断面図 (1/20)



第 295 図 1-1 区東 SP1175 平断面図 (1/20)



第 294 図 1-1 区東 SP1170 出土遺物



第 296 図 1-1 区東 SP1175 出土遺物

は皿である。

**時期** 出土した遺物から平安時代末（11 世紀）以降の年代が想定される。

155 号小穴（SP1155）（第 287・288 図）

**検出地点** E18 グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.48m、短軸は 0.28m、深さは 0.21m を測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 何れも暗灰黄色シルト混じり砂質土層で 2 層に分層され、1 層は柱痕である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

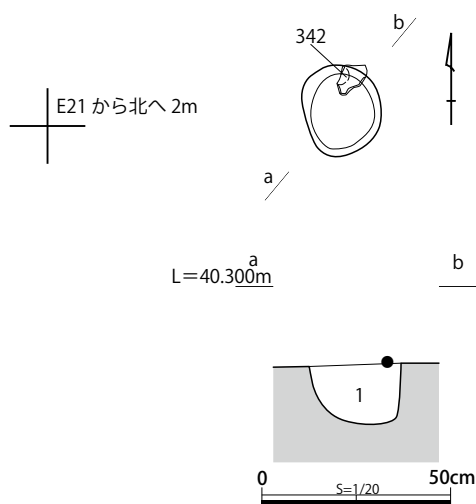
**出土遺物** 336 は白磁の碗である。

**時期** 出土した遺物から平安時代末（11 世紀）以降の年代が想定される。

161 号小穴（SP1161）（第 289・290 図）

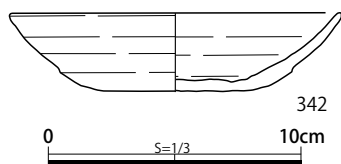
**検出地点** F18 グリッド





1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり 鉄、マンガ。

第 297 図 1-1 区東 SP1193 平断面図 (1/20)



第 298 図 1-1 区東 SP1193 出土遺物

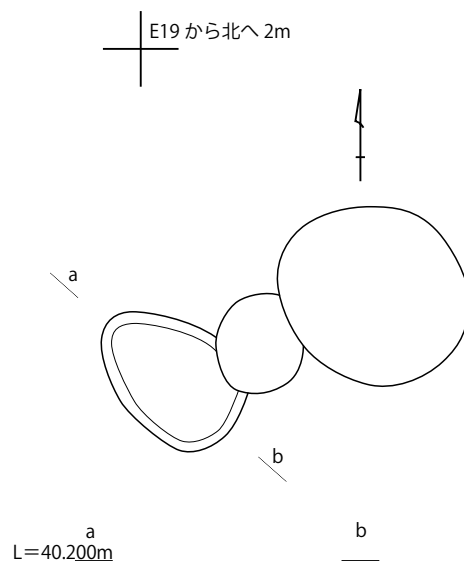
**規模・形態** 平面形状はやや不整な円形を呈し、長軸は 0.33m、短軸は 0.30m、深さは 0.18m を測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 何れもシルト混じり砂質土層で 2 層に分層され、1 層 (黄灰色砂質土) は柱痕である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

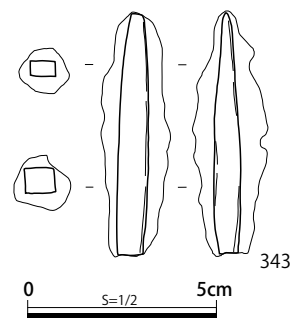
**出土遺物** 337 は棒状の鉄製品である。

**時期** 年代は特定できない。



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり  
2 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土・シルト混じり

第 299 図 1-1 区東 SP1208 平断面図 (1/20)



第 300 図 1-1 区東 SP1208 出土遺物

### 166 号小穴 (SP1166) (第 291・292 図)

**検出地点** D19 グリッド

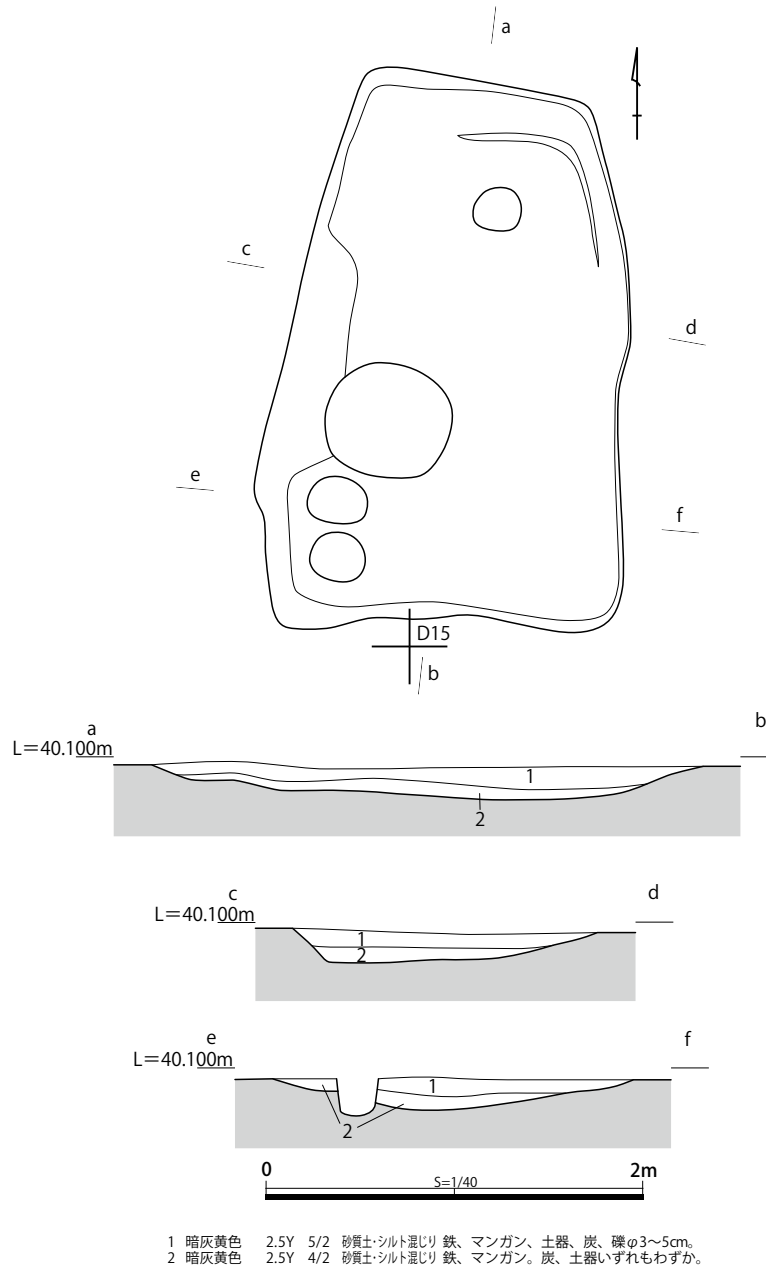
**規模・形態** 平面形状はほぼ円形を呈し、長軸は 0.42m、短軸は 0.38m、深さは 0.15m を測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 暗灰黄色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 338、339 は鉄製の釘である。

**時期** 年代は特定できない。



第 301 図 1-1 区東 SX1001 平断面図 (1/40)

170 号小穴 (SP1170) (第 293・294 図)

**検出地点** E19 グリッド

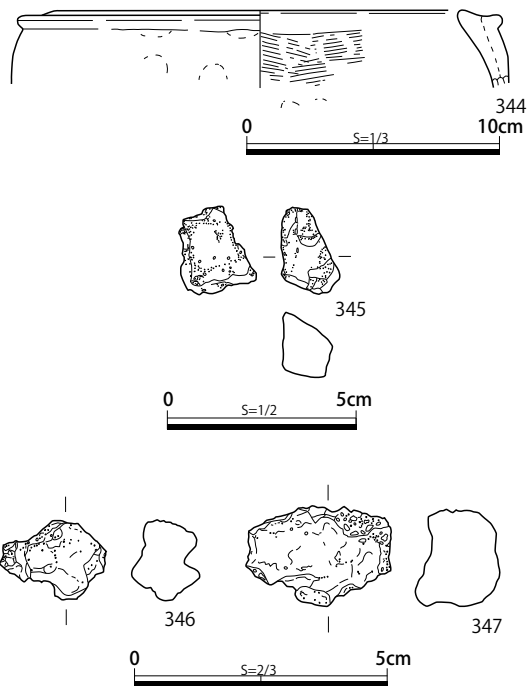
**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.25m、短軸は 0.18m、深さは 0.06m を測る。断面の形状は皿形である。

**土層** 黄灰色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

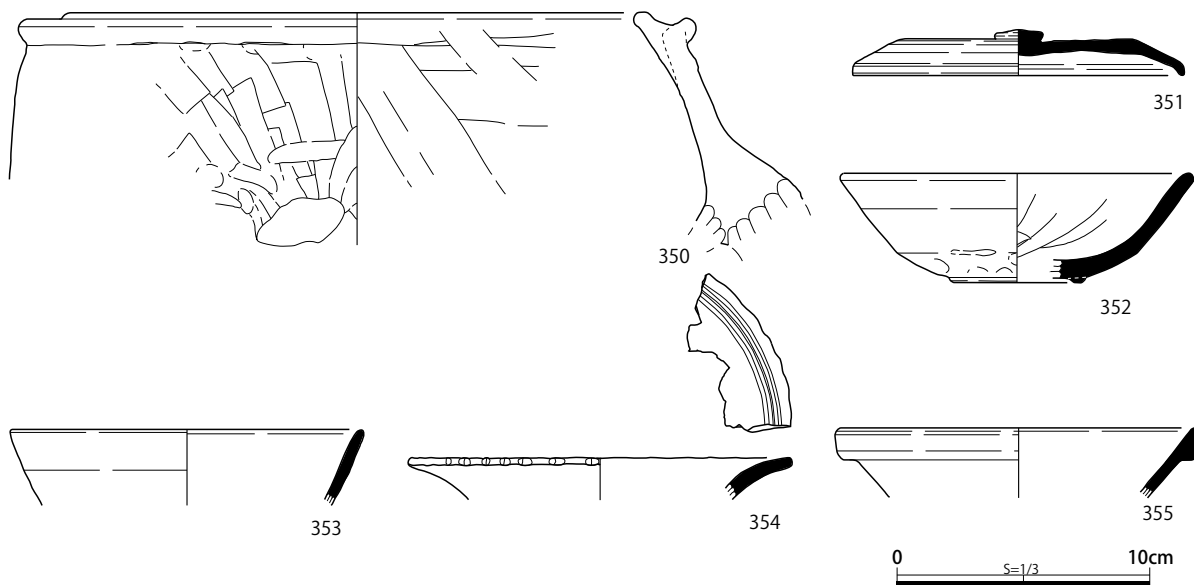
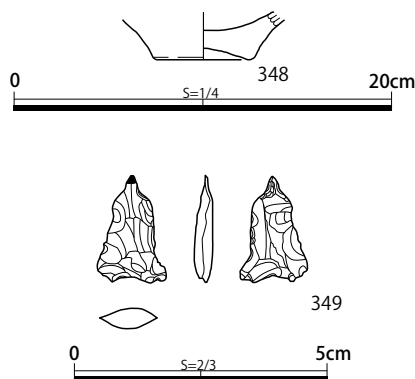
**遺物出土状況** 上面から土器が出土している。

**出土遺物** 340 は須恵器の蓋である。

**時期** 出土した遺物から平安時代 (9 世紀) 以降の年代が想定される。



第 302 図 1-1 区東 SX1001 出土遺物



第 303 図 1-1 区包含層出土遺物

175 号小穴 (SP1175) (第 295・296 図)

検出地点 E19 グリッド

**規模・形態** 平面の形状はほぼ円形を呈し、長軸は 0.50m、短軸は 0.48m、深さは 0.36m を測る。断面の形状は 2 段形である。

**土層** 何れもシルト混じり砂質土層で 2 層に分層され、上部は暗灰黄色砂質土、下部には灰黄色砂質土が堆積している。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 341 は土師質土器の皿である。底部の切り離しは回転糸切りである。

**時期** 出土した遺物から鎌倉時代 (13 世紀) 以降の年代が想定される。

193 号小穴 (SP1193) (第 297・298 図)

検出地点 E21 グリッド

**規模・形態** 平面の形状はほぼ円形を呈し、長軸は 0.25m、短軸は 0.20m、深さは 0.16m を測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 暗灰黄色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

**遺物出土状況** 上面より土器が出土している。

**出土遺物** 342 は土師質土器の杯である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

**時期** 出土した遺物から平安時代末 (12 世紀) 以降の

年代が想定される。

#### 208号小穴 (SP1208) (第299・300図)

**検出地点** E18・19グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、東側をSP1173に切られている。残存値で長軸は0.42m、短軸は0.30m、深さは0.16mを測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 何れも暗灰黄色シルト混じり砂質土層で2層に分層される。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 343は棒状の鉄製品である。

**時期** 年代は特定できない。

#### 1号性格不明遺構 (SX1001) (第301・302図)

**検出地点** D14・15グリッド

**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は2.90m、短軸は1.94m、深さは0.17mを測る。断面の形状は皿形である。

**土層** 何れも暗灰黄色シルト混じり砂質土層で2層に分層される。

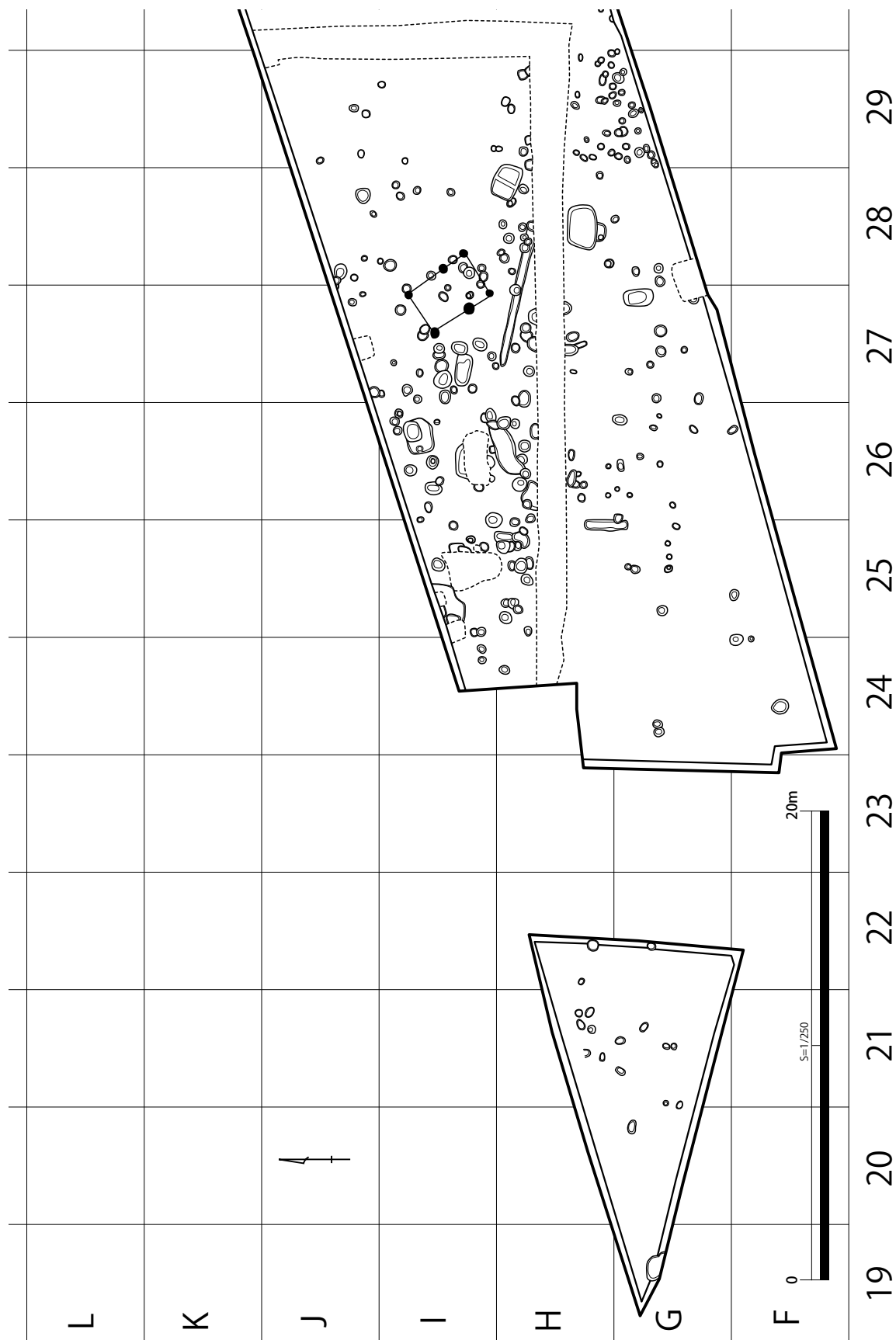
**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 344は土師質土器の羽釜である。345は羽口である。346、347はスラグである。

**時期** 出土した遺物から室町時代(15世紀)以降の年代が想定される。

#### 包含層出土遺物 (第303図)

348は弥生土器の甕の底部である。349はサヌカイト製の平基式の石鏝である。350は土師質土器の羽釜である。脚部は欠損している。351、352は須恵器。351は蓋である。352は西村系の須恵器碗である。353、354は青磁。353は龍泉窯系の碗である。354は輪花皿である。355は白磁の碗である。



第 304 图 1-2 区平面图① (1/250)



第 305 図 1-2 区平面図② (1/250)

(6) 1-2 区 (第 304・305 図)

1-2 区は 2 か所の調査区に分かれて調査が行われている。また東側に隣接している 2 区は 1-2 区の調査終了後に続けて調査が行われたため、便宜上 33・34 のグリッドラインを調査区境として報告を行う。ただし SB1001 についてはグリッドラインを跨いでいるが、1-2 区として取り扱う。確認された遺構面は 1 面で、検出された遺構は掘立柱建物 (SA) が 2 軒、竪穴住居 (SB) が 2 軒、溝 (SD) が 2 条、土坑 (SK) が 27 基、小穴 (SP) が 421 基、性格不明遺構 (SX) が 11 基となっている。

1 号掘立柱建物 (SA1001) (第 306 図)

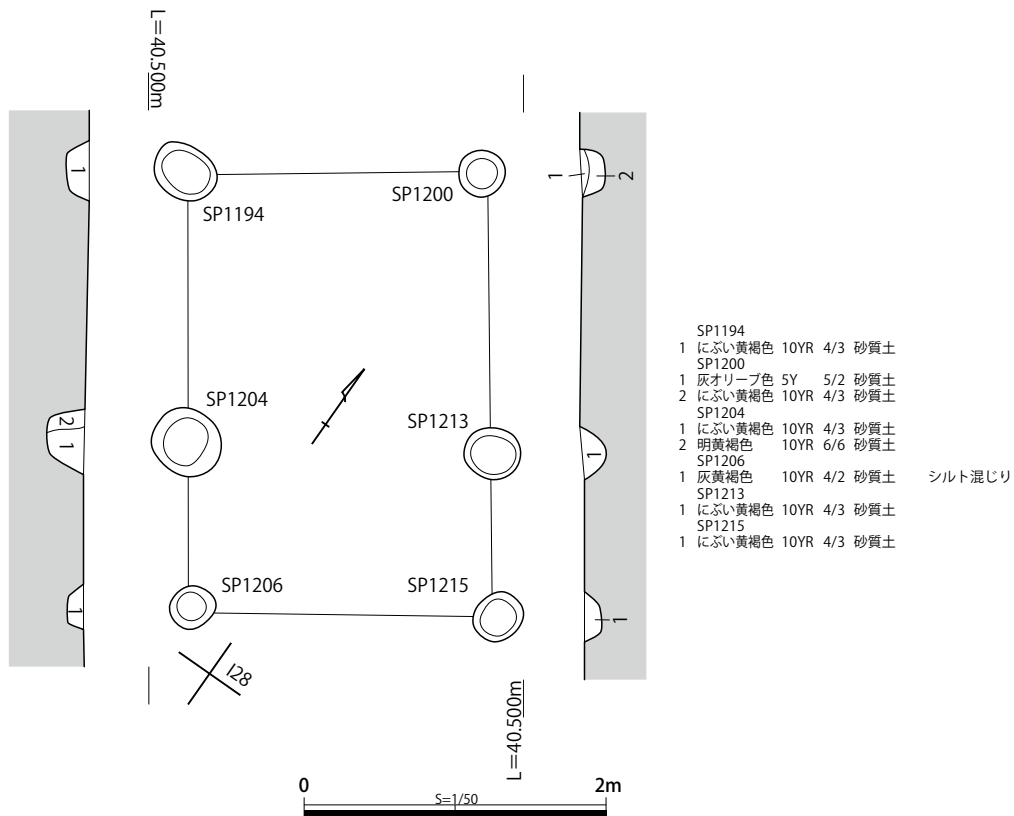
**検出地点** H・I27・28 グリッド

**規模・形態** 梁間 1 間 (2.00m) × 桁行 2 間 (2.90m)、床面積 5.80㎡の側柱建物である。建物の主軸方向は N - 35° - W である。

**土層** にぶい黄褐色砂質土などが 1 ~ 2 層に分層される。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 図化可能な遺物は出土していない。



第 306 図 1-2 区 SA1001 平断面図 (1/50)

**時期** 建物の主軸方向などから中世以降の可能性が考えられる。

2号掘立柱建物 (SA1002) (第 307 図)

**検出地点** J・K33・34 グリッド

**規模・形態** 梁間 1 間 (2.20m) × 桁行 2 間 (3.55m)、床面積 7.81㎡の側柱建物である。建物の主軸方向は N - 34° - W である。

**土層** 灰黄褐色砂質土が 1 ~ 2 層に分層される。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

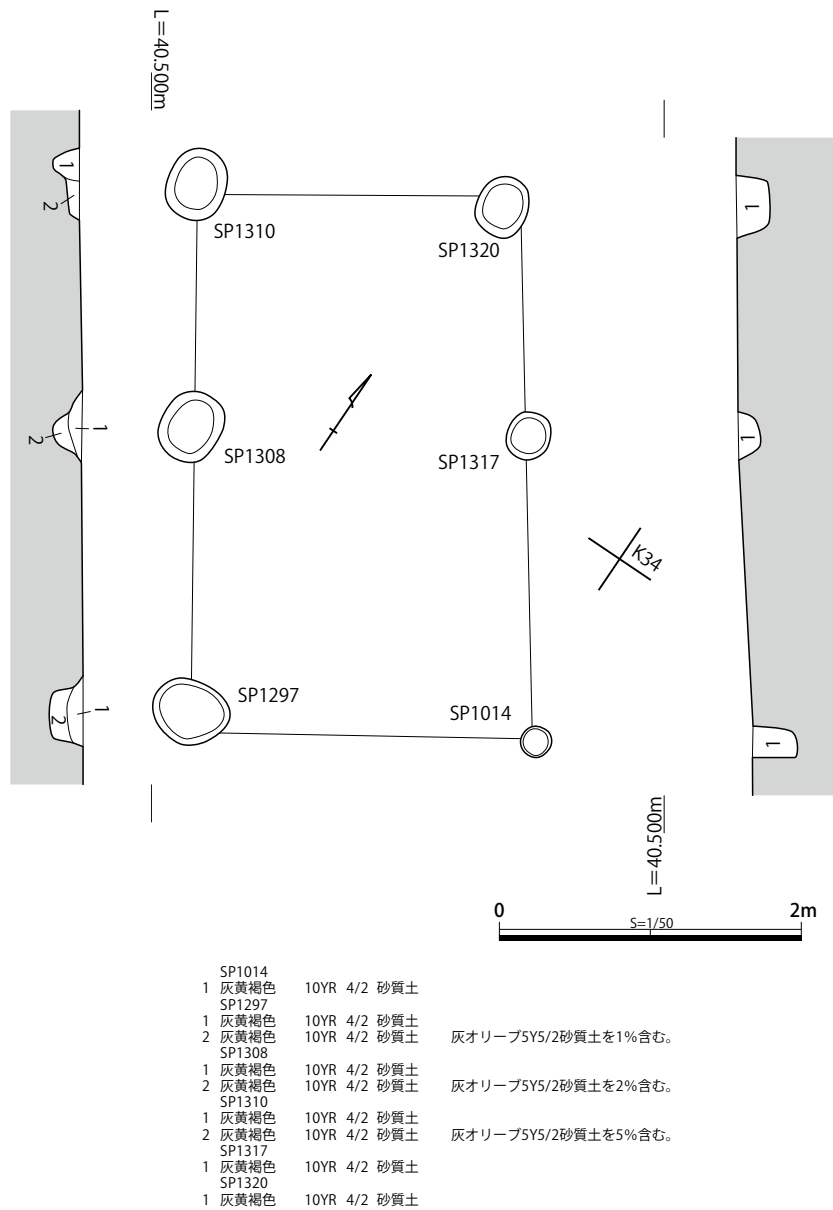
**出土遺物** 図化可能な遺物は出土していない。

**時期** 建物の主軸方向などから中世以降の可能性が考えられる。

1号竪穴住居 (SB1001) (第 308 ~ 323 図)

**検出地点** I・J30 ~ 32・K31・32 グリッド

**規模・形態** 平面形状はほぼ円形を呈し、長軸は 7.12m、短軸は 7.03m、深さは 0.54m を測る。断面の形状は 2 段形であり、外周部にベッド状の高まりが存在している。柱穴 (EP) は床面の外周部より内側から 10 基検出されている。また炉 (EH) は中央やや南寄りから 1 基検出されている。壁際には周溝 (ED) が巡らされている。



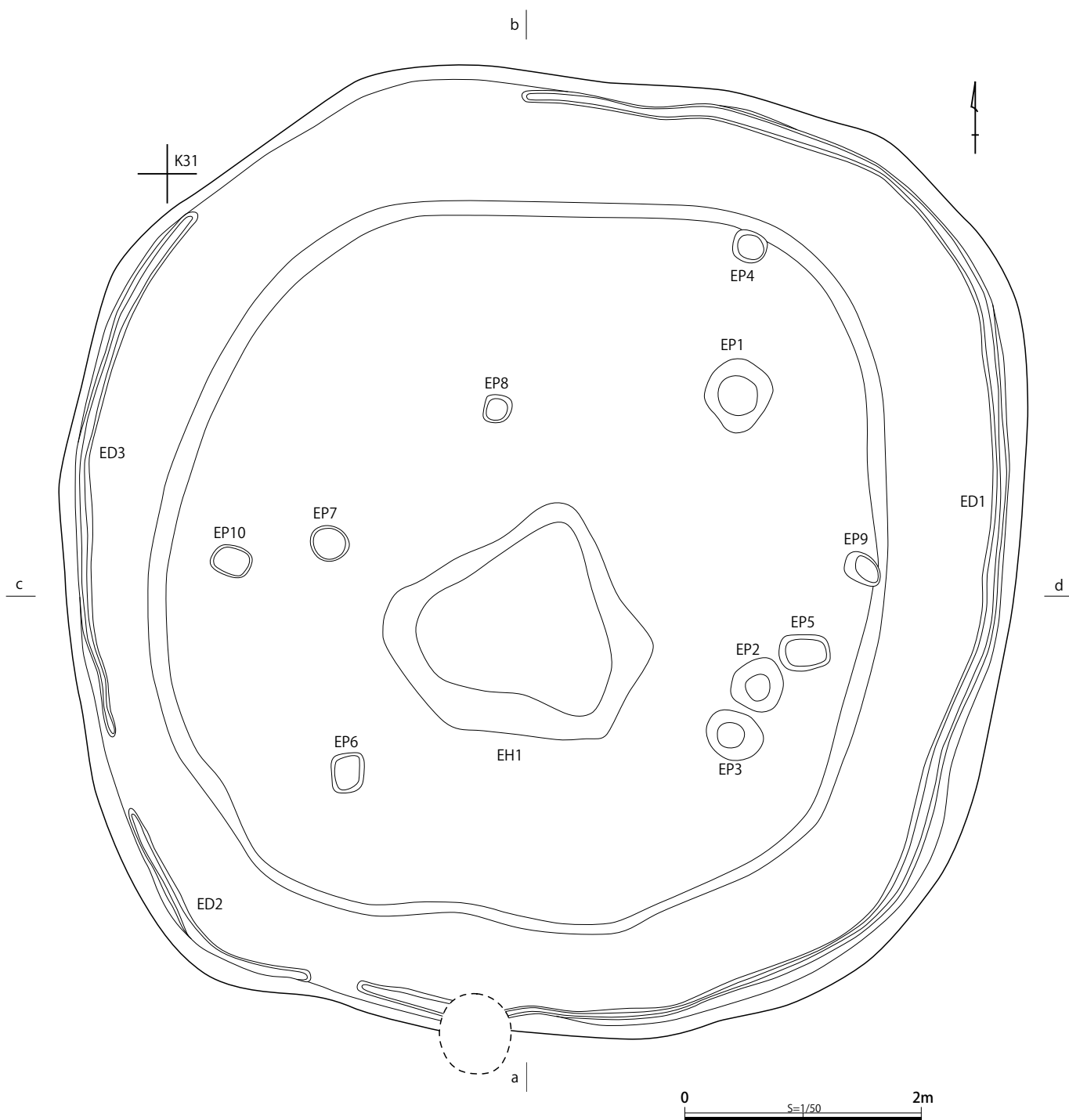
第 307 図 1-2 区 SA1002 平断面図 (1/50)

**土層** 何れも砂質土層で 11 層に分層される。周囲の壁際斜面にはオリーブ褐色、にぶい黄褐色砂質土などが堆積し、中央部分を中心として住居床面直上まで黒褐色砂質土層が堆積している。炉 (EH) 内は上面ににぶい黄褐色砂質土、下部には焼土の混じった黒褐色砂質土層が堆積している。EP 内の埋土についても同様の傾向を示している。

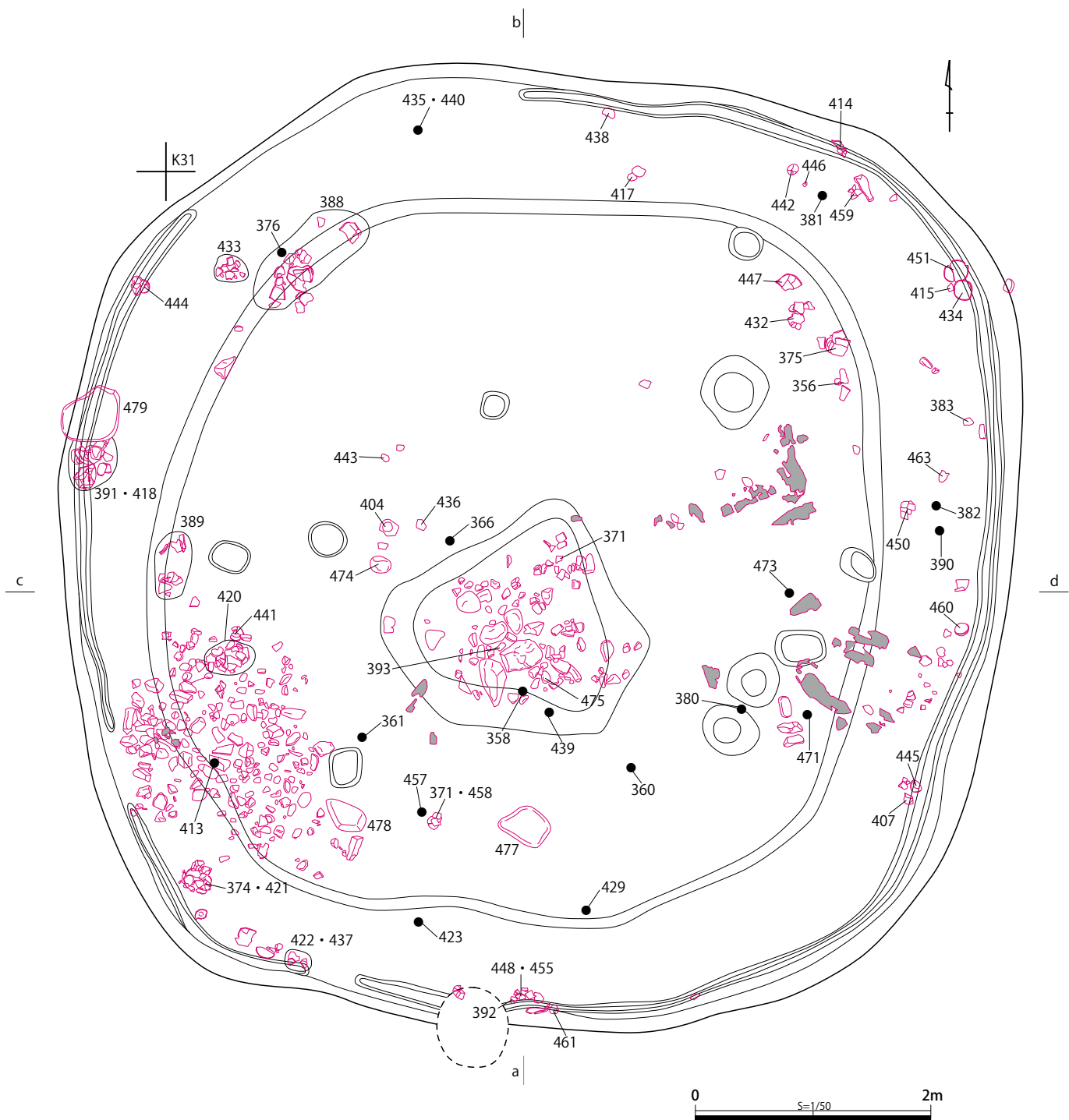
**遺物出土状況** 炉内及び床面南西部を中心として拳大～人頭大の砂岩礫がまとまって検出された。また中央東寄りの床面からは炭化材がまとまって検出されている。土器はベッド状の高まりの外周部を中心に出土しており、炉の南側からは台石とみられる大型の扁平な砂岩礫が 2 個出土している。

**出土遺物** 356～463 は弥生土器。356～387 は壺である。356～358 は二重口縁壺、359～371 は広口壺、371 は直口壺である。388～428 は甕である。388 のように体部が倒卵形を呈し底部がや

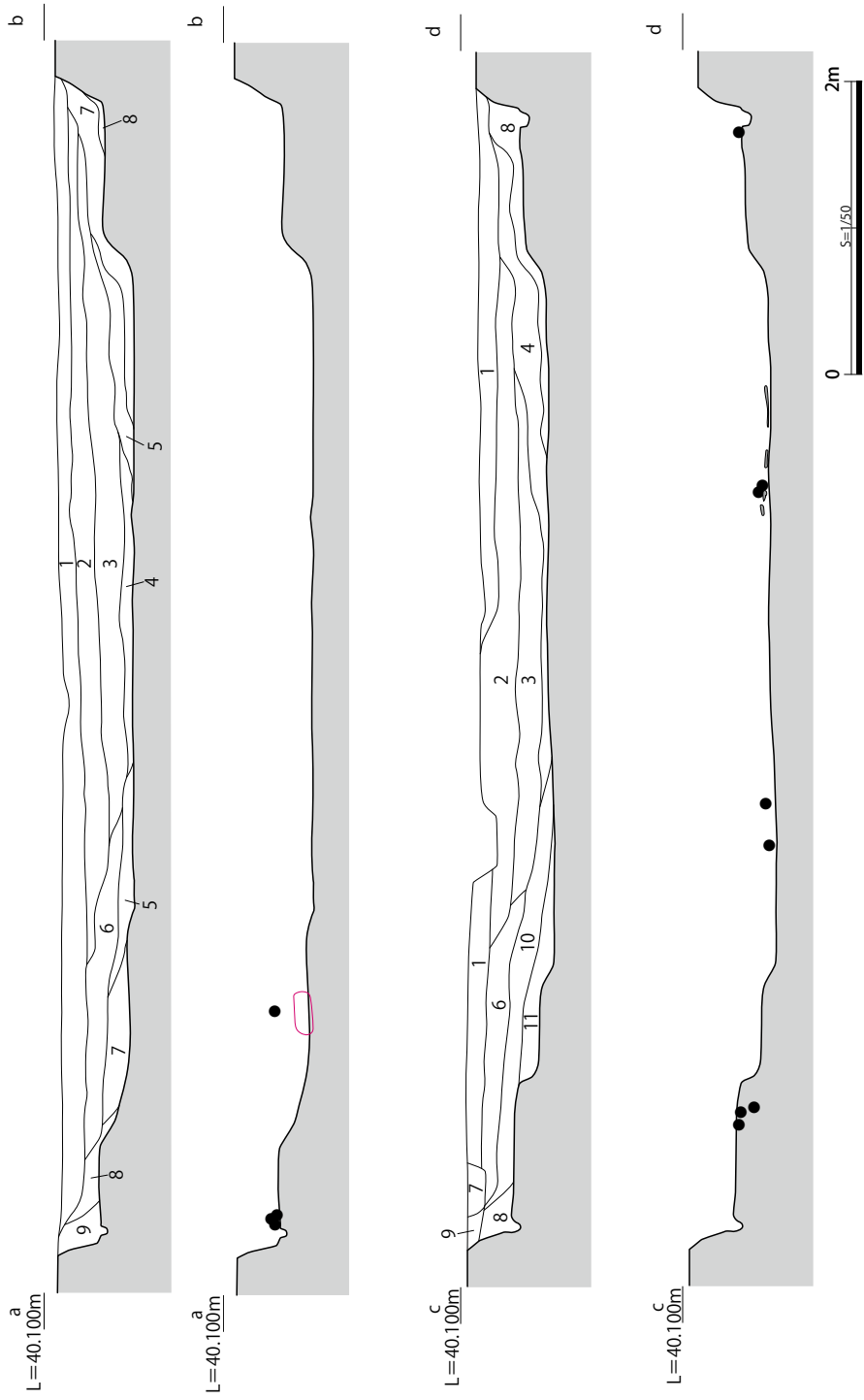




第 308 图 1-2 区 SB1001 平面图① (1/50)

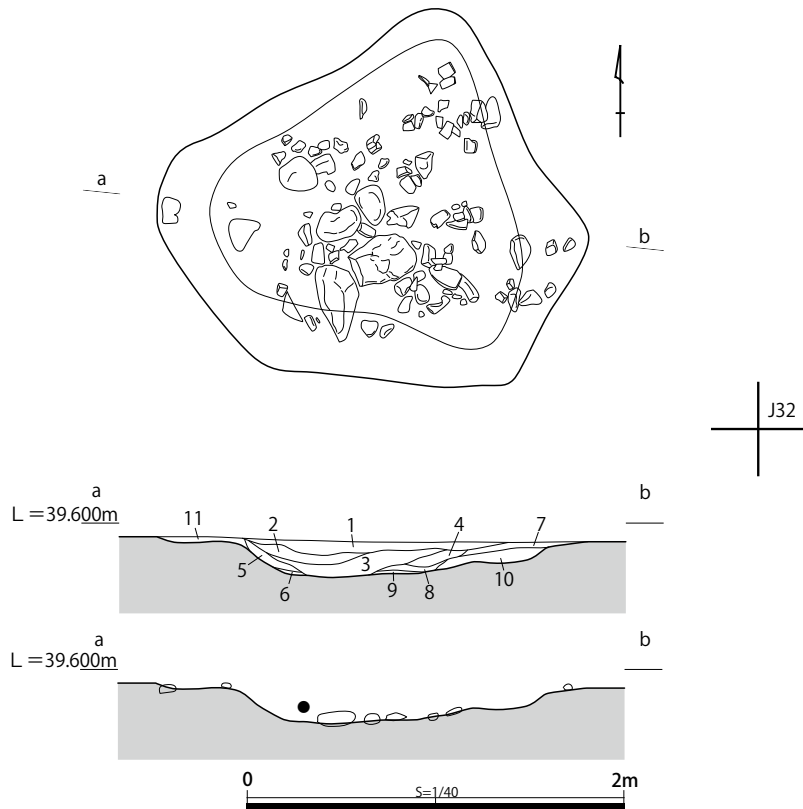


第 309 图 1-2 区 SB1001 平面图② (1/50)



- 1 灰色黄褐色 10YR 4/3 砂质土 15/100砂(柱状砂層)、5/50(柱状砂層)の砂質土(0.5~1.5cm)5%、2.5/5(柱状砂層)の砂質土(0.5~1.5cm)1%、黒砂<2cm砂層含む。
- 2 暗緑色 10YR 3/4 砂质土 15/100砂(柱状砂層)、5/50(柱状砂層)の砂質土(0.5~1.5cm)5%、2.5/5(柱状砂層)の砂質土(0.5~1.5cm)1%、黒砂<2cm砂層含む。
- 3 暗緑色 10YR 2/3 砂质土 15/100砂(柱状砂層)、5/50(柱状砂層)の砂質土(0.5~1.5cm)5%、2.5/5(柱状砂層)の砂質土(0.5~1.5cm)1%、黒砂<2cm砂層含む。
- 4 暗緑色 10YR 3/1 砂质土 15/100砂(柱状砂層)、5/50(柱状砂層)の砂質土(0.5~1.5cm)5%、2.5/5(柱状砂層)の砂質土(0.5~1.5cm)1%、黒砂<2cm砂層含む。
- 5 黒褐色 10YR 2/1 砂质土 15/100砂(柱状砂層)、5/50(柱状砂層)の砂質土(0.5~1.5cm)5%、2.5/5(柱状砂層)の砂質土(0.5~1.5cm)1%、黒砂<2cm砂層含む。
- 6 赤褐色 2.5Y 4/4 砂质土 15/100砂(柱状砂層)、5/50(柱状砂層)の砂質土(0.5~1.5cm)5%、2.5/5(柱状砂層)の砂質土(0.5~1.5cm)1%、黒砂<2cm砂層含む。
- 7 赤褐色 2.5Y 3/1 砂质土 15/100砂(柱状砂層)、5/50(柱状砂層)の砂質土(0.5~1.5cm)5%、2.5/5(柱状砂層)の砂質土(0.5~1.5cm)1%、黒砂<2cm砂層含む。
- 8 赤褐色 2.5Y 4/3 砂质土 15/100砂(柱状砂層)、5/50(柱状砂層)の砂質土(0.5~1.5cm)5%、2.5/5(柱状砂層)の砂質土(0.5~1.5cm)1%、黒砂<2cm砂層含む。
- 9 赤褐色 2.5Y 4/3 砂质土 15/100砂(柱状砂層)、5/50(柱状砂層)の砂質土(0.5~1.5cm)5%、2.5/5(柱状砂層)の砂質土(0.5~1.5cm)1%、黒砂<2cm砂層含む。
- 10 暗緑色 10YR 3/3 砂质土 15/100砂(柱状砂層)、5/50(柱状砂層)の砂質土(0.5~1.5cm)5%、2.5/5(柱状砂層)の砂質土(0.5~1.5cm)1%、黒砂<2cm砂層含む。
- 11 灰色黄褐色 10YR 3/4 砂质土 15/100砂(柱状砂層)、5/50(柱状砂層)の砂質土(0.5~1.5cm)5%、2.5/5(柱状砂層)の砂質土(0.5~1.5cm)1%、黒砂<2cm砂層含む。

第 310 図 1-2 区 SB1001 断面図 (1/50)



- 1 にぶい黄褐色 10YR 5/3 砂質土 しまり強く粘性弱い。10YR3/2黒褐砂質土φ1cmが2%含む。
- 2 黒褐色 10YR 3/2 砂質土 しまり強く粘性弱い。10YR5/3にぶい黄褐砂質土φ0.3~0.5cmが3%、焼土φ0.1cmを1%、炭φ0.2cmを1%含む。
- 3 黒褐色 10YR 3/2 砂質土 しまり強く粘性強い。炭φ0.5cmを2%、焼土0.1~0.3cmを3%含む。
- 4 黒褐色 10YR 3/2 砂質土 しまり強く粘性弱い。2.5Y5/2暗灰黄砂質土φ0.3cmを3%、焼土φ0.3cmを2%含む。
- 5 黒褐色 10YR 3/1 砂質土 しまり強く粘性強い。10YR4/2灰黄褐砂質土φ0.3cmを3%、焼土φ0.2cmを2%含む。
- 6 灰黄褐色 10YR 5/2 砂質土 しまり強く粘性強い。
- 7 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土 しまり強く粘性弱い。焼土φ0.2cmを2%含む。
- 8 黒褐色 10YR 3/2 砂質土 しまり強く粘性弱い。2.5Y4/2暗灰黄砂質土φ0.2cmを2%含む。
- 9 灰黄褐色 10YR 5/2 砂質土 しまり強く粘性強い。
- 10 灰黄色 2.5Y 6/2 砂質土 しまり強く粘性弱い。焼土φ0.2cmを1%含む。
- 11 黒褐色 10YR 3/2 砂質土 しまり強く粘性弱い。10YR5/3にぶい黄褐砂質土φ0.5~1cmが2%、焼土φ0.2~0.5cmを1%、炭φ0.3cmを3%含む。

第311図 1-2区SB1001EH1平断面図(1/40)

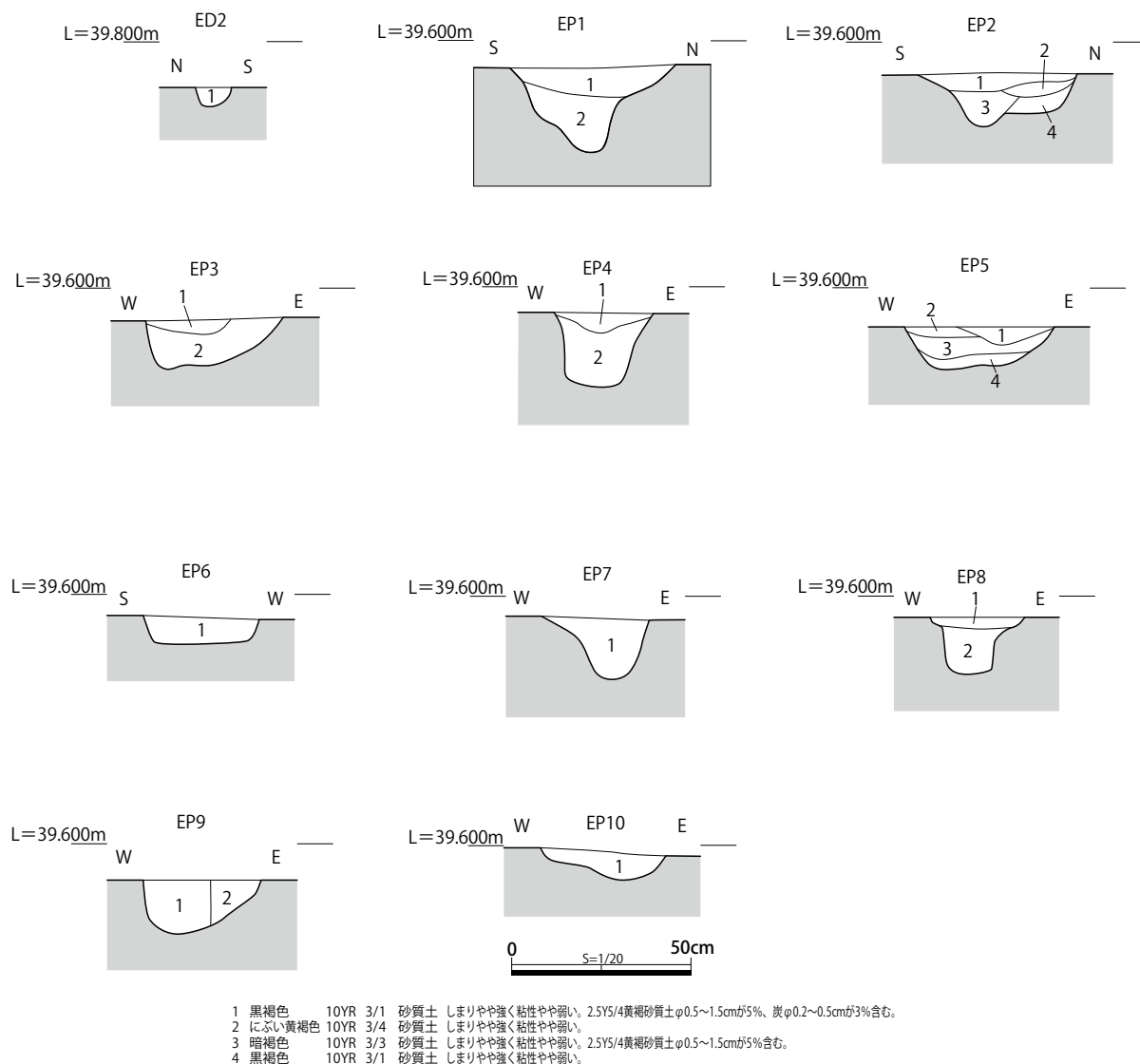
や平らな面を残すものと、389、391のように体部上半が大きく張り出して底部はやや小さめなものがある。429～456は鉢である。429～431は口縁部が外反するもの、432～446はボウル形で丸底気味のもの、447～456は嵩がやや浅めで平底気味のものなどが存在している。457～459は高杯である。460は台付き鉢、461は小型丸底鉢、462は製塩土器、463はミニチュア土器である。464はサヌカイト製の剥片、465は結晶片岩製の石庖丁である。466～474は敲石で、468、474が石英、471が結晶片岩を除けば他は砂岩である。475は砂岩製の砥石である。476～479は砂岩製の台石である。480～483は鉄器。480～482は鉄鍬。480は柳刃形の鉄鍬である。483は刀子とみられる。

**時期** 出土した遺物から弥生時代終末期～古墳時代初頭と考えられる。

2号竪穴住居 (SB1002) (第324～329図)

**検出地点** I33・34グリッド

**規模・形態** 平面形状は隅丸方形を呈するとみられるが、南側は調査区外に延びている。残存値で長軸は4.70m、短軸は2.85m、深さは0.40mを測る。断面の形状は舟底形と考えられる。遺構内からは土



第 312 図 1-2 区 SB1001ED・EP 断面図 (1/20)

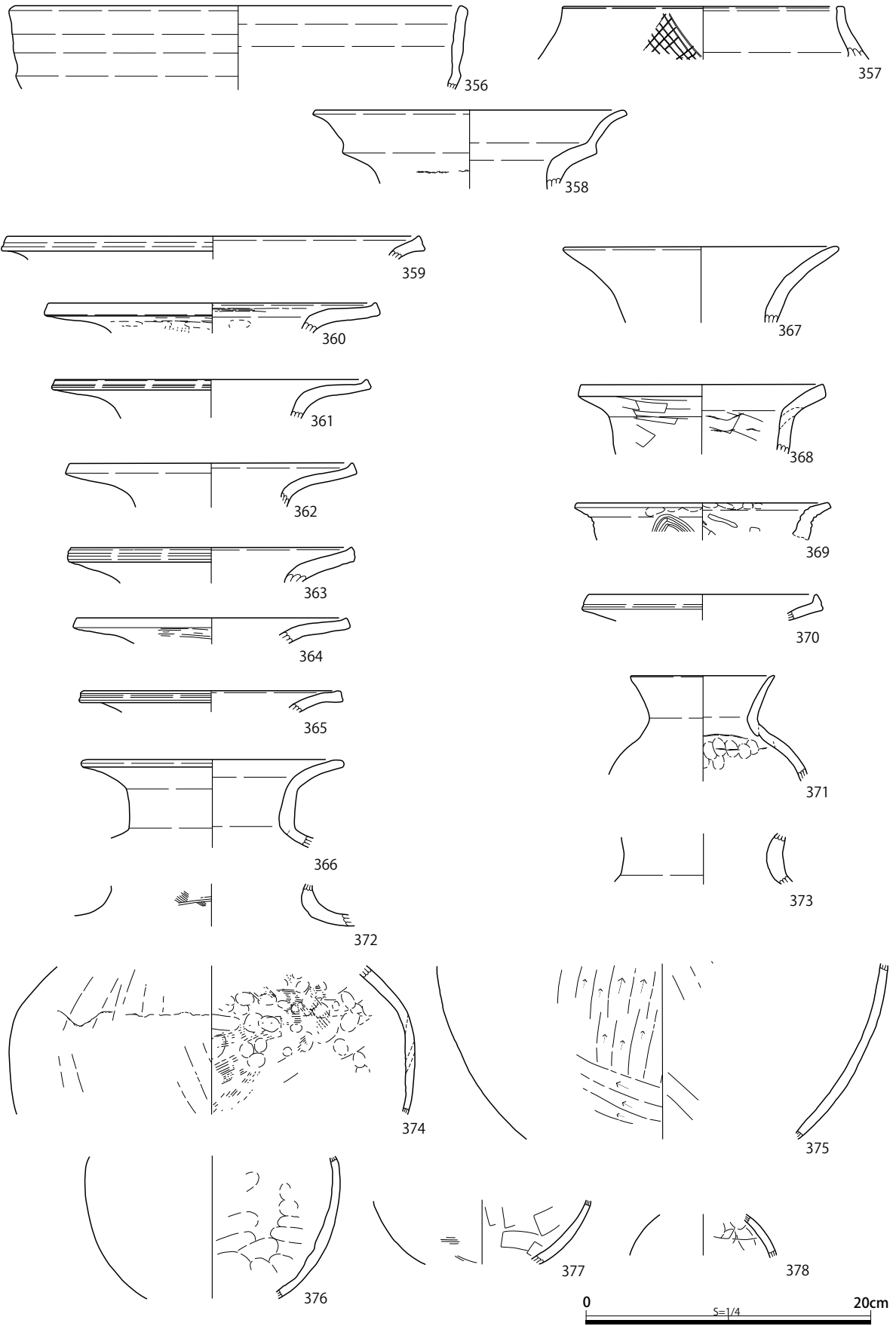
坑 (EK) が東寄りから 1 基、炉 (EH) が中央付近から調査区の壁にかけて 1 基、また壁際から周溝 (ED) が検出されている。

**土層** 何れも砂質土で 6 層に分層されている。壁際斜面にはにぶい黄褐色砂質土が堆積しており、その上部をオリーブ褐色砂質土、灰黄褐色砂質土、にぶい黄褐色砂質土、褐色砂質土が覆うように堆積している。

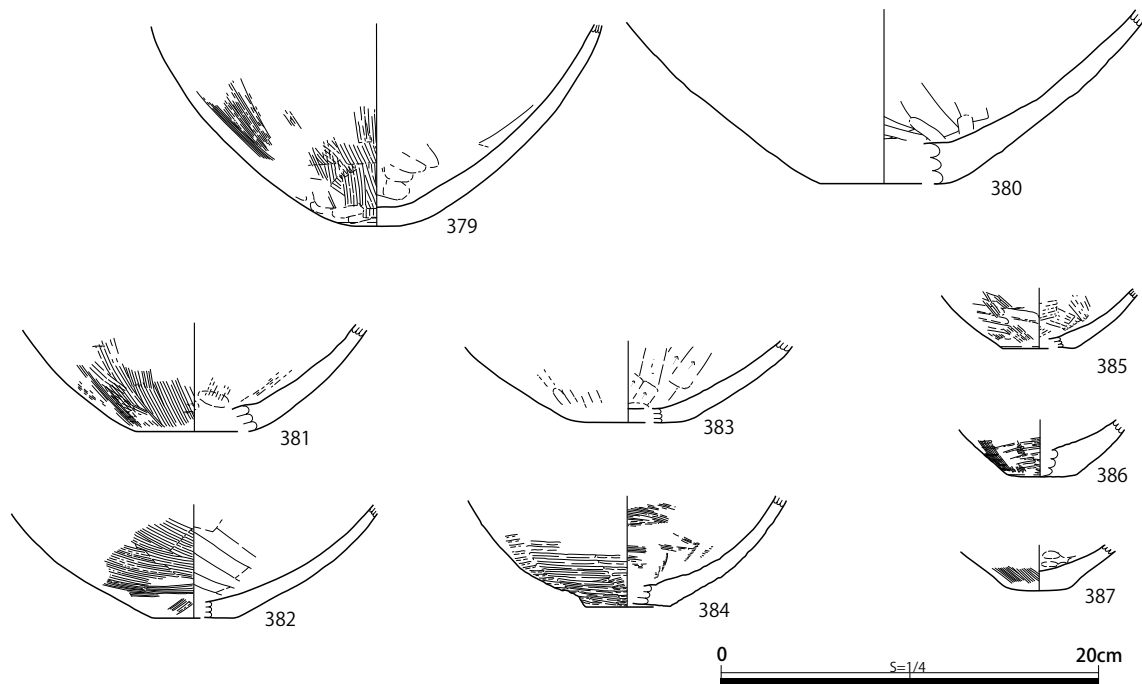
**遺物出土状況** 炉及びその周囲から焼土、炭化物がまとまって検出されている。炉の西側からは炭化材が、東側からは甕が床面に置かれた状態で検出された。

**出土遺物** 484 ~ 505 は弥生時代終末~古墳時代初期の土器群である。484 は広口壺、485 ~ 593 は甕、504、505 は鉢である。506 はサヌカイト製の楔形石器である。507 は鉄製の圭頭鏃である。

**時期** 出土した遺物から弥生時代終末期~古墳時代初頭と考えられる。



第 313 图 1-2 区 SB1001 出土遺物①



第 314 図 1-2 区 SB1001 出土遺物②

2 号土坑 (SK1002) (第 330・331 図)

**検出地点** G20 グリッド

**規模・形態** 平面の形状は楕円形を呈し、長軸は 0.60m、短軸は 0.34m、深さは 0.17m を測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 灰黄褐色砂質土が 1 層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 508 は土師質土器の羽釜の脚部である。

**時期** 出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。

7 号土坑 (SK1007) (第 332・333 図)

**検出地点** G・H26 グリッド

**規模・形態** 平面の形状は楕円形を呈し、長軸は 0.60m、短軸は 0.43m、深さは 0.27m を測る。断面の形状は丸底形である。

**土層** 何れも灰黄褐色シルト混じり砂質土で 2 層に分層される。

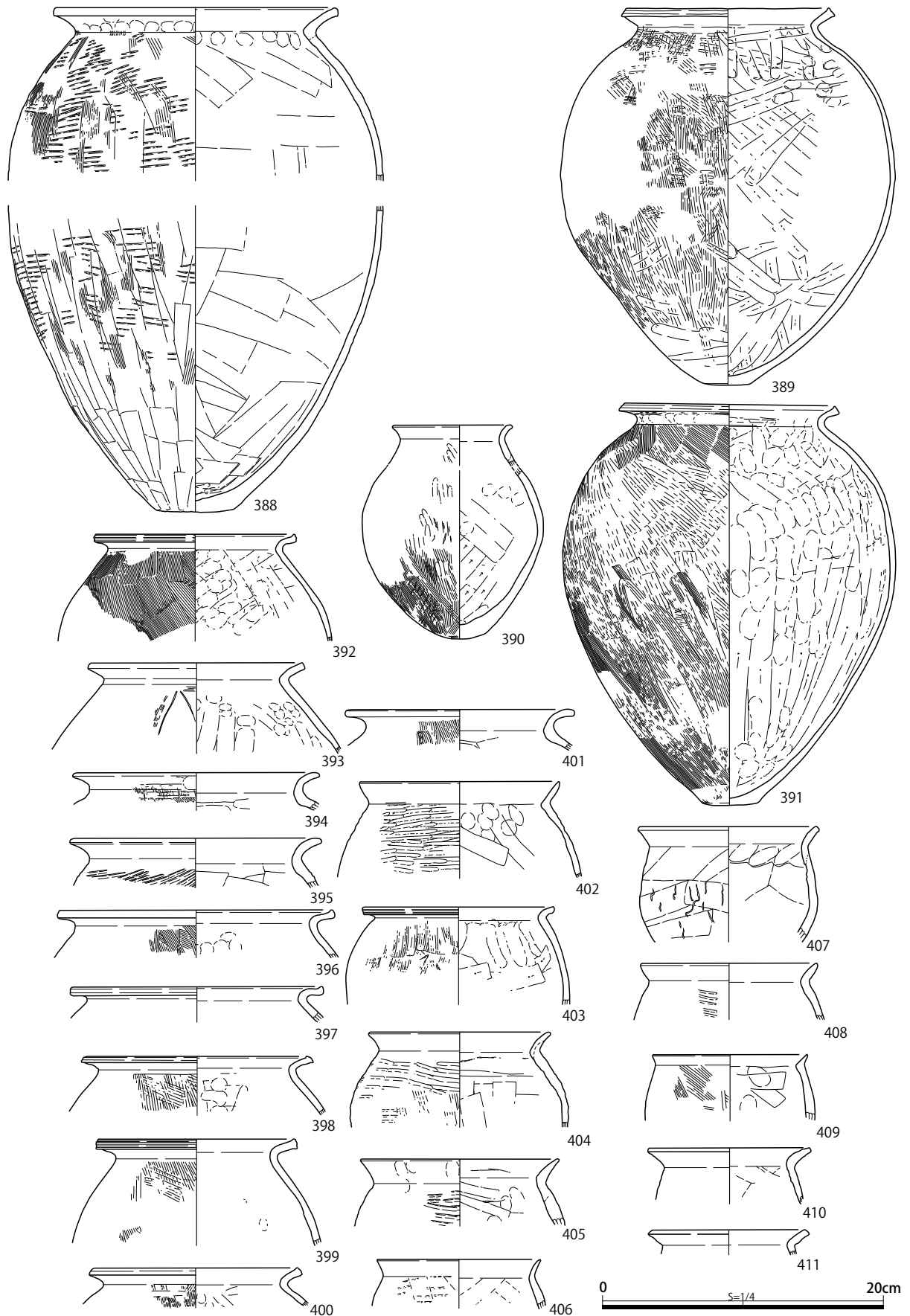
**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 509 は土師質土器の皿である。底部の切り離しは回転糸切りである。

**時期** 出土した遺物から鎌倉時代 (13 世紀) 以降の年代が想定される。

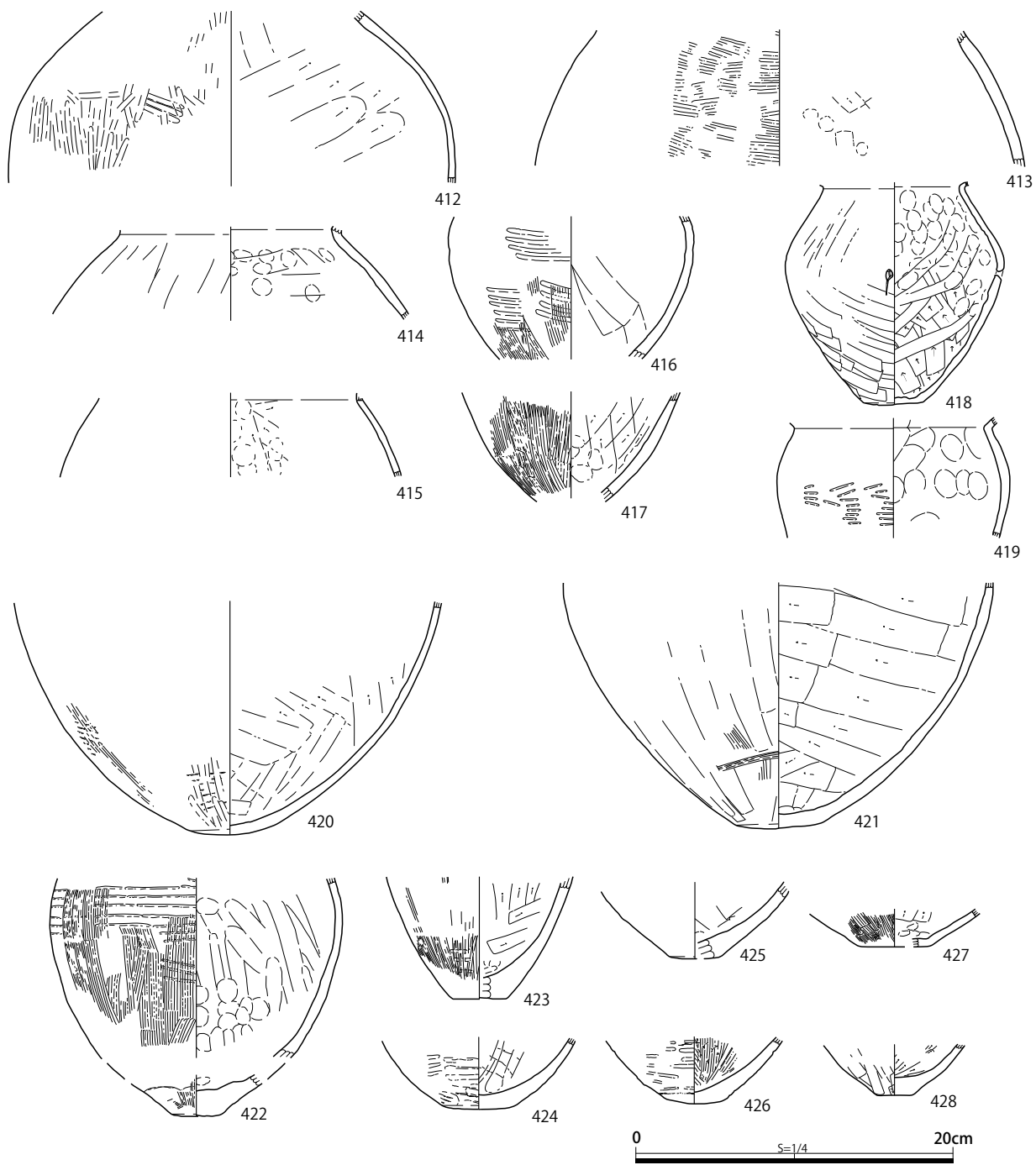
10 号土坑 (SK1010) (第 334・335 図)

**検出地点** H28 グリッド

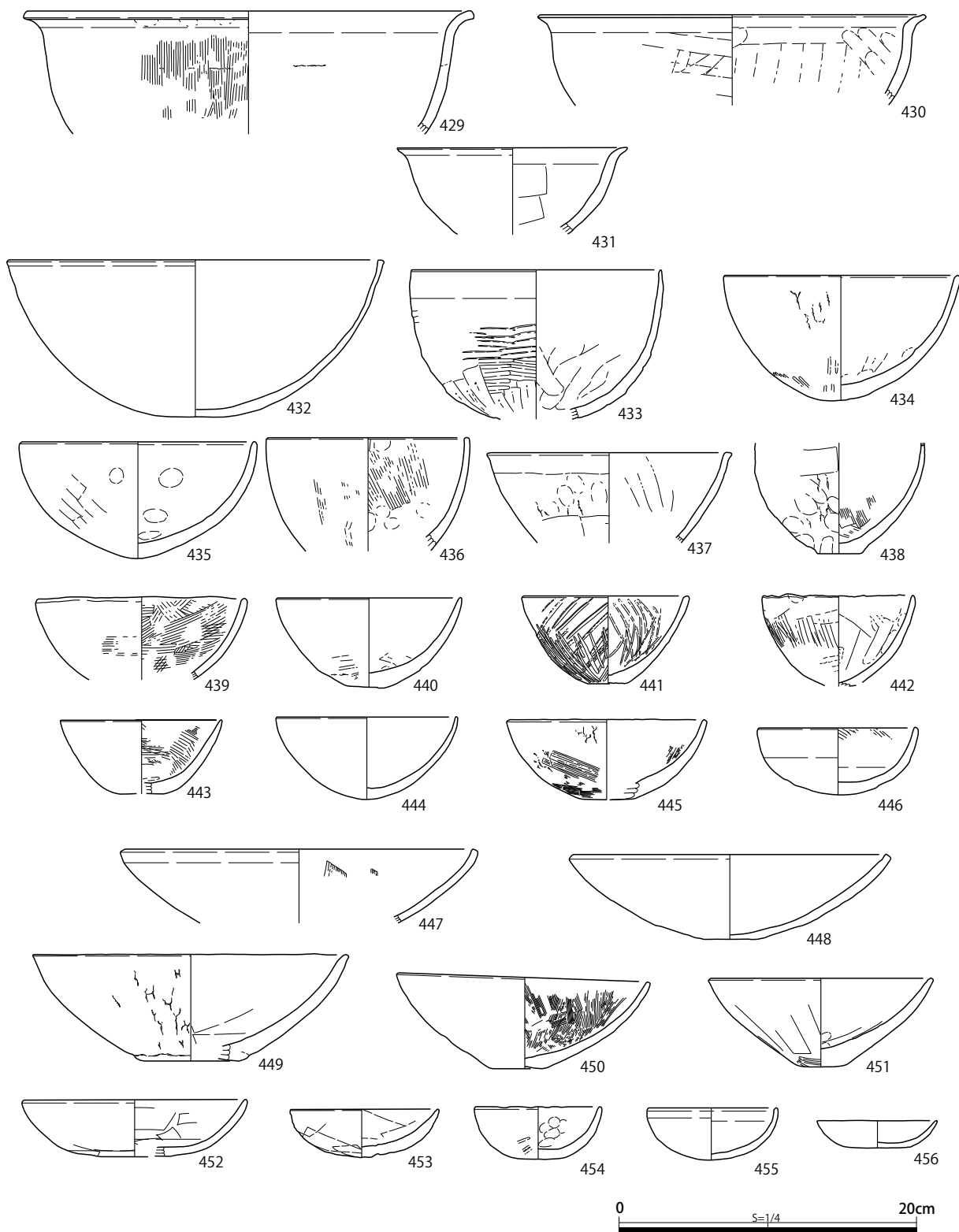


第 315 图 1-2 区 SB1001 出土遺物③

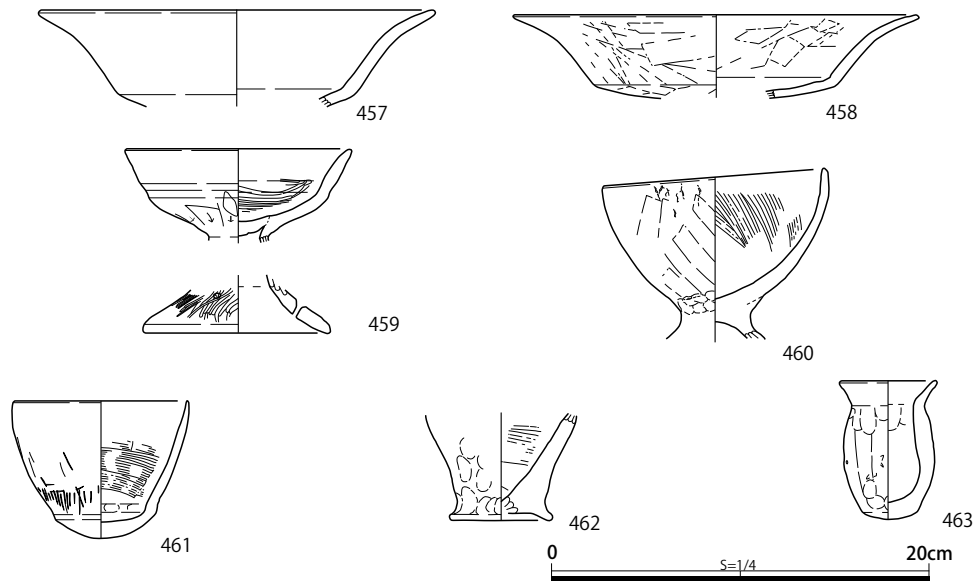




第 316 图 1-2 区 SB1001 出土遺物④



第 317 图 1-2 区 SB1001 出土遺物⑤



第 318 図 1-2 区 SB1001 出土遺物⑥

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈するとみられるが、北側を SX1003 に切られている。残存値で長軸は 0.73m、短軸は 0.38m、深さは 0.30m を測る。

**土層** 何れも灰黄褐色砂質土で 3 層に分層され、3 層はややシルトが混じる。

**遺物出土状況** 1 層中を中心として砂岩礫や土器が出土している。

**出土遺物** 510 は弥生土器の甕の底部である。511 はサヌカイト製の凹基式石鏃である。

**時期** 出土した遺物から弥生時代以降の年代が想定される。

#### 15 号土坑 (SK1015) (第 336・337 図)

**検出地点** I26 グリッド

**規模・形態** 平面の形状は楕円形を呈し、東側を SP1150 に切られている。長軸は 0.60m、短軸は 0.53m、深さは 0.51m を測る。断面の形状は 2 段形である。

**土層** 2 層に分層され、上部はにぶい黄褐色砂質土、下部には灰黄褐色シルト混じり砂質土が堆積している。

**遺物出土状況** 1 層を中心として砂岩礫や土器が出土している。

**出土遺物** 512 は東播系須恵器の捏鉢である。

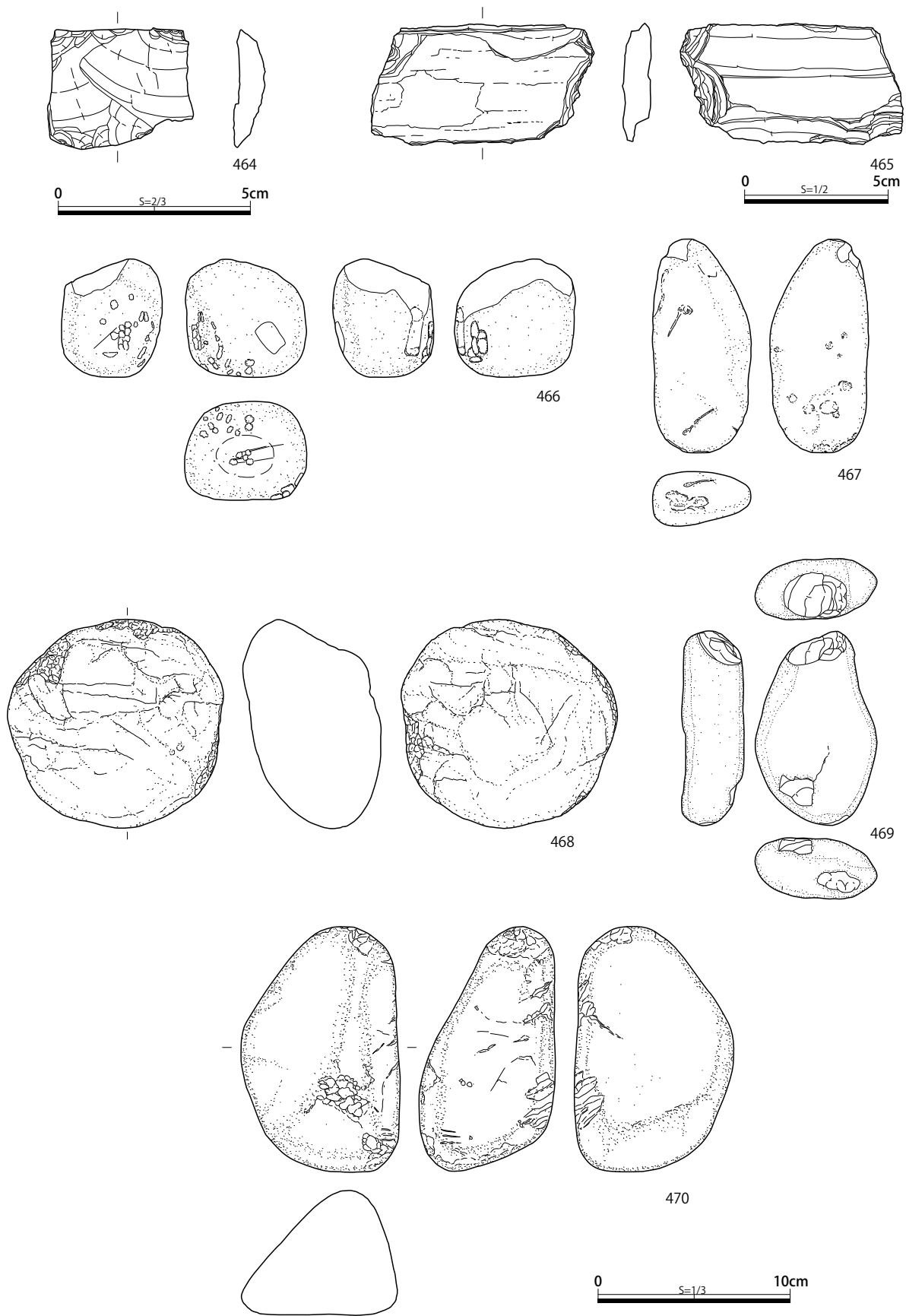
**時期** 出土した遺物から鎌倉時代 (13 世紀) 以降の年代が想定される。

#### 16 号土坑 (SK1016) (第 338・339 図)

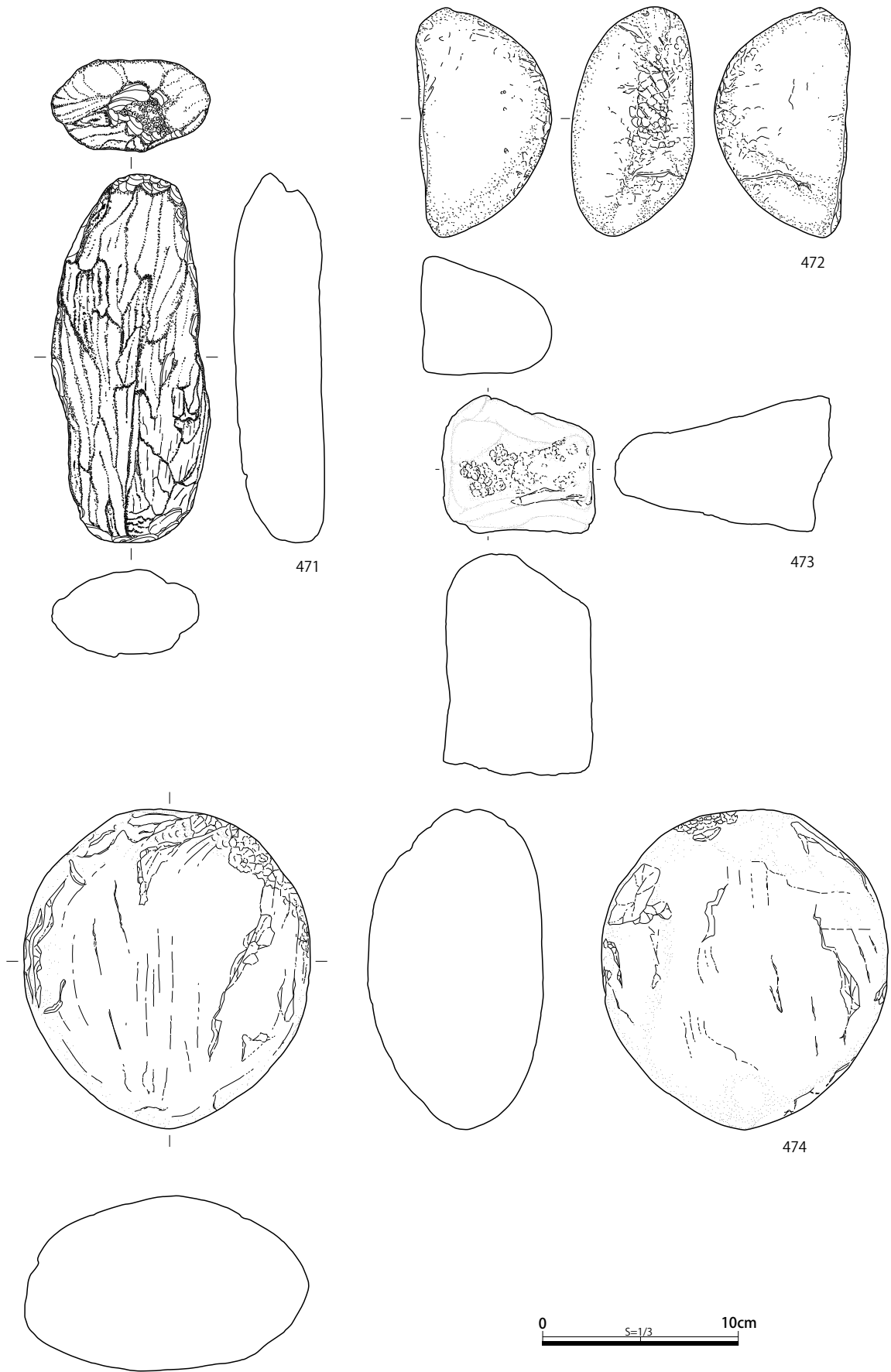
**検出地点** I26 グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.88m、短軸は 0.70m、深さは 0.44m を測る。断面の形状は 2 段形である。

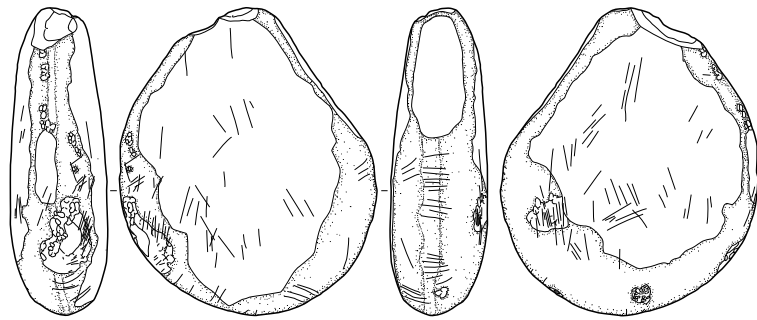
**土層** 5 層に分層され、1、2 層は灰黄褐色砂質土、下部には黒褐色やにぶい黄褐色などのシルト混じり砂質土が堆積している。



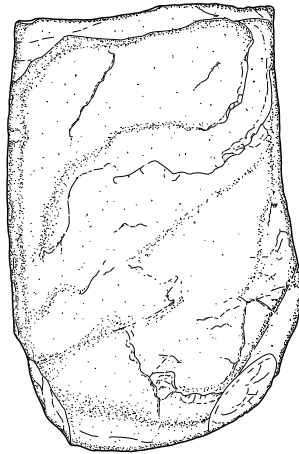
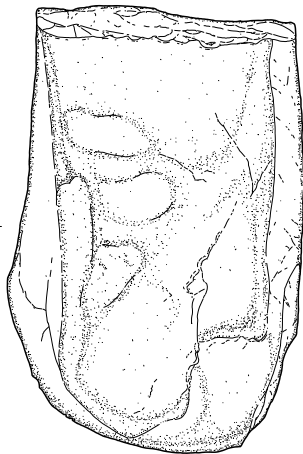
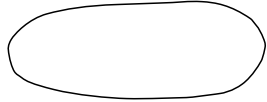
第 319 图 1-2 区 SB1001 出土遺物⑦



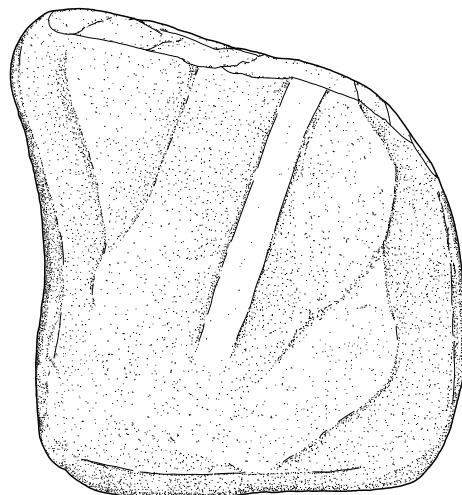
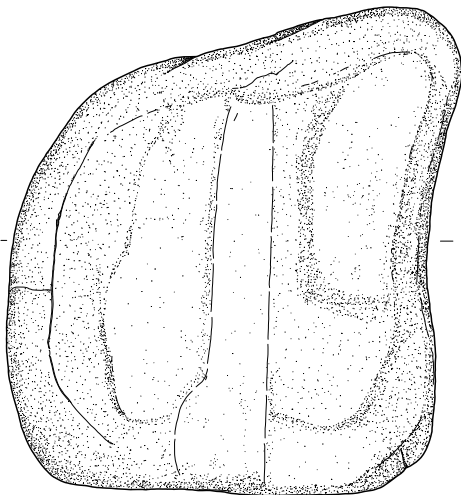
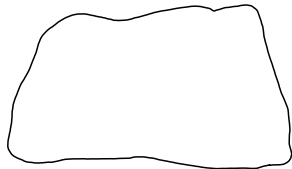
第 320 图 1-2 区 SB1001 出土遺物⑧



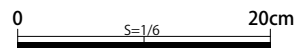
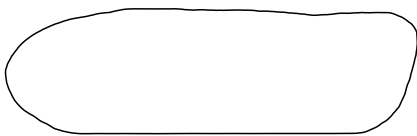
475



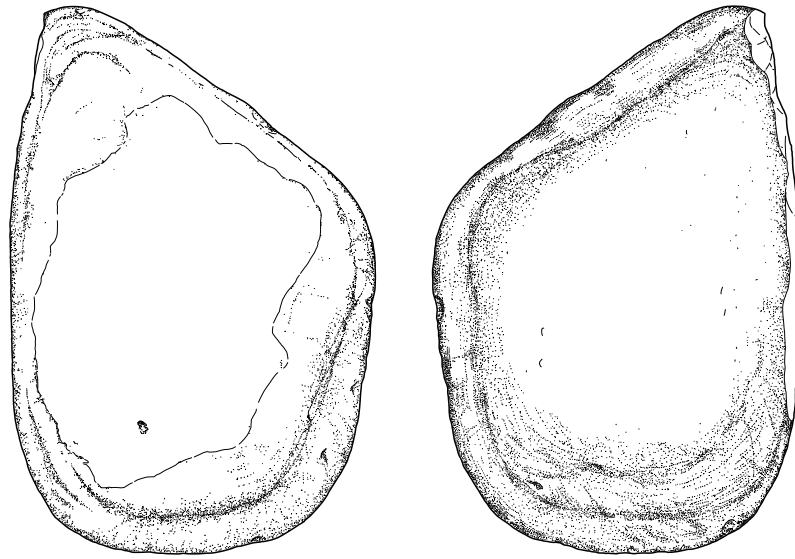
476



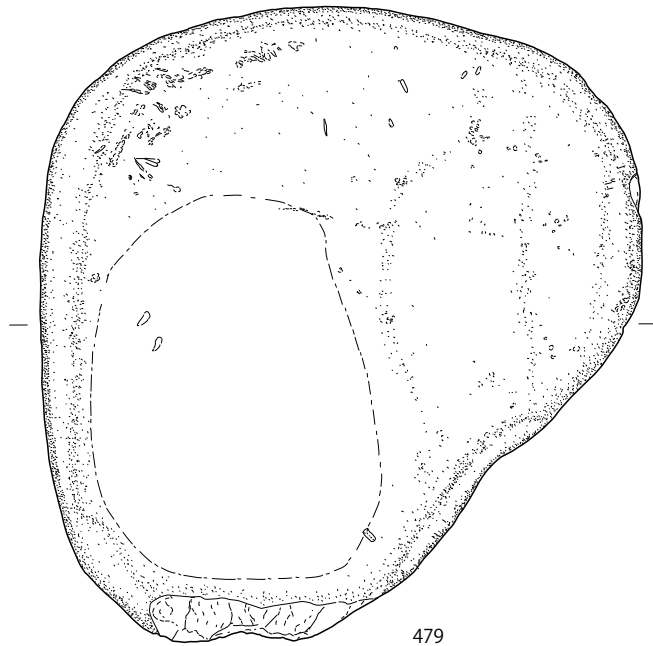
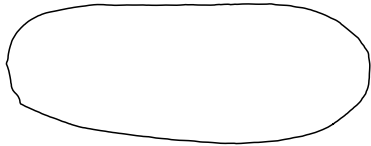
477



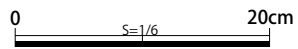
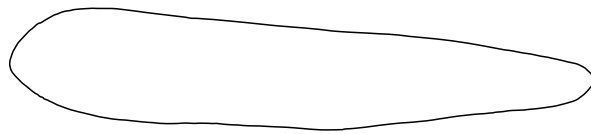
第 321 图 1-2 区 SB1001 出土遺物⑨



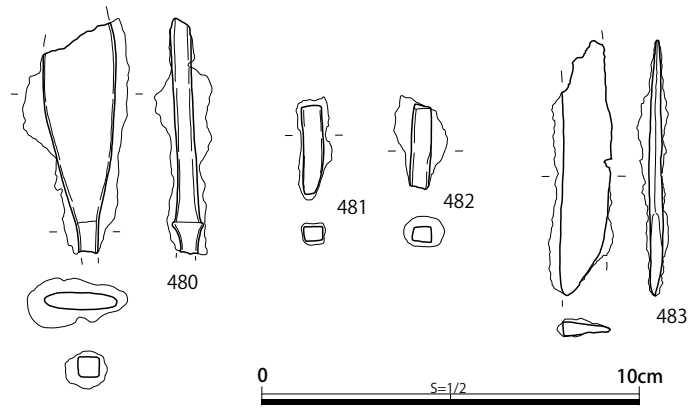
478



479



第 322 图 1-2 区 SB1001 出土遺物⑩



第 323 図 1-2 区 SB1001 出土遺物①

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 513 は土師質土器の杯である。514 は北宋銭で 1086 年初鑄の「元祐通寶」である。

**時期** 出土した遺物から平安時代末（12 世紀）以降の年代が想定される。

#### 27 号土坑（SK1027）（第 340・341 図）

**検出地点** K31 グリッド

**規模・形態** 平面の形状はやや不整な楕円形を呈し、長軸は 1.30m、短軸は 1.20m、深さは 0.14m を測る。断面の形状は皿形である。

**土層** 何れも砂質土が 3 層に分層され、上部には灰黄褐色砂質土、下部にはにぶい黄褐色砂質土が堆積している。

**遺物出土状況** 拳大の角礫がまとまって出土しており、その中から土器も出土している。

**出土遺物** 515～525 は弥生土器。515～518 は壺、515、516 は布留式の二重口縁壺、517 は庄内式の広口壺である。519～523 は甕である。524、525 は鉢である。525 は砂岩、527 は斑糲岩製の敲石である。

**時期** 出土した遺物から弥生時代終末～古墳時代初頭以降と想定される。

#### 7 号小穴（SP1007）（第 342・343 図）

**検出地点** G21 グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.45m、短軸は 0.26m、深さは 0.17m を測る。断面の形状は 2 段形である。

**土層** 何れも灰黄褐色砂質土で 2 層に分層される。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 528 は瓦器椀である。

**時期** 出土した遺物から鎌倉時代（13 世紀）以降の年代が想定される。



11号小穴 (SP1011) (第344・345図)

**検出地点** H21 グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.47m、短軸は0.32m、深さは0.16mを測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** にぶい黄褐色砂質土が1層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 529は土師質土器の杯である。

**時期** 出土した遺物から鎌倉時代(13世紀)以降の年代が想定される。

12号小穴 (SP1012) (第346・347図)

**検出地点** H21 グリッド

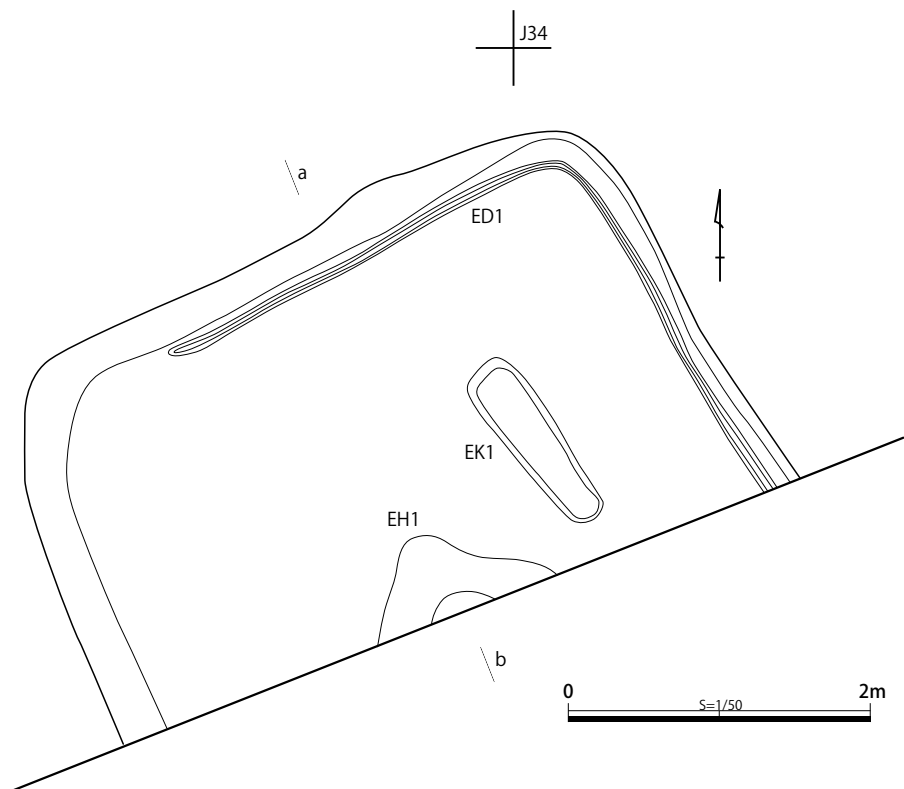
**規模・形態** 平面形状はほぼ円形を呈し、径は0.32m、深さは0.14mを測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 灰黄褐色砂質土が1層である。

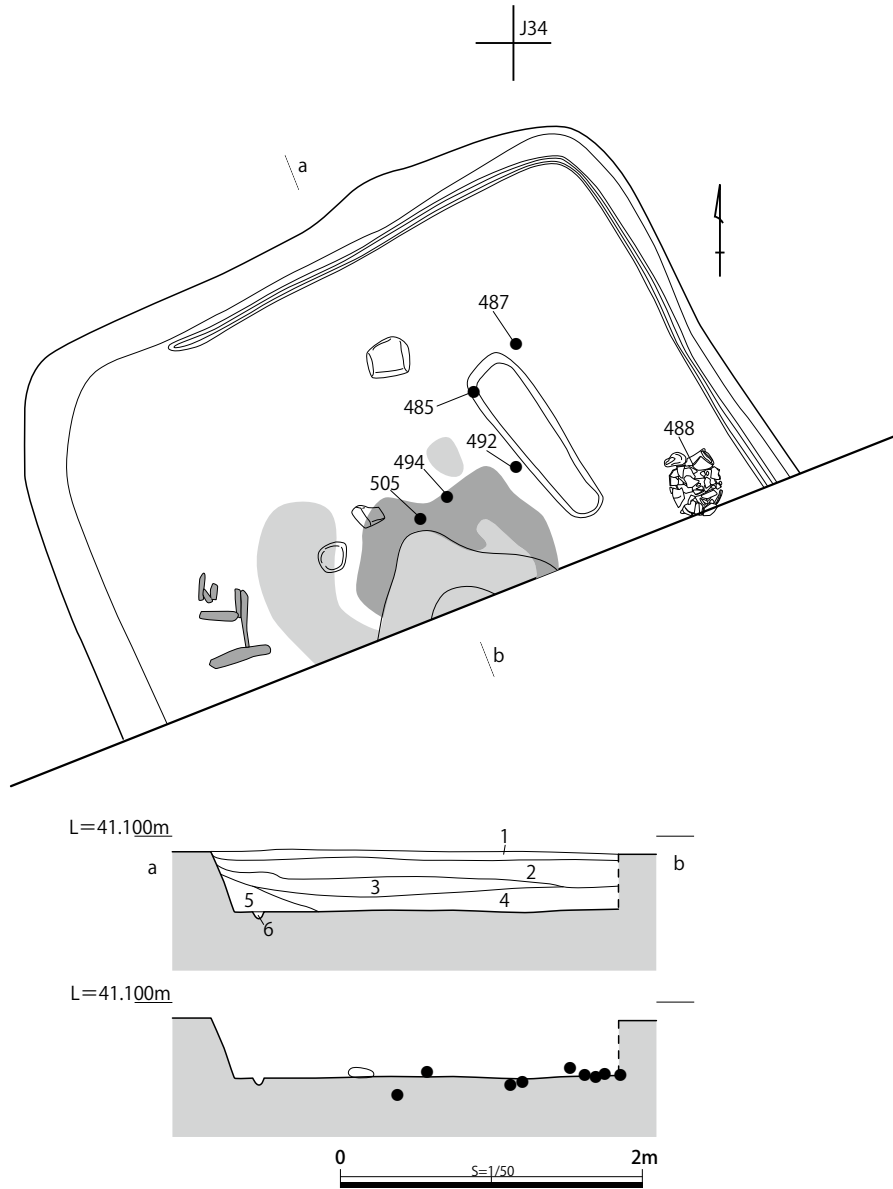
**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 530は土師質土器の杯である。

**時期** 出土した遺物から鎌倉時代(13世紀)以降の年代が想定される。



第324図 1-2区 SB1002 平面図 (1/50)



- 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/6 砂質土 しまりやや弱く粘性やや強い、5Y5/1灰色砂質土φ0.5~1.5cmが30%、マンガングφ0.2~1cmが30%、鉄分φ0.2~0.5cmが5%、礫φ0.5~1cmが5%含む。
- 2 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土・しまりやや強く粘性やや弱い、5Y5/2灰オリーブ砂質土φ0.2~0.5cmが10%、炭φ0.5cmの柱状が3%、マンガングφ0.1~0.3cmが5%、礫φ1~6cmが10%含む。
- 3 にぶい黄褐色 10YR 4/3 砂質土 しまりやや強く粘性やや弱い、5Y5/2灰オリーブ砂質土φ0.5~1cmが10%、マンガングφ0.2~0.5cmが10%、礫φ0.5~2cmが3%含む。
- 4 褐色 10YR 4/4 砂質土 しまりやや強く粘性やや弱い、5Y5/2灰オリーブ砂質土φ0.5~2cmが10%、2.5Y6/3にぶい黄色砂質土φ0.2~0.5cmが5%、炭φ0.5~1cmが3%、礫φ0.5~3cmが3%含む。
- 5 にぶい黄褐色 10YR 4/3 砂質土 しまりやや強く粘性やや弱い、5Y5/2灰オリーブ砂質土φ0.2~0.5cmが10%、マンガングφ0.5~1cmが3%、礫φ0.5~1cmを1%含む。
- 6 にぶい黄褐色 10YR 4/3 砂質土 しまりやや強く粘性やや弱い、5Y5/2灰オリーブ砂質土φ0.2~0.5cmが10%含む。

第 325 図 1-2 区 SB1002 平断面図 (1/50)

16号小穴 (SP1016) (第 348・349 図)

**検出地点** H22 グリッド

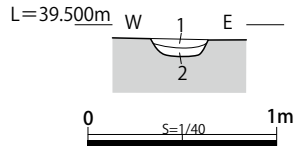
**規模・形態** 平面形状はほぼ円形を呈し、径は 0.48m、深さは 0.27m を測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 灰黄褐色砂質土が 1 層である。

**遺物出土状況** 拳大前後の大きさの砂岩礫が底部に張り付くように出土している。

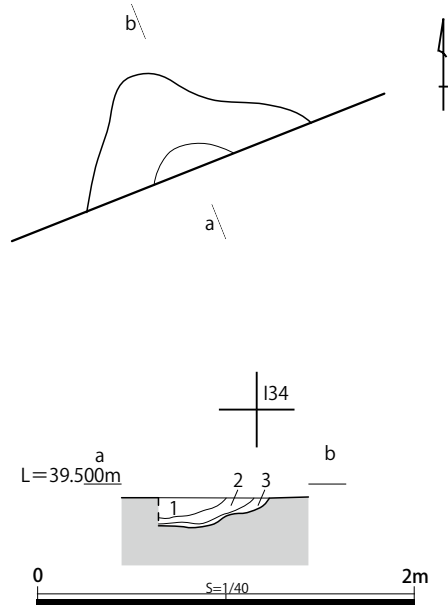
**出土遺物** 531 は和泉型の瓦器椀である。

**時期** 出土した遺物から鎌倉時代 (13 世紀) 以降の年代が想定される。



- 1 にぶい黄褐色 10YR 4/3 砂質土 しまり強く粘性弱い。炭φ0.2cmを1%含む。  
 2 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土 しまり強く粘性弱い。

第 326 図 1-2 区 SB1002EK1 断面図 (1/40)



- 1 灰黄褐色 10YR 5/2 砂質土 しまり強く粘性弱い。炭φ1cmを2%、焼土φ0.2~0.3cmを2%含む。  
 2 にぶい黄褐色 10YR 5/3 砂質土 しまり弱く粘性強い。炭φ0.2~0.3cmを2%、焼土φ0.3~0.5cmを3%含む。  
 3 にぶい黄褐色 10YR 5/3 砂質土 しまり弱く粘性弱い。炭φ0.2cmを2%、焼土φ0.5~1cmを2%含む。

第 327 図 1-2 区 SB1002EH1 平断面図 (1/40)

### 31 号小穴 (SP1031) (第 350・351 図)

**検出地点** G26 グリッド

**規模・形態** 平面の形状はほぼ円形を呈し、径は 0.27m、深さは 0.22m を測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 灰オリーブ色砂質土が 1 層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

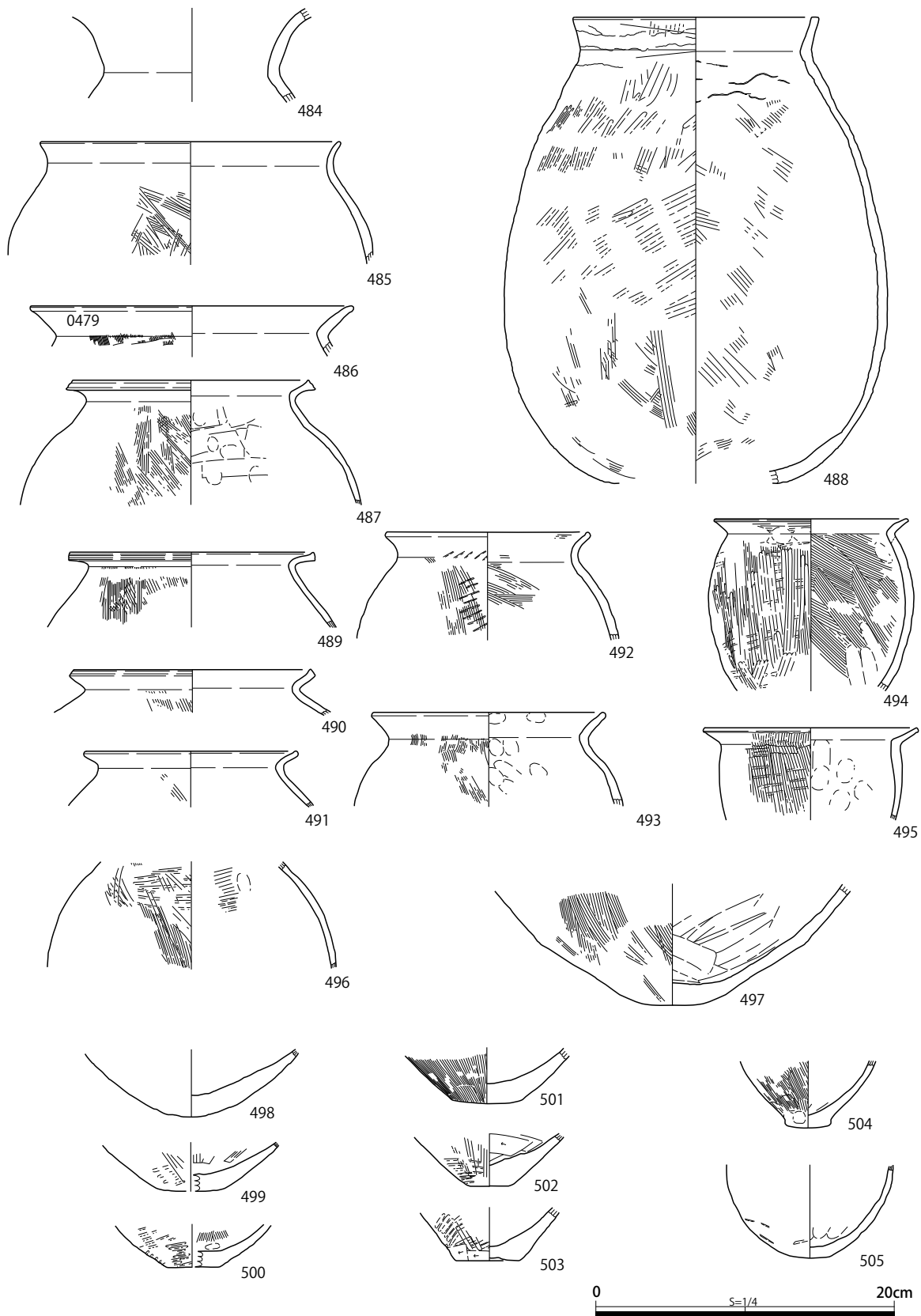
**出土遺物** 532 は土師質土器の羽釜である。

**時期** 出土した遺物から室町時代 (15 世紀) 以降の年代が想定される。

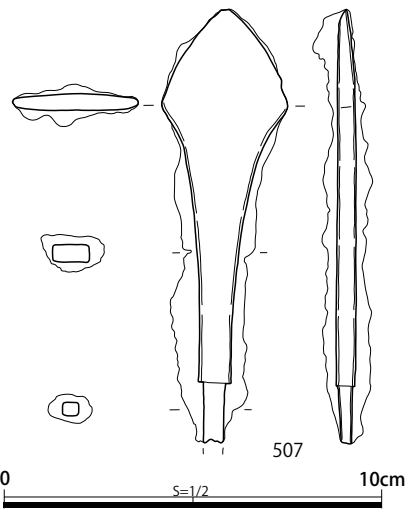
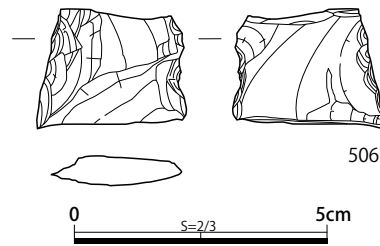
### 67 号小穴 (SP1067) (第 352・353 図)

**検出地点** G27 グリッド

**規模・形態** 平面の形状はほぼ円形を呈し、径は 0.3m、深さは 0.13m を測る。断面の形状は舟底形である。



第 328 图 1-2 区 SB1002 出土遺物①



第 329 図 1-2 区 SB1002 出土遺物②

**土層** 灰黄褐色砂質土が 1 層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 533 は白磁の碗である。

**時期** 出土した遺物から平安時代末（12 世紀）以降の年代が想定される。

78 号小穴（SP1078）（第 354・355 図）

**検出地点** H28 グリッド

**規模・形態** 平面形状はほぼ円形を呈し、長軸は 0.42m、短軸は 0.40m、深さは 0.38m を測る。断面の形状は丸底形である。

**土層** 灰黄褐色シルト混じり砂質土が 1 層である。

**遺物出土状況** 上層付近を中心として土器が出土している。

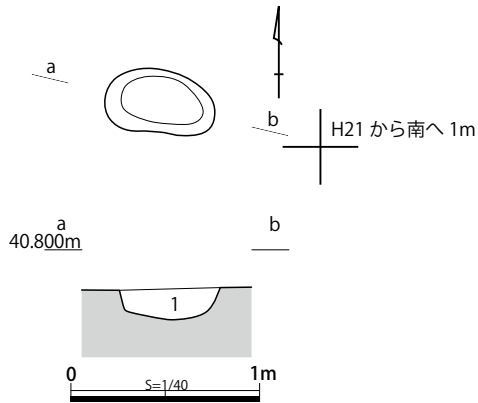
**出土遺物** 534 は土師質土器の鍋である。

**時期** 出土した遺物から鎌倉時代（13 世紀）以降の年代が想定される。

130 号小穴（SP1130）（第 356・357 図）

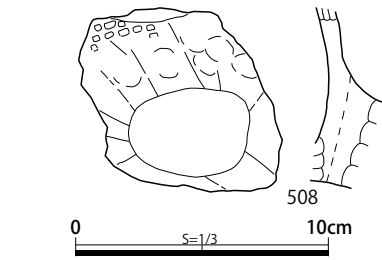
**検出地点** I25 グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.60m、短軸は 0.50m、深さは 0.39m を測る。断面の形状は舟底形である。

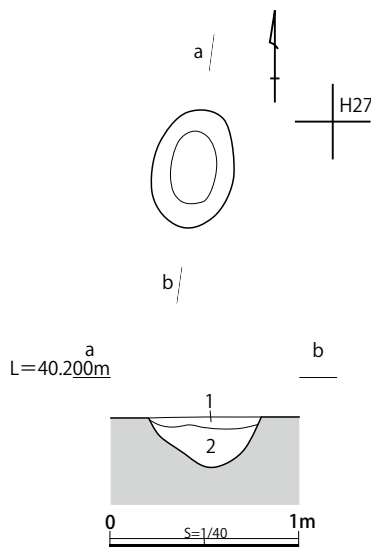


1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土 しまり強い粘性弱い、液 $\phi$ 0.2cmが1%、焼土 $\phi$ 0.1~0.2cmが1%、礫 $\phi$ 0.5~1cmが3%を含む。

第330図 1-2区 SK1002 平断面図 (1/40)



第331図 1-2区 SK1002 出土遺物



1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土・シルト混じり(少) しまりやや弱い粘性やや強い、S/S2灰オーリーブ砂質シルト $\phi$ 0.2cmを3%、10YR6/6明黄褐色砂質シルト $\phi$ 0.2cmを3%含む。  
2 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土・シルト混じり(多) しまり弱い粘性強い、10YR6/6明黄褐色砂質シルト $\phi$ 0.5cmを3%、S/S2灰オーリーブ砂質シルト $\phi$ 0.2cmを2%含む。

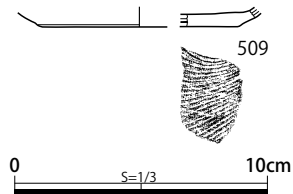
第332図 1-2区 SK1007 平断面図 (1/40)

**土層** 何れも灰黄褐色砂質土層で2層に分層され、下部には僅かにシルトが混じっている。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 535は土師質土器の杯である。536は龍泉窯系青磁の碗である。

**時期** 出土した遺物から鎌倉時代(13世紀)以降の年代が想定される。



第333図 1-2区 SK1007 出土遺物

### 170号小穴 (SP1170) (第358・359図)

**検出地点** I26グリッド

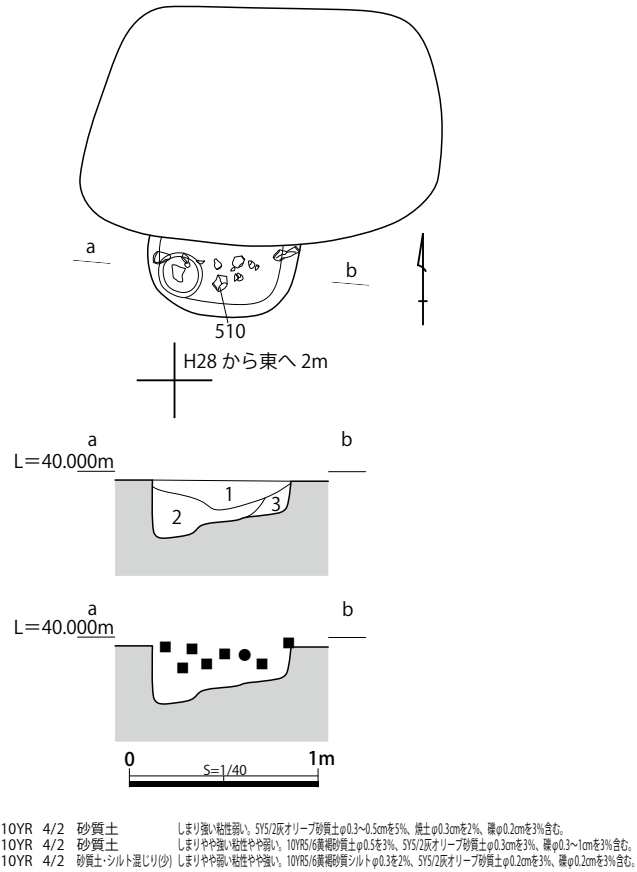
**規模・形態** 平面形状はほぼ円形を呈し、長軸は0.53m、短軸は0.52m、深さは0.44mを測る。断面の形状は丸底形である。

**土層** 何れも灰黄褐色砂質土で2層に分層される。

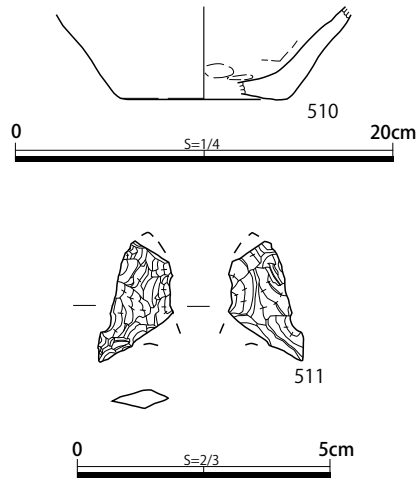
**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 537は土師質土器の杯である。

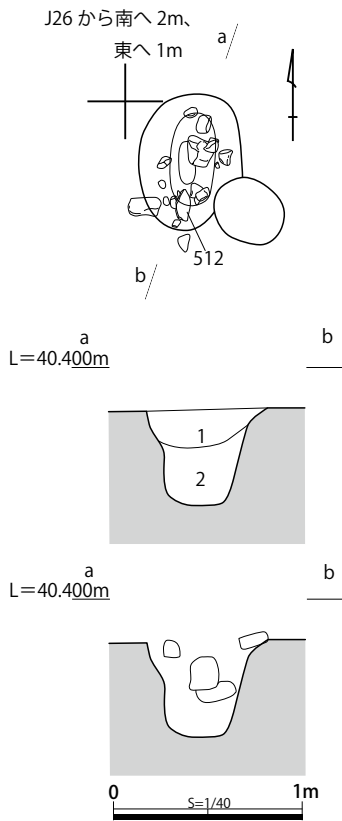
**時期** 出土した遺物から鎌倉時代(13世紀)以降の年代が想定される。



第 334 図 1-2 区 SK1010 平断面図 (1/40)

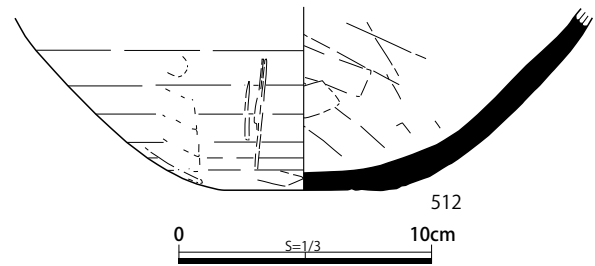


第 335 図 1-2 区 SK1010 出土遺物

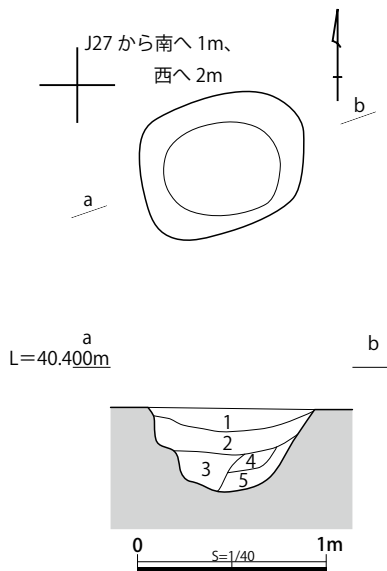


- 1 にぶい黄褐色 10YR 4/3 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い、S15/2灰オリブ砂質土φ0.3cmを2%、炭φ0.2~0.5cmを2%、焼土φ0.3cmを2%含む。  
2 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土・シルト混じり(多) しまり弱い粘性強い、10YR/6黄褐色シルトφ0.3を3%、炭φ0.2~0.3cmを1%含む。

第 336 図 1-2 区 SK1015 平断面図 (1/40)

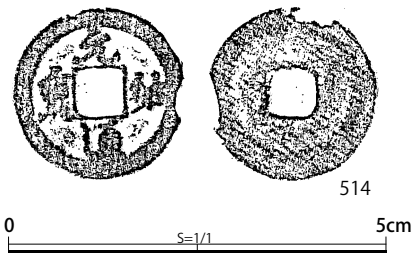
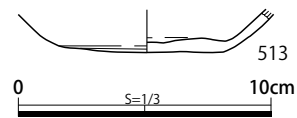


第 337 図 1-2 区 SK1015 出土遺物



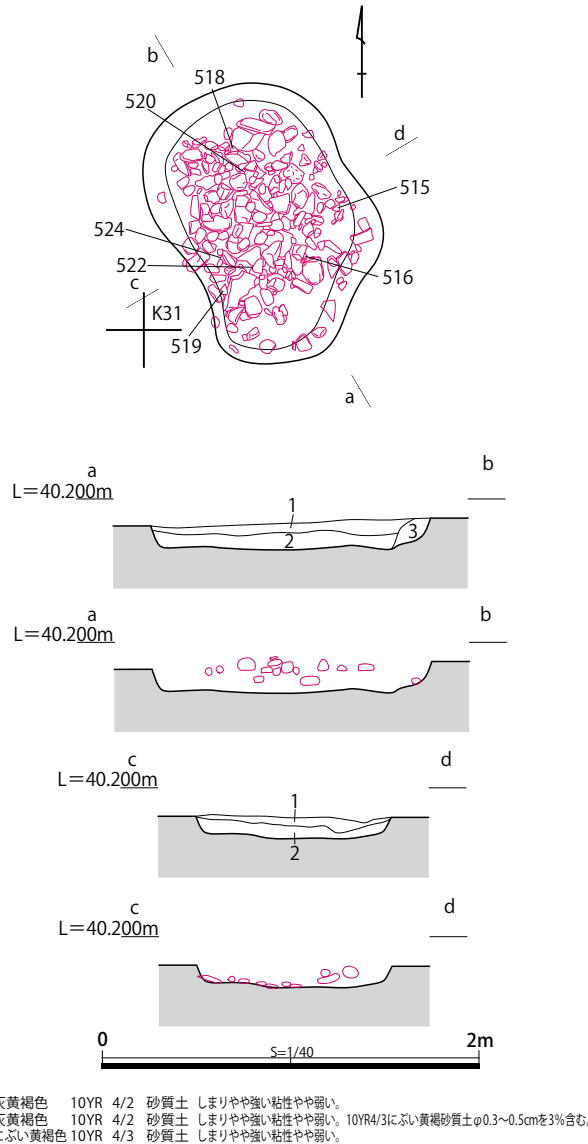
- 1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い、10YR/4にぶい黄褐色砂質土φ0.2~0.3cmを5%、S15/2灰オリブ砂質土φ0.3cmを2%、炭φ0.1~0.2cmを2%、焼土φ0.3cmを1%含む。  
2 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い、10YR/4にぶい黄褐色砂質土φ0.2~0.3cmを3%、炭φ0.2cmを1%、焼土φ0.1~0.3cmを1%含む。  
3 黒褐色 10YR 3/2 砂質土・シルト混じり(多) しまり弱い粘性強い、10YR/4にぶい黄褐色シルトφ0.3cmを3%、炭φ0.2cmを2%、焼土φ0.2~0.5cmを2%含む。  
4 にぶい黄褐色 10YR 4/3 砂質土・シルト混じり(少) しまりやや強い粘性やや強い、10YR/4にぶい黄褐色シルトφ0.5cmを1%、S15/2灰オリブ砂質土φ0.3cmを2%、炭φ0.2を1%、焼土φ0.1cmを1%含む。  
5 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土・シルト混じり(少) しまりやや強い粘性やや強い、10YR/4にぶい黄褐色シルトφ0.3~1cmを3%、炭φ0.1を2%、焼土φ0.2cmを2%含む。

第 338 図 1-2 区 SK1016 平断面図 (1/40)



第 339 図 1-2 区 SK1016 出土遺物





第340図 1-2区SK1027 平断面図 (1/40)

171号小穴 (SP1171) (第360・361図)

**検出地点** I26 グリッド

**規模・形態** 平面形状はほぼ円形を呈し、径は0.38m、深さは0.20mを測る。断面の形状は丸底形である。

**土層** にぶい黄褐色シルト混じり砂質土層が1層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

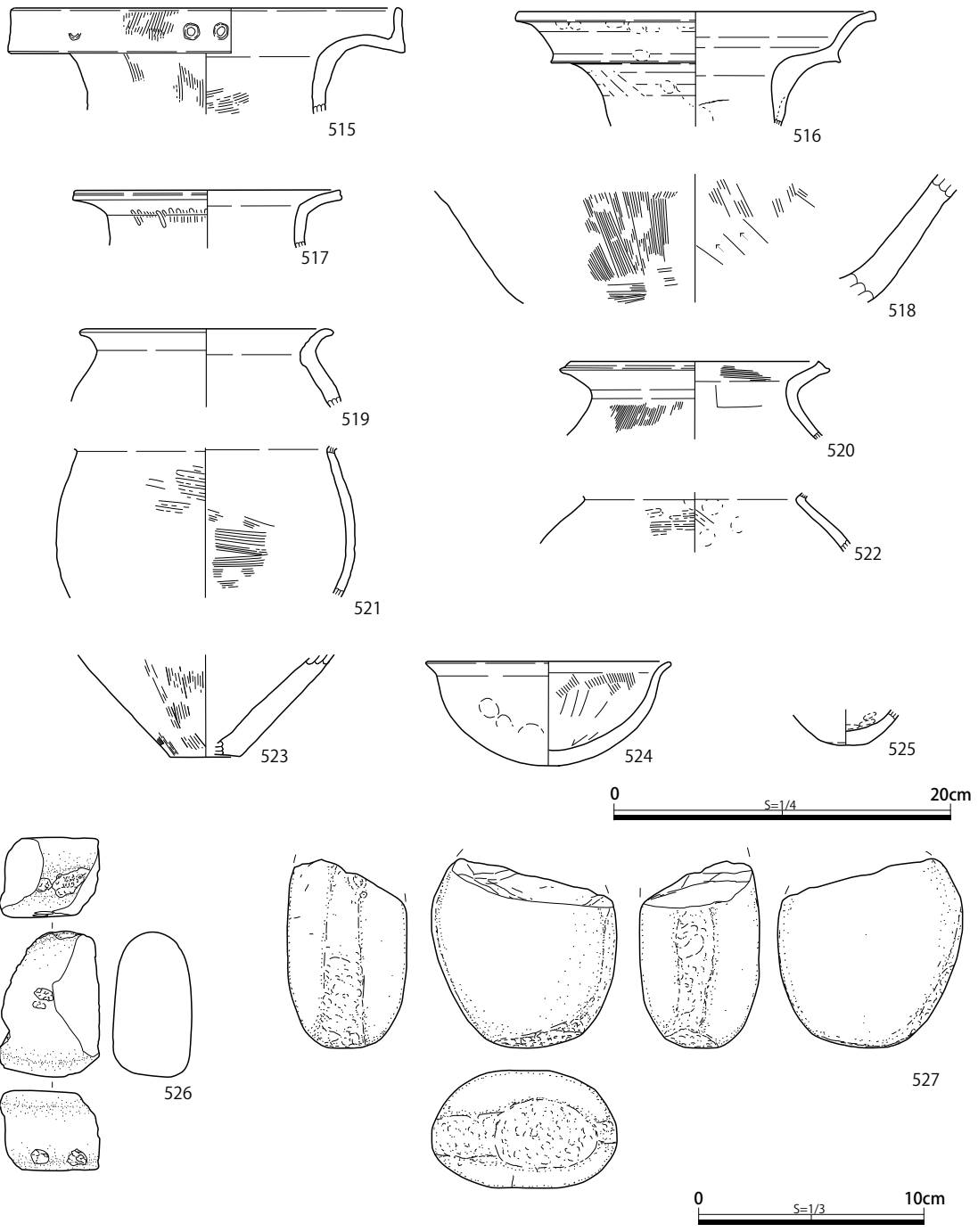
**出土遺物** 538は弥生土器の壺の口縁部である。

**時期** 出土した遺物から弥生時代後期後半以降の年代が想定される。

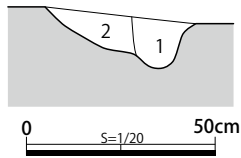
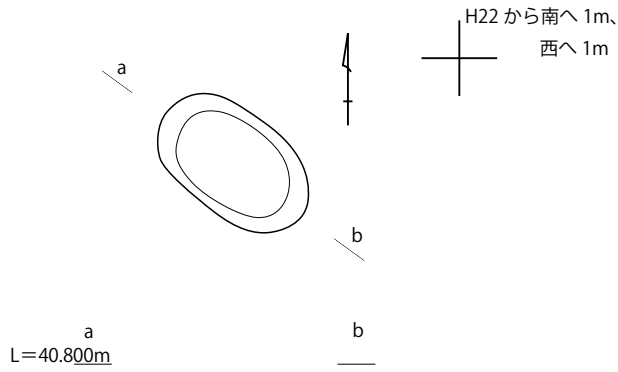
179号小穴 (SP1179) (第362・363図)

**検出地点** I27 グリッド

**規模・形態** 平面形状はほぼ円形を呈し、径は0.25m、深さは0.39mを測る。断面の形状は丸底形である。

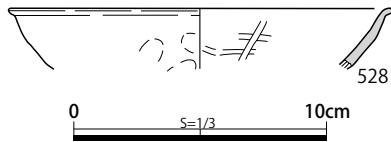


第 341 图 1-2 区 SK1027 出土遗物

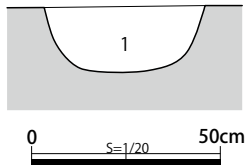
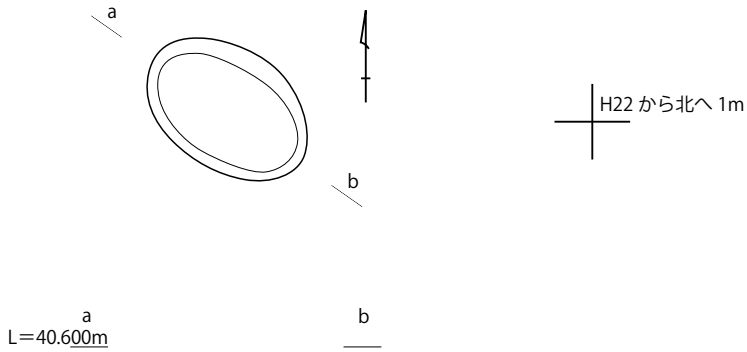


- 1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土 しまり強い粘性弱い、礫φ0.2~0.5cmを2%含む。  
 2 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土 しまり強い粘性非常に弱い、2.5/4/2黄褐色砂質土φ0.2~0.3cmを2%、礫φ0.3cmを2%含む。

第 342 図 1-2 区 SP1007 平断面図 (1/20)

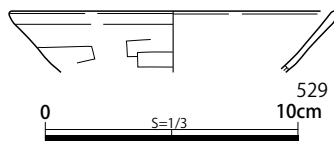


第 343 図 1-2 区 SP1007 出土遺物

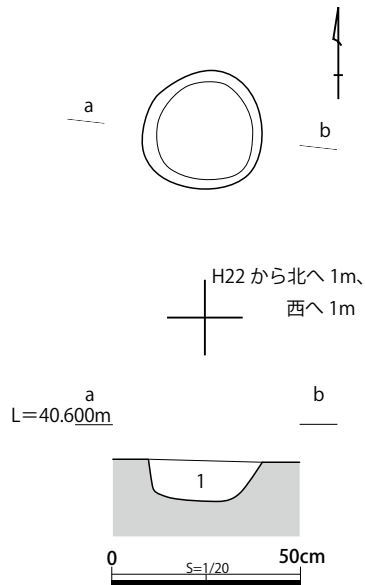


- 1 にぶい黄褐色 10YR 4/3 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い、炭φ0.2cmを2%、焼土φ0.1cmを1%、礫φ0.3~0.5cmを3%含む。

第 344 図 1-2 区 SP1011 平断面図 (1/20)

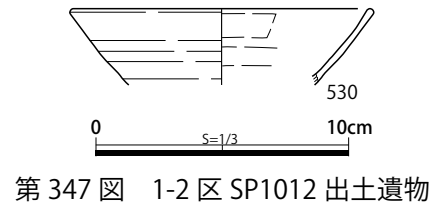


第 345 図 1-2 区 SP1011 出土遺物

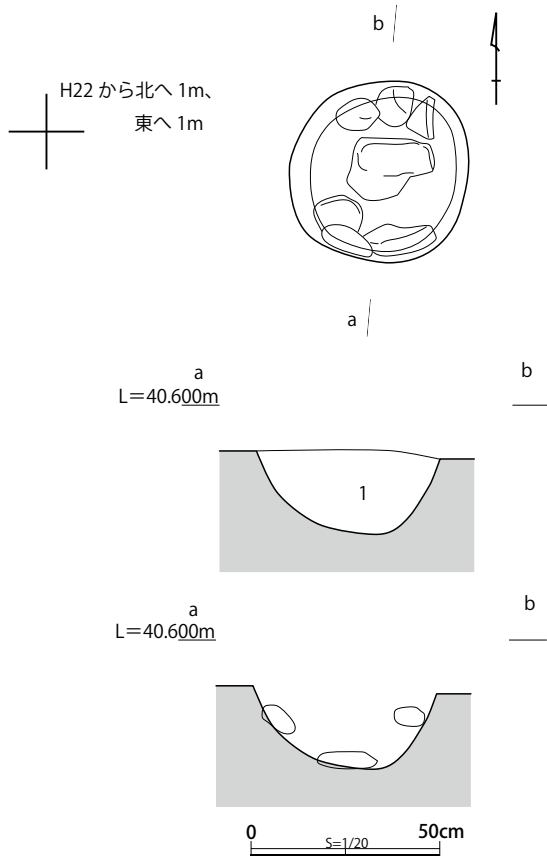


1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土 しまり強い粘性弱い。炭φ0.1cmを2%、焼土φ0.1cmを1%、礫φ0.3~0.5cmを3%含む。

第 346 図 1-2 区 SP1012 平断面図 (1/20)

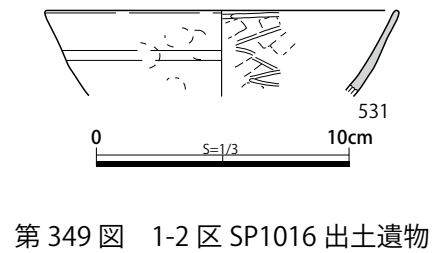


第 347 図 1-2 区 SP1012 出土遺物

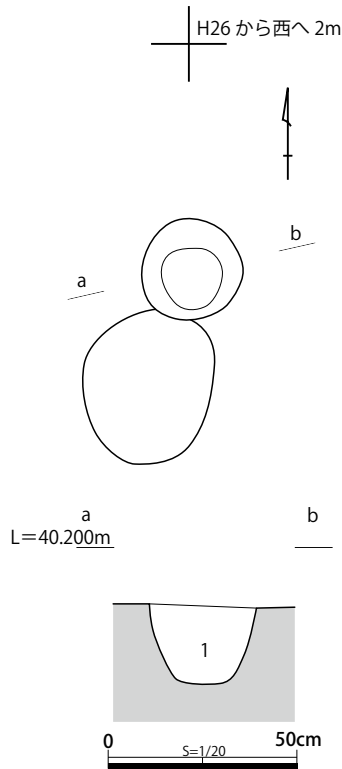


1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土 しまり強い粘性弱い。炭φ0.1~0.2cmを2%、焼土φ0.2~0.3cmを1%含む。

第 348 図 1-2 区 SP1016 平断面図 (1/20)

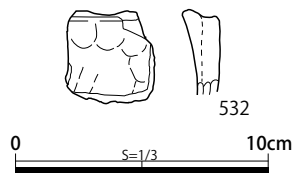


第 349 図 1-2 区 SP1016 出土遺物

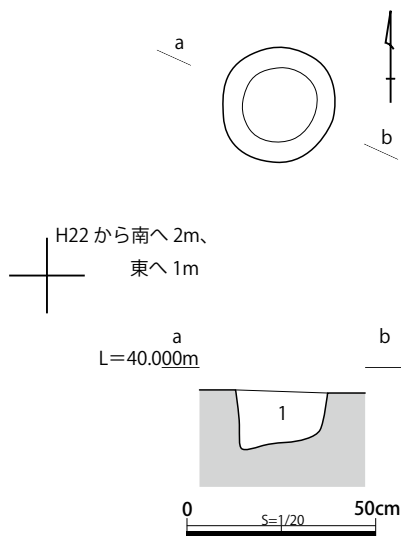


1 灰オリーブ色 5Y 5/2 砂質土 しまりやや弱い粘性やや弱い、2.5Y5/3黄褐色砂質土φ0.3cmを3%、炭φ0.1cmを1%含む。

第 350 図 1-2 区 SP1031 平断面図 (1/20)

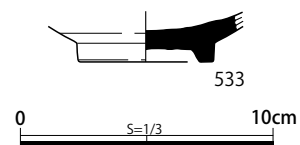


第 351 図 1-2 区 SP1031 出土遺物



1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土・シルト混じり(少) しまりやや弱い粘性やや弱い、2.5Y5/2灰オリーブ砂質土φ0.3cmを2%、炭土φ0.1cmを1%含む。

第 352 図 1-2 区 SP1067 平断面図 (1/20)



第 353 図 1-2 区 SP1067 出土遺物

**土層** 何れも灰黄褐色砂質土層で2層に分層され、下層にはシルトが多く混じる。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 539は管状の土錘である。

**時期** 年代は特定できない。

### 210号小穴 (SP1210) (第364・365図)

**検出地点** I・J28グリッド

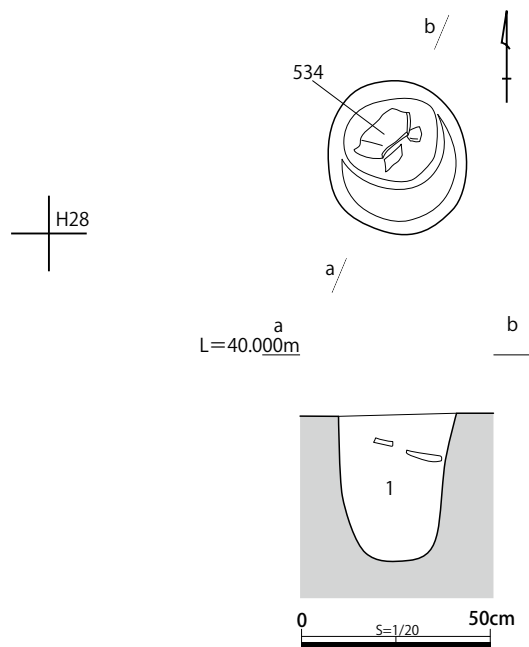
**規模・形態** 平面形状はほぼ円形を呈し、径は0.25m、深さは0.08mを測る。断面の形状は丸底形である。

**土層** 灰黄褐色砂質土層が1層である。

**遺物出土状況** 底部中央より扁平な砂岩礫が出土している。

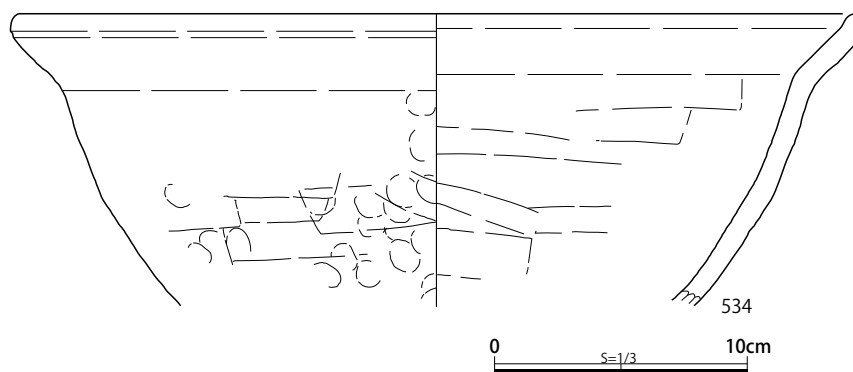
**出土遺物** 540は瓦質土器の煮沸具の脚部である。

**時期** 出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。

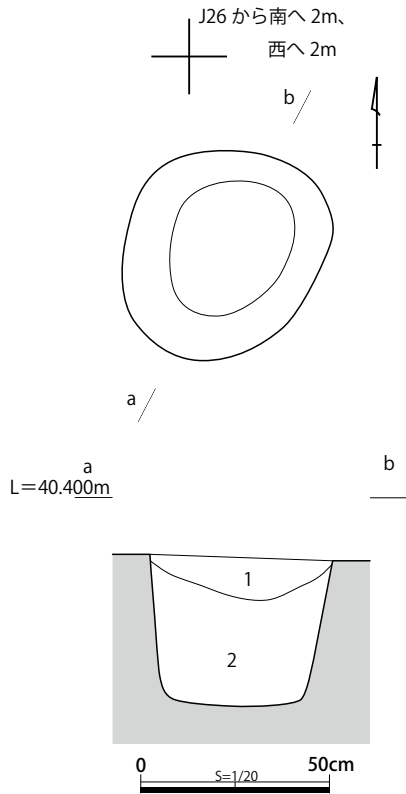


1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土・シルト混じり(少) しまりやや弱い・粘性やや強い、S15/2灰オリブ砂質土φ0.2cmを2%、10YR4/4細砂質シルトφ0.3cmを2%、礫φ0.5cmを1%含む。

第354図 1-2区 SP1078 平断面図 (1/20)

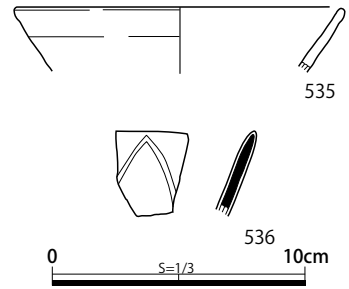


第355図 1-2区 SP1078 出土遺物

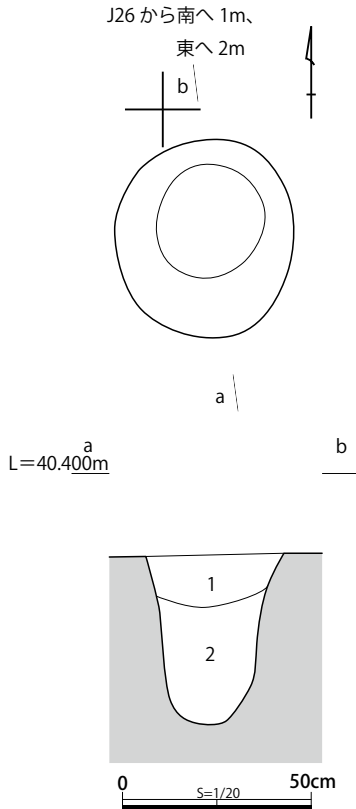


- 1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い、S15/2灰オリブ砂質土φ0.2~0.3mmを3%、炭φ0.2mmを1%、焼土φ0.1cmを1%、礫φ0.3~1cmを2%含む。  
2 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土・シルト混じり(少) しまりやや強い粘性やや強い、10YR6/6灰黄褐色シルトφ0.3~0.5mmを2%、炭φ0.2~0.5mmを2%、焼土φ0.2mmを1%、礫φ0.2mmを1%含む。

第 356 図 1-2 区 SP1130 平断面図 (1/20)

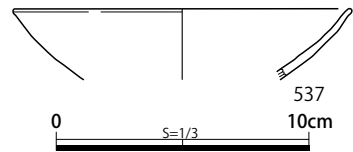


第 357 図 1-2 区 SP1130 出土遺物

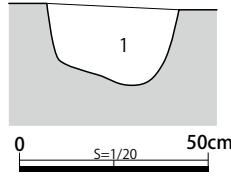
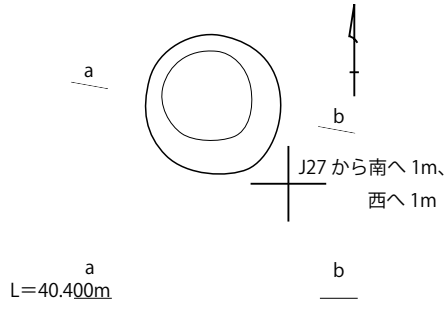


- 1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い、10YR5/4にぶい黄褐色砂質土φ0.3~0.5mmを3%、S15/2灰オリブ砂質土φ0.3mmを3%、炭φ0.1cmを1%、焼土φ0.2mmを1%含む。  
2 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土・シルト混じり(少) しまりやや強い粘性やや強い、10YR5/4にぶい黄褐色シルトφ0.3mmを3%、焼土φ0.2mmを1%含む。

第 358 図 1-2 区 SP1170 平断面図 (1/20)

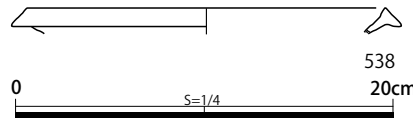


第 359 図 1-2 区 SP1170 出土遺物

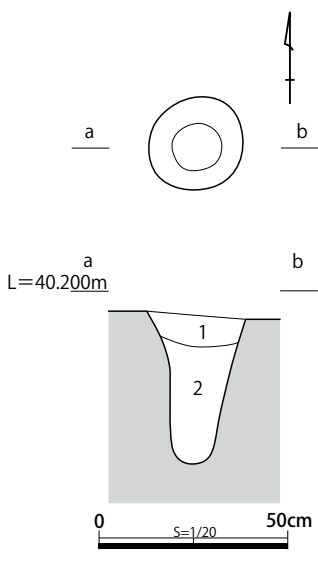
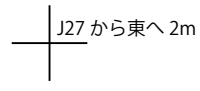


1 にぶい黄褐色 10YR 4/3 砂質土・シルト混じり(少) しまりや中強い粘性や中強い、S/S/2灰オリーブ砂質土φ0.2~0.3mmを7%、炭φ0.1mmを2%含む。

第 360 図 1-2 区 SP1171 平断面図 (1/20)

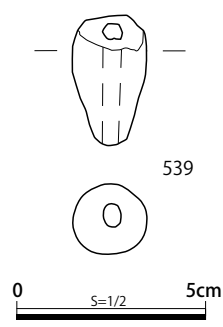


第 361 図 1-2 区 SP1171 出土遺物



1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土 しまりや中強い粘性や中強い、S/S/2灰オリーブ砂質土φ0.2mmを3%、炭φ0.1mmを1%含む。  
 2 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土・シルト混じり(多) しまり強い粘性強い、10YR4/3にぶい黄褐色砂質土φ0.2mmを2%、炭φ0.3~1mmを2%含む。

第 362 図 1-2 区 SP1179 平断面図 (1/20)



第 363 図 1-2 区 SP1179 出土遺物



212号小穴 (SP1212) (第366・367図)

**検出地点** I28 グリッド

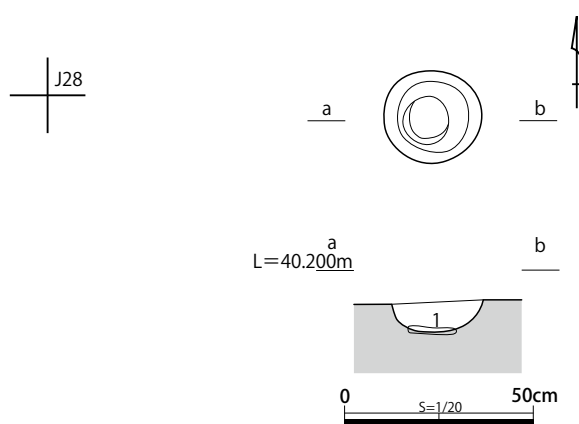
**規模・形態** 平面形状はほぼ円形を呈し、長軸は0.40m、短軸は0.37m、深さは0.31mを測る。断面に形状は丸底形である。

**土層** 灰黄褐色シルト混じり砂質土層が1層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

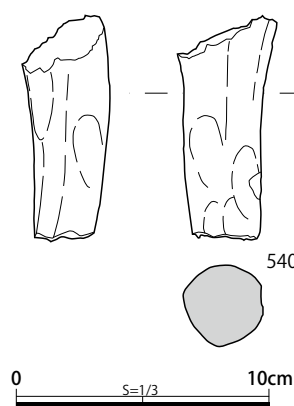
**出土遺物** 541は和泉型の瓦器椀である。

**時期** 出土した遺物から鎌倉時代(13世紀)以降の年代が想定される。

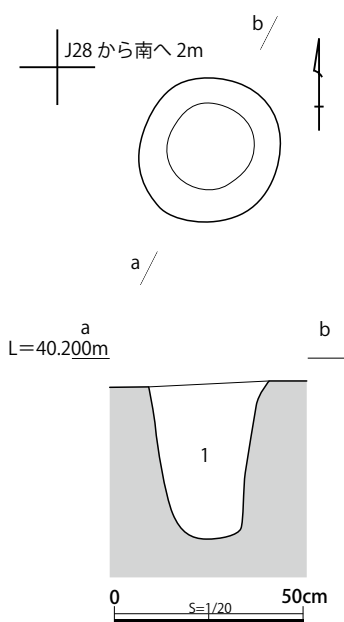


1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い、SIS/2灰オリ-ブ砂質土 $\rho$ 0.2cm $\times$ 5%、土層片ごくわずかに含む。

第364図 1-2区 SP1210 平断面図 (1/20)

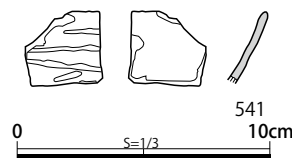


第365図 1-2区 SP1210 出土遺物

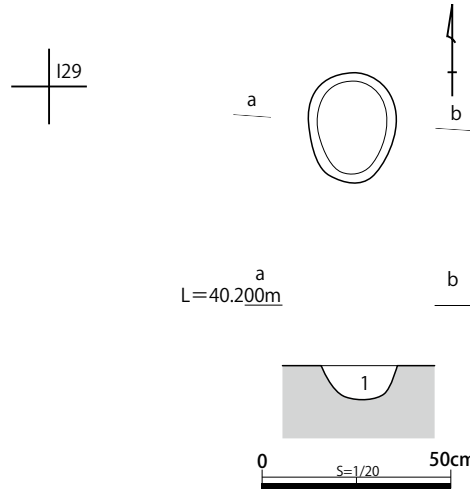


1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土・シルト混じり(砂) しまりやや弱い粘性やや強い、SIS/2灰オリ-ブ砂質土 $\rho$ 0.3~0.5cm $\times$ 2%、焼土 $\rho$ 0.1cm $\times$ 1%、礫 $\rho$ 0.2~0.3cm $\times$ 2%を含む。

第366図 1-2区 SP1212 平断面図 (1/20)

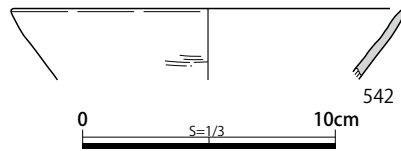


第367図 1-2区 SP1212 出土遺物

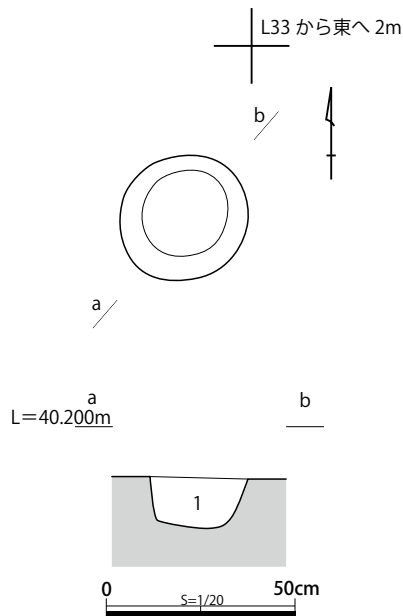


1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土 (しまりやや強い粘性やや弱い。S/S/2灰オリーブ砂質土φ0.2cmを2%、炭φ0.3cmを1%、礫φ0.1~0.2cmを2%含む)。

第 368 図 1-2 区 SP1248 平断面図 (1/20)

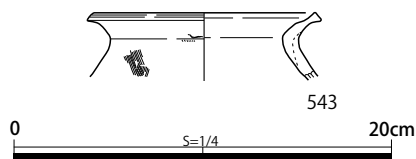


第 369 図 1-2 区 SP1248 出土遺物



1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土・シルト混じり(砂) (しまりやや弱い粘性やや強い。10YR3/2黒褐色シルトφ0.3cmを3%、S/S/2灰オリーブ砂質シルトφ0.3~0.5cmを3%、焼土φ0.3~1cmを2%含む)。

第 370 図 1-2 区 SP1323 平断面図 (1/20)



第 371 図 1-2 区 SP1323 出土遺物

248号小穴 (SP1248) (第368・369図)

検出地点 H・I29 グリッド

規模・形態 平面の形状は楕円形を呈し、長軸は0.30m、短軸は0.23m、深さは0.09mを測る。断面の形状は丸底形である。

土層 灰黄褐色砂質土層が1層である。

遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 542は和泉型の瓦器椀である。

時期 出土した遺物から鎌倉時代(13世紀)以降の年代が想定される。

323号小穴 (SP1323) (第370・371図)

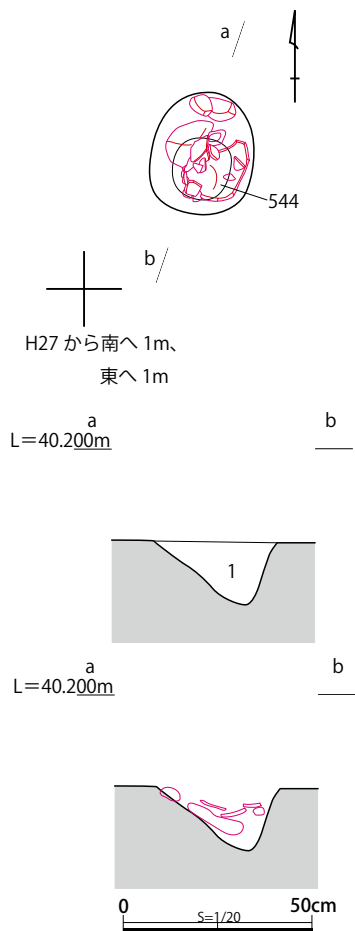
検出地点 K33 グリッド

規模・形態 平面の形状はほぼ円形を呈し、長軸は0.35m、短軸は0.33m、深さは0.14mを測る。断面の形状は舟底形である。

土層 灰黄褐色シルト混じり砂質土が1層である。

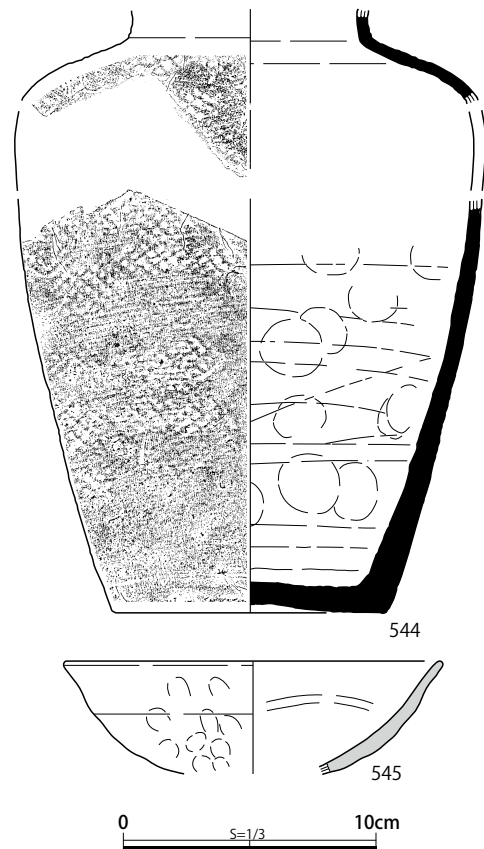
遺物出土状況 図化できるものはない。

出土遺物 543は弥生土器の甕である。

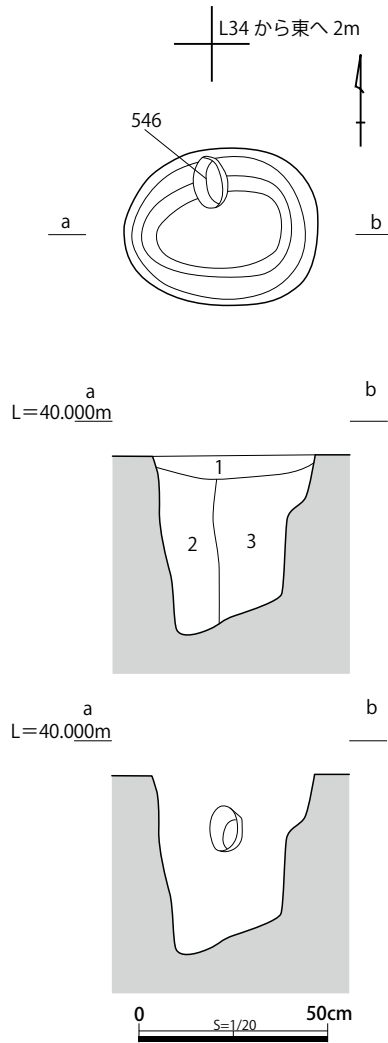


1 黄褐色 2.5Y 5/3 砂質土 しまり強い粘性強、5Y5/2灰オリブ砂質土φ0.2~0.3mmを3%、5Y4/1灰砂質シルトφ0.3mmを3%含む。

第372図 1-2区 SP1345 平断面図 (1/20)

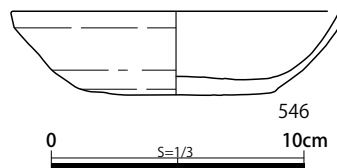


第373図 1-2区 SP1345 出土遺物



- 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/4 砂質土 しまり強い粘性弱い、2.5Y5/4黄褐色砂質土φ1~2cmを5%、炭φ0.2~2mmを5%、焼土φ0.2~1cmを5%を含む。  
 2 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土 しまり強い粘性やや強い、2.5Y5/4黄褐色砂質土φ1~1.5cmを10%、5Y5/2灰オリーブ砂質土φ0.2~0.5cmを5%、炭φ0.5~1cmを10%含む。  
 3 オリーブ褐色 2.5Y 4/6 砂質土 しまり強い粘性やや強い、2.5Y5/4黄褐色砂質土φ1~1.5cmを10%含む。

第 374 図 1-2 区 SP1371 平断面図 (1/20)



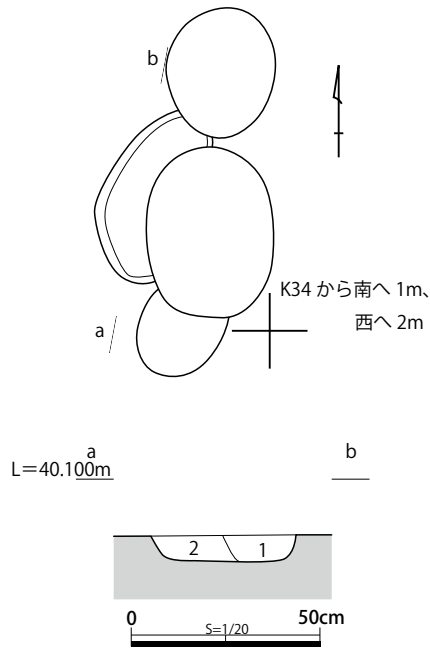
第 375 図 1-2 区 SP1371 出土遺物

**時期** 出土した遺物から弥生時代終末期～古墳時代初頭以降の年代が想定される。

345 号小穴 (SP1345) (第 372・373 図)

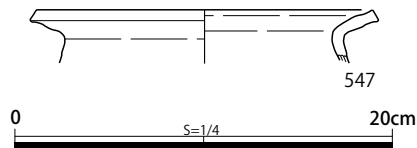
**検出地点** G27 グリッド

**規模・形態** 平面の形状は楕円形を呈し、長軸は 0.32m、短軸は 0.26m、深さは 0.15m を測る。断面の形状は楕鉢形である。



- 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/4 砂質土 しまり強い粘性弱い、2.5Y6/4に20%黄砂質土φ0.2~0.5cmを5%、炭φ0.1~0.5cmを3%、礫φ0.5~3cmを10%を含む。  
 2 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土 しまり強い粘性やや弱い、5Y5/2灰オリーブ砂質土φ0.2~0.5cmを10%、礫φ0.5~2cmを5%を含む。

第 376 図 1-2 区 SP1391 平断面図 (1/20)



第 377 図 1-2 区 SP1391 出土遺物

**土層** 黄褐色砂質土層が 1 層である。

**遺物出土状況** 底部に扁平な砂岩礫が置かれており、その上方から土器が出土している。

**出土遺物** 544 は十瓶窯の須恵器の壺である。545 は瓦器の椀である。

**時期** 出土した遺物から鎌倉時代（13 世紀）以降の年代が想定される。

### 371 号小穴（SP1371）（第 374・375 図）

**検出地点** K33 グリッド

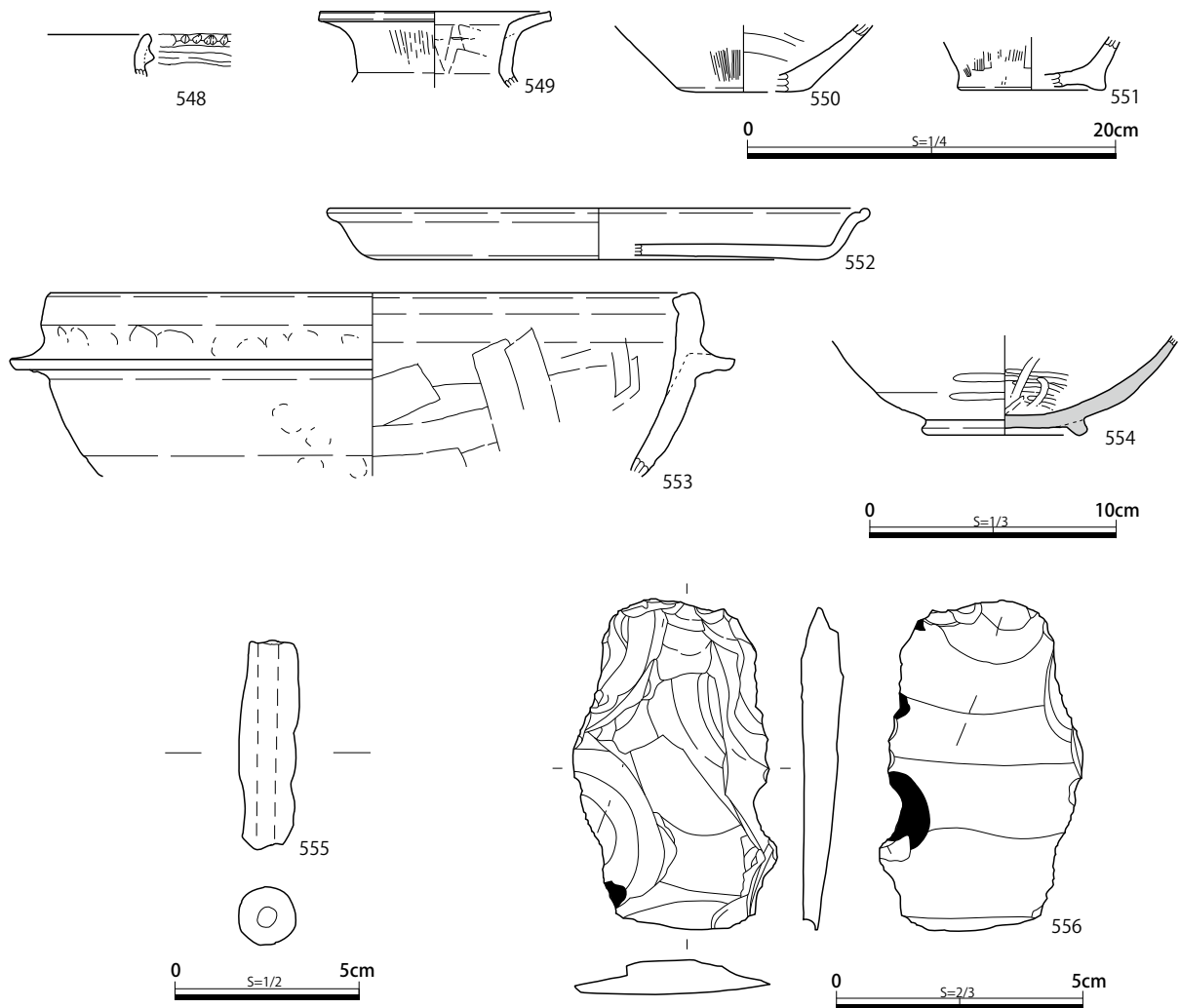
**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.50m、短軸は 0.42m、深さは 0.48m を測る。断面の形状は 2 段形である。

**土層** 何れもオリーブ褐色砂質土層で 3 層に分層される。

**遺物出土状況** 1 層下から土器が出土している。

**出土遺物** 546 は土師質土器の杯である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

**時期** 出土した遺物から平安時代末（12 世紀）以降の年代が想定される。



第 378 図 1-2 区包含層出土遺物①

391 号小穴 (SP1391) (第 376・377 図)

**検出地点** J33 グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈するとみられ、東側を SP1312、SP1313 に切られている。残存値で長軸は 0.45m、短軸は 0.15m、深さは 0.06 m を測る。断面の形状は皿形である。

**土層** オリーブ褐色砂質土層が 2 層に分層される。

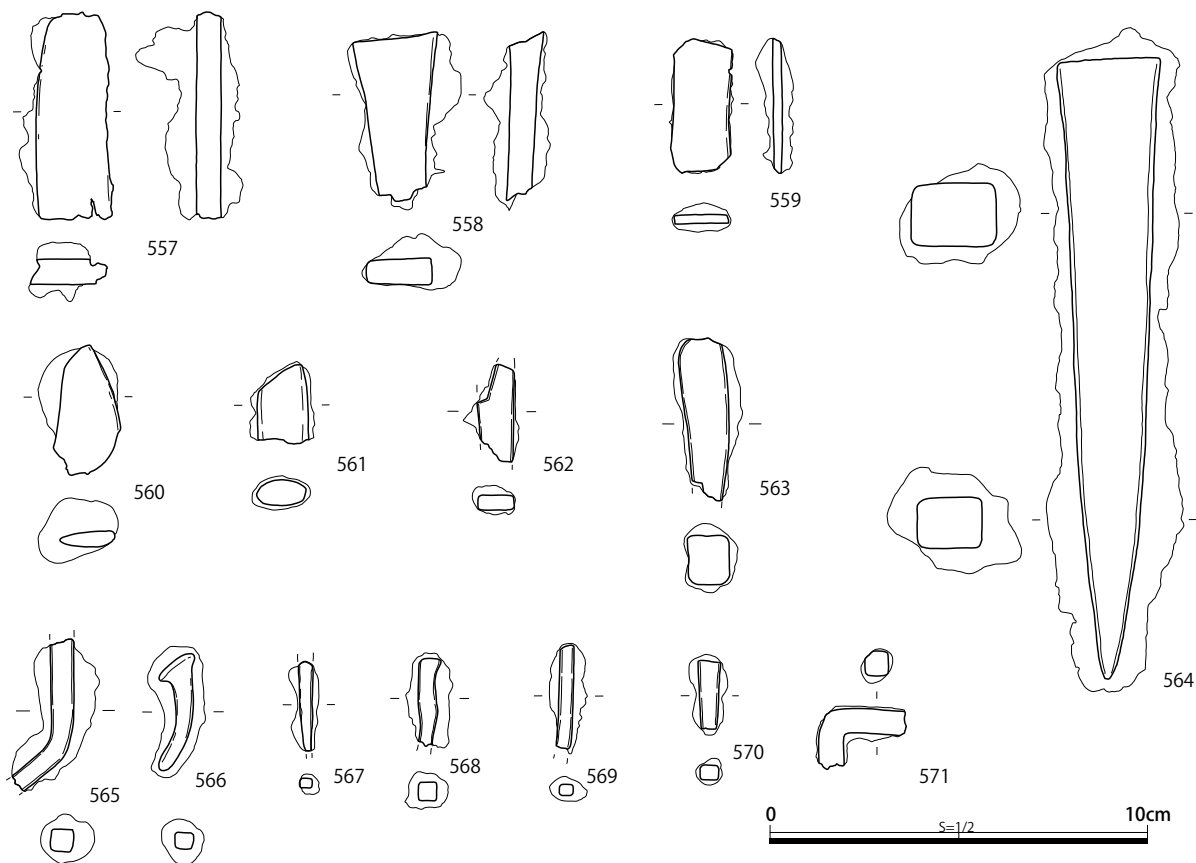
**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 547 は弥生土器の甕である。

**時期** 出土した遺物から弥生時代後期後半以降の年代が想定される。

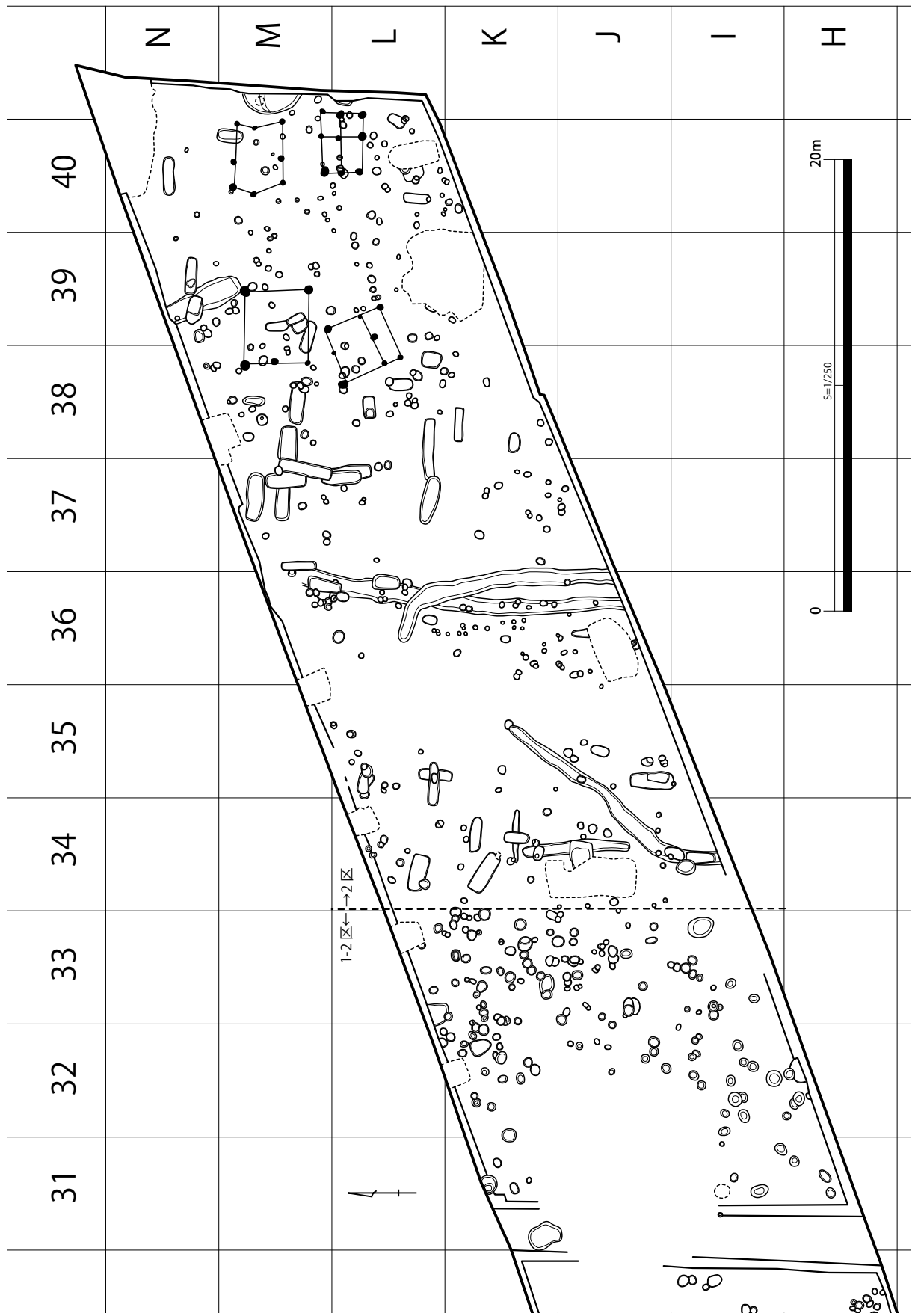
包含層出土遺物 (第 378・379 図)

548 は縄文土器で、端部には刻み目、口縁部下に 1 条の凸帯をめぐらしている晩期の凸帯文土器である。549～551 は弥生土器。549 は讃岐地方からの搬入品の広口壺である。552 は土師器の皿、口縁部内面に沈線をもつ 9 世紀頃のものである。553 は土師質土器の羽釜である。14 世紀頃のもののみ



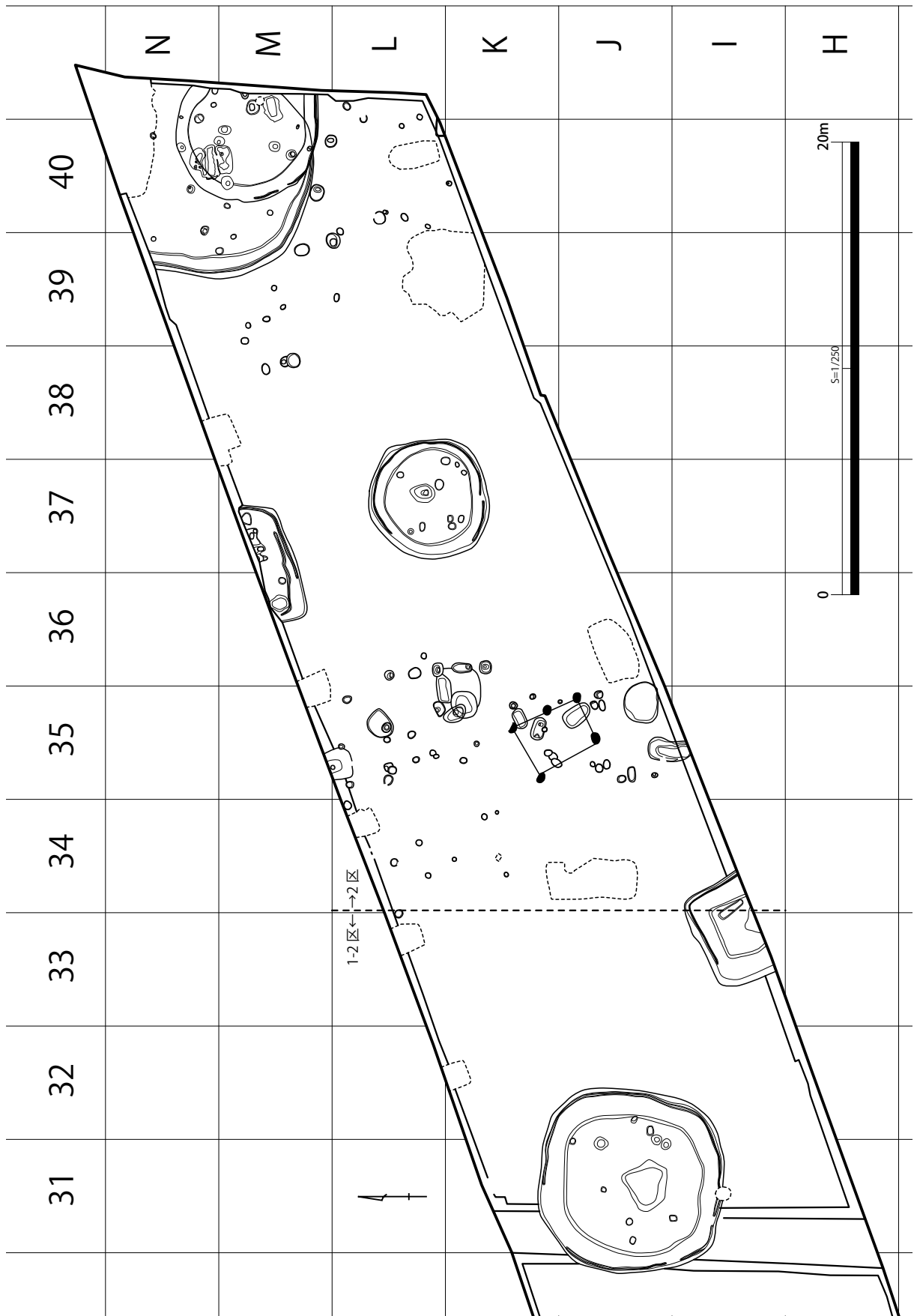
第 379 図 1-2 区包含層出土遺物②

られる。554 は瓦器の椀、12 世紀前半頃とみられる。555 は管状の土錘である。556 はサヌカイト製の剥片である。557 ～ 571 は鉄製品。557 ～ 562 は刀子である。563 は断面が四角形の用途不明鉄製品である。564 は杭状の鉄製品である。565 ～ 570 は釘である。571 は鋸とみられる。

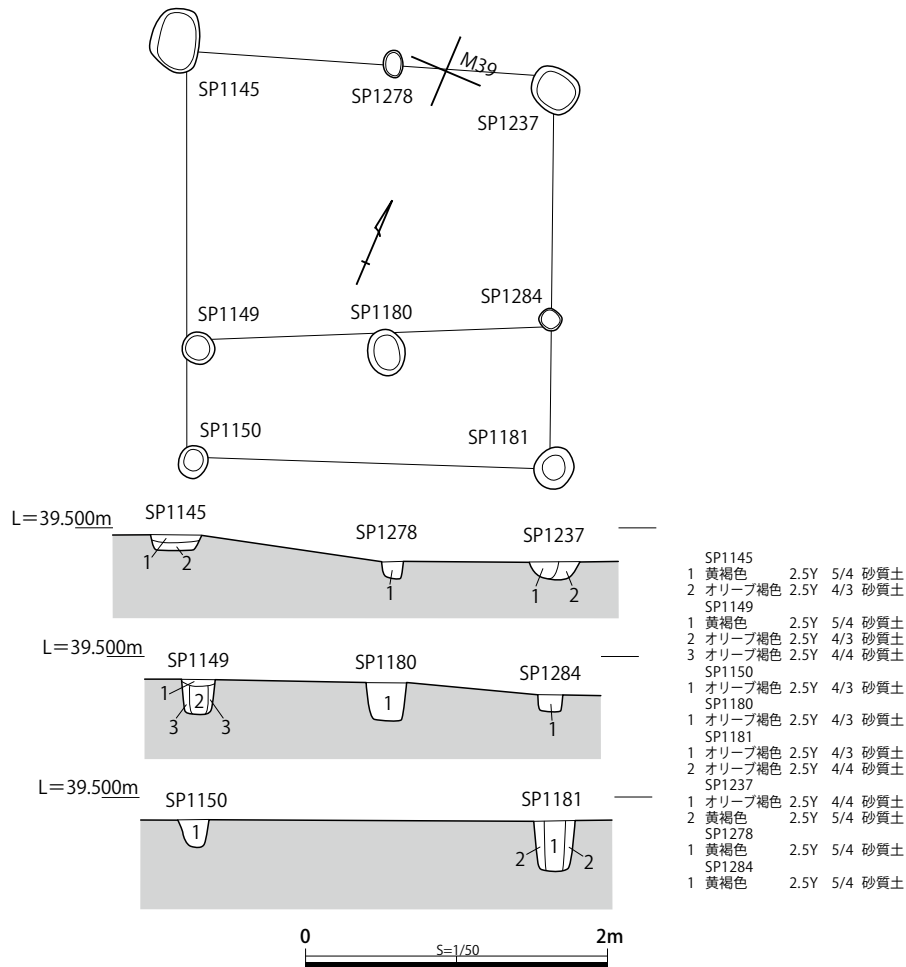


第380図 2区第1a遺構面平面図 (1/250)





第381图 2区第1b遺構面平面図 (1/250)



第 382 図 2 区 SA1001 平断面図 (1/50)

(7) 2 区 (第 380・381 図)

1-2 区の文中でも述べているが便宜上 33・34 のグリッドラインを調査区境として報告を行う。2 区から検出された遺構は、掘立柱建物 (SA) が 5 軒、竪穴住居 (SB) が 4 軒、溝 (SD) が 5 条、土坑 (SK) が 53 基、小穴 (SP) が 412 基、焼土跡が (SH) 1 基、性格不明遺構 (SX) が 4 基となっている。遺構は主に中世の遺構が 1a 面で検出されており、弥生時代の遺構が 1b 面で検出されている。

1 号掘立柱建物 (SA1001) (第 382 図)

**検出地点** L・M38・39 グリッド

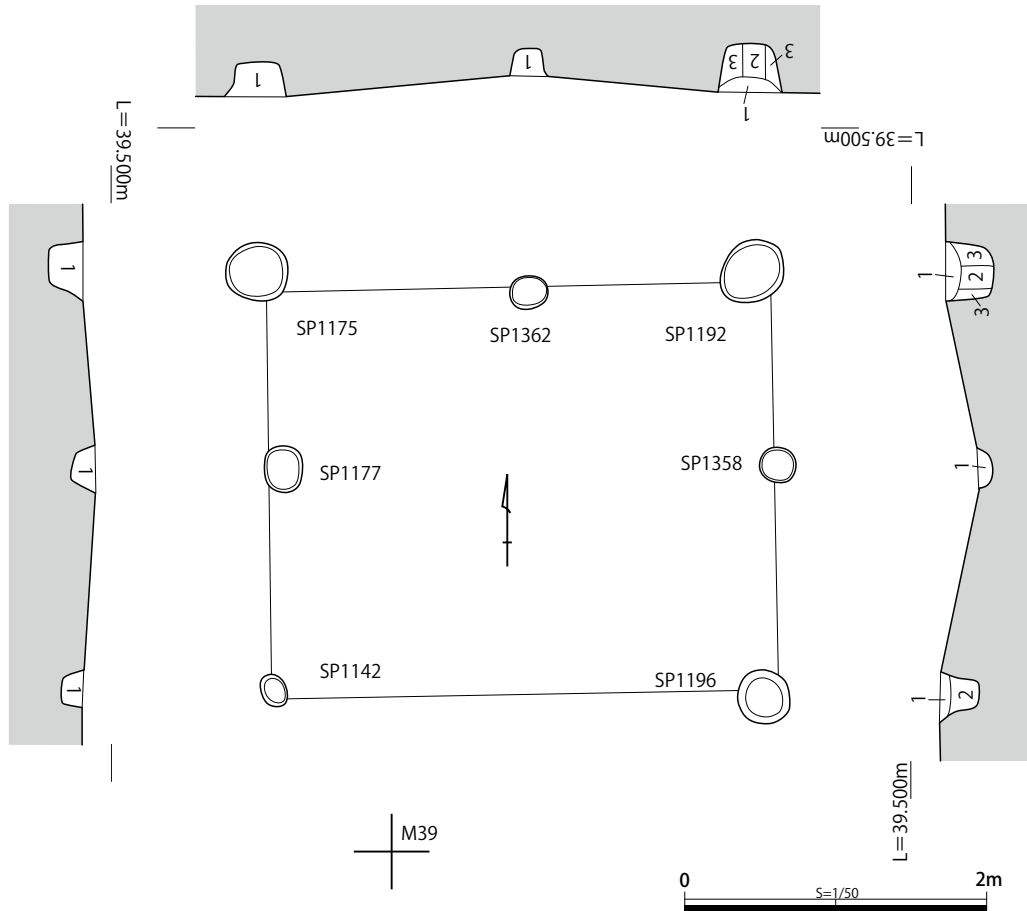
**規模・形態** 梁間 1 間 (2.40m) × 桁行 2 間 (2.65m)、床面積 6.36㎡の側柱建物で、南側に庇が付いている。建物の主軸方向は N - 23° - W である。

**土層** 何れも砂質土で黄褐色砂質土層やオリーブ褐色砂質土層が 1 ~ 3 層に分層される。

**遺物出土状況** 図化できるものはないが、SP1237 から遺物が出土している。

**出土遺物** 個別遺構にて後述。

**時期** 建物の主軸方位などから中世以降の年代が想定される。



- SP1142
- 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土
- SP1175
- 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土
- SP1177
- 1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土
- SP1192
- 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土
- 2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土
- 3 オリーブ褐色 2.5Y 4/6 砂質土
- SP1196
- 1 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土
- 2 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土
- SP1358
- 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/6 砂質土
- SP1362
- 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/6 砂質土

第 383 図 2 区 SA1002 平断面図 (1/50)

2号掘立柱建物 (SA1002) (第 383 図)

**検出地点** M38・39 グリッド

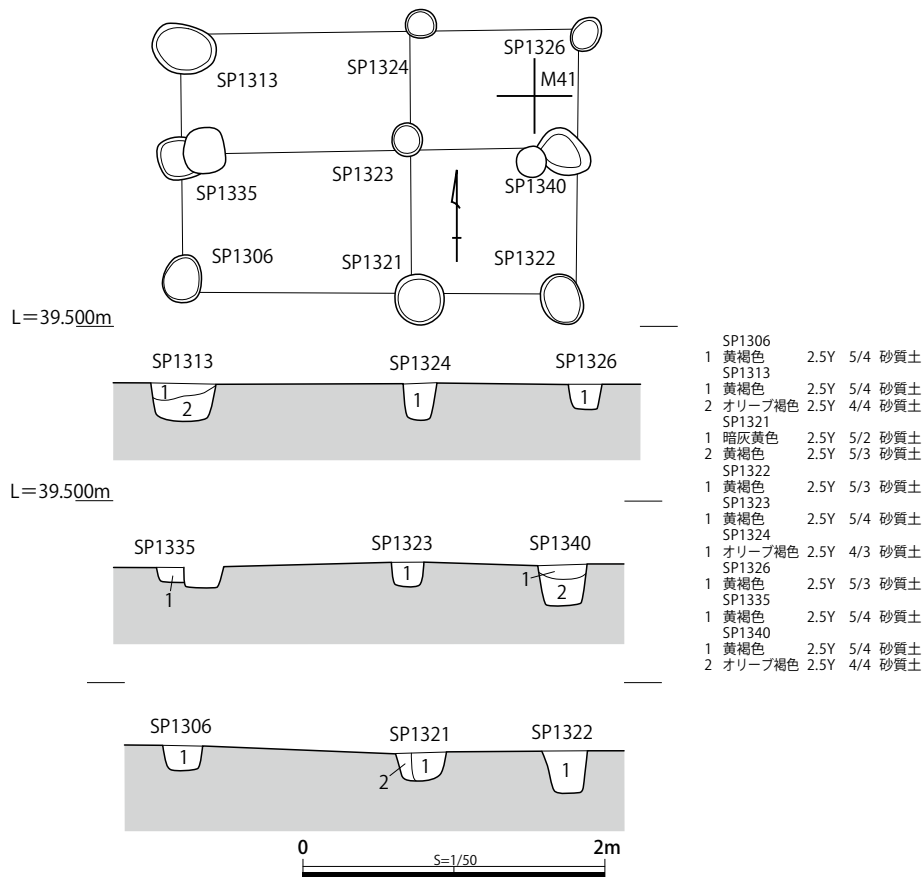
**規模・形態** 梁間 2 間 (2.70m) × 桁行 2 間 (3.35m)、床面積 9.05m<sup>2</sup>の側柱建物である。建物の主軸方向は N - 90° - W である。

**土層** オリーブ褐色砂質土層を中心として 1 ~ 3 層に分層される。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 図化可能な遺物は出土していない。

**時期** 建物の主軸方位などから中世以降の年代が想定される。



第 384 図 2 区 SA1003 平断面図 (1/50)

### 3 号掘立柱建物 (SA1003) (第 384 図)

**検出地点** L・M40・41

**規模・形態** 梁間 2 間 (1.73m) × 桁行 2 間 (2.70m)、床面積 4.67m<sup>2</sup>の総柱建物である。建物の主軸方向は N - 90° - W である。

**土層** 黄褐色砂質土層を中心として 1 ~ 2 層に分層される。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 図化可能な遺物は出土していない。

**時期** 建物の主軸方位などから中世以降の年代が想定される。

### 4 号掘立柱建物 (SA1004) (第 385 図)

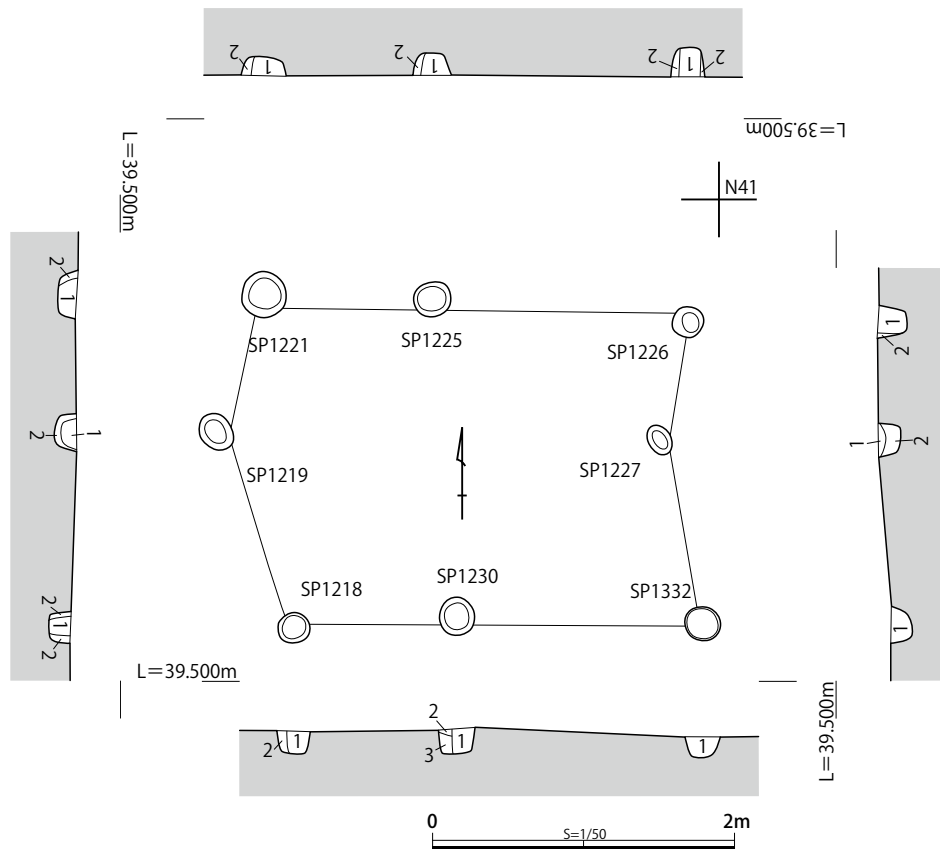
**検出地点** M40 グリッド

**規模・形態** 梁間 2 間 (2.10m) × 桁行 2 間 (2.85m)、床面積 5.99m<sup>2</sup>の側柱建物である。建物の主軸方向は N - 90° - W である。

**土層** 黄褐色砂質土層とオリーブ褐色砂質土層が 1 ~ 3 層に分層される。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 図化可能な遺物は出土していない。



SP1218				
1	オリーブ褐色	2.5Y	4/3	砂質土
2	オリーブ褐色	2.5Y	4/6	砂質土
SP1219				
1	オリーブ褐色	2.5Y	4/3	砂質土
2	オリーブ褐色	2.5Y	4/3	砂質土
SP1221				
1	黄褐色	2.5Y	5/4	砂質土
2	オリーブ褐色	2.5Y	4/3	砂質土
SP1225				
1	黄褐色	2.5Y	5/4	砂質土
2	黄褐色	2.5Y	5/3	砂質土
SP1226				
1	暗灰黄色	2.5Y	5/2	砂質土
2	黄褐色	2.5Y	5/3	砂質土
SP1227				
1	黄褐色	2.5Y	5/4	砂質土
2	黄褐色	2.5Y	5/3	砂質土
SP1230				
1	黄褐色	2.5Y	5/4	砂質土
2	オリーブ褐色	2.5Y	4/4	砂質土
3	黄褐色	2.5Y	5/3	砂質土
SP1332				
1	黄褐色	2.5Y	5/4	砂質土

灰オリーブ5Y5/2砂質土を5%含む。

第 385 図 2 区 SA1004 平断面図 (1/50)

**時期** 建物の主軸方位などから中世以降の年代が想定される。

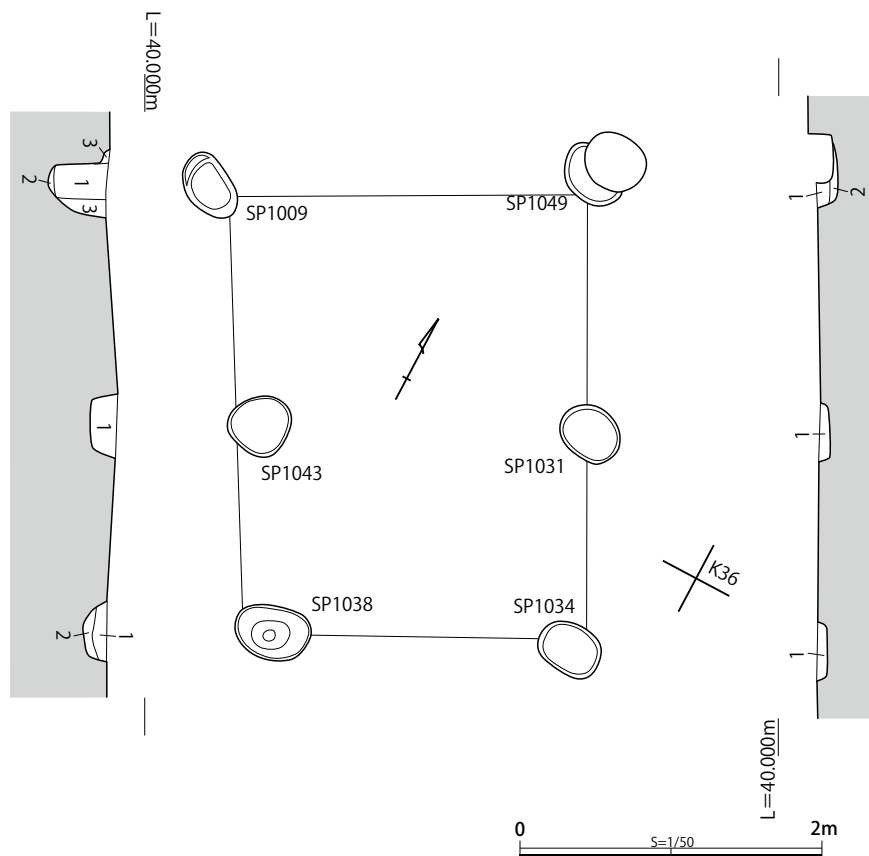
5号掘立柱建物 (SA1005) (第 386 図)

**検出地点** J・K35 グリッド

**規模・形態** 梁間1間 (2.35m) × 桁行2間 (2.95m)、床面積 6.93㎡の側柱建物である。建物の主軸方向は N - 31° - W である。

**土層** 灰黄色砂質土層を中心として 1 ~ 3 層に分層される。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。



- |        |        |      |     |     |        |
|--------|--------|------|-----|-----|--------|
| SP1009 |        |      |     |     |        |
| 1      | 暗灰黄色   | 2.5Y | 5/2 | 砂質土 | 炭化物含む。 |
| 2      | 灰黄色    | 2.5Y | 6/2 | 砂質土 |        |
| 3      | 暗灰黄色   | 2.5Y | 5/2 | 砂質土 |        |
| SP1031 |        |      |     |     |        |
| 1      | 灰黄色    | 2.5Y | 6/2 | 砂質土 |        |
| SP1034 |        |      |     |     |        |
| 1      | 灰黄色    | 2.5Y | 6/2 | 砂質土 |        |
| SP1038 |        |      |     |     |        |
| 1      | 灰黄色    | 2.5Y | 6/2 | 砂質土 |        |
| 2      | にぶい黄色  | 2.5Y | 6/3 | 砂質土 |        |
| SP1043 |        |      |     |     |        |
| 1      | オリーブ褐色 | 2.5Y | 4/3 | 砂質土 |        |
| SP1049 |        |      |     |     |        |
| 1      | 灰黄色    | 2.5Y | 6/2 | 砂質土 |        |
| 2      | にぶい黄色  | 2.5Y | 6/3 | 砂質土 |        |

第 386 図 2 区 SA1005 平断面図 (1/50)

**出土遺物** 図化可能な遺物は出土していない。

**時期** 建物の主軸方位などから中世以降の年代が想定される。

### 1 号竪穴住居 (SB1001) (第 387 ~ 390 図)

**検出地点** M36・37 グリッド

**規模・形態** 平面形状は隅丸方形を呈するとみられるが、北側は調査区外に延びている。残存値で長軸は 5.44m、短軸は 1.55m、深さは 0.51m を測る。断面の形状は舟底形である。調査区北壁やや東寄りに炉 (EH) が 1 基確認されており、その他に柱穴 (EP) が 1 基、土坑 (EK) が 2 基検出されている。また壁際には周溝 (ED) 2 条が巡らされている。

**土層** 何れも砂質土層が 20 層に分層される。灰黄褐色砂質土層を中心に堆積しており、床面直上においては黒褐色砂質土層が中心となっている。

**遺物出土状況** 炉（EK1）および土坑（EK2）周辺の床面直上から土器や砂岩礫などがまとめて出土している。

**出土遺物** 572～586は弥生土器。572は細頸壺である。573～580は甕である。581～583は鉢で椀形やボウル形のものがある。584～586は高杯である。587は被熱した粘土塊、588は管状の土錘である。589は砂岩製の砥石である。

**時期** 出土した遺物から弥生時代終末期～古墳時代初頭の年代が想定される。

## 2号竪穴住居（SB1002）（第391～402図）

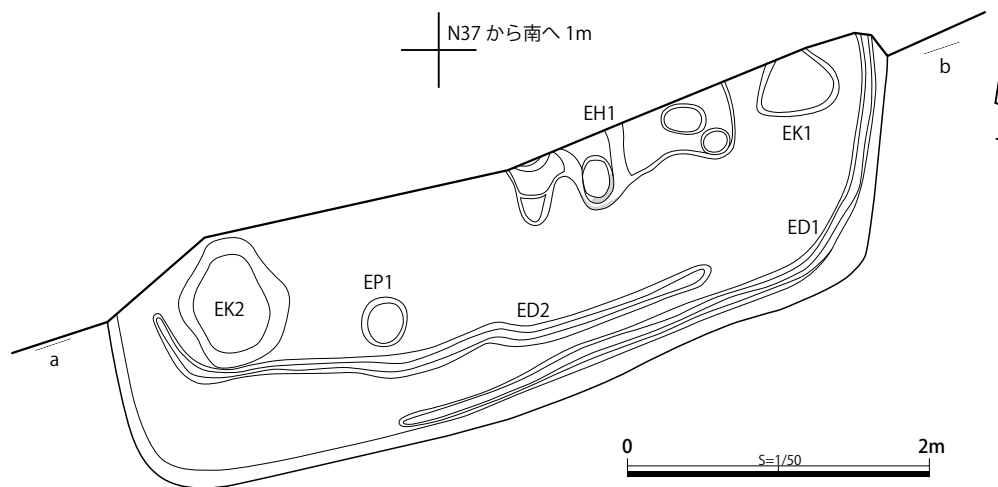
**検出地点** K・L37・38グリッド

**規模・形態** 平面形状はほぼ円形を呈し、長軸は5.32m、短軸は5.24m、深さは0.38mを測る。断面の形状は舟底形である。柱穴（EP）は床面の外周部より内側から10基検出されている。また炉（EH）は中央やや北寄りから1基検出されている。壁際には周溝（ED）が巡らされている。

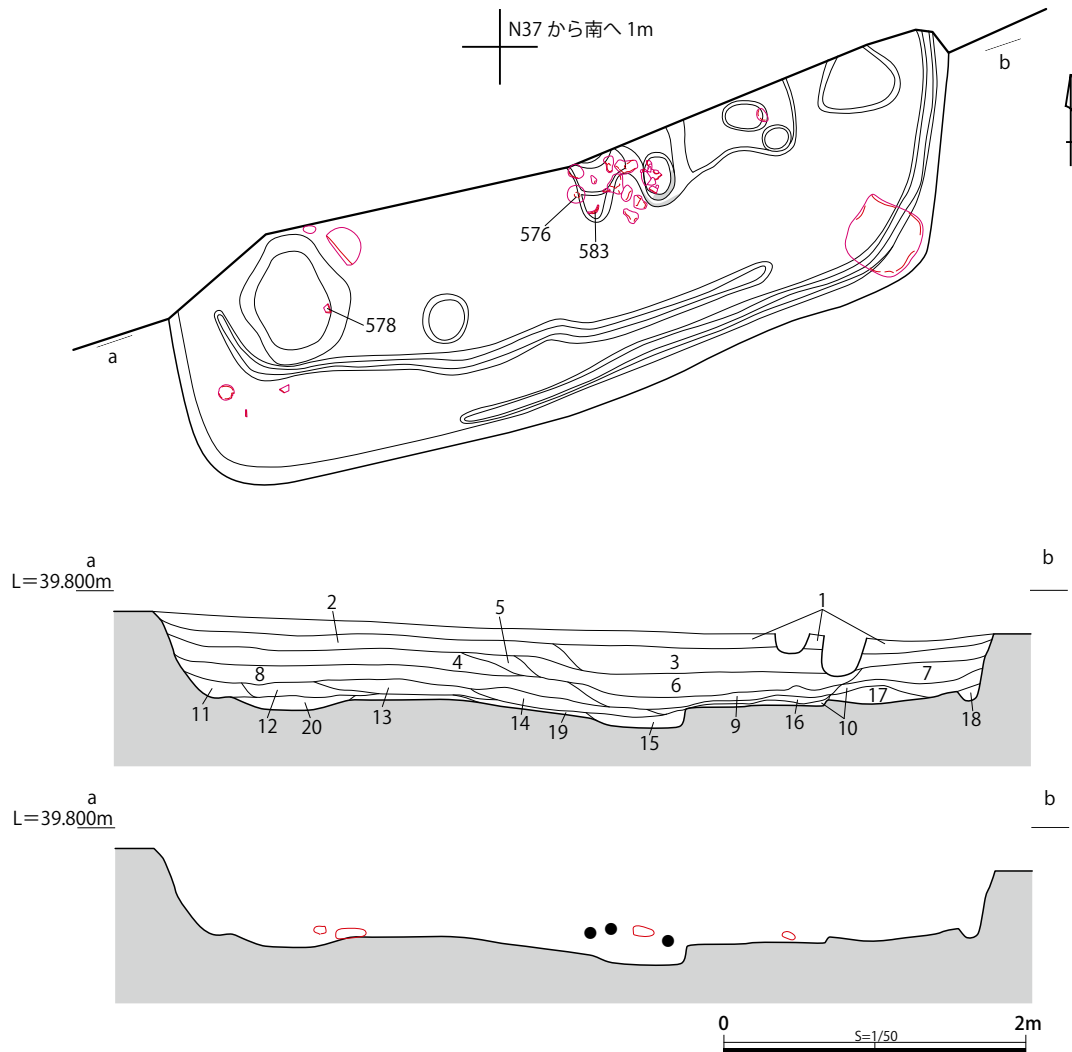
**土層** 何れも砂質土層で10層に分層される。壁際斜面にはオリブ褐色砂質土層が堆積し、その後上層には黄褐色砂質土、下層には暗褐色砂質土が堆積している。

**遺物出土状況** 炉（EH）周辺及び南側の壁沿い周辺の床面を中心として土器が検出されている。また大型の砂岩の扁平な礫が壁沿いから出土している。

**出土遺物** 590～676は弥生土器。590～616は壺である。590、591、593、594は二重口縁壺、592、595～599は広口壺である。また601～606は細頸壺である。604～606は讃岐からの搬入品とみられる。617～659は甕である。617～623は口縁部が緩やかにカーブを描いて外反するもの、624～630は口縁部がくの字に屈曲するもの、631～639は口縁端部がやや拡張されるものである。629、632、634、635、637、644、645は讃岐からの搬入品とみられる。660～666は鉢である。660～662は口縁が外反するもの、663は緩やかに内湾しながら立ち上がるものである。666は把手付きの鉢で讃岐からの搬入品である。667から671は高杯の脚部である。672は手捏ね土器。673～676は製塩土器で676は東讃地域のものと考えられる。677は土玉。678、679は紡錘車である。



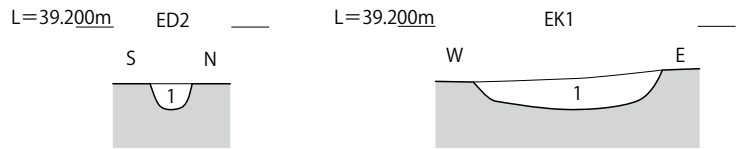
第387図 2区SB1001平面図(1/50)



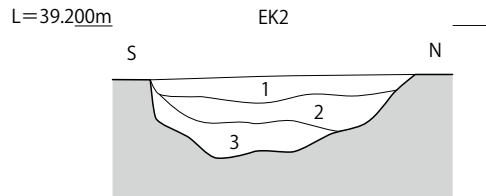
- |    |        |          |     |   |
|----|--------|----------|-----|---|
| 1  | にぶい黄褐色 | 10YR 5/3 | 砂質土 | しまりやや強い粘性弱い、2.5Y 4/1黄灰色砂質土 φ0.3~0.5cmを5%、礫φ0.3~0.5cmを3%、炭φ0.2cmを1%含む。   |
| 2  | 灰黄褐色   | 10YR 4/2 | 砂質土 | しまりやや強い粘性弱い、2.5Y 5/2暗灰黄色砂質土 φ0.3cmを5%、礫φ0.5~1cmを2%、炭φ0.2cmを3%、焼土φ0.1cmを1%含む。  |
| 3  | 灰黄褐色   | 10YR 4/2 | 砂質土 | しまりやや強い粘性弱い、10YR 5/3にぶい黄褐色砂質土 φ0.5~1cmを3%、10YR4/1暗灰色砂質土 φ0.3~0.5cmを5%、礫φ1cm~こぶし大を1%、焼土φ0.2~0.3cmを2%、炭φ0.1~0.2cmを2%含む。 |
| 4  | 灰黄褐色   | 10YR 4/2 | 砂質土 | しまり強い粘性弱い、10YR 5/3にぶい黄褐色砂質土 φ0.5~1cmを5%、焼土φ0.2~0.3cmを1%含む。  |
| 5  | 灰黄褐色   | 10YR 4/2 | 砂質土 | しまり強い粘性弱い、10YR 5/3にぶい黄褐色砂質土 φ0.5~1cmを7%、炭φ0.2cmを1%含む。   |
| 6  | 黒褐色    | 10YR 3/1 | 砂質土 | しまりやや弱い粘性やや弱い、炭φ0.2~0.3cm2%、焼土φ0.1cm2%含む。   |
| 7  | 灰黄褐色   | 10YR 4/2 | 砂質土 | しまり強い粘性弱い、10YR 5/3にぶい黄褐色砂質土 φ0.5~1cmを5%、10YR 5/4にぶい黄褐色砂質土 φ0.5cmを2%、炭φ0.2cmを1%含む。                                     |
| 8  | 灰黄褐色   | 10YR 4/2 | 砂質土 | しまり強い粘性弱い、2.5Y 5/2暗灰黄色砂質土 φ0.3~0.5cmを3%、10YR 5/4にぶい黄褐色砂質土 φ0.3cmを2%、焼土φ0.2cmを2%、炭φ0.2cmを1%含む。                         |
| 9  | 黒褐色    | 10YR 3/1 | 砂質土 | しまりやや強い粘性弱い、10YR 5/4にぶい黄褐色砂質土 φ0.3cmを3%、2.5Y 5/2暗灰黄色砂質土 φ0.3cmを5%、炭φ0.2cmを1%含む。                                       |
| 10 | 黒褐色    | 10YR 3/1 | 砂質土 | しまりやや強い粘性弱い、2.5Y6/2灰黄色砂質土 φ0.3cmを3%、10YR5/4にぶい黄褐色砂質土 φ0.3cmを1%、焼土φ0.3cmを2%、炭φ0.2cmを1%含む。                              |
| 11 | 灰黄褐色   | 10YR 4/2 | 砂質土 | しまりやや強い粘性弱い、10YR5/3にぶい黄褐色砂質土 φ0.3~0.5cmを5%を含む。  |
| 12 | 灰黄褐色   | 10YR 4/2 | 砂質土 | しまりやや強い粘性弱い、10YR5/3にぶい黄褐色砂質土 φ0.3~0.5cmを5%、炭φ0.2cmを1%含む。  |
| 13 | 灰黄褐色   | 10YR 4/2 | 砂質土 | しまり強い粘性弱い、10YR5/3にぶい黄褐色砂質土 φ0.5~0.1cmを1%、炭φ0.2~0.3cmを1%含む。  |
| 14 | 灰黄褐色   | 10YR 4/2 | 砂質土 | しまりやや強い粘性弱い、2.5Y6/2灰黄色砂質土 φ0.3cmを5%、10YR5/4にぶい黄褐色砂質土 φ0.3cmを2%、炭φ0.1cmを1%含む。  |
| 15 | 黒褐色    | 10YR 3/1 | 砂質土 | しまりやや強い粘性弱い、10YR5/4にぶい黄褐色砂質土 φ0.3cmを2%、焼土φ0.1cmを2%含む。   |
| 16 | 黒褐色    | 10YR 3/1 | 砂質土 | しまりやや強い粘性やや弱い、10YR5/3にぶい黄褐色砂質土 φ0.3cmを2%、焼土φ0.2cmを3%含む。   |
| 17 | にぶい黄褐色 | 10YR 5/4 | 砂質土 | しまり強い粘性弱い、10YR3/1黒褐色砂質土 φ0.3cmを5%、2.5Y 5/2暗灰黄色砂質土 φ0.3cmを3%、炭φ0.2cmを1%含む。   |
| 18 | 灰黄褐色   | 10YR 4/2 | 砂質土 | しまりやや強い粘性弱い。  |
| 19 | 黒褐色    | 10YR 3/1 | 砂質土 | しまりやや強い粘性やや弱い、10YR5/3にぶい黄褐色砂質土 φ0.3~0.5cmを5%、炭φ0.2cmを1%含む。  |
| 20 | 灰黄褐色   | 10YR 4/2 | 砂質土 | しまりやや強い粘性弱い、2.5Y 5/4黄褐色砂質土 φ0.3~0.5cmを2%、炭φ0.1cmを1%含む。  |

第 388 図 2 区 SB1001 平断面図 (1/50)

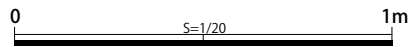




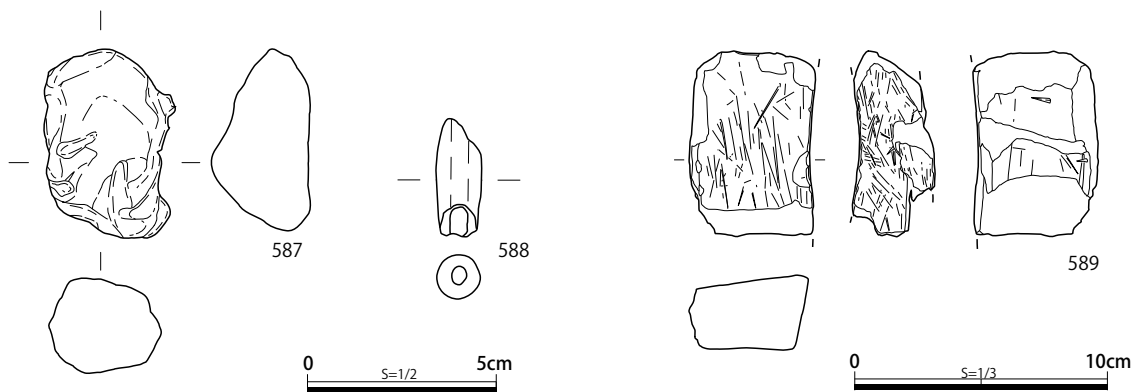
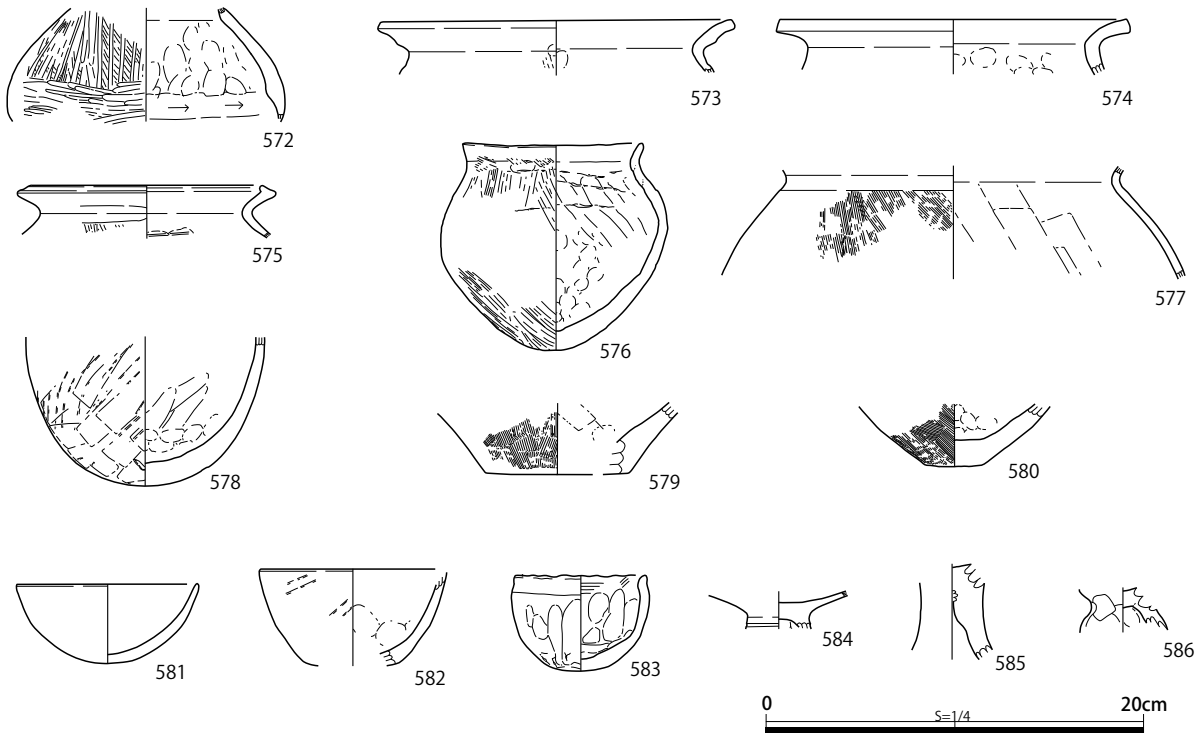
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土 しまり強い粘性弱い。 1 黒褐色 10YR 3/2 砂質土 しまりやや強い粘性弱い。



1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土 しまり強い粘性弱い。  
 2 灰色 5Y 4/1 粗砂 しまり弱い粘性弱い。  
 3 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土 しまりやや弱い粘性弱い。



第 389 図 2 区 SB1001ED・EK 断面図 (1/20)



第 390 図 2 区 SB1001 出土遺物

680 は被熱した粘土塊、681 は羽口の可能性が考えられる。682 から 686 はサヌカイトの剥片である。687 は結晶片岩製の石庖丁である。688、689 は砂岩製の敲石である。690 は砂岩製の石製円盤である。691 ～ 694 は砂岩製の台石である。

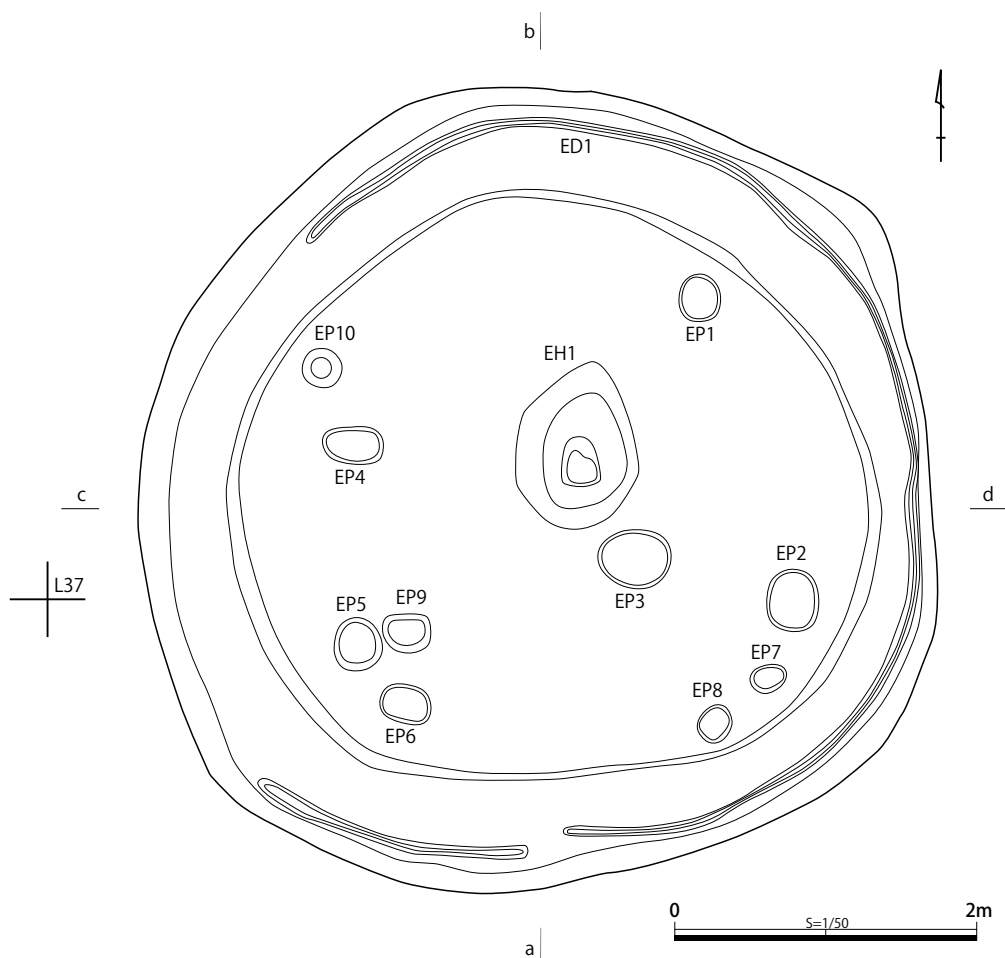
**時期** 出土した遺物から弥生時代終末期～古墳時代初頭の年代が想定される。

### 3号竪穴住居 (SB1003) (第 403～413 図)

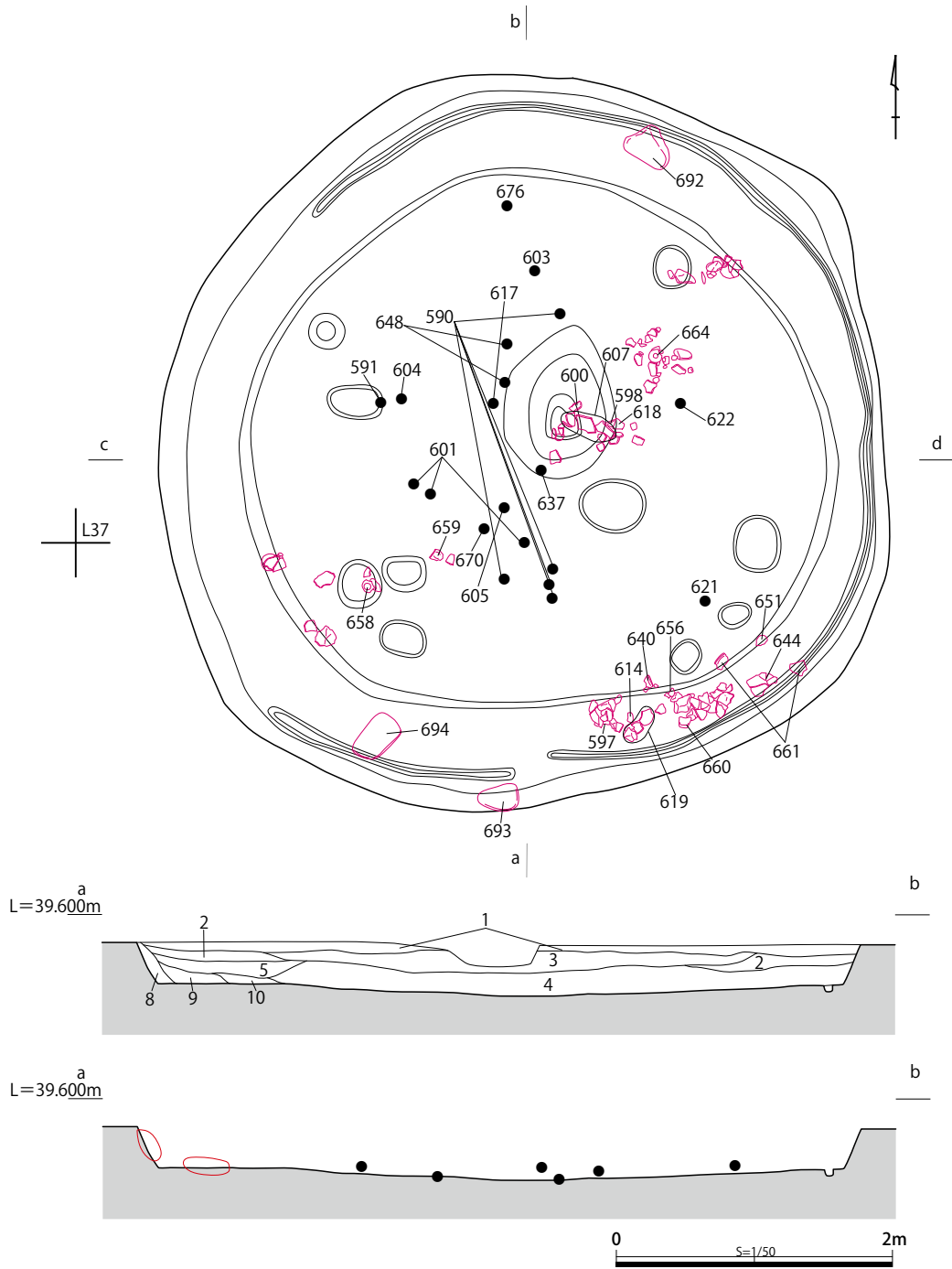
**検出地点** M・N39・40・41 グリッド

**規模・形態** 平面形状は円形を呈するとみられるが、北側及び東側は調査区外に延びている。残存値で東西は 8.45m、南北は 7.11m、深さは 0.60m を測る。断面の形状は外縁部にベッド状の高まりがある 2 段形である。柱穴 (EP) は 16 基検出されており、炉 (EH) は中央と北寄りに併せて 2 基が検出されている。壁際には周溝 (ED) が巡らされている。

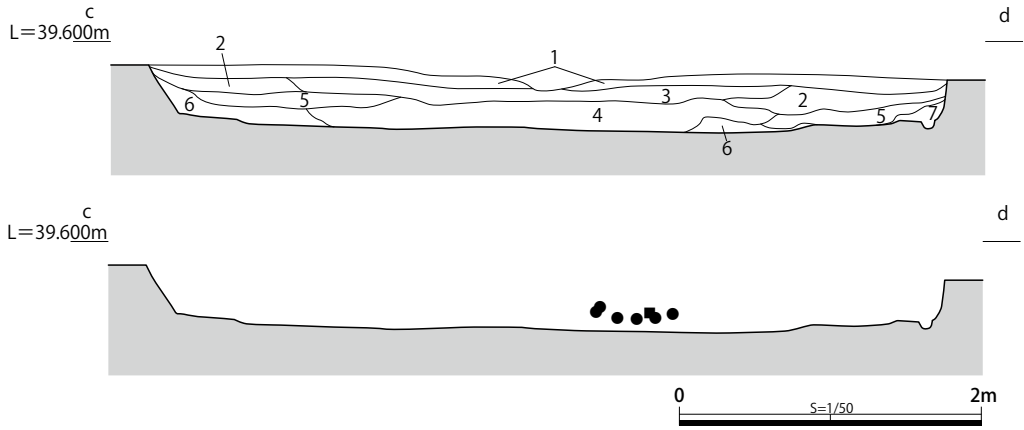
**土層** 何れも砂質土層で 15 層に分層される。壁際斜面は黄褐色砂質土層が堆積し、上部も途中で暗褐色砂質土層を挟みながらオリーブ褐色砂質土などが堆積している。床面付近の下層には暗褐色砂質土が存在している。また中央部に位置する EH1 は鍛冶炉と考えられる。検出面上面には焼土が全面を覆うように拡がっており、木炭が上面及び周囲に分布している。EH1 は 19 層に分層され、10 層はカー



第 391 図 2 区 SB1002 平面図 (1/50)

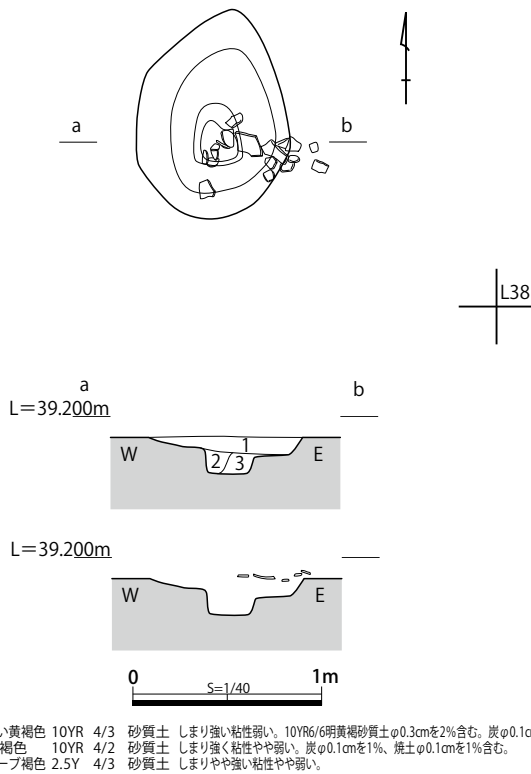


第 392 图 2 区 SB1002 平断面图① (1/50)



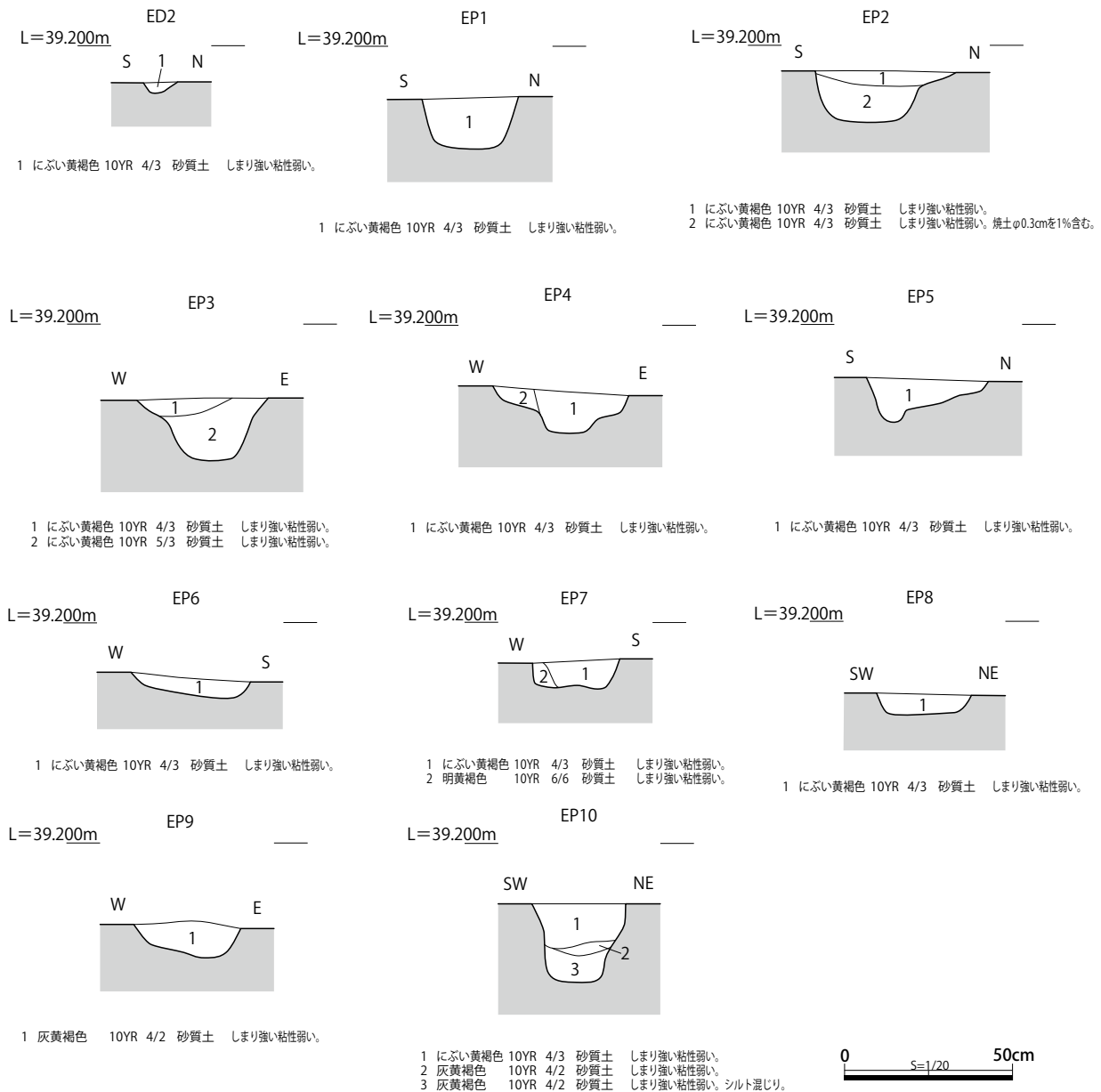
- |    |        |      |     |     |   |
|----|--------|------|-----|-----|---|
| 1  | 黄褐色    | 2.5Y | 5/4 | 砂質土 | しまりやや強い粘性やや弱い、S15/2灰オリープ砂質土(柱状)φ0.5~1cmを5%、焼土7.5YR4/6硬を1%、マンガンφ0.2~0.5cmを10%、礫φ0.2~0.5cmを3%含む。                        |
| 2  | にぶい黄色  | 2.5Y | 6/4 | 砂質土 | しまりやや強い粘性やや弱い、S15/2灰オリープ砂質土φ0.2~1cmを5%、焼土7.5YR4/6硬を1%、マンガンφ0.2~0.5cmを5%、礫φ1~2cmを少量含む。                                 |
| 3  | 暗褐色    | 10YR | 3/3 | 砂質土 | しまりやや強い粘性やや弱い、2.5Y6/4にぶい黄砂質土(柱状)φ1~2.5cmを10%、炭φ0.2cmを1%、マンガンφ0.2~0.5cmを10%、礫φ1~3cmを少量、φ3~5cmを少量含む。                    |
| 4  | 暗褐色    | 10YR | 3/4 | 砂質土 | しまりやや強い粘性やや弱い、2.5Y6/4にぶい黄砂質土φ0.5~1.5cmを10%、S15/2灰オリープ砂質土(柱状)φ0.5~1cmを5%、炭φ0.2~0.5cmを2%、礫φ1~3cmを少量、φ5~7cmのこぶし大をわずかに含む。 |
| 5  | オリープ褐色 | 2.5Y | 4/4 | 砂質土 | しまりやや強い粘性やや弱い、S15/2灰オリープ砂質土φ0.5~1cmを3%、2.5Y6/4にぶい黄砂質土(柱状)φ0.5~1cmを3%、マンガンφ0.2~0.3cmを5%、礫φ1~2cmを少量、φ4~5cmをわずかに含む。      |
| 6  | オリープ褐色 | 2.5Y | 4/3 | 砂質土 | しまりやや強い粘性やや弱い、S15/2灰オリープ砂質土φ0.2~0.5cmを3%、2.5Y6/4にぶい黄砂質土φ0.5~1cmを3%、マンガンφ0.1~0.2cmを3%、礫φ4cmを1個、φ2~3cmを少量含む。            |
| 7  | 黄褐色    | 2.5Y | 5/3 | 砂質土 | しまりやや強い粘性やや弱い、2.5Y6/6明黄褐色砂質土φ0.5~2cmを10%、10YR3/2黒褐色砂質土φ1~3cmを5%、炭φ0.3~0.5cmを5%、マンガンφ0.1~0.5cmを5%、礫φ0.5~2cmをわずかに含む。    |
| 8  | オリープ褐色 | 2.5Y | 4/4 | 砂質土 | しまりやや強い粘性やや強い、S15/2灰オリープ砂質土φ0.2~0.5cmを5%、マンガンφ0.5cmを10%を含む。   |
| 9  | 黄褐色    | 2.5Y | 5/6 | 砂質土 | しまりやや強い粘性やや弱い、S15/2灰オリープ砂質土φ0.5~1cmを10%、炭φ0.2~0.3cmを1%、礫φ2~5cmを少量含む。  |
| 10 | 黄褐色    | 2.5Y | 5/4 | 砂質土 | しまりやや強い粘性やや弱い、S15/2灰オリープ砂質土φ0.5~1cmを10%、礫φ0.5~1cmをわずかに含む。   |

第393図 2区SB1002 平断面図② (1/50)



- |   |        |      |     |     |   |
|---|--------|------|-----|-----|---|
| 1 | にぶい黄褐色 | 10YR | 4/3 | 砂質土 | しまり強い粘性弱い、10YR6/6明黄褐色砂質土φ0.3cmを2%含む。炭φ0.1cmを1%含む。 |
| 2 | 灰黄褐色   | 10YR | 4/2 | 砂質土 | しまり強く粘性やや弱い、炭φ0.1cmを1%、焼土φ0.1cmを1%含む。             |
| 3 | オリープ褐色 | 2.5Y | 4/3 | 砂質土 | しまりやや強い粘性やや弱い。                                    |

第394図 2区SB1002EH1 平断面図 (1/40)

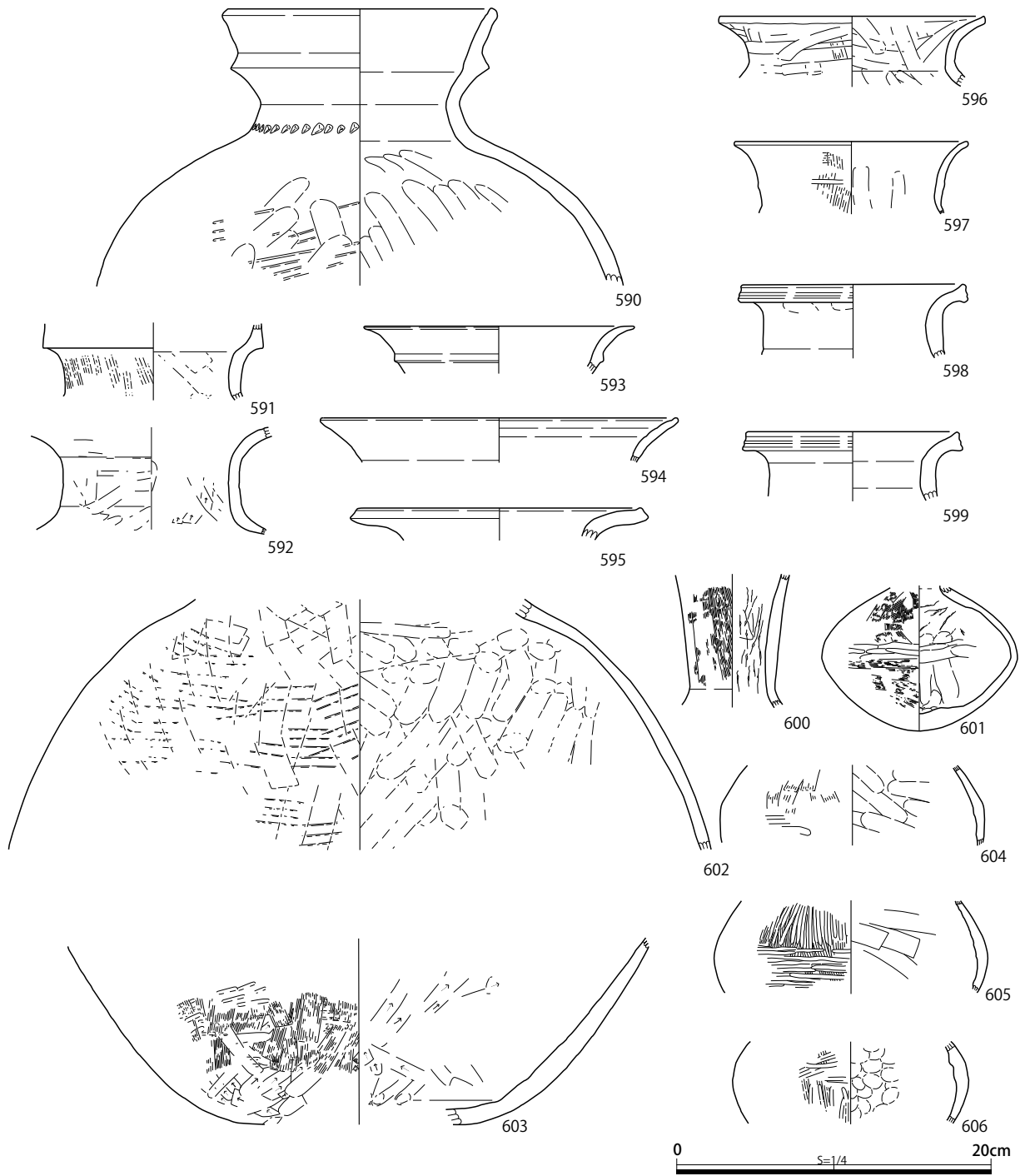


第395図 2区SB1002ED・EP断面図(1/20)

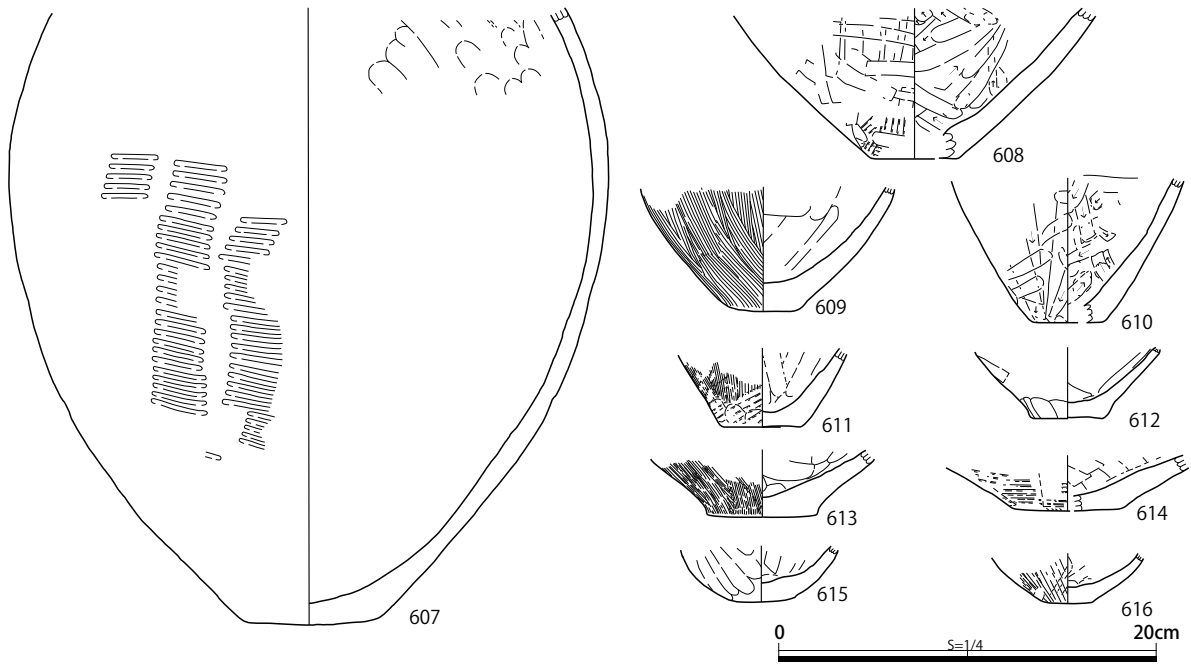
ボンベッドであると考えられる。

**遺物出土状況** EH1の周辺及び西北部の周溝付近より土器が出土している。またEH1北側及び南壁際からは金床石とみられる砂岩製の大型礫が床面から出土している。

**出土遺物** 695～753は弥生土器。695～709は壺、710～736は甕、737～745は鉢、746～751は高杯である。752、753は小型丸底鉢である。754は縄文時代の凸帯文土器である。755は被熱した粘土塊で羽口と考えられる。756、757は蛇紋岩の剥片である。762～764は砂岩製の台石(金床石)である。758～761は敲石で、758、759は結晶片岩製、760、761は砂岩製である。765～781は鉄器である。765～777は鉄鏃と考えられる。778は刀子、779は鉈である。780、781は三角切片である。



第 396 图 2 区 SB1002 出土遺物①



第 397 図 2 区 SB1002 出土遺物②

**時期** 出土した遺物から弥生時代終末期～古墳時代初頭の年代が想定される。

#### 4 号竪穴住居 (SB1004) (第 414～419 図)

**検出地点** M・N40・41 グリッド

**規模・形態** SB1003 の床面において確認された住居であり、東側は調査区外に延びている。平面形状はほぼ円形で残存値では南北は 6.24m、東西は 4.80m を測る。柱穴 (EP) は 9 基検出されており、炉 (EH) は中央からやや南寄りに 1 基、周溝 (ED) は南壁際から検出されている。

**土層** 断面形状は外縁部分にベッド状の高まりが僅かに存在している。

**遺物出土状況** 床面中央付近を中心として土器が出土している。

**出土遺物** 782～838 は弥生土器。782、783、793 は二重口縁壺、784～791 は広口壺、792 は直口壺である。808～819 は甕である。820～829 は鉢である。830～833 は高杯の脚部である。834～837 は小型丸底鉢である。838 はミニチュア土器である。839 は縄文時代の松ノ木式である。841 は被熱した粘土塊。841 はサヌカイト製のスクレイパー、842、843 はサヌカイトの剥片である。

**時期** 出土した遺物から弥生時代終末期～古墳時代初頭の年代が想定される。

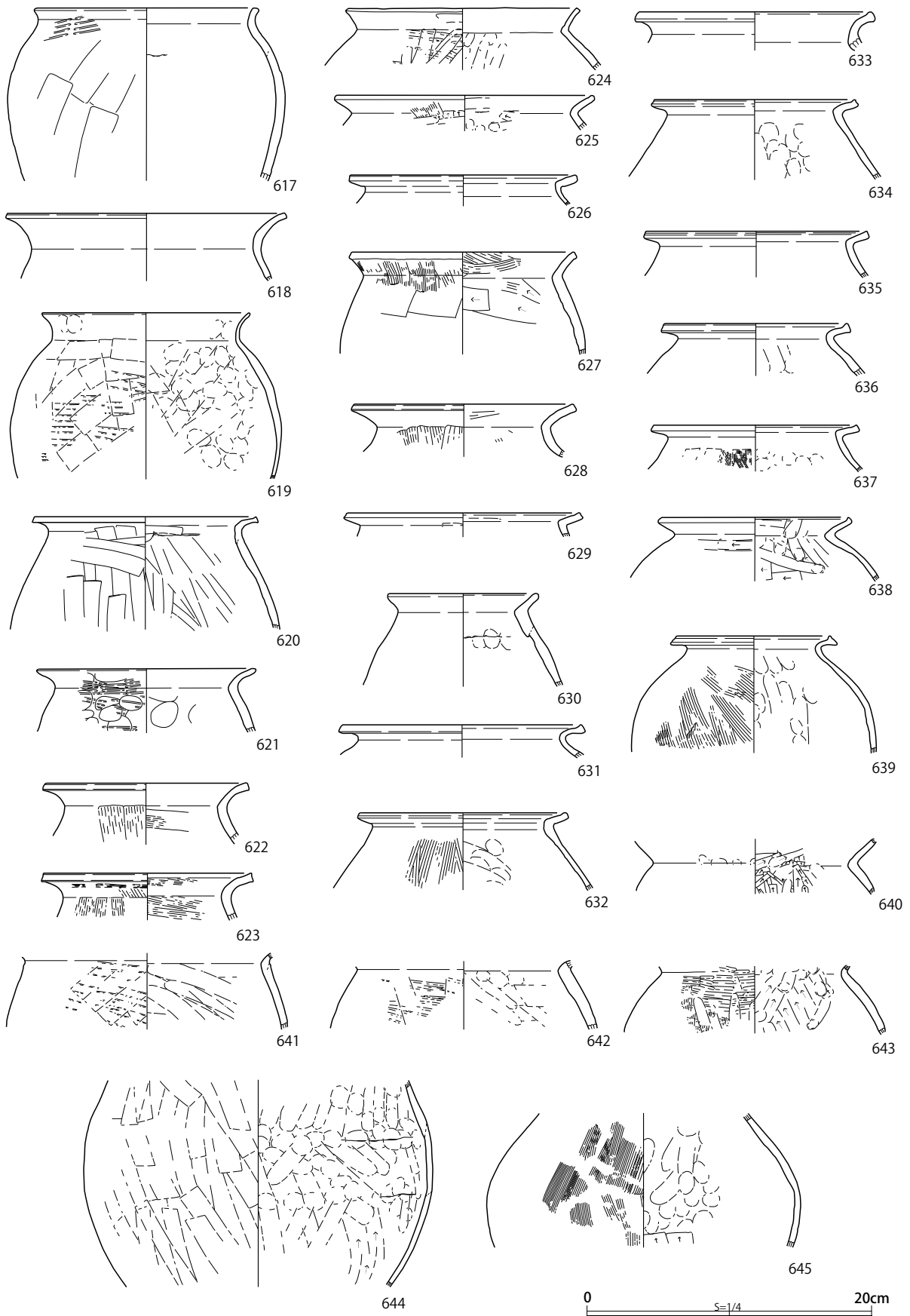
#### 2 号溝 (SD1002) (第 420・421 図)

**検出地点** I・J・K34 グリッド

**規模・形態** 南北方向に延びる溝で、SK1004、SP1013 などに切られている。延長距離は 4.76m、幅は 0.56m、深さは 0.14m を測る。方位は N-0°-E である。断面の形状は浅い丸底形である。

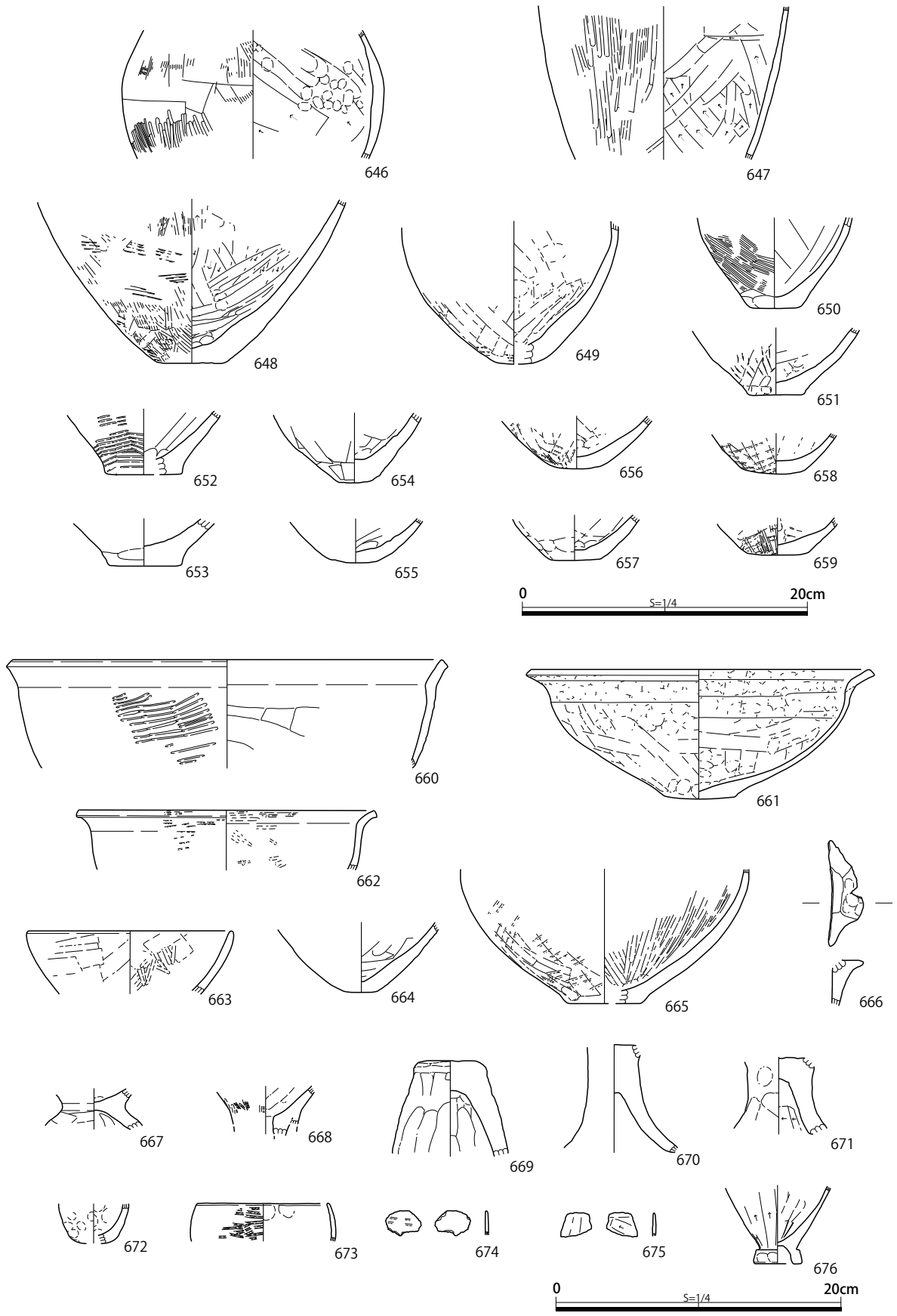
**土層** 何れも砂質土層で 2 層に分層される。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

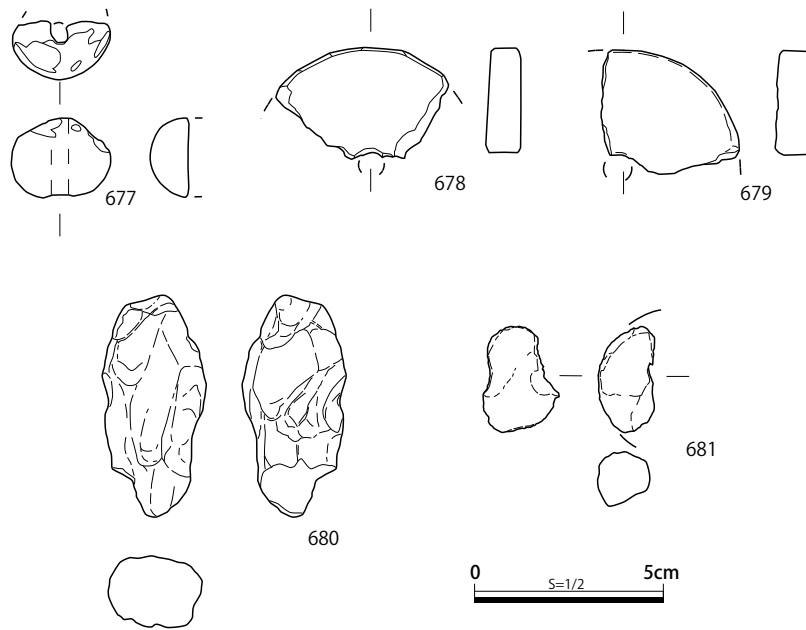


第 398 图 2 区 SB1002 出土遺物③





第 399 图 2 区 SB1002 出土遺物④



第 400 図 2 区 SB1002 出土遺物⑤

**出土遺物** 844 は瓦器の椀である。845 はサヌカイト製のスクレイパーである。

**時期** 出土した遺物から鎌倉時代（13 世紀）以降の年代が想定される。

### 3 号溝 (SD1003) (第 422・423 図)

**検出地点** I・J34・J・K35 グリッド

**規模・形態** 北東から南西方向に延びる溝で、途中から方向を南寄りに変えて調査区外に延びている。残存値で延長距離は 11.50m、幅は 0.80m、深さは 0.10m を測る。断面の形状は浅い丸底形である。

**土層** 黄褐色砂質土層が 1 層である。

**遺物出土状況** J34 グリッド内では拳大の大きさの砂岩礫と伴に土器が、J35 グリッド内からは土器がそれぞれまとまって出土している。

**出土遺物** 846～849 は弥生土器。それぞれ 846 は広口壺、847 は甕の胴部、848 は鉢、849 は高杯の脚部である。

**時期** 出土した遺物から弥生時代終末～古墳時代初頭以降の年代が想定される。

### 4 号溝 (SD1004) (第 424 図)

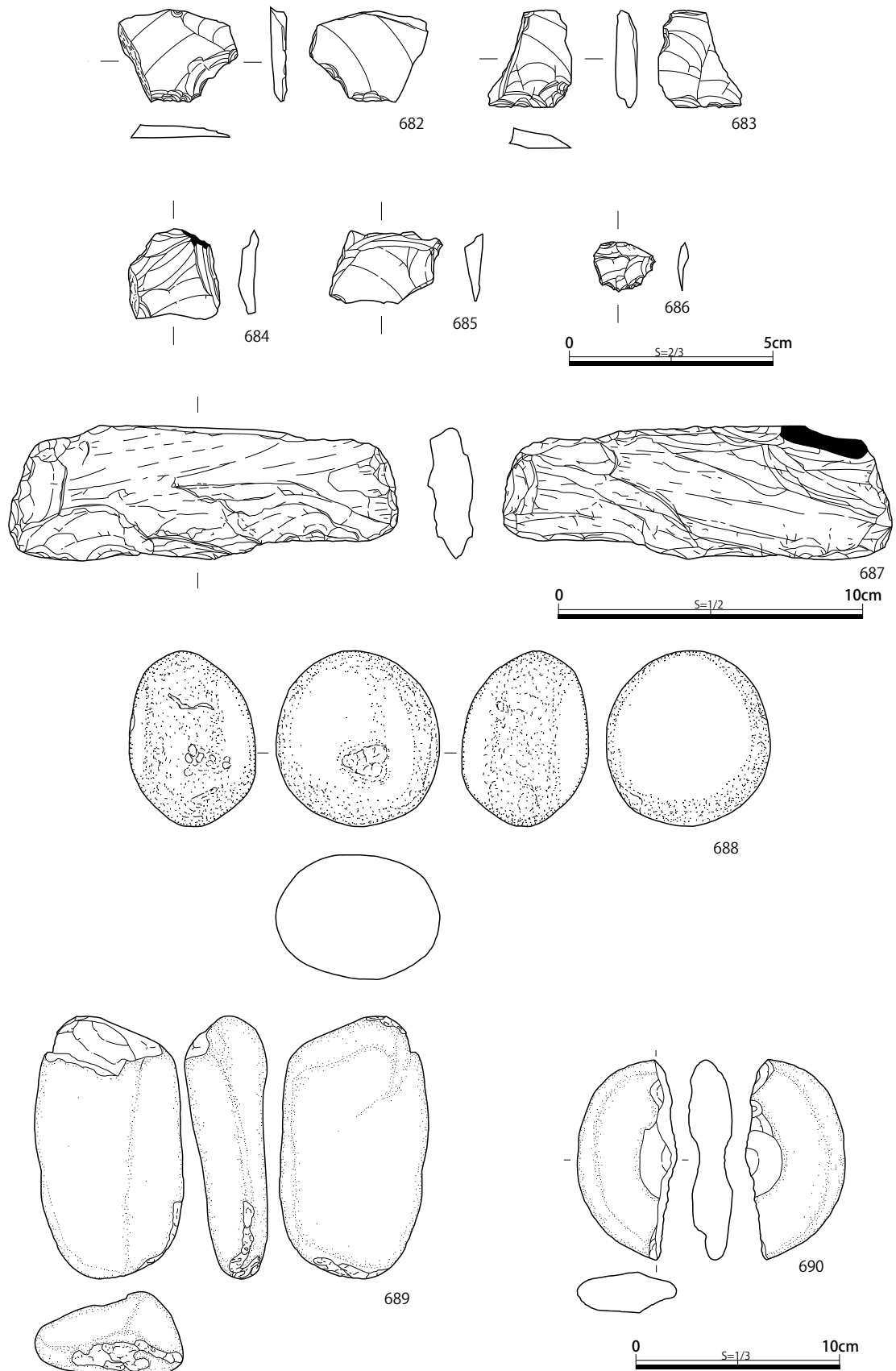
**検出地点** J・K・L36 グリッド

**規模・形態** 南北方向に延びる溝で、SB1001 などに切られている。南側は調査区外に延びている。残存値で延長距離は 14.40m、幅は 0.84m、深さは 0.08m を測る。断面の形状は皿形である。

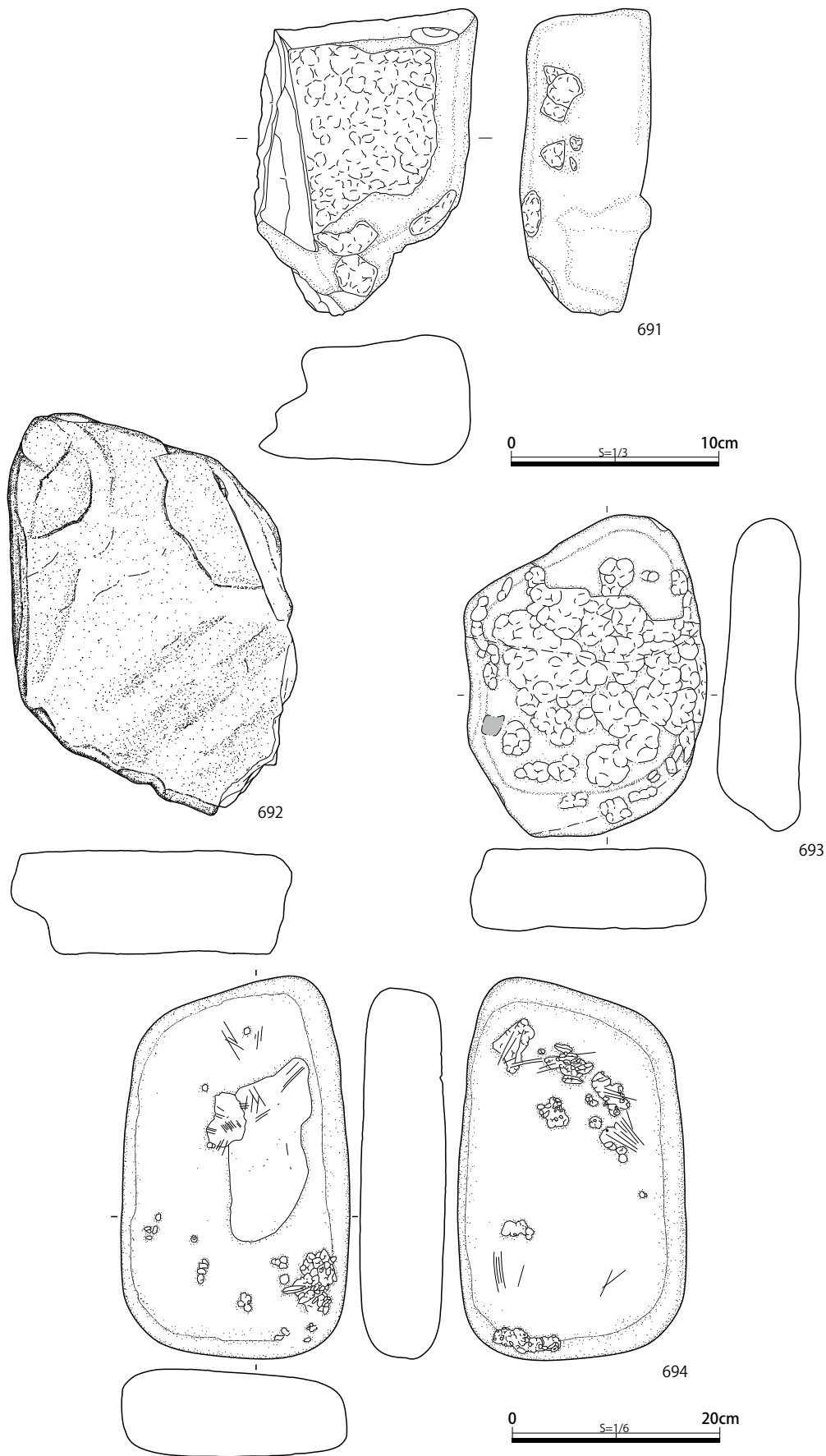
**土層** 黄褐色砂質土層が 1 層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

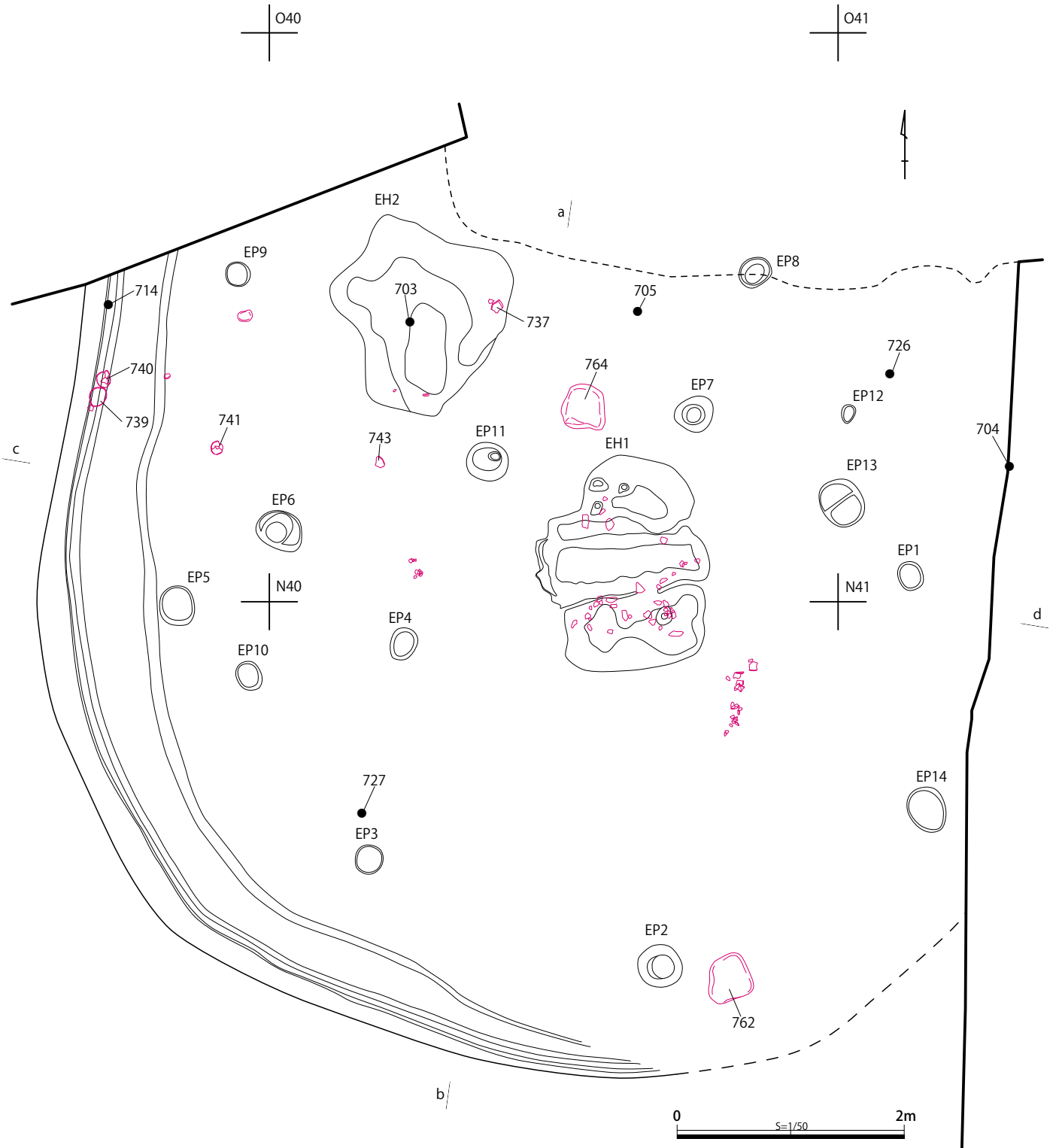
**出土遺物** 図化可能な遺物は出土していない。



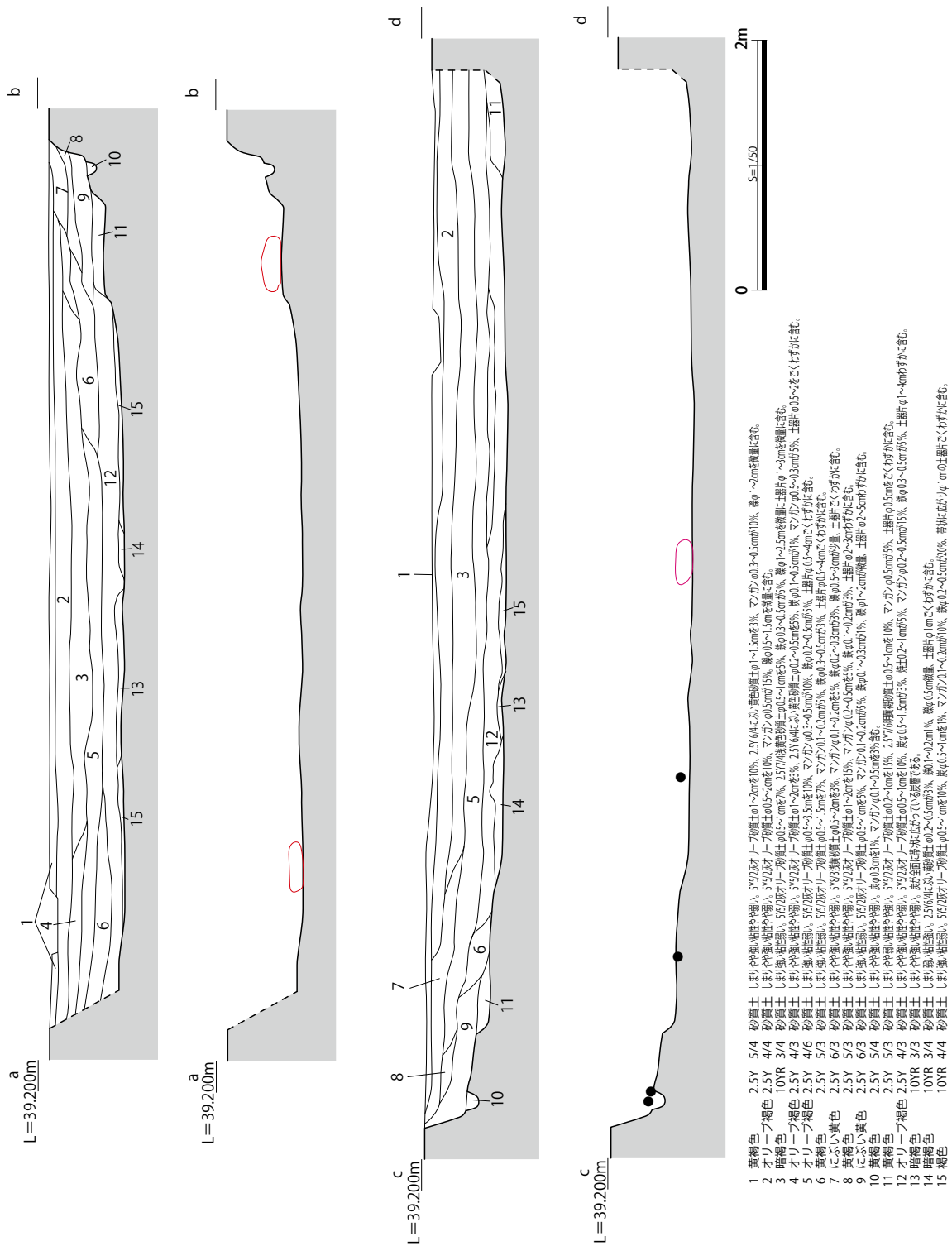
第 401 图 2 区 SB1002 出土遺物⑥



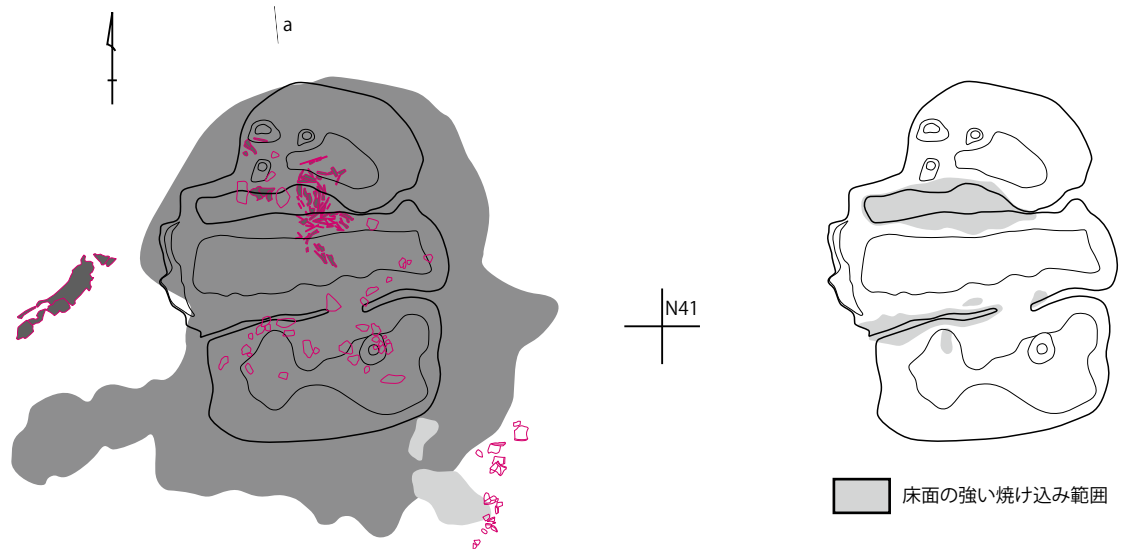
第 402 図 2 区 SB1002 出土遺物⑦



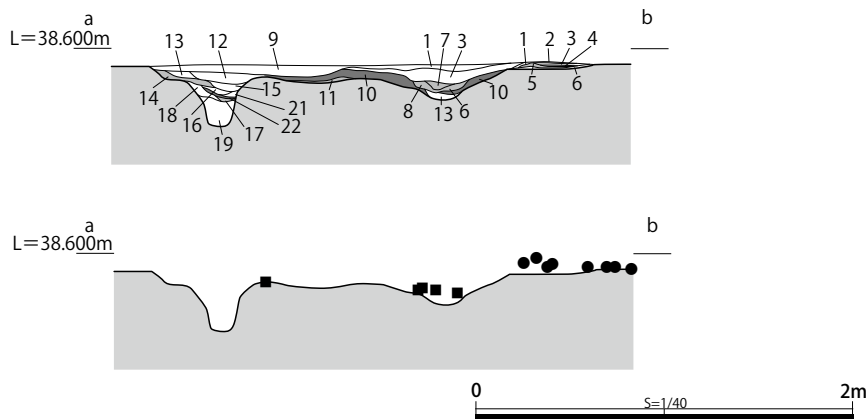
第 403 图 2 区 SB1003 平断面图① (1/50)



第 404 図 2 区 SB1003 断面図② (1/50)

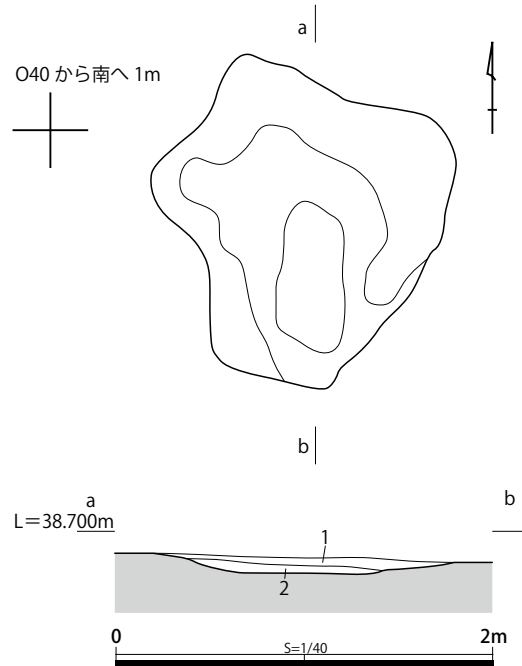


(上面の炭化物と焼土の拡がり)



- 1 黄褐色 2.5Y 5/3 砂質土 しまり強い粘性弱い。2.5Y7/2灰黄砂質土φ0.2cmを2%、炭φ0.1cmを1%含む。
- 2 灰黄色 2.5Y 6/2 砂質土 しまり強い粘性弱い。10YR4/3にふい黄褐砂質土φ0.2cmを2%、焼土φ0.2cmを1%含む灰混じりの層。
- 3 にふい黄褐色 10YR 4/3 砂質土 しまり強い粘性弱い。2.5Y6/2灰黄砂質土φ0.3cmを2%、焼土φ0.2cmを2%含む。
- 4 にふい黄褐色 10YR 5/3 砂質土 しまり強い粘性弱い。10YR5/2灰黄褐砂質土φ0.2cmを2%、炭φ0.2cmを2%、焼土φ0.2cmを1%含む灰層。
- 5 黄褐色 2.5Y 5/3 砂質土 しまり強い粘性弱い。2.5Y6/6明黄褐砂質土φ0.2cmを2%、含む灰混じりの層。
- 6 黄褐色 2.5Y 5/3 砂質土 しまり強い粘性弱い。炭φ0.3cmを1%、焼土φ0.2cmを2%含む。
- 7 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土 しまり強い粘性強い。炭φ0.2cmを2%、焼土φ0.2cmを1%含む灰層。
- 8 黒褐色 10YR 3/2 砂質土 しまり弱い粘性やや強い。炭φ0.3cmを1%、焼土φ0.2cmを2%含む灰混じりの層。
- 9 黄褐色 2.5Y 5/3 砂質土 しまり強い粘性弱い。2.5Y6/2灰黄砂質土φ0.2cmを5%、炭φ0.2cmを2%含む。
- 10 炭化物層 しまり弱い粘性やや弱い。焼土0.5cmを2%含む。
- 11 黄褐色 2.5Y 5/3 砂質土 しまり強い粘性弱い。2.5Y6/2灰黄砂質土φ0.2cmを2%、炭φ0.2cmを1%、焼土φ0.2cmを2%含む灰層。
- 12 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土 しまり強い粘性弱い。10YR6/6明黄褐砂質土φ0.2cmを2%、炭φ0.2cmを1%、焼土φ0.2cmを1%含む。
- 13 明黄褐色 10YR 6/6 砂質土 しまり強い粘性弱い。
- 14 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土 しまり強い粘性弱い。炭φ0.2cmを2%、焼土φ0.2cmを2%含む灰混じりの層。
- 15 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土 しまり弱い粘性弱い。10YR6/6明黄褐砂質土φ0.2cmを3%、炭φ0.2cmを1%、焼土φ0.2cmを1%含む。
- 16 にふい黄褐色 10YR 4/3 砂質土 しまり強い粘性弱い。
- 17 褐色 7.5YR 4/4 砂質土 しまり弱い粘性強い。2.5Y4/4オリーブ褐砂質土φ0.3cmを2%、炭φ0.3cmを1%含む灰混じりの層。
- 18 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土 しまり強い粘性強い。10YR6/6明黄褐砂質土φ0.2cmを2%、炭φ0.2cmを2%、焼土φ0.2cmを1%含む。
- 19 黒褐色 10YR 3/2 砂質土 しまり弱い粘性強い。10YR6/6明黄褐砂質土φ0.3cmを2%、炭φ0.3cmを3%、焼土φ0.3cmを2%含む。
- 20 暗灰黄色 2.5Y 5/2 砂質土 しまり強い粘性強い。10YR6/6明黄褐砂質土φ0.3cmを1%、炭φ0.3cmを1%、焼土φ0.2cmを1%含む。
- 21 にふい黄褐色 10YR 5/3 砂質土 しまり強い粘性弱い。2.5Y6/2灰黄砂質土φ0.2cmを2%、炭φ0.2cmを1%含む。
- 22 炭化物層 しまり弱い粘性やや強い。

第 405 図 2 区 SB1003EH1 平断面図 (1/40)



- 1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土 しまりやや強い粘性やや強い、2.5V/1黄灰砂質土 $\rho 1 \sim 1.5\text{cm}$ を40%、2.5V/6(4)灰色黄砂質土 $\rho 1 \sim 2\text{cm}$ を10%、炭 $\rho 1 \sim 5\text{cm}$ が30%帯状に広がっている、焼土 $0.5 \sim 2\text{cm}$ が10%、礫 $\rho 0.5 \sim 2\text{cm}$ が含む。  
 2 暗褐色 10YR 3/3 砂質土 しまり強い粘性強い、炭 $\rho 0.5 \sim 1\text{cm}$ が10%、焼土 $\rho 0.5 \sim 1\text{cm}$ が5%、礫 $\rho 0.5 \sim 1\text{cm}$ が1%灰の層が広がっている。

第 406 図 2 区 SB1003EH2 平断面図 (1/40)

**時期** 周辺の遺構の切り合い関係から弥生時代終末以前の年代が想定される。

#### 5号溝 (SD1005) (第 424 図)

**検出地点** J・K・L36・J・K37 グリッド

**規模・形態** 南北方向に延びる溝で、北端は西寄りに屈曲している。また南側は調査区外に延びている。残存値で延長距離は 10.40m、幅は 0.98m、深さは 0.08m を測る。断面の形状は皿形である。

**土層** 黄褐色砂質土層が 1 層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 図化可能な遺物は出土していない。

**時期** 年代は特定できない。

#### 2号土坑 (SK1002) (第 425 図)

**検出地点** K34 グリッド

**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は 1.13m、短軸は 0.50m、深さは 0.20m を測る。断面の形状は 2 段形である。

**土層** 何れも砂質土層で 3 層に分層される。

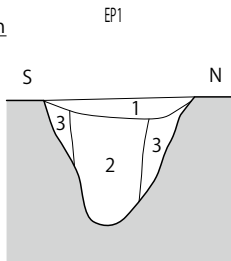
**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 図化可能な遺物は出土していない。

**時期** 年代は特定できない。

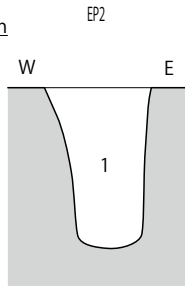


L=38.700m



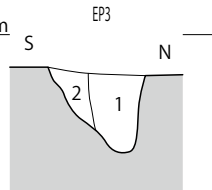
- 1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い。
- 2 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い。10YR5/6黄褐砂質土φ0.3cmを3%含む。
- 3 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い。炭φ0.2cmを2%、焼土φ0.2cmを1%含む。

L=38.700m



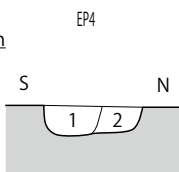
- 1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い。

L=39.700m



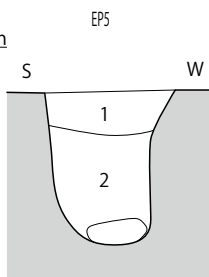
- 1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い。
- 2 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い。10YR5/6黄褐砂質土φ0.3cmを5%含む。

L=38.700m



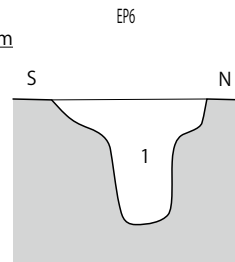
- 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土 しまり強い粘性やや弱い。
- 2 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土 しまり強い粘性弱い。10YR4/3にぶい黄褐砂質土φ0.5cmを2%含む。

L=39.700m



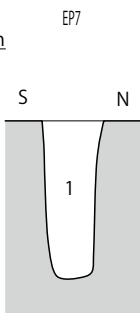
- 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土 しまり強い粘性弱い。
- 2 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土 しまり強い粘性やや強い。10YR5/6黄褐砂質土φ0.5cmを5%含む。

L=39.700m



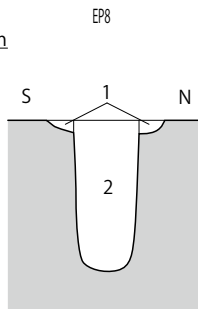
- 1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い。

L=39.700m



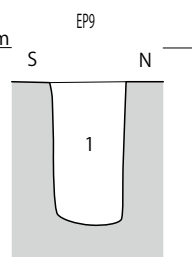
- 1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い。

L=38.700m



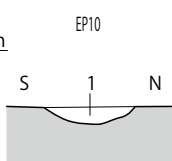
- 1 黄褐色 10YR 5/6 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い。
- 2 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い。

L=38.700m



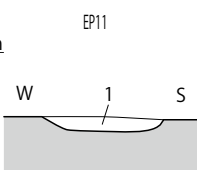
- 1 暗褐色 10YR 3/3 砂質土 しまりやや弱く粘性やや弱い。

L=38.700m



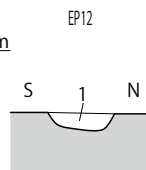
- 1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い。

L=38.700m



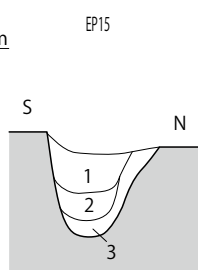
- 1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い。

L=38.700m



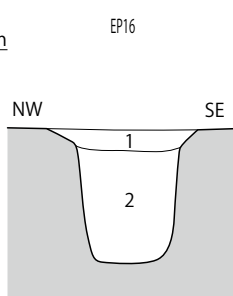
- 1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い。

L=38.700m

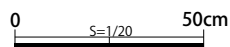


- 1 黒色 10YR 2/1 砂質土 しまりやや強い粘性やや強い。炭φ0.1cmを2%、焼土φ0.2cmを1%含む。
- 2 黒褐色 10YR 3/2 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い。炭φ0.5cmを1%、焼土φ0.1cmを1%含む。
- 3 にぶい黄褐色 10YR 4/3 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い。炭φ0.2cmを1%、焼土φ0.3cmを1%含む。

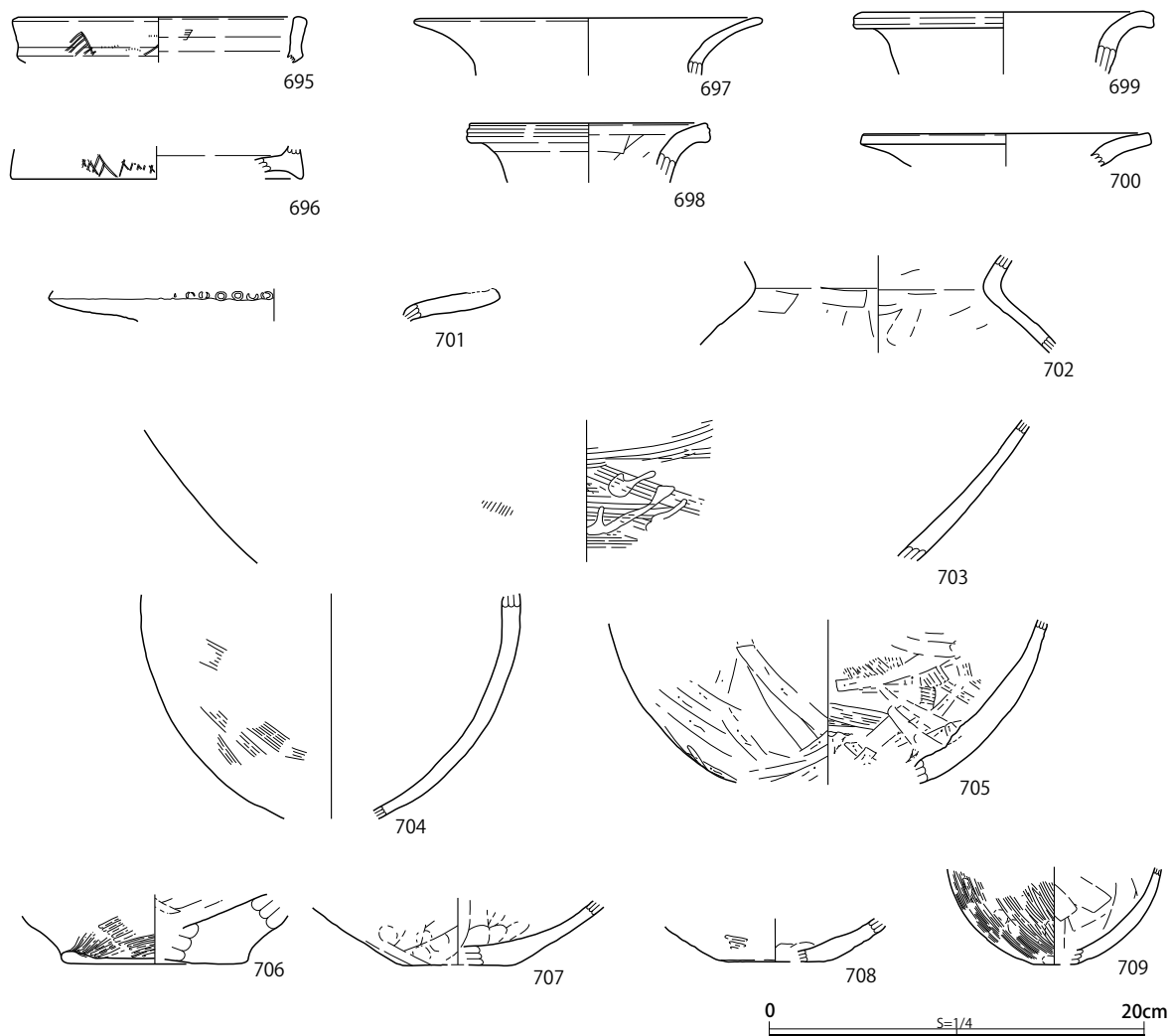
L=38.700m



- 1 にぶい黄褐色 10YR 5/3 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い。
- 2 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い。



第 407 図 2 区 SB1003EP 断面図 (1/20)



第 408 図 2 区 SB1003 出土遺物①

4 号土坑 (SK1004) (第 426・427 図)

**検出地点** J34 グリッド

**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈するとみられるが、西側は攪乱に切られている。残存値で長軸は 1.25m、短軸は 1.00m、深さは 0.35m を測る。径が約 20cm 以下の砂岩礫がまとまって充填された集石土坑である。断面の形状は舟底形である。

**土層** 何れも砂質土層で 4 層に分層される。

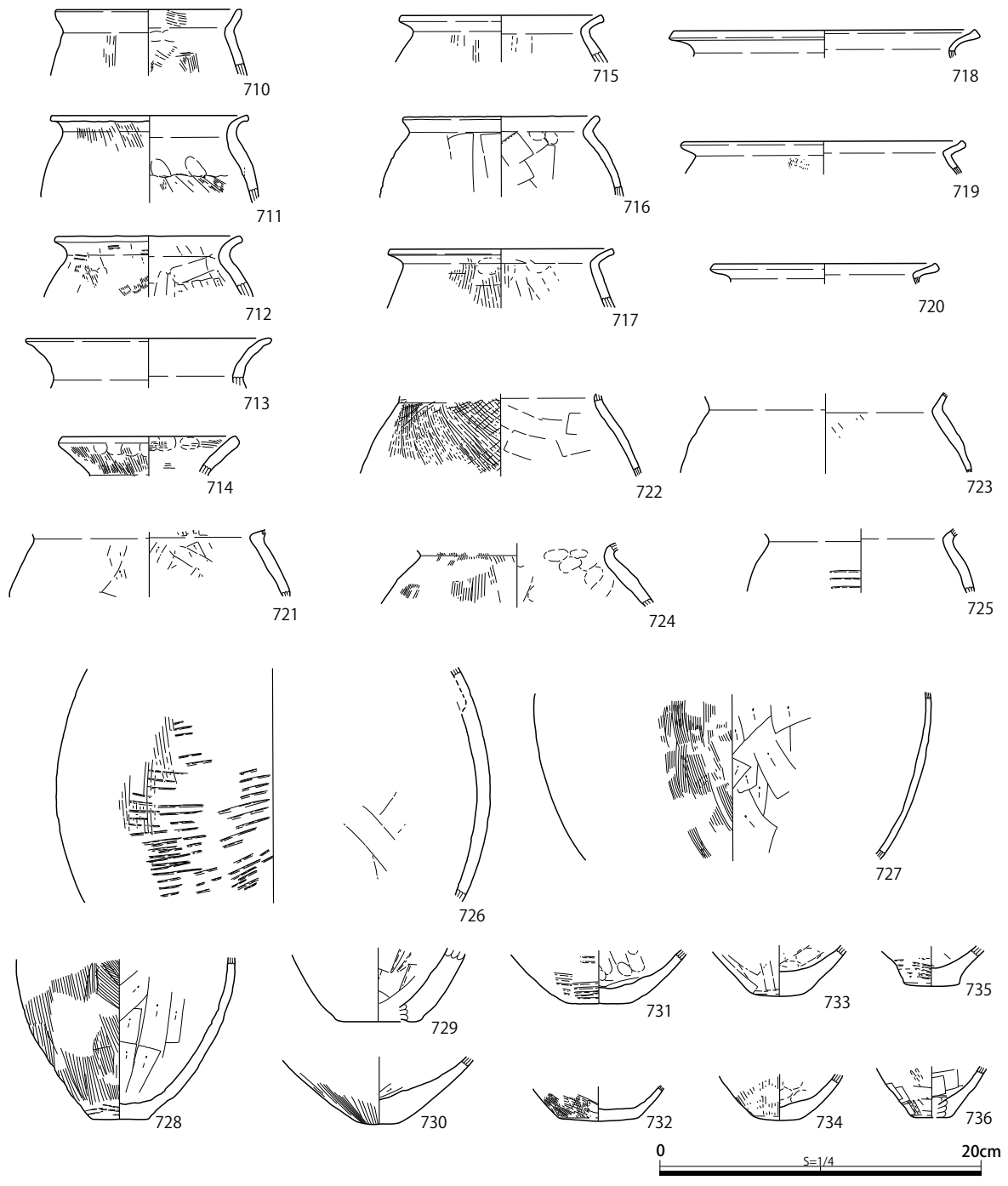
**遺物出土状況** 底部付近はやや大型の礫が多く、上面に行くほど小型の礫が密に分布している。

**出土遺物** 850 はサヌカイト製の平基式石鏃である。

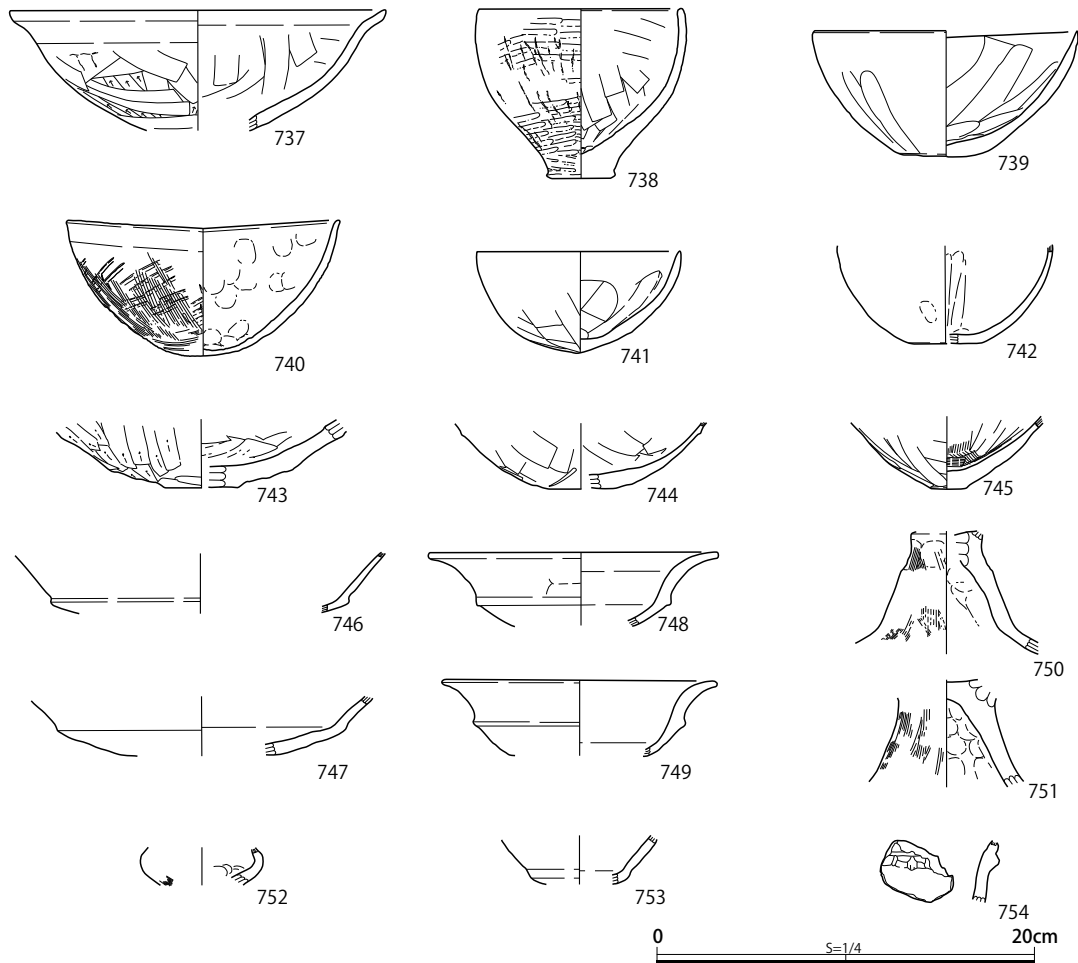
**時期** 年代は特定できない。

11 号土坑 (SK1011) (第 428・429 図)

**検出地点** J35 グリッド



第 409 图 2 区 SB1003 出土遺物②



第 410 図 2 区 SB1003 出土遺物③

**規模・形態** 平面形状は小判形を呈し、長軸は 0.83m、短軸は 0.47m、深さは 0.04m を測る。断面の形状は皿形である。

**土層** 黄褐色砂質土層が 1 層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 851 は土師質土器の羽釜である。

**時期** 出土した遺物から室町時代（14 世紀）以降の年代が想定される。

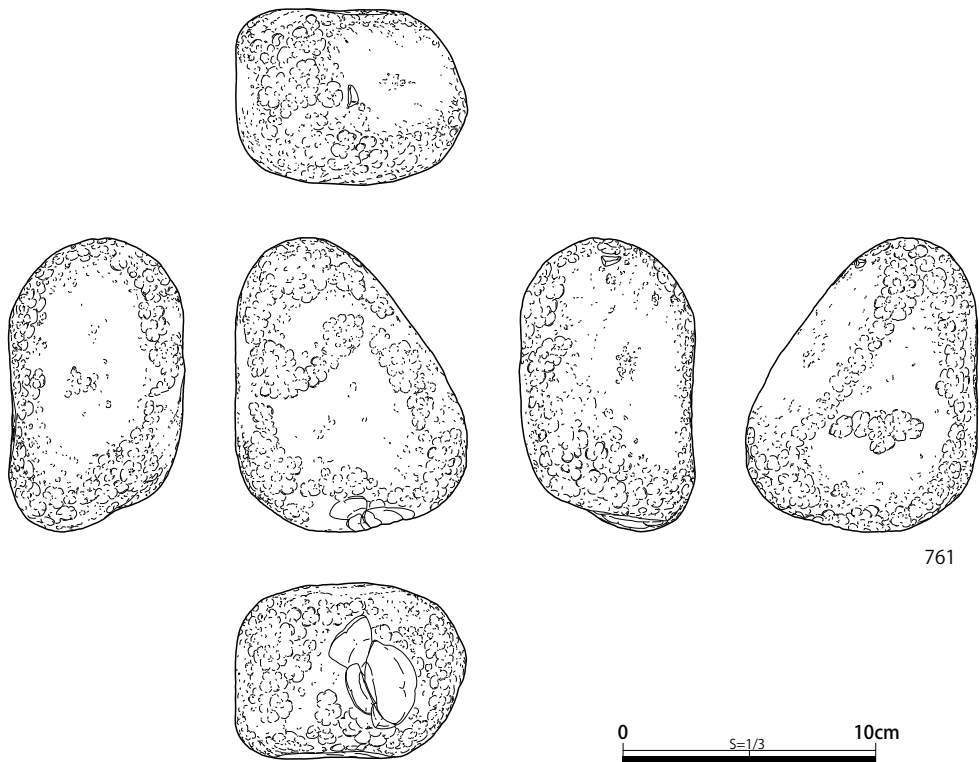
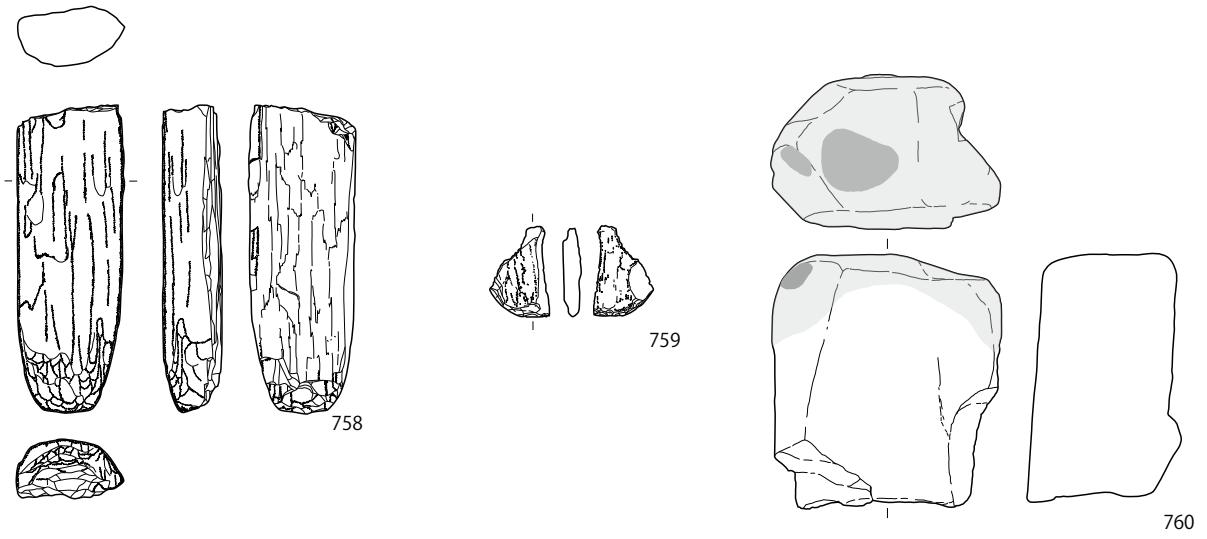
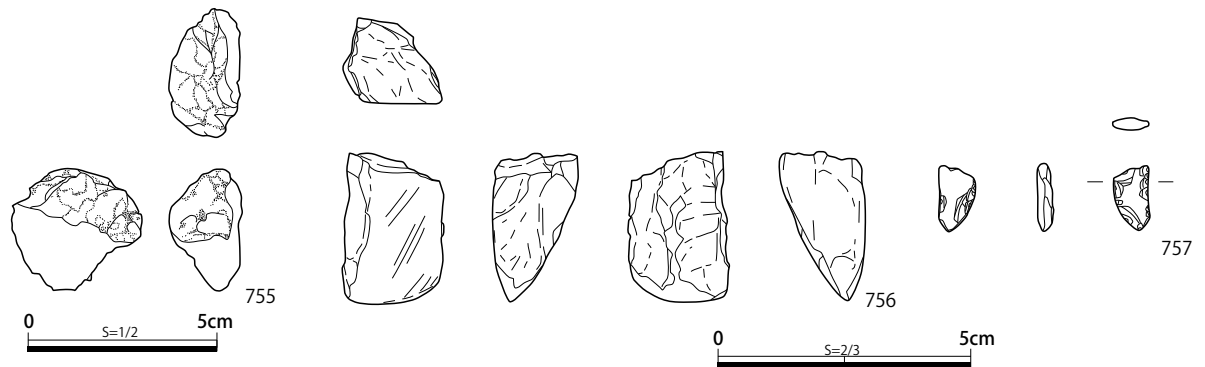
15 号土坑 (SK1015) (第 430・431 図)

**検出地点** M37 グリッド

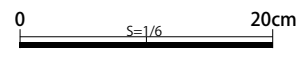
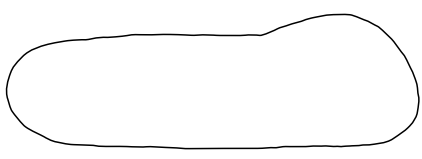
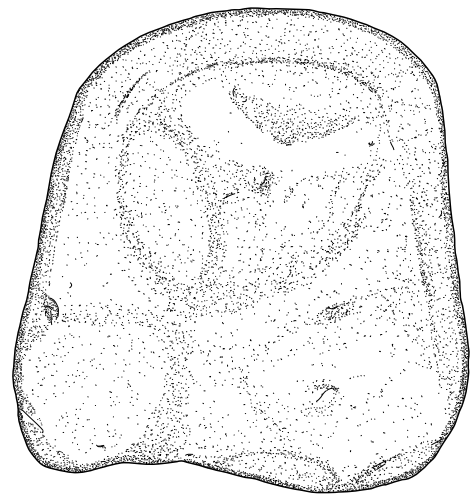
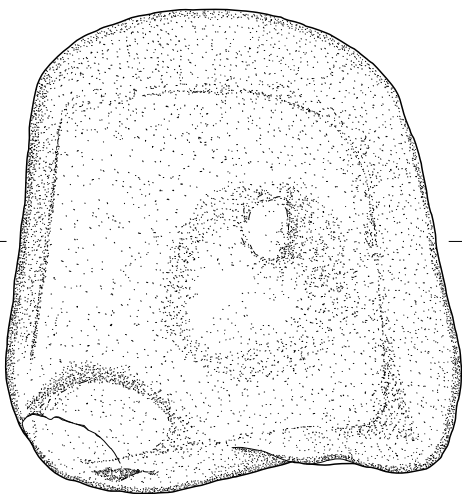
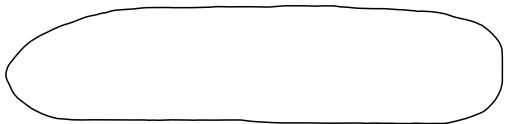
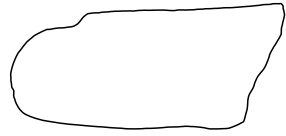
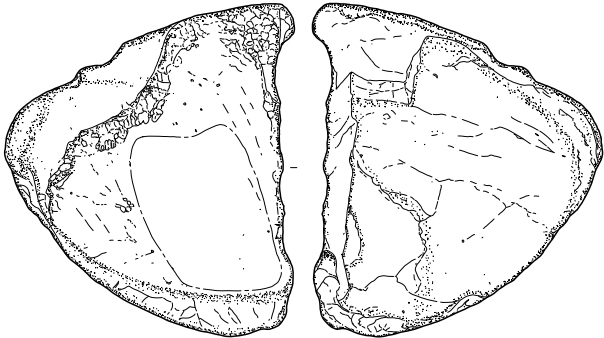
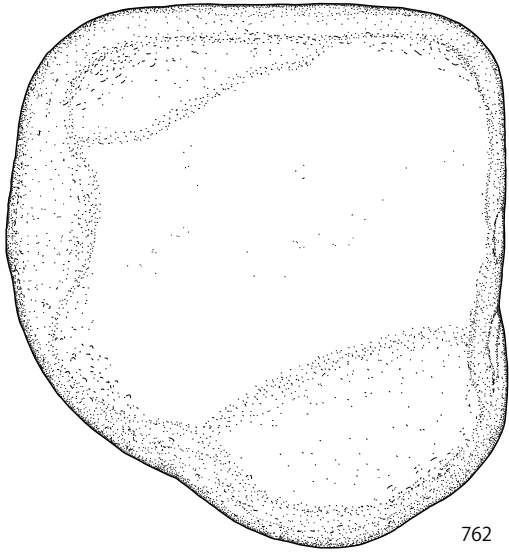
**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は 1.56m、短軸は 0.40m、深さは 0.08m を測る。断面に形状は皿形である。

**土層** 何れも砂質土で 2 層に分層され、上部は黄褐色砂質土層、下部は暗オリーブ褐色砂質土層が堆積している。

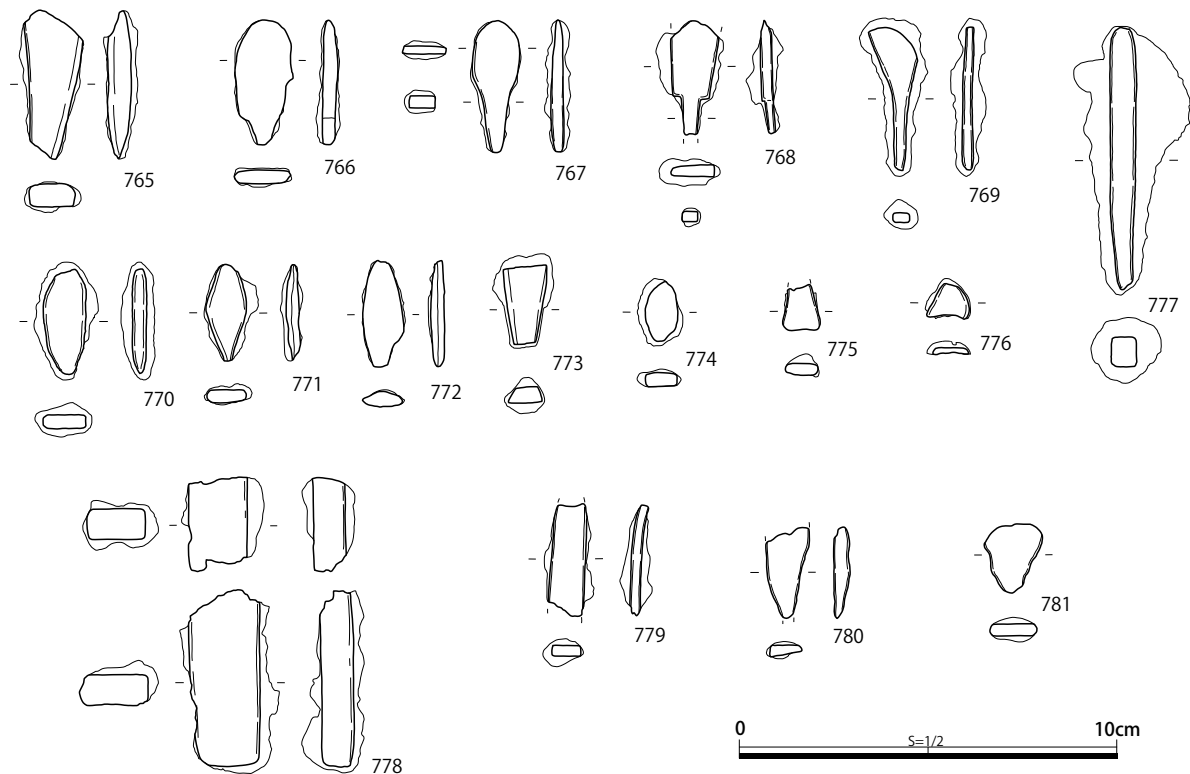
**遺物出土状況** 図化できるものはない。



第 411 图 2 区 SB1003 出土遺物④



第 412 图 2 区 SB1003 出土遺物⑤



第 413 図 2 区 SB1003 出土遺物⑥

**出土遺物** 852 は弥生土器の高杯の脚部である。讃岐からの搬入品である。

**時期** SB1001 が埋没後に掘削されたものであり、弥生時代終末以降の年代が想定される。

17 号土坑 (SK1017) (第 432・433 図)

**検出地点** M37 グリッド

**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は 2.16m、短軸は 0.78m、深さは 0.18m を測る。断面の形状は皿形である。

**土層** 何れも砂質土で 2 層に分層され、上部は黄褐色砂質土層、下部はオリーブ褐色砂質土層が堆積している。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 853 は用途不明の鉄製品である。

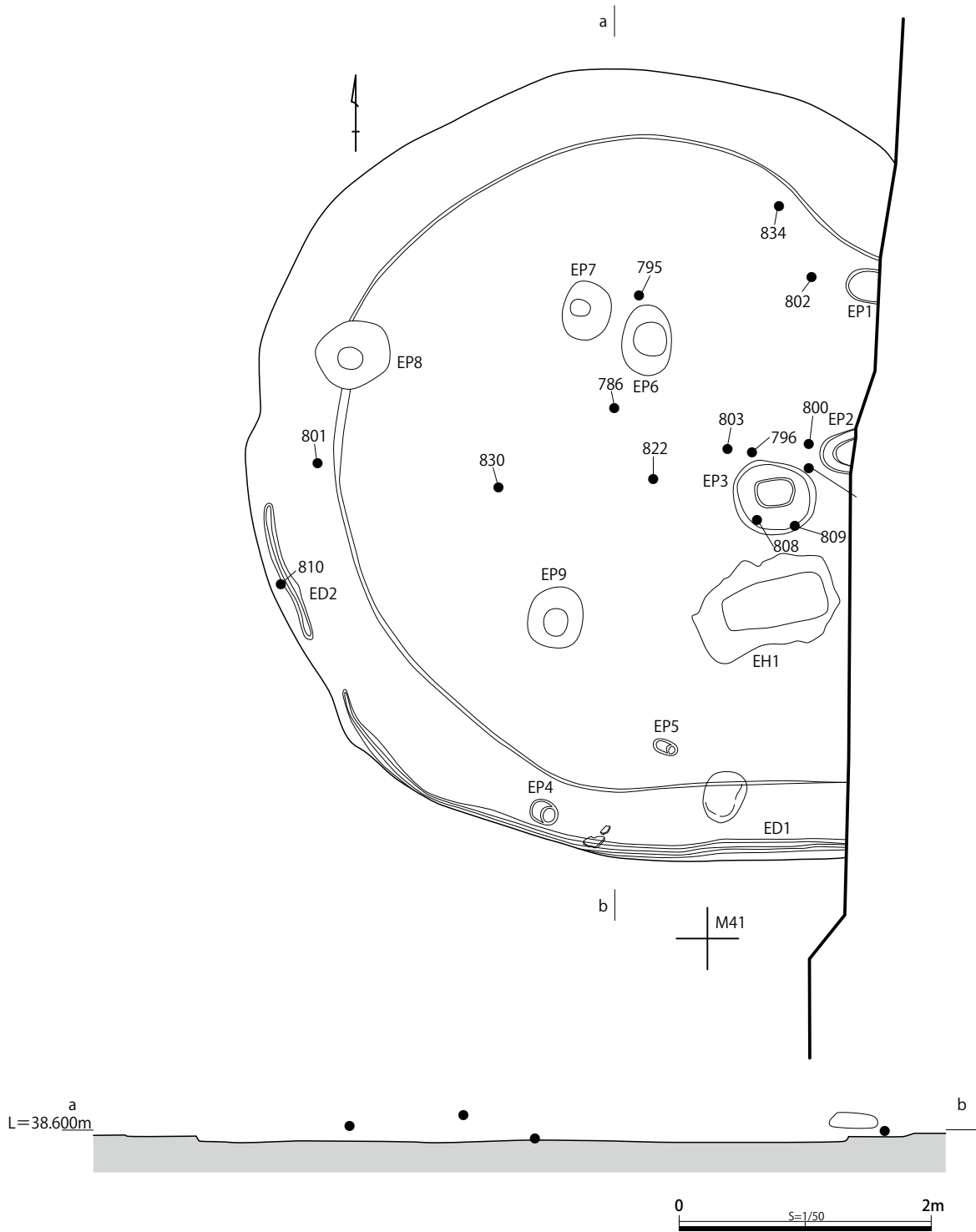
**時期** SB1001 が埋没後に掘削されたものであり、弥生時代終末以降の年代が想定される。

21 号土坑 (SK1021) (第 434 図)

**検出地点** L37 グリッド

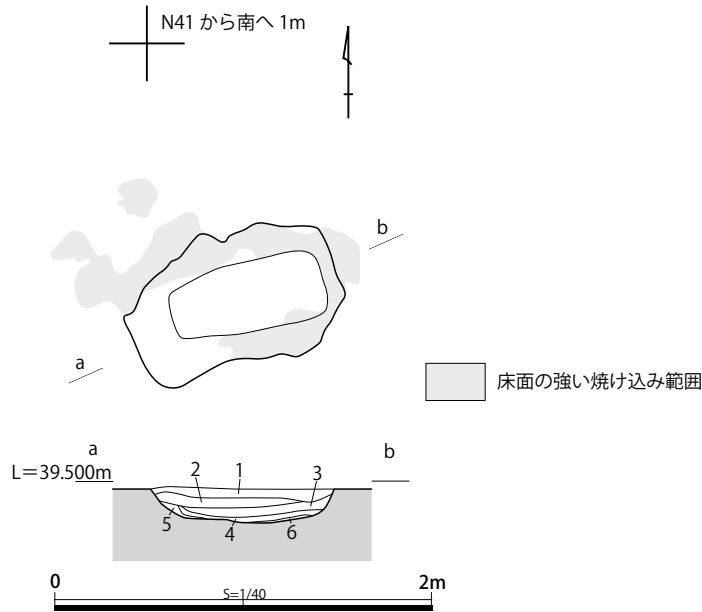
**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈するとみられるが、北側を SK1019、SK1020 に切られている。残存値で長軸は 1.73m、短軸は 0.62m、深さは 0.07m を測る。断面の形状は皿形である。

**土層** オリーブ褐色砂質土層が 1 層である。



第 414 图 2 区 SB1004 平断面图 (1/50)





- |   |        |          |     |   |
|---|--------|----------|-----|---|
| 1 | オリーブ褐色 | 2.5Y 4/3 | 砂質土 | しまり強い粘性弱い。5Y5/2灰オリーブ砂質土φ0.5~1cmを3%、焼土φ0.2cmを1%含む。 |
| 2 | 灰黄褐色   | 10YR 4/2 | 砂質土 | しまり強い粘性弱い。10YR5/6黄褐色砂質土φ0.3cmを5%、炭φ0.2cmを2%含む。    |
| 3 | 灰黄褐色   | 10YR 4/2 | 砂質土 | しまり強い粘性強い。焼土φ0.5~1cmを2%、0.2cmを3%含む。               |
| 4 | 褐灰色    | 5YR 4/1  | 砂質土 | しまり弱い粘性やや強い。焼土。炭φ0.2cmを1%含む。                      |
| 5 | 黄褐色    | 10YR 5/6 | 砂質土 | しまり強い粘性やや弱い。焼土0.3~0.5cmを1%含む。                     |
| 6 | 灰黄褐色   | 10YR 4/2 | シルト | しまり弱い粘性強い。焼土0.2cmを2%含む。                           |

第 415 図 2 区 SB1004EH1 平断面図 (1/40)

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 図化可能な遺物は出土していない。

**時期** 年代は特定できない。

30 号土坑 (SK1030) (第 435・436 図)

**検出地点** L36 グリッド

**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は 1.18m、短軸は 0.68m、深さは 0.16m を測る。断面の形状は 2 段形である。

**土層** 何れも砂質土層で 3 層に分層され、上部は黄褐色砂質土層、下部はオリーブ褐色砂質土層が堆積している。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 854 は弥生土器の壺の底部である。855 はサヌカイトの剥片である。

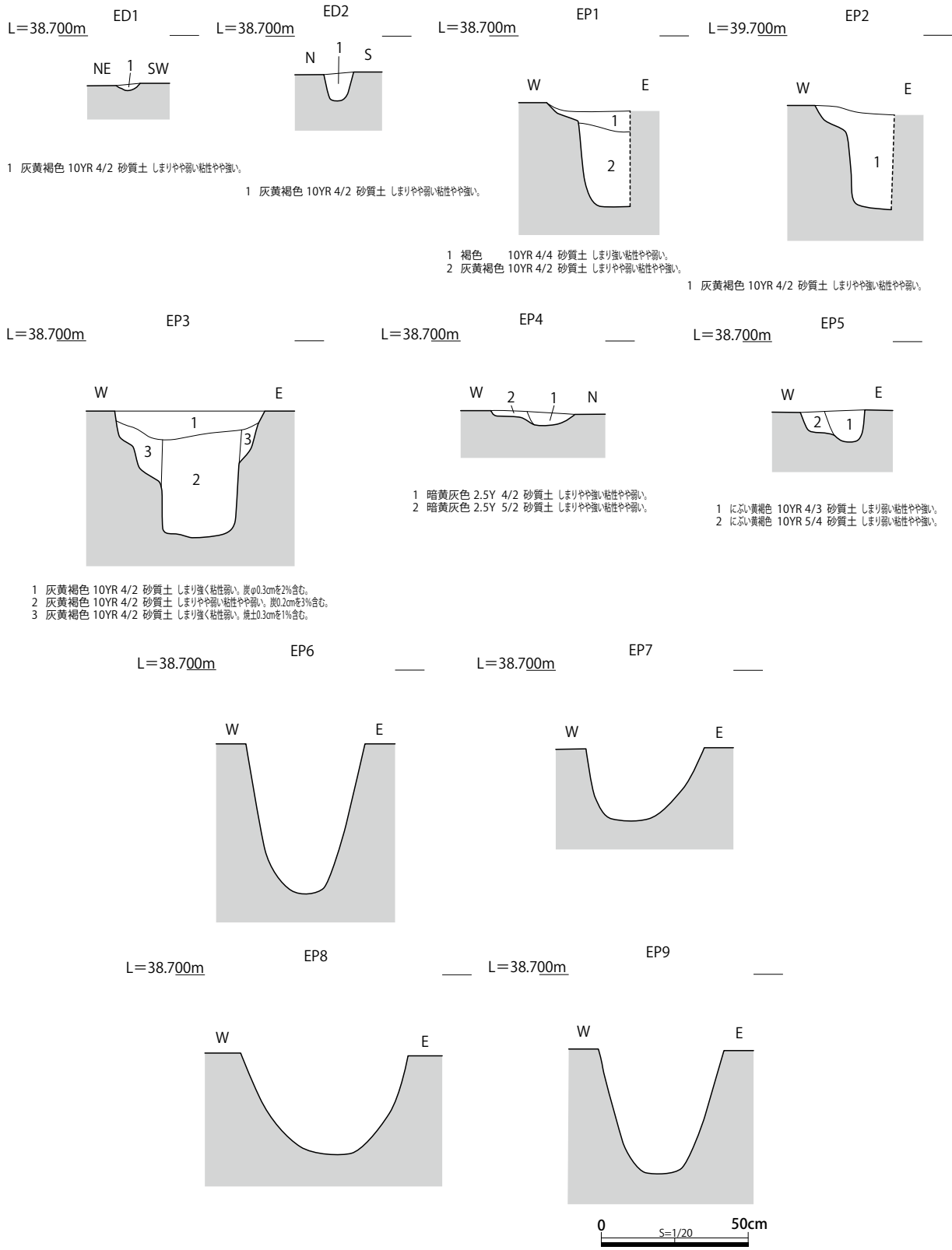
**時期** 出土した遺物から弥生時代後期後半以降の年代が想定される。

39 号土坑 (SK1039) (第 437・438 図)

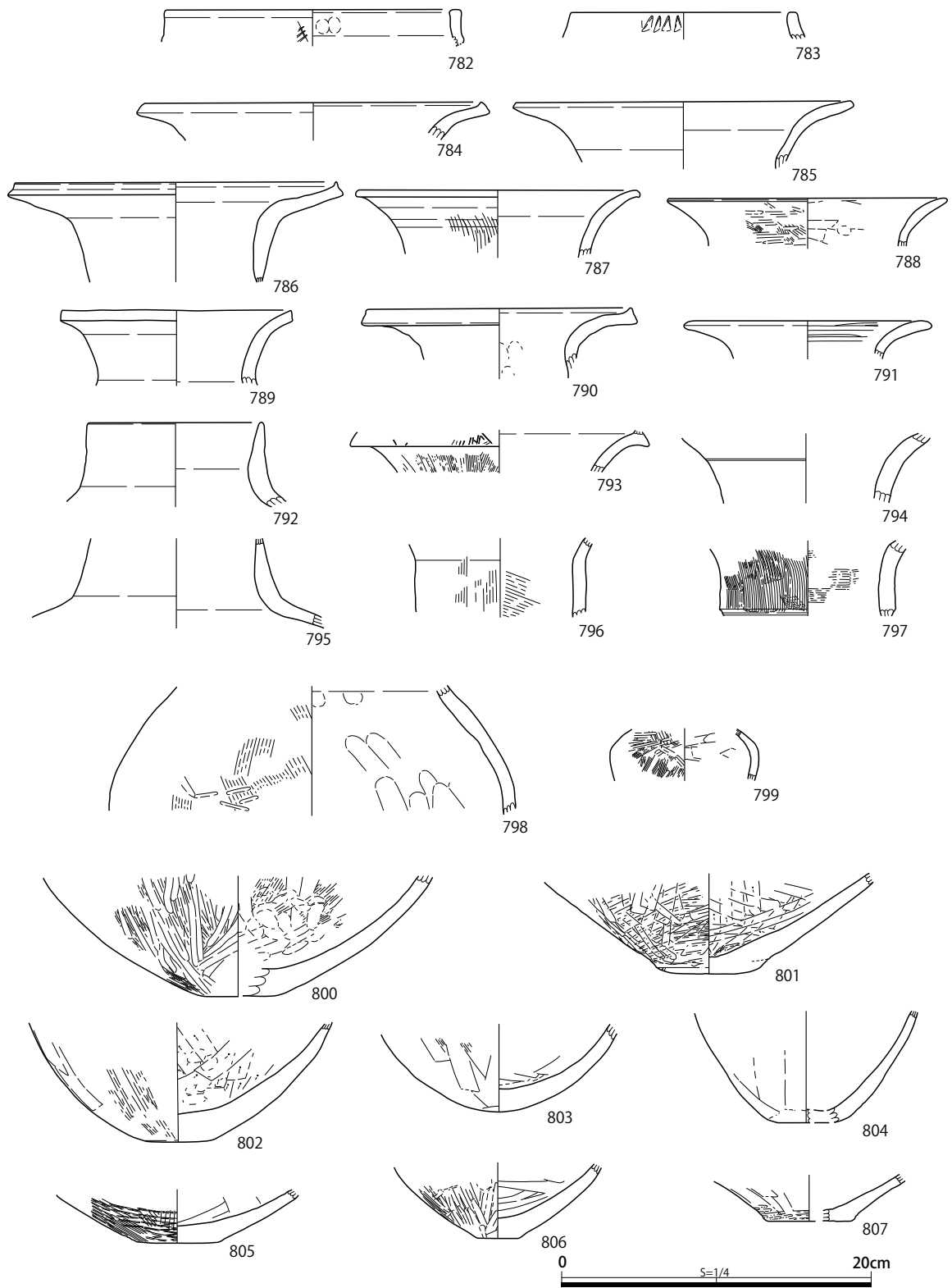
**検出地点** N39 グリッド

**規模・形態** 平面形状はやや不整な隅丸長方形を呈し、長軸は 1.27m、短軸は 0.68m、深さは 0.43m を測る。断面の形状は 2 段形である。

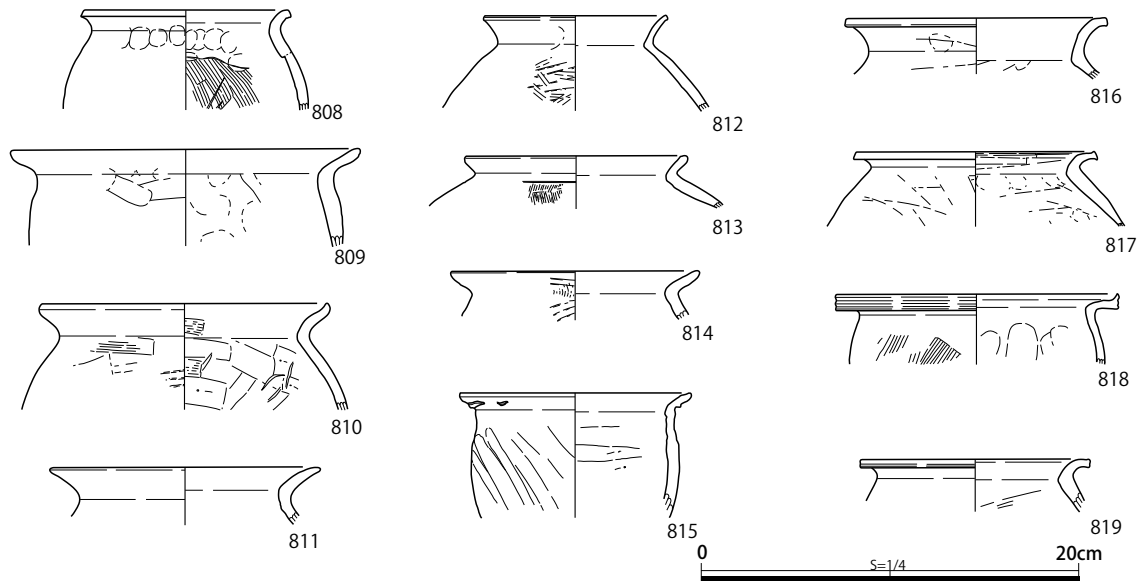
**土層** 何れも砂質土層で 6 層に分層される。黄褐色砂質土層を主体として、遺物の出土面より下層に



第 416 図 2 区 SB1004ED・EP 断面図 (1/20)



第 417 图 2 区 SB1004 出土遗物①



第 418 図 2 区 SB1004 出土遺物②

オリーブ褐色砂質土層の間層を挟んでいる。

**遺物出土状況** 遺構上面の西端付近に砂岩の大型礫が置かれ、その西側に壺、甕が並んで置かれていた。遺物はいずれも 1、2 層付近を中心として出土している。

**出土遺物** 856～860 は弥生土器。856 は二重口縁壺、857 は底部である。858～860 は甕である。861～863 は側面に敲打痕を残す石。いずれも砂岩製である。

**時期** 出土した遺物から弥生時代終末～古墳時代初頭以降の年代が想定される。

#### 14 号小穴 (SP1014) (第 439・440 図)

**検出地点** J34 グリッド

**規模・形態** 平面形状はほぼ円形を呈し、径は 0.20m、深さは 0.36m を測る。断面の形状は長方形である。

**土層** 暗褐色砂質土層が 1 層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 864 は土師質土器の杯である。

**時期** 出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。

#### 15 号小穴 (SP1015) (第 441・442 図)

**検出地点** J34 グリッド

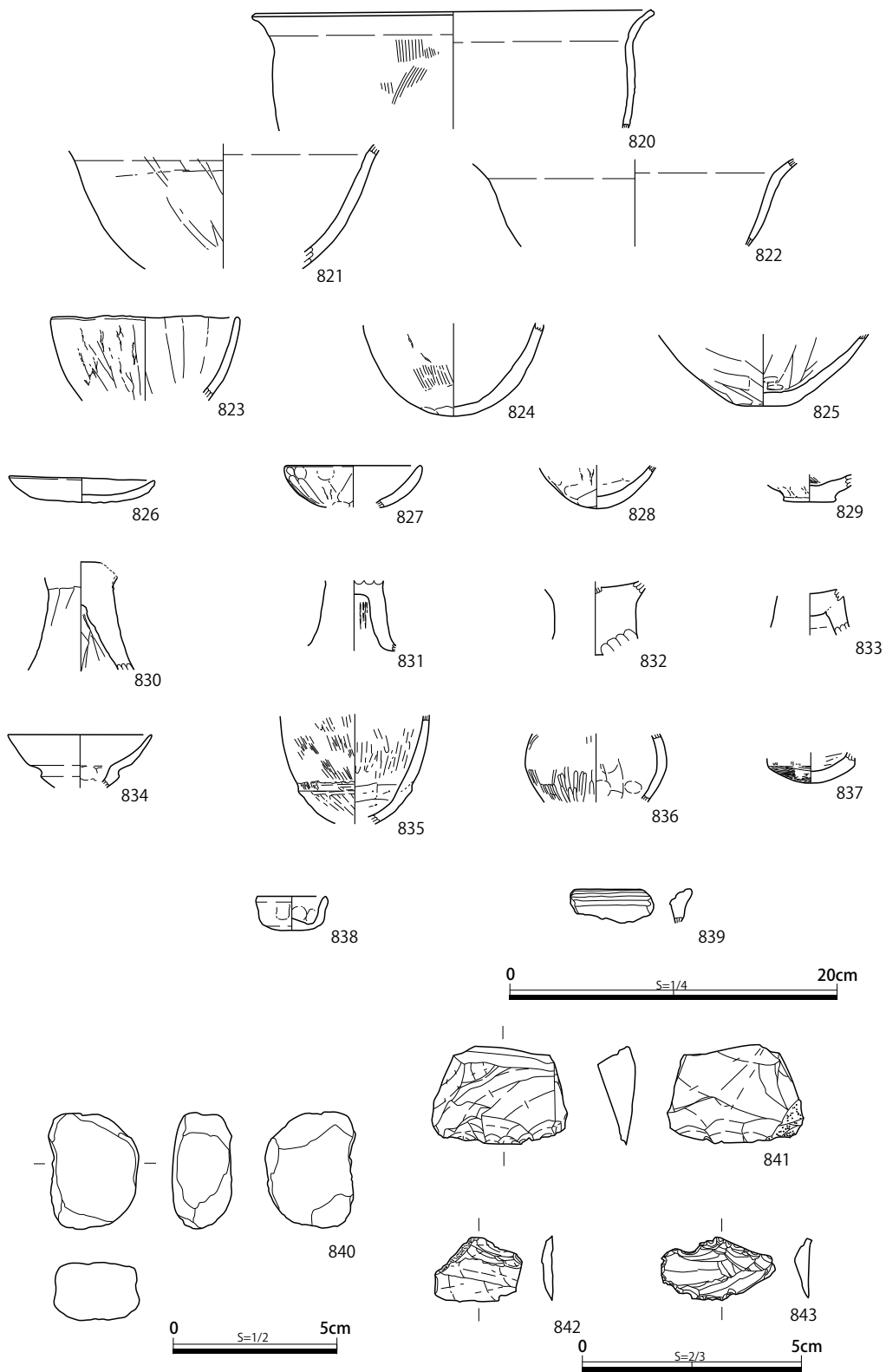
**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.40m、短軸は 0.32m、深さは 0.10m を測る。断面の形状は皿形である。

**土層** 黄褐色砂質土層が 1 層である。

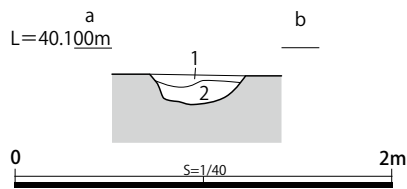
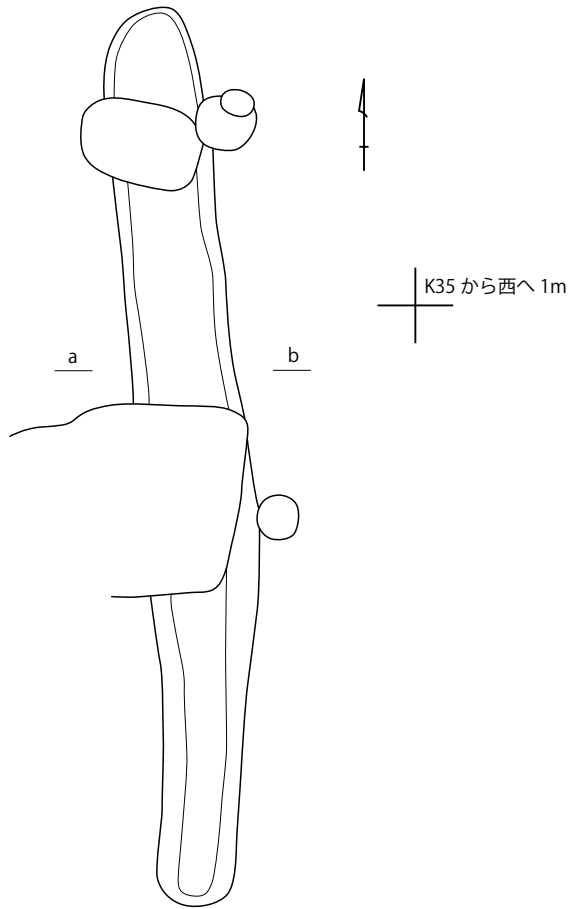
**遺物出土状況** 遺構上面を中心として、砂岩礫と共に土器が出土している。

**出土遺物** 865 は弥生土器の甕の体部である。

**時期** 出土した遺物から弥生時代終末以降の時期が想定される。

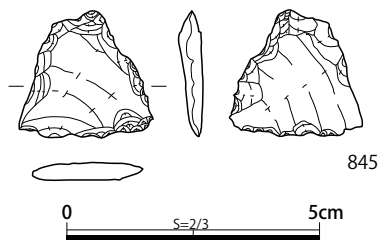
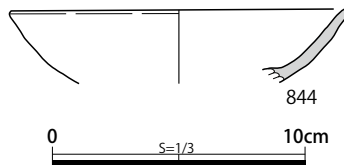


第419图 2区SB1004出土遺物③

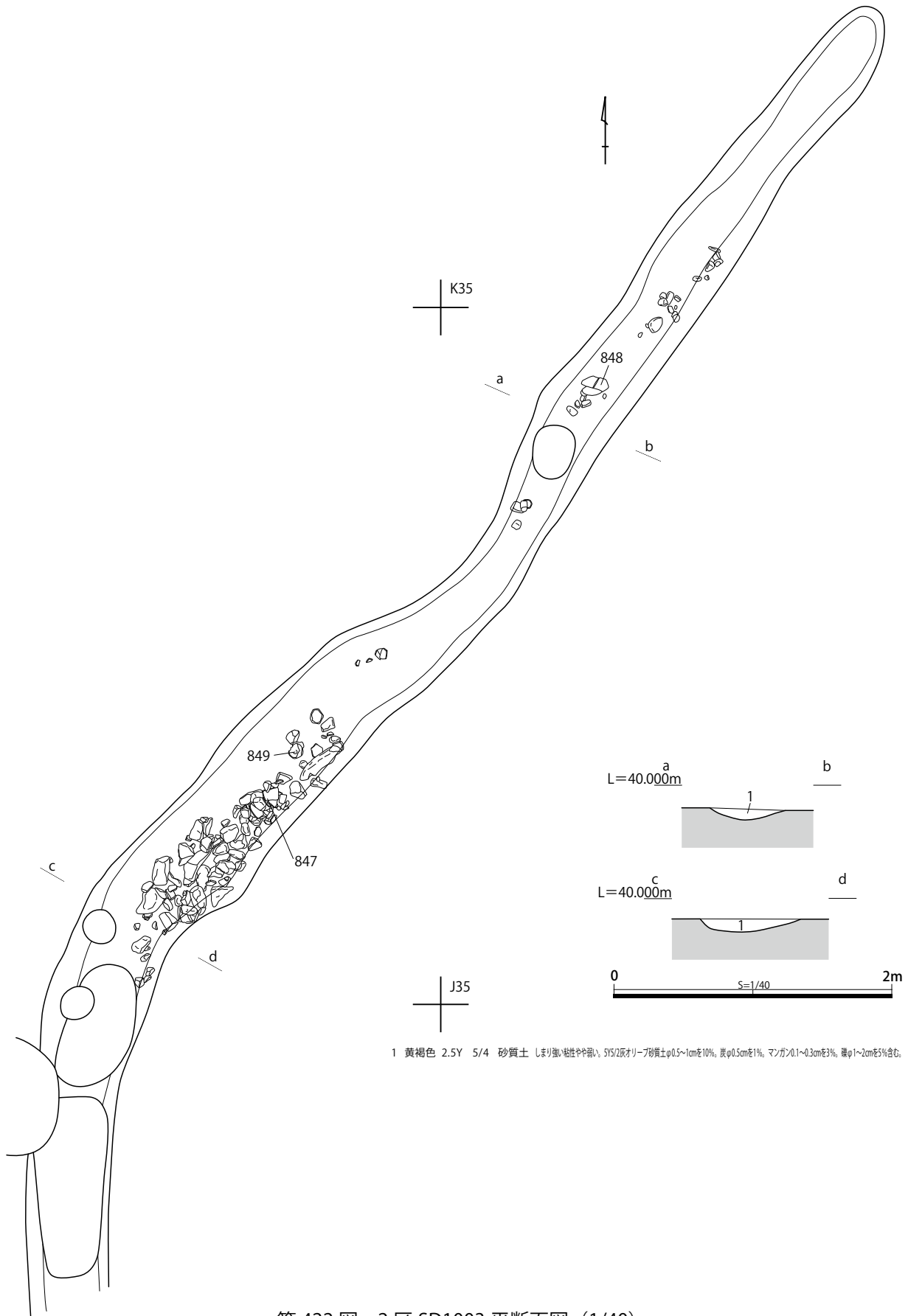


- 1 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土 しまり強い粘性や粘り、5Y5/2灰オリブ砂質土φ0.5~1.5cmを3%、2.5Y8/2灰白砂質土φ1~3cmを10%、マンガ0.1~0.2cmを5%、礫φ0.5~2cmを1%含む。  
 2 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土 しまりやや強い粘性や粘り、5Y5/2灰オリブ砂質土φ0.5~2cmを10%、2.5Y8/2灰白砂質土φ1~1.5cmを10%、礫φ1.5~2cmを5%含む。

第 420 図 2 区 SD1002 平断面図 (1/40)

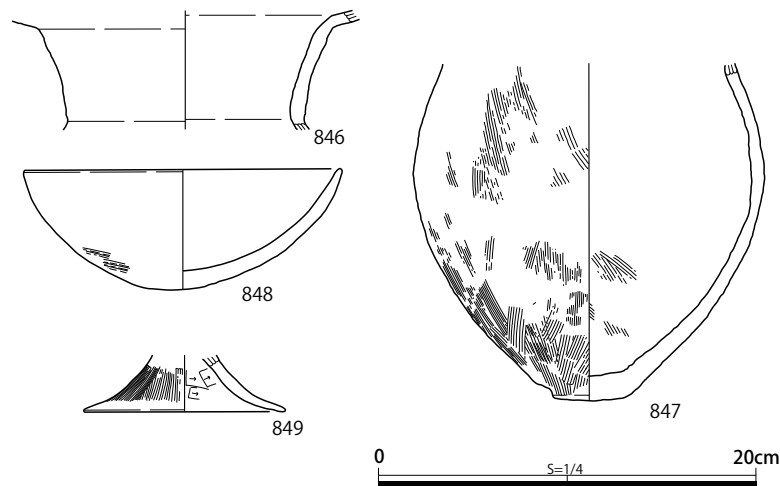


第 421 図 2 区 SD1002 出土遺物



1 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土 しまり強い粘性や粘り、S/S/2灰オリブ粉質土φ0.5~1cmを10%、炭φ0.5cmを1%、マンガン0.1~0.3cmを3%、礫φ1~2cmを5%含む。

第 422 図 2 区 SD1003 平断面図 (1/40)



第 423 図 2 区 SD1003 出土遺物

27 号小穴 (SP1027) (第 443・444 図)

**検出地点** J34 グリッド

**規模・形態** 平面形状はほぼ円形を呈し、径は 0.20m、深さは 0.17m を測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 何れも砂質土層で 2 層に分層される。

**遺物出土状況** 底部付近に礫が置かれており、その上方から土器が出土している。

**出土遺物** 866 は弥生土器の広口壺である。

**時期** 出土した遺物から弥生時代終末以降の年代が想定される。

29 号小穴 (SP1029) (第 445・446 図)

**検出地点** L35 グリッド

**規模・形態** 平面の形状は楕円形を呈し、長軸は 0.34m、短軸は 0.28m、深さは 0.44m を測る。断面の形状は長方形である。

**土層** 何れも砂質土層で 3 層に分層され、上部は黄褐色砂質土、下部にはオリーブ褐色砂質土が堆積している。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 867 は土師器の蓋である。外面に赤色顔料の塗られた痕が残っている。

**時期** 出土した遺物から平安時代 (9 世紀) 以降の年代が想定される。

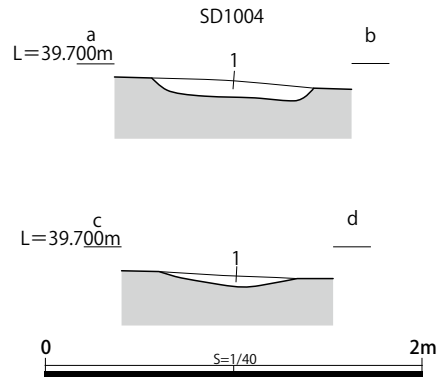
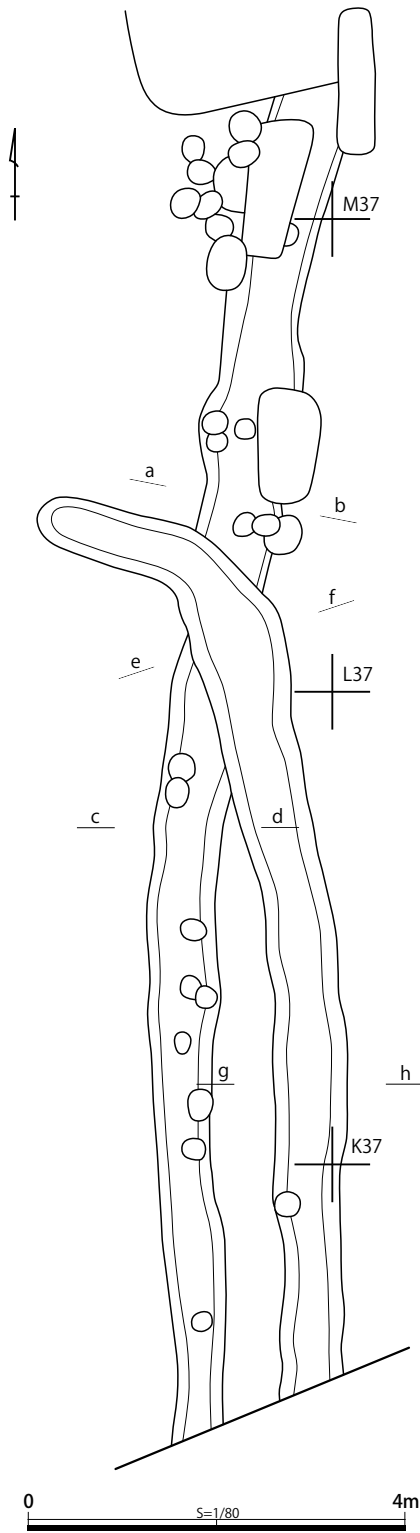
40 号小穴 (SP1040) (第 447・448 図)

**検出地点** K35 グリッド

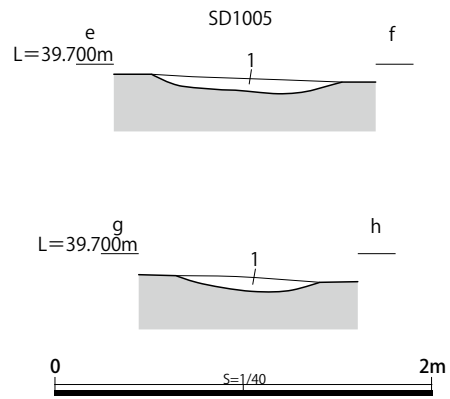
**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.40m、短軸は 0.34m、深さは 0.15m を測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 何れも砂質土層で 2 層に分層され上部は黄褐色砂質土、下部にはオリーブ褐色砂質土が堆積し



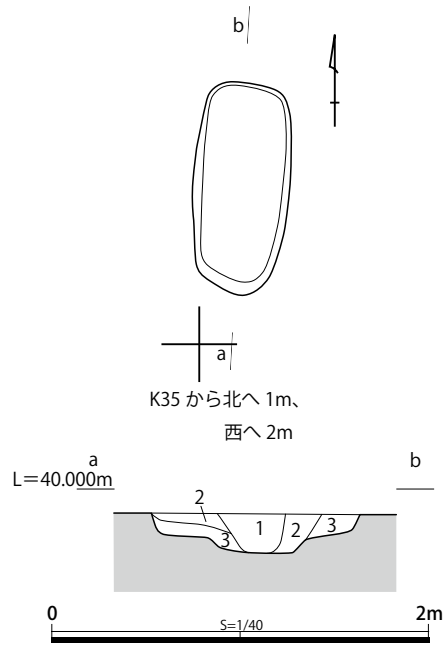


1 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い、SIS/2灰オリブ砂質土φ0.5~1cmを5%、炭φ0.1~0.2cmを3%、礫φ1.5~2cmを5%含む。



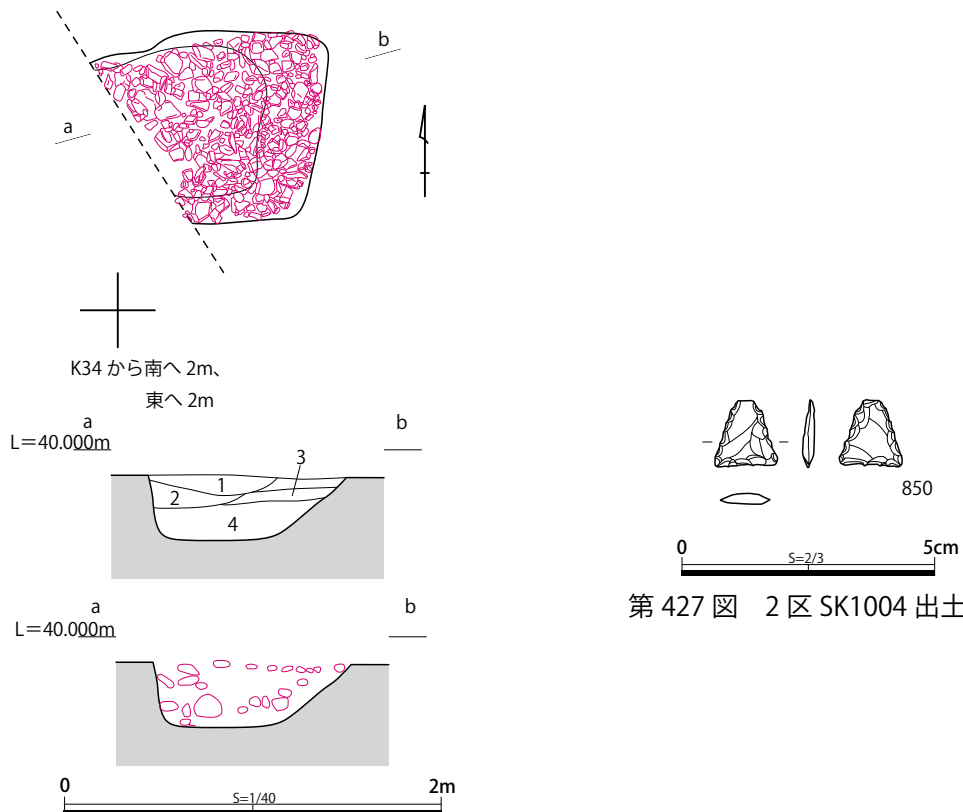
1 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い、SIS/2灰オリブ砂質土φ0.5~1cmを3%、マンガノφ0.1~0.3cmを3%、礫φ0.5~5cmを20%含む。

第 424 図 2 区 SD1004・SD1005 平断面図 (1/80・1/40)



- 1 暗オリーブ褐色 2.5Y 3/3 砂質土 しまりやや弱い粘性やや強い、S1S2灰オリーブ砂質土φ0.2~0.5cmを5%、2.5Y6/6明黄褐色砂質土φ0.5~1cmを10%、礫φ2~3cmを5%含む。  
 2 黒褐色 2.5Y 3/1 砂質土 しまりやや強い粘性やや強い、S1S2灰オリーブ砂質土φ0.2~0.5cmを3%、炭φ0.5cmを1%含む。  
 3 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土 しまりやや弱い粘性やや強い、S1S2灰オリーブ砂質土φ0.5~1.5cmを3%、礫φ1~3cmを3%含む。

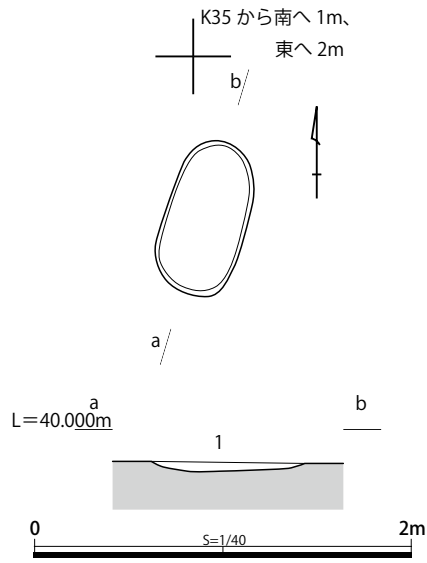
第 425 図 2 区 SK1002 平断面図 (1/40)



第 427 図 2 区 SK1004 出土遺物

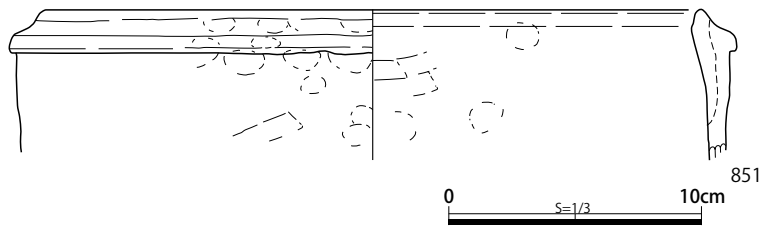
- 1 黄褐色 2.5Y 5/3 砂質土 しまり強い粘性やや弱い、2.5Y6/3にぶい黄砂質土φ1.5~2cmを10%、炭φ0.5~2cmを10%、礫φ2~7cmを5%含む。  
 2 暗オリーブ褐色 2.5Y 3/3 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い、炭φ0.5~1cmを3%、礫φ3~8cmを20%を含む。  
 3 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い、礫φ2~5cmを10%含む。  
 4 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い、礫φ3~15cmを50%以上含む礫層である。

第 426 図 2 区 SK1004 平断面図 (1/40)

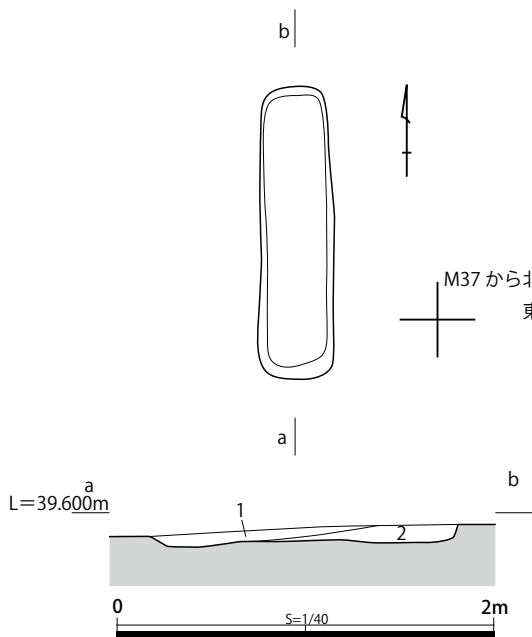


1 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土 しまりや強い粘性や中弱い、2.5Y8/2灰白砂質土φ0.5~1cmを10%、5Y5/2灰オリーブ砂質土φ0.5~1を3%、マンガノφ0.1~0.2cmを3%、礫φ2~5cmを3%含む。

第 428 図 2 区 SK1011 平断面図 (1/40)

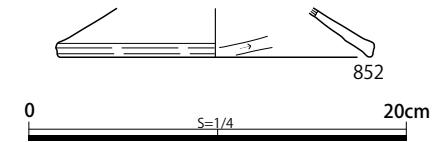


第 429 図 2 区 SK1011 出土遺物

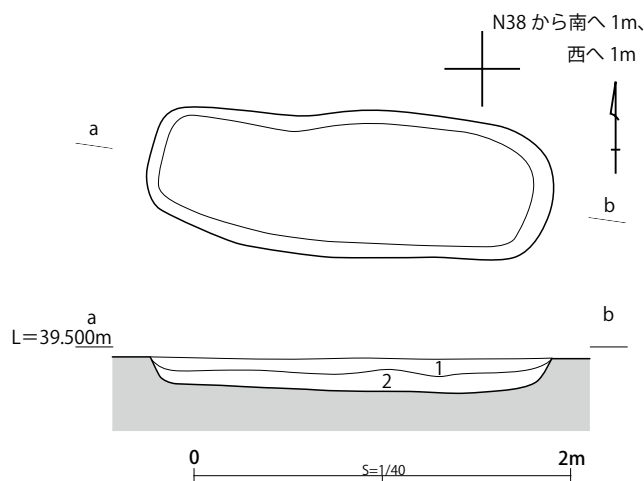


1 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土 しまりや中強い粘性や中弱い、5Y5/2灰オリーブ砂質土φ0.5~1cmを3%、マンガノφ0.1~0.2cmを3%、礫φ1.5~2cmを3%含む。  
2 暗オリーブ褐色 2.5Y 3/3 砂質土 しまりや中強い粘性や中弱い、灰φ0.5~1cmを3%、礫φ3~8cmを20%を含む。

第 430 図 2 区 SK1015 平断面図 (1/40)

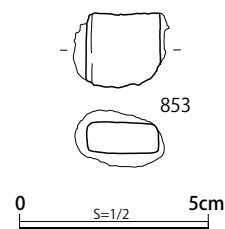


第 431 図 2 区 SK1015 出土遺物



- 1 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い、S/S/2灰オリブ砂質土φ0.5~1mmを3%含む。  
 2 オリブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土 しまり強い粘性弱い、S/S/2灰オリブ砂質土φ0.5~1mmを10%含む。

第 432 図 2 区 SK1017 平断面図 (1/40)



第 433 図 2 区 SK1017 出土遺物

ている。層中に炭化物粒をわずかに含んである。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 868 は弥生土器の広口壺である。869 はサヌカイトの剥片である。

**時期** 出土した遺物から弥生時代終末以降の年代が想定される。

#### 45 号小穴 (SP1045) (第 449・450 図)

**検出地点** J35 グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.32m、短軸は 0.26m、深さは 0.08m を測る。断面の形状は皿形である。

**土層** オリブ褐色砂質土層が 1 層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 870 は弥生土器の広口壺の口縁部である。

**時期** 出土した遺物から弥生時代終末以降の年代が想定される。

#### 50 号小穴 (SP1050) (第 451・452 図)

**検出地点** J35 グリッド

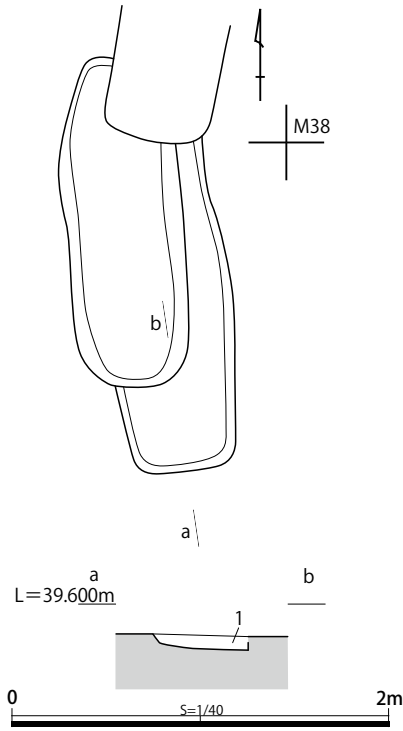
**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、東側を SP1049 に切られている。残存値で長軸は 0.32m、短軸は 0.30m、深さは 0.26m を測る。断面の形状は 2 段形である。

**土層** 何れも砂質土層で 2 層に分層され上部は黄褐色砂質土、下部にはオリブ褐色砂質土が堆積している。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

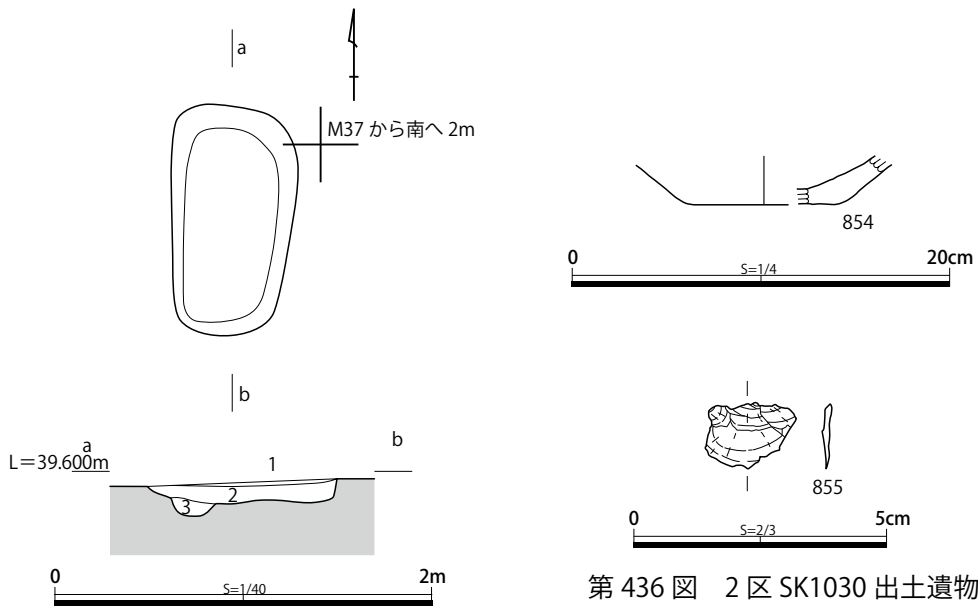
**出土遺物** 871 は土師器の杯である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

**時期** 出土した遺物から平安時代以降の年代が想定される。



1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い。S/S2灰オリーブ砂質土φ0.5~1cmを10%、炭φ0.1~0.2cmを1%、マンガンφ0.1~0.2cmを3%、礫φ0.5~2.5cmを3%含む。

第 434 図 2 区 SK1021 平断面図 (1/40)

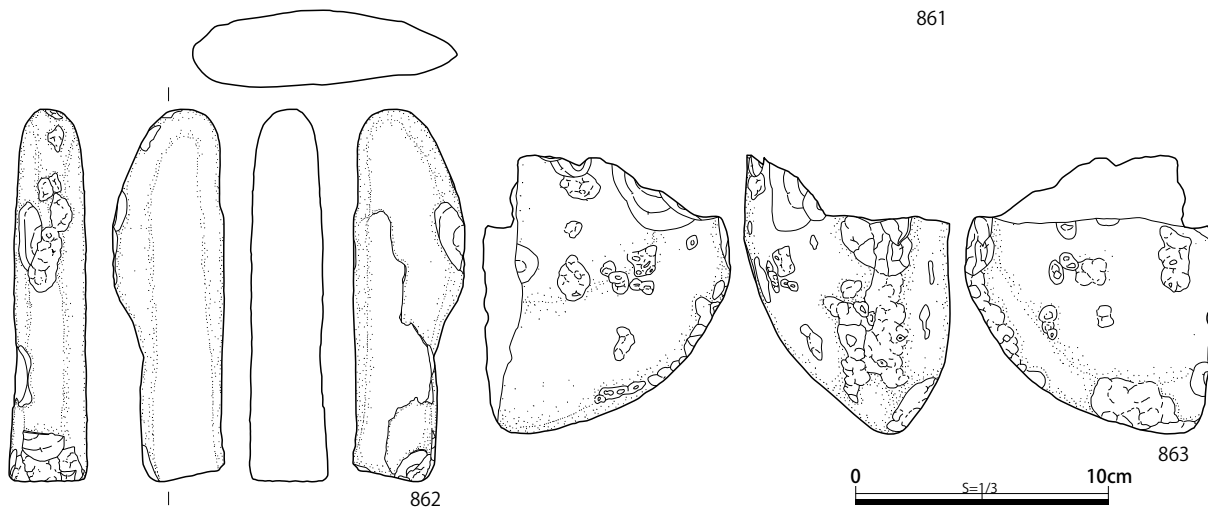
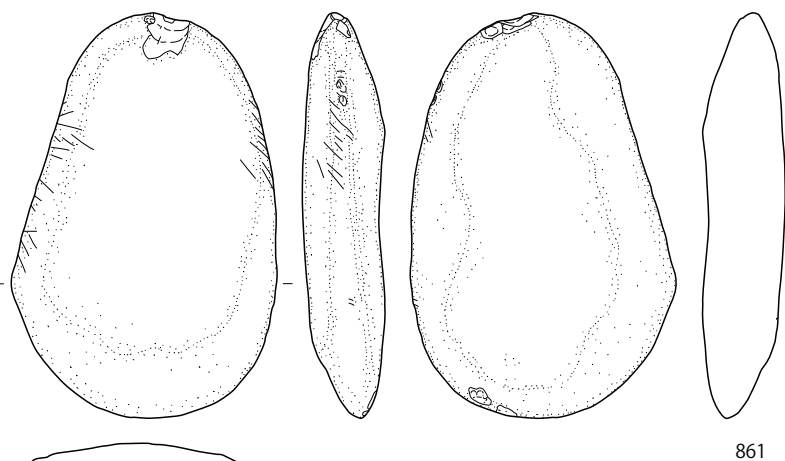
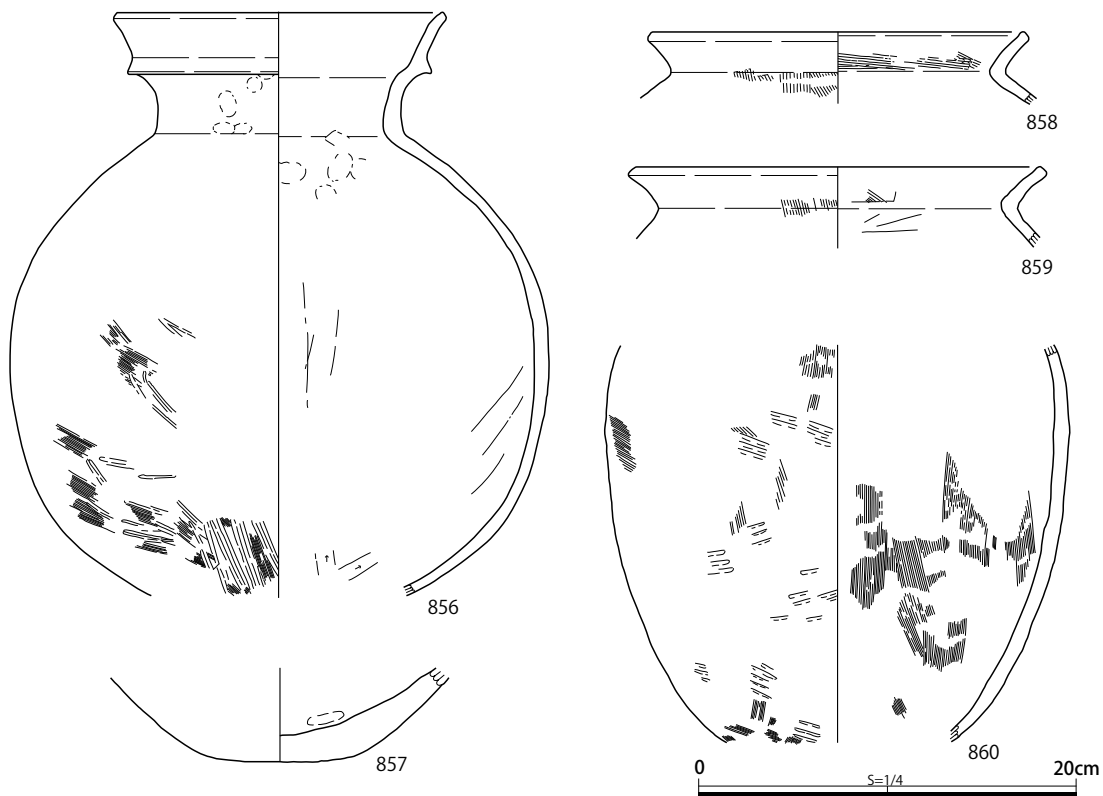


1 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い。  
 2 黄褐色 2.5Y 5/3 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い。  
 3 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い。

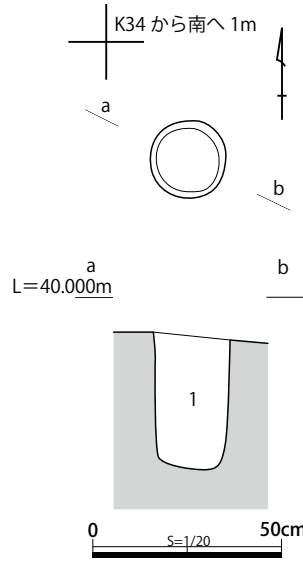
第 436 図 2 区 SK1030 出土遺物

第 435 図 2 区 SK1030 平断面図 (1/40)



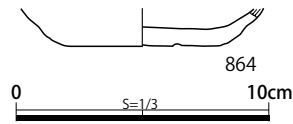


第 438 图 2 区 SK1039 出土遺物

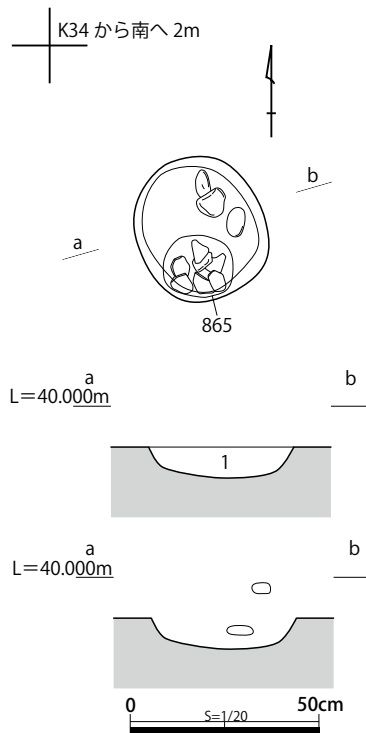


1 暗褐色 10YR 3/3 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い、炭φ0.2~0.3cmを3%、礫φ0.2~0.5cmを5%含む。

第 439 図 2 区 SP1014 平断面図 (1/20)

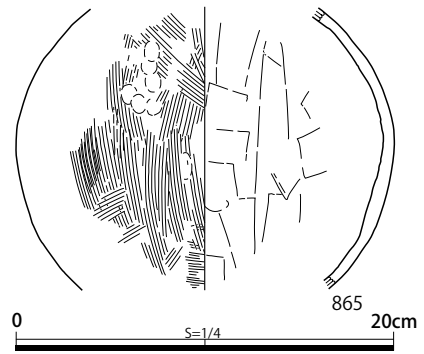


第 440 図 2 区 SP1014 出土遺物



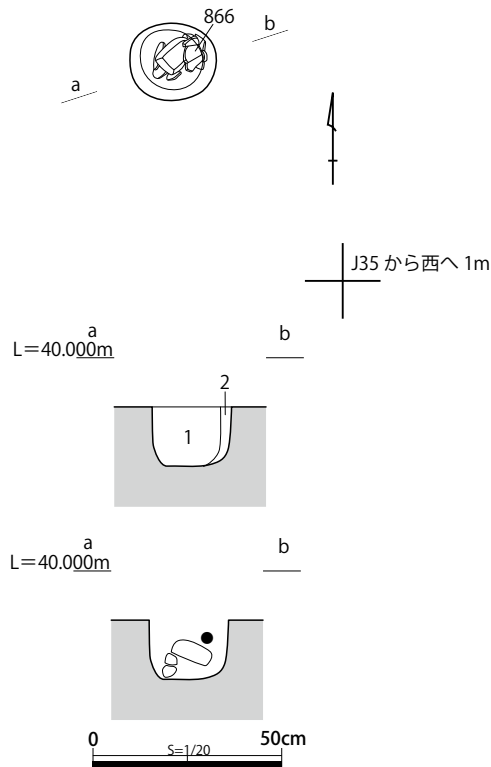
1 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土 しまり強い粘性やや強い。2.5Y6/3にふい黄砂質土φ1~2cmを10%、礫φ5cmを含む。

第 441 図 2 区 SP1015 平断面図 (1/20)



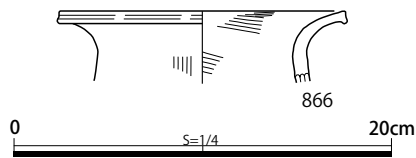
第 442 図 2 区 SP1015 出土遺物





1 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土 しまり強い粘性弱い、S1S/2灰オリブ粉質土 $\phi$ 0.2~0.5cmを5%、マンガノ $\phi$ 0.1~0.3cmを3%、層 $\phi$ 2~7mを32%含む。  
 2 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土 しまり強い粘性弱い、S1S/2灰オリブ粉質土 $\phi$ 0.5~1cmを10%含む。

第 443 図 2 区 SP1027 平断面図 (1/20)



第 444 図 2 区 SP1027 出土遺物

**土層** オリーブ褐色砂質土が 1 層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 873 は土師質土器の羽釜の底部である。874 は管状の土錘である。

**時期** 出土した遺物から鎌倉時代の年代が想定される。

206 号小穴 (SP1206) (第 457・458 図)

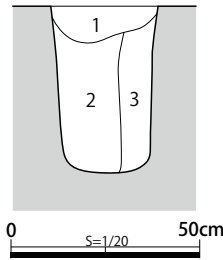
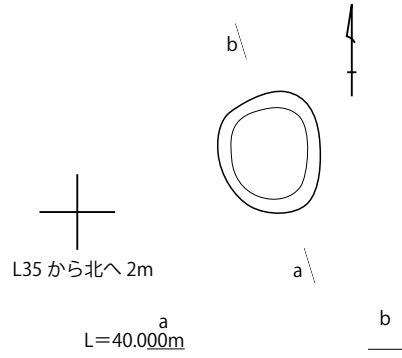
**検出地点** M39 グリッド

**規模・形態** 平面形状はほぼ円形を呈し、長軸は 0.22m、短軸は 0.20m、深さは 0.10m を測る。断面の形状は 2 段形である。

**土層** 何れも砂質土層で 2 層に分層される。

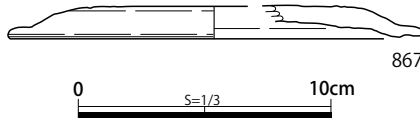
**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 875 は弥生土器の甕である。

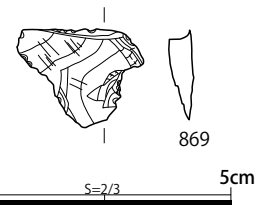
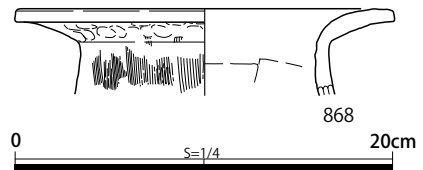
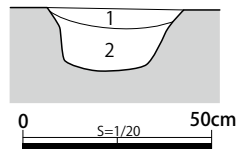
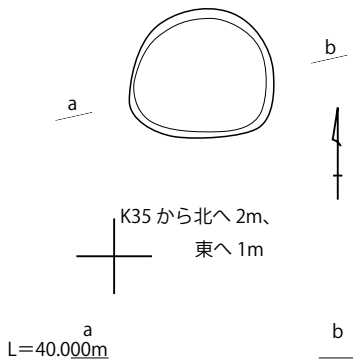


- 1 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土 しまりやや強い粘性弱い、2.5Y6/6明黄褐砂質土φ0.5~1.5cmを10%、礫φ2cmを含む。
- 2 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い、5Y5/2灰オリーブ砂質土φ0.5cmを5%、炭φ0.1~0.5cmを3%含む。
- 3 オリーブ褐色 2.5Y 4/6 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い、5Y5/2灰オリーブ砂質土φ3cmを10%、礫φ2cmを含む。

第 445 図 2 区 SP1029 平断面図 (1/20)



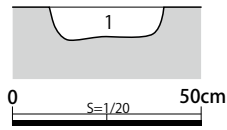
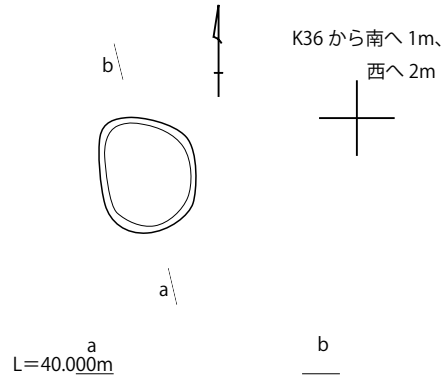
第 446 図 2 区 SP1029 出土遺物



第 448 図 2 区 SP1040 出土遺物

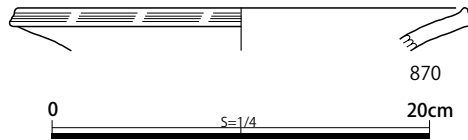
- 1 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土 しまり強い粘性やや強い、5Y5/2灰オリーブ砂質土φ0.5~1.5cmを5%、炭φ0.1~0.5cmを3%含む。
- 2 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い、2.5Y6/4にぶい黄砂質土φ1~1.5cmを10%、炭φ0.1~0.2cmを1%、マンガングφ0.1~0.2cmを5%含む。

第 447 図 2 区 SP1040 平断面図 (1/20)

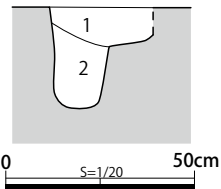
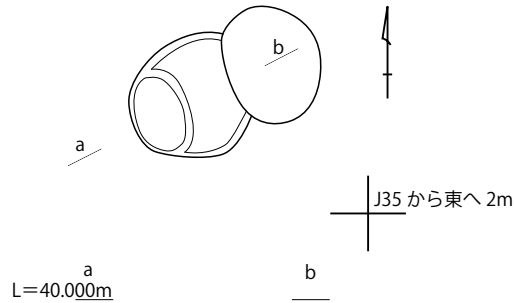


1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土 しまり強い粘性や粘り強い、S/S/2灰オリーフ砂質土(柱状)φ0.5~1.5cmを5%、2.5Y/6(明黄褐色)砂質土φ0.3~1cmを10%含む。

第 449 図 2 区 SP1045 平断面図 (1/20)

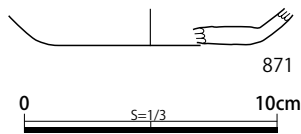


第 450 図 2 区 SP1045 出土遺物

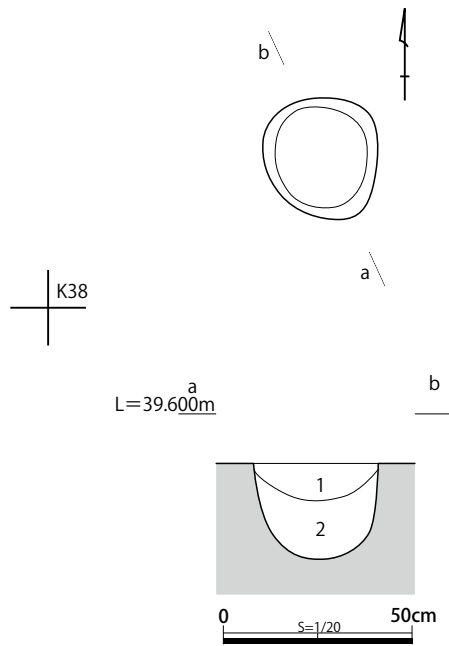


1 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土 しまり強い粘性や粘り強い、S/S/2灰オリーフ砂質土φ0.2~1cmを10%、礫φ1.5~2cmを5%含む。  
2 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土 しまり強い粘性や粘り強い、S/S/2灰オリーフ砂質土φ0.2~0.5cmを5%、2.5Y/6(3)に似た黄砂質土φ0.5~1cmを5%、礫φ0.5~3cmを5%含む。

第 451 図 2 区 SP1050 平断面図 (1/20)

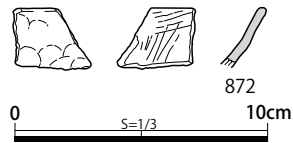


第 452 図 2 区 SP1050 出土遺物

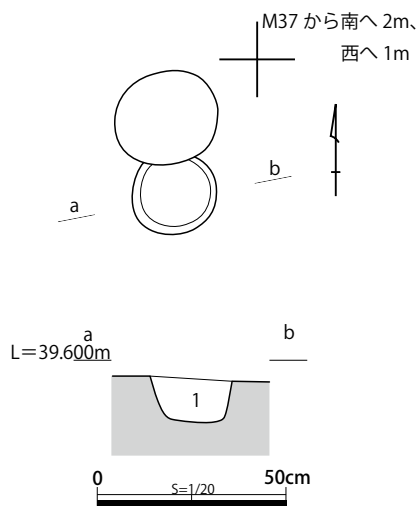


- 1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い、S/S/2灰オリ-ブ砂質土φ0.2~1cmを5%、炭φ0.2~0.5cmを1%、礫φ0.5~1.5cmを3%含む。  
 2 にぶい黄色 2.5Y 6/3 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い、炭φ0.2~0.5cmを1%含む。

第 453 図 2 区 SP1116 平断面図 (1/20)

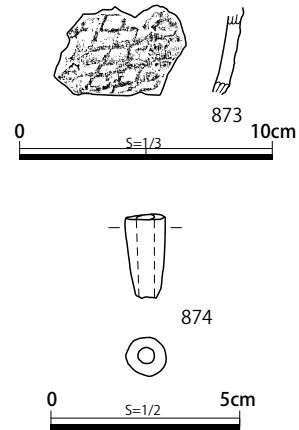


第 454 図 2 区 SP1116 出土遺物

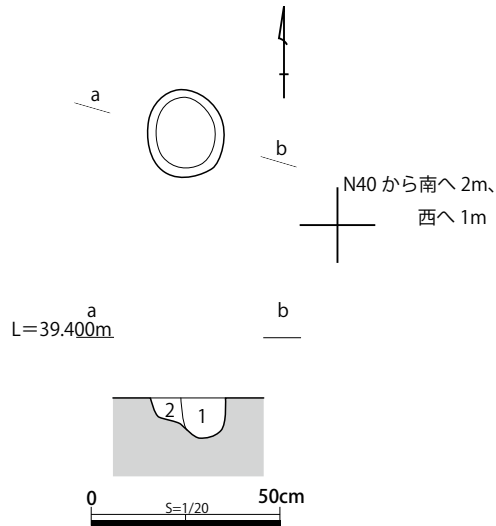


- 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い、S/S/2灰オリ-ブ砂質土φ0.5cmを3%、炭φ0.1~0.2cmを1%、礫φ1.5~2cmを2%含む。

第 455 図 2 区 SP1159 平断面図 (1/20)

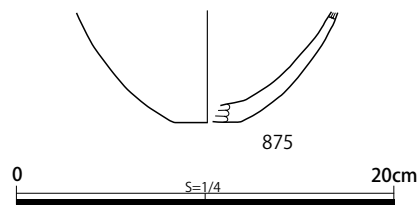


第 456 図 2 区 SP1159 出土遺物

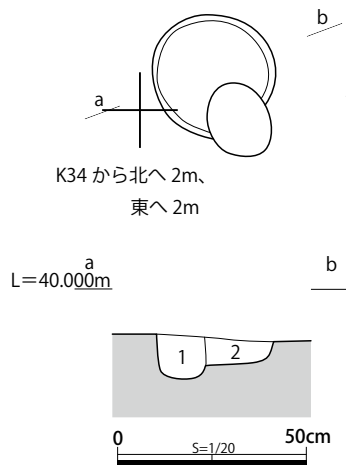


- 1 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土 しまりや強い粘性やや弱い、S15/2灰オリブ砂質土φ0.2~0.3mmを5%、炭φ0.1~0.3mmを1%、マンガングφ0.1~0.2mmを1%含む。  
 2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土 しまりや強い粘性やや弱い、S15/2灰オリブ砂質土φ0.2~0.3mmを3%、マンガングφ0.1~0.2mmを1%含む。

第 457 図 2 区 SP1206 平断面図 (1/20)

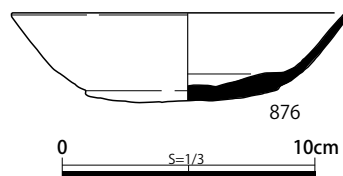


第 458 図 2 区 SP1206 出土遺物



- 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土 しまりや強い粘性やや弱い、S15/2灰オリブ砂質土φ0.2~0.3mmを5%、2.5Y6/3に多い黄砂質土φ1~1.5mmを10%含む。  
 2 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土 しまりや強い粘性やや弱い、S15/2灰オリブ砂質土φ0.2~0.5mmを3%、マンガングφ0.2~0.5mmを3%、炭φ0.1~0.2mmを2%含む。

第 459 図 2 区 SP1235 平断面図 (1/20)



第 460 図 2 区 SP1235 出土遺物

**時期** 出土した遺物から弥生時代終末以降の年代が想定される。

235 号小穴 (SP1235) (第 459・460 図)

**検出地点** K34 グリッド

**規模・形態** 平面形状はほぼ円形を呈し、南側を SP1234 に切られている。残存値で径は 0.32m、深さは 0.12m を測る。断面の形状は 2 段形である。

**土層** 何れも砂質土層で 2 層に分層される。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 876 は須恵器の杯である。

**時期** 出土した遺物から平安時代 (9 世紀) 以降の年代が想定される。

236 号小穴 (SP1236) (第 461・462 図)

**検出地点** M38 グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.47m、短軸は 0.37m、深さは 0.20m を測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 何れも砂質土層で 2 層に分層され上部は黄褐色砂質土、下部にはにぶいオリーブ褐色砂質土が堆積している。

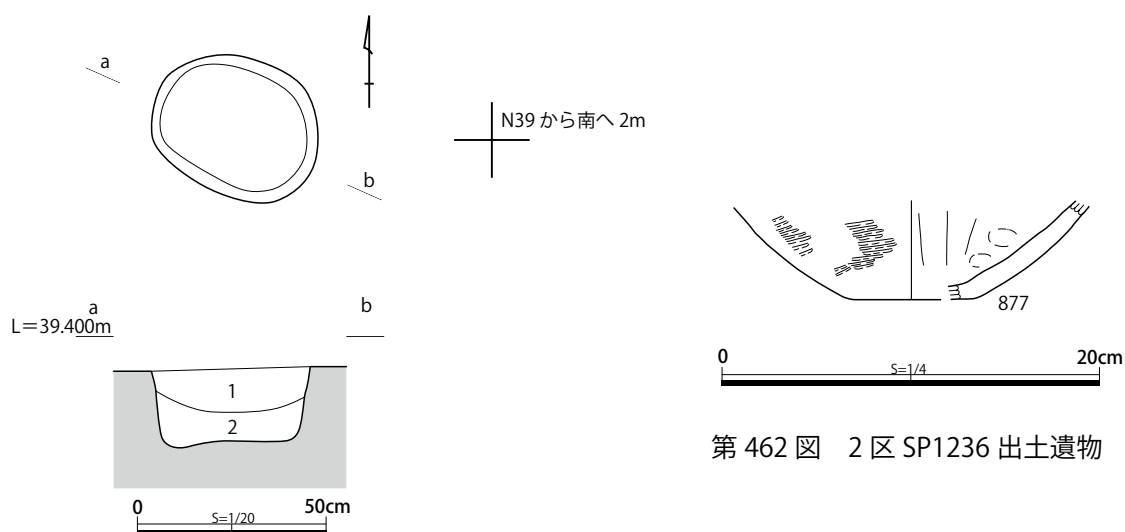
**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 877 は弥生土器の甕である。

**時期** 出土した遺物から弥生時代終末以降の年代が想定される。

237 号小穴 (SP1237) (第 463・464 図)

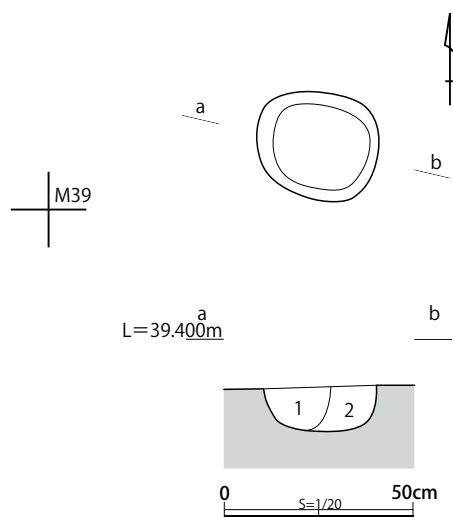
**検出地点** M39 グリッド



第 462 図 2 区 SP1236 出土遺物

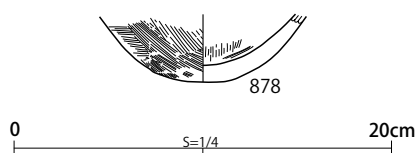
1 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い、2.5Y8/2灰白砂質土 $\phi$ 0.5~1cmを10%、5Y5/2灰オリーブ砂質土 $\phi$ 0.5cmを3%、マンガ $\phi$ 0.2~0.3cmを5%含む。  
2 オリーブ褐色 2.5Y 4/4 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い、5Y5/2灰オリーブ砂質土 $\phi$ 0.3~0.5cmを3%、2.5Y5/1黄灰砂質土 $\phi$ 0.5~1cmを3%、マンガ $\phi$ 0.2~0.5cmを5%含む。

第 461 図 2 区 SP1236 平断面図 (1/20)



1 オリーブ褐色 2.5Y 4/4 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い、炭 $\phi$ 0.1~0.2cmを1%、マンガ $\phi$ 0.1~0.2cmを1%、礫 $\phi$ 1~1.5cmを3%含む。  
 2 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い、炭 $\phi$ 0.2~0.5cmを2%、マンガ $\phi$ 0.1~0.2cmを1%、礫 $\phi$ 0.5~1cmを3%含む。

第 463 図 2 区 SP1237 平断面図 (1/20)



第 464 図 2 区 SP1237 出土遺物

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.32m、短軸は 0.28m、深さは 0.12m を測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 何れも砂質土層で 2 層に分層される。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 878 は弥生土器の甕の底部である。

**時期** 出土した遺物から弥生時代終末以降の年代が想定される。

241 号小穴 (SP1241) (第 465・466 図)

**検出地点** L39 グリッド

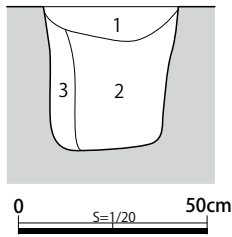
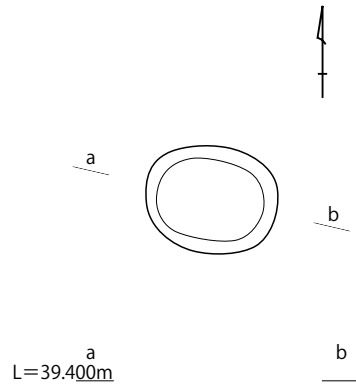
**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.35m、短軸は 0.27m、深さは 0.37m を測る。断面の形状は長方形である。

**土層** 何れも砂質土層で 3 層に分層され、上部 (1 層) は黄褐色砂質土層、下部 (2、3 層) はオリーブ褐色砂質土層が堆積している。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

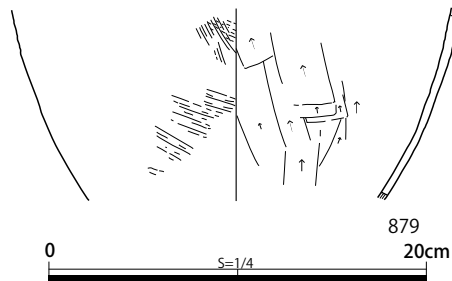
**出土遺物** 879 は弥生土器の甕の体部である。

**時期** 出土した遺物から弥生時代終末以降の年代が想定される。



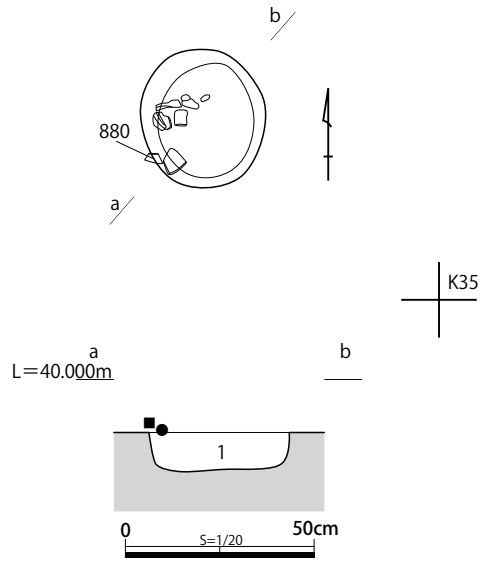
- 1 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い、S15/2灰オリブ砂質土φ0.5~1cmを5%、炭φ0.1~0.3cmを1%、マンガンφ0.1~0.5cmを3%、礫φ1cmを1%含む。
- 2 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い、S15/2灰オリブ砂質土φ0.5~1cmを5%、マンガンφ0.1~0.2cmを1%含む。
- 3 オリーブ褐色 2.5Y 4/6 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い、S15/2灰オリブ砂質土φ1~1.5cmを10%、炭φ0.2~0.5cmを1%、マンガンφ0.1~0.2cmを2%含む。

第465図 2区 SP1241 平断面図 (1/20)



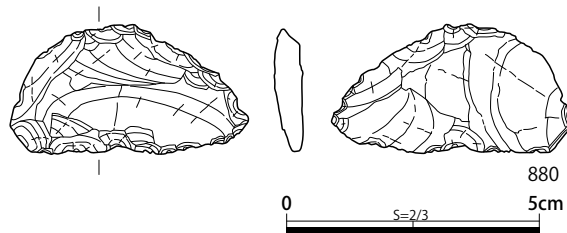
第466図 2区 SP1241 出土遺物



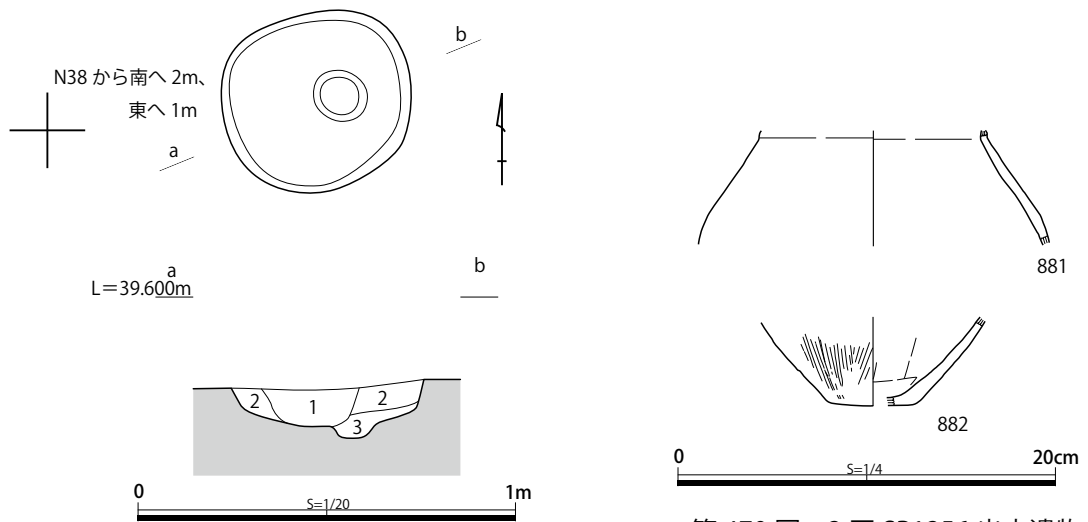


1 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土 しまりや中強、粘性や中弱、SfSf2灰オリブ砂質土φ0.5~1cmを5%、マンガンφ0.1~0.2cmを10%含む。

第467図 2区 SP1254 平断面図 (1/20)

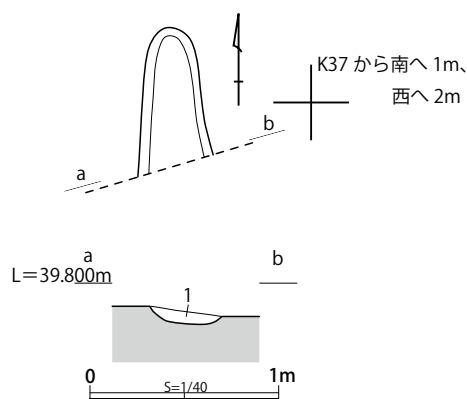


第468図 2区 SP1254 出土遺物



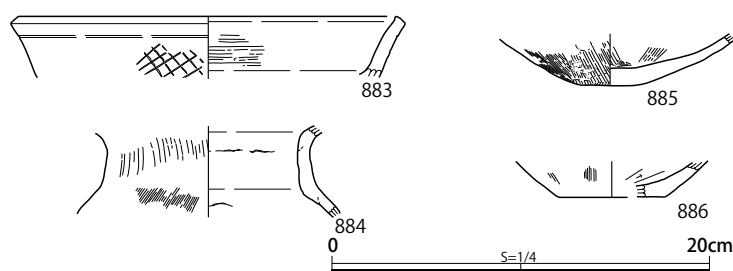
1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土 しまりや中強、粘性や中弱、10fR3(珪礫砂質土)0.2~0.5cmを10%、SfSf2灰オリブ砂質土φ0.1~0.5cmを5%、マンガンφ0.1~0.3cmを5%含む。  
 2 オリーブ褐色 2.5Y 4/4 砂質土 しまりや中強、粘性や中弱、SfSf2灰オリブ砂質土φ0.5~1cmを3%、10fR3(珪礫砂質土)φ1~2cmを5%、マンガンφ0.2~0.5cmを3%含む。  
 3 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土 しまりや中強、粘性や中弱。

第469図 2区 SP1256 平断面図 (1/20)



1 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土 しまりや強い粘性や弱い、SIS/灰オリブ砂質土 $\phi$ 0.2~0.5cm $\leq$ 10%、マンガ $\phi$ 0.1~0.3cm10%、 $\phi$ 0.5~2cmを1%含む。

第 471 図 2 区 SX1001 平断面図 (1/40)



第 472 図 2 区 SX1001 出土遺物

#### 254 号小穴 (SP1254) (第 467・468 図)

**検出地点** K34 グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.38m、短軸は 0.33m、深さは 0.10m を測る。断面の形状は皿形である。

**土層** 黄褐色砂質土層が 1 層である。

**遺物出土状況** 遺構上面から出土している。

**出土遺物** 880 はチャートの剥片を素材とした削器である。

**時期** 縄文～弥生時代前期以降の年代が想定される。

#### 256 号小穴 (SP1256) (第 469・470 図)

**検出地点** M38 グリッド

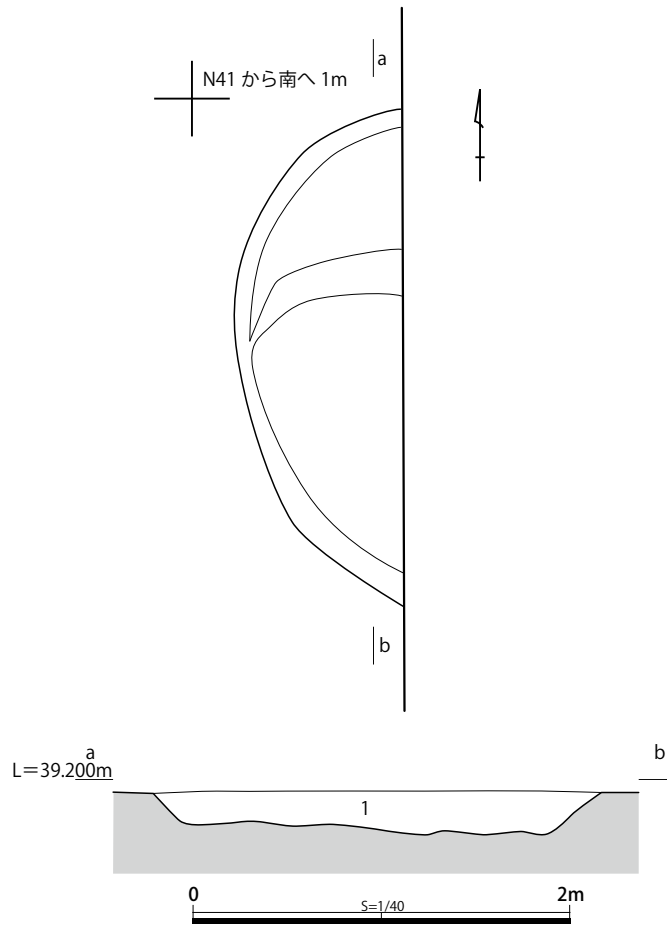
**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.52m、短軸は 0.45m、深さは 0.13m を測る。断面の形状は 2 段形である。

**土層** 何れも砂質土層で 3 層に分層され、1 層 (暗灰黄色砂質土層) が 2 層 (オリブ褐色砂質土層)、3 層 (黄褐色砂質土層) を切り込むように堆積している。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

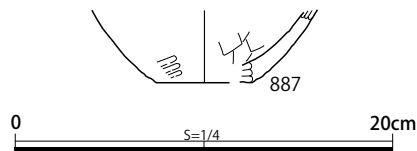
**出土遺物** 881、882 は弥生土器の甕である。いずれも讃岐地方からの搬入品である。

**時期** 出土した遺物から弥生時代終末以降の年代が想定される。



1 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い。マンガン $\phi$ 0.1~0.2cm10%、礫 $\phi$ 0.5~2cmを5%含む。

第 473 図 2 区 SX1002 平断面図 (1/40)



第 474 図 2 区 SX1002 出土遺物

#### 1 号性格不明遺構 (SX1001) (第 471・472 図)

**検出地点** J36 グリッド

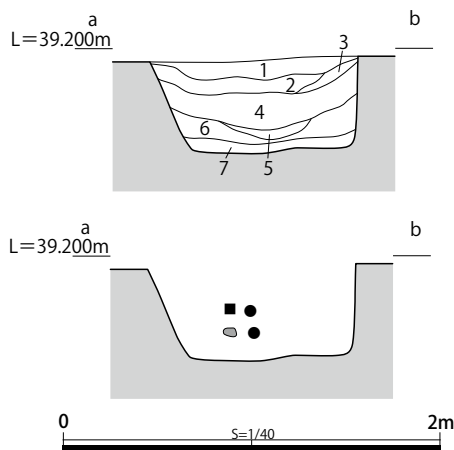
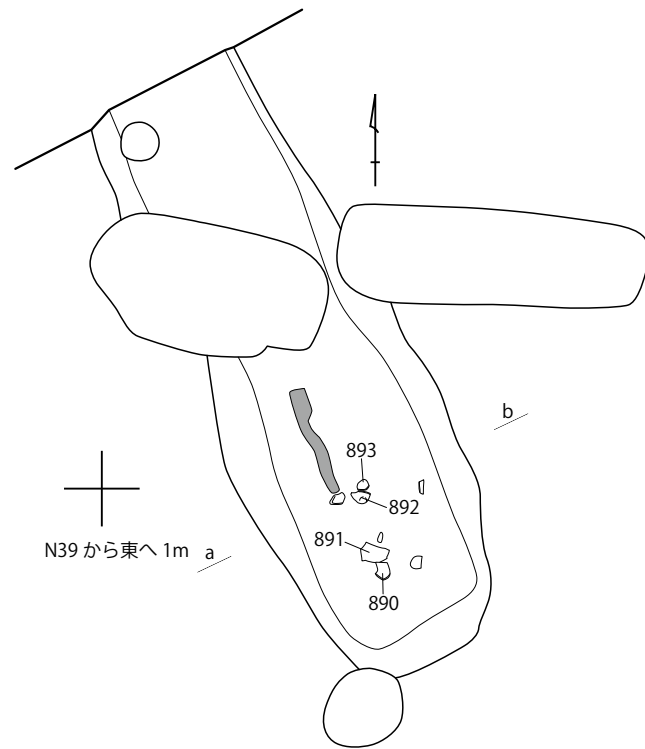
**規模・形態** 南北方向に延びる溝状の遺構で、南側は攪乱により切られている。残存値で長軸は 0.74m、短軸は 0.36m、深さは 0.06m を測る。断面の形状は皿形である。

**土層** 黄褐色砂質土層が 1 層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 883～886 は弥生土器。883 は二重口縁壺で鋸歯文が施される。884 は広口壺で讃岐からの搬入品である。885 は鉢、886 は甕の底部である。

**時期** 出土した遺物から弥生時代終末以降の年代が想定される。



- |   |        |      |     |     |  |
|---|--------|------|-----|-----|--|
| 1 | 黄褐色    | 2.5Y | 5/4 | 砂質土 | しまりやや強い粘性やや弱い。2.5Y6/6明黄褐φ0.3~0.5cmを1%含む。     |
| 2 | オリーブ褐色 | 2.5Y | 4/4 | 砂質土 | しまりやや強い粘性やや弱い。                               |
| 3 | オリーブ褐色 | 2.5Y | 4/3 | 砂質土 | しまりやや弱い粘性やや弱い。マンガングφ0.1cmを2%。礫φ0.5~1cmを2%含む。 |
| 4 | 黄褐色    | 2.5Y | 5/3 | 砂質土 | しまりやや強い粘性やや弱い。                               |
| 5 | 黄褐色    | 2.5Y | 5/3 | 砂質土 | しまりやや強い粘性弱い。                                 |
| 6 | 黄褐色    | 2.5Y | 5/4 | 砂質土 | しまりやや強い粘性やや弱い。5Y5/2灰オリーブ砂質土φ0.1~0.5cmを3%含む。  |
| 7 | オリーブ褐色 | 2.5Y | 4/6 | 砂質土 | しまりやや強い粘性やや弱い。                               |

第 475 図 2 区 SX1003 平断面図 (1/40)

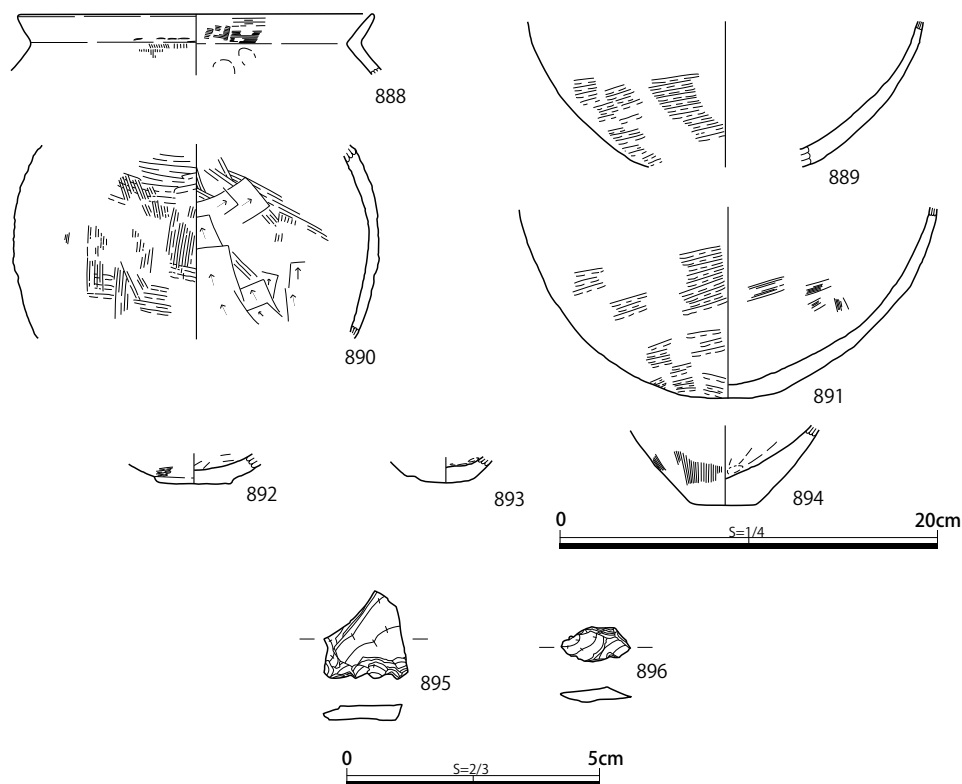
2 号性格不明遺構 (SX1002) (第 473・474 図)

**検出地点** M41 グリッド

**規模・形態** 平面の形状は円形を呈するとみられるが東側は調査区外に延びている。残存値で長軸は 2.64m、短軸は 0.90m、深さは 0.23m を測る。断面の形状は皿形である。

**土層** 黄褐色砂質土層が 1 層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。



第476図 2区 SX1003 出土遺物

**出土遺物** 887は弥生土器の甕の底部である。

**時期** SB1003、SB1004の埋没後に掘削されているため、弥生時代終末以降の年代が想定される。

### 3号性格不明遺構（SX1003）（第475・476図）

**検出地点** M・N39グリッド

**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈するとみられるが、北側は調査区外に延びている。また中央部分をSK1033、SK1039などに切られている。残存値で長軸は3.38m、短軸は1.20m、深さは0.48mを測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 何れも砂質土層で7層に分層され、黄褐色砂質土層とオリーブ褐色砂質土層が互層堆積をみせている。

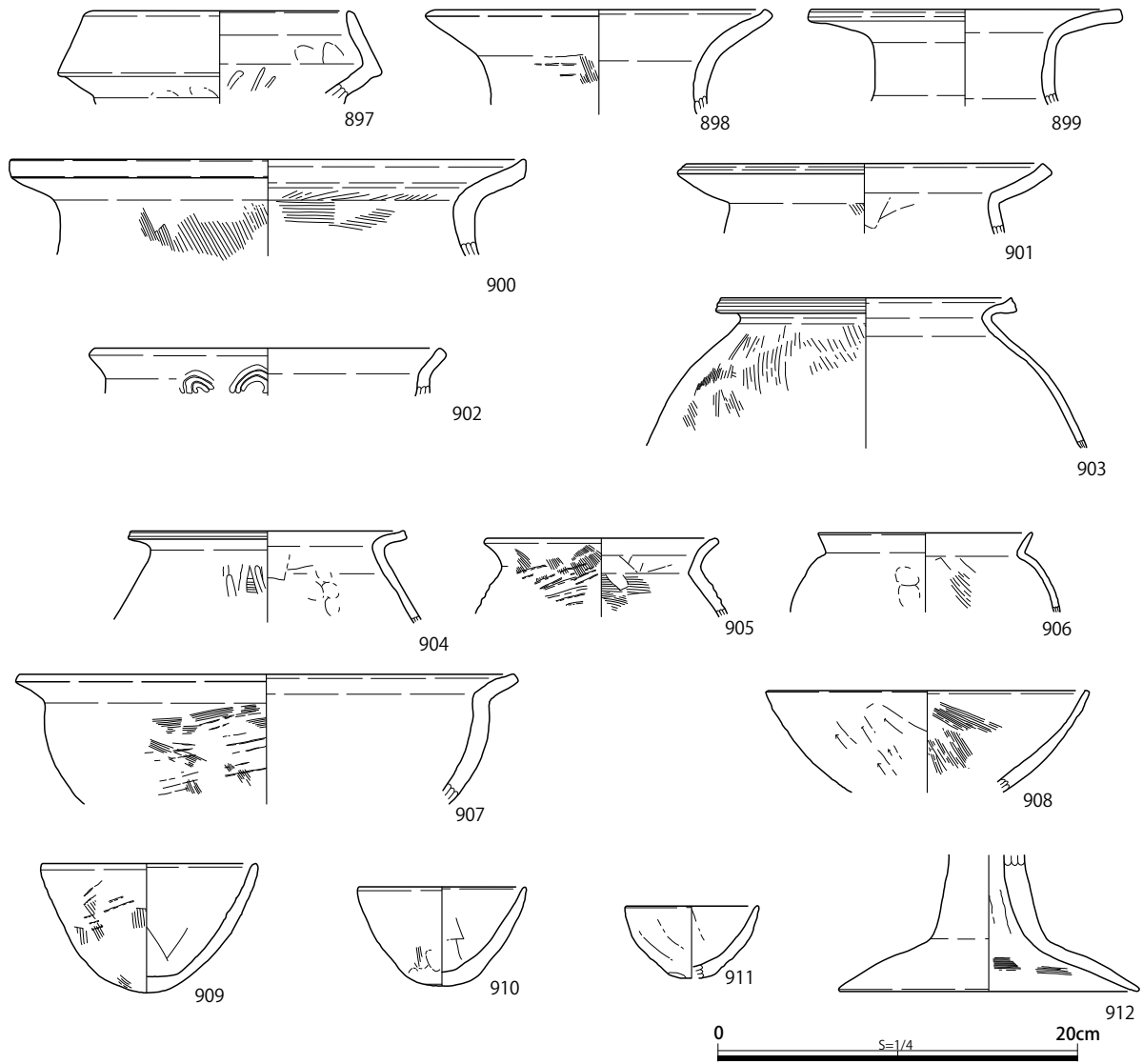
**遺物出土状況** 南半部の中層部分（4～6層）を中心として土器や炭化材が出土している。

**出土遺物** 888～894は弥生土器。888～893は甕で体部が球形状に張るものが多い。894は壺の底部である。895はサヌカイト製の削器、896はサヌカイトの剥片である。

**時期** 出土した遺物から弥生時代終末以降の年代が想定される。

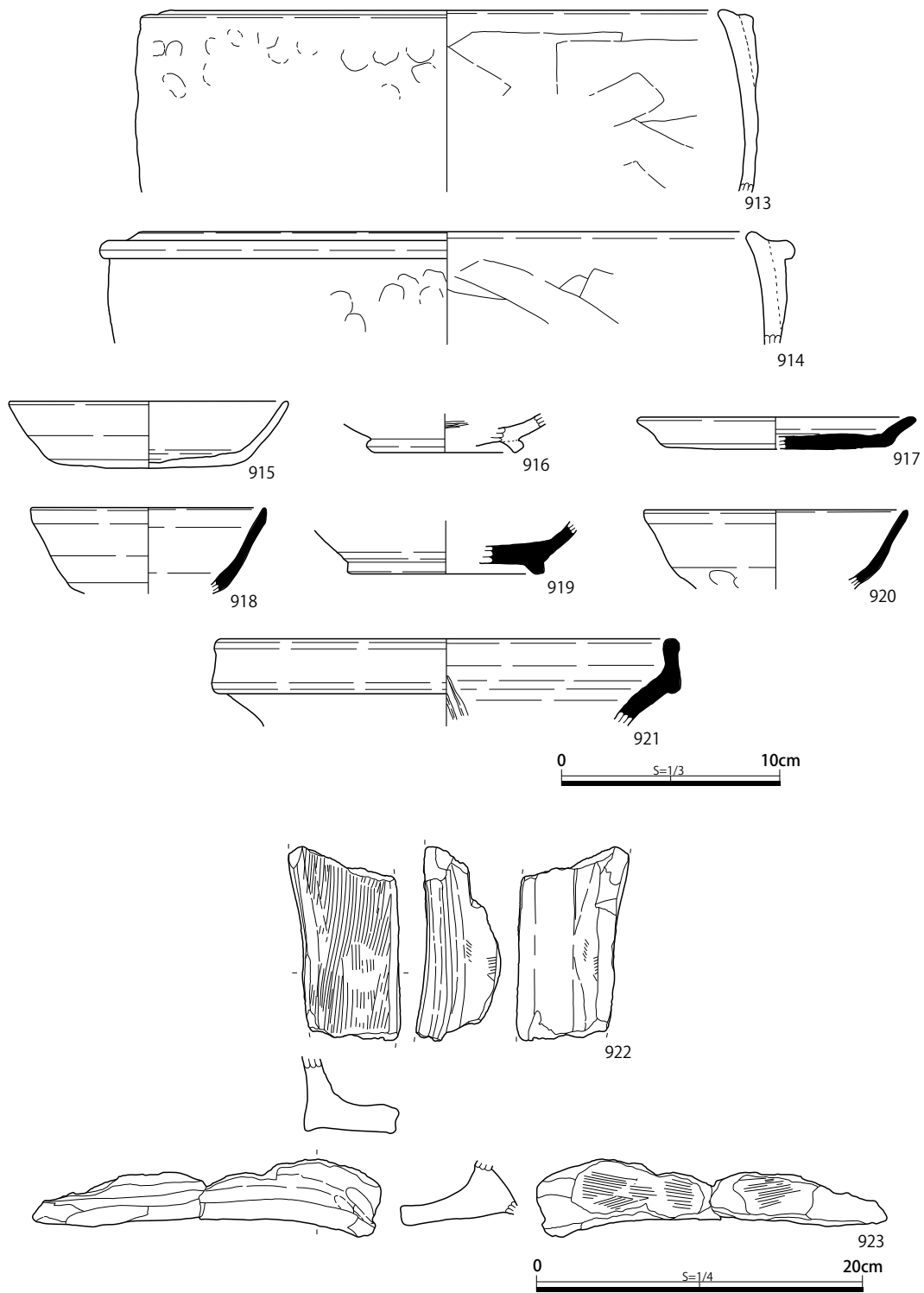
### 包含層出土遺物（第477・478図）

897～912は弥生時代終末から古墳時代初頭の土器である。897～902は壺、903～906は甕、907～911は鉢、912は高杯の脚部である。903、904は土師質土器の羽釜、915は土師器の杯、916は黒色土器（A類）の椀である。917～920は須恵器。917は皿、918、919は杯、920は椀で

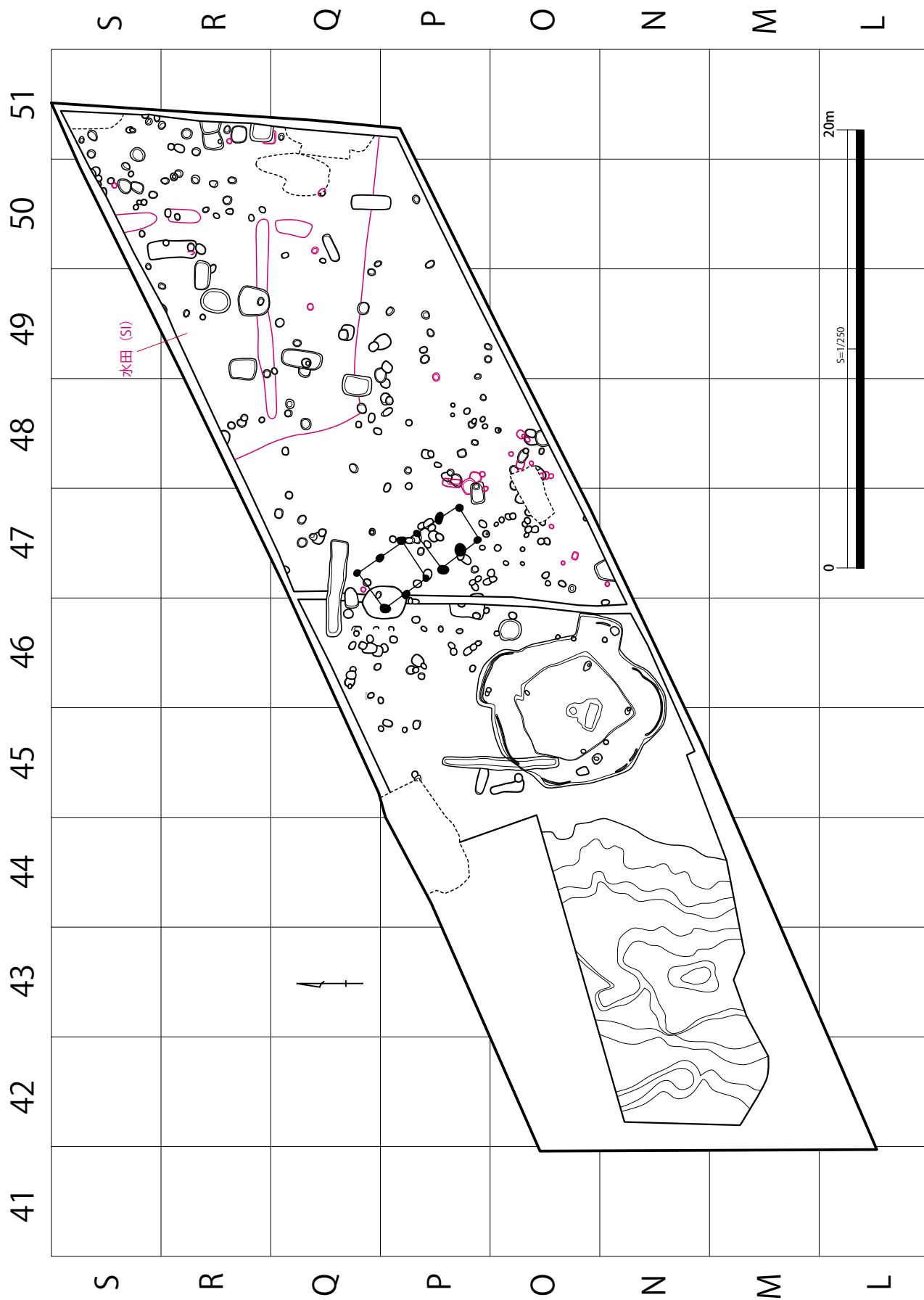


第 477 図 2 区包含層出土遺物①

ある。921 は備前焼の播鉢である。922、923 は置き竈である。

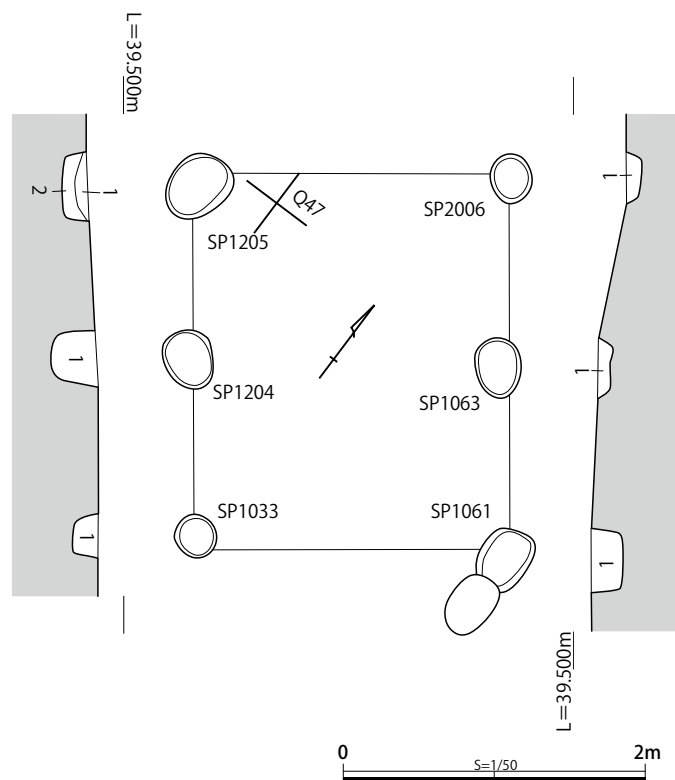


第 478 图 2 区包含層出土遺物②



第 479 図 3-1 区平面図 (1/250)





SP1033			
1	黄褐色	2.5Y	5/3 砂質土
SP1061			
1	オリーブ褐色	2.5Y	4/3 砂質土
SP1063			
1	黄褐色	2.5Y	5/3 砂質土
SP1204			
1	オリーブ褐色	2.5Y	4/3 砂質土
SP1205			
1	にぶい黄色	2.5Y	6/3 砂質土
2	黄褐色	2.5Y	5/3 砂質土
SP2006			
1	オリーブ褐色	2.5Y	4/3 砂質土

第 480 図 3-1 区 SA1001 平断面図 (1/50)

### (8) 3-1 区 (第 479 図)

3-1 区から検出された遺構は掘立柱建物 (SA) が 2 軒、竪穴住居 (SB) が 1 軒、水田 (SI) が 3 枚、溝 (SD) が 2 条、土坑 (SK) が 24 基、小穴 (SP) が 275 基、自然流路 (SR) が 1 条、性格不明遺構 (SX) が 10 基となっている。その内水田などの遺構 (第 479 図赤線) は通常の遺構の検出面より下部において検出されている。

#### 1 号掘立柱建物 (SA1001) (第 480 図)

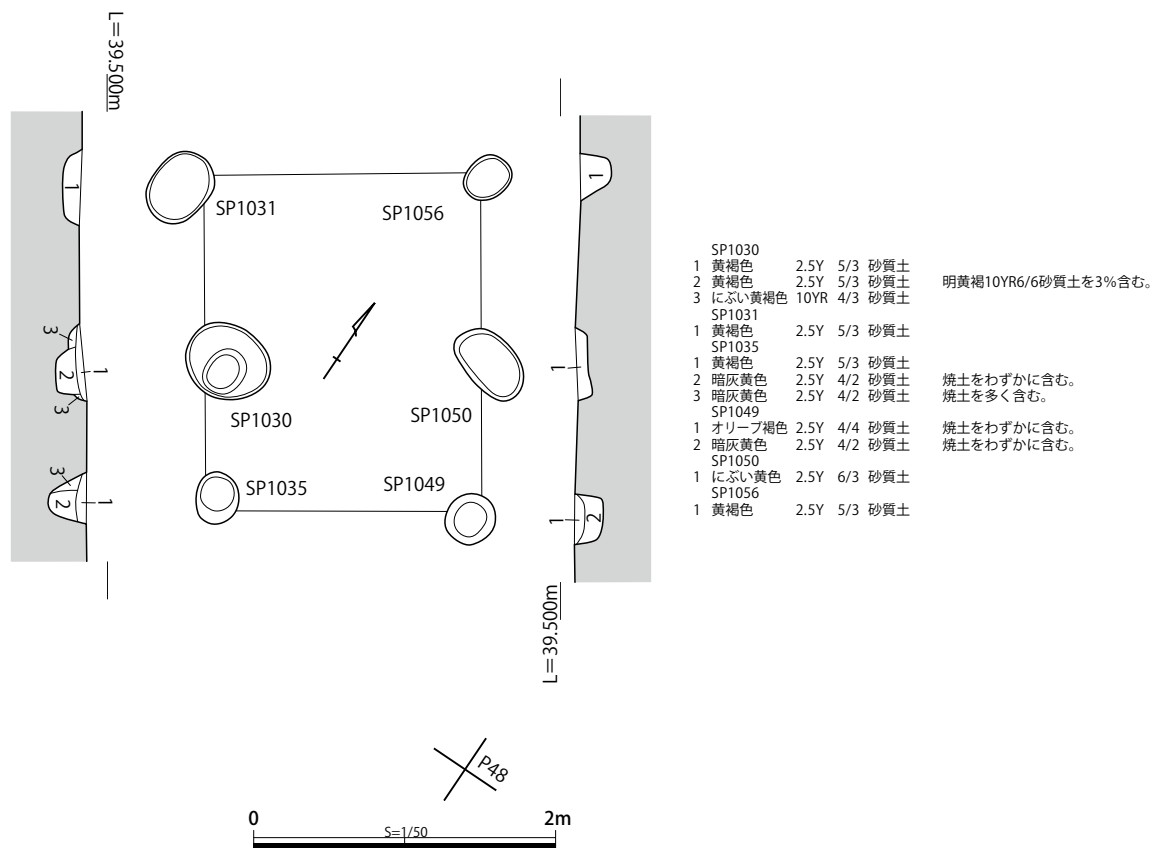
**検出地点** P・Q46・47 グリッド

**規模・形態** 梁間 1 間 (2.10m) × 桁行 2 間 (2.50m)、床面積 5.25㎡の側柱建物である。建物の主軸方向は N - 38° - W である。

**土層** 黄褐色砂質土層を主体として 1 ~ 2 層に分層される。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 図化可能な遺物は出土していない。



第 481 図 3-1 区 SA1002 平断面図 (1/50)

**時期** 建物の主軸方向などから中世以降の年代が想定される。

### 2号掘立柱建物 (SA1002) (第 481 図)

**検出地点** P47 グリッド

**規模・形態** 梁間 1 間 (1.80m) × 桁行 2 間 (2.22m)、床面積 4.00m<sup>2</sup>の側柱建物である。建物の主軸方向は N - 35° - W である。

**土層** 黄褐色砂質土層を主体として 1 ~ 3 層に分層される。

**遺物出土状況** SP1031 から遺物が出土している。

**出土遺物** 個別遺構で記述。

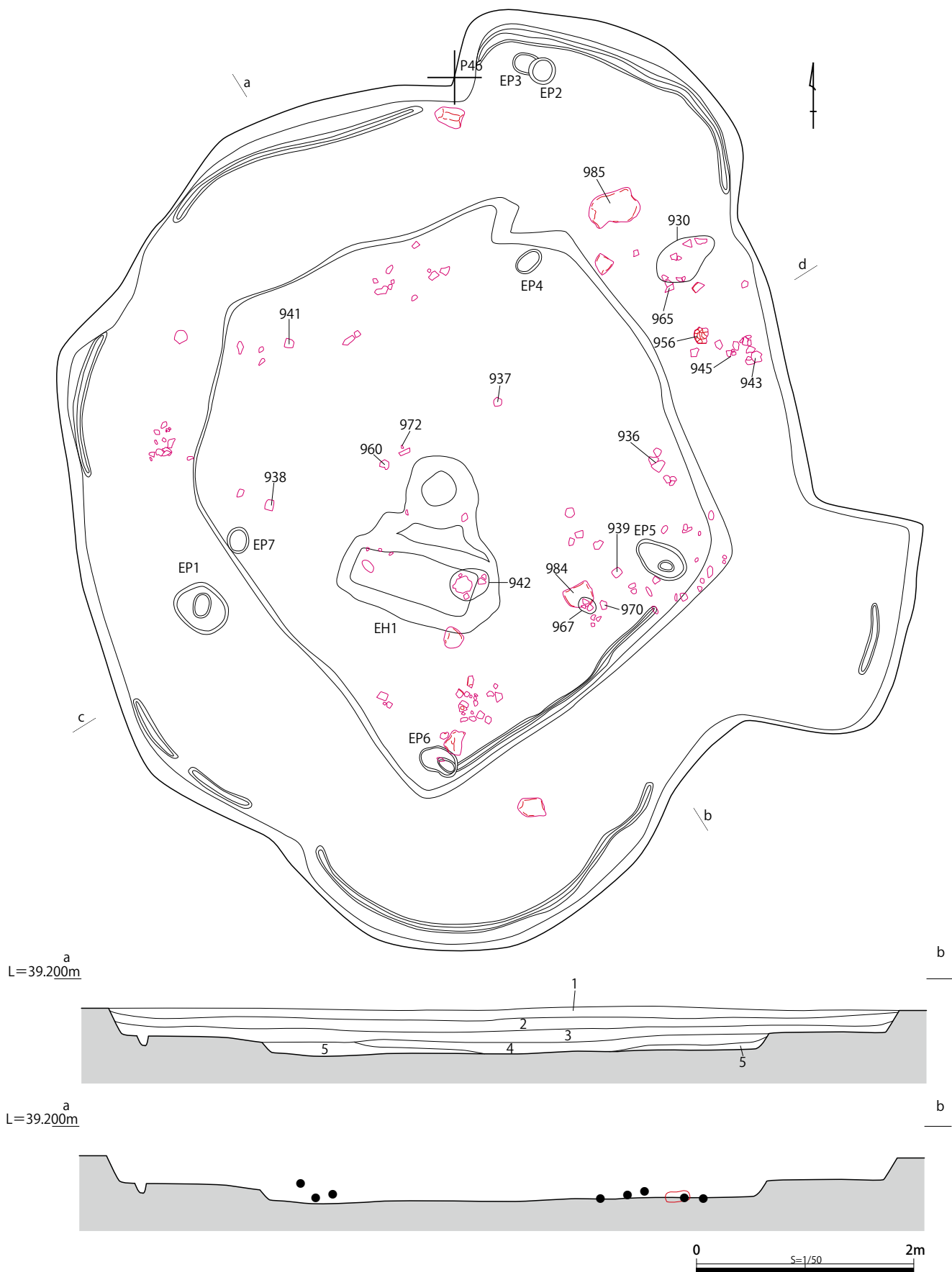
**時期** 建物の主軸方向などから中世以降の年代が想定される。

### 1号竪穴住居 (SB1001) (第 482 ~ 491 図)

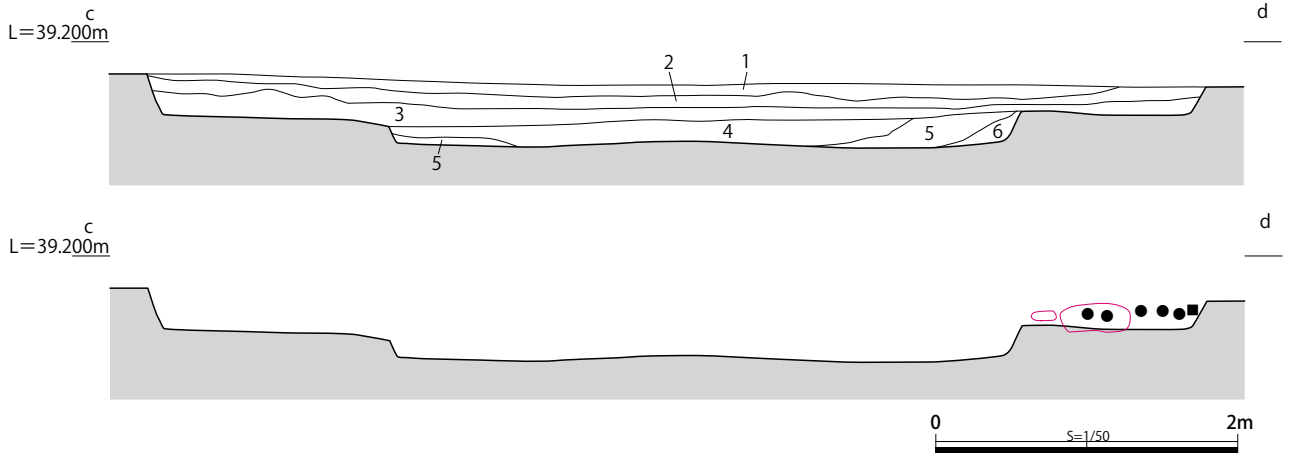
**検出地点** N・O45・46・P46 グリッド

**規模・形態** 平面形状はほぼ円形を呈し北側と西側に方形の張り出しが附属している。規模は南北に 7.98m、東西に 6.65m、深さは 0.39m を測る。断面の形状は周囲にベッド状の高まりを伴う 2 段形となっている。柱穴 (EP) は 7 基検出されており、中央部には炉 (EH) が 1 基存在している。床面の上下両段の壁際には周溝が検出されている。

**土層** 何れも砂質土で 6 層に分層され、上部から暗灰黄色砂質土、にぶい黄褐色砂質土、灰黄褐色砂



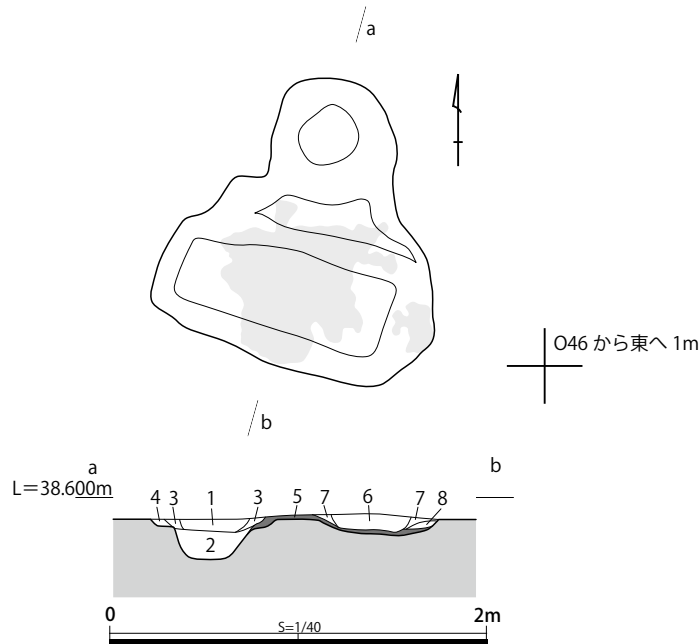
第 482 图 3-1 区 SB1001 平断面图① (1/50)



- 1 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土 しまり強い粘性弱い。
- 2 にぶい黄褐色 10YR 4/3 砂質土 しまり強い粘性弱い。
- 3 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土 しまりやや強い粘性弱い。
- 4 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土 しまりやや強い粘性弱い。
- 5 にぶい黄褐色 10YR 4/3 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い。炭φ0.3cmを3%含む。
- 6 にぶい黄褐色 10YR 4/3 砂質土 しまりやや強い粘性弱い。5Y5/2灰オリブ砂質土φ0.3cmを7%含む。

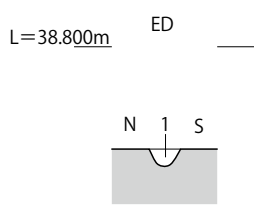
第 483 図 3-1 区 SB1001 平断面図② (1/50)

床面の強い焼け込み範囲

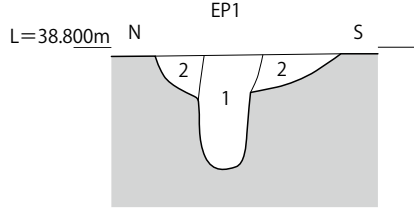


- 1 にぶい黄褐色 10YR 4/3 砂質土 しまり強い粘性弱い。炭φ0.3cmを2%、焼土φ0.1cmを1%含む。
- 2 黒褐色 10YR 3/2 砂質土 しまり強い粘性強い。炭φ0.3cmを2%、焼土φ0.3cmを2%含む。
- 3 にぶい黄褐色 10YR 4/3 砂質土 しまり弱い粘性やや強い。炭φ0.3cmを3%、焼土φ0.1cmを1%含む。
- 4 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土 しまりやや強い粘性弱い。炭φ0.3cmを3%含む。
- 5 炭化物層 しまり弱い粘性やや強い。
- 6 にぶい黄褐色 10YR 4/3 砂質土 しまりやや弱い粘性やや弱い。炭φ0.3cmを2%、焼土φ0.5cmを1%含む。
- 7 灰白色 10YR 7/1 砂質土 しまり強い粘性弱い。灰層。
- 8 黒褐色 10YR 3/2 砂質土 しまりやや強い粘性弱い。焼土φ0.1cmを3%含む。

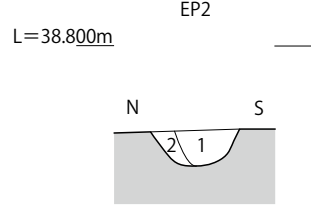
第 484 図 3-1 区 SB1001EH1 平断面図 (1/40)



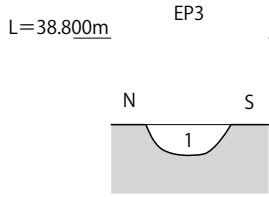
1 にぶい黄褐色 10YR 4/3 砂質土 しまりやや強い粘性弱い。



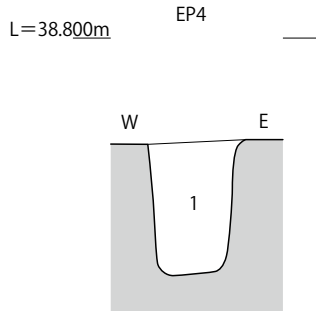
1 暗褐色 10YR 3/3 砂質土 しまりやや弱い粘性やや強い。  
2 にぶい黄褐色 10YR 4/3 砂質土 しまりやや弱い粘性やや弱い。



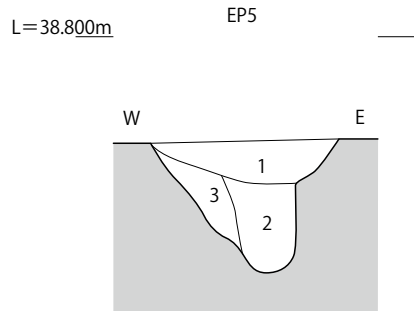
1 黒褐色 10YR 3/2 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い。  
2 黄褐色 10YR 5/6 砂質土 しまりやや強い粘性弱い。



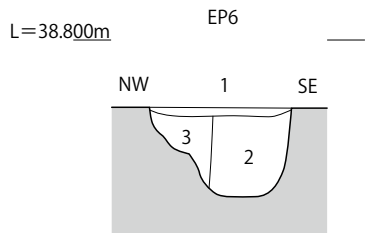
1 黒褐色 10YR 3/2 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い。



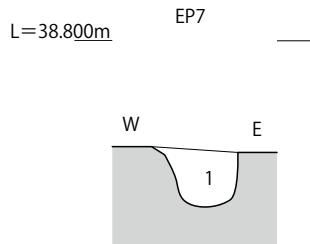
1 にぶい黄褐色 10YR 4/3 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い。



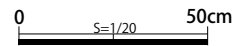
1 にぶい黄褐色 10YR 4/3 砂質土 しまり強い粘性弱い。  
2 にぶい黄褐色 10YR 4/3 砂質土 しまり強い粘性弱い。2.5Y5/6黄褐色砂質土φ0.5cmを3%含む。  
3 にぶい黄褐色 10YR 4/3 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い。5Y5/2灰オリーブ砂質土φ0.5cmを3%含む。



1 にぶい黄褐色 10YR 4/3 砂質土 しまり強い粘性弱い。5Y5/2灰オリーブ砂質土φ0.5cmを7%含む。  
2 にぶい黄褐色 10YR 4/3 砂質土 しまりやや弱い粘性やや強い。  
3 にぶい黄褐色 10YR 4/3 砂質土 しまり強い粘性弱い。2.5Y5/6黄褐色砂質土φ0.3cmを2%含む。



1 にぶい黄褐色 10YR 4/3 砂質土 しまりやや強い粘性弱い。



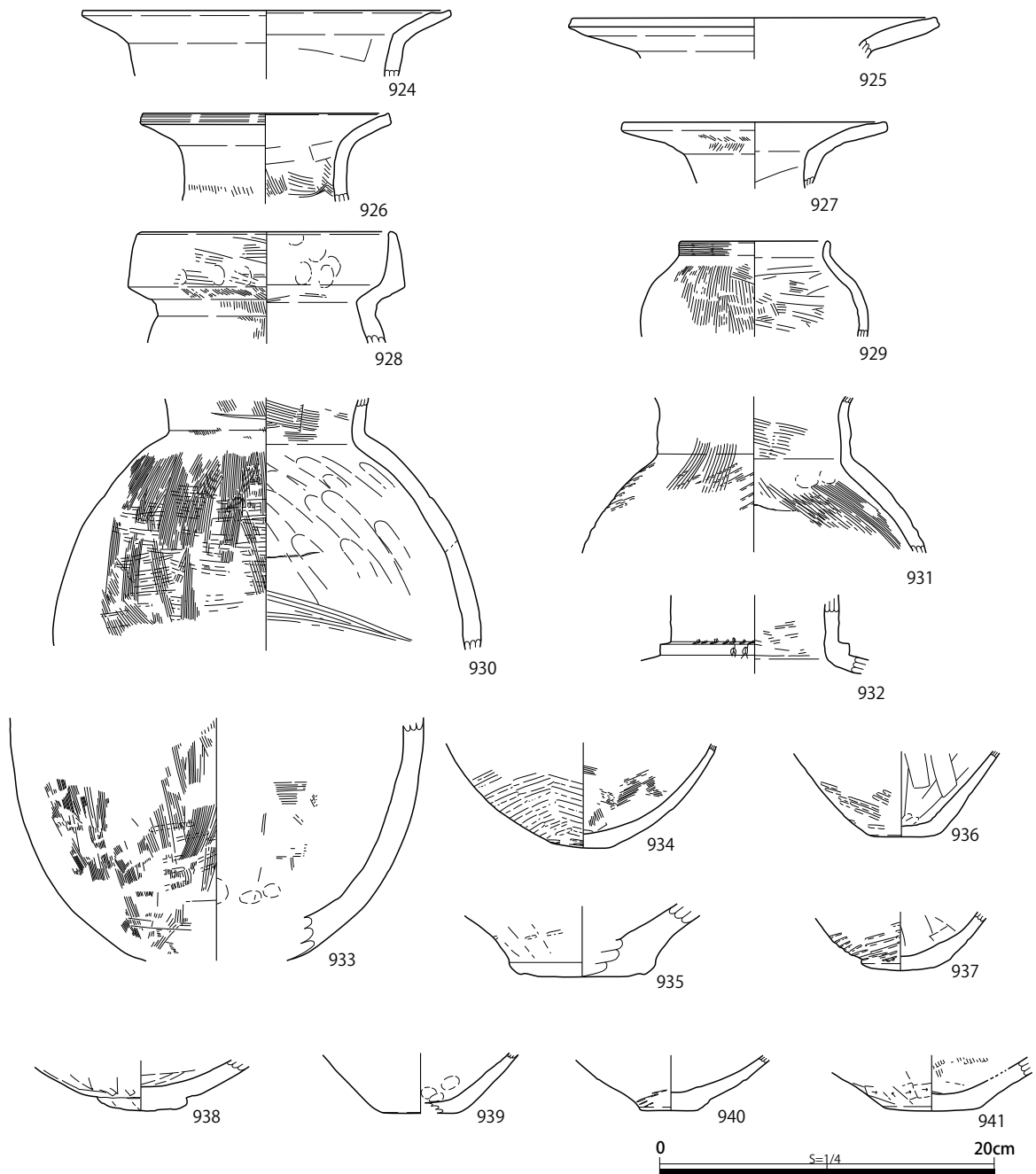
第 485 図 3-1 区 SB1001ED・EP 断面図 (1/20)

質土と堆積し、床面部分には下段の斜面部ににぶい黄褐色砂質土が堆積し、床面は暗灰黄色砂質土に覆われている。また中央部に位置する EH1 は鍛冶炉と考えられる。検出面上面には焼土が拡がっている。EH1 は 8 層に分層され、5 層はカーボンベッドであると考えられる。

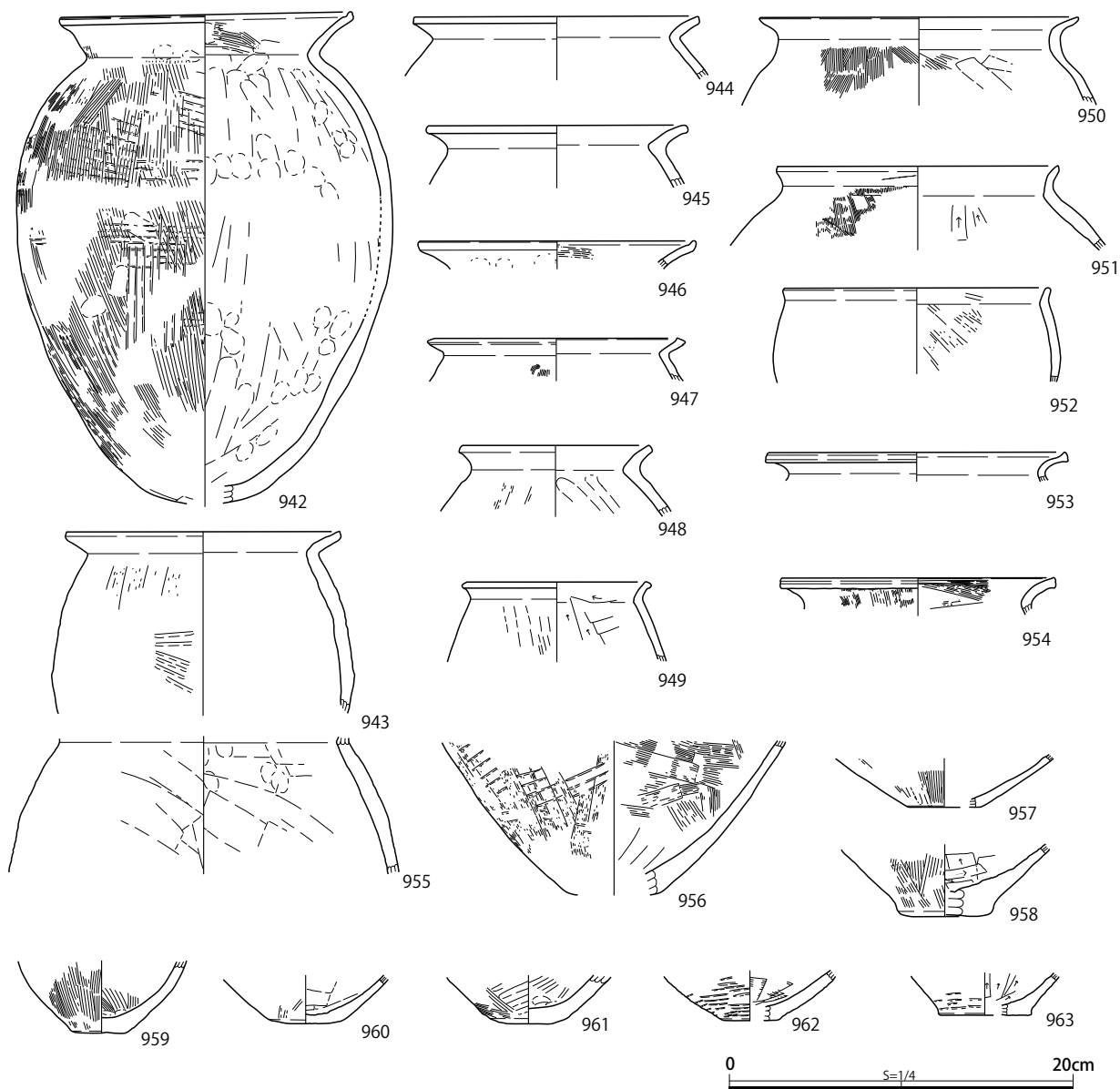
**遺物出土状況** 床面中央の下段部分及び北側のベッド状部分を中心として遺物が出土している。

**出土遺物** 924～975 は弥生土器。924～927 は広口壺、928 は二重口縁壺、929 は無頸壺である。942～963 は甕である。964～970 は鉢である。971～975 は高杯である。976 は土玉である。977 は被熱した粘土塊。978 はサヌカイト製の平基式石鏃。979、980 はサヌカイトの剥片である。981 は結晶片岩製の石庖丁である。983 は砂岩製の敲石。983～985 は砂岩製の台石で金床石として利用されたと考えられる。986～993 は鉄器。986～990 は鉄鏃である。991 は刀子、992、993 は鉋と考えられる。

**時期** 出土した遺物から弥生時代終末～古墳時代初頭の年代が想定される。



第 486 图 3-1 区 SB1001 出土遺物①



第 487 図 3-1 区 SB1001 出土遺物②

1号溝 (SD1001) (第 492 図)

**検出地点** Q46・47 グリッド

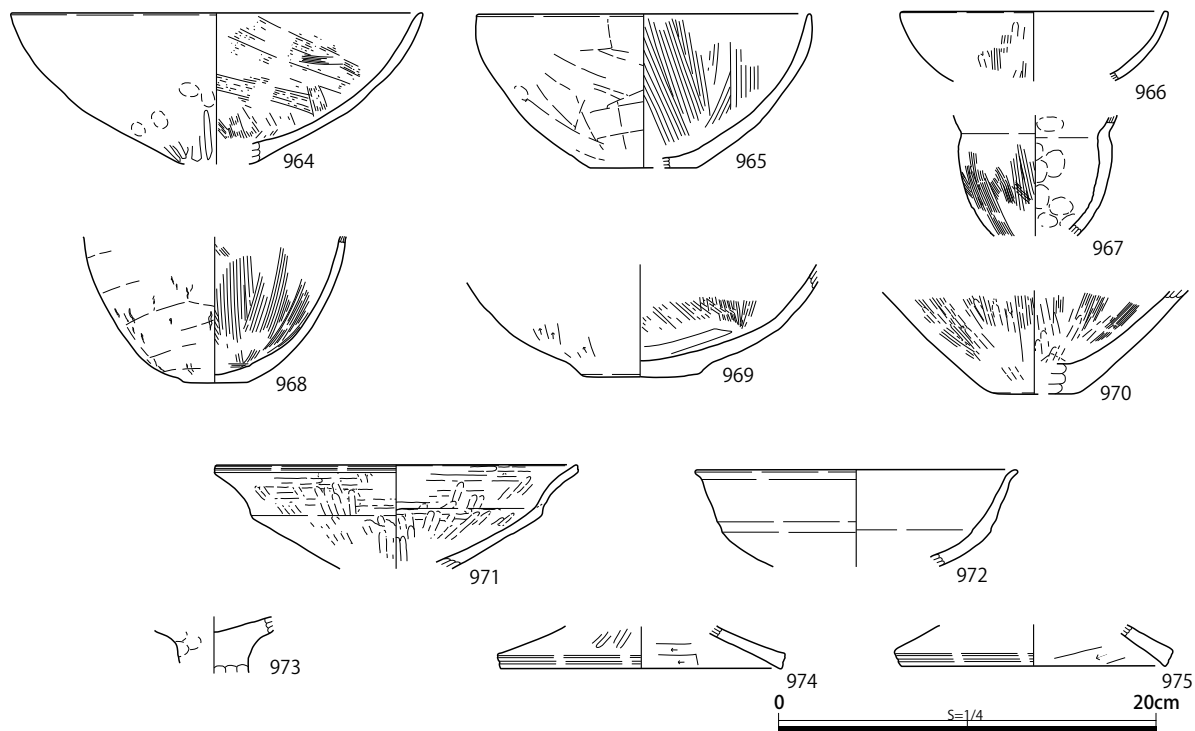
**規模・形態** 東西方向に延びる溝で、延長距離は 4.40m、幅は 0.65m、深さは 0.38m を測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** オリーブ褐色砂質土が 1 層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 図化可能な遺物は出土していない。

**時期** 年代は特定できない。



第 488 図 3-1 区 SB1001 出土遺物③

水田 (SI) (第 479・493 図)

**検出地点** Q・R48～51・S49～51 グリッド

**規模・形態** 調査区の北東部に位置しており、残存値で東西約 13m、南北約 13m の範囲から水田土壌が検出されている。畦は東西約 9m のものが 1 か所と、南北方向のものが島状に検出されている。方位はほぼ正方位を指向するとみられる。

**土層** —

**遺物出土状況** —

**出土遺物** 994 は土師器の杯で、底部の切り離しは回転ヘラ切りである。995～998 は須恵器。995 は古墳時代の杯身である。996、997 は須恵器の杯、998 は壺である。何れも平安時代と考えられる。999～1001 は管状の土錘である。1002～1013 は弥生土器。1002～1004 は広口壺、1006 は無頸壺である。1010～1013 は高杯である。

**時期** 出土した遺物や上部の遺構の時期などから平安時代～室町時代頃と考えられる。

4 号土坑 (SK1004) (第 494・495 図)

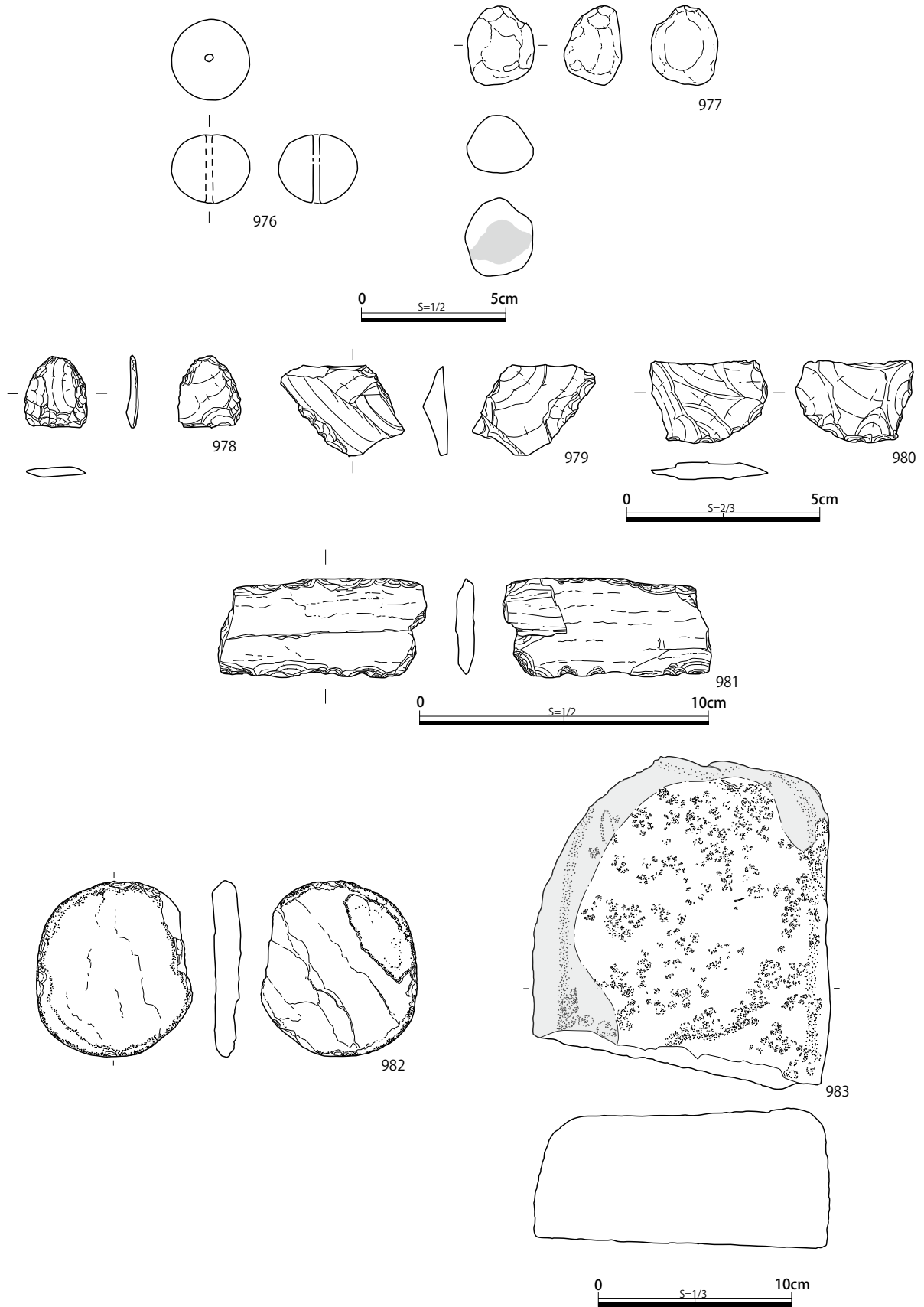
**検出地点** O48 グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.50m、短軸は 0.37m、深さは 0.14m を測る。断面の形状は皿形である。

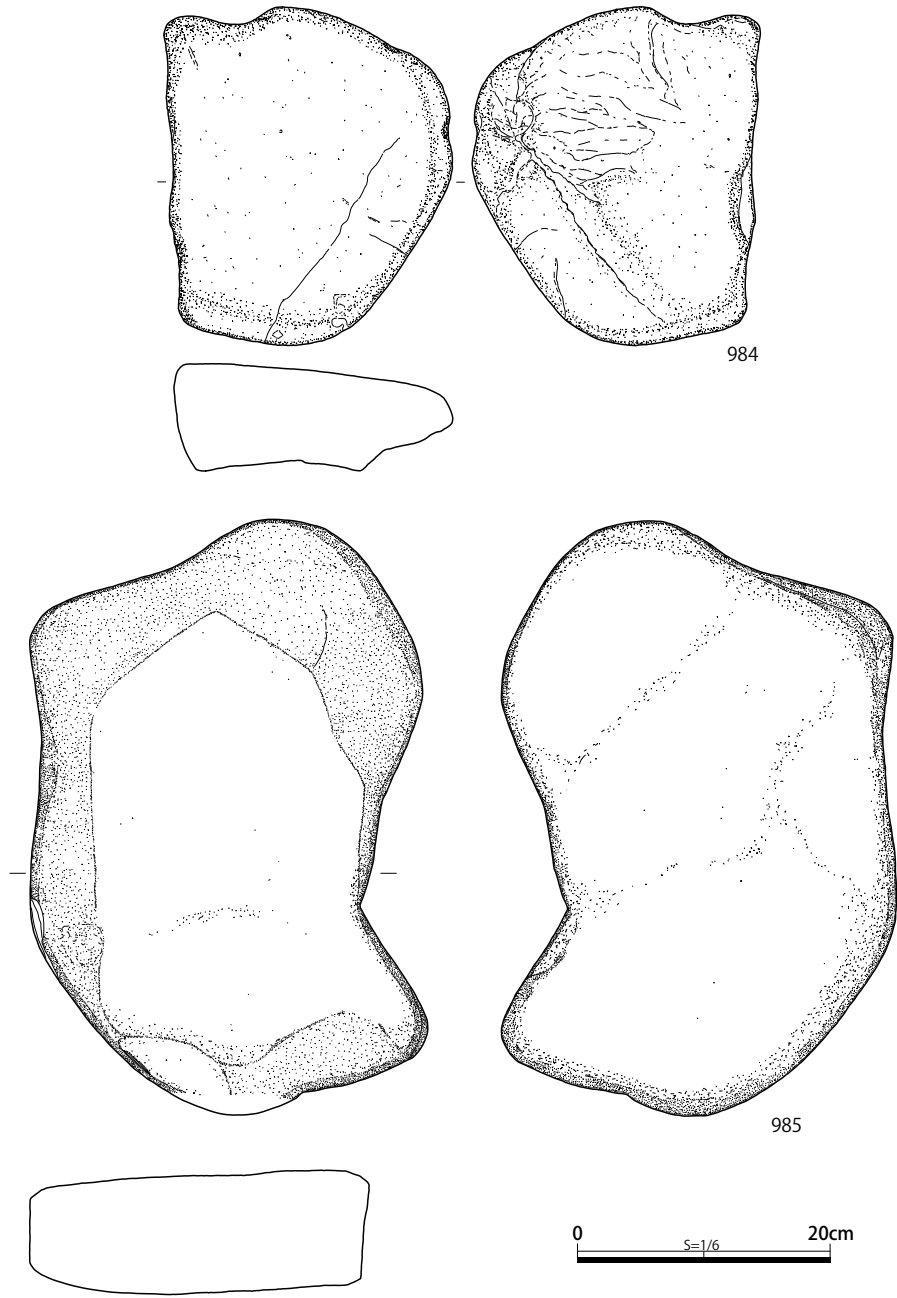
**土層** 何れもにぶい黄褐色砂質土層で 2 層に分層される。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

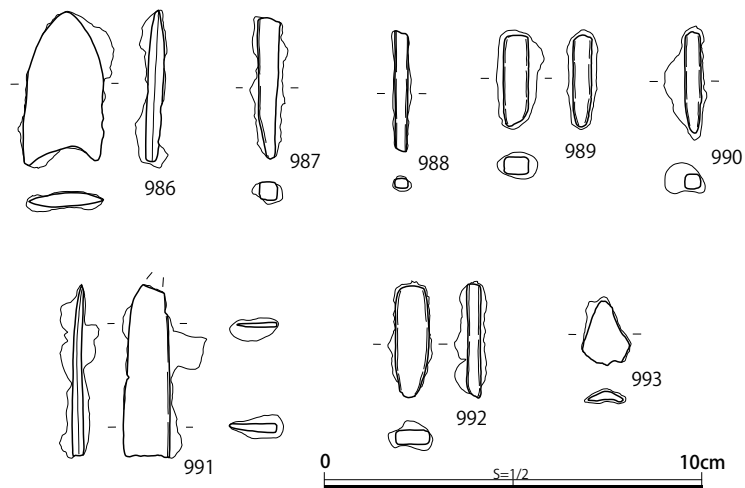




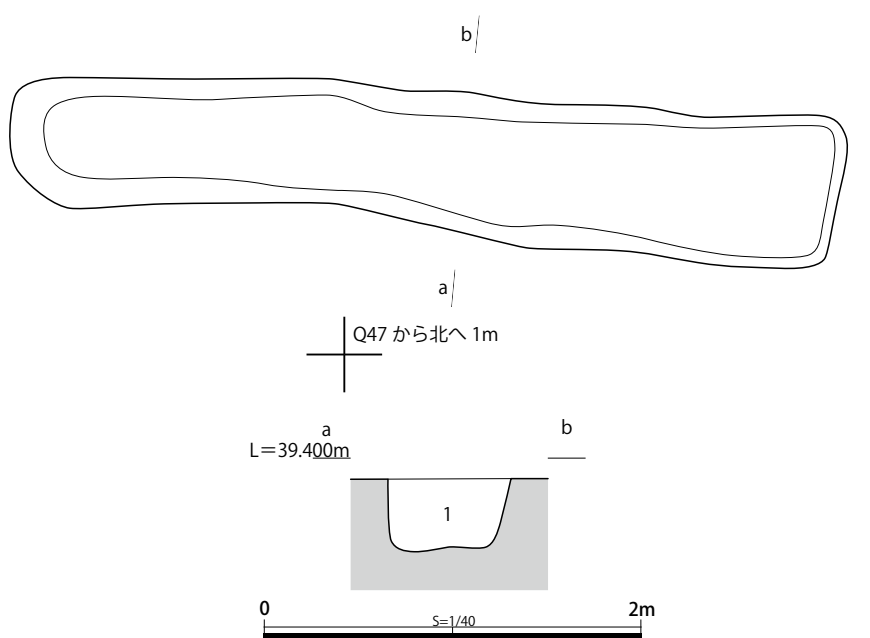
第 489 図 3-1 区 SB1001 出土遺物④



第 490 図 3-1 区 SB1001 出土遺物⑤

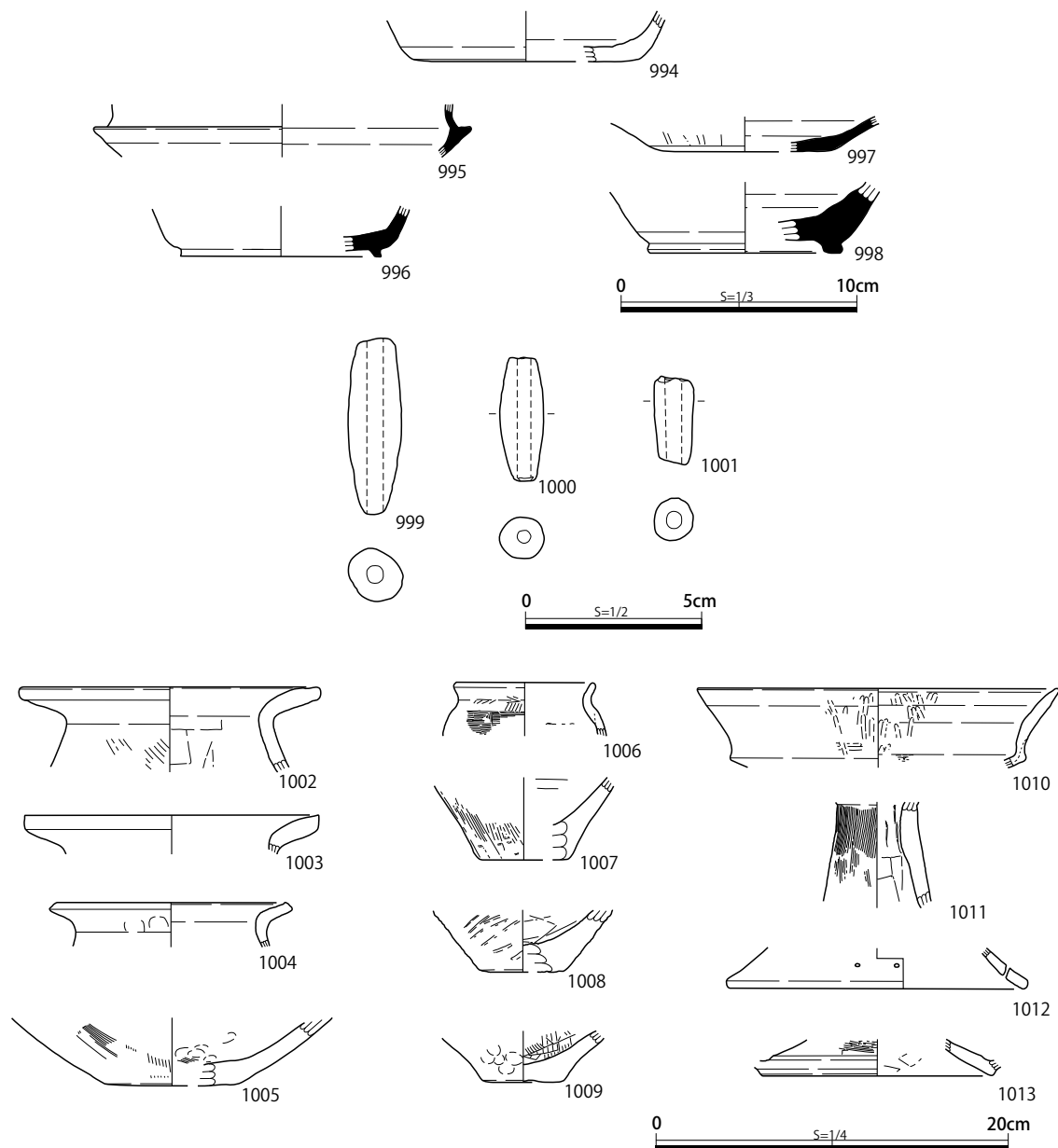


第 491 図 3-1 区 SB1001 出土遺物⑥



1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土 しまりや粘強い粘性や粘強い、S15/2灰オリブ砂質土φ0.5~1cmを10%、2.5Y7/3淺黄砂質土φ1~3cmを10%、炭φ0.5cmを5%、マンガンφ0.1~0.5cmを5%含む。

第 492 図 3-1 区 SD1001 平断面図 (1/40)



第 493 図 3-1 区 SI 出土遺物

**出土遺物** 1014 は弥生土器の甕である。

**時期** 出土した遺物から弥生時代終末以降の年代が想定される。

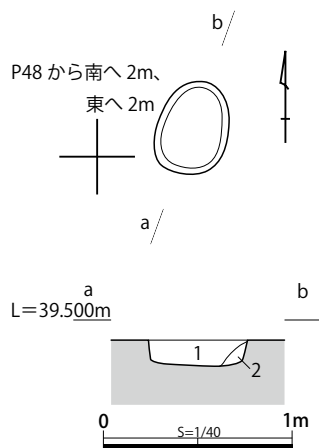
7 号土坑 (SK1007) (第 496・497 図)

**検出地点** P47・48 グリッド

**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈し、東端底面にピット状の掘り込みを伴う。長軸は 1.00m、短軸は 0.60m、深さは 0.56m を測る。断面の形状は 2 段形である。

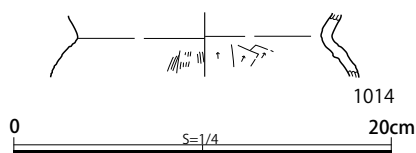
**土層** 何れも砂質土層で 4 層に分層される。2 層 (黄褐色砂質土層) を切るように 3、4 層 (にぶい黄褐色砂質土層) が堆積しており、その後に 1 層 (灰オリーブ色砂質土層) が上面を覆っている。

**遺物出土状況** 東壁沿いの 1 層下部より土器が出土している。



- 1 にぶい黄褐色 10YR 4/3 砂質土 しまりや強い粘性やや弱い、SiO<sub>2</sub>/灰オリブ砂質土φ0.3~0.5cmを25%、10YR6/6暗黄褐色砂質土φ1cmを2%、炭φ0.3を1%、焼土φ0.2~0.5cmを2%含む。  
 2 にぶい黄褐色 10YR 4/3 砂質土 しまりや強い粘性やや弱い、SiO<sub>2</sub>/灰オリブ砂質土φ0.1~0.2cmを3%、マンガンをφ0.1cm以下を3%含む。

第 494 図 3-1 区 SK1004 平断面図 (1/40)



第 495 図 3-1 区 SK1004 出土遺物

**出土遺物** 1015 は陶器の備前焼の甕である。

**時期** 出土した遺物から鎌倉～室町時代（14 世紀）以降の年代が想定される。

### 13 号土坑 (SK1013) (第 498・499 図)

**検出地点** R49・50 グリッド

**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は 1.27m、短軸は 0.74m、深さは 0.30m を測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 5 層に分層され、上部の 1 層は黄褐色砂質土層、下部の 2～4 層はにぶい黄褐色砂質土層が堆積している。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 1016 は土師質土器の皿である。

**時期** 出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。

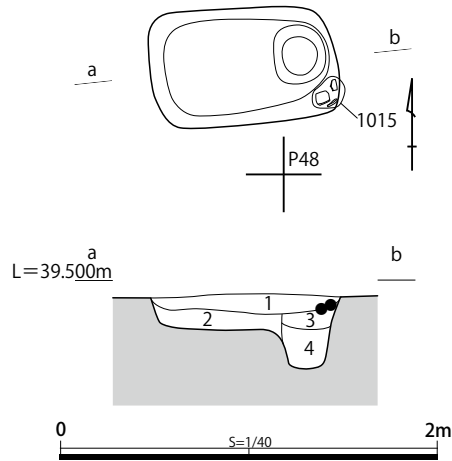
### 17 号土坑 (SK1017) (第 500・501 図)

**検出地点** R51 グリッド

**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈するとみられるが、東側は調査区外に延びている。残存値で長軸は 0.86m、短軸は 0.54m、深さは 0.06m を測る。断面の形状は皿形である。

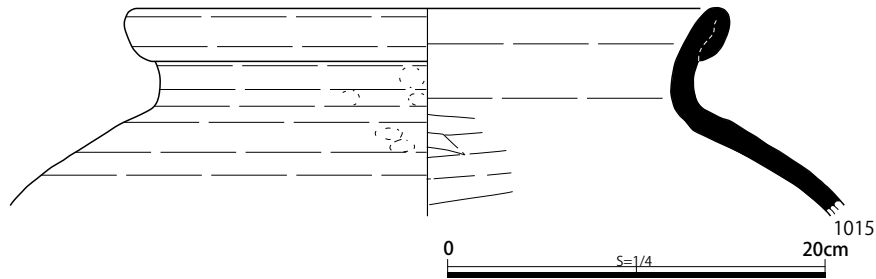
**土層** 黄褐色砂質土層が 1 層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。



- |   |        |      |     |     |  |
|---|--------|------|-----|-----|--|
| 1 | 灰オリーブ色 | 5Y   | 5/2 | 砂質土 | しまり強い粘性弱い。2.5Y5/3黄褐色砂質土φ0.3cmを7%、焼土φ0.2cmを1%含む。                              |
| 2 | 黄褐色    | 2.5Y | 5/3 | 砂質土 | しまりやや強い粘性弱い。5Y2/5灰オリーブ砂質土φ0.3~0.5cmを10%、焼土φ0.1cmを1%含む。                       |
| 3 | にぶい黄褐色 | 10YR | 4/3 | 砂質土 | しまりやや強い粘性やや弱い。5Y2/5灰オリーブ砂質土φ0.2cmを5%、2.5Y5/3黄褐色砂質土φ0.2~0.3を3%、焼土φ0.1cmを1%含む。 |
| 4 | にぶい黄褐色 | 10YR | 4/3 | 砂質土 | しまりやや強い粘性やや弱い。5Y2/5灰オリーブ砂質土φ0.2cmを3%含む。                                      |

第 496 図 3-1 区 SK1007 平断面図 (1/40)



第 497 図 3-1 区 SK1007 出土遺物

**出土遺物** 1017 は管状の土錘である。

**時期** 年代は特定できない。

31 号小穴 (SP1031) (第 502・503 図)

**検出地点** P47 グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.50m、短軸は 0.38m、深さは 0.20m を測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 黄褐色砂質土層が 1 層である。

**遺物出土状況** 図化可能なものはない。

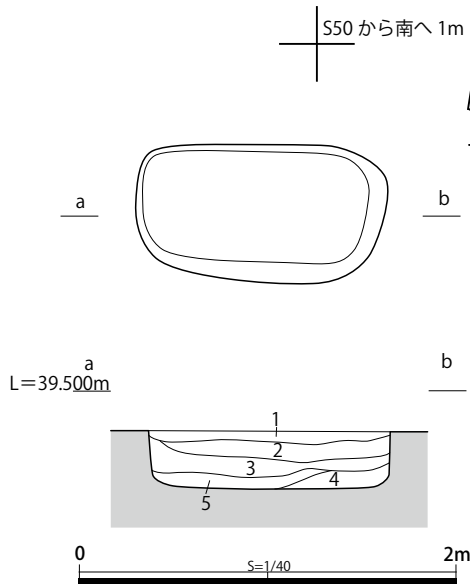
**出土遺物** 1018 は弥生土器の甕の底部である。

**時期** 出土した遺物から弥生時代終末以降の年代が想定される。

60 号小穴 (SP1060) (第 504・505 図)

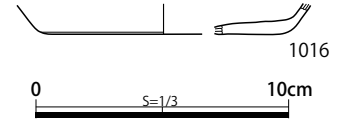
**検出地点** P47 グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.43m、短軸は 0.29m、深さは 0.22m を測る。断面の形状は丸底形である。

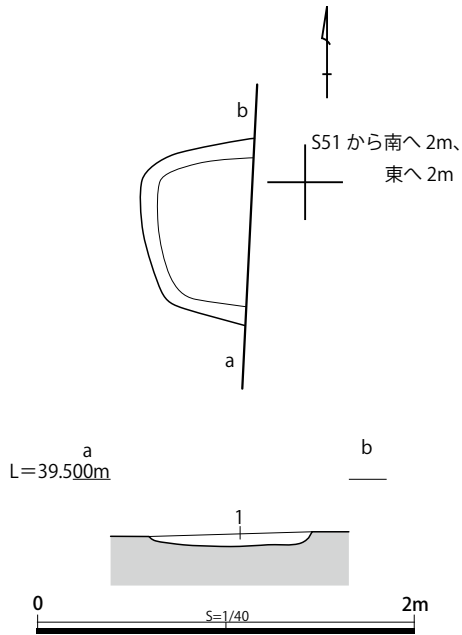


- 1 黄褐色 2.5Y 5/3 砂質土 しまり強い粘性弱い。5Y2/5灰オリーブ砂質土φ0.2cmを5%、10YR6/4にぶい黄褐色砂質土φ0.3cmを2%、炭φ0.2cmを1%含む。
- 2 にぶい黄褐色 10YR 4/3 砂質土・シルト混じり少 しまりやや弱い粘性やや弱い。5Y2/5灰オリーブ砂質土φ0.2~0.3cmを3%、10YR6/4にぶい黄褐色砂質土φ0.2~0.3cmを3%含む。
- 3 にぶい黄褐色 10YR 4/3 砂質土・シルト混じり少 しまりやや弱い粘性やや強い。5Y2/5灰オリーブ砂質土φ0.3cmを3%、10YR6/4にぶい黄褐色シルトφ0.3cmを3%、10YR4/2灰黄褐色シルトφ0.5~1cmを3%含む。
- 4 にぶい黄褐色 10YR 4/3 砂質土・シルト混じり少 しまりやや弱い粘性やや弱い。5Y2/5灰オリーブ砂質土φ0.2cmを5%、炭φ0.2cmを1%含む。
- 5 にぶい黄褐色 10YR 5/3 砂質土・シルト混じり少 しまりやや弱い粘性やや強い。10YR6/4にぶい黄褐色砂質シルトφ0.3cmを15%、5Y2/5灰オリーブ砂質シルトφ0.2~0.3cmを3%含む。

第 498 図 3-1 区 SK1013 出土遺物 (1/40)

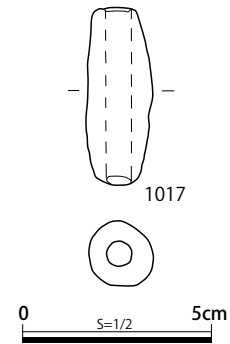


第 499 図 3-1 区 SK1013 出土遺物

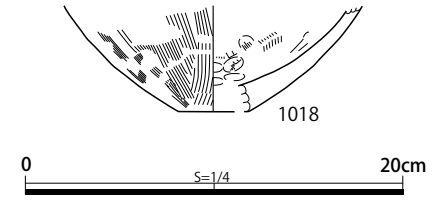
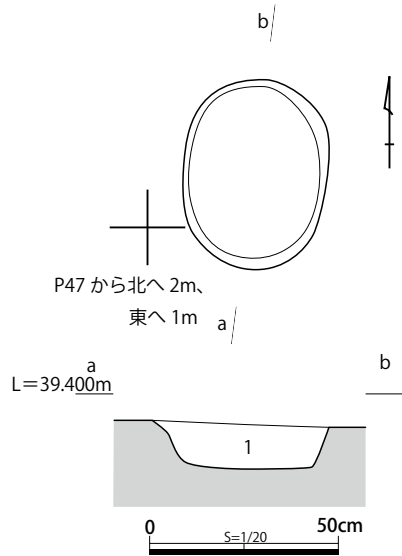


- 1 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土 しまり強い粘性やや弱い。5Y2/5灰オリーブ砂質土φ0.5~1.5cmを10%含む。

第 500 図 3-1 区 SK1017 平断面図 (1/40)



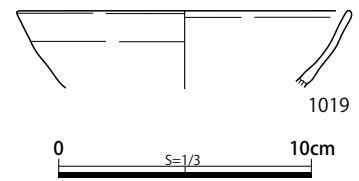
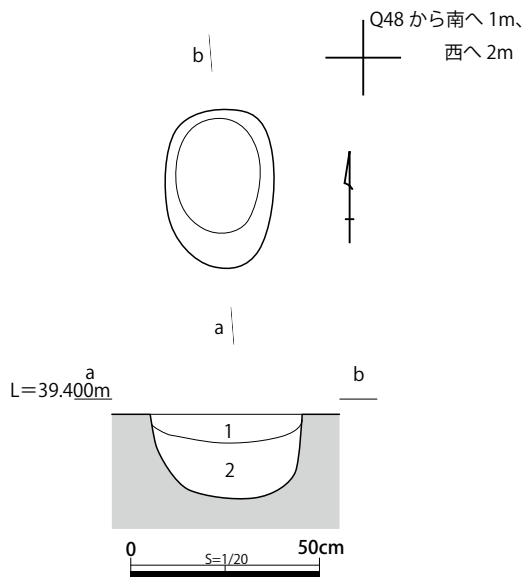
第 501 図 3-1 区 SK1017 出土遺物



第 503 図 3-1 区 SP1031 出土遺物

1 黄褐色 2.5Y 5/3 砂質土 しまり強い粘性やや弱い、5Y2/5灰オリーブ砂質土φ0.5~5cmを3%、10YR3/2黒褐色土φ1~1.5cmを3%含む。

第 502 図 3-1 区 SP1031 平断面図 (1/20)

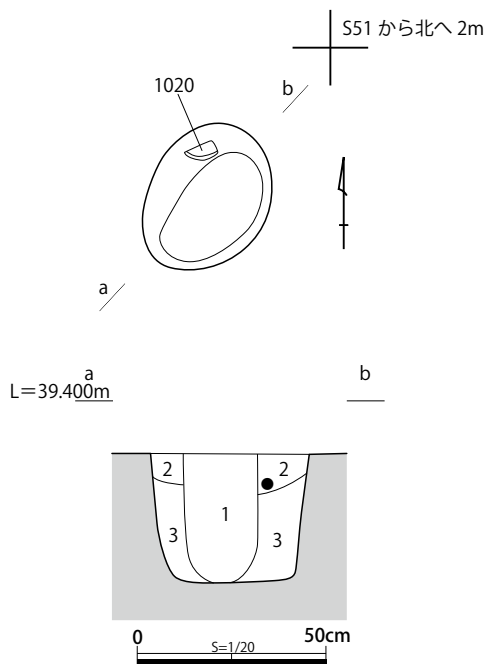


第 505 図 3-1 区 SP1060 出土遺物

1 黄褐色 2.5Y 5/3 砂質土 しまり強い粘性弱い、2.5Y6/1黄灰砂質土φ2~8cmを20%含む。  
 2 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土 しまりやや強い粘性やや弱い、5Y2/5灰オリーブシルトφ0.5~1cmを5%、炭φ0.5~1.5を5%、焼土φ0.5cmを3%含む。

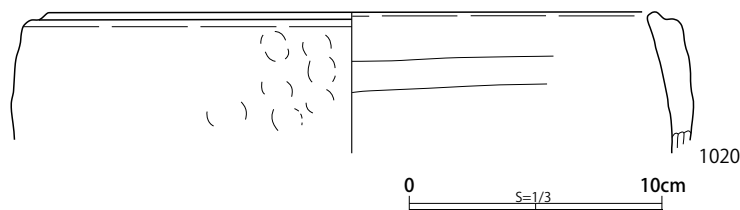
第 504 図 3-1 区 SP1060 平断面図 (1/20)





- |         |      |     |     |  |
|---------|------|-----|-----|--|
| 1 黄褐色   | 2.5Y | 5/3 | 砂質土 | しまりやや強い粘性やや弱い、S <sub>Y</sub> 2/5灰オリブ砂質土φ0.5~1cmを5%、2.5Y7/2灰黄砂質土φ1~2cmを10%、炭φ0.5~2.5を20%含む。 |
| 2 黄褐色   | 2.5Y | 5/4 | 砂質土 | しまりやや強い粘性やや弱い、S <sub>Y</sub> 2/5灰オリブ砂質土φ0.5~1.5cmを3%、炭φ0.5~1を3%含む。                         |
| 3 オリブ褐色 | 2.5Y | 4/4 | 砂質土 | しまりやや強い粘性やや弱い、S <sub>Y</sub> 2/5灰オリブ砂質土φ0.5~2cmを5%、炭φ1~1.5を3%、塵土φ0.5cmを1%含む。               |

第 506 図 3-1 区 SP1173 平断面図 (1/20)



第 507 図 3-1 区 SP1173 出土遺物

**土層** 何れも砂質土層で2層に分層され、上部は黄褐色砂質土層、下部にはオリブ褐色砂質土層が堆積している。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 1019 は土師質土器の椀である。

**時期** 出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。

173 号小穴 (SP1173) (第 506・507 図)

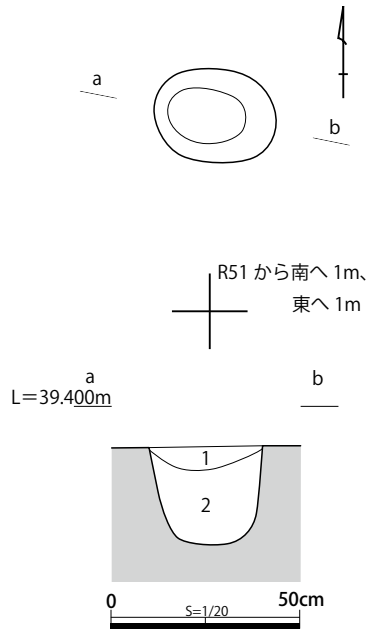
**検出地点** S50 グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.41m、短軸は 0.32m、深さは 0.34m を測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 何れも砂質土層で3層に分層され、1層の黄褐色砂質土層は柱痕と考えられる。

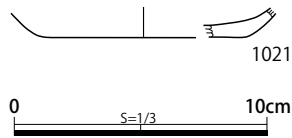
**遺物出土状況** 2層中より土器が出土している。

**出土遺物** 1020 は土師質土器の羽釜である。

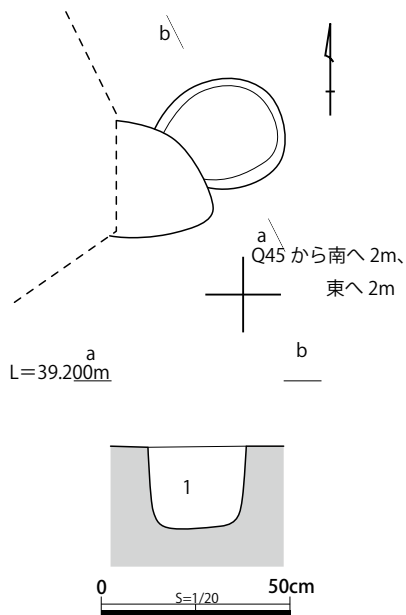


1 黄褐色 2.5Y 5/3 砂質土 しまりやや強い粘性やや強い。  
 2 オリーブ褐色 2.5Y 4/4 砂質土・シルト混じり しまりやや強い粘性やや強い。5Y2/5灰オリーブ砂質土φ0.5~4cmを3%含む。

第 508 図 3-1 区 SP1177 平断面図 (1/20)

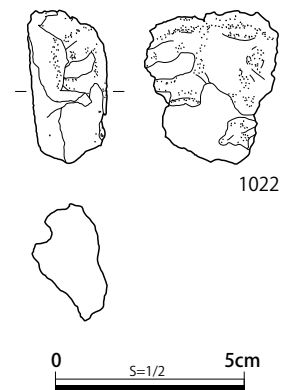


第 509 図 3-1 区 SP1177 出土遺物

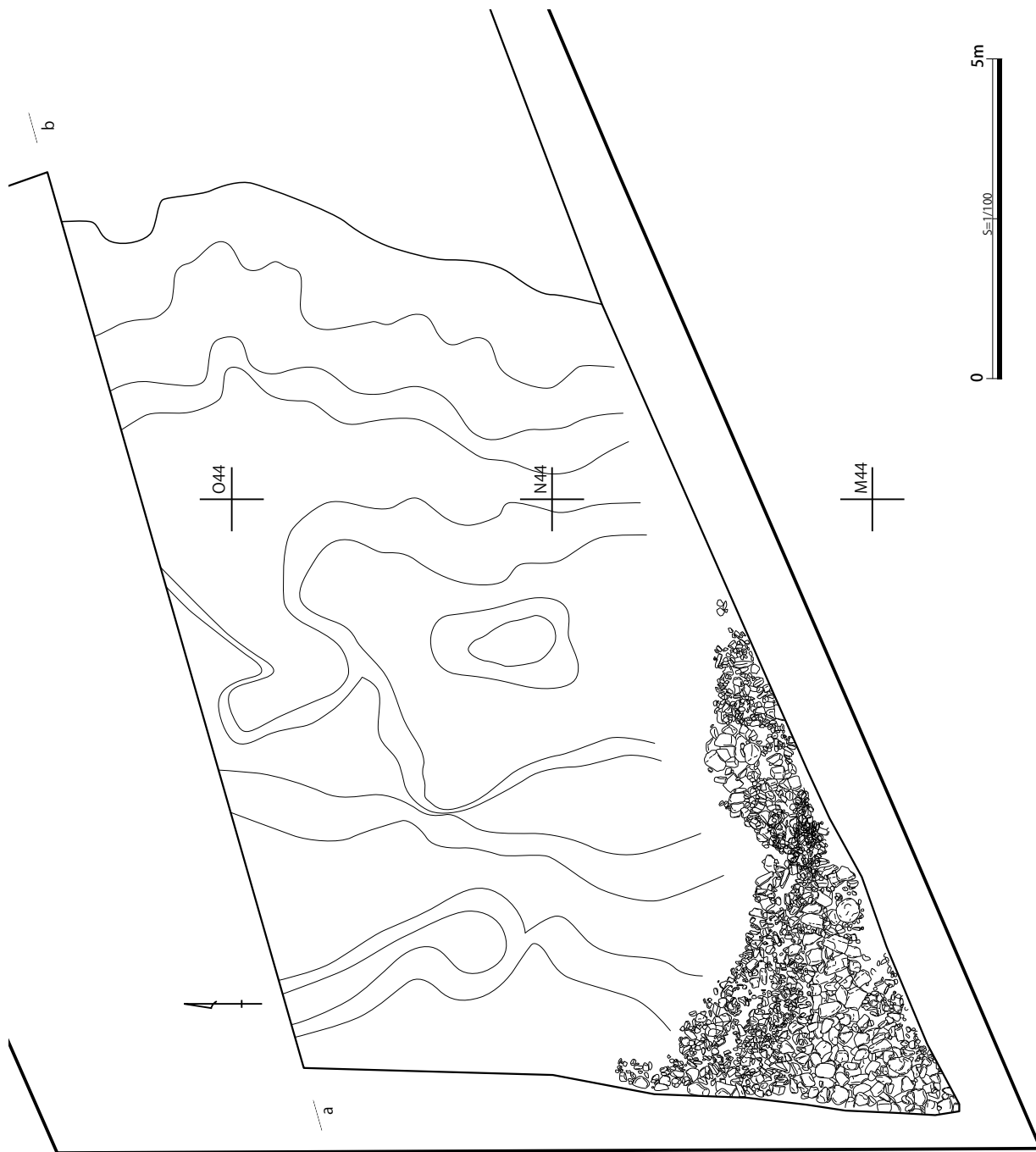


1 黄褐色 2.5Y 5/3 砂質土 しまり強い粘性弱い。炭φ2cmを3%、焼土φ0.5~2cmを5%含む。

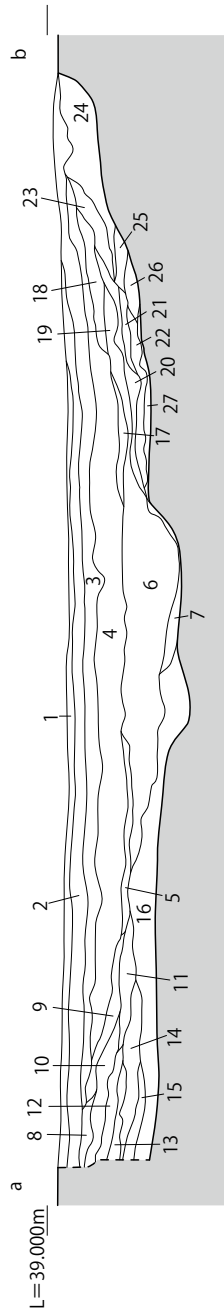
第 510 図 3-1 区 SP1234 平断面図 (1/20)



第 511 図 3-1 区 SP1234 出土遺物

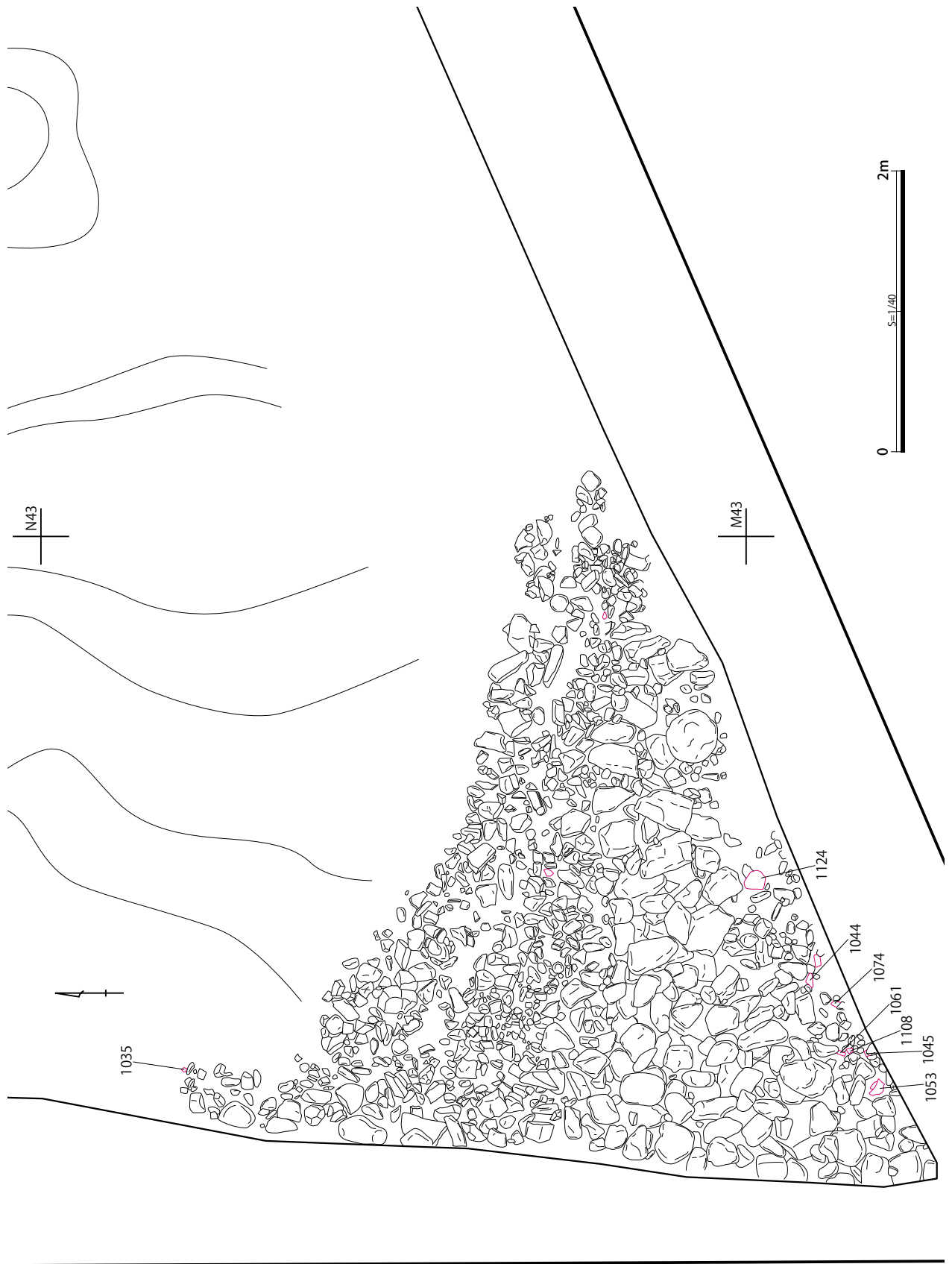


第 512 图 3-1 区 SR1001 平面图 (1/100)



- |    |                 |     |  |
|----|-----------------|-----|--|
| 1  | オリーブ褐色 2.5Y 4/3 | 砂質土 | しまりやや強い、粘性弱い。焼土φ0.2cmを2%含む。                    |
| 2  | オリーブ褐色 2.5Y 4/3 | 砂質土 | しまりやや強い、粘性やや弱い。炭化物φ0.1~0.2cmを1%、焼土φ0.2cmを2%含む。 |
| 3  | にぶい黄褐色 10YR 4/3 | 砂質土 | しまりやや強い、粘性やや弱い。炭化物φ0.1cmを1%、焼土φ0.3cmを2%含む。     |
| 4  | にぶい黄褐色 10YR 4/3 | 砂質土 | しまりやや強い、粘性やや強い。炭化物φ0.3cmを2%、焼土φ0.3cmを3%含む。     |
| 5  | オリーブ褐色 2.5Y 4/3 | 砂質土 | しまりやや強い、粘性やや強い。焼土φ0.3cmを1%含む。                  |
| 6  | にぶい黄褐色 10YR 4/3 | シルト | φ0.5~1cmが主体。拳大~20cm程度の大型礫も含む。                  |
| 7  | オリーブ褐色 2.5Y 4/3 | 砂質土 | しまりやや強い、粘性強い。炭化物φ0.2cmを1%含む。                   |
| 8  | オリーブ褐色 2.5Y 4/3 | 砂質土 | しまりやや強い、粘性やや弱い。炭化物φ0.2cmを1%含む。                 |
| 9  | オリーブ褐色 2.5Y 4/3 | 砂質土 | しまりやや強い、粘性やや強い。炭化物φ0.2cmを1%含む。                 |
| 10 | 暗灰黄色 2.5Y 4/2   | 砂質土 | しまりやや強い、粘性やや強い。炭化物φ0.3cmを1%含む。                 |
| 11 | 暗灰黄色 2.5Y 4/2   | 粗砂  | しまり強い、粘性強い。                                    |
| 12 | オリーブ褐色 2.5Y 4/3 | 砂質土 | しまりやや強い、粘性やや弱い。                                |
| 13 | オリーブ褐色 2.5Y 4/3 | 砂質土 | しまり強い、粘性やや強い。                                  |
| 14 | オリーブ褐色 2.5Y 4/4 | 砂質土 | しまり強い、粘性強い。細砂が混じる。                             |
| 15 | 暗灰黄色 2.5Y 4/2   | 粗砂  | しまり強い、粘性強い。                                    |
| 16 | 暗灰黄色 10YR 4/4   | 砂質土 | しまりやや強い、粘性やや弱い。                                |
| 17 |                 | 礫   | φ0.2~0.5cmが主体                                  |
| 18 | オリーブ褐色 2.5Y 4/3 | 砂質土 | しまり強い、粘性やや弱い。焼土φ0.2cmを1%含む。                    |
| 19 | 褐色 10YR 4/4     | 砂質土 | しまり強い、粘性やや弱い。炭化物φ0.2cmを2%含む。                   |
| 20 | オリーブ褐色 2.5Y 5/4 | 砂質土 | しまり強い、粘性やや強い。炭化物φ0.3cmを1%含む。                   |
| 21 | 黄褐色 2.5Y 5/4    | 砂質土 | しまりやや強い、粘性やや強い。                                |
| 22 | にぶい黄褐色 10YR 4/3 | 砂質土 | しまり強い、粘性強い。炭化物φ0.2cmを1%含む。                     |
| 23 | 黄褐色 2.5Y 5/4    | 砂質土 | しまり強い、粘性やや弱い。炭化物φ0.2cmを2%、焼土φ0.1cmを1%含む。       |
| 24 | 黄褐色 2.5Y 5/4    | 砂質土 | しまり強い、粘性やや強い。                                  |
| 25 | 暗灰黄色 2.5Y 4/3   | 砂質土 | しまり強い、粘性やや弱い。炭化物φ0.1cmを1%含む。                   |
| 26 | 暗灰黄色 2.5Y 4/2   | 細砂  | しまり強い、粘性強い。                                    |
| 27 | 褐色 10YR 4/4     | 砂質土 | しまり強い、粘性やや強い。焼土φ0.1cmを1%含む。                    |

第 513 図 3-1 区 SR1001 断面図 (1/100)



第 514 図 3-1 区 SR1001 石積み平面図① (1/40)



第 515 図 3-1 区 SR1001 石積み平面図② (1/40)



第 516 図 3-1 区 SR1001 石積み平面図③ (1/40)

**時期** 出土した遺物から室町時代（15～16世紀）以降の年代が想定される。

177号小穴（SP1177）（第508・509図）

**検出地点** Q51 グリッド

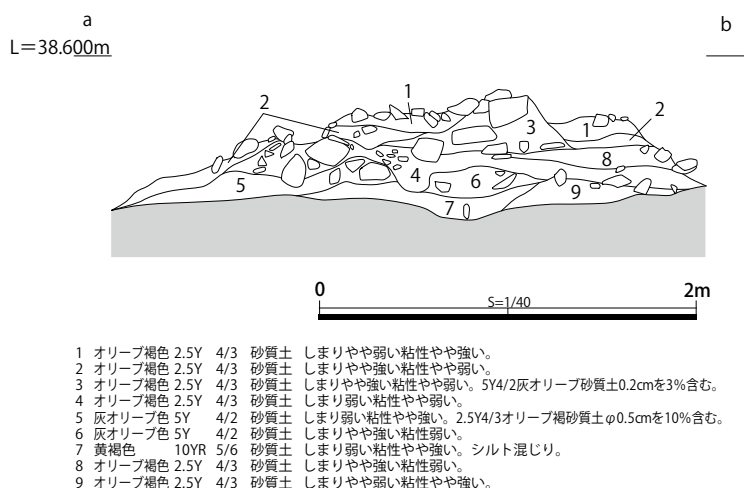
**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.32m、短軸は0.25m、深さは0.26mを測る。断面の形状は丸底形である。

**土層** 何れも砂質土層で2層に分層され、上部は黄褐色砂質土層、下部にはオリーブ褐色砂質土層が堆積している。

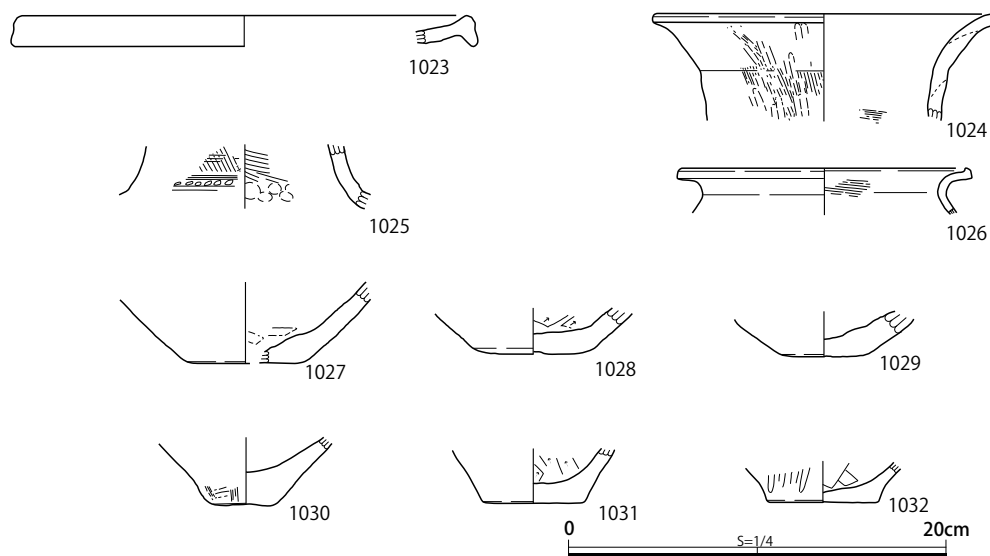
**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 1021は土師質土器の杯である。

**時期** 出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。

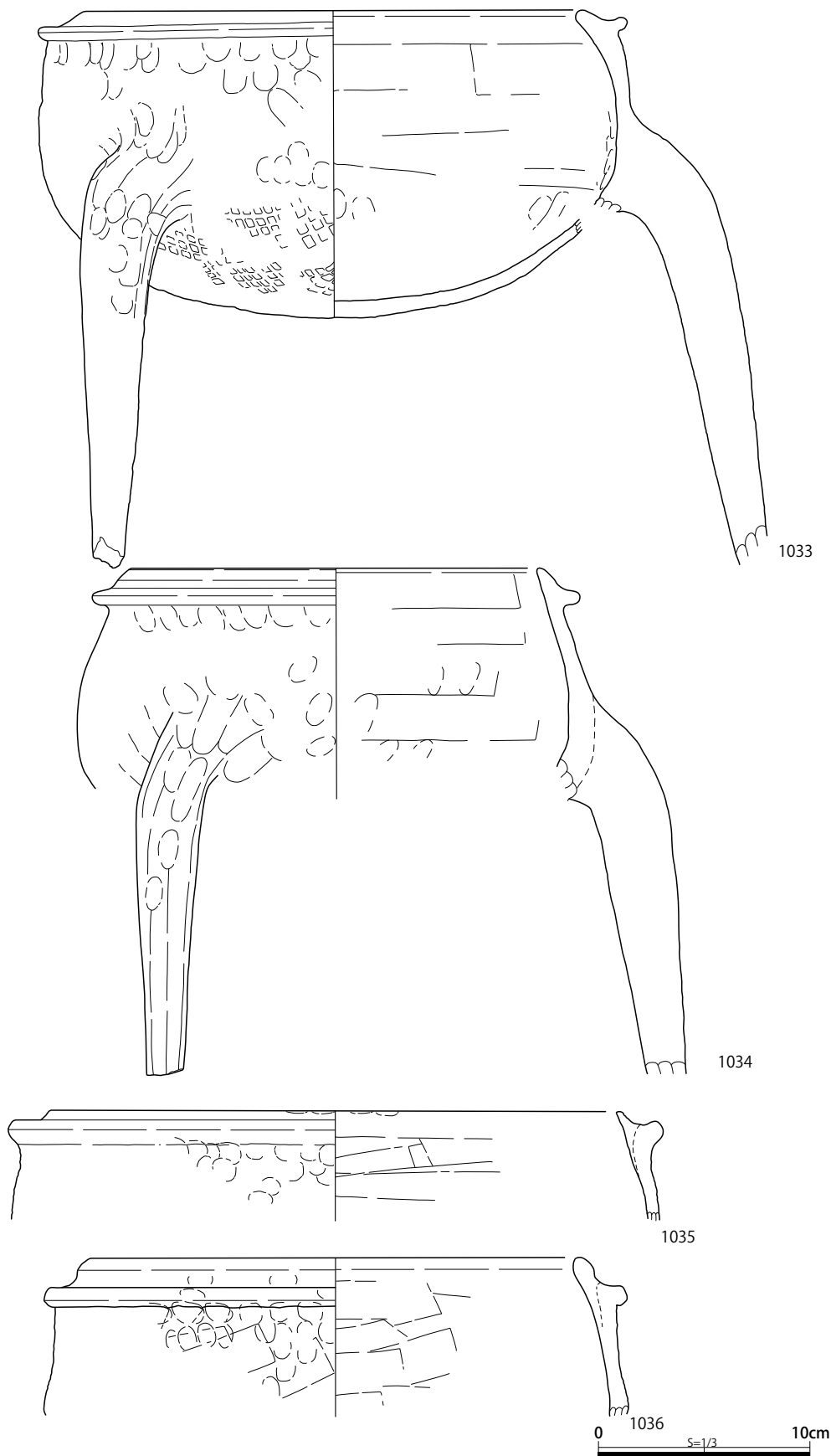


第517図 3-1区SR1001石積み断面図（1/40）

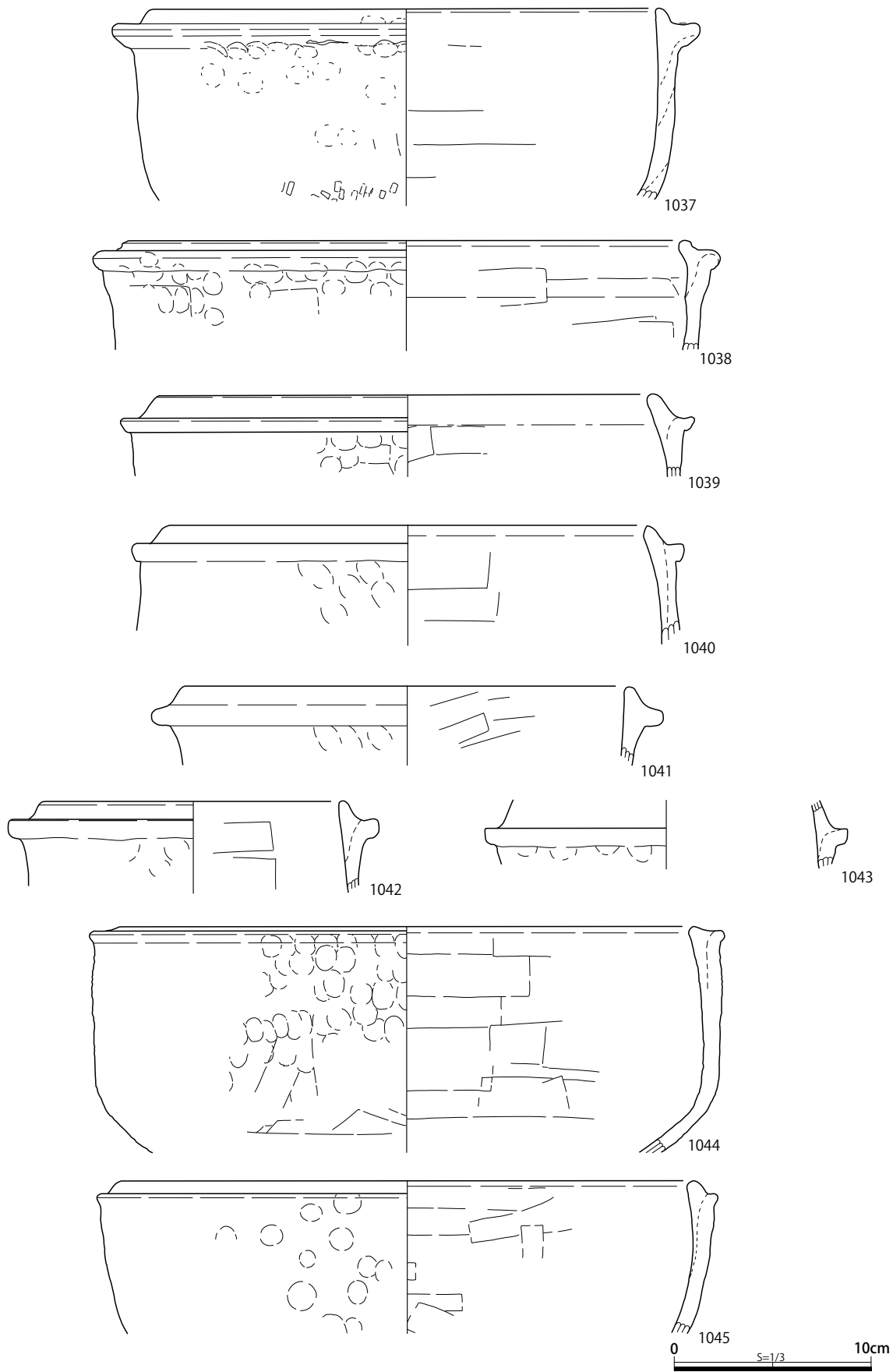


第518図 3-1区SR1001出土遺物①

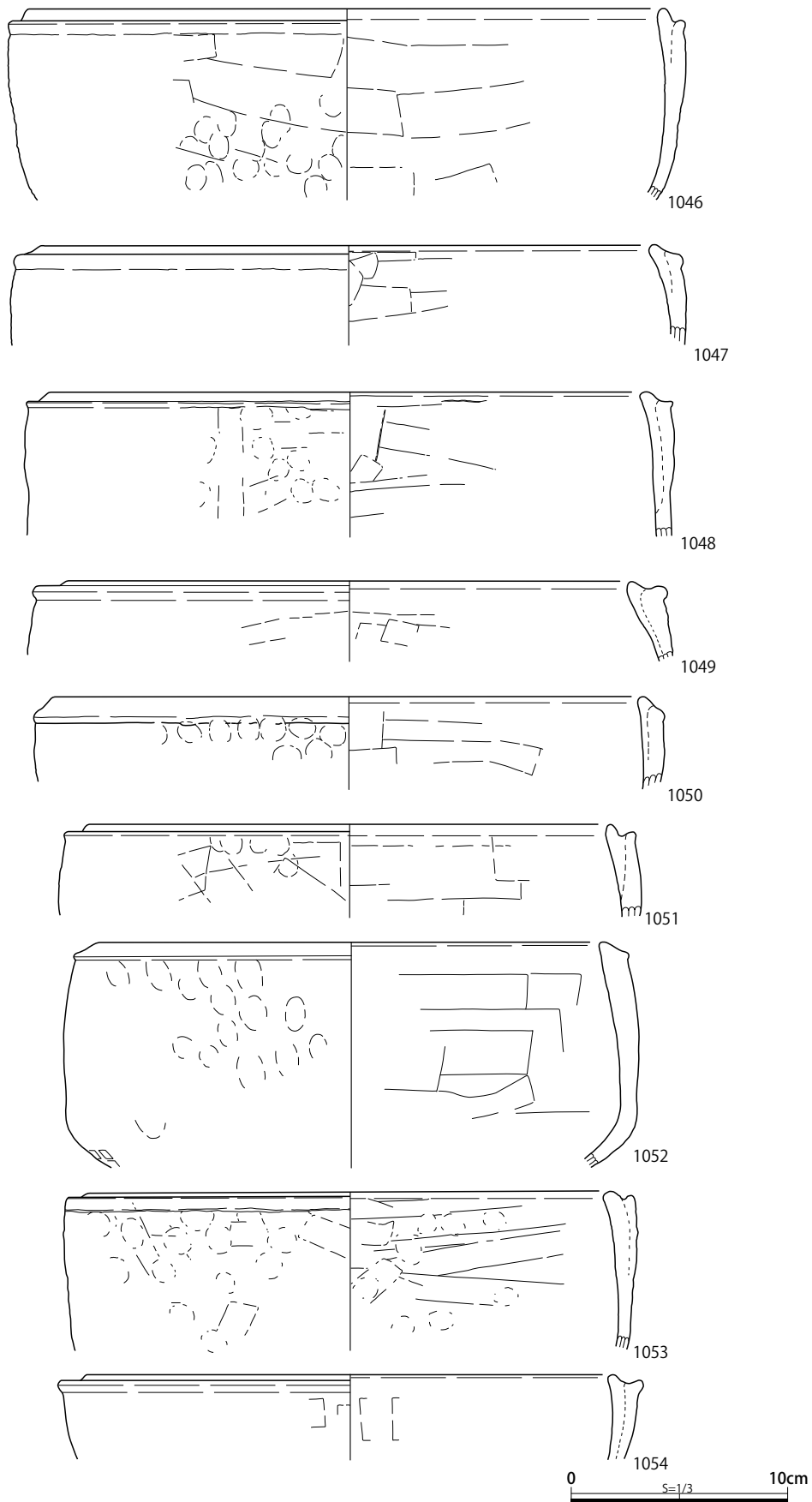




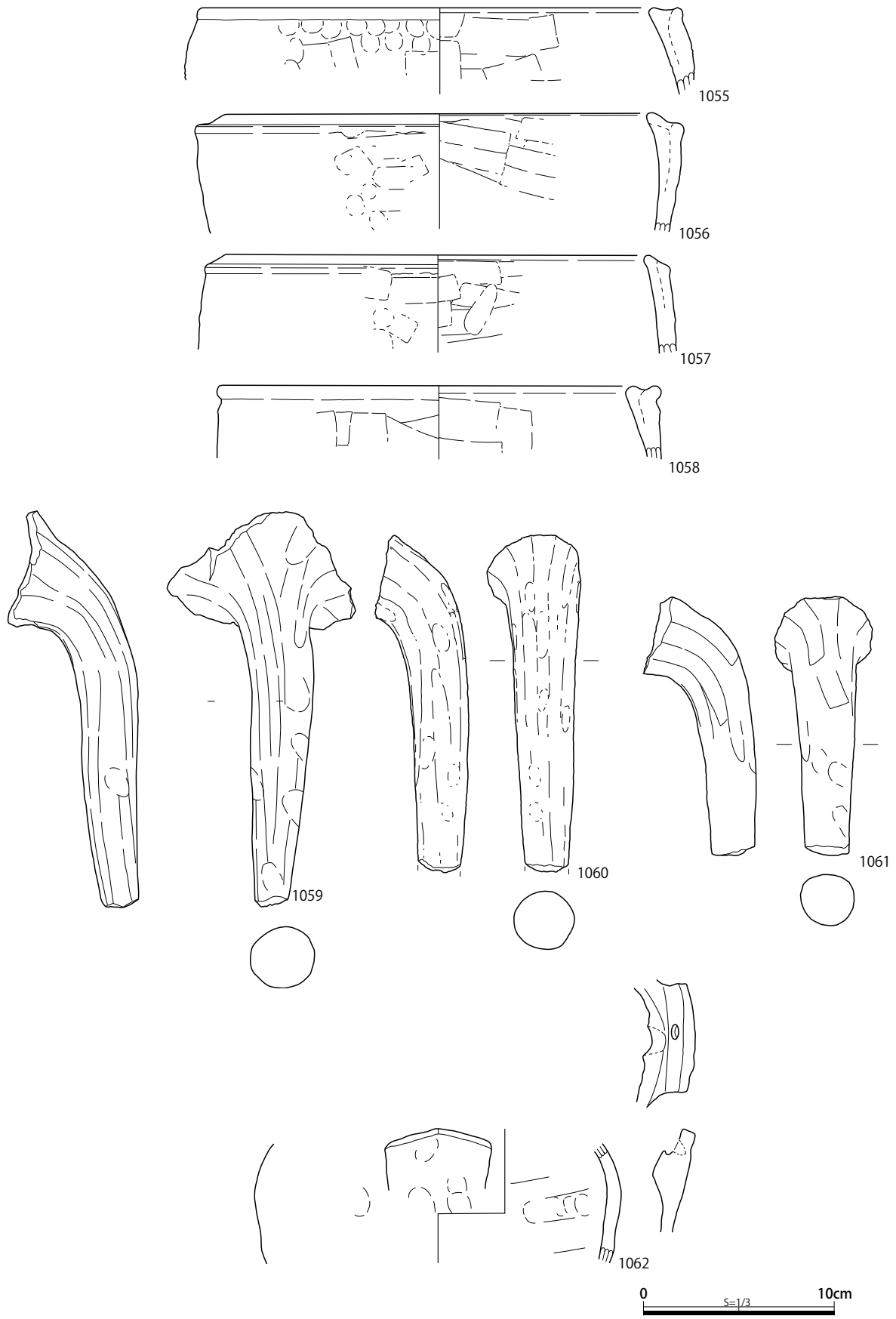
第 519 图 3-1 区 SR1001 出土遺物②



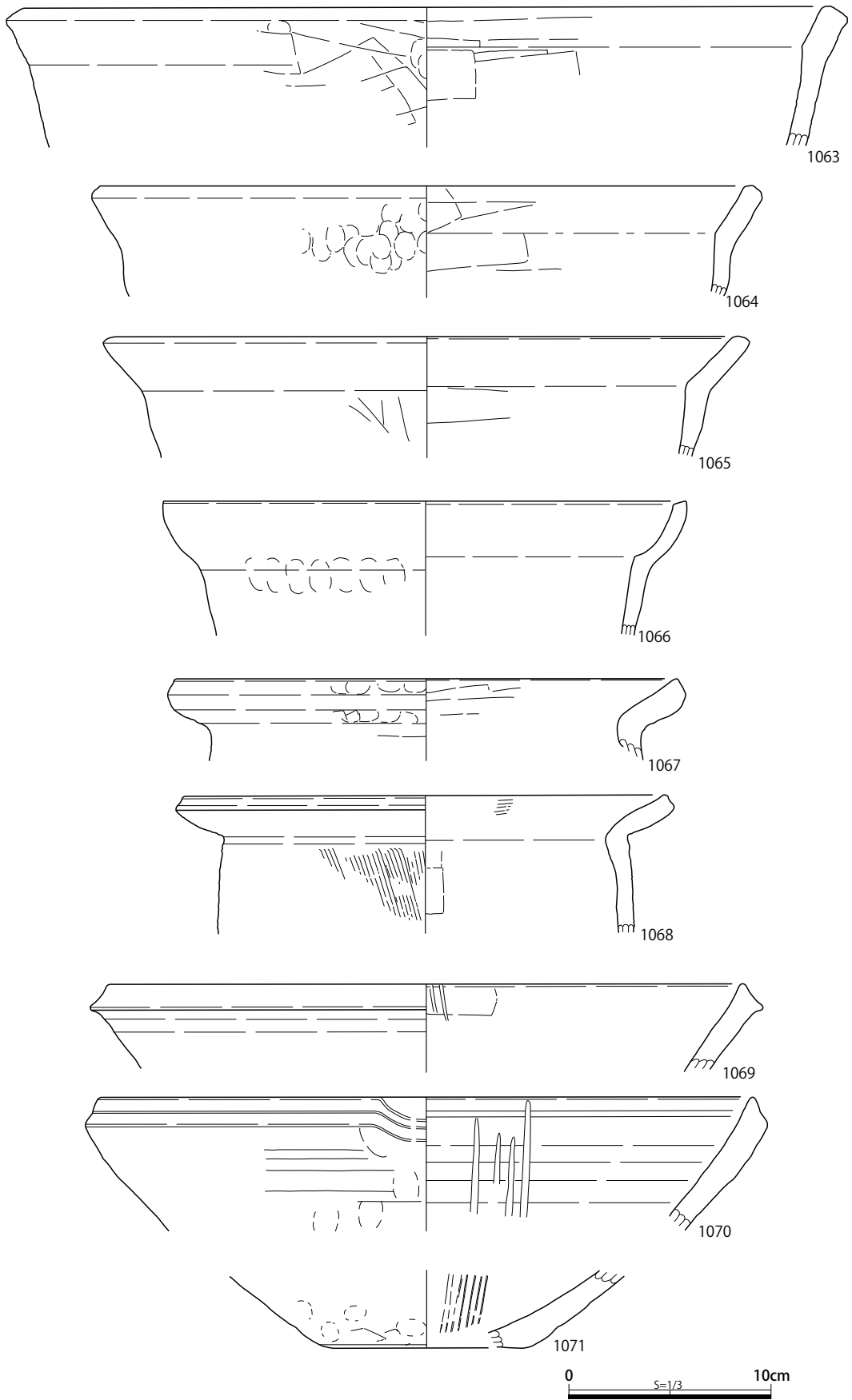
第 520 图 3-1 区 SR1001 出土遺物③



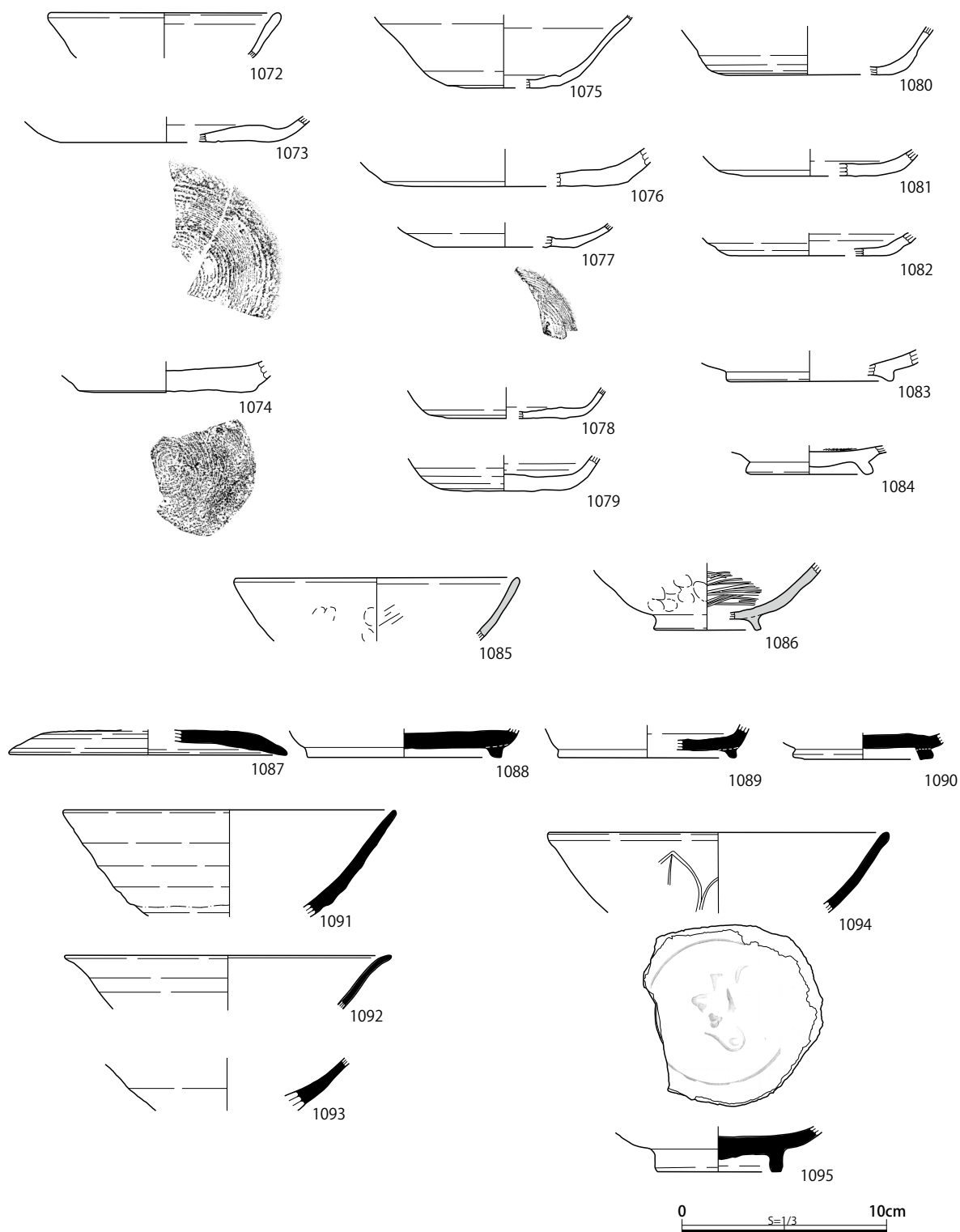
第 521 図 3-1 区 SR1001 出土遺物④



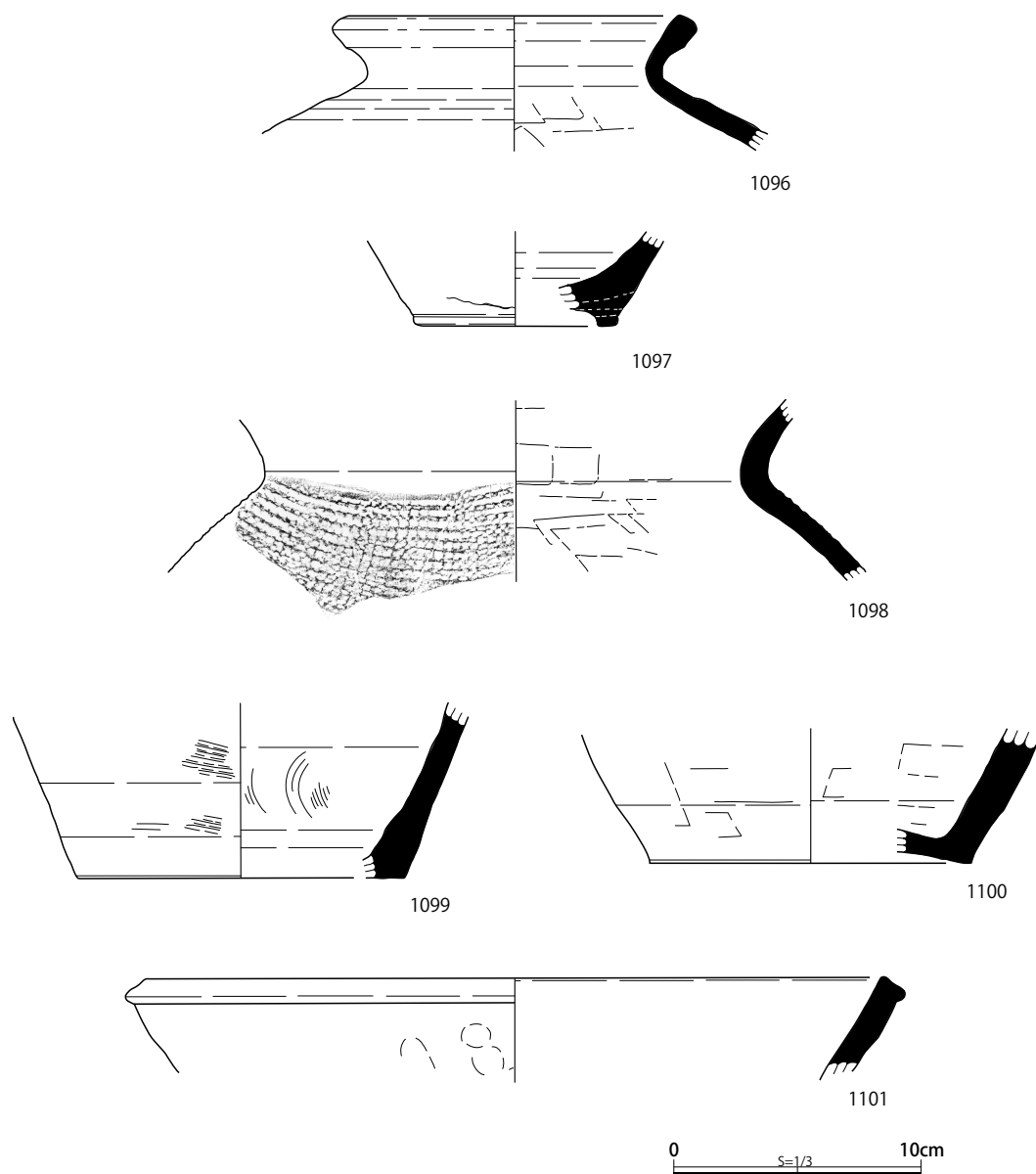
第 522 图 3-1 区 SR1001 出土遺物⑤



第 523 図 3-1 区 SR1001 出土遺物⑥



第 524 图 3-1 区 SR1001 出土遺物⑦



第 525 図 3-1 区 SR1001 出土遺物⑧

234 号小穴 (SP1234) (第 510・511 図)

**検出地点** P45 グリッド

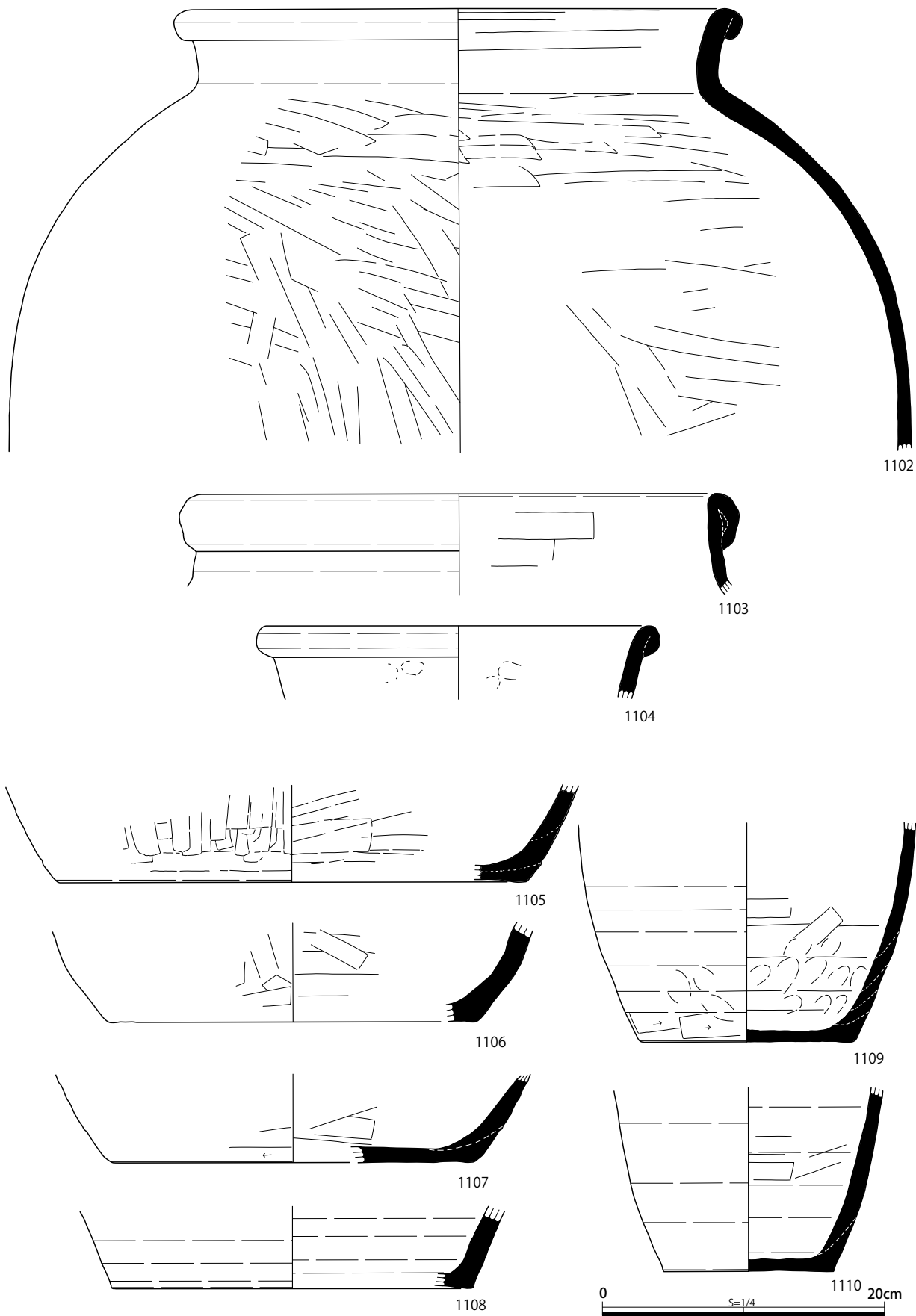
**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈するとみられるが、西側を SP1235 に切られている。残存値で長軸は 0.30m、短軸は 0.28m、深さは 0.22m を測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 黄褐色砂質土層が 1 層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

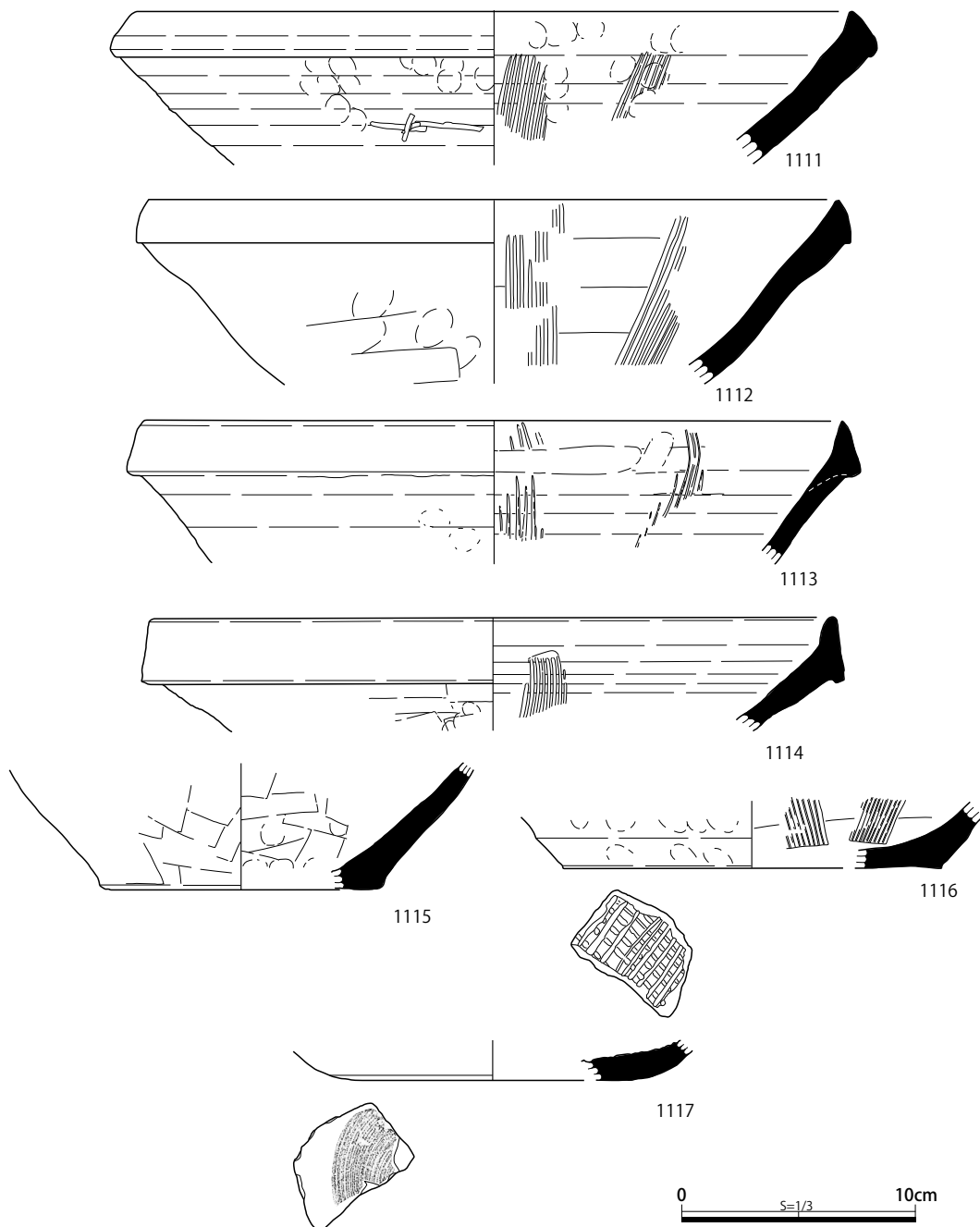
**出土遺物** 1022 は羽口である。

**時期** 年代は特定できない。



第 526 图 3-1 区 SR1001 出土遺物⑨



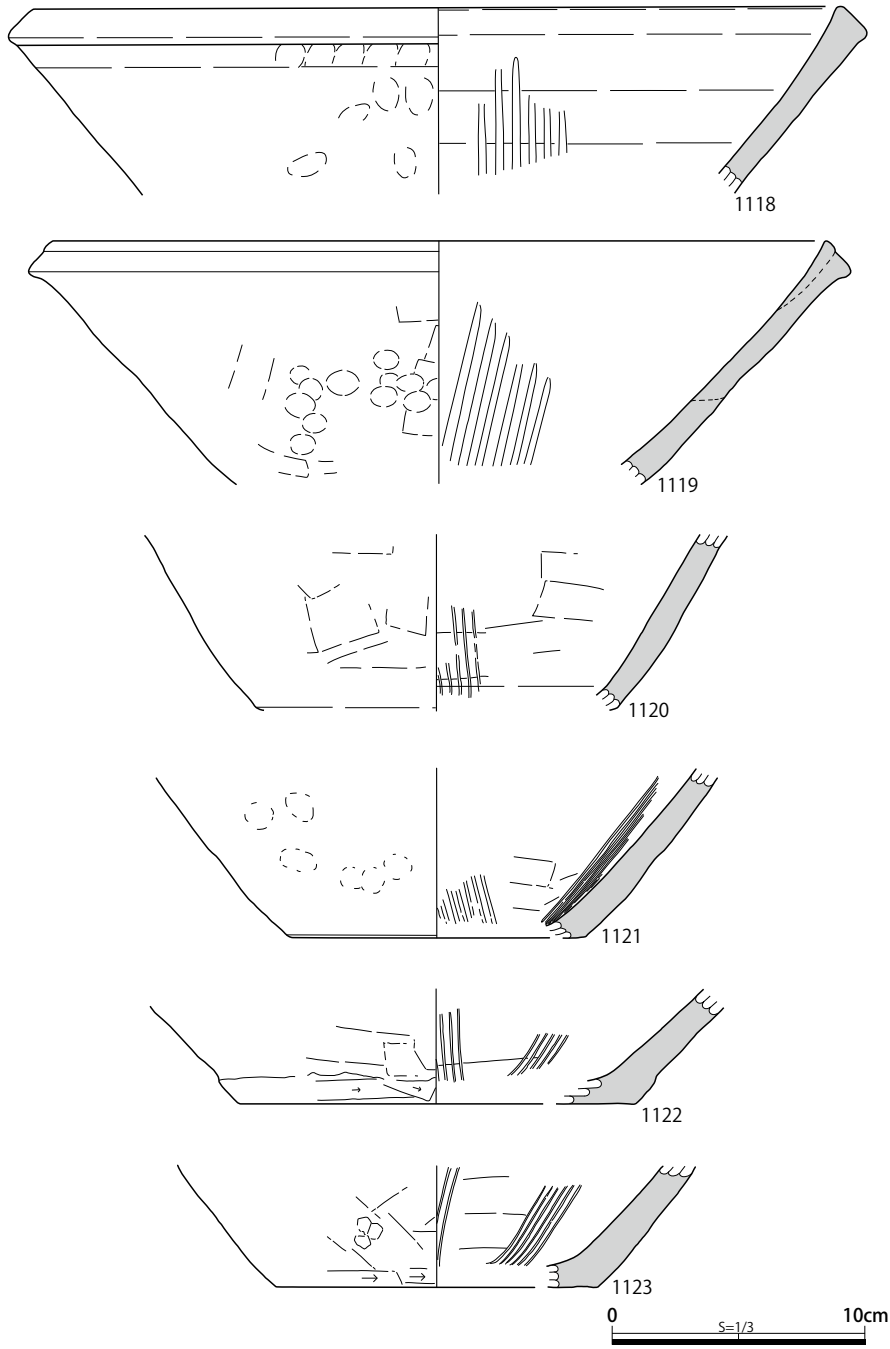


第 527 図 3-1 区 SR1001 出土遺物⑩

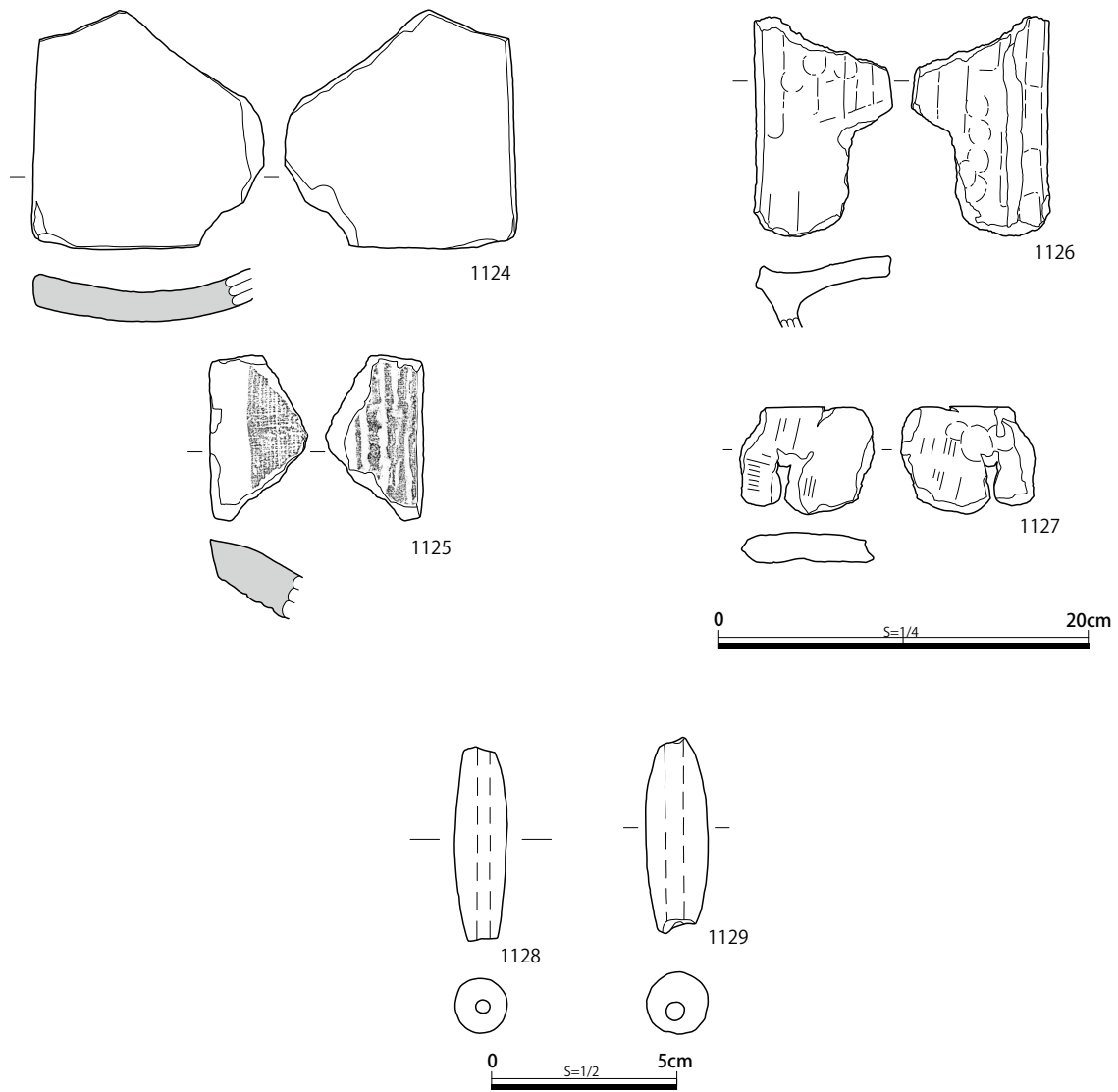
1 号自然流路 (SR1001) (第 512 ~ 533 図)

**検出地点** M・N・O42 ~ 44 グリッド

**規模・形態** 南北方向に流れていると考えられる自然流路であり、調査区内での延長距離は 10.30m、幅は 14.30m、深さは 1.70m を測る。断面の形状はほぼ中央部が深く、斜面部と平坦部を交えながら立ち上がっている。また流路内の南側からは流れに直交するように積み上げられた礫の集中の張り出しが検出されている。この張り出し状の部分はまず土を盛り上げ、その上に小礫混じりの土砂を堤状に盛っていき、最後に人頭大の大型の礫を頂部付近を中心に並べて石積み護岸状の突堤を築いているようであ



第 528 图 3-1 区 SR1001 出土遺物①



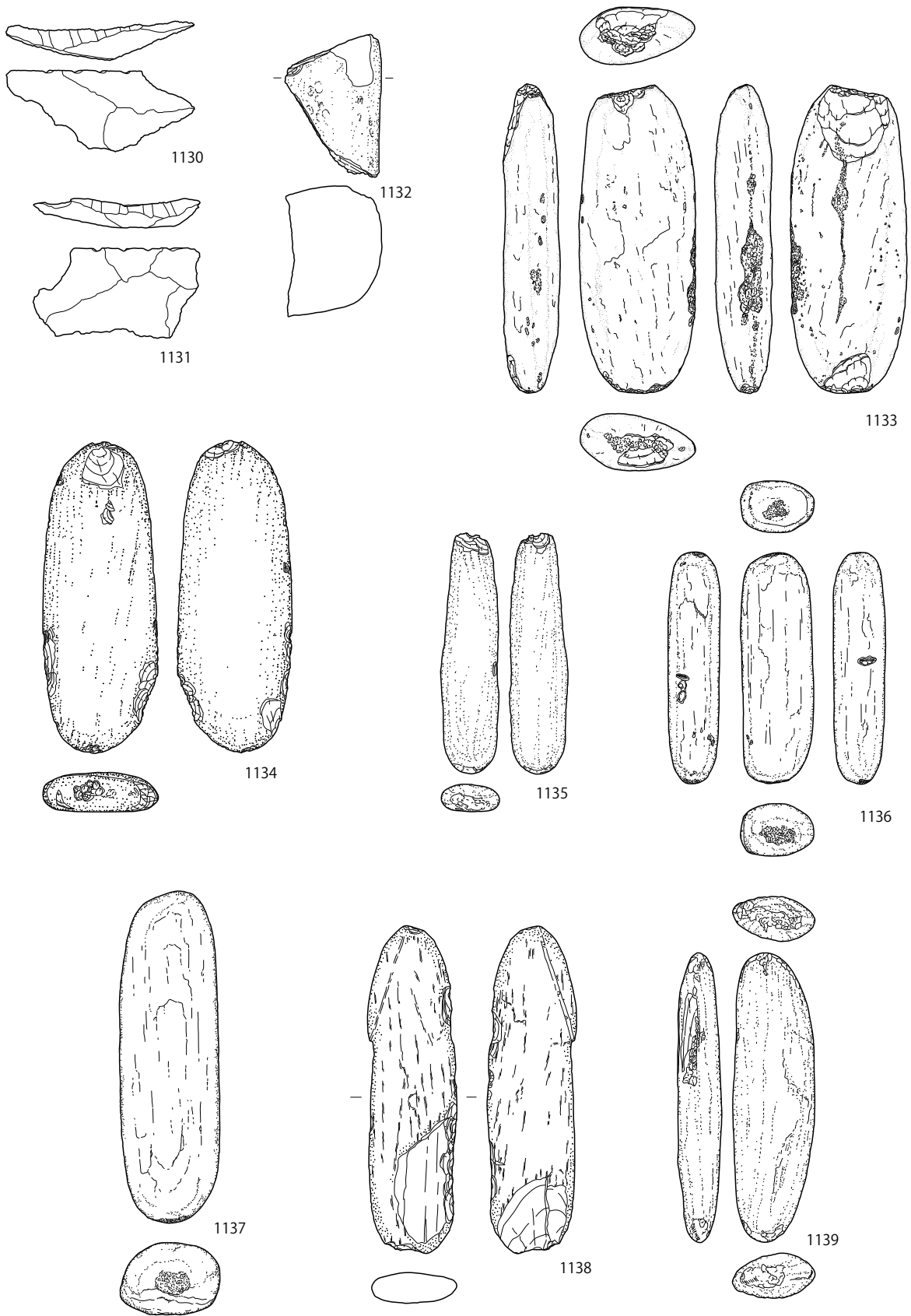
第 529 図 3-1 区 SR1001 出土遺物⑫

る。基底部部分などに杭などは検出されていない。

**土層** 27層に分層されており、上部の1、2層にオリブ褐色砂質土層、その下の3、4層ににぶい黄褐色砂質土層がそれぞれ30～40cm堆積しており、流れの中央部最下層には0.5～1cm程度の小礫を主体とした礫層が厚いところでは60cm近く堆積している。石積み護岸状の遺構の大型礫下の盛土部分は9層に分層されており、基底部は灰オリブ色砂質土、黄褐色砂質土が存在し、上部の礫が多く混じる部分には主にオリブ褐色砂質土が盛土として利用されている。

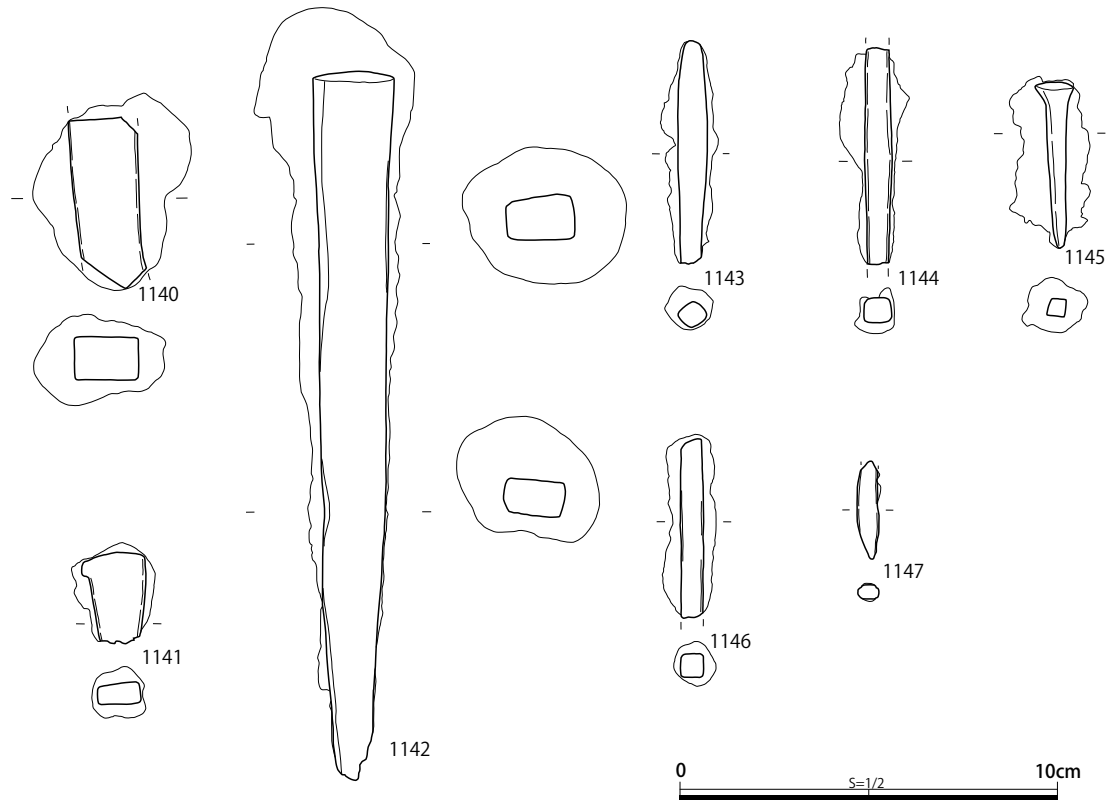
**遺物出土状況** 盛土上の小型礫の中やその上部の大型礫の隙間などから土器が出土している。また弥生土器や同時代とみられる石器類は流路の埋土中を中心として出土している。

**出土遺物** 1023～1032は弥生土器である。前期～終末までの複数の時期が存在している。1033～1058は土師質土器の羽釜である。鏝部は短めで端部をやや丸く収めるものと(1033～1043)、鏝部が退化しているもの(1044～1058)の大きく2者が存在している。1059～1061は土師質土器の煮沸具の脚部である。1062は土師質土器の茶釜である。1063～1066は土師質土器の鍋である。



0 ————— 10cm  
S=1/3

第 530 图 3-1 区 SR1001 出土遺物⑬



第 531 図 3-1 区 SR1001 出土遺物⑭

1067・1068 は土師質土器の甕である。1069～1071 は土師質土器の播鉢である。1072～1084 は土師質土器の杯である。1073、1074、1077 は底部の切り離しは回転糸切りである。1085、1086 は瓦器碗である。1086 はやや古く 11 世紀後半～12 世紀前半頃とみられる。1087～1090 は須恵器。1087 は蓋で、1088～1090 は杯である。1091 は瀬戸の灰釉陶器の椀である。1092、1093 は白磁の碗である。1094、1095 は龍泉窯系青磁の碗である。1096、1097 は須恵器の壺、1098～1100 は須恵器の甕である。1101 は東播系須恵器の捏鉢である。1102～1116 は備前焼の陶器。1102～1110 は甕である。1111～1116 は播鉢である。1117 は瀬戸焼のおろし目皿である。1118～1123 は瓦質土器の播鉢である。1124、1125 は平瓦である。1126、1127 は置き竈である。1128、1129 は管状土錘である。1130、1131 は砂岩の石臼である。1132 は敲打痕の残る砂岩の台石。1133～1139 は片岩製の敲き石である。1140～1147 は鉄製品。1140～1142 は杭状の大型の鉄器である。1143～1147 は釘と考えられる。1148～1154 は羽口片である。1155～1162 はスラグである。

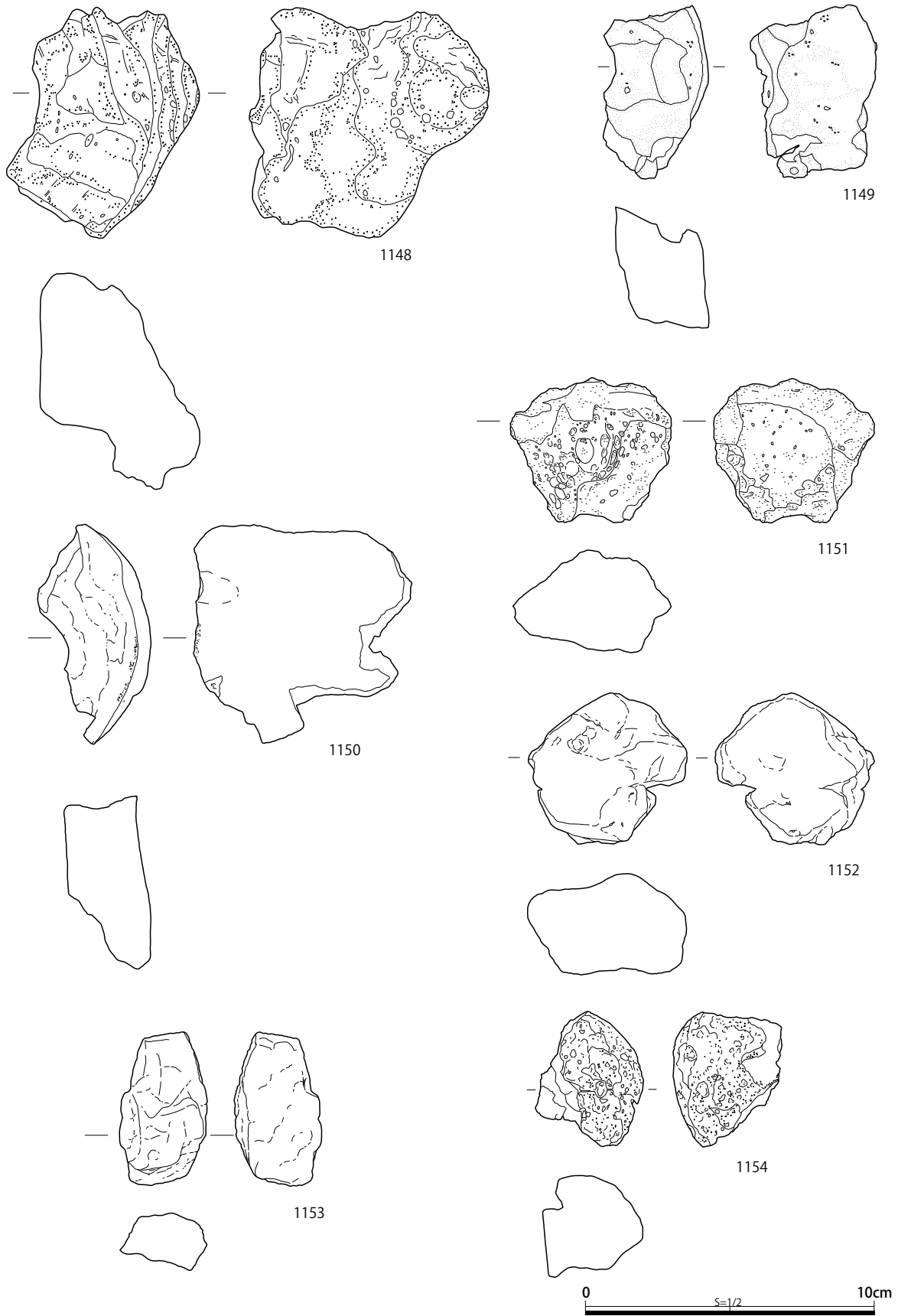
**時期** 石積み護岸状の礫層内から出土した遺物の年代から室町時代(15 世紀)以降の年代が想定される。

#### 4 号性格不明遺構 (SX1004) (第 534・535 図)

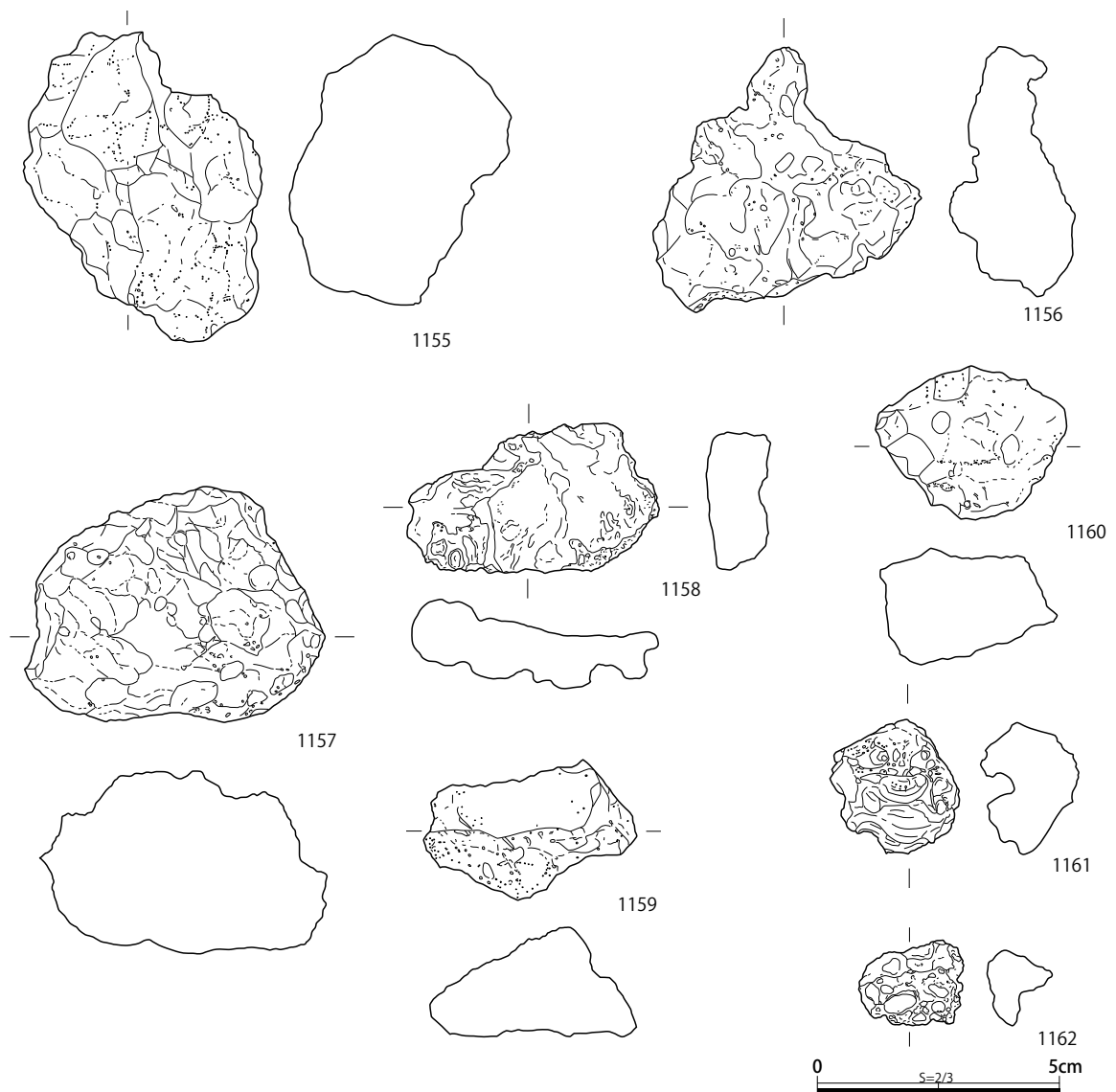
**検出地点** Q51 グリッド

**規模・形態** 平面形状は長楕円形を呈し、長軸は 1.32m、短軸は 0.42m、深さは 0.38m を測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 上部は砂質土層、下部の 2 層はシルト混じり砂質土層で 3 層に分層される。色調はオリーブ褐色と暗灰黄色の層が互層に堆積している。



第 532 图 3-1 区 SR1001 出土遺物⑮



第 533 図 3-1 区 SR1001 出土遺物⑩

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 1163 は土師質土器の甕である。

**時期** 出土した遺物から平安時代以降の年代が想定される。

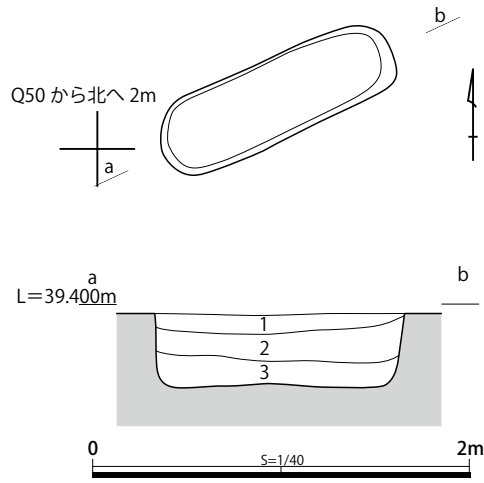
5 号性格不明遺構 (SX1005) (第 536 図)

**検出地点** P・Q50 グリッド

**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は 1.94m、短軸は 1.48m、深さは 0.20m を測る。断面の形状は舟底形である。

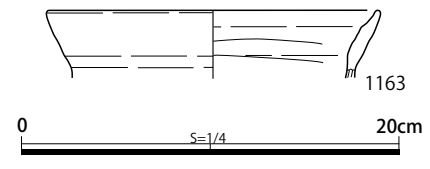
**土層** 何れも砂質土層で 6 層に分層され、最下層の 6 層 (暗灰黄色砂質土層) においてはややシルトが混じる。また 4 層 (黄褐色砂質土層) 中には若干焼土が含まれている。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

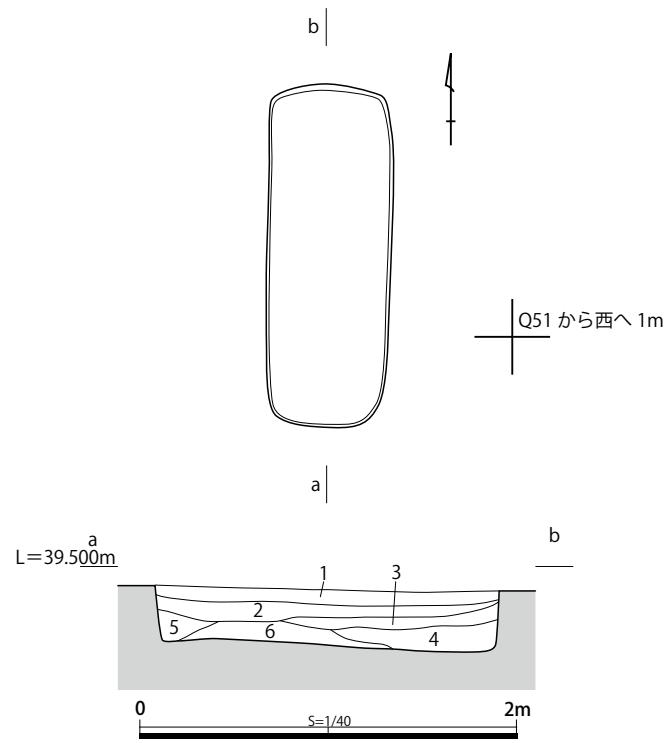


- |   |        |      |     |            |  |
|---|--------|------|-----|------------|--|
| 1 | オリーブ褐色 | 2.5Y | 4/3 | 砂質土        | しまり強い粘性やや弱い。5Y5/2灰オリーブ砂質土φ1~1.5cmを5%、炭φ1.5cmを1%含む。                 |
| 2 | 暗灰黄色   | 2.5Y | 4/2 | 砂質土・シルト混じり | しまりやや強い粘性やや強い。5Y5/2灰オリーブ砂質土φ1~2cmを5%、炭φ0.5cmを3%含む。                 |
| 3 | オリーブ褐色 | 2.5Y | 4/4 | 砂質土・シルト混じり | しまりやや強い粘性やや強い。5Y5/2灰オリーブ砂質土φ0.5~1cmを3%、2.5Y6/1黄灰砂質土φ0.5~2cmを10%含む。 |

第 534 図 3-1 区 SX1004 平断面図 (1/40)



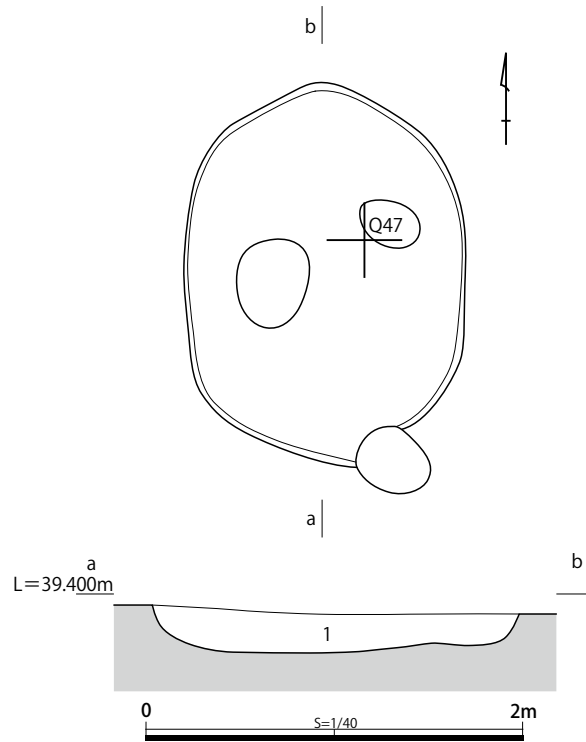
第 535 図 3-1 区 SX1004 出土遺物



- |   |        |      |     |            |  |
|---|--------|------|-----|------------|--|
| 1 | 黄褐色    | 2.5Y | 5/3 | 砂質土        | しまり強い粘性やや弱い。5Y5/2灰オリーブ砂質土φ0.5~1cmを5%含む。                              |
| 2 | 黄褐色    | 2.5Y | 5/4 | 砂質土        | しまりやや強い粘性やや強い。5Y5/2灰オリーブ砂質土φ0.5~2cmを5%、炭φ0.2~2cmを5%含む。               |
| 3 | オリーブ褐色 | 2.5Y | 4/4 | 砂質土        | しまりやや強い粘性やや強い。5Y5/2灰オリーブ砂質土φ0.5~1.5cmを5%、2.5Y6/1黄灰砂質土φ0.5~2cmを10%含む。 |
| 4 | 黄褐色    | 2.5Y | 5/4 | 砂質土        | しまりやや強い粘性やや強い。2.5Y6/1黄灰砂質土φ1.5~2.5cmを20%、焼土φ0.5~1cmを5%含む。            |
| 5 | オリーブ褐色 | 2.5Y | 4/4 | 砂質土        | しまりやや強い粘性やや弱い。   |
| 6 | 暗灰黄色   | 2.5Y | 4/2 | 砂質土・シルト混じり | しまりやや強い粘性やや強い。   |

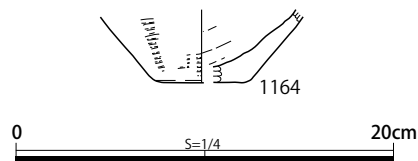
第 536 図 3-1 区 SX1005 平断面図 (1/40)





1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土 しまりやや強い粘性やや強い。S<sub>Y</sub>S/2灰オリーブ砂質土φ0.5~1cmを10%、炭φ0.5cmを3%含む。

第 537 図 3-1 区 SX1007 平断面図 (1/40)



第 538 図 3-1 区 SX1007 出土遺物

**出土遺物** 図化可能な遺物は出土していない。

**時期** 年代は特定できない。

7号性格不明遺構 (SX1007) (第 537・538 図)

**検出地点** P・Q46 グリッド

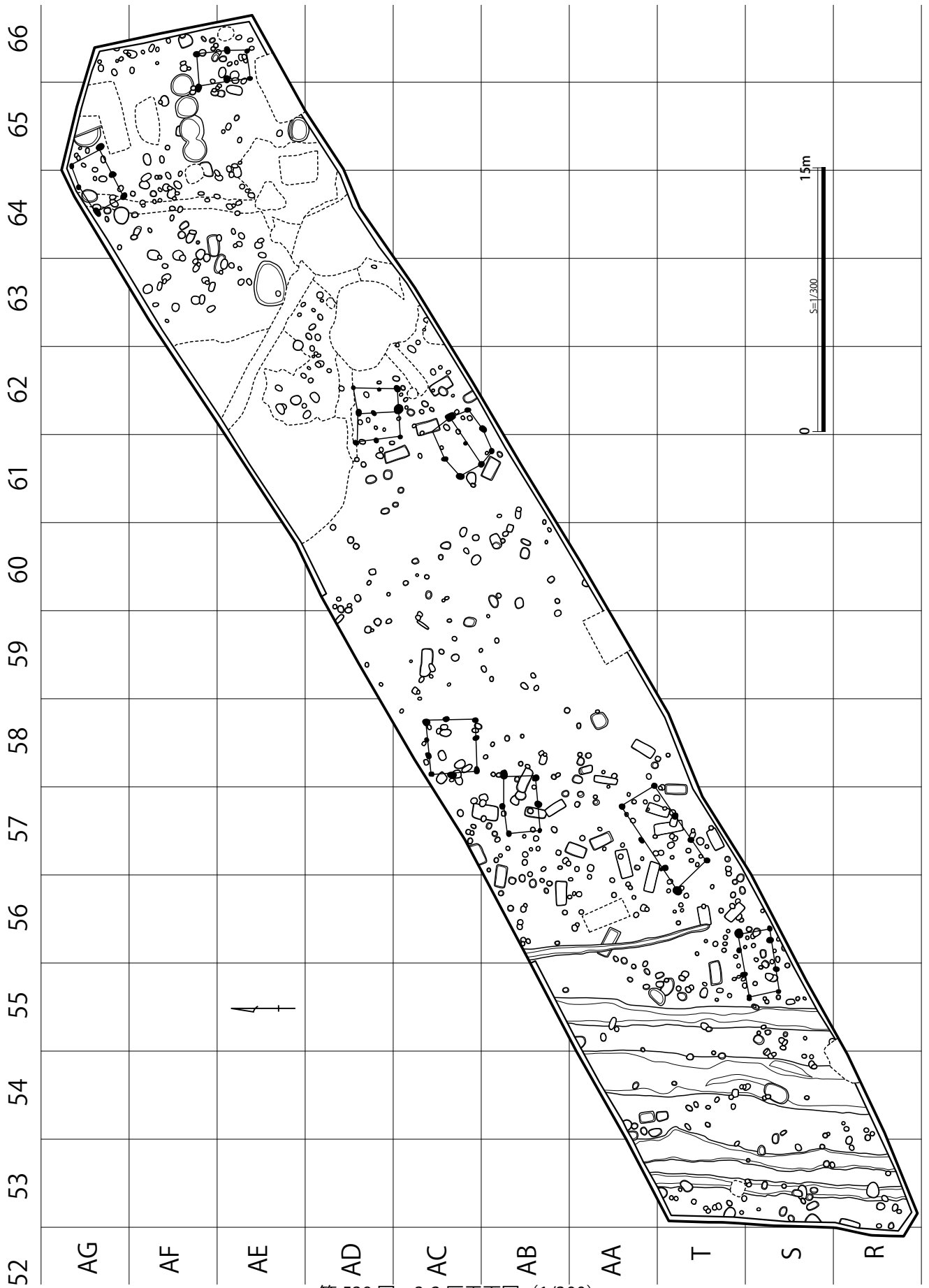
**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 1.94m、短軸は 1.48m、深さは 0.20m を測る。断面の形状は皿形である。

**土層** オリーブ褐色砂質土層が 1 層である。

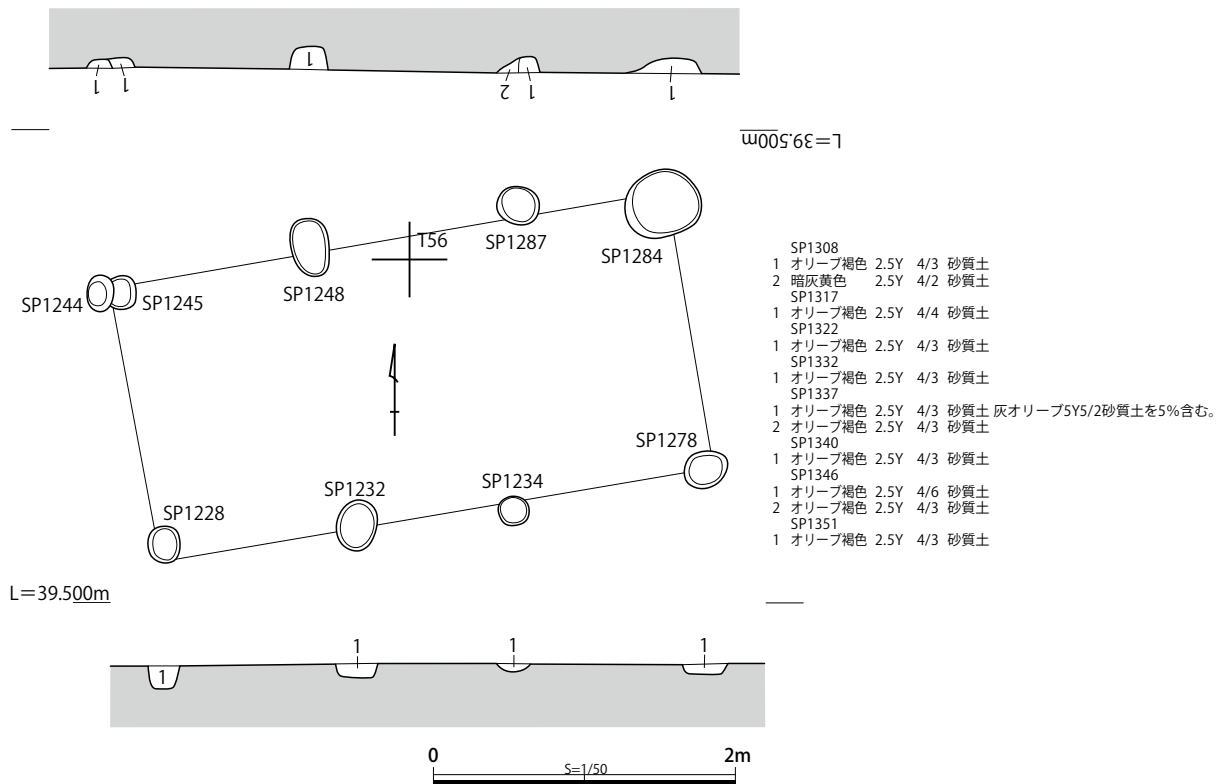
**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 1164 は弥生土器の甕の底部である。

**時期** 出土した遺物から弥生時代終末以降の年代が想定される。



第 539 图 3-2 区平面图 (1/300)



第 540 図 3-2 区 SA1001 平面図 (1/50)

(9) 3-2 区 (第 539 図)

3-2 区から検出された遺構は掘立柱建物 (SA) が 8 軒、溝 (SD) が 5 条、土坑 (SK) が 78 基、小穴 (SP) が 684 基、性格不明遺構 (SX) が 6 基となっている。

1 号掘立柱建物 (SA1001) (第 540 図)

**検出地点** S・T55・56 グリッド

**規模・形態** 梁間 1 間 (1.83m) × 桁行 3 間 (3.70m)、床面積 6.77m<sup>2</sup>の側柱建物である。建物の主軸方向は N - 80° - E である。

**土層** オリーブ褐色砂質土層を主体として 1 ~ 2 層に分層される。

**遺物出土状況** SP1248 から遺物が出土している。

**出土遺物** 個別遺構で後述。

**時期** 出土した遺物や建物の主軸方向などから中世以降の年代が想定される。

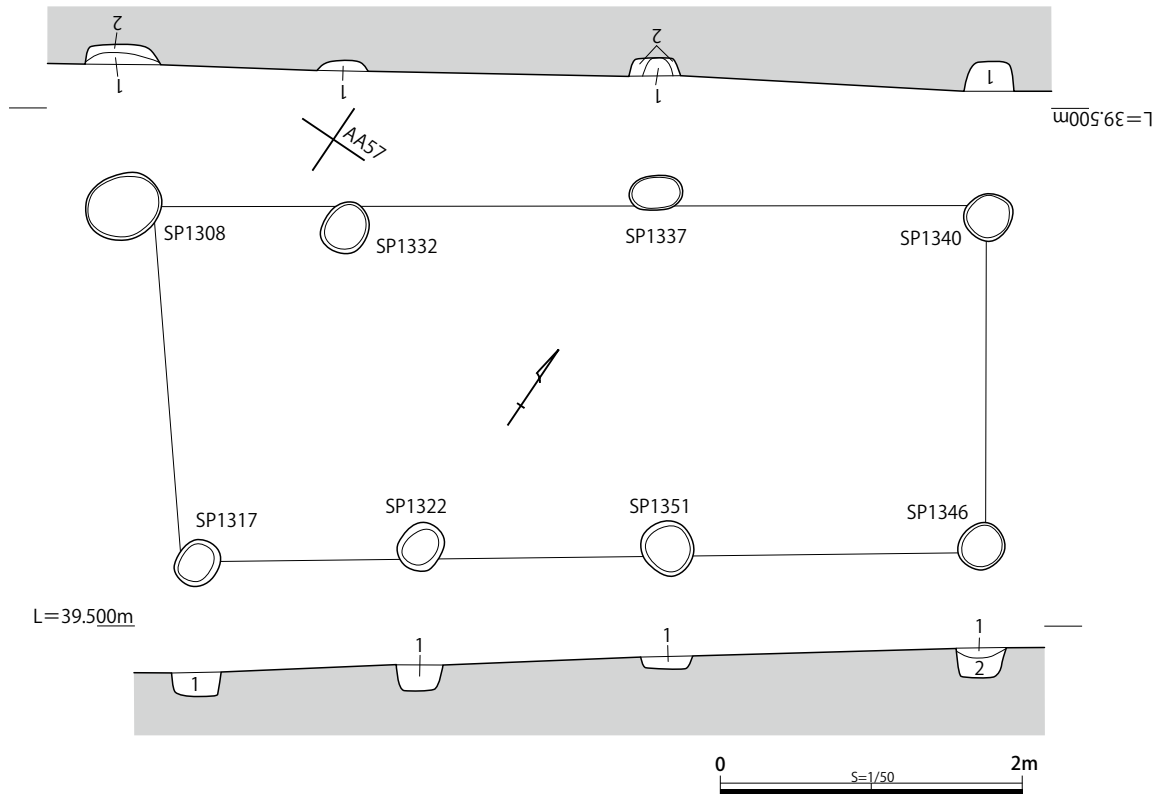
2 号掘立柱建物 (SA1002) (第 541 図)

**検出地点** T56・57・AA57

**規模・形態** 梁間 1 間 (2.25m) × 桁行 3 間 (5.50m)、床面積 12.38m<sup>2</sup>の側柱建物である。建物の主軸方向は N - 55° - E である。

**土層** オリーブ褐色砂質土層を主体として 1 ~ 2 層に分層される。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。



- SP1308
  - 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土
  - 2 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土
  - SP1317
  - 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/4 砂質土
  - SP1322
  - 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土
  - SP1332
  - 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土
  - SP1337
  - 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土
  - SP1340
  - 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土
  - SP1346
  - 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/6 砂質土
  - 2 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土
  - SP1351
  - 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土
- 灰オリーブ5Y5/2砂質土を5%含む。

第 541 図 3-2 区 SA1002 平断面図 (1/50)

**出土遺物** 図化可能な遺物は出土していない。

**時期** 建物の主軸方向などから中世以降の年代が想定される。

### 3号掘立柱建物 (SA1003) (第 542 図)

**検出地点** AB57・58 グリッド

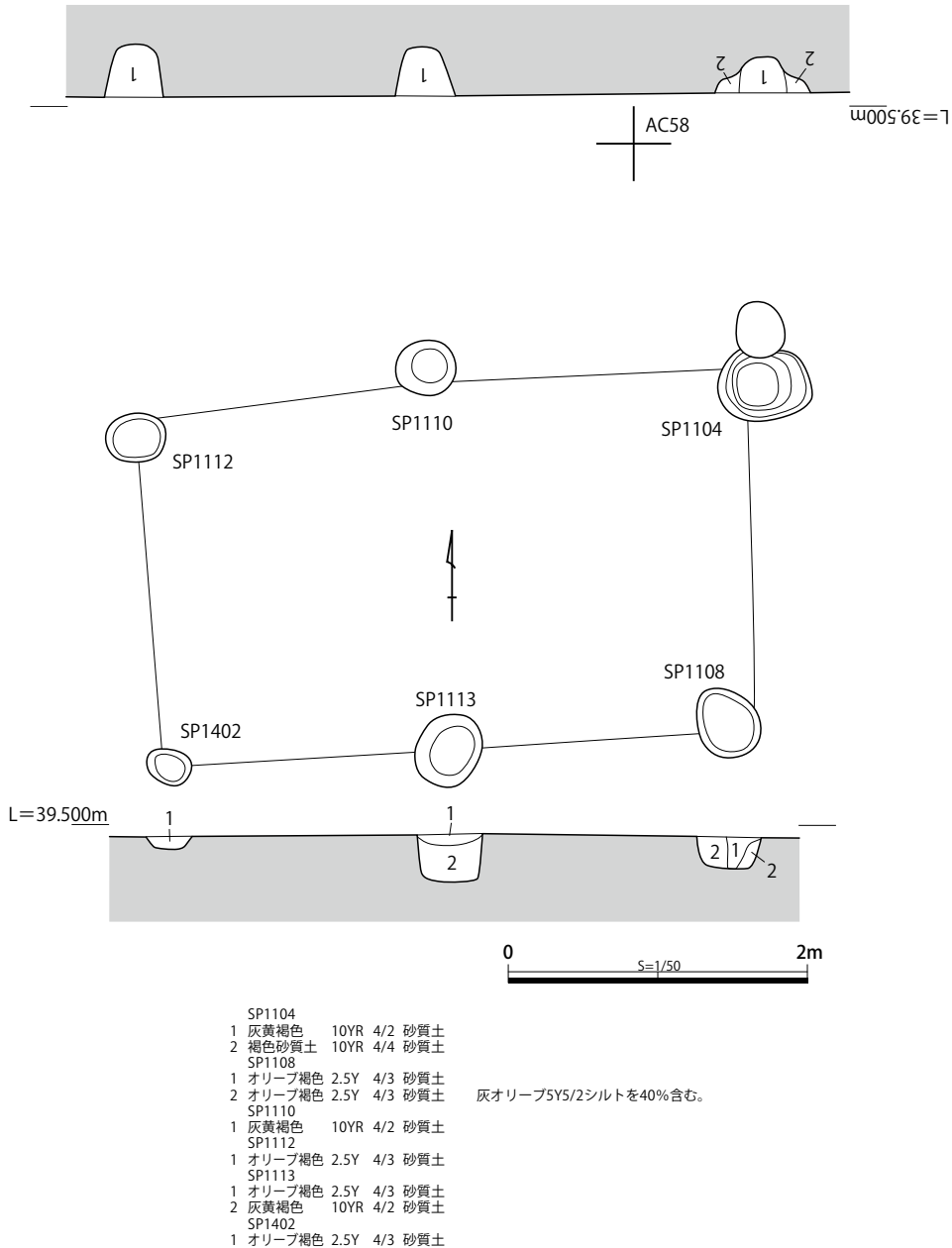
**規模・形態** 梁間 1 間 (2.40m) × 桁行 2 間 (4.05m)、床面積 9.72㎡の側柱建物である。建物の主軸方向は N - 90° - E である。

**土層** 灰黄色砂質土層やオリーブ褐色砂質土層を主体として 1 ~ 2 層に分層される。

**遺物出土状況** SP1113 から鉄器が出土している。

**出土遺物** 個別遺構で後述。

**時期** 建物の主軸方向などから中世以降の年代が想定される。



第 542 図 3-2 区 SA1003 平断面図 (1/50)

#### 4号掘立柱建物 (SA1004) (第 543 図)

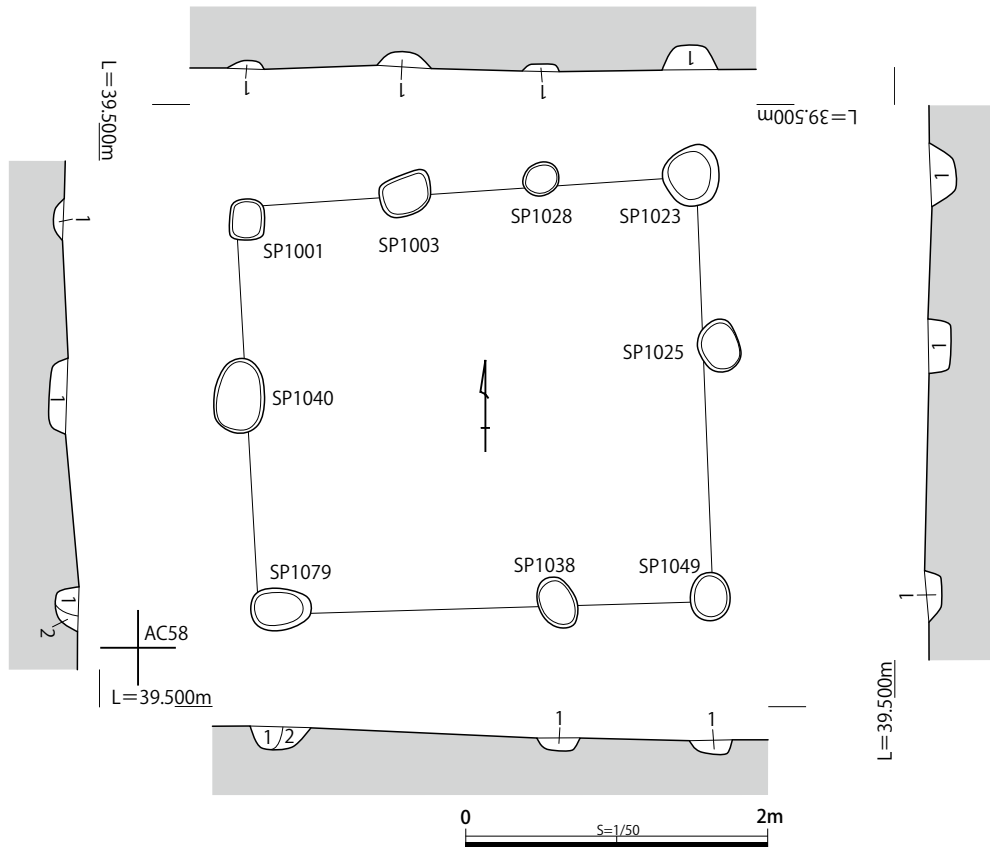
**検出地点** AC58 グリッド

**規模・形態** 梁間 2 間 (2.85m) × 桁行 3 間 (3.05m)、床面積 8.69㎡の側柱建物である。建物の主軸方向は N - 90° - E である。

**土層** 灰黄色砂質土層やオリーブ褐色砂質土層を主体として 1 ~ 2 層に分層される。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 図化可能な遺物は出土していない。



SP1001	1	オリーブ褐色	2.5Y	4/3	砂質土
SP1003	1	灰黄褐色	10YR	4/2	砂質土
SP1023	1	オリーブ褐色	2.5Y	4/3	砂質土
SP1025	1	にぶい黄褐色	10YR	5/3	砂質土
SP1028	1	灰黄褐色	10YR	4/2	砂質土
SP1038	1	灰黄褐色	10YR	4/2	砂質土
SP1040	1	灰黄褐色	10YR	4/2	砂質土
SP1049	1	オリーブ褐色	2.5Y	4/3	砂質土
SP1079	1	灰黄褐色	10YR	4/2	砂質土
	2	褐色	10YR	4/4	砂質土

第 543 図 3-2 区 SA1004 平面図 (1/50)

**時期** 建物の主軸方向などから中世以降の年代が想定される。

5号掘立柱建物 (SA1005) (第 544 図)

**検出地点** AB・AC61・62 グリッド

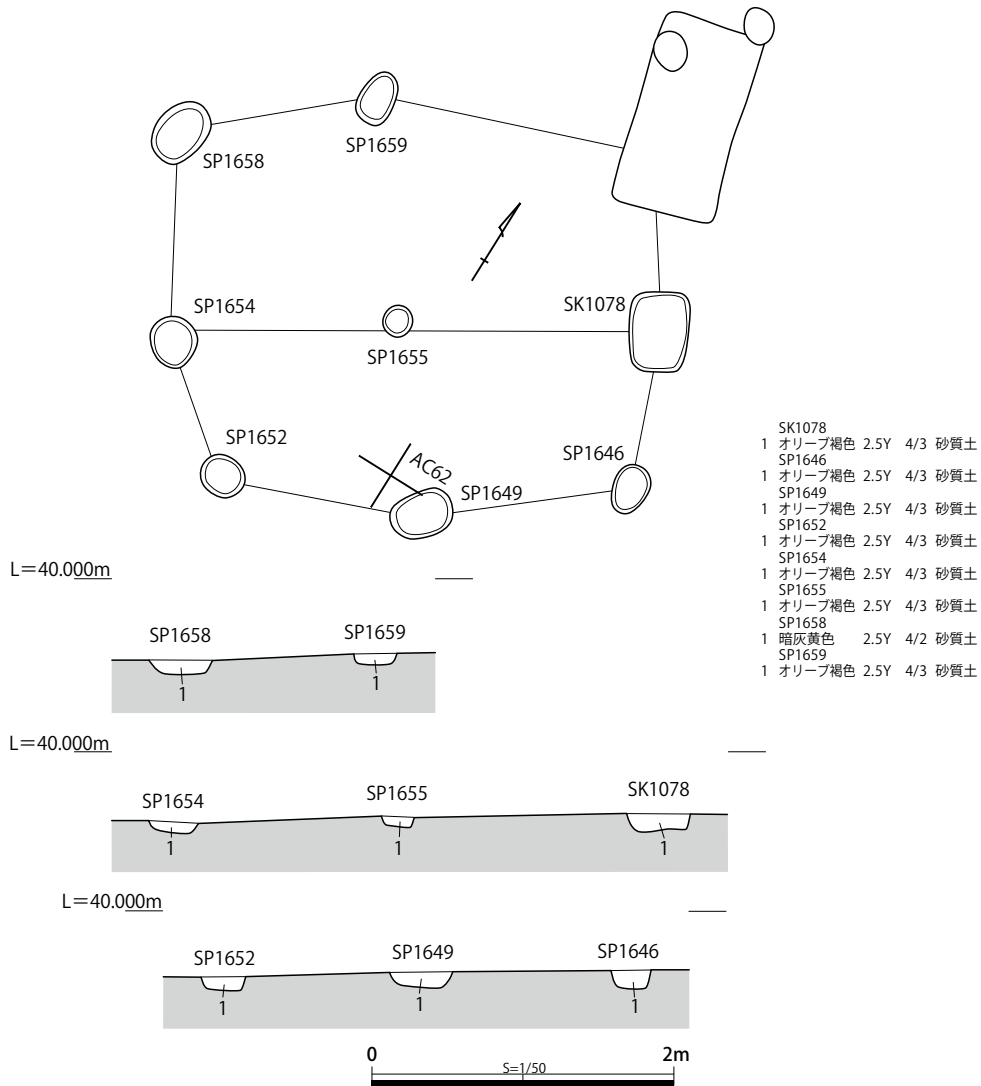
**規模・形態** 梁間 2 間 (2.70m) × 桁行 2 間 (3.30m)、床面積 8.91㎡の総柱建物である。建物の主軸方向は N - 50° - E である。

**土層** 暗灰黄色砂質土層やオリーブ褐色砂質土層が 1 層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 図化可能な遺物は出土していない。

**時期** 建物の主軸方向などから中世以降の年代が想定される。



第 544 図 3-2 区 SA1005 平断面図 (1/50)

6号掘立柱建物 (SA1006) (第 545 図)

**検出地点** AC・AD61・62 グリッド

**規模・形態** 梁間 2 間 (2.50m) × 桁行 2 間 (3.10m)、床面積 7.75m<sup>2</sup>の総柱建物である。建物の主軸方向は N - 90° - E である。

**土層** オリーブ褐色砂質土層が 1 層である。

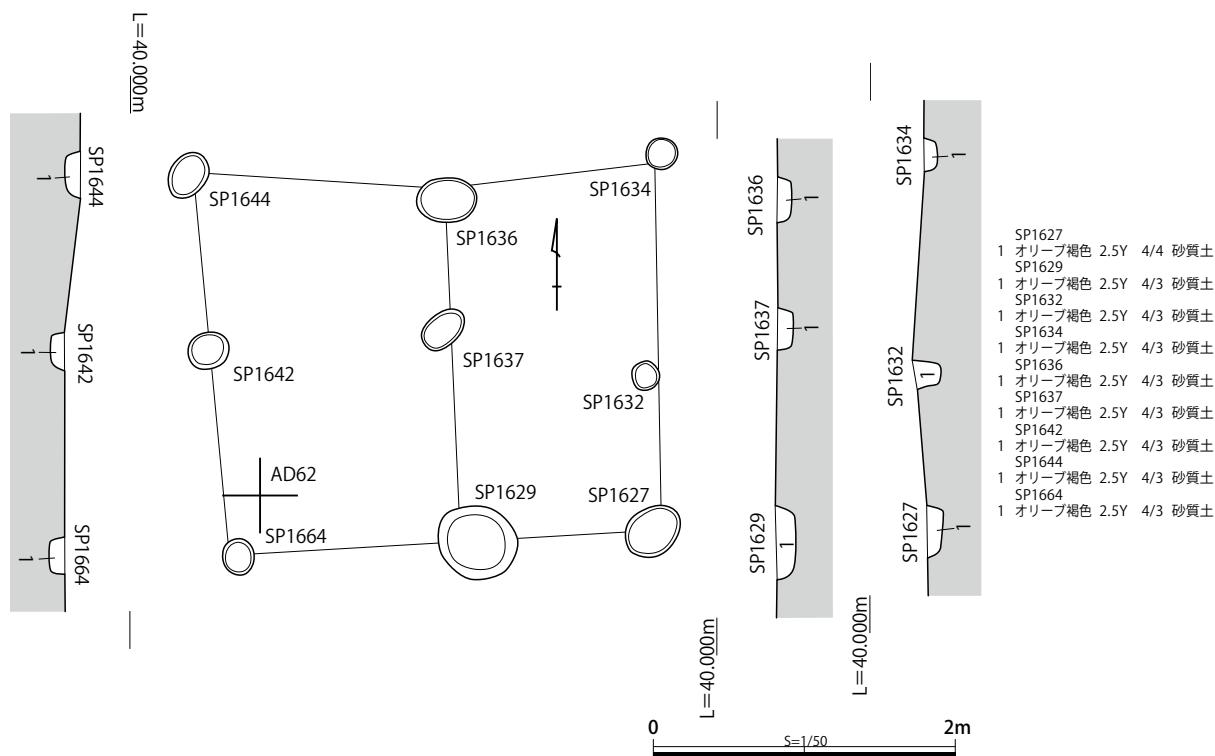
**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 図化可能な遺物は出土していない。

**時期** 建物の主軸方向などから中世以降の年代が想定される。

7号掘立柱建物 (SA1007) (第 546 図)

**検出地点** AG64・65 グリッド



第 545 図 3-2 区 SA1006 平断面図 (1/50)

**規模・形態** 梁間 1 間 (1.95m) × 桁行 2 間 (3.00m)、床面積 5.85m<sup>2</sup>の側柱建物である。建物の主軸方向は N - 62° - E である。

**土層** オリーブ褐色砂質土層が 1 層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 図化可能な遺物は出土していない。

**時期** 建物の主軸方向などから中世以降の年代が想定される。

#### 8 号掘立柱建物 (SA1008) (第 547 図)

**検出地点** AE・AF65・66 グリッド

**規模・形態** 梁間 1 間 (1.73m) × 桁行 2 間 (3.00m)、床面積 5.19m<sup>2</sup>の側柱建物である。建物の主軸方向は N - 4° - E である。

**土層** 暗灰黄色砂質土層やオリーブ褐色砂質土層を主体として 1 ~ 2 層に分層される。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 図化可能な遺物は出土していない。

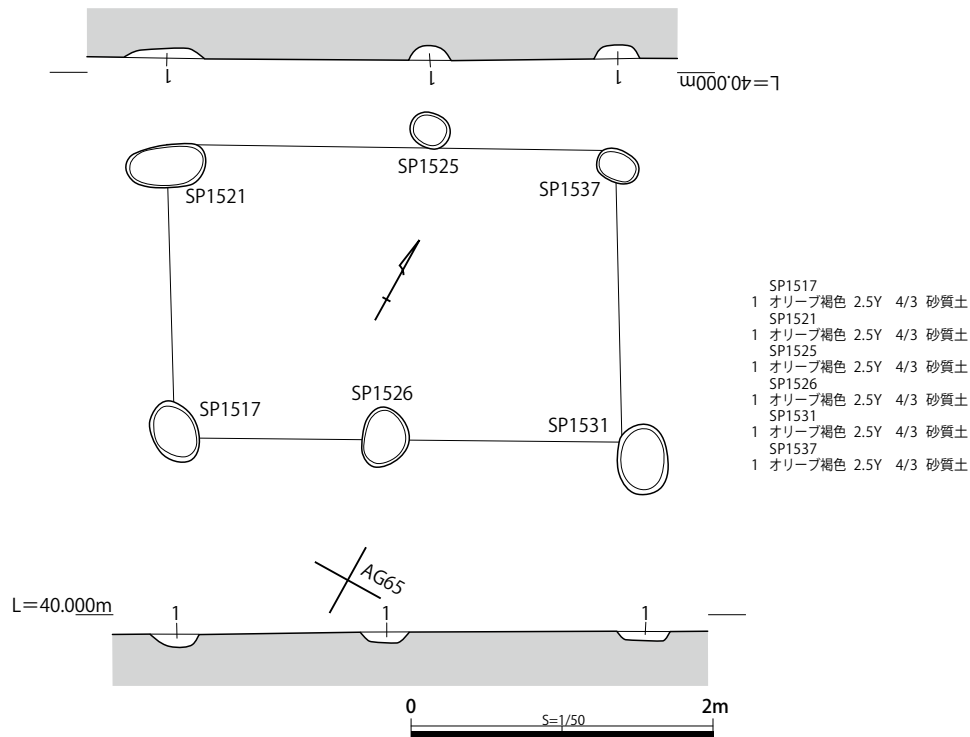
**時期** 建物の主軸方向から中世以降の年代が想定される。

#### 1 号溝 (SD1001) (第 548 図)

**検出地点** R ~ AA53 グリッド

**規模・形態** 南北方向に延びる溝で、南北両端部に調査区外に延びている。残存値で延長距離は 14.40m、幅は 0.76m、深さは 0.12m を測る。断面の形状は皿形である。





第 546 図 3-2 区 SA1007 平断面図 (1/50)

**土層** オリーブ褐色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 図化可能な遺物は出土していない。

**時期** 隣接して存在する溝 (SD1002 ~ 1004) との方位と揃っていることから中世以降の年代が想定される。

### 2 号溝 (SD1002) (第 548・550 図)

**検出地点** R ~ AA53・T・AA54 グリッド

**規模・形態** 南北方向に延びる溝で、南北両端部に調査区外に延びている。残存値で延長距離は 14.40m、幅は 0.95m、深さは 0.08m を測る。断面の形状は皿形である。

**土層** 何れもオリーブ褐色砂質土層で 2 層に分層される。

**遺物出土状況** 北半部を中心として土器や砂岩礫が出土している。

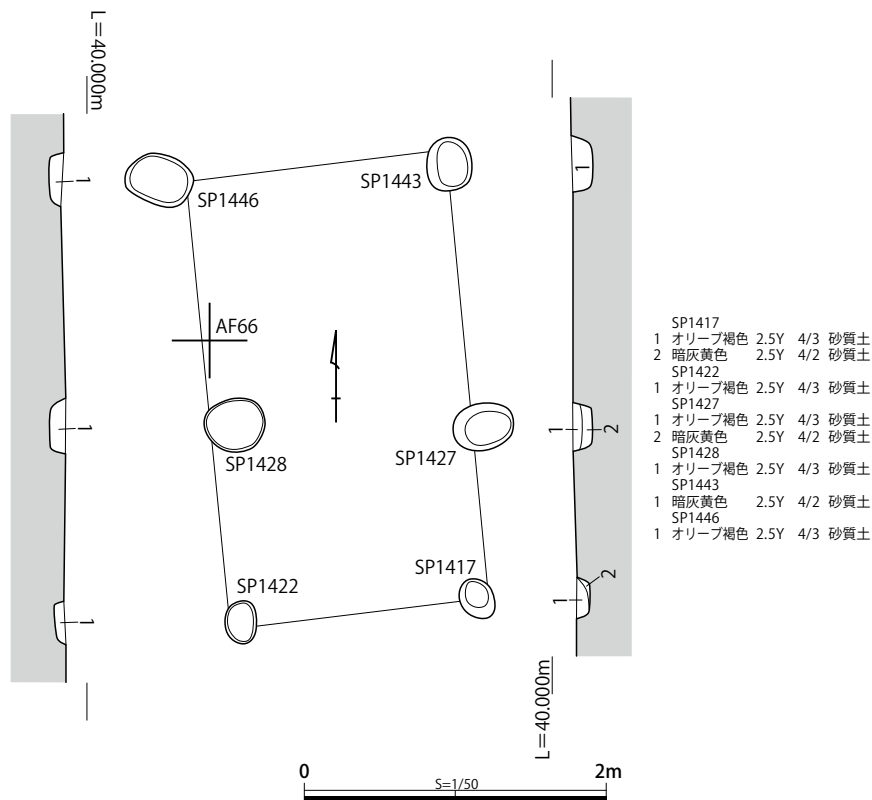
**出土遺物** 1165 は黒色土器 (A 類) の椀である。1166 は土師質土器の羽釜である。1167 ~ 1170 は鉄製の釘である。1171、1172 はスラグである。

**時期** 出土した遺物から鎌倉 ~ 室町時代 (14 世紀) 以降の年代が想定される。

### 3 号溝 (SD1003) (第 548・549・551 図)

**検出地点** R ~ AA54 グリッド

**規模・形態** 南北方向に延びる溝で、南北両端部に調査区外に延びている。残存値で延長距離は 15.00m、幅は 1.28m、深さは 0.18m を測る。断面の形状は皿形である。



第 547 図 3-2 区 SA1008 平断面図 (1/50)

**土層** 何れもシルト混じり砂質土層で 3 層に分層され、上部にオリーブ褐色砂質土層、下部には黄褐色砂質土層が堆積している。

**遺物出土状況** 南半の肩部より土器が出土している。

**出土遺物** 1173～1175 は土師質土器。1173 は羽釜、1174 は羽釜の脚部、1175 は播鉢である。1176 は須恵器の平瓶である。1177、1178 は陶器の備前焼。1177 は播鉢、1178 は甕である。1179 はスラグである。

**時期** 出土した遺物から鎌倉～室町時代（14 世紀）以降の年代が想定される。

#### 4 号溝 (SD1004) (第 548・549・552 図)

**検出地点** S～AB55 グリッド

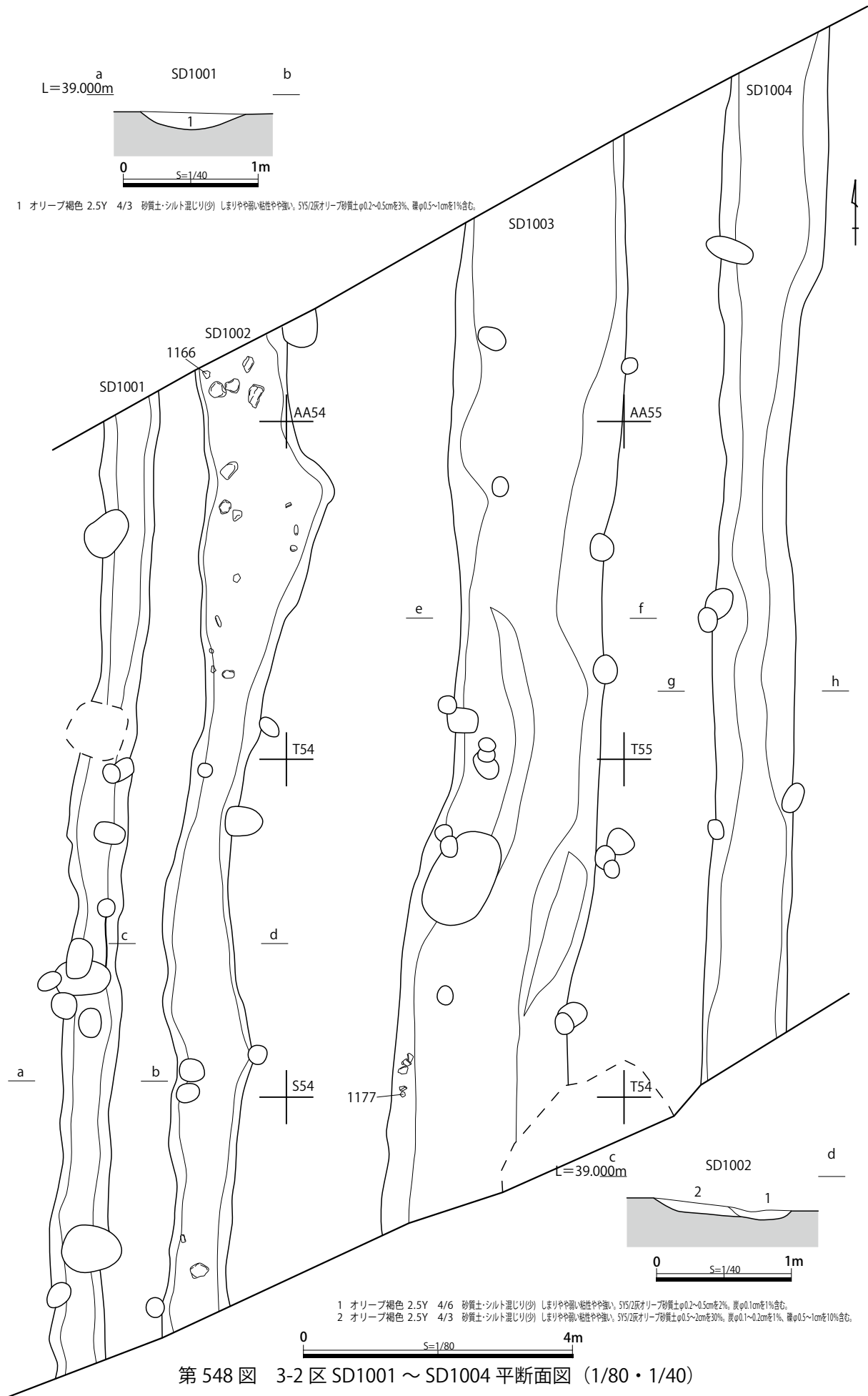
**規模・形態** 南北方向に延びる溝で、南北両端部に調査区外に延びている。残存値で延長距離は 14.80m、幅は 0.80m、深さは 0.07m を測る。断面の形状は皿形である。

**土層** オリーブ褐色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

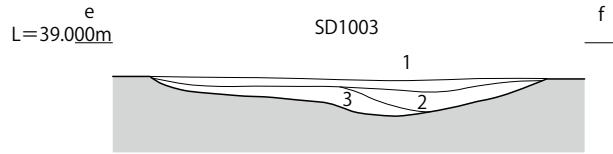
**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 1180、1181 はスラグである。

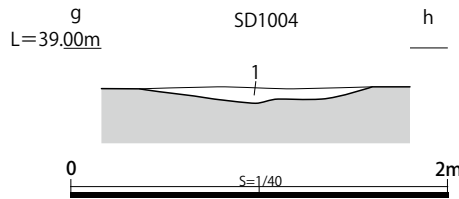
**時期** 隣接して存在する溝 (SD1001～1003) の方位と揃っていることから中世以降の年代が想定される。



第548図 3-2区 SD1001～SD1004 平断面図 (1/80・1/40)

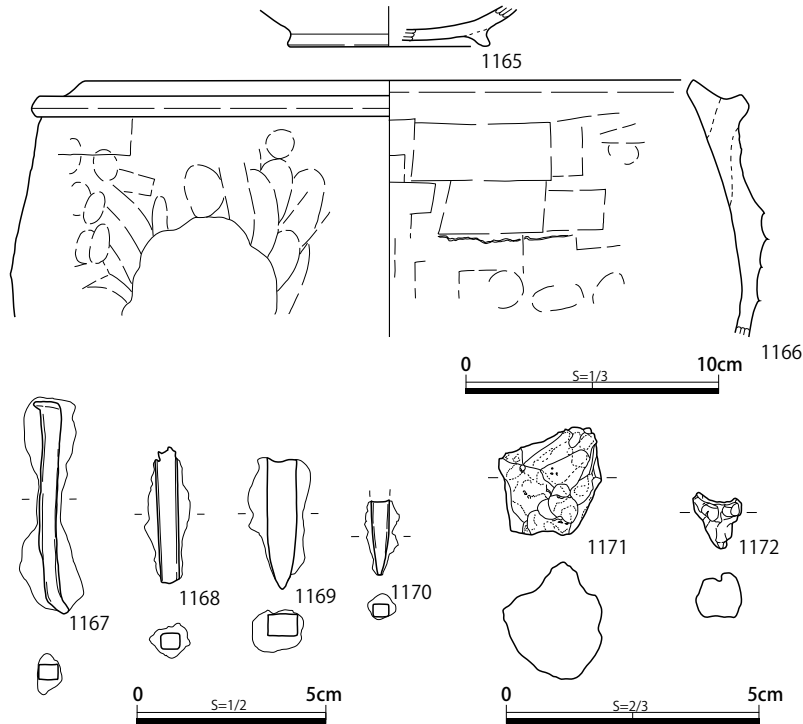


- 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土・シルト混じり(少) しまりやや弱い粘性やや強い、S1S/2灰オリブ砂質土(柱状)φ0.2~0.5cmを10%、礫φ1~1.5cmを1%含む;
- 2 オリーブ褐色 2.5Y 4/6 砂質土・シルト混じり(少) しまりやや弱い粘性やや強い、S1S/2灰オリブ砂質土φ0.5~1cmを5%、炭φ0.1cmを1%、礫φ1cmを1%含む;
- 3 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土・シルト混じり(少) しまりやや弱い粘性やや強い、S1S/2灰オリブ砂質土φ0.5~1cmを10%、礫φ2~3cmを3%含む;



- 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土・シルト混じり(少) しまりやや弱い粘性やや強い、S1S/2灰オリブ砂質土(柱状)φ0.2~1.5cmを5%、礫φ0.2~0.5cmを1%含む;

第 549 図 3-2 区 SD1003・SD1004 断面図 (1/40)



第 550 図 3-2 区 SD1002 出土遺物

28号土坑 (SK1028) (第 553・554 図)

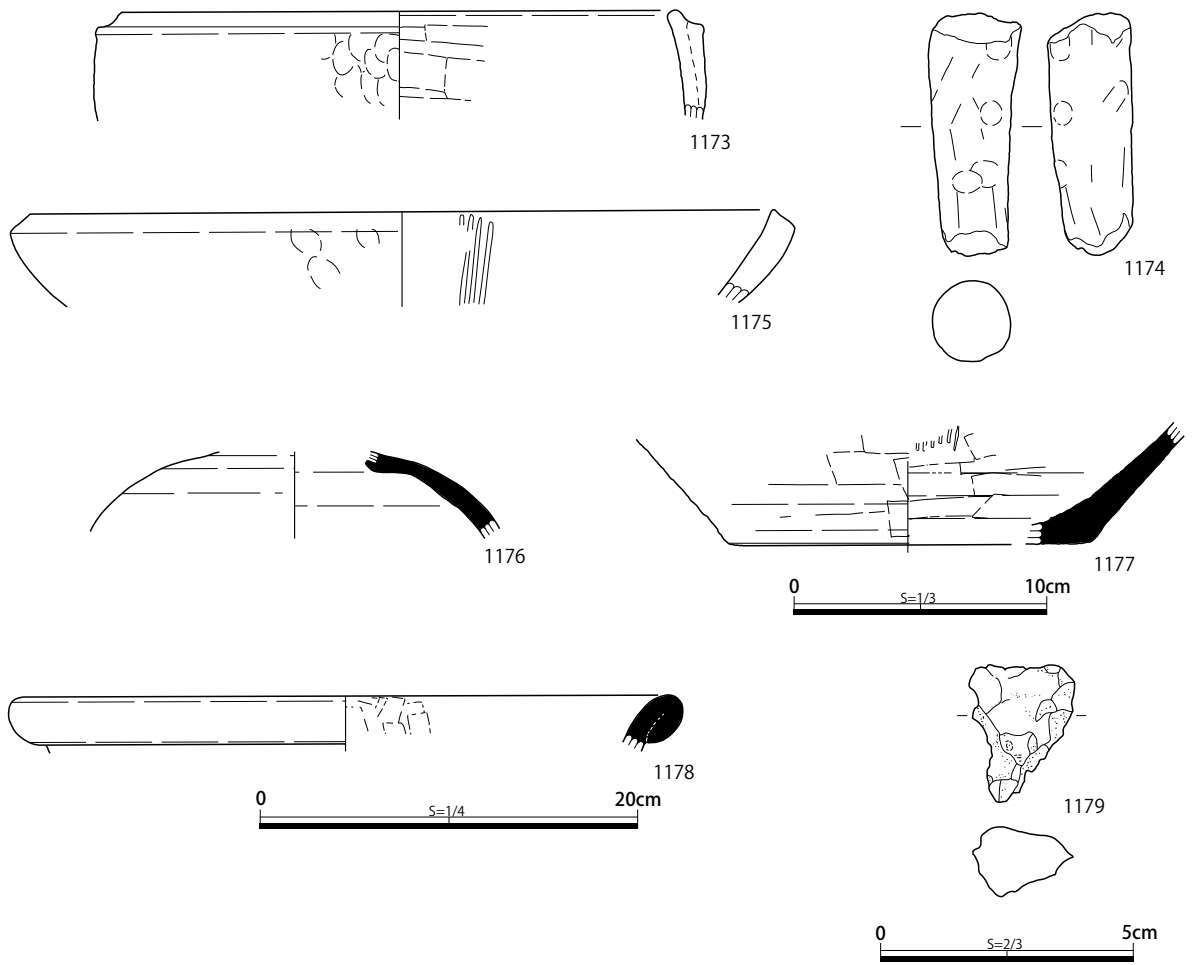
**検出地点** AA58 グリッド

**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は 0.80m、短軸は 0.43m、深さは 0.20m を測る。断面の形状は 2 段形である。

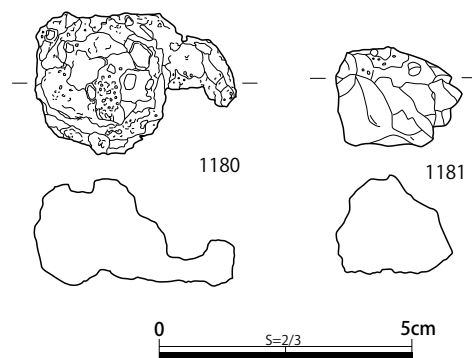
**土層** 灰黄褐色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

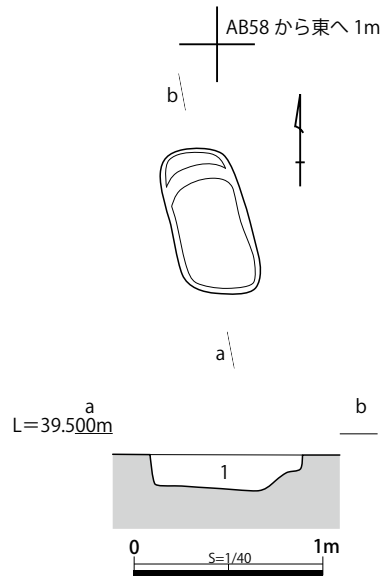
**出土遺物** 1182 は瓦質土器の挿鉢である。



第 551 图 3-2 区 SD1003 出土遺物

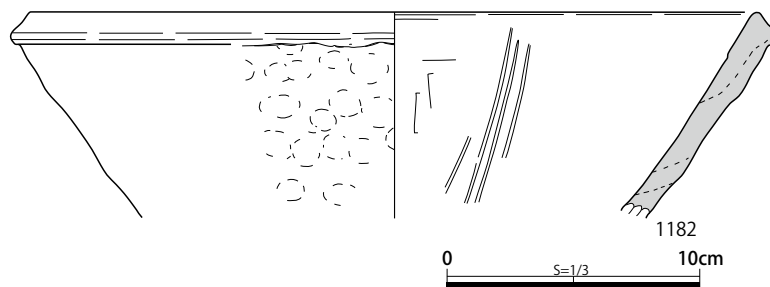


第 552 图 3-2 区 SD1004 出土遺物



1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土・シルト混じり砂) しまりやや弱い粘性やや強い, S/S/2灰オリブ砂質シルトφ0.2~0.5mmを5%, 径φ1~2mmを2%, 細砂少量含む。

第 553 図 3-2 区 SK1028 平断面図 (1/40)



第 554 図 3-2 区 SK1028 出土遺物

**時期** 出土した遺物から鎌倉～室町時代（14 世紀）以降の年代が想定される。

31 号土坑 (SK1031) (第 555 図)

**検出地点** AA58 グリッド

**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は 1.30m、短軸は 0.60m、深さは 0.20m を測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 何れもシルト混じり砂質土層で 3 層に分層され、上部にオリブ褐色砂質土層、下部には暗灰黄色砂質土層が堆積している。

**遺物出土状況** 北側底部付近より人頭大の砂岩の扁平な礫が出土している。

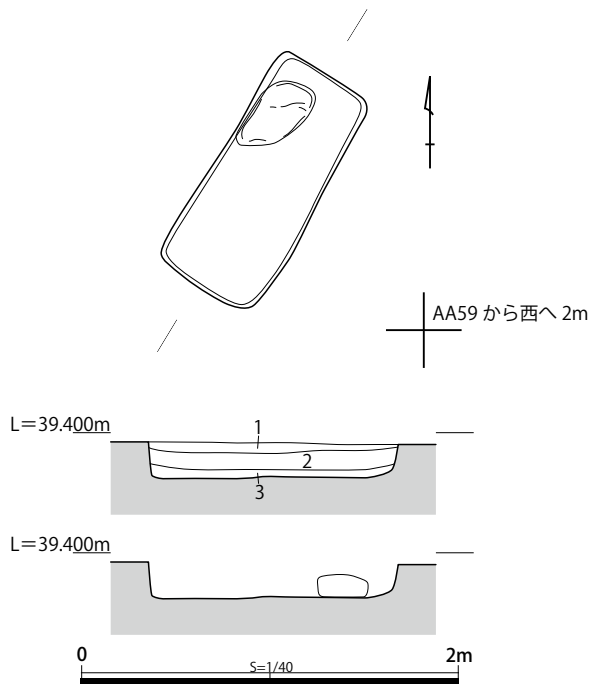
**出土遺物** 図化可能な遺物は出土していない。

**時期** 年代は特定できない。

33 号土坑 (SK1033) (第 556・557 図)

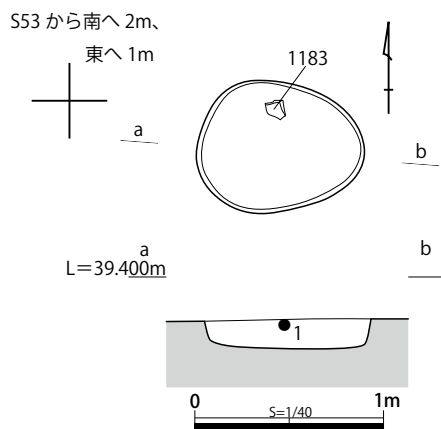
**検出地点** R53 グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.88m、短軸は 0.70m、深さは 0.16m を測る。断面の



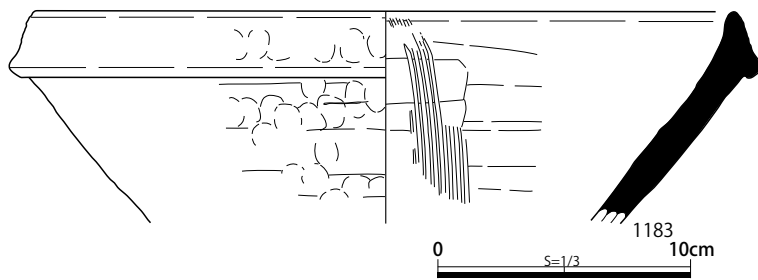
- 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土・シルト混じり(少) しまりやや弱い粘性やや強い、SIS/2灰オリーブ砂質シルトφ1~1.5cmを3%、炭φ0.3cmを1%含む。  
 2 オリーブ褐色 2.5Y 4/4 砂質土・シルト混じり(少) しまりやや弱い粘性やや強い、SIS/2灰オリーブ砂質シルトφ2~3cmを3%、炭φ0.2~0.5cmを3%、礫φ1~2cmを3%含む。  
 3 暗灰黄色 2.5Y 4/2 砂質土・シルト混じり(少) しまりやや弱い粘性やや強い、SIS/2灰オリーブ砂質シルトφ0.5~1cmを2%、炭φ0.2~0.5cmを1%、礫φ2~3cmを3%含む。

第 555 図 3-2 区 SK1031 平断面図 (1/40)

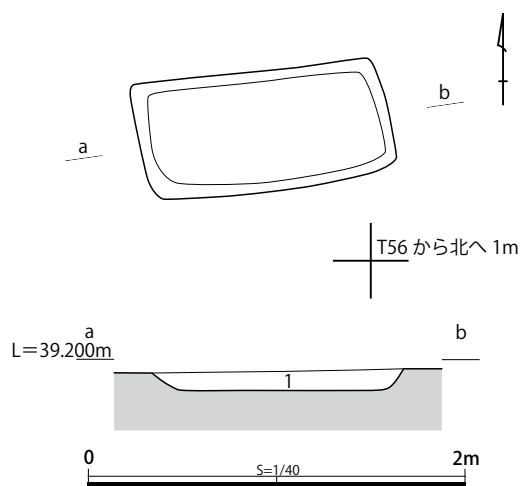


- 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土・シルト混じり(少) しまりやや強い粘性やや弱い、SIS/2灰オリーブ砂質土φ0.5~1cmを10%、炭φ0.5cmを1%含む。

第 556 図 3-2 区 SK1033 平断面図 (1/40)

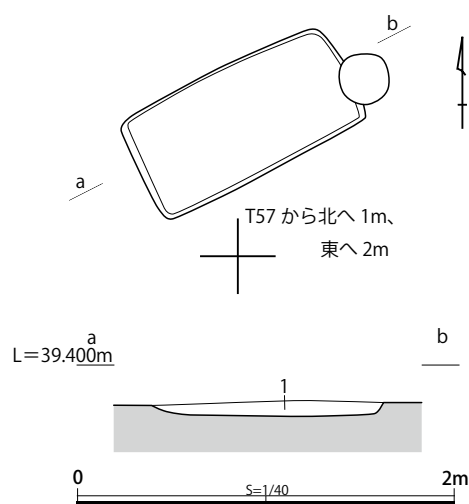


第 557 図 3-2 区 SK1033 出土遺物



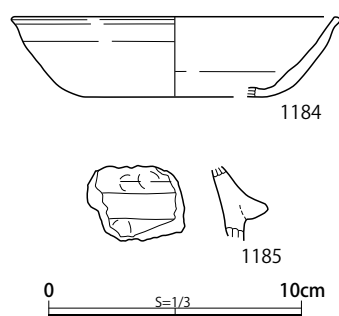
1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土・シルト混じり(少) しまりや弱い粘性やや強い、S15/2灰オリーブ砂質土φ0.5~1cmを10%、炭φ0.1~0.2cmを2%含む。

第 558 図 3-2 区 SK1048 平断面図 (1/40)



1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土・シルト混じり(少) しまりや弱い粘性やや強い、S15/2灰オリーブ砂質土φ0.5~2cmを5%、炭φ0.1~0.2cmを1%含む。

第 559 図 3-2 区 SK1053 平断面図 (1/40)



第 560 図 3-2 区 SK1053 出土遺物

形状は皿形である。

**土層** オリーブ褐色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

**遺物出土状況** 遺構上面付近から土器が出土している。

**出土遺物** 1183 は陶器で備前焼の播鉢である。

**時期** 出土した遺物から室町時代(14世紀後半)以降の年代が想定される。

48 号土坑 (SK1048) (第 558 図)

**検出地点** T55・56 グリッド

**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は 1.33m、短軸は 0.64m、深さは 0.11m を測る。断面の形状は皿形である。

**土層** オリーブ褐色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 図化可能な遺物は出土していない。

**時期** 年代は特定できない。

53 号土坑 (SK1053) (第 559・560 図)

**検出地点** T57 グリッド

**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈し、東側を SP1320 に切られている。長軸は 1.18m、短軸は 0.60m、深さは 0.07m を測る。断面の形状は皿形である。

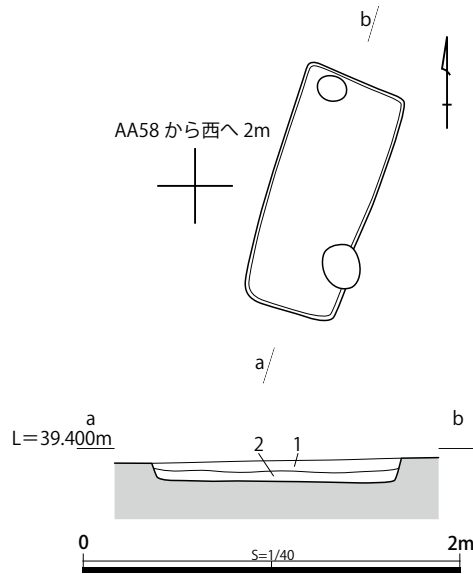
**土層** オリーブ褐色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 1184、1185 は土師質土器。1184 は杯、1185 は羽釜である。

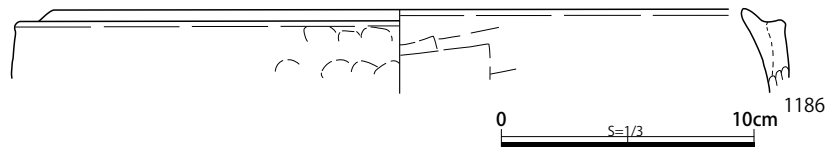
**時期** 出土した遺物から鎌倉時代(14世紀)以降の年代が想定される。





- 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土・シルト混じり(少) しまりやや弱い粘性やや強い S15/2灰オリーブ粉質土φ0.5~1cmを10%、炭φ0.2~0.5cmを1%、礫φ1~2cmを3%を含む。  
 2 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土・シルト混じり(少) しまりやや弱い粘性やや強い S15/2灰オリーブ粉質土φ0.5~1.5cmを3%、2.5Y/1黄灰砂質土φ1~2cmを10%、炭φ0.2~0.5cmを2%含む。

第 561 図 3-2 区 SK1057 平断面図 (1/40)



第 562 図 3-2 区 SK1057 出土遺物

57号土坑 (SK1057) (第 561・562 図)

**検出地点** T・AA57 グリッド

**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈し、東側を SP1350 に切られている。長軸は 1.27m、短軸は 0.57m、深さは 0.10m を測る。断面の形状は皿形である。

**土層** 何れもシルト混じり砂質土層で 2 層に分層され、上部にオリーブ褐色砂質土層、下部には黄褐色砂質土層が堆積している。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 1186 は土師質土器の羽釜である。

**時期** 出土した遺物から室町時代 (15 ~ 16 世紀) 以降の年代が想定される。

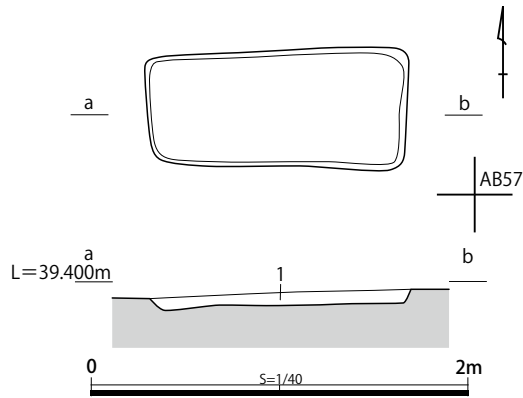
62号土坑 (SK1062) (第 563 図)

**検出地点** AB56 グリッド

**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は 1.37m、短軸は 0.67m、深さは 0.07m を測る。断面の形状は皿形である。

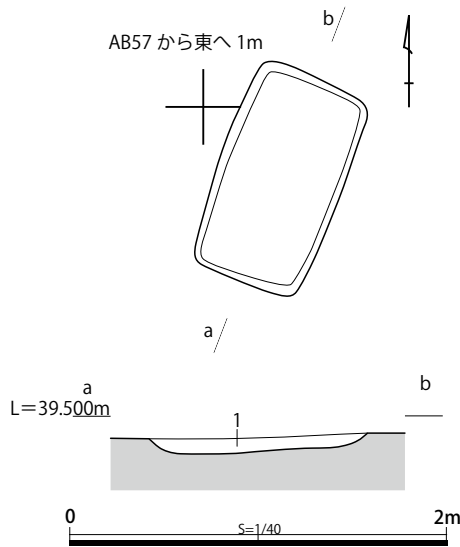
**土層** オリーブ褐色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。



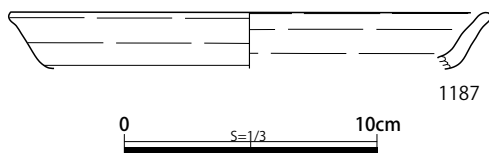
1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土・シルト混じり(少) しまりやや弱い粘性やや強い、S15/2灰オリブ砂質土φ0.5~1cmを10%、礫φ0.5~1cmを3%を含む。

第 563 図 3-2 区 SK1062 平断面図 (1/40)



1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土・シルト混じり(少) しまりやや弱い粘性やや強い、S15/2灰オリブ砂質土φ0.5~1cmを5%、炭φ0.5~1cmを2%、礫φ1~2cmを5%を含む。

第 564 図 3-2 区 SK1063 平断面図 (1/40)



第 565 図 3-2 区 SK1063 出土遺物

**出土遺物** 図化可能な遺物は出土していない。

**時期** 年代は特定できない。

63 号土坑 (SK1063) (第 564・565 図)

**検出地点** AA・AB57 グリッド

**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は 1.15m、短軸は 0.70m、深さは 0.08m を測る。断面の形状は皿形である。

**土層** オリーブ褐色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 1187 は土師質土器の皿である。内外面に赤色顔料の塗布が認められる。

**時期** 出土した遺物から平安時代(9世紀)以降の年代が想定される。

68 号土坑 (SK1068) (第 566・567 図)

**検出地点** AF64・65 グリッド

**規模・形態** 平面形状はやや不整な楕円形を呈し、北側は攪乱に切られている。残存値で長軸は 0.90m、短軸は 0.48m、深さは 0.10m を測る。断面の形状は皿形である。

**土層** オリーブ褐色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

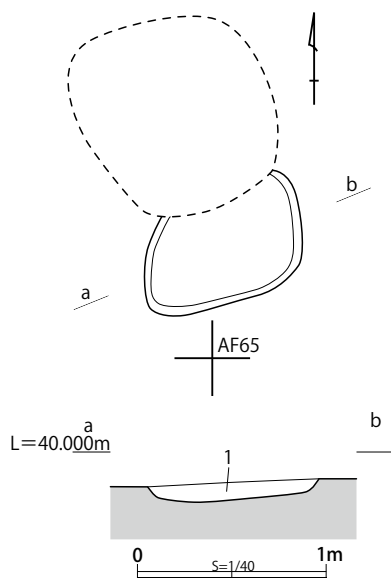
**出土遺物** 1188 は肥前系磁器の碗である。1189 は鉄製の釘である。

**時期** 出土した遺物から江戸時代(17世紀)以降の年代が想定される。

77 号土坑 (SK1077) (第 568・569 図)

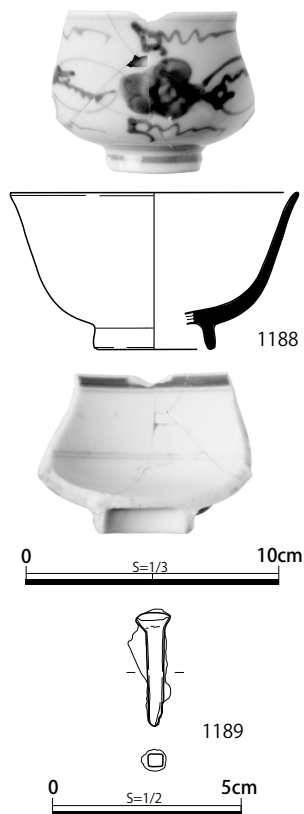
**検出地点** AB61 グリッド

**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は 1.20m、短軸は 0.72m、深さは 0.08m を測る。断面の形状は皿形であ



1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土・シルト混じり(少) しまりや弱い粘りや強い、5Y5/2灰オリーブ砂質土φ0.5~1cmを10%、炭φ0.2~0.5cmを3%含む。

第 566 図 3-2 区 SK1068 平断面図 (1/40)



第 567 図 3-2 区 SK1068 出土遺物

る。

**土層** オリーブ褐色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 1190 は須恵器の杯である。

**時期** 出土した遺物から平安時代 (9 世紀) 以降の年代が想定される。

69 号小穴 (SP1068) (第 570・571 図)

**検出地点** AB60 グリッド

**規模・形態** 平面形状はほぼ円形を呈し、径は 0.30m、深さは 0.15m を測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** オリーブ褐色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 1191 は土師質土器の皿である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

**時期** 出土した遺物から平安時代末 (12 世紀) 以降の年代が想定される。

99 号小穴 (SP1099) (第 572・573 図)

**検出地点** AB・AC57 グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.43m、短軸は 0.35m、深さは 0.16m を測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 灰黄褐色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 1192 は鉄製の釘である。

**時期** 年代は特定できない。

109 号小穴 (SP1109) (第 574・575 図)

**検出地点** AB57・58 グリッド

**規模・形態** 平面形状は円形を呈し、径は 0.25m、深さは 0.16m を測る。断面の形状は北側に傾斜するような形となっている。

**土層** 何れもオリーブ褐色シルト混じり砂質土

層で2層に分層される。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 1193、1194は土師質土器。1193は杯、1194は鍋である。

**時期** 出土した遺物から鎌倉時代（13世紀）以降の年代が想定される。

### 113号小穴（SP1113）（第576・577図）

**検出地点** A57グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.40m、短軸は0.33m、深さは0.34mを測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 何れも灰黄褐色シルト混じり砂質土層で2層に分層される。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 1195は棒状の鉄製品である。

**時期** 年代は特定できない。

### 124号小穴（SP1124）（第578・579図）

**検出地点** AA58グリッド

**規模・形態** 平面形状はほぼ円形を呈し、径は0.20m、深さは0.30mを測る。断面の形状は丸底形である。

**土層** 灰黄褐色シルト混じり砂質土層が1層である。

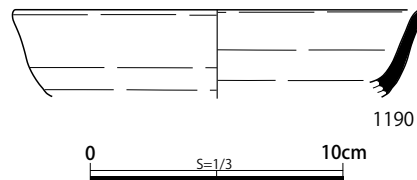
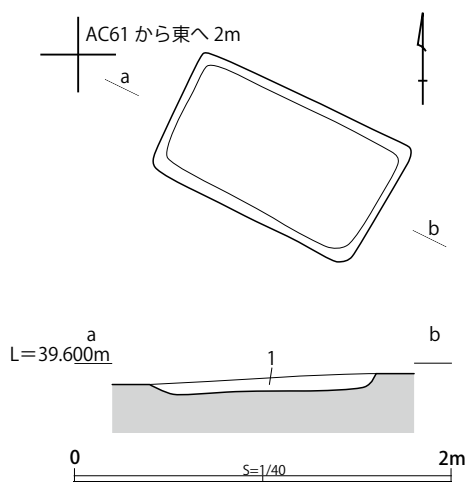
**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 1196、1197は土師質土器。1196は杯で、底部の切り離しは回転ヘラ切りである。1197は皿である。

**時期** 出土した遺物から平安時代末（12世紀）以降の年代が想定される。

### 168号小穴（SP1168）（第580・581図）

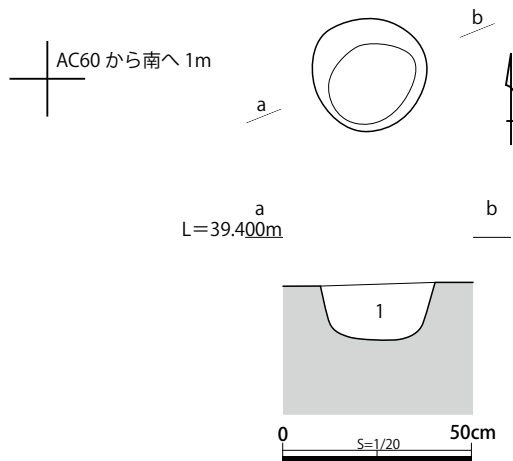
**検出地点** R・S53グリッド



第569図 3-2区SK1077出土遺物

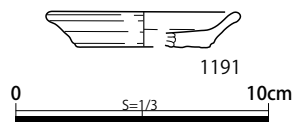
1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土：シルト混じり(少) しまりやや弱い粘性やや強い、S/S/2灰オリーブ砂質土柱状φ0.2~0.5cmを3%、炭φ0.1cmを1%、礫φ1~1.5cmを3%を含む。

第568図 3-2区SK1077平断面図（1/40）

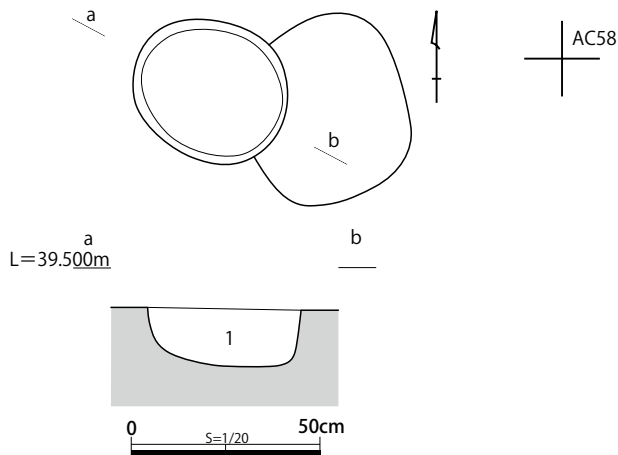


1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土・シルト混じり(少)しまりやや弱い粘性やや強い。S15/2灰オリブ砂質シルトφ0.5~1cmを3%、炭φ0.2~0.3cmを1%含む。

第570図 3-2区 SP1069 平断面図 (1/20)

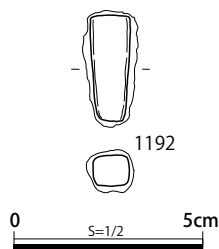


第571図 3-2区 SP1069 出土遺物



1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土・シルト混じり(少)しまりやや弱い粘性やや強い。

第572図 3-2区 SP1099 平断面図 (1/20)



第573図 3-2区 SP1099 出土遺物

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.35m、短軸は0.30m、深さは0.12mを測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** オリブ褐色シルト混じり砂質土層が1層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 1198は陶器で備前焼の播鉢である。

**時期** 出土した遺物から鎌倉時代(14世紀)以降の年代が想定される。

201号小穴 (SP1201) (第582・583図)

**検出地点** S54 グリッド

**規模・形態** 平面形状はほぼ円形を呈し、径は0.24m、深さは0.19mを測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** オリブ褐色シルト混じり砂質土層が1層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 1199は棒状の鉄製品である。

**時期** 年代は特定できない。

236号小穴 (SP1236) (第584・585図)

**検出地点** S55・56 グリッド

**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸は0.43m、短軸は0.37m、深さは0.22mを測る。断面に形状は舟底形である。

**土層** オリブ褐色シルト混じり砂質土層が1層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

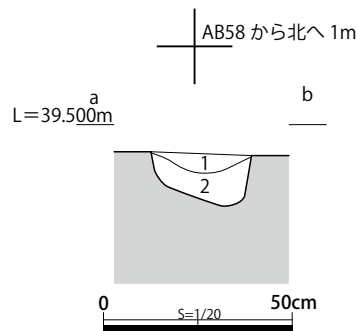
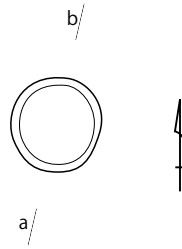
**出土遺物** 1200は鉄製の釘である。

**時期** 年代は特定できない。

237号小穴 (SP1237) (第586・587図)

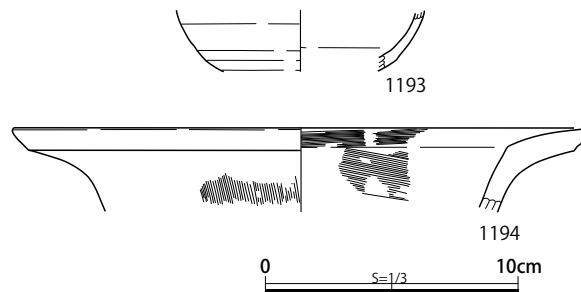
**検出地点** S55 グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.25m、短軸は0.20m、深さは0.12mを測る。断面の形状は舟底形である。



- 1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土・シルト混じり(砂) しまりやや強い粘性やや強い、S/S(2)灰オリーブ砂質シルトφ0.2~0.5cmを10%、炭φ0.2~0.5cmを1%、細砂少量を含む。  
 2 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土・シルト混じり(砂) しまりやや強い粘性やや強い、S/S(2)灰オリーブ砂質シルトφ0.3~0.5cmを5%含む。

第 574 図 3-2 区 SP1109 平断面図 (1/20)



第 575 図 3-2 区 SP1109 出土遺物

**土層** オリーブ褐色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

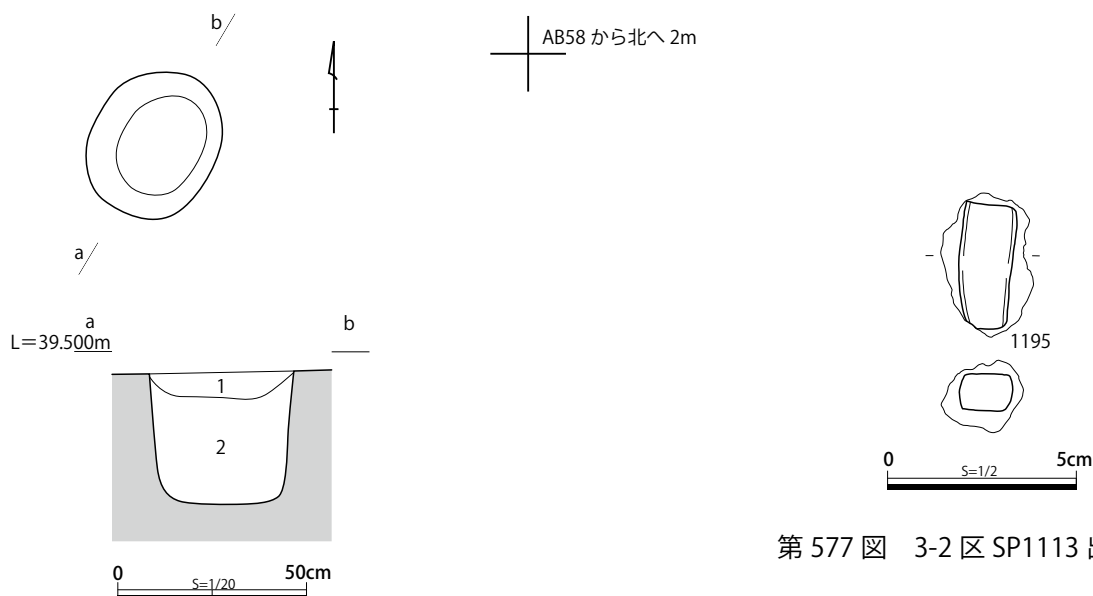
**出土遺物** 1201、1202 は土師質土器。1201 は皿で、底部の切り離しは回転糸切りである。1202 は羽釜である。

**時期** 出土した遺物から鎌倉時代（14～15 世紀）以降の年代が想定される。

248 号小穴（SP1248）（第 588・589 図）

**検出地点** S・T55 グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.38m、短軸は 0.25m、深さは 0.14m を測る。断面の



第 577 図 3-2 区 SP1113 出土遺物

1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土・シルト混じり(少) しまりや弱い粘性や強い、S15/2灰オリブ砂質シルトφ0.5cmを3%、炭φ0.2cmを1%含む。  
2 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土・シルト混じり(少) しまりや弱い粘性や強い。

第 576 図 3-2 区 SP1113 平断面図 (1/20)

形状は舟底形である。

**土層** オリブ褐色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 1203 は土師質土器の杯である。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。

**時期** 出土した遺物から平安時代末 (12 世紀) 以降の年代が想定される。

#### 366 号小穴 (SP1366) (第 590・591 図)

**検出地点** AA57 グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は 0.25m、短軸は 0.20m、深さは 0.10m を測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** オリブ褐色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

**出土遺物** 1204 は土師質土器の煮沸具の脚部である。1205 は管状の土錘である。

**時期** 出土した遺物から鎌倉時代以降の年代が想定される。

#### 481 号小穴 (SP1481) (第 592・593 図)

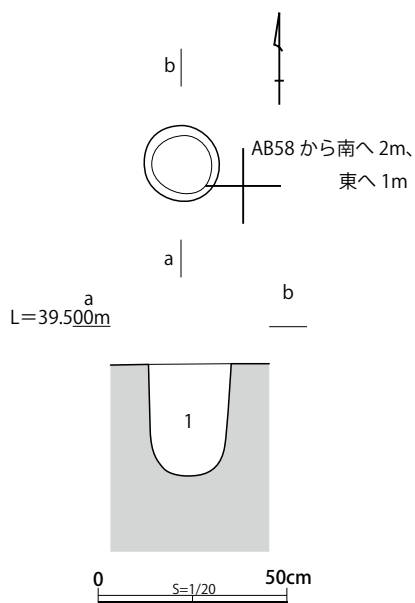
**検出地点** AE64・65 グリッド

**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、北側を SP1478、東側を SP1482 にそれぞれ切られている。残存値で長軸は 0.55m、短軸は 0.43m、深さは 0.08m を測る。断面の形状は皿形である。

**土層** オリブ褐色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

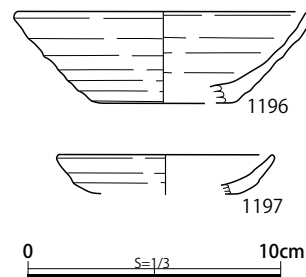
**遺物出土状況** 西寄りの壁沿いから土器が出土している。

**出土遺物** 1206 は須恵器の杯である。

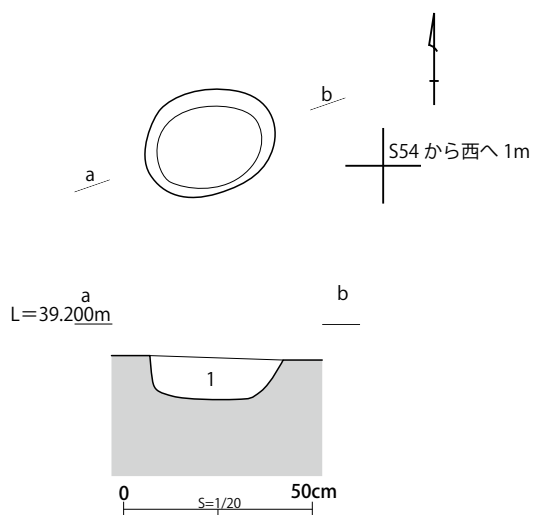


1 灰黄褐色 10YR 4/2 砂質土・シルト混じり(少) しまりやや弱、粘性やや強い、S15/2灰オリブ粉質シルトφ0.5~1cmを3%、炭φ0.2~0.5cmを3%、礫φ1~3cmを3%含む。

第 578 図 3-2 区 SP1124 平断面図 (1/20)

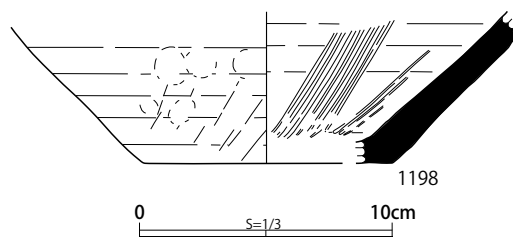


第 579 図 3-2 区 SP1124 出土遺物



1 オリブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土・シルト混じり(少) しまりやや弱、粘性やや強い、S15/2灰オリブ粉質土φ0.5~1cmを10%、礫φ0.5~1cmを1%含む。

第 580 図 3-2 区 SP1168 平断面図 (1/20)



第 581 図 3-2 区 SP1168 出土遺物

**時期** 出土した遺物から平安時代 (9 世紀) 以降の年代が想定される。

492 号小穴 (SP1492) (第 594・595 図)

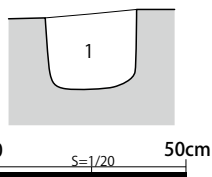
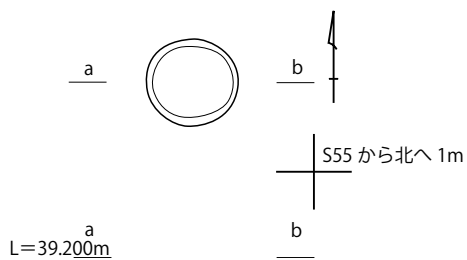
**検出地点** AF65 グリッド

**規模・形態** 平面形状は隅丸長方形を呈するとみられるが、南側を SX1004 に切られている。残存値で長軸は 0.60m、短軸は 0.25m、深さは 0.10m を測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** オリブ褐色シルト混じり砂質土層が 1 層である。

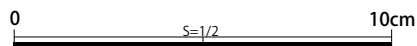
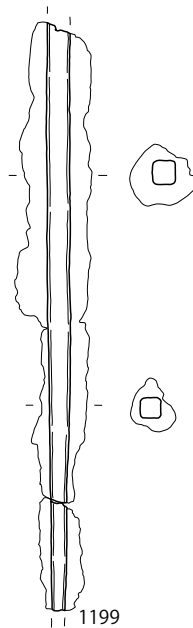
**遺物出土状況** 図化できるものはない。



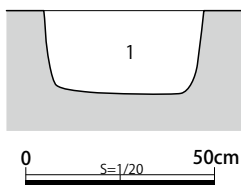
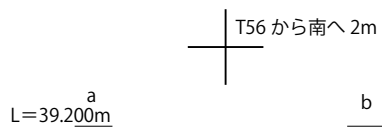
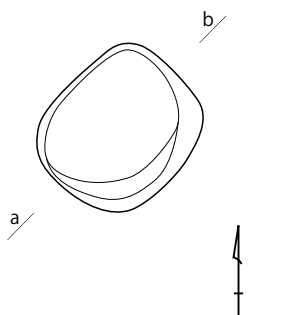


1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土・シルト混じり(少) しまりやや弱い粘性やや強い。

第 582 図 3-2 区 SP1201 平断面図 (1/20)

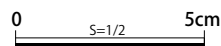


第 583 図 3-2 区 SP1201 出土遺物



1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土・シルト混じり(少) しまりやや弱い粘性やや強い。

第 584 図 3-2 区 SP1236 平断面図 (1/20)



第 585 図 3-2 区 SP1236 出土遺物

**出土遺物** 1207、1208 は瓦質の平瓦である。

**時期** 出土した遺物から江戸時代（17世紀）以降の年代が想定される。

679号小穴（SP1679）（第596・597図）

**検出地点** AD・AE62 グリッド

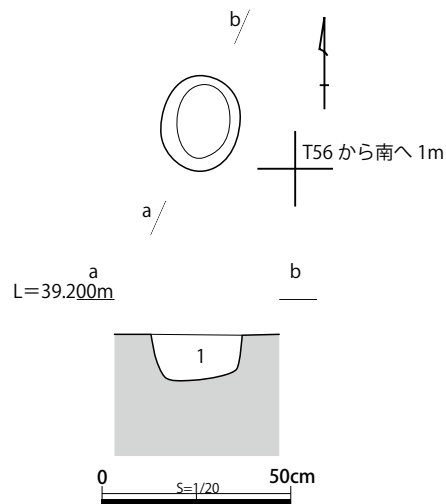
**規模・形態** 平面形状は楕円形を呈し、長軸は0.50m、短軸は0.38m、深さは0.08mを測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** オリーブ褐色シルト混じり砂質土層が1層である。

**遺物出土状況** 図化できるものはない。

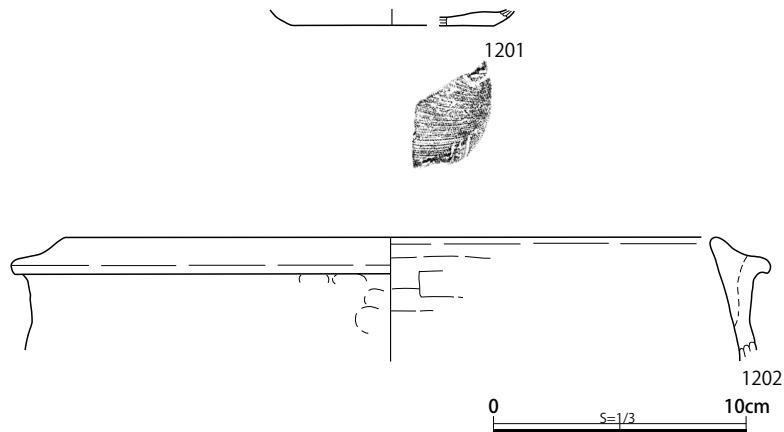
**出土遺物** 1209 は管状の土錘である。

**時期** 年代は特定できない。

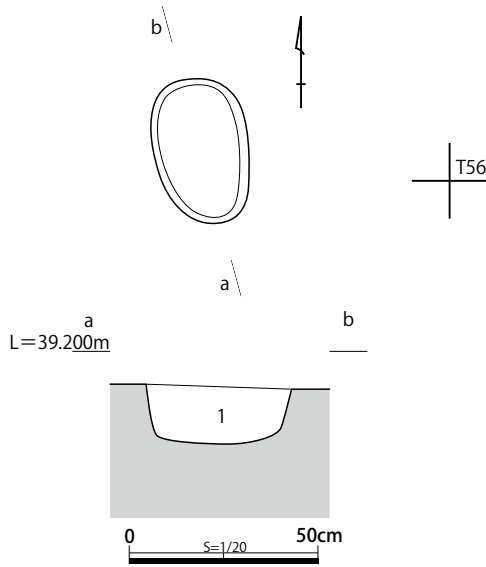


1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土・シルト混じり(砂) しまりやや弱、粘性やや強い、5Y5/2灰オリーブ砂質土 $\phi$ 0.3~2cmを5%、炭 $\phi$ 0.2~0.3cmを3%含む。

第586図 3-2区 SP1237 平断面図 (1/20)

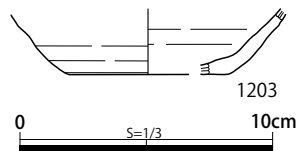


第587図 3-2区 SP1237 出土遺物

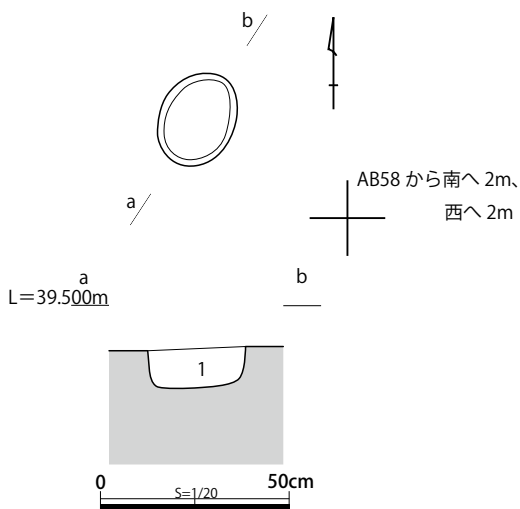


1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土・シルト混じり(少) しまりやや弱、粘性やや強い。SIS/2灰オリブ粉質土φ1cmの柱状φ0.3~0.5cmを10%、炭φ0.2~1cmを3%含む。

第588図 3-2区 SP1248 平断面図 (1/20)

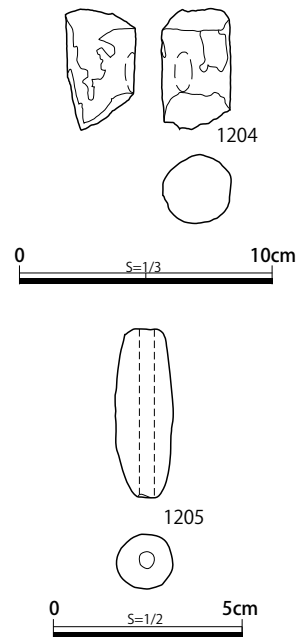


第589図 3-2区 SP1248 出土遺物

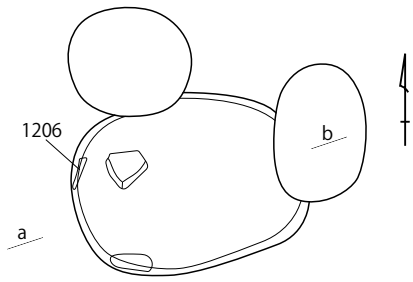


1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土・シルト混じり(少) しまりやや弱、粘性やや強い。炭φ0.5cmを1%、マンガクφ0.2~0.5cmを2%、炭φ1~3cmを5%含む。

第590図 3-2区 SP1366 平断面図 (1/20)



第591図 3-2区 SP1366 出土遺物

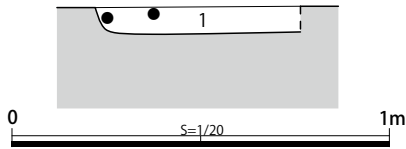


AG65 から南へ 2m、  
東へ 2m

AF65 から南へ 2m

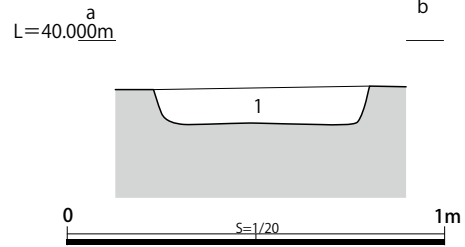
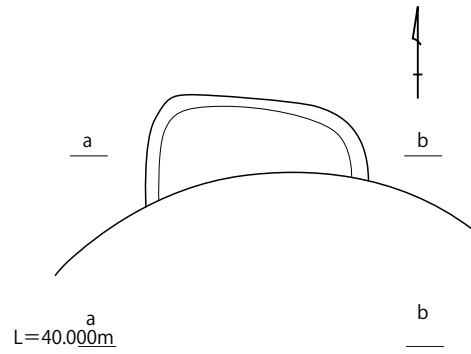
a b

L=40.000m



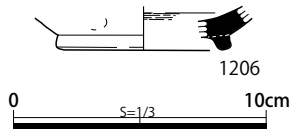
1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土・シルト混じり(少) しまりやや弱い粘性やや強い、マンガンφ0.1~0.2mmを2%、礫φ2~4mmを2%含む。

第 592 図 3-2 区 SP1481 平断面図 (1/20)

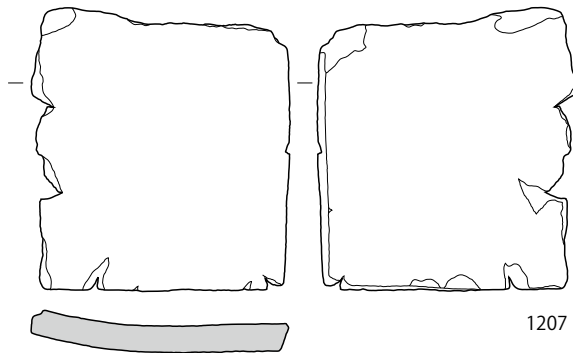


1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土・シルト混じり(少) しまりやや弱い粘性やや強い。

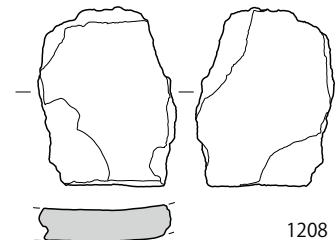
第 594 図 3-2 区 SP1492 平断面図 (1/20)



第 593 図 3-2 区 SP1481 出土遺物



1207



1208

0 S=1/4 20cm

第 595 図 3-2 区 SP1492 出土遺物

#### 4号性格不明遺構 (SX1004) (第598図)

**検出地点** AF65 グリッド

**規模・形態** 平面形状は瓢箪形を呈し、東側はSX1003に切られている。残存値で長軸は2.56m、短軸は1.38m、深さは0.26mを測る。断面の形状は舟底形である。

**土層** 何れもシルト混じり砂質土層で3層に分層され、上から黄褐色砂質土層、オリーブ褐色砂質土層、暗オリーブ褐色砂質土層がほぼ平行に堆積している。

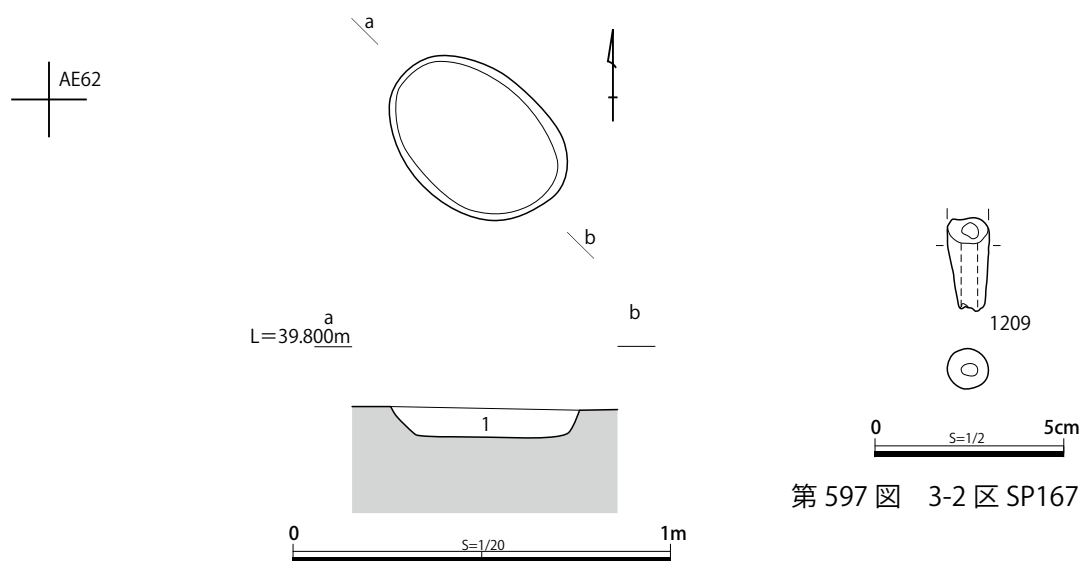
**遺物出土状況** 底部(3層)付近を中心として大型の砂岩礫が出土している。

**出土遺物** 図化可能な遺物は出土していない。

**時期** 年代は特定できない。

#### 包含層出土遺物 (599図)

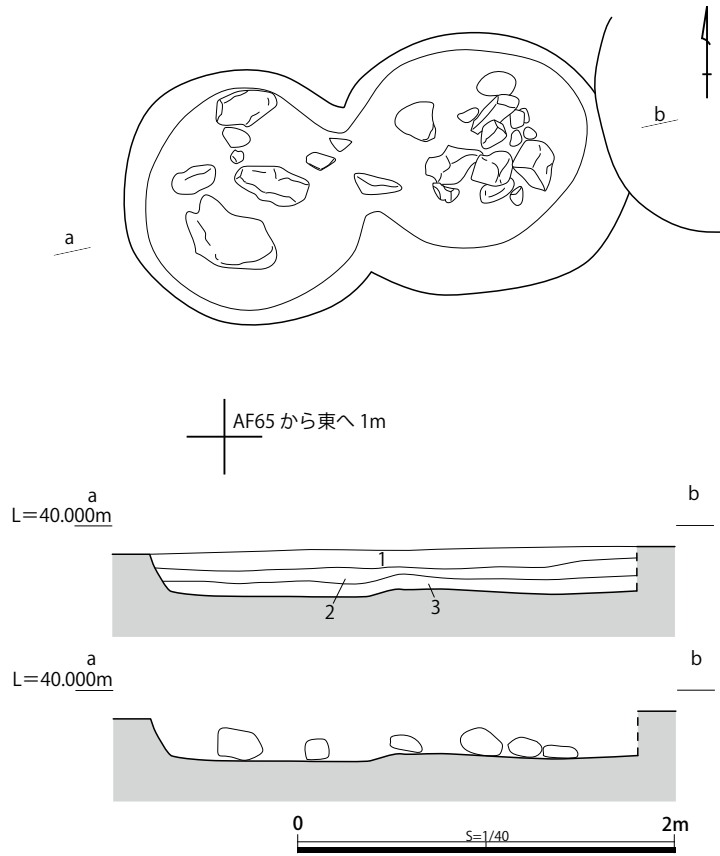
1210、1211は土師質土器の羽釜である。1212、1213は弥生土器の甕の底部である。1214は管状の土錘である。



1 オリーブ褐色 2.5Y 4/3 砂質土・シルト混じり(少) しまりや強い粘性や強い、S/S/2灰オリーブ砂質土φ0.3~1cmを5%、炭φ0.1~0.5cmを2%、礫φ0.5~1cmを5%含む。

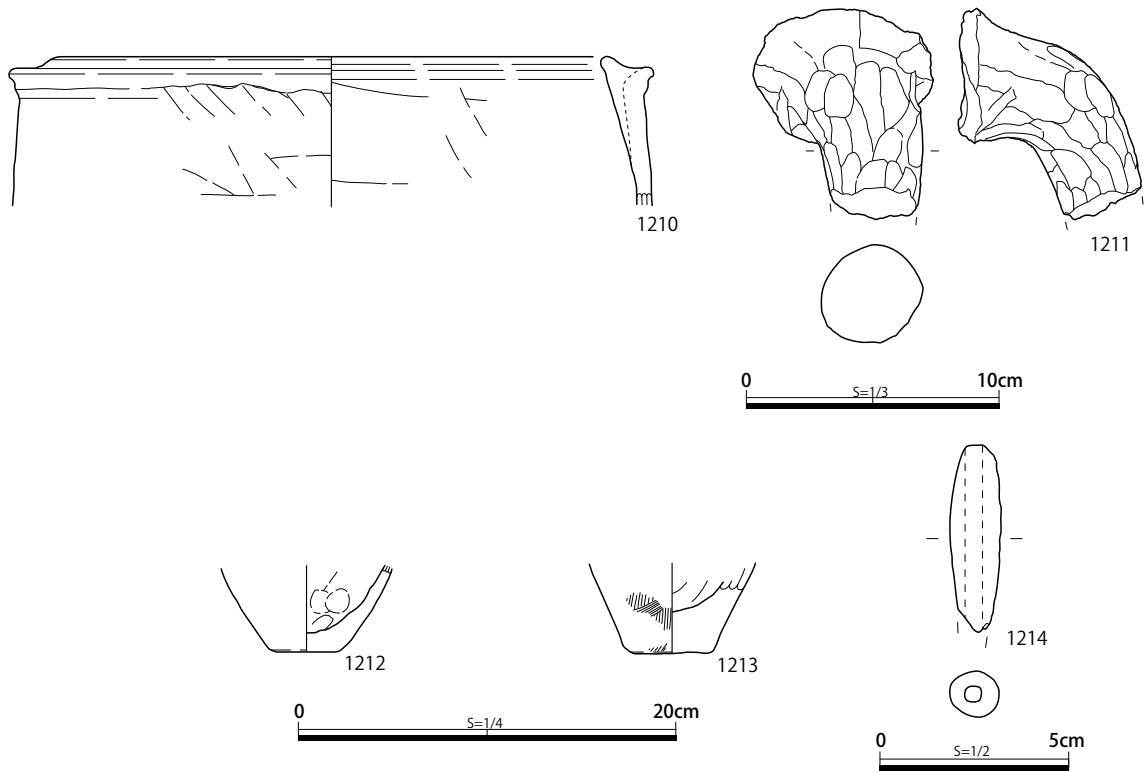
第596図 3-2区 SP1679 平断面図 (1/20)

第597図 3-2区 SP1679 出土遺物



- 1 黄褐色 2.5Y 5/4 砂質土・シルト混じり(少) しまりやや弱い粘性弱い, 5Y/2灰オリーブ砂質土 $\rho$ 1~1.5cm $\rho$ 10%, 2.5Y/6(4)に多い黄砂質土(層厚)1~3cm $\rho$ 5%, 炭 $\rho$ 0.1~0.5cm $\rho$ 5%, 礫 $\rho$ 1~5cm $\rho$ 5%を含む;
- 2 オリーブ褐色 2.5Y 4/4 砂質土・シルト混じり(少) しまりやや弱い粘性弱い, 5Y/2灰オリーブ砂質土 $\rho$ 1~1.5cm $\rho$ 5%, 2.5Y/6(4)に多い黄砂質土 $\rho$ 0.5~1cm $\rho$ 5%, 炭 $\rho$ 0.1~0.2cm $\rho$ 5%, 礫 $\rho$ 0.5~5cm $\rho$ 10%を含む;
- 3 暗オリーブ褐色 2.5Y 3/3 砂質土・シルト混じり(少) しまりやや弱い粘性やや強い, 5Y/2灰オリーブ砂質土 $\rho$ 0.2~1cm $\rho$ 5%, 礫 $\rho$ 0.5~3 $\rho$ 5%を含む;

第 598 図 3-2 区 SX1004 平断面図 (1/40)



第 599 図 3-2 区包含層出土遺物

## IVまとめ





# 1 弥生時代～古墳時代初頭期

## ①集落の立地（第 600 図）

弥生時代の遺構は大きく見ると 2 か所に分布の集中が存在している。まず一つめの集中部分は 0-2 区から 1-0 区にかけての調査区で西地点と呼ぶことにする。もう一つは 1-2 区、2 区、3-1 区にかけての調査区で東地点と呼ぶ。この東西 2 か所の地点はⅢ章の部分でも触れているが、遺構面が上下 2 枚に分かれて検出されており、何れも下層の遺構面から弥生時代を中心とした遺構が検出されている。その他の調査区では基本的に古代末～中世の遺構面のみが検出されていることを考えると、東西 2 地点の部分を中心にそれぞれ幅 100m 前後、標高は 39.5 ～ 40.0m 前後の微高地が当時は存在しており、それらは扇状地の堆積方向に平行して馬の背状に南北方向に延びていたと考えられる。二つの地点の微高地の東西両側は窪地や流路が存在しており、東西両地点を分けていたと考えられる。

## ②前期末～中期の遺構の変遷（第 600 図）

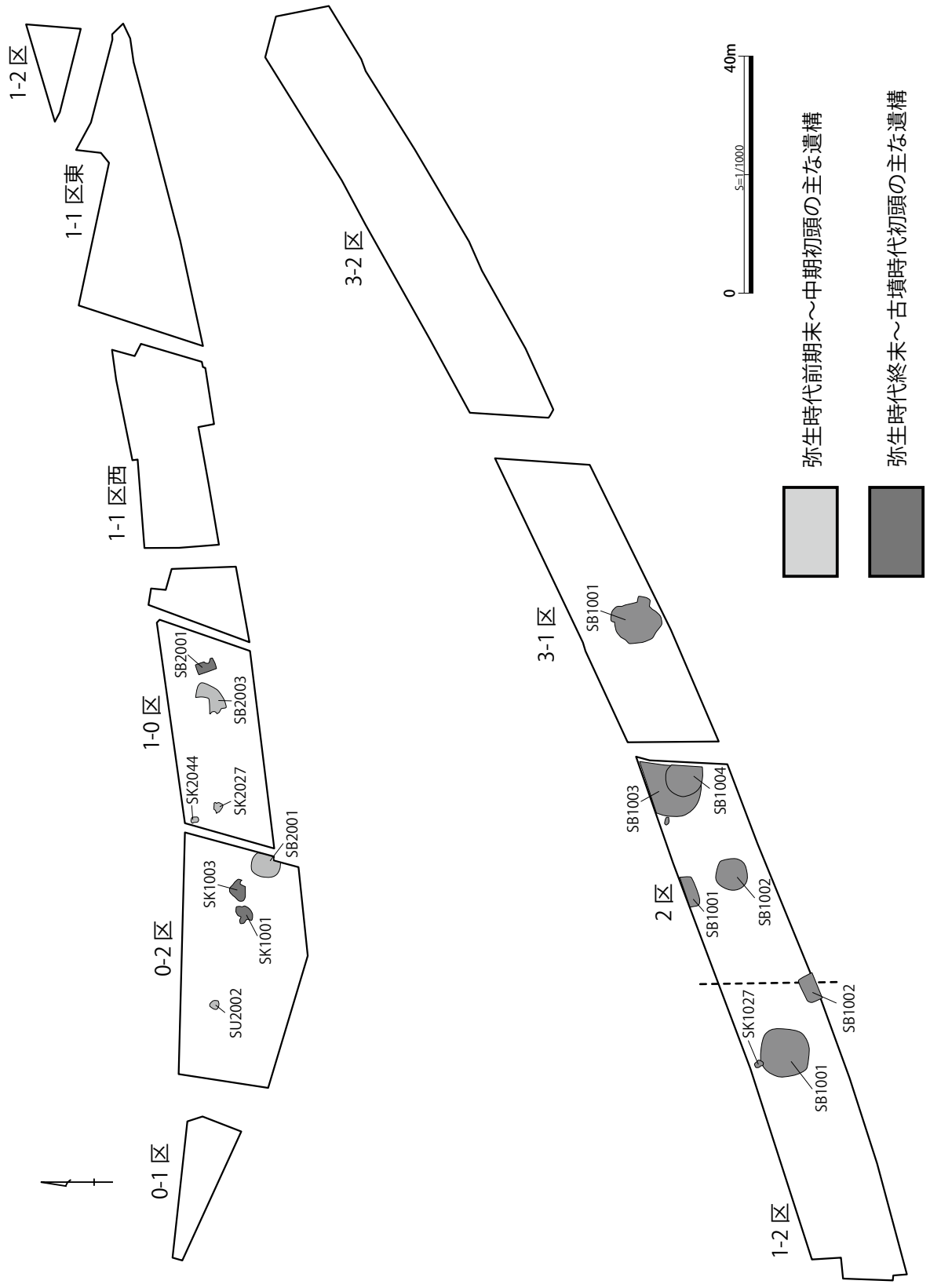
最初に弥生時代の遺構が出現するのは西地点で、その時期は前期末（Ⅰ-3 期後半）～中期初頭（Ⅱ-1 期）である。0-2 区 SB2001、SK2044、SU2002、1-0 区 SB2003、SK2004、SK2019、SK2037 などの遺構からは短い頸部に櫛描直線文を施した広口壺や逆 L 字形や如意形の口縁部を持ち、頸部付近や体部上半に櫛描直線文や列点文を施した甕、口縁部が短くて「く」の字状に外反する鉢などを組成しており、やや古い様相を示している。1-0 区 SK2027、SK2044 などの遺構からは体部の張りが球形に近くなり櫛描波状文が施される壺や口縁部は短めで「く」の字状を呈し体部にヘラミガキが多用される甕が見られることから、より中期的な様相の一群と考えられる。遺構は竪穴住居として機能したと考えられるのは、炉や柱穴を備えた 0-2 区 SB2001 が 1 軒のみで、もう一つの大型遺構である 1-0 区 SB2003 は集石状の石のまとまりとその中に土器と一緒に出土しているため窪地状の地形内への廃棄行為であった可能性も考えられる。その他の遺物がまとまって出土している 1-0 区 SK2019、SK2027、SK2037、SK2044、その他含まれる土器は少ないが 1-0 区 SK2034、SK2036 なども同時期に砂岩礫と伴に土器を廃棄した土坑と考えられる。

## ③弥生時代末～古墳時代初頭の遺構の変遷

弥生時代の遺構が再び構築されるようになるのは後期後半～終末期になったのである。当該期の遺構は東西両地点の微高地で検出されており、集落の規模が西地点のみの範囲であった前期末頃の集落に比べると拡大している事が分かる（第 600 図）。徳島県内の弥生時代終末～古墳時代前期にかけての土器の変遷については、近年では近藤玲（2002、2014）、田川憲（2014）によって弥生時代後期Ⅵ期（1・2）～古墳時代初頭の庄内式（0～3）を 4 期、布留式を（0～4）の 5 期にそれぞれ分けて分類されている。以下本章では上記の変遷に準拠しながら遺構の床面付近において取り上げを行った土器の形態を基に時期変遷について大きく 3 時期に分けて記述していくこととする。

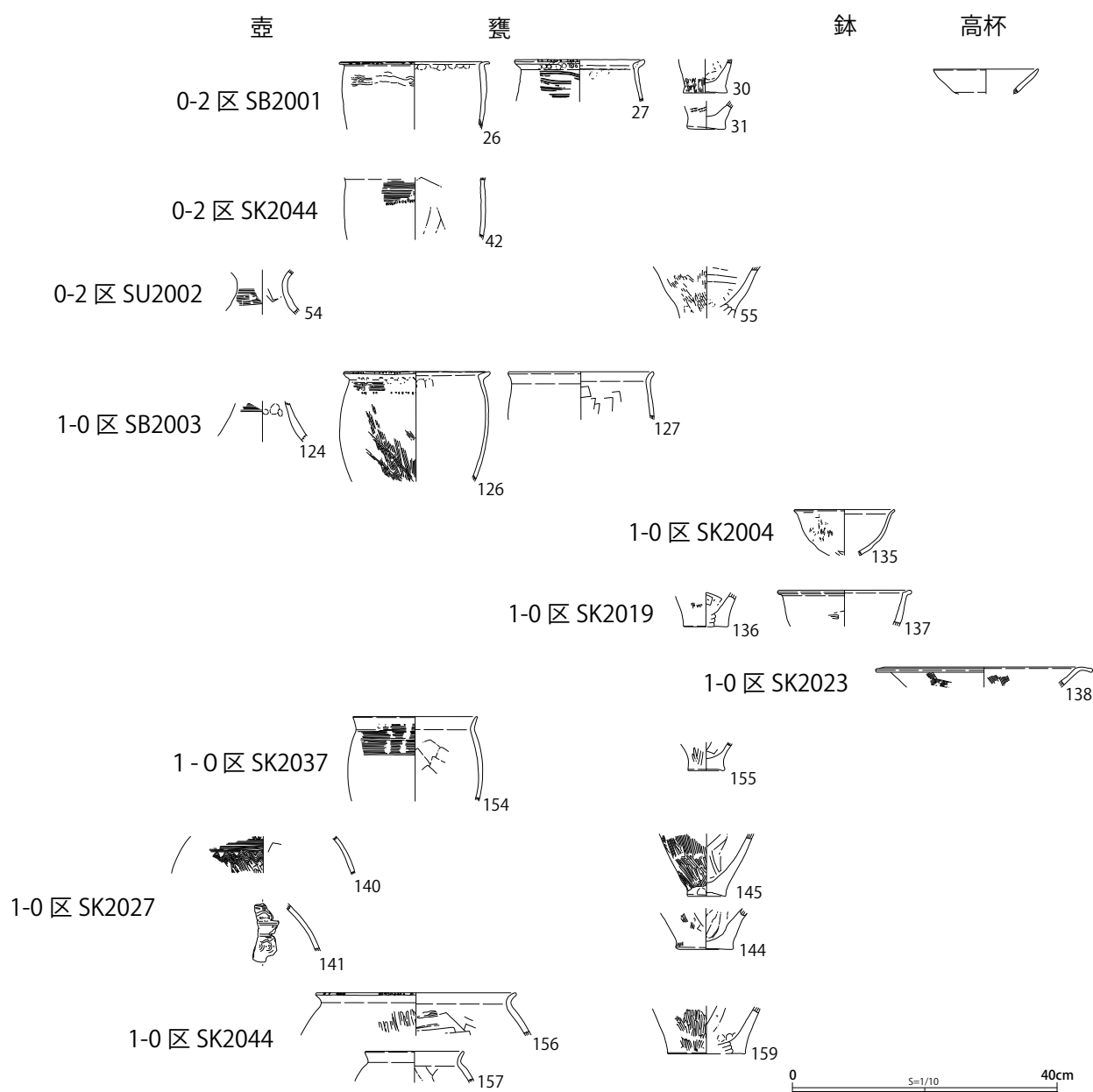
### a) 第 1 期（第 601 図）

0-2 区 SK2001、SK1003 などの遺構が該当する。何れも西地点に所在しており、集落の展開が前期末と同様に西側の微高地から始まったものと考えられる。出土している土器の器種組成は壺、甕、鉢類



第 600 図 弥生時代の主な遺構

である。広口壺（4、12、13）は弥生時代後期後半からの系譜を引くものであり、頸部の立ち上がりは短く、口縁部は斜め上方に開いている。体部は倒卵形を呈し、底部は平底部分が明確に残されているためVI-2期に位置づけられる形態である。(6)や二重口縁壺(5)などは体部下半がやや膨らみ気味となり、底部についても丸底化がやや進んでいるため庄内0～2期まで下るものとみられる。甕は体部から口縁部にかけての屈曲が強い形態の甕①（10、16）と屈曲がそれほど強くなく斜め上方に延びる形態の甕②（7、8、15）が存在している。(7)は体部が後期段階のものに比較すると大きく膨らみ始めているが底部は平底部が残されており庄内2期に収まるものと考えられる。鉢は口縁部に屈曲が無く小型の鉢④とされるものしか組成していないが、底部から体部にかけての変換の明確さが無くなり始めているので庄内1～2期頃と考えられる。第1期は明確な遺構の分布が0-2区に限られており、遺構の内容も廃棄土坑と考えられるもののみに限られているが、弥生後期後半（VI-2期）～庄内2期にかけて



第 601 図 弥生時代前期～中期初頭の土器（図中の番号は報文番号）

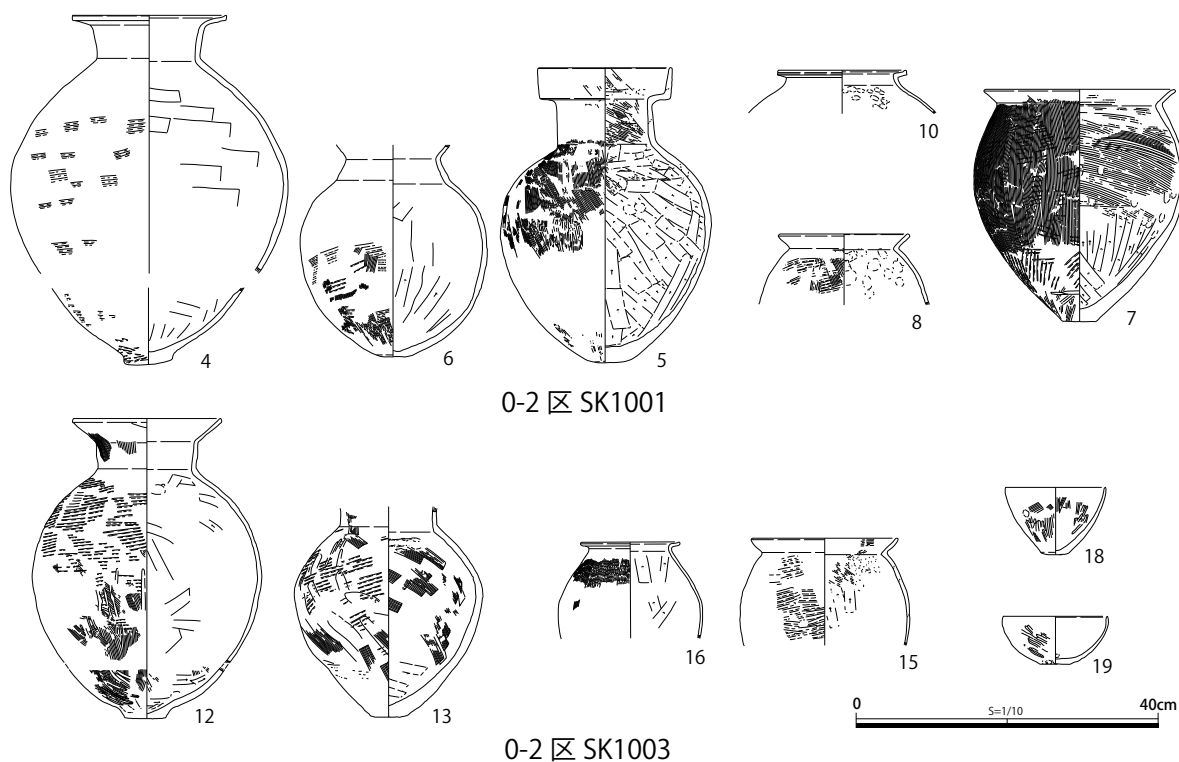
の時期に形成されたと考えられる。

b) 第2期 (第602図)

1-2区SB1002、2区SB1001、2区SB1002、3-1区SB1001などの遺構が該当する。何れも東地点に所在しており、集落の主な機能は西地点から東地点へと移ったと考えられる。出土した土器の器種組成は第1期に引き続き壺、甕、鉢類が中心である。二重口縁壺(590)は体部上半の球形化が進んでいるが、短い頸部が直立気味に残された形態である。(930)についても広口壺の可能性が高いが、(590)と同様に短い頸部が存在しており庄内3期に収まるものと考えられる。また2区SB1002からは細頸壺が出土しているが、底部の丸底化が進んでいるので同時期とみられる。甕については甕①(487、637)とその他の甕②類に分けられるが底部は丸底化が進んでいる(488、942など)。また小型の甕(576、578、967)も組成しており、これらを含めて庄内2～3期に収まると考えられる。鉢は体部から口縁部にかけて屈曲部を持つ鉢①(660、661)と屈曲部を持たずに立ち上がる鉢②(965)、小型の鉢④などが存在している。(661)は口縁部の屈曲がやや強く、底部にも平坦面が残されているためやや古い形態である(庄内1期)が、(660)は口縁部の屈曲が緩やかで、その他の鉢②、鉢④などの形態は庄内2～3期に収まるものとみられる。第2期は竪穴住居が最も多く構築されており、一辺が5m前後の小型方形住居(1-2区SB1002、2区SB1001)が2軒、径が約5mの小型円形住居(2区SB1002)が1軒、径が約8mの張出部付き中型円形住居(3-1区SB1001)が1軒検出されている。時期は庄内2～3期に形成されたと考えられる。

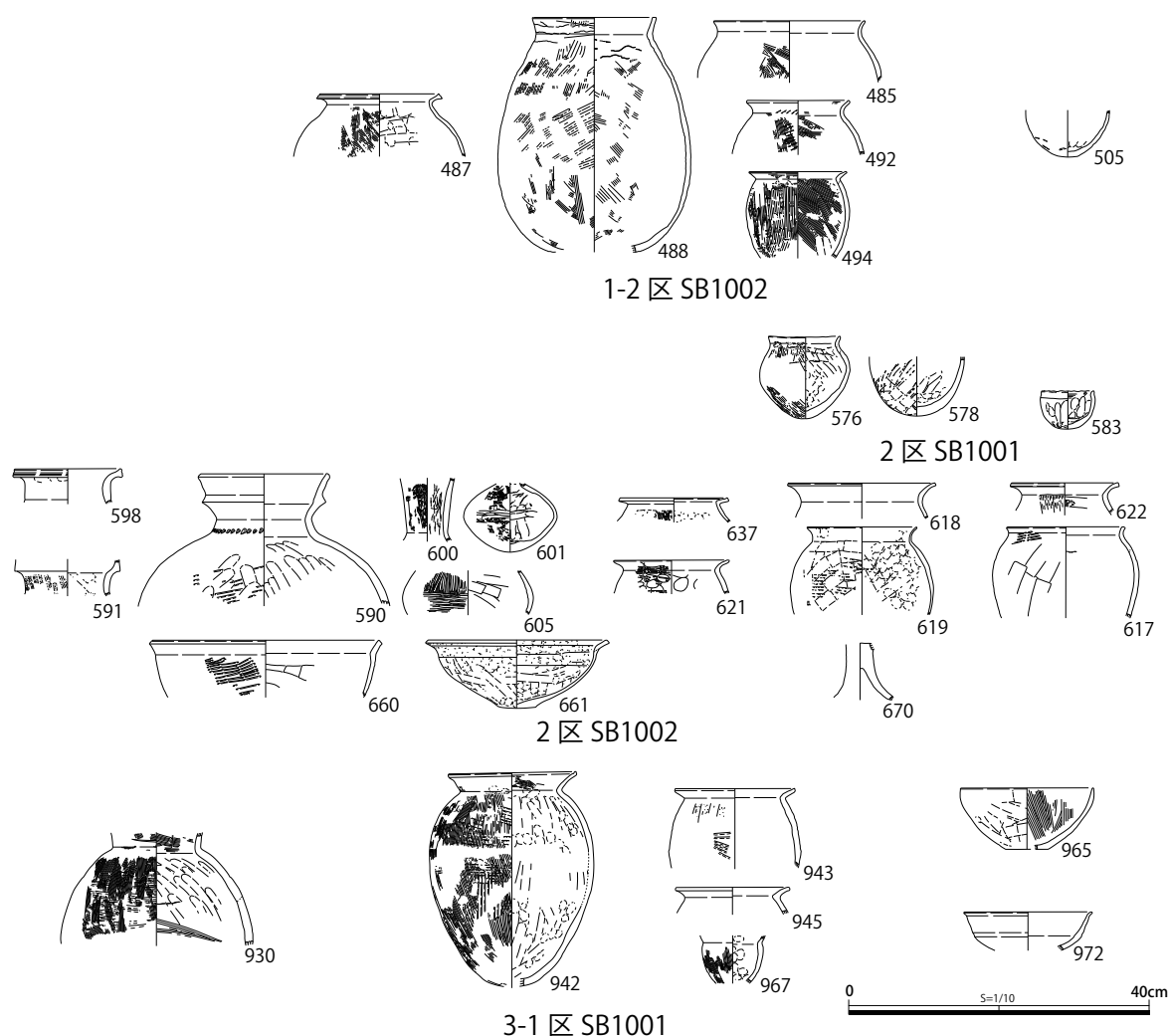
c) 第3期 (第603図)

1-2区SB1001、1-2区SK1027、2区SB1003、2区SB1004などの遺構が該当する。第2期と同様に主な遺構は東地点に所在しているが、西地点においても同期と考えられる遺物が散見されており、東



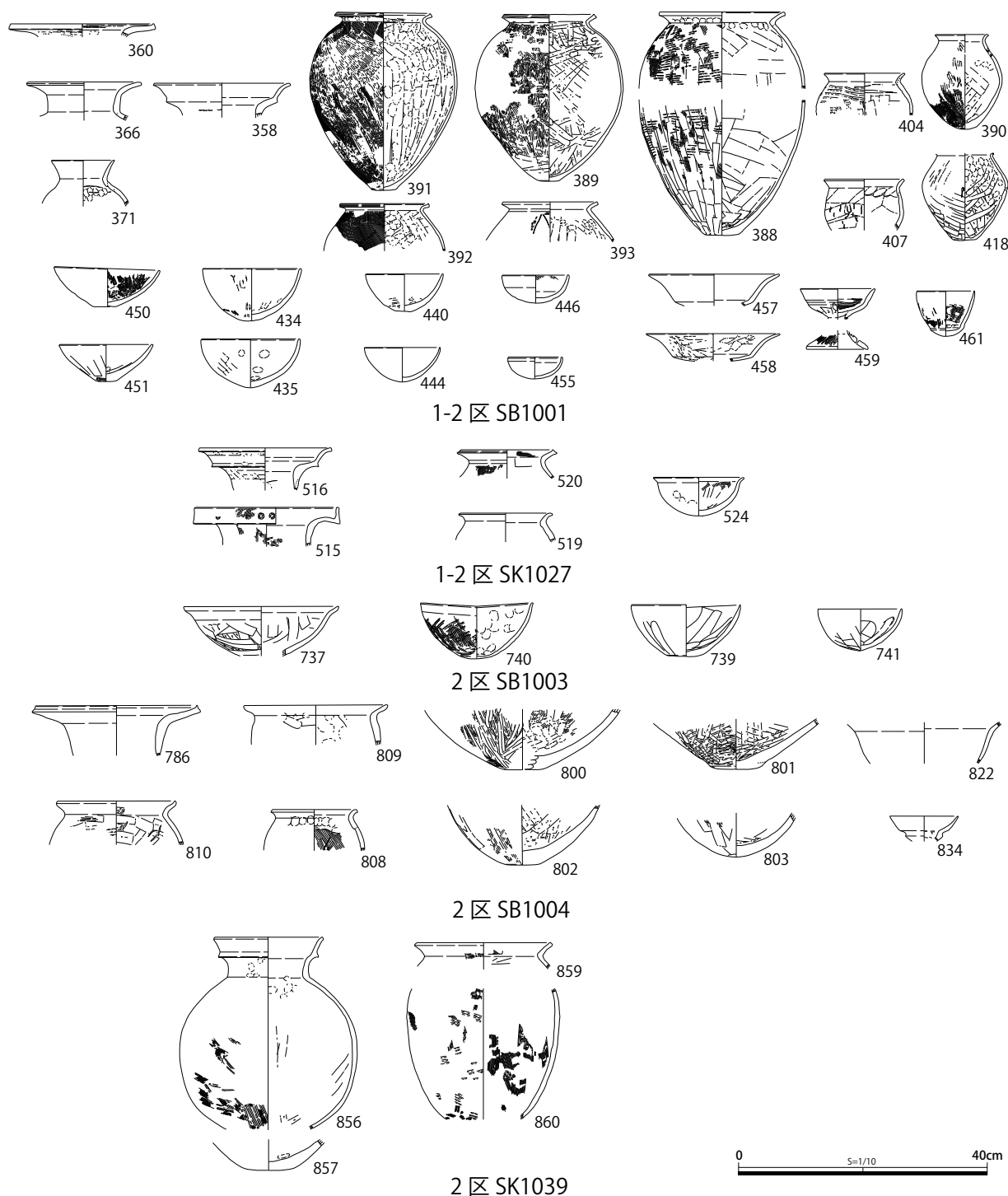
第602図 弥生時代終末～古墳時代初頭の土器① (図中の番号は報文番号)

西両地点に集落域が拡がる可能性も考えられる。出土した土器の器種構成は第1期、第2期に比べると増加する傾向が見られる。まず壺であるが直口壺(371)が組成している。口縁部は斜め上方に延び、体部は球形を呈するとみられる。広口壺(360、366、786)は短い頸部はやや開き気味に延びて、口縁部は大きく外に開いている。二重口縁壺(358、515、516、856)は口縁部が屈曲部から外反気味に開くものが主体となっている。いずれも庄内3～布留0期に収まると考えられる。甕は東阿波型の範疇に入る薄型の甕①(388、389、391、392、393)とやや小型化の進んだ甕②(404、407、809、808、810)が存在しており、それ以外にも体部から口縁部にかけて曲線的に外反する小型の形態(390、418)もみられる。体部から底部の形状などからみて庄内2～3期に収まると考えられる。鉢は最も出土数が増加を見せた器種である。鉢①は口縁部から体部にかけての屈曲が弱い形態が主体となり(737、822)、小型化したもの(524)も現れている。鉢②についても体部の立ち上がりの湾曲が強くなり丸底化が進んでいる(434、435、450、451、739、740)。小型の鉢④についても碗状のもの(440、444、741)とやや嵩が浅いもの(445、456)が存在している。また新たな形態として小型丸底鉢(461、834)が組成してくる。高杯は杯部が外反気味に大きく開くもの(457、458)が主体である。鉢、高杯ともに庄内3～布留0期に収まると考えられる。第3期は径が約6mの中型円形住居(2



第603図 弥生時代終末～古墳時代初頭の土器② (図中の番号は報文番号)

区SB1004)が1軒、径が約8mの中型円形住居(1-2区SB1001)が1軒、推定で径が10m前後とみられる大型円形住居(2区SB1003)が1軒検出されている。竪穴住居の規模は第2期に比べても拡大傾向が見られる。2軒の切り合い関係が認められた2区SB1003とSB1004の時間的な関係であるが、調査中の所見ではSB1003→SB1004の順で調査が行われているが、床面から出土した遺物から判断するならばSB1004→SB1003への時間的な推移が考えられる。また西地点においてもSB2001や0-2区包含層出土の高杯(84)など当該期に所属すると考えられる遺物や遺構が散見されることから、集



第604図 弥生時代終末～古墳時代初頭の土器③ (図中の番号は報文番号)

落の盛行期と考えられる。時期は庄内3～布留0期頃と考えられる。

#### ④ 竪穴住居内検出の鍛冶遺構

拝東遺跡からは2軒の竪穴住居から鍛冶炉と考えられる遺構が検出されており、それに伴って加工具や鉄素材、製品類も出土している。出土した遺構は3-1区SB1001(第2期)と2区SB1003(第3期)であり、庄内2期～布留0期にかけて継続的に集落内で鉄器の加工・製作が行われていたと考えられる。3-1区SB1001、2区SB1003に構築された鍛冶炉は何れも竪穴住居内のほぼ中央付近に位置しており、炉の規模も径が1.5～2m近くの大きさを測り大型である。平面のプランも単純な形状では無く、2ないしは3基の長方形土坑が並列したもの(2区SB1003EH1)や円形と長方形の土坑が組み合わせて築かれるもの(3-1区SB1001)が存在している。

拝東遺跡の鍛冶炉の構造は村上恭通氏の分類のⅠ類(掘り方を大きくとり、その内壁、底をよく焼き締め、その中に木炭や土を交互に重ねた防湿施設(地下構造)を備えるタイプ。)またはⅡ類(掘り方のみで、その内壁がわずかに焼けているタイプ。)とされるものである(村上1998)。どちらの住居の鍛冶炉も長方形土坑内には焼け込みの後がみられ(第405図、第484図)、その上の堆積土層にはカーボンベッド(SB1003EH1の10層、3-1区SB1001EH1の5層)が観察されている。拝原遺跡では鍛冶炉として利用された土坑の横に円形や長方形の土坑が附属しており、作業中の灰や不純物の掻き出しが行われていたものと推測される。このような複合形態のⅠ類の鍛冶炉は徳島県下においては矢野遺跡SB2037((財)徳島県埋蔵文化財センター2006)、名東遺跡SB2004((財)徳島県埋蔵文化財センター1995)などの弥生時代中期末(Ⅳ-3期)の竪穴住居内から検出されており、鉄器加工技術の伝播以後より普遍的にみられる形態と言えるかもしれない。また完掘されていないため不明な点もあるが、2区SB1003と切り合い関係にある2区SB1004内から検出されているEH1に関しても土坑内の壁に強い焼け込みが残されており、鍛冶炉として使用された可能性が考えられる。

同時期とみられる周辺地域の例では高知県高知市の西分増井遺跡や兵庫県淡路市の五斗長垣内遺跡などが存在している。西分増井遺跡では後期前葉～古墳時代初頭にいたる各時期の鍛冶遺構や関連遺物が出土しているため、ほぼ継続的に鉄器の生産が行われていたと考えられている。また検出された鍛冶炉についても後期中葉頃には掘り方を伴わないⅣ類中心であったのが、後期末～古墳時代初頭になると掘り方を伴うⅠ類、Ⅱ類が主体へと変化しており、低温操業のみの形態から高温操業を組み合わせた可能性が指摘されている((財)高知県文化財団埋蔵文化財センター2004)。五斗長垣内遺跡では西分増井遺跡と同様に後期前半から終末期にかけて継続的に鍛冶遺構や遺物が検出されている。しかし鍛冶炉に関してはⅣ類のみの操業とされており、低温操業による小規模な鉄器生産であったと考えられている(淡路市教育委員会2011)。拝東遺跡の鉄生産の在り方は前者に近いものと考えられ、周辺の住居でⅣ類鍛冶炉による生産形態を組み合わせながら鉄器の製作が行われていた可能性が高い。

## 2 中世

### ① 集落の立地

拝東遺跡においては弥生時代集落の形成以後、古墳時代、奈良時代などの遺物も散見されるが、再び遺構を伴って集落化が進むのは平安時代後半から終末期以降のことになる。0-2区で検出された炭窯

には黒色土器 A 類を伴出しており、遺跡周辺の開墾・伐採が進む時期と考えられる。しかし遺物は杯、皿類などの破片が少量伴う程度の遺構しか存在しないため、調査区内においては集落の実態は不明である。遺構数の増加がみられるのは鎌倉時代（12～13 世紀）以降の中世段階であり、その後遺構数の増減はみられるが出土遺物から 15 世紀頃まで集落は続いたと考えられる。

中世段階の遺構の分布は 1-0 区と 1-1 区西の間を境として東西に分けられる。つまり西側の 0-1 区、0-2 区、1-0 区は主に水田が広がっており、東側の 1-1 区西・東、1-2 区、2 区、3-1 区、3-2 区には掘立柱建物などを中心とした集落が存在している。遺構面の標高を比較した場合、西側の 0-1 区においては 40.5m 前後を測り、約 450m 離れた東側の 3-2 区においては 38.6m 前後であり、およそ 2m 近くの比高差が存在している。また微高地としてとらえるならば 0-2 区から 1-2 区にかけては標高 40m 前後の平坦面（上位平坦面）、2 区から 3-2 区にかけては標高 39.5 m 前後の平坦面（下位平坦面）がそれぞれ続いており、2 つの平坦面を利用して集落が形成されていたと考えられる。そのため上位平坦面でも最も標高の高い地点から検出されている西側の水田（0-1 区～1-0 区）の導水は扇状地地形のより高所にあたる調査区外の北西部から行われていたと考えられ、3-1 区其自然流路（SR1001）はその排水路もしくは東側の下位平坦面に開墾された水田の導水に利用されたと考えられる。

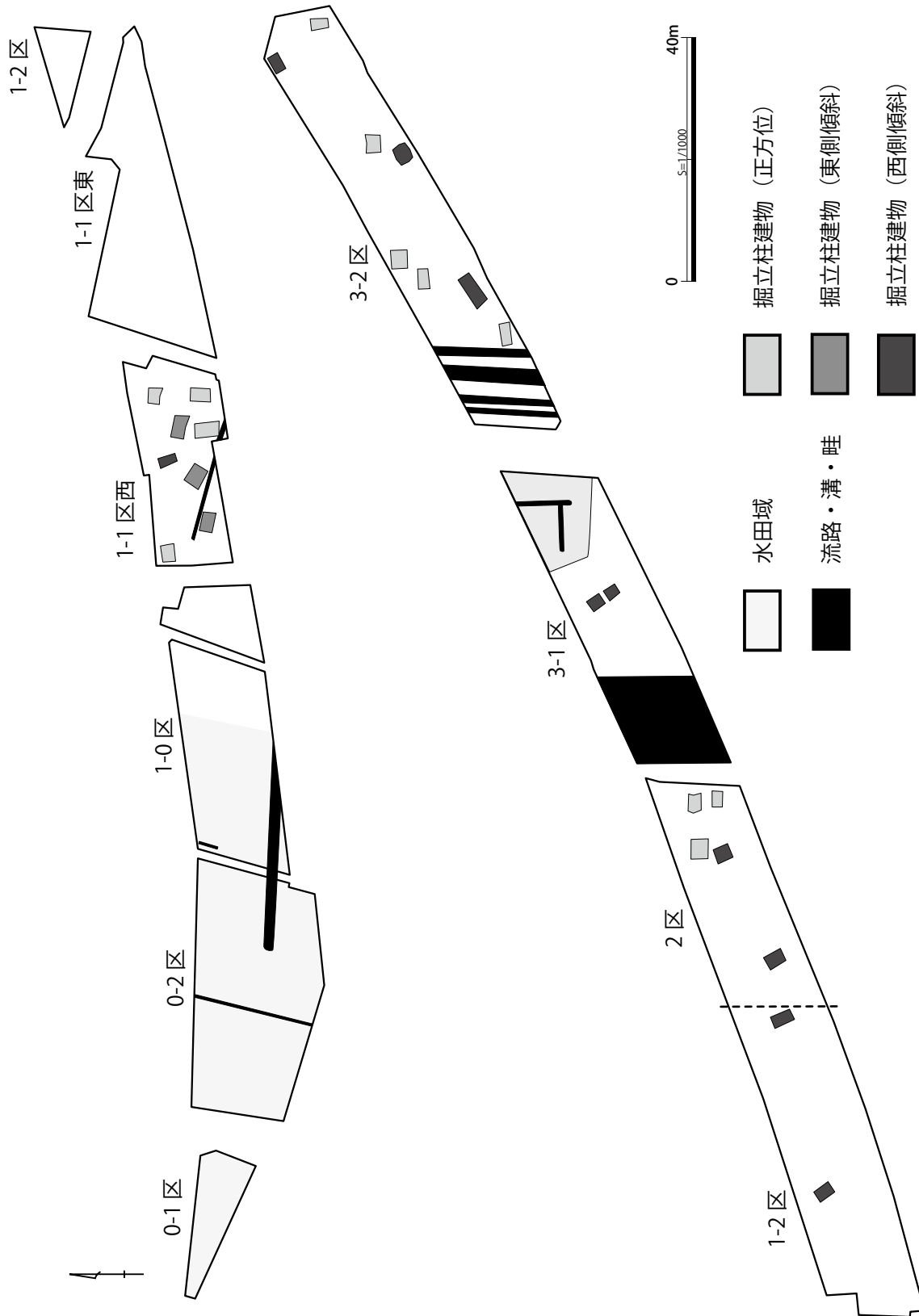
## ②掘立柱建物の分布

拝東遺跡の調査区において集落域とみられるのは 1-1 区西より以東の調査区である。遺構の密度は上位平坦面では 1-1 区西に集中する傾向が認められ、1-1 区東から 1-2 区にかけてはやや空閑地気味となる。また下位平坦面では 2 区と 3-2 区に集中する傾向がみられ、自然流路（SR1001）と並列する溝（3-1 区 SD1001～1004）に挟まれて水田等も存在している 3-1 区はやや空閑地として捉えられる。掘立柱建物は上述の 3 か所の遺構集中地域（1-1 区西、2 区、3-2 区）にほぼまとまって存在しており、集落を形成していたと考えられる。

調査区内において検出された掘立柱建物は計 25 軒である。その内訳は 1-1 区西に 8 軒、1-2 区に 2 軒、2 区に 5 軒、3-1 区に 2 軒、3-2 区に 8 軒となっている。建物の種類では側柱建物が 20 軒、庇付き側柱建物が 1 軒、総柱建物が 4 軒である。建物の床面積は最小の 3-1 区 SA1002 が 4.00㎡、最大で 3-2 区 SA1002 が 12.38㎡となっており、平均では約 7.1㎡である。これは同時期で段丘上に所在する田上遺跡Ⅱの建物 13 軒と比較すると、最小で 9.3㎡、最大では 44㎡、平均では約 24.6㎡となっており（（財）徳島県埋蔵文化財センター 2000）、拝東遺跡の建物規模は小規模で小屋掛け状のものが主体と考えられる。調査区内が集落として拠点的とは考えにくい事項としては出土した遺物の内容やその量の少なさからも指摘できる。一般的な煮沸具、供膳具の少なさに加えて輸入磁器類、特に青磁の出土量の少なさなどは、この地が生活拠点としては恒常的に利用されたものでは無く、集落の中心は隣接する別地点に所在している可能性を考えるべきだろう。

検出された掘立柱建物は主軸方向から 3 群に分類ができる。以下ではそれらの分布状況についてまとめておく。第 1 群は主軸の方向あるいはそれに直交する壁が正方位（± 10°以内）を指向する建物である。これらの建物は西側の 1-2 区に 4 軒、中央の 2 区に 3 軒、東側の 3-2 区に 5 軒の計 12 軒が分布している。第Ⅱ群は主軸の方向あるいはそれに直交する壁が東方向に 10°以上傾いている建物である。このような建物は西側の 1-1 区西のみに 3 軒分布している。第Ⅲ群は主軸の方向あるいはそれに直交する壁が西方向に 10°以上傾いている建物である。このような建物は西側の 1-1 区西に 1 軒、1-2



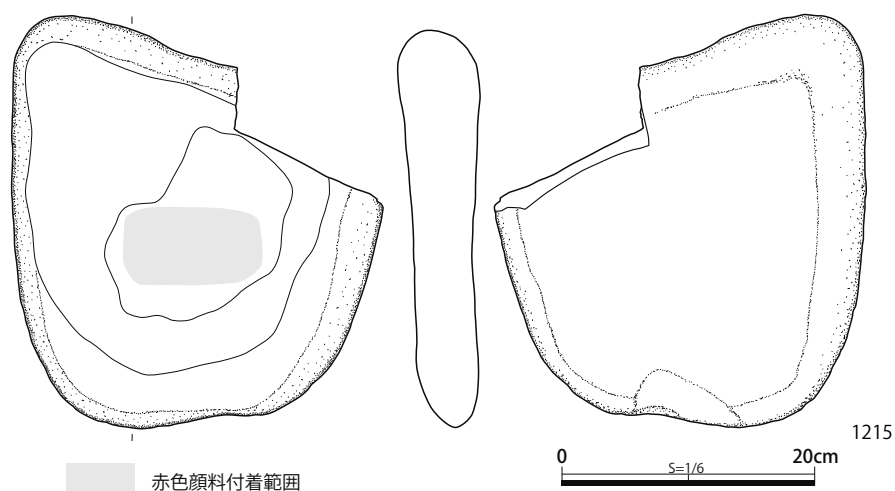


第 605 図 中世の主な遺構

区に2軒、中央の2区に2軒、3-1区に2軒、東端の3-2区に3軒の計10軒がそれぞれ分布している。3つの方位の建物群とその他の遺構、特に水田の畦や水路との方位を比較した場合、第Ⅰ群と同様に正方位を指向している遺構は、3-2区溝SD1001～1004とそれに隣接している3-1区の水田である。また全貌は明らかではないが3-1区SR1001内に築かれた石組み遺構も該当する可能性がある。第Ⅱ群と同様に東方向に傾きを持つ遺構は、0-1区～1-0区にかけて存在する水田の畦及び溝0-2区SD1001と1-1区西の溝SD1001である。第Ⅲ群と同様に西方向に傾きを持つ遺構は大型の遺構では該当するものは見当たらない。しかし長方形の土坑(SK)の中には、正方位や西向きを指向するものが一定数存在しているため、これらの遺構との関連で考える必要がある。それぞれの建物群が時期差を反映するかどうかは共伴する遺物が少ないため結論を出すことはできないため、今後の課題としたい。

### 参考文献

- (財)徳島県埋蔵文化財センター 1995『名東遺跡—建設省名東町宿舍建設に伴う発掘調査—』  
 村上恭通 1998『倭人と鉄の考古学』青木書店
- (財)徳島県埋蔵文化財センター 2000『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 14 田上遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』  
 (財)徳島県埋蔵文化財センター 2001『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 21 試掘調査総括 下突出遺跡 滝ノ宮遺跡 佐城遺跡(Ⅱ) 鶴射遺跡 原遺跡(Ⅱ)』
- (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 2004『西分増井遺跡Ⅱ 新川川広域河川改修に伴う西分増井遺跡発掘調査報告書』  
 (財)徳島県埋蔵文化財センター 2006『矢野遺跡Ⅲ(弥生・古代篇) —一般国道192号徳島南環状道路改築に伴う埋蔵文化財発掘調査—』  
 淡路市教育委員会 2011『五斗長垣内遺跡発掘調査報告—経営体育成基盤整備事業 五斗長地区に伴う発掘調査報告書—』



第 606 図 0-2 区 SK1001 出土遺物②

徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第87集

拝東遺跡

緊急地方道路整備事業（鳴門池田線）関連埋蔵文化財発掘調査報告書  
《第1分冊》

発行日 平成28(2016)年3月25日

編集 公益財団法人 徳島県埋蔵文化財センター  
〒779-0108 徳島県板野郡板野町犬伏字平山86番2  
TEL (088) 672-4545

発行 徳島県教育委員会  
公益財団法人 徳島県埋蔵文化財センター

印刷 株式会社教育出版センター

